『PRIDE.11』直前！ 髙田延彦&桜庭和志の覚悟を読め！

紙のプロレス RADICAL

2000 32



遂にKOKトーナメント開幕！
気になる"噂"も一刀両断！
前田日明

10・31『PRIDE.11』
佐竹雅昭と激突！
今世紀最大の大一番に
オーちゃん吼える!!
小川直也

新日vs全日ドーム決戦の同日に
リングスKOKも大爆発！
10・9新プロレスvs純プロレスが勃発!!
10・9をジャッジせよ！座談会

リングスUSA大会を本誌独占リポート
金原弘光&滑川康仁

田村潔司を撃破したKOKの大本命！
衝撃的な強さの秘密に迫る！
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

新日vs全日
みんなが"純プロレス"に走るので
本誌は"新プロレス"を独占します!!

イバラの道を迷走し続ける両雄の足跡を辿れ！
藤波辰爾語録から見た橋本真也復活への道

和製カレリンがノアのマットで覚醒！ **本田多聞**

昭和プロレスの生き様を見よ！
ラッシャー木村

超意外な師弟対談実現!!
打倒プロレス同盟結成!?
小路晃vs青柳政司

WWFのプロレス内幕暴露、再び！
タブーなき2大デンジャラス企画
①問題作『ビヨンド・ザ・マット』を誌上公開！
②日本でも馴染みの深い元WWF大物が衝撃告白！

皆さん、パンクラスってホントにおもしろい？

ヤマケンがクラブで喧嘩!? その真意に迫る！

激震・バトラーツをDo Judge!

紙のプロレス RADICAL NO.32
10・9新プロレスvs純プロレス開戦！

発売元：（株）ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体800円＋税



納得!これを見れば今、宇宙で一番おもしろいFMWの流れがサルでも解る!エンターテイメントプロレス
FMWのヒットシリーズ『STORY OF THE F〈総集編〉』が出る!
大混乱のエンターテイメントプロレス誕生前夜!
永久保存版
日本初のエンターテイメントプロレスが本格始動!
F.M.W. OFFICIAL VIDEO 28th
〜愚か者の挽歌〜
STORY OF THE F IV-STAGE
1998.8.11〜1999.5.5〈総集編〉
FMWの激闘の記録を記した大好評の年間総集編である「STORY OF THE F」の第4弾。1998年8月11日、後楽園ホールで冬木率いる「チーム・ノー・リスペクト」(TNR)からの度重なる暴力と恥辱に耐え兼ねた荒井FMW社長が大仁田厚のバックアップで一夜限りのプロレスラーデビューした感動の日から、し烈を極めるFMWとTNRの仁義なき戦い。「ZEN」を解散した大仁田の新ユニットとTNRとの骨肉の争い。格闘探偵団バトラーツとの団体対抗戦。そしてFMWの運命を決めるべき1999年5月5日横浜大会で暴動寸前の大混乱のエンディングを迎える…。"創造は破壊から生まれる"の言葉通り、ここにエンターテイメントプロレスFMWが産声をあげるのである!
TOVS-1370/税込¥9,500
カラー/ステレオ/Hi-Fi/約150分/解説書付き
NOW ON SALE
F.M.W. OFFICIAL VIDEO 29th
〜危険な英雄〜
STORY OF THE F V-STAGE
1999.5.21〜1999.11.23〈総集編〉
FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編ビデオ「STORY OF THE F」の第5弾。1999年5月5日の横浜大会の結果を受けての冬木コミッショナー就任に端を発するFMWのエンターテイメント路線が本格的にスタート!田中へのリストラ宣言。ハヤブサへのマスク剥奪作戦。大矢への植毛勧告。有名美人マネージャーの登場。そして有名AV男優のプロレスラー・デビュー。お化け屋敷マッチ。美人演歌歌手がテーマ曲を熱唱。自由奔放ファイターHの誕生。肛門爆破マッチ。荒井社長へのリング上放尿事件。などなど荒唐無稽な衝撃の連続がFMWマットを襲う!そしてそれぞれのドラマが1999年11月23日の横浜アリーナ「ジャッジメント・デイ」で劇的な最終回を迎える…!?
TOVS-1411/税込¥9,500
カラー/モノラル/Hi-Fi/約150分/解説書付き
2000.11.8.ON SALE
完全永久保存版ビデオ。FMWビデオシリーズで大好評の総集編『STORY OF THE F』の第6弾が怒涛のリリース決定!
STORY OF THE F VI-STAGE
F.M.W. OFFICIAL VIDEO 30th
1999.12.1〜2000.5.5〈総集編〉
TOVS-1412/税込¥9,500 カラー/モノラル/Hi-Fi/約150分/解説書付き
1999年11月23日のFMWスーパーイベント『ジャッジメント・デイ』の結果Hは雁之助と友情を取り戻し、恐怖のコミッショナー・冬木は田中との衝撃デスマッチに破れFMWを追放された!FMWにとって理想的な環境が整い、明るい未来が約束されたかに見えたリング上に突然(!)冬木が女子プロレス界最強を自認する井上京子を帯同して出現!自らを「ECWジャパン」代表と名乗りFMWに復讐の刃を向けた!様々な人間関係が交差するFMWリング上はエクストリームにそしてエンターテイメントに燃え上がり、2000年5月5日の駒沢大会で完結する!
2000.12.6.ON SALE
新生FMW 1周年記念ビデオ
STORY OF THE F
1995.5.17〜1996.3.30
新生FMW1年間の軌跡!
〈男子編〉〈女子編〉の2本立て
TOVS-1274〜75(2本組)
税込¥16,311
Hi-Fi/294分/解説書付き
NOW ON SALE
新生FMW 8周年記念ビデオ
STORY OF THE F II-STAGE
1996.4.21〜1997.7.27
スーパーインディーズ2年目の挑戦!
TOVS-1296〜97(2本組)
税込¥18,000
Hi-Fi/300分/解説書付き
NOW ON SALE
新生FMW 9周年記念ビデオ
STORY OF THE F III-STAGE
1997.8.2〜1998.7.27
スーパーインディーズからエンターテイメントへ!
TOVS-1325〜26(2本組)
税込¥16,000
Hi-Fi/307分/解説書付き
NOW ON SALE
通信販売でのお求めは
F.M.Wビデオ通販係 お問合せ Tel. 03(5496)0671
ご予約とお求めは全国のCDショップ、プロレスショップにて受付中!
TOSHIBA-EMI LIMITED VIDEO DEPT ☎03(5512)1749


時代は
〝新プロレス〟か
Do Judge!!
それとも
〝純プロレス〟か

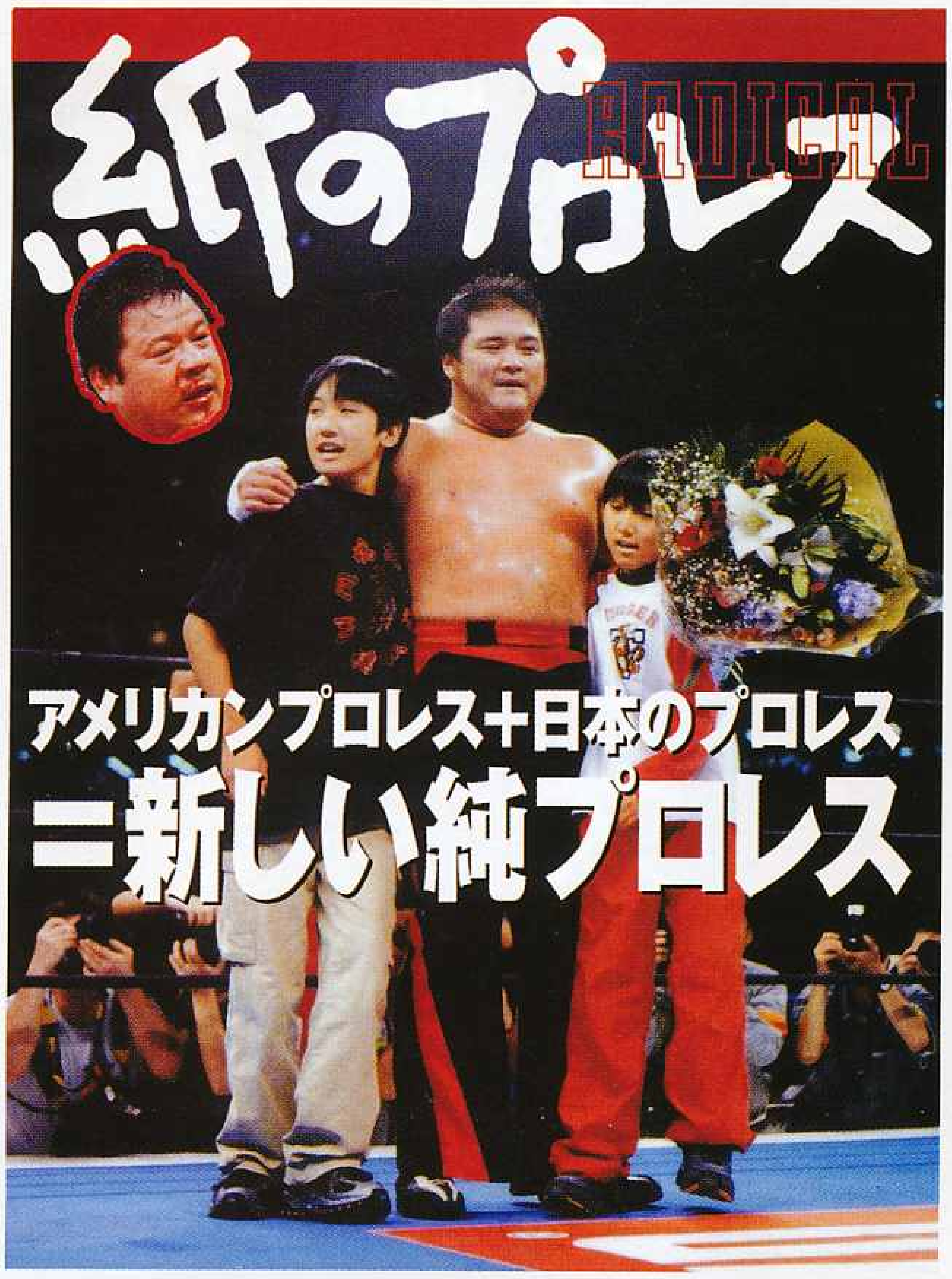
新日×全日からリングスKOK開幕戦、みちのく紅白歌合戦まで

10・9をドウ・ジャッジ!!

馬場・猪木の時代から両団体の間を遮っていた壁がついに崩壊！　10月9日、東京ドームのリング上で、新日本と全日本のトップ同士による対抗戦が行われたのだ。新日本が主催したその大会の名称は『Do Judge!!』。『PRIDE』、リングスKOKなどの台頭が著しい〝新プロレス〟の激しい攻勢に押され気味の〝純プロレス〟が復権を取り戻すべく投入してきた最後の切り札とも言える夢の対抗戦。あなたはどうジャッジしましたか？　この日は、リングス代々木大会、みちのく新宿大会などを筆頭に各地で興行ラッシュとなりましたが、本誌から、新日班、リングス班、みちのく班と各地に散らばった編集部員の感想を表紙で評しました。みなさんも一緒に、ドウ・ジャッジ！

本誌鬼畜編集長・山口日昇失踪につき、今号の表紙は吉田豪のスーパーバイズです

硬直した藤波と破壊王の涙顔の向こうに新しい日本の純プロレスが見えた！



新日本東京ドーム

取材・坂井ノブ

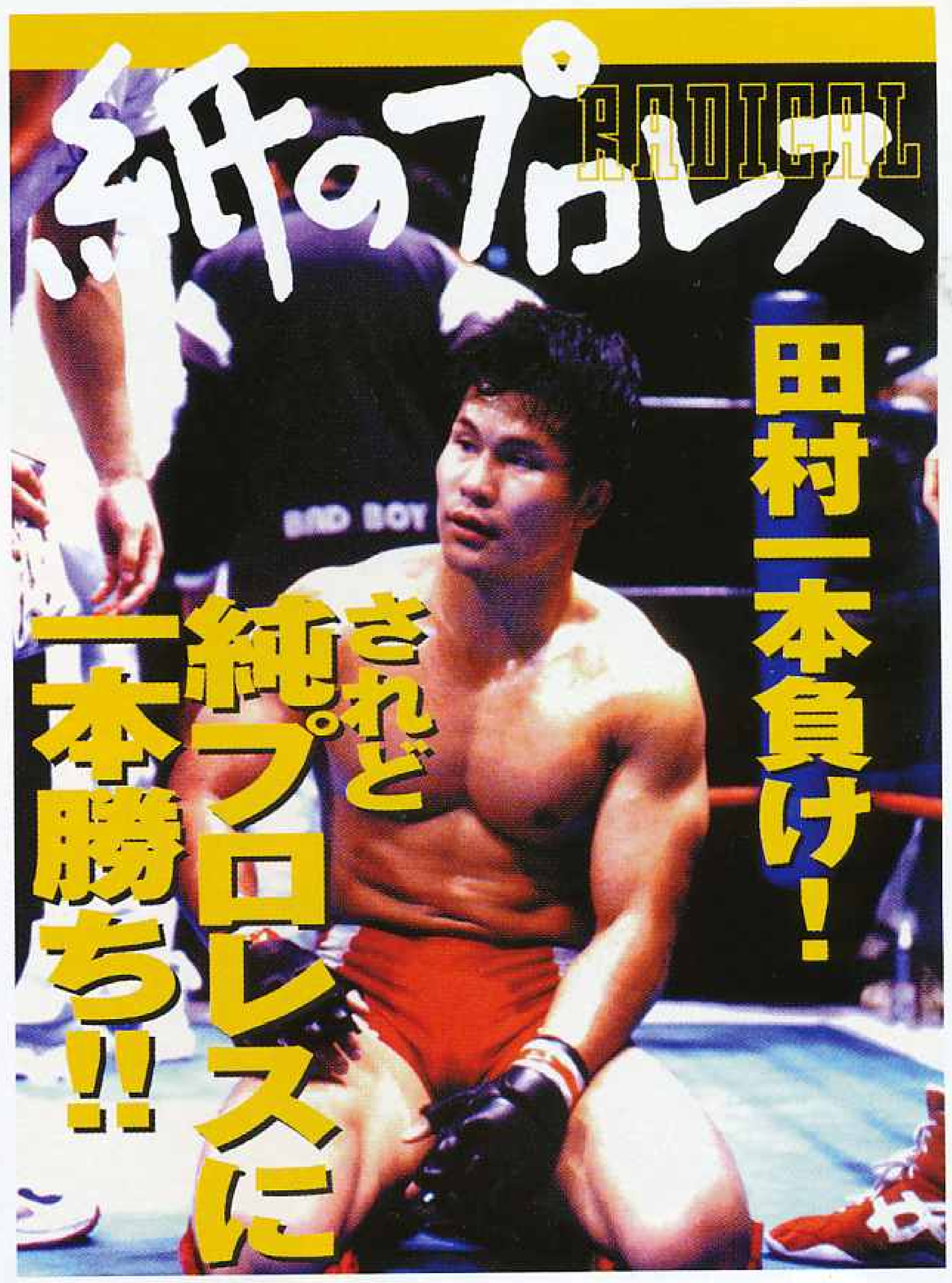
この絵は素敵でしょ？　血まみれの辰っつあんも捨てがたかったんですけどね。10・9の第一試合橋本対藤波戦がおもしろすぎたので、ボクはこれを表紙に選びました。川田vs健介じゃここまで絵にならんですよ。

それにしても半年間もテレビを使って橋本の復帰戦を煽り続け、テレビとプロレスの新しい形を提示したのはのは画期的でした。なぜか試合途中にキレたようにパンチを繰り出す、藤波の狂った試合ぶりはシビれましたね。特に、藤波がダウンしたとき冷凍マグロのようにフリーズした姿はボクにとって凄く印象的でした。

それに加えて“ＭＲ．Ｔ”を使った前フリとか「お前、後藤だろ？」っていう平田のセルフ・パロディはびっくりですね。全体的に見てちょっとずつでありますが、新日はエンターティンメント的なもの（今回はギャグ＆クイズ）を取り入れてますね。そんな新日が提示している新しいＷＷＦスタイルをボクは温かく見守ります。
実際、新日のドーム興行には６万４千人集まり、リングスのＫＯＫには４千人しか集まっていない。格闘技に勝ったのは新日vs全日じゃなくで日本流のスポーツエンターテインメントですよ!!　それが10・9の答えなんじゃないかというのが、ボクなりにジャッジした結果です。

o Judge!!』座談会へ!!





みちのく新宿大会

取材・松澤チョロ

純プロレスでも新プロレスでもない何か……。サスケよ、オブニはまだか？

純プロレスと新プロレスのビッグマッチがぶつかり合った10・9。新宿厚生年金会館ではプロレスと紅白歌合戦がぶつかり合っていた。紅白と言ってもＮＨＫのそれではなく、これまでＣＤデビューしている選手＆関係者による紅白である。

桃組から…いや、白組からはＩＷＡ浅野社長、バッファロー太野、さらに杉作Ｊ太郎（相方の岡元あつこはお休み）、トリオ・ロス・ペペスが出場。

一方、赤組はスリー・ビックリーズ、阿部幸江の二組のみ。倉木麻衣は出場辞退（それは本家紅白）。

浅野社長の口パク熱唱も空しく、和製エルビス佐山聡、キムケン、マイティといった想像を絶するゲストもなく、爆発的な盛り上がりには至らず。

こんな時こそサスケの出番！　ドスを倒し一曲披露だ！　プロレスも紅白もサスケの色で塗り潰せ！

藤田稔、愚乱・浪花離脱の穴を他団体勢の力で埋めて来た、みちプロであるが、そのことで逆にみちプロ色、そしてサスケ色が薄れているのは事実。やはりサスケが目立たなきゃ、みちのくじゃない！ならばと期待したこの日のドス・カラス戦だったが、またもやサスケはその牙城を崩せずじまい。

試合後「格闘技界が打倒ヒクソンなら、ルチャ界は打倒ドス・カラスですよぉぉ！」と炎上したサスケ。迷わず行けよ、それでこそサスケだ！

再度、みちのくに点火せよ！　燃えよサスケ!!

リングス代々木大会

取材・堀江ガンツ

「人間の可能性」「対抗戦の限界」が見えた田村潔司が見えた新日vs全日

「人間の可能性をなめちゃいけないよ」

これは本誌のインタビューで、前田総帥が語った言葉だが、全くもってその通りである。

真剣勝負で面白い試合なんて出来るわけがない。

ＫＯＫルールでＵスタイルができるわけがない。

体重差がある相手に勝てるわけがない。

「できるわけがない」と諦めるのは簡単だが、人間の可能性を信じれば、不可能なことなどそうそうあるものじゃない。そして、その人間の可能性を感じさせてくれるのが田村潔司である。

田村はこれら「できるわけがない」と思われていたことを次々と克服してきた。つまり田村潔司は闘えば闘うほど人間の可能性をの凄さを見せてくれるのだ。

ハッキリ言ってこれをやれられたら、純プロレスはヤバイ。表向きは新日本vs全日本で盛り上がっているようにも見えるが、この対抗戦はやればやるほど限界が見えてくる。

田村は今回、確かにノゲイラに完敗を喫したが、考え方を変えれば、今度は「体重差があったら勝てるわけがない」という常識を「克服」するために闘う田村を見る楽しみができたということである。

元気があればなんでもできる！

敗れてもそんな可能性を見せた田村は、やっぱり10・9の勝者なのだ。

この続きはP42からの『10・9をDo J

直也

[UFO]



格闘 Do Judge 2000

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／坂井ノブ
text by Sumo Nobu
撮影／森鷹博
photographs by Morry

小川

LONG INTERVIEW



10・31『PRIDE.11』佐竹雅昭と激突!!

孤立無援の悪の華
小川直也包囲網を
突破せよ!!

小川直也、遂に襲撃再開！

10月31日、大阪城ホールで開催される『PRIDE．11』に約半年ぶりの試合に臨む小川直也が飛来する。

対戦相手は、あの怪獣王国国王・佐竹雅昭！

かたや柔道王。

かたや空手王。

それぞれ道を極めた男同士が、『PRIDE』という総合格闘技のリングで運命の対決を果たす！

この2人の因縁が勃発したのは、『PRIDE．10』のリング上。

UFOの特攻隊長・村上一成をマウントパンチでKOした佐竹の前に、オーちゃんが立ちはだかった。

「佐竹ェー、逃がさねえぞォー！」

ものすごい形相で睨みつける小川に佐竹は呟いたという。

「お前、本気でやるのか？」

この一言が小川に火を付けた！

だが、交渉は難航した。

大物同士の世紀の一戦だけに、簡単に条件が折り合わなかったことは、容易に想像がつく。一時は流れるかと思われた世紀の一戦は『PRIDE．11』の20日前に飛び込んできた。

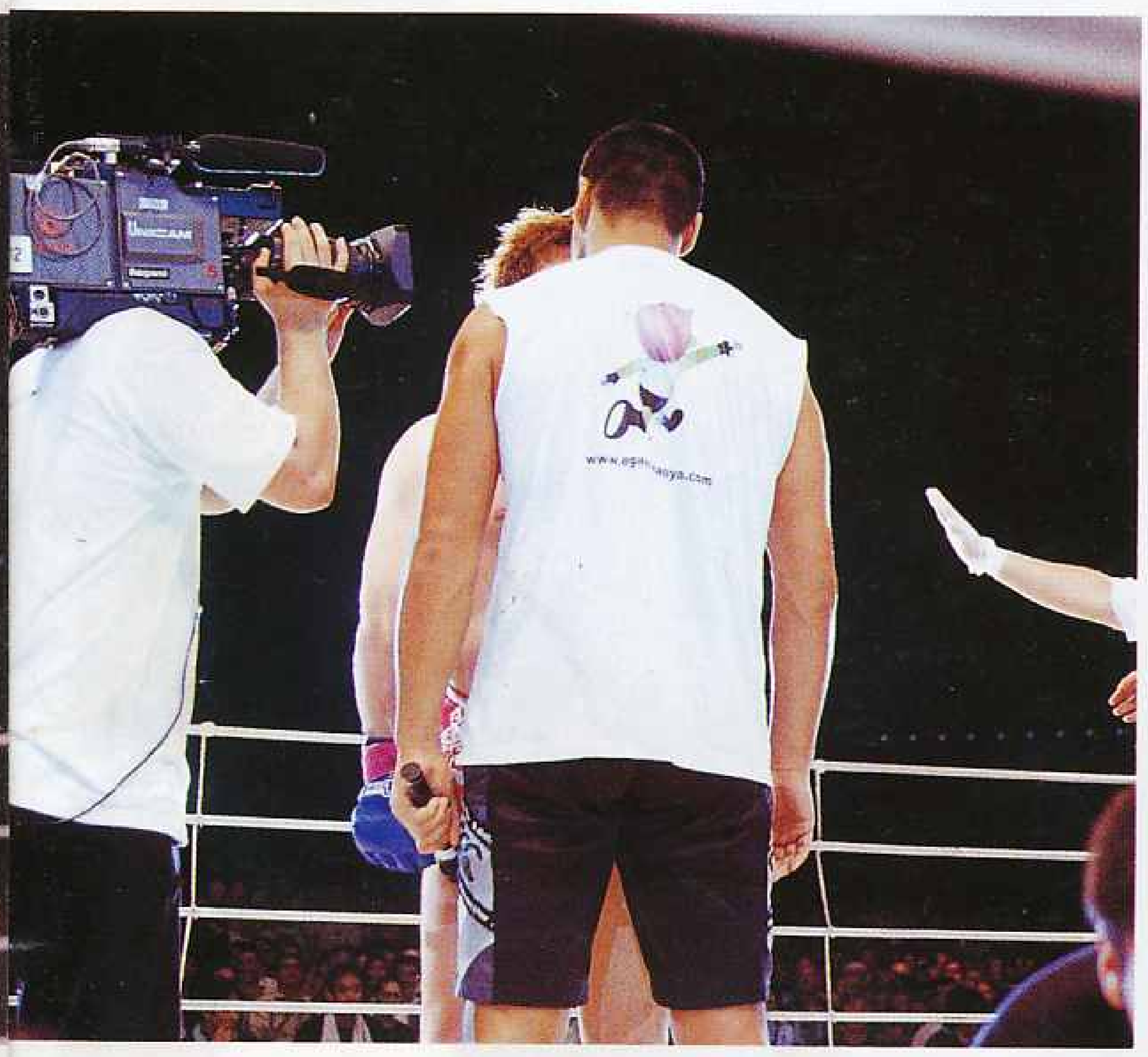
10月11日、東京・日比谷の帝国ホテルでアントニオ猪木詩集『馬鹿になれ！』出版記念会の席上、アントニオ猪木の口から正式に発表された。

猪木を挟んで固い握手を交わす両雄。

いよいよ、決戦の火蓋は切って落とされた。

まず先に仕掛けたのは佐竹の方だった。

このパーティー後の佐竹のコメントの詳しい内容はP13に掲載してあるが、その要求はじつに衝撃的なものだった。「頭突き、ヒジ打ち、金的、目潰しアリ」を要求したのだ。



対する小川は終始、無言を貫いて会場を後にする。

今までの小川なら咆吼三昧、もしくは襲撃三昧な事態になっていただろう。だが、今回は完全に沈黙守った。

ここで思い出されるのは、本誌の前号に掲載した「佐竹選手に勝つ自信はありますか？」という質問に対する答えだろう。

「勝つ自信はないが、殺す自信ならある！」

怖すぎる！　こんな不気味な小川は見たことない。

というわけで、本誌は、沈黙の真意を確かめるべく一夜明けた12日、小川直也にインタビューを敢行した。

いままでのように咆吼三昧の〝オーちゃん〟ではなく、言葉の端々から静かに殺気を発散させる〝キラー・小川〟だった！

——小川さん、ズバリ聞きますが佐竹選手との対戦が決まった今の気分どうなんでしょうか？

小川　やっと決まって良かったなと思ったね。

——いやね、昨日の握手のシーンが非常に恐く感じたんで……。

Naoya Ogawa

小川　佐竹さん、どうもありがとう！

——ガハハハハ、お礼を言っときますか（笑）。

小川　今のうちに言っとかないと、言うチャンス失くしちゃうからさ（笑）。

——間近で見てる人が、「やっぱり小川直也は恐い」って思ったって言ってましたよ。

小川　そうかな？　そんなことないんだけどな。

——昨日、朝方にインターネットを見ていたら、まだ新聞とかで一切発表してない段階なのに「小川vs佐竹戦決定！」ってブワッとスレッドが立っているんですよ。

小川　そうなんですか？　凄いねぇ。

——驚きましたね。で、ネットやってるファンの中には評論家になりがちな人がいるじゃないですか。だけど、「小川vs佐竹戦決定」となったら、「ヤッター！」とか「楽しみ！」とか「オーちゃんが目を覚ましてくれた！」とか大騒ぎなんですよ（笑）。みんな、ファン本来の姿に戻ってましたね。

小川　本当に？　いいじゃないですか。でもね、やっとこうね、決まってよかったって感じだね。俺も酸欠になりそうだったよ、本当に。

——ガハハハハ！　珍しいですね。

小川　本当ね、今回ばかりは決まるまでは黙ってるしかねぇかなって思ったから。でも、黙るとこうなるのかなっていうのが初めてわかったね。いろいろ吠えて「失敗したかな？」ということが、前回までずっとあったからね。

——嫌がる人もいましたからね。

小川　その教訓活かして、今回、黙ってたよ。きつかった！

——うずうずしちゃいましたか？

小川　まぁ、でも黙るのもたまにはいいかなと思ったけどね。



空手出身の佐竹の体重の乗ったパンチとキックは要警戒だろう。村上一成相手にバーリ・トゥード初勝利も挙げているだけに勢いに乗ったら止まらない!?

——あ、そうですか。でもね、評論家気分で書いているインターネットをやってる人達を、ファンの気分に戻すっていうのは凄いことですよ。

小川　何だかんだ言っても、みんな見たいんでしょ？

——とにかく小川の試合が見れてうれしいという書き込みですからね。

小川　まーね！　佐竹……選手かな。いまはそう言っておこうか。佐竹選手が対戦相手に決まって、本当に良かったよ。

——昨日、佐竹さんとリングの上で握手したときの印象はどうだったんですか？

小川　まぁ、「デカイなぁ」なんて思ってね。

——でも、小川さんの方がデカイじゃないですか（笑）。

小川　デカイというか、だいたい分かるじゃないですか。「まぁ、すがすがしくお互い頑張ろう」とか言ってたけどね。

——「小川さんとの握手は気持ちよかった。何かすがすがしい気持ちです」って言ってますね。いわゆる日本人が好きなタイプですよね。

小川　従来の日本人がね。でも、これから

格闘 Do Judge 2000

は分からないよ。

——ガハハハハ！ 俺の時代だ、と。

小川 時代は流れてるからね。

——でも、いまの佐竹選手は小川さんを凌駕するくらい絶口調ですよね。

小川 やっぱり、どっかの誰かさんみたいに「考えるところがある」っていうよりは全然いいよ。

——ガハハハハ！ それは10・9ドーム直後の破壊王のコメントですね。ちなみに橋本vs藤波戦は見ました？ 見てるわけないとは思いますけど（笑）。

小川 「考えるところがある」って、何を考えてるのかなぁ？ いまさら独立宣言って、何から独立するんだろう？ おかしいでしょ。橋本ファンとして言わせてもらえれば、「独立宣言て、なっなっなっ何ですか、いったい？」ってことだね。もっと突っ込んだ言い方すると「独立すんなら、最初から独立すりゃいいじゃないか」ってなっちゃうよね。新日本で復帰しなくたって別にいいじゃねえかって思っちゃったんですよね、橋本ファンとして（笑）。

——たしかにね（笑）。で、破壊王の話題はさておき、今日（10月12日）の『東スポ』には「猪木が佐竹に味方」とかいろいろ書かれてますし、猪木さんも小川さんに「あえて何も言ってない」と発言してますけれども、これに関してはどう思ってますか？

小川 もっと早く決定できればよかったんだけどね。発表された会長の詩集の出版記念パーティーの席で、わざわざこの一戦のことを発表してくれて、素直にありがたいなと思いますよね。

——そんな席でいきなり対戦発表ですからね（笑）。

小川 そんな発表したら、詩集の話題が薄くなっちゃうじゃないですか？ そういう形で、場を設けてくれて、とても有り難いことだなと。やっぱり『PRIDE』のプロデューサーとなってしまうのかな（笑）。

——ガハハハハ、でも、そういう面でのプロデューサーっていうのは、確かに大事ですもんね。

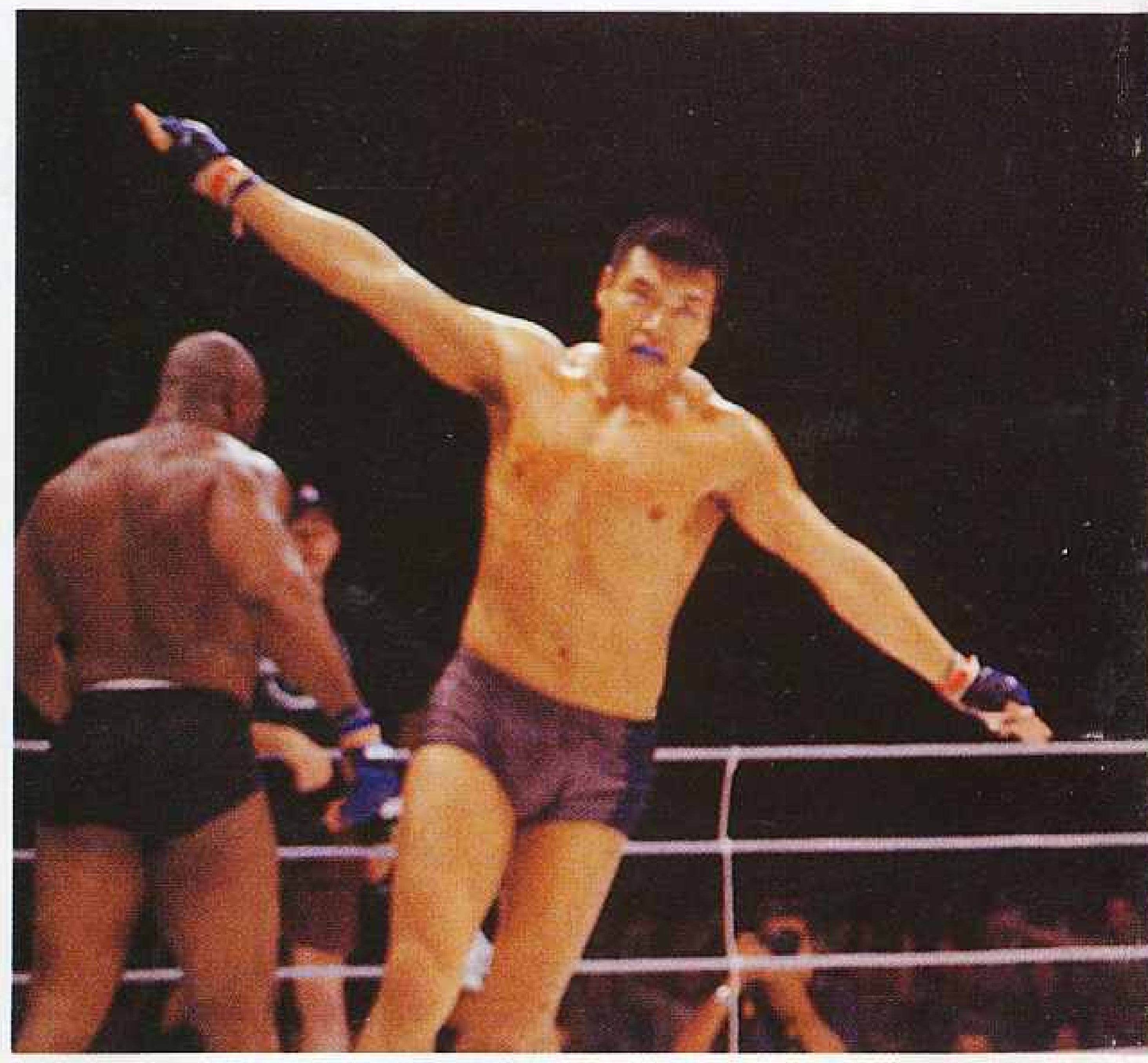
小川 いや、一番大事なところじゃないかなと思うよ。

——それはそうですね。相応しい場がありますからね、やっぱり。

小川 会長も『PRIDE』プロデューサーという立場であるから、当然と言えば当然なんだけどね。

——ずっと小川さんには『『PRIDE』という場に出てくれ！」というファンのニーズがあったにも関わらず、いままでずっと出なかった理由が、ファンには見えていないのかなとは思うんですけど。

小川 まあ、『PRIDE』の俺に対する評価が凄く低かったというのもあるよね。でも今回は凄い高く買ってくれたんでね。前から言っているじゃないですか、「新日本は凄い高く買ってくれたから上がり続けている」って。やはり、プロである以上は。そういう部分もあるからね、黙ってて良かったかなと思うし。



腹筋割れるまで絞ってきたら「ウッ!!」と思うけど、あの体形じゃね（笑）

——ある部分、ファンに言っても分からない部分ですよね。

小川 ファンというよりも、俺のプロとしてのプライドの問題で俺個人の問題だったから。ファンは優先しなきゃいけないんだけど、やっぱ選手の立場として、業界自体がアップしていかない限り、この業界の繁栄は有り得ないじゃないですか？

——それはその通りですよね。

小川 プロ野球でもそうじゃないですか。落合さんが1億円行くか行かないかで揉めた時期がありましたよね？ でも、ひとりが1億円に届いちゃったら、あとはみんな一気にレッドゾーン越えちゃうもん。何人も1億円を超えちゃってね。いまの格闘技界にも、そういうのが必要かなと。

——なるほど。

小川 やっぱり、今回の決め手も『PRIDE』がそれくらい評価してくれたということに尽きますね。

——そうか、そういう部分ってファンには、実感として分からないですからね。実際、落合選手も、あのときはファンから反感を買ったりもしてましたからね。

小川 ファンは正直言って試合見たいというのがあるからね。それはそれでいいと思うんだけど、やっぱり、プロとして確立もしなきゃいけないんでね、選手側として、ある種の選手組合みたいな活動かな。組合は俺ひとりだけど（笑）。

——選手組合（笑）。

小川 おかげで嫌われてさ（笑）。

——でも、それはそれ大変な役割ですよね。

小川 日本のトップレベルの選手がね、アパートでちまちま暮らしてるなんていったらマズイでしょ。

——今ね、小川さんは自分で「嫌われている」と言いましたけど、今回の佐竹戦ってある意味『PRIDE』による小川直也包囲網みたいな感じじゃないですか。

小川 そうかな？

——佐竹選手は高田道場にも練習行ってるし、ジャイアント落合もいるし、まぁ仲間がたくさんいるわけですよね。で、佐山さんのところに佐竹さんが練習しに行ったりとかして、猪木さんまで向こうに味方するという話も出てきてる。小川包囲網というか、向こうが物量作戦で小川選手を攻めてきてるんじゃないかなという見方も出来ると思うんです。

小川 （興味なさそうに）いいよ、別に。

——ガハハハハ！

小川 試合をやるのは、本人だからね。試合の時に、腹筋割れるような体に絞りこんできたら、「ワッ!?」と思っちゃうけど、まぁ、あの体型じゃね（笑）。

——ガハハハハ！ 今回の小川vs佐竹戦には1vs多数っていうイメージが、すごくあるんですよ。

小川 いいじゃないですか？ そういう展開が一番面白いでしょ。俺の場合は常にそうなんだけどね、まあ、しょうがないよ。『紙プロ』みたいなもんすよ。1vs多数で。

——ガハハハハ！

小川 （突然かしこまって）そういえば前々号では申し訳ないことしたなと思って。

——へ？ 何かありましたっけ？

小川 村上しか出ていないのに、俺まで表紙にしてもらっちゃって（本誌NO．30）。

——ガハハハハ！ こちらこそ出ていただいて、ありがとうございます（笑）。でもね、読者やファンから思いっきり突っ込まれましたね、「小川のインタビューがないのに何で載ってるんだ」って（笑）。


小川　いいじゃないですかね、付き合いで（笑）。
──ガハハハハ！　そうそう（笑）。
小川　付き合い、付き合い！
──で、話を元に戻しますと、小川さんは凄い孤立無援というイメージもあるんですよ、やっぱり。
小川　孤立無援っていうかね、やっぱりしょうがないんじゃないかな、ある意味じゃ。結局、リングの上では自分だけだから。試合始まって、「カーン」って鳴ったら自分しか頼れるモノはいない。
──敢えて、そっちの道に進む小川さんは、凄いなって思ってね。
小川　柔道時代からそうだったもん（さらりと）。常にひとりだからね。
──銀メダルになった時からですか？
小川　銀メダル取る前から、ずっと1人だったもん。まぁ、俺の柔道の先生とマン・ツー・マンの関係でずっとやってたからね。
──それは、何でなんですか？　小川さんの性格的なモノなんですか？
小川　性格というか、やっぱり、自分は自分なりだっていうのがあるじゃないですか。トレーニングにしても、独自の方法があるでしょ？　自分は自分でそれを大事にしたいし。そこで、結局、人に頼ってってもしょうがないよ、格闘技に関してはね。良いアドバイスはもらって、最終的にやるのは自分ですからね。
──柔道時代から孤立無援というか。分かりやすく言うと嫌われるというか（笑）。
小川　嫌われてるんじゃなくて、何ていうのかな……（しばらく考える）やっぱり、人と感覚が違うんだろうね。
──そこは逆に凄いと思いますね。
小川　凄いか、変人かは紙一重だからね、こればっかりは（笑）。
──ガハハハハ、なるほどね（笑）。自分では、自分は変わってるという感覚はあるんですか？
小川　だから、血液型の問題っていうものがあってさ。
──け、血液型ですか？
小川　例えばさ、日本で一番多いのがA型でしょ？
──そうですね。
小川　次はO型。それで、次がB型で、一番少ないのがAB型になって。一番人数の多いA型っていうのがだいたい常識になっちゃうわけだ。
──そうですね。
小川　B型って、ケツから2番目でしょ。変わりモノが多いという見方だけど、B型が一番多かったらA型が変わりモノじゃねえかという、こういう論理が生まれてくるだよ。だから何が正しいのかっていうんじゃなく、だから自分がいいと思えばいいんじゃないのかな、と（笑）。
──ガハハハハ！　そこらへんが非常にB型らしいですよね。
小川　だから、B型が日本中に溢れたら恐いのかもしれないよね。みんな孤立無援になろうとするし（笑）。
──どんな世の中なんだ（笑）。
小川　どんな世の中になっちゃうのか楽しみだけど。それが、A型の感覚持っている人達が常識で、世の中こういう調子になっているだけだと思うだけどなぁ。
──日本人の4割以上がA型だとかいいますもんね。そういえばインドってB型が多いらしいですね。
小川　やっぱりね！
──ガハハハハ！　だから、インドとかって行って、ハマる人は滅茶苦茶はまるじゃないですか？
小川　そういえば貧富の差が激しいしね。
──だから、みんな1人1人独立しているというか、小川さんの感覚に近いのかもしれませんよね。
小川　それは、良い国だな（笑）。
──ガハハハハ！　A型が4割以上占める日本というのは、小川さんにとって窮屈だなという部分もあるんですか？
小川　窮屈っていうんじゃなくて、それが特権であるからいいんじゃないかな。
──特権ですか？

嫌われてるというんじゃなく何ていうのかな……やっぱり人と感覚が違うんだろうね



小川　むしろね、こういうA型の世の中に生まれてきちゃったんだから、現状を踏まえれば、「やるしかねえ」かな、と。
──ちなみに、今思い出しましたけど、佐竹さんはA型ですね。
小川　やっぱり（笑）。あの、すがすがしいイメージの理由がそこに隠されていたのか（笑）。
──じゃあ、孤立無援とか小川直也包囲網みたいな感覚に関しては、いまさら「どうってことねえよ」って感じなんですか？
小川　そういう包囲網とか見てると、面白いけどね。やっぱ、それ以前に、俺は思ったんだけど、会長が最初にボーンと言った言葉は突き刺さったね。
──昨日のパーティーでこのカードを発表した猪木さんが「偶発的に生まれた西武ドームで生まれた因縁が……」という言い方してましたよね。
小川　やっぱり何もなければ、このカードもなかったと思うしね。運命的なストーリーみたいなモノがあるから。やっぱりプロレス・格闘技って並べたときに、必ずプロレスが先に来ますからね。そこのところが、やっぱり……UFOイズムですね。
──ああ、なるほど。
小川　会長は『PRIDE』プロデューサーなんですけど、UFOの創始者ですからね。
──そうですよね、もの凄い掛け持ちですよね（笑）。今度、ポエム界にもデビューしちゃったし。
小川　でも、やっぱり基本的にはストーリーがあるから面白いんでしょ。本当、偶発的だったね。まさかと思ったもんね。
──まぁ、『PRIDE.10』で村上選手が敗れたことによって……。
小川　このカードは生まれたからね。俺、あいつに感謝しないといけないね（笑）。村上が勝ってたら、始まんなかったことだしね。
──そうですよね。逆に、小川さんを引っ張り上げたい方としても、ちゃんと正当な評価をしてくれたという部分もありますよね。
小川　そうですね。あと、まぁ、一部報道では、西武ドームでの僕の行為があまり評判よろしくなかったようですけどね。いつも、そうなんだよなぁ、あそこは。名古屋

格闘
Do Judge
2000



（『PRIDE．5』でリング上で高田延彦に対戦を迫ったこと）にしろさ。

——確かにそうだなあ。小川さんに求めているモノは、そういうことなんだけど、いざやると怒られるという矛盾した状況になってますよね（笑）。

小川 オイオイオイオイ、いい加減許してくれよって感じだよね（笑）。だけど、ブーイングが出ちゃうんだよね。分かってる人には、「しびれちゃうよ」って言われるし、賛否両論だからいいとは思うけどね。

——それは、絶対そうですよね。賛否両論あった方が面白いし、逆に言えば、賛否の否の方を引き上げる力って凄いエネルギーありますもんね。

小川 だから、あれが発端でね、佐竹選手に好き放題言われたけどもね、今回の場合は、これは我慢するしかないと腹を括ったから。

——よく我慢しましたよね。

小川 いや、もうね、昨日も我慢してたよ。昨日は、詩集の発表の場でしょ。乱闘なんかやっちゃたらさ、この写真（猪木を挟んで小川と佐竹が握手する『東スポ』の写真を指さして）が載らなくなっちゃうもん。

——あー、そうですね。

小川 せっかく会長真ん中入っているのにさ。これが台無しになっちゃうよ。

——確かにそうですね。猪木さんが真ん中でいる場でね。

小川 俺がしゃべっちゃたらさ、記者が面白がって書きたがっちゃうから、ここは、もう帰った方がいいなと思って、従業員エレベーターを使って帰りましたよ。

——ガハハハハ！ なぜだ（笑）。

小川 「何で、帝国ホテルの従業員エレベーターで食器と一緒に降りなきゃいけねーのかなあ」と思って（笑）。

——ガハハハハ！ 食器と一緒に。

小川 食器のおばちゃんと一緒に降りちゃったよ（笑）。本当に困ちゃったもんなあ。「なにしてんの、この人？」みたいな感じで見られるしね。「おばちゃん、ゴメンね」みたいな感じで帰りましたけどね（笑）。

——なるほど（笑）。いまの話を聞く限り、小川さんはある意味〝プロデューサー頭〟で動いている部分があって、そこでやっぱファンに届きにくい部分がありますよね。

小川 そこまで分かっちゃったらつまんないよ。分からない部分は、分からなくて構わない。結局、俺が見たいのは「小川、何も言わねぇーのか？」みたいな言葉だったりするからね。昨日のことにしても、会長の言葉がより多く載り、佐竹選手の言葉ありで面白くなるじゃないですか。



Naoya Ogawa

——はあぁ、さすがだなぁ。だから、ただ闘うだけじゃないですもんね、小川さんの場合。プラス・アルファがたくさんあるから、逆にしんどいなぁと思いますよ、本当。やってること見てると。

小川 疲れるよね。

——ガハハハハ！ 従来のプロレスとかアメリカのプロレスだと、ヒールって〝役割〟じゃないですか。その点、小川さんの場合は非常にリアルですからね、凄い今の時代に沿ってますよ。

小川 そういえば今、ガチンコって言葉が流行ってるんでしょ？

——『ガチンコ』なんて番組もあるぐらいですからね。

小川 昨日も「小川、ガチンコでやれよ」っとか言うヤツがいてさ、「うるせえよ、テメェー！ 俺は、常にガチンコなんだよ！ 茶番でこんなこと出来ねーよ」って、俺はいつも思ってるんだけどさ。まあ、そいつも酔っぱらった勢いで言ってるかもしれないからほっといたけど（笑）。

——確かに、〝ガチンコ〟とか〝セメント〟とかいうことをファンがいう時代になってきちゃってますからね。

小川 なんか流行ってるよねぇ。流行り言葉は、だいたい廃りも早いもんけど、この言葉だけは長いよね（笑）。

——たしかに長い（笑）。だから、太古の昔から流行っているようなモノですからね。よく考えてみたら。

小川 そうだよね。

——「あれは、ガチンコだ。ガチンコじゃない」とか、ファンの憶測の部分でずっと議論されてきたことが、インターネットの普及で大勢の人の目に触れるようになったと思うんですけどね。

小川 「もう、そんなのどっちでもいいじゃねーか！」って話だよね。「真剣にやってんだから頼むよ」って思うもん。

——（ビート）たけしさんが昔、漫才ブームの時に「あんなの漫才じゃない」って言われたときに、「漫才か漫才じゃねぇーかなんてどうでもいいんだ、面白けりゃいいじゃねぇーか」ってたけしさんが言い放ったって話がありますよね。

小川 たけしさんのあの発言は最高だったね！

——だから、これは小川さんにとってみれば「プロレスとか格闘技とか、面白けりゃ何だっていいじゃねぇーか!?」ってとこですよね。

小川 みんな勝ち負けにこだわっているんだよね、今回のオリンピックもそうだし。

——そうですよね！ カレリンが負けた試合とか見ていると、やっぱカレリンの方に光が当たりますからね。生まれついてのプロ気質をカレリンには感じますよね。一般の報道とか見ていると、「怪物も年令には勝てなかった」とかいう感じなんですけど。

小川 そういうのじゃないんだよね。レスリングのグレコローマンも毎年ルールが変わって、カレリンがそれに対応しきって来て、やっとオリンピック4連覇がかかったところで、コロッと負けるというのもやっぱり凄いじゃないですか。

——4連覇がかかった中で「お前負けてみろよ」という話ですからね（笑）。

小川 3連覇するのも大変なもんだよ。俺なんか1回も取れてねんだから（笑）。

——自分で言いますか（笑）。

小川 本当、大変なんだからさ。2回出るだけで四苦八苦なのにさ。

——ガハハハハ！ ちょっとvs佐竹雅昭戦に話を戻しましょうか。今度、佐竹選手が「肘と頭突きありにしようって要求する」って言ってますけど、どうなんですか？

小川 ……恐いね。

——ガハハハハ！

小川 今からブルブル震えちゃうよ。

――うわぁー、出たぁ（笑）。

小川　ホント、恐いよ。ねぇ？

――なんでいきなりトーンが下がっちゃってるんですか（笑）。

小川　だって、ヤバイじゃん。肘なんつったら死んじゃうよ。死んじゃうって、本当に。鼻が折れるところじゃ済まないよ。

――まぁ、そうですね。空手王ですからね。

小川　いや、いまは俺が上になったときのことを考えちゃったんだけどね（笑）。

――ズコッ！　まあ、どっちが上になっても危険であることに間違いはないですよ（笑）。

小川　ヤバイって！　目潰しなんてやりたくないよ、みんなのいる前で。

――あっ、みんなの前だから（笑）。想像すると恐いですよ、こっちが。

小川　まぁ、森下さんの言うことも、もっともだと思うな。

――森下DSE社長は「大きなダメージを負うような試合は受け入れられません」と言ってますよね。前号で、小川さんは「佐竹選手に勝つ自信がありますか？」っていう質問に、「勝つ自信はないけど、殺す自信はある」って答えてくれましたよね。これを『SRS』という雑誌で佐竹選手に投げかけたわけですよ。そしたら、佐竹選手が「うれしくて笑顔になりますね」「そういうふうに俺を挑発したりするヤツっていいなかった」と回答してましたけど。

小川　だって、ほら、勝負っていう型だと、反則を使ったら負けちゃうでしょ。でも、俺が言ってるのは、その上の段階だから！　勝負にしたら勝ち負けがないから。深いんだ、これが。

――意味深だなぁ。佐竹選手は「殺す以上のモノを出す」って宣言してましたからね。なんか最近の佐竹選手は絶口調ですね。

小川　うれしいじゃないの（ニヤッ）。

――ガハハハハ！

小川　こうなることは、俺は本当にうれしいよ。

――「世界の強豪と十何年もガチンコでやってるんだから、今さら怖さも何もないですよ」と自信をみなぎらせているわけですよ。

小川　（口を尖らせて）「ガチンコ」って何だよ⁉

――小川さんの言うところの〝流行りの言葉〟を佐竹選手も言ってるわけですけどね（笑）。

小川　う～ん、いい言葉だ。

――ガハハハハハ！

小川　そういう「ガチンコ」とか、どうのこうのとか言うこと自体がさぁ、「じゃ、何なんだよ、その十数年の前はガチンコじゃねーのかよ」って話だよね（笑）。

――佐竹選手は、それくらい長い間やってるんだよっていうことを言いたいんでしょうけどね。

小川　素晴らしいね。その十何年間に敬意を表するよ。

――ガハハハハ！　今日は、全てが意味深に聞こえますよね。佐竹選手は「ケンカ空手で行く」とも言ってるんですよね。

小川　あっ、そう？　空手にケンカがあったのか？　勉強しなきゃ。

――まぁ、『空手バカ一代』からインスパイアされているんでしょうけど。

小川　へぇ～、ケンカ柔道ってないもんなぁ。そういうのって、柔道にはないなぁ……俺はベーシックで行きます。

――ガハハハハ！　ベーシック柔道（笑）。

小川　空手で来るってことは胴着も着て来るのかな？　それだけは止めてくれ！　裸になってくれって感じだね。

肘と頭突きあり？　……恐いね!!
俺が上になったときのこと考えると

――恐いなぁ、なんか。

小川　俺も柔道着を着てやってもいいけどさぁ。空手着を着て来んのかってなったらさぁ、柔道家は笑っちゃうよ。「柔道家相手に胴着を着て来るバカいるかよ」って話でさ。

――小川さんの中には、柔道vs空手って意識はあるんですか？

小川　もちろん！　ありますよ。

――プロレスラーとして出撃するという意識は？

小川　もちろん、それもあるけど。俺は、ほらっ、相手に合せるから（笑）。

――ガハハハ！　相手に合せる！

小川　目潰し、急所打ちも別に構わないんだけど、ホントにいいの？　逆に心配だよね。

――そこらへんに、小川直也の核がありそうですね。

小川　やっぱりね、合せなきゃ。K―1ルールっていったら少し厳しいけど。それは、少し勘弁してほしいなぁ（笑）。ちょっとハンディあげ過ぎかなぁって。

――じゃあ、バトミントン・ルールとかね（笑）。

小川　そう、そう。そんなようなモノだからさ。

――相手に合せる。それを言えちゃうのが凄いですよね。

小川　しょうがないじゃん、向こうが言ってるんだからさ。

――普通は、相手に合せないですけどね。

小川　だって、対戦させてもらってるからね。それくらい大目に見ないとさ。

――意味深だなぁ、なんか。それでね、佐竹選手が面白いことを言ってて、「空手家でケンカっ早い奴がたくさん知り合いにいるから100人くらいセコンドに付ける」って言ってるんですよ。

小川　おい、おい、おい、ちょっと待てよ！　フクロ（叩き）はご免だよ。やっぱ、さすがに俺も100人じゃかなわないよな。（99年）1・4ドームの村上みたいになりたくねえもん、俺は。

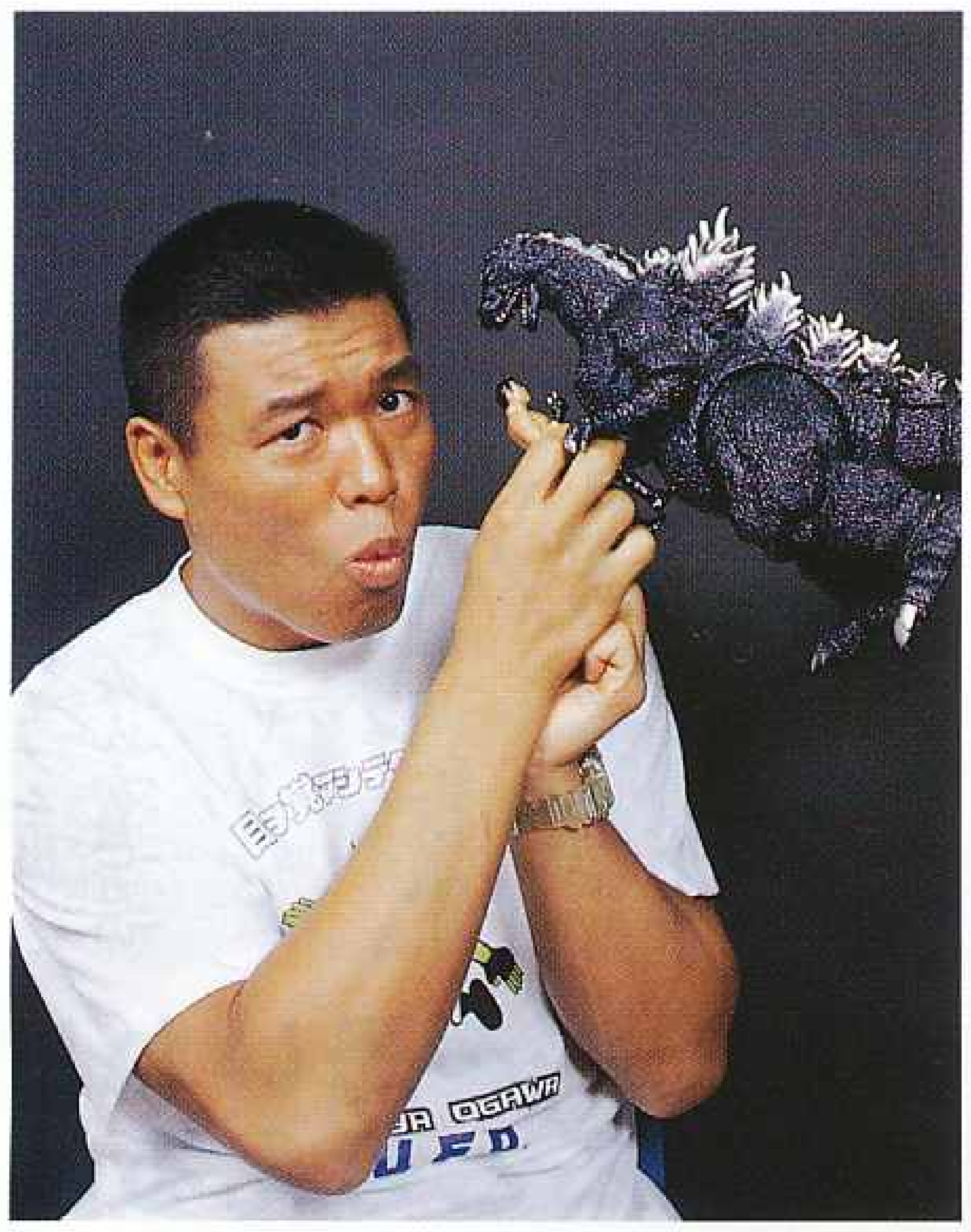
――ガハハハハ！

小川　空手の100人組手だっけ？　俺はやだよ、そんなの。だいたい100人もリングサイドに来たら、見に来ているお客さんが「邪魔だよ、お前ら」ってなるじゃん！　でも、ケンカっ早い兄ちゃんだから、お客さんも文句言えないだろうしね。それじゃ、



「佐竹にビビる」という衝撃的な見出しが踊る10月14日付『東京スポーツ』に掲載された小川の気弱なコメントの数々を紹介しよう。「毎日夢にゴジラが出てくる」「試合が決まったことを心から後悔している」「ああ、怖い」など、小川の静けさはじつに不気味だ。

お客さんに迷惑だよね。
――そういう意味で失礼だと（笑）。
小川　失礼だよ！
――ガハハハ、やっぱ、小川さんは面白い（笑）。まあ、１００人と闘うというのはひとまずおいといて、『ＰＲＩＤＥ』包囲網じゃないですけど、向こうは外堀を埋めてきているような感じですよね。
小川　まぁ、結局、日本人だからね。結局、みんな、なぁなぁでやっちゃってるんだろうね。
――いま〝個人の時代〟と言われてますけど、自己責任の元に、個人でやっていく時代って言われてますよね。ボクはそれを象徴しているのが小川さんだと思うんですよね。
小川　しょうがないよ。何年か経ったら、俺がまともになるのかもしれないしね。そういう日本になってるかもしれないじゃん？
――そうですよね。ところで、話は変わるんですが、一部新聞では佐竹戦を飛び越えて「vsヒクソン戦実現濃厚」という報道も出てますよね。
小川　これも凄い飛ばし記事だね。
――ガハハハ！　ヒクソン待ってろということになってますけどね。
小川　でもさ、本当に『ＰＲＩＤＥ』も便乗商売上手いよなぁ。この間、井上康生とヒクソンとやらせるとかコメントがあったでしょ？　『ＰＲＩＤＥ』がヒクソンって駒を持っているわけじゃなねえんだから。井上だって契約したわけでもないのにね。選手を持ってねえのに売名行為すんなよって。ひどい話だよね。
――次回の『ＰＲＩＤＥ』に井上選手と野村忠宏選手に招待状を出すとか言ってましたね。
小川　是非、来ないでほしいね（キッパリ）。
――また、どうしてですか？
小川　金メダリストを利用されるだけだからね。
――なるほど。
小川　来るんだったら、俺が招待券やるって。気が付かないところで黙って見てた方がいいよ。ノコノコ来たらね、餌食になっちゃうよ。彼等は、清く正しい世界にいるのにさ。
――じゃ、何か小川さんが汚れた世界にいるみたいじゃないですか（笑）。
小川　俺は、汚れているんじゃなくてプロという場があるからさ。彼等は勝つことだけ考えればいいじゃないですか。客入りも関係ないし。オリンピック選手なんて、「皆さんのために頑張ります」とか言うけどさ、それは勝った後に言う話でさ、要するに勝った後に使う言葉として、勝利とセットになってだけだから。
――はい、はい、はい。
小川　形式って言ったらいいのかな？
――綺麗ごとというか（笑）。
小川　綺麗ごとって言っちゃ失礼だけど。やっぱり、一番良いのは「俺がやったんだよ」っていうふうに言えることだけど、やっぱ爽やかなイメージ残すためには、そういう言葉も必要だよね。でも、そういう世界とプロの世界は違うじゃないですか。



何度も言ってるけど勝つつもりはないから。まあ、あとはルール次第じゃない？

――そうですね。誠意の示し形が違いますからね。プロとアマチュアではね。
小川　アマチュアみたいな形式でやったら簡単だよ、昨日なんて特にね。爽やかなイメージで「よぉ、どうもありがとう」って佐竹選手に一言言っちゃってさ（笑）。
――ガハハハ！
小川　それで爽やかな握手なんてやったら、もういいイメージだけだ（笑）。
――小川さんが「よろしくお願いします」って握手を求めるとか（笑）。
小川　もし「よろしくお願いします」って言われたら「はい、こちらこそ」って手を握り返しちゃったり（笑）。
――「あ、小川が変わった」って一発で言われますね（笑）。
小川　そんなこと誰もそんなこと期待してねぇっての！
――ガハハハハ！　最高です。では、最後に締めてほしいんですが佐竹戦後の方向性というのは決まっているんでしょうか。
小川　この後の方向性？　佐竹戦を10回くらいやろうと思ってるんだけどね。
――ガハハハ！　なぜだ!!
小川　佐竹とＦ－１グランプリみたいに、1戦から15戦までで勝ち数の多い方が勝ちでさ。それで世界じゃ無理だから、地方をサーキットだね（笑）。
――小川vs佐竹inモナコ・グランプリとか見てみたいですけどね（笑）。
小川　南は沖縄から、北は北海道まで。第1戦は大阪だけどね、第2戦は沖縄で、第3戦が北海道とか地方で（笑）。
――じゃあ、佐竹選手が第1戦目を耐えられたら、ということですか？
小川　いや、いや。佐竹選手は耐えれるでしょう（ニヤッ）。
――では、単刀直入にうかがいますが、勝つという意識はあるんでしょうか？
小川　俺、何度も言ってるけど勝つつもりはないからね（キッパリ）。
――殺すつもりだ、ということですか。
小川　まあ、あとはルール次第だね。まあ、あんまり、あれこれルールを決めたところでしょうがないからさ。
――とすると……。
小川　お互いのプライドがルールで、いいんじゃないかな（ニヤッ）。

【10月12日、東京都・ＵＦＯ事務所にて収録】

■インタビュー後記■

どーだろう？　怖ろしいまでの殺気と自信を漲らせた新生・オーちゃんと、いつになく積極的に〝口撃〟をしている佐竹の激突は、危険極まりないものになることは避けられないはず。
柔道の世界王者でありながらキックボクシングのジムに通って貪欲に打撃を吸収する小川と、長年立ち技のトップレベルを生き抜いてきた技術に加えて高田道場でグランドを学

無言で会場を後にした小川に対して リラックスムードでコメントする佐竹から とんでもない、爆弾要求が飛び出した！

やきもきしながら発表を待つことしきりだった小川vs佐竹という世紀の一戦。対戦が正式発表され、2人が顔を会わせたアントンの詩集発表記念のパーティー会場で佐竹が今回の一戦について語った。これは余裕なのか？ それとも神経戦なのか!? 急いで読み込め!!

●

「小川選手ってね、柔道の世界チャンピオンだしね、そういう意味では本当にいい相手だと思うし、逆に本当にこっちもホント気合い入れて闘わないと。だから本当にド本気で闘えそうですね。ボクは常に受けて立つというか、まあ常に挑戦する気持ちで、何でも当たっていこうと思ってるし。でもやっぱり次の大阪っていうのは、やっぱりボクの地元やし、やる気が起こるね。普段は高田さんのボブチャンチン対策に付き合って、ずっとパンチ打つパターンで俺はスパーリングしてたんで。自分の得意な空手を活かしたトレーニングをずっと続けてるんで、時間的な問題は全然ないと思います。まあ、腹括ってやるだけですから。ようやく決まってくれて良かったなって。さあ、やりましょう！ 今日あんまり多くを語る必要はないと思うんで、派手な真剣試合、真剣勝負でね。ボクなりの空手をお見せしましょう。ボクはやっぱりあの自分の得意な肘打ち、頭突きが有りのルールを要望したいですね、なんでもありのバーリ・トゥードの本当の意味でね。だから柔道vs空手っていう意味で、やっぱり空手に有利な技も使いたいし。とにかく闘って勝つのは当たり前の気持ちで闘うから、とりあえず自分を信じて、全力で。小川選手と今日握手したときは、清々しい感じやったね。"今日は来てくれて逆にありがとう"って感じでした」



●

いつになく強張った表情を見せていた小川に対し、気負いなど一切感じさせず、それどころか、リラックスムードで小川戦について語った佐竹。

どういう訳か、アントンは「小川に関してはあえて今回は何も言ってません」とコメントし、それどころか、佐竹には闘い方のアドバイスをしたらしい。

来年はヒクソン戦も視野に入れていると噂される小川に比べれば、不慣れな総合のルールで負けても失うものが少ないと言える佐竹だが……。どうなる？ そして、ルール問題はどうなる!? 今後の動きはしっかり追っておかないと乗り遅れるぞ!!

10月11日、東京・帝国ホテルで 奇跡の"猪木祭り"が行われた！ アントニオ猪木詩集出版記念会リポート



元気ですかーっ！ ボエム界の大型新人、アントンの詩集出版を祝うため、この日、各界著名人から多数の一般人まで1000人を超える来場者が東京帝国ホテルに詰めかけた。そんな大勢のお客さんを前にして、アントンは、明らかに最初からノリノリのご様子。なんと神輿に担がれて入場ーッ！



突如、キラー・アントンに!? 高田が花束を贈呈したところを、アントンが張り手を見舞ったのだが、来場者から関係者まで、一同を唖然とさせたこの行動は、『PRIDE.11』でのボブチャンチン戦を目前に控えた高田へのアントン流のエールと捉えておくのが賢明である。



最後はもちろん、これしかないでしょう！ 来場者と共に1、2、3、ダーっ！ キミも詩集を読んで、馬鹿になれ！



今回の詩集を企画した作家の百瀬博教さん。『PRIDE』では、いつもアントンの隣の席で観戦してるあの人です。

金曜8時伝説 ストロングスタイルだ!!

11 大解剖

カケラを携えて、猪木のてから旅立とうとする小川。彼等の中にこそ本当の「ストロング・スタイル」が存在しているような気がしてならない。さぁ、『ＰＲＩＤＥ・11』直前、燃えよ、闘魂！



谷津嘉章 VS ゲーリー・グッドリッジ



"最強"幻想を持った、最後の昭和のプロレスラー谷津嘉章。「言う以上はやってもらいたいけど、できませんよ」という仲野信市の言葉を出すまでもなく、誰もが諦めかけていた谷津の『ＰＲＩＤＥ』参戦が本当に実現してしまった！ 当年とって44歳！（おへその下は不明）この遅すぎるＶＴデビューに昭和のプロレス者なら20世紀最後の夢を託さずにいられない。対戦相手がプロレスラーと因縁浅からねグッドリッジだというのもいい。頑張れ、谷津！ 五輪コンビの盟友、ジャンボも天国で応援している！（かもしれない）



佐竹 雅昭 VS 小川 直也

「小川は『ＰＲＩＤＥ』から逃げてる」「佐竹にビビッてる」そんなネットを中心とした一部の声に「オイオイオイオイ！ 冗談じゃねぇよ〜！」とばかりに遂にオーちゃんが始動した！ 世間に届かせる話題性を第一に考えるオーちゃんにとって、佐竹はもってこいの相手だろう。『ＰＲＩＤＥ』 の大物日本人同士の対決、柔道VS空手、プロデューサー、アントンの動向など見所満載。果たしてオーちゃんは『ＰＲＩＤＥ』の観客の目を覚ますことができるか？



?

アレクサンダー大塚 VS X

5・1『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』でケン・シャムロックに破れ、これまでの自身をすべて打ち砕かれたアレク。今年、夏にはこれまで突っ走ってきた疲れが出たか、欠場に追い込まれたが、復帰してすぐにバトラーツの本場所『ヤンジェネ』に優勝。再浮上のきっかけを掴んだアレクは、再び『ＰＲＩＤＥ』という戦場に足を踏み入れることになった。残念ながら10月19日現在、アレクの相手は決まっていないが、プロコン（なつかしい）を爆発させて、マルコ・ファス戦以来の勝利を見せてほしい！





小路 晃 VS ヘルマン・レンティング

そのアグレッシブかつデンジャラスなファイトで創生期のリングスで活躍した"オランダの爆弾小僧"レンティングが、忘れたころに突如登場！ ミスター・プライド小路とのタイマンが決定した。フライ、ナイマン、ピータースといった"はぐれリングス・オランダ"が不甲斐ない成績しか残せていないが、レンティングはレフェリーのブラインドをついてのサミングが得意技というとんでもない男。昭和の悪党レスラーチックに、勝敗を度外視した反則にでることは十分に考えられる。小路は無傷で生還できるか？

『PRIDE.11』

10月31日（火）
大阪城国際文化スポーツホール
【試合開始】 午後7時（開場午後6時）

【入場料】
ＶＩＰ 100000円（特典・グッズ付）
ＲＲＳ 20000円 スタンドＳ 12000円 スタンドＡ 7000円
【発売所】
チケットぴあ
06-6363-999／06-6363-9966（Ｐコード＝600-561）
ローソンチケット・OMCプラザ
06-6393-6633（Ｌコード＝54442）
リングソウル 078-321-1550
ソルナ 06-6282-0020
バディスクラム 06-6645-1378
チャンピオン 06-6645-5186
公武堂 052-241-2511
ホームページ http://www.jside.com/pride/
【発売＆問】
ＤＳＥ
03-3552-6300

燃え上がれ
これが真の
『PRIDE』

高田復活！　オーちゃん始動！　谷津参戦！　まさか、まさかのビッグカードがズラリと並んだ『PRIDE・11』だが、やはり注目はこの3人だろう。新日本全盛期のスターである、高田と谷津。そして闘魂の

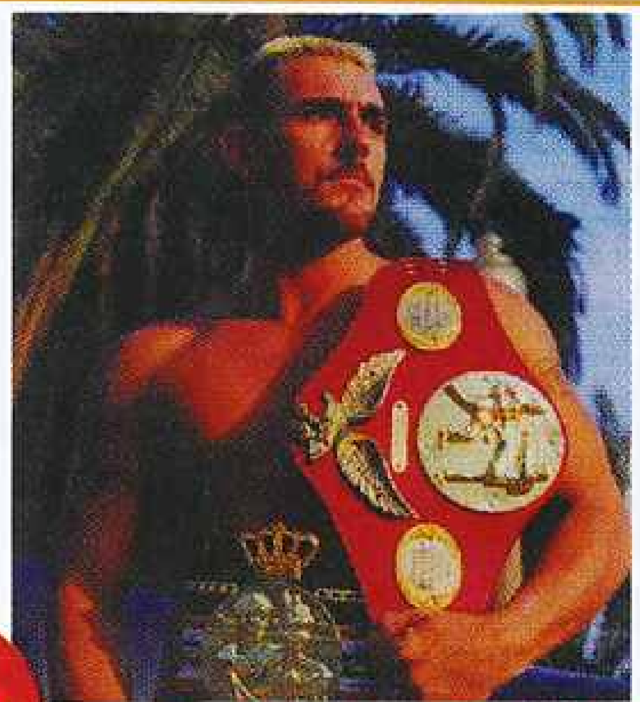


高田延彦 VS イゴール・ボブチャンチン



高田が「これが最後」の覚悟をもってＶＴに挑む相手は、攻撃力世界最強の男ボブチャンチンに決定した。いまや『ＰＲＩＤＥ』最大の恐怖と化したこの男を、「最後の」対戦相手に選んだ高田の「覚悟」に、ここは乗らないわけにいかないだろう。高田、圧倒的不利が予想されるが、当の高田は「弱点らしきものはいくつか発見できた」と意外な自信を見せる。さぁ、闘う登山家・高田延彦の大いなる冒険をとくと見届けよう！





桜庭　和志 VS シャノン“ザ・キャノン”リッチ

ホイラー、ホイス、ヘンゾと“グレイシー”を遂に撃破し、遂に王手をかけた相手は、もちろん、ヒクソン……ではなく一部で賛否両論のアントン・プロデューサーからの刺客であり、“地下プロレスのプロデューサー”という強いんだか、なんだかわからない肩書きを持つシャノン“ザ・キャノン”リッチ。つーかお前誰だよ！　と突っ込みたくもなるが、良く考えればこういう得体の知れない相手と名勝負をするのはアントンの十八番。サクもここは相手の力を８まで引き上げて、10の力で倒すような闘いに期待したい。





ギルバート・アイブル VS ヴァンダレイ・シウバ

グッドリッジをハイキック一発でＫＯし、生存競争の激しい『PRIDE』で生き残ったアイブルの今回の相手はシウバ。シウバはマニアの間では「打倒・桜庭に最も近い男」と言われる実力派。先の『PRIDE・10』では膠着大王メッツアーを完全ＫＯで破り、陰のＭＶＰと言える活躍をした。どちらも登り調子、『PRIDE』屈指の大打撃戦を制するのはどちらか？　勝った方が次回『PRIDE・12』で桜庭と対戦しても面白い。





トム・エリクソン VS ヒース・ヒーリング

「この男が本気を出したら、誰も手を出せないんじゃないか」という、昭和プロレスチックな幻想を抱かせてくれる、“人間空母”トム・エリクソンが久々の登場。『ＰＲＩＤＥ・９』でＷ・ピータースを秒殺した、ヒーリングとの激突が決定した。共にレスリングをベースとしているため、体格差でエリクソンが絶対有利と思われるが、ヒーリングはアイブルの盟友だけに、打撃ＫＯも十分考えられる。果たしてエリクソンが噂される第２回『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』の強烈デモを行うのか、それともニュー・スター誕生か？

髙田延彦

in 青空プロレス道場



ボブチャンチン戦直前！
髙田がホントにやって来た!!

司会／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

俺がいた頃の新日本は移動中のバスの中まで緊張感があったね

みなさんのおかげで、本誌主催の「青空プロレス道場」も今回で足掛け2年。4シーズン目のファイナルを迎えることができた。
これまでサク、前田、オーちゃんからターザン、ユセフ・トルコまで、超ビッグネームから、電話一本で呼べる人まで、数多くのゲスト講師陣を招いてきたが、さすがに2年半もやっていると人選も困難になってくる。
そんなとき、最後の大物、髙田延彦の登場が決定！
ただでさえ、稀少価値の高い髙田のトークイベントだが、今回は10ヶ月ぶりの復帰戦となる超難敵、イゴール・ボブチャンチン戦の前に、本人の口からその意気込みを聞くことができた。
はたして、なにが髙田にボブチャンチン戦を決意させたのか？
司会はおなじみ本誌鬼畜編集長・山口日昇（現在、例によって失踪中）、タチの悪いツッコミは本誌スーパーバイザー・吉田豪でお送りする「髙田延彦の青空プロレス道場」。
さぁ、いよいよ髙田延彦選手の入場です！

（『トレーニング・モンタージュ』が流れる中、ゆっくりと髙田登場！）
〈場内騒然〉
——本当に来て下さいました！　髙田延彦選手です！
〈大拍手〉
——如何せんですね。普段はフラメンコ教室とか生け花教室とかをやっている場所なんでちょっと変なスペースに映るかもしれませんが、お客さんはみんなプロレスファンでなんで、ひとつよろしくお願いします。
髙田　はい、よろしくお願いします。
——今、体の調子はいかがなんですか？　ビッコ引いているように見えましたけど。
髙田　マメがちょっとできてね。最近、革靴あんまり履かないんでね。
——靴擦れってやつですか？（笑）。
髙田　いや、トレーニングでマメ作って。革靴ってあたるでしょ？　それで、革靴が……いや、どうでもいいよ（笑）。
——アハハハ！　今日はですね、なんと！　青空プロレス道場もトータル2年半やってるんですけども、参加者が過去最高で、入れない方は帰ってもらってる状態らしいんですよ。髙田延彦人気健在というか、物凄いものがありますよね。
髙田　最後の一絞りでしょうね。
——ガハハハ！　なんで、そんなに自虐的なんですか（笑）。
髙田　山口さんとしゃべると、なーんか、自虐的になるね（笑）。
——でも凄く久しぶりですよね。髙田さんがトークショーをやるのは。
髙田　うん、久しぶり。何年もやってないね。
——記憶にある限りでは、いつ以来ですか？
髙田　えー、記憶にないね。
——アハハハ！　皆さん、だから光栄なことですよ。髙田延彦の生の声が聞けるということは。貴重ですよね？
髙田　貴重だね（ニッコリ）。


「青空プロレス道場」史上、最高の入場者数となった今回。ひとりでも多くの人に参加してもらうために、急遽イスを使わずにみちプロばりに全員ゴザシートで髙田の話を聞いた。

髙田道場とは何か？

——今日、メインとなる話は、やはり髙田道場の話だと思うんですけども。皆さん知ってるようでよく知らない話だと思うんで聞きたいんですが、髙田道場を作るきっかけは何だったんですか？
髙田　何だっけ（笑）。
——アハハハ！「何だっけ」なんですか（笑）。
髙田　え〜と、きっかけはまず、自分が思う存分練習できる、ベーシックの拠点としての練習場所がほしいというのが最初の発想ですね。その中で一般の人とか子供達がね、同じようなトレーニングをするっていうね。
——底辺拡大ですか？
髙田　底辺拡大までは、考えてなかったですね。とにかく、「みんなで汗流して元気になろうよ」というのが最初です。
——「キッズ元気！」ってやつですね（笑）。その発想がでてきたのはいつ位ですか？
髙田　道場のアイディアというのは、ずっと前から持ってたんだけど、その前に固定観念としてまずは団体だろう、と。プロレス＝興行団体というのがあったんだよね。だから道場であり、なおかつ選手を派遣するプロダクションでもあるというモノが成立するというのが、まだ前例になかったから。そういう中で団体も持ってましたから、仲々現実にならなかったんだよね。
——では、Uインターが解散して、キングダムになり立ての頃ですかね、そういう発想がチラホラと出始めたのは。
髙田　いや、Uインターの終わりくらいからかな。一般の人達に解放という形は面白いんじゃないかと思い始めたのは
——元々、髙田さんの頭の中にある道場というのは新日本プロレスの道場になるわけですよね。
髙田　うん、そうだね。
——「よく飲み、よく食べ、よく練習する」という、いわゆるプロとしての道場ですよね。その新日本の道場というのは、髙田さんにとってどういう場所だったんですか？
髙田　そうだなぁ、正味4年位しか新日本の道場にはいなかったからね。
——ああ、UWFに行ったんでそんなモノだったんですね。でもそこで髙田さんがプロとしての基礎を叩き込まれた時代は、いわゆる「団体プロレス」の全盛期でしたよね。
髙田　そうだね。道場だけじゃなくて試合場も控え室も移動中のバスの中までピリピリしている。凄い緊張感がありましたね。そういう昔から受け継がれている、新日本独特の匂いがまだまだ残ってた頃でしたんで、非常にいい時代に道場で過ごせたとい

巡業の合間に片手間で裏技磨いてもたかが知れてるよね

うのはありますね。

――「ピリピリした緊張感」というのが、我々が新日本をイメージする最大のモノですからね。今の新日本はともかくですよ（笑）。

高田　はい（ニッコリ）。

――新日本で思い出しましたけど、去年の今頃ドタキャン騒ぎってありましたよね。

高田　ドタキャンしてないんだけどね（微笑）。

豪　永島（勝司取締役）さんに対しては少しカチンとくるモノがあったんですよね？

高田　また蒸し返す（笑）。この人、誰？

豪　以前、一度インタビューさせて頂いた吉田といいます。

高田　蒸し返すなよ。

――蒸し返すのが吉田豪の仕事なんですよ（笑）。

高田　仕事なんだ（笑）。

――でも、今は新日本に含むモノはないんですか？

高田　時間がね、人の感情というモノをオブラートで包んでくれると思うんですよ。だから、永島さんには、特にないです。

――永島さんには特に言うことはなしと（笑）。

高田　はい。健康には気を付けて下さい（笑）。

新日本vs全日本

――今度、全日対新日の対抗戦というのがありますが、髙田さんにとってはどういうイメージなんですか？

高田　うーん、聞かれると思ったんだ（笑）。

――いや、別に答えたくなかったら答えなくてもいいんですけど。ざっくばらんな話として、全日対新日っていったら本来なら凄いことですよね。

高田　でも、プロレス・ファンというのは優しいよね。ちょっと適切じゃないかもしれないけど、ある種看板だけ残っているイメージが強いよね。それに向こうの女性の方は「ファンのためには私達は何でも」と言うけど、「それじゃ、なんで馬場さんが生きてる時できなかったの？」とかね。非常に矛盾感いっぱいの、みんなが矛盾していると思ってるんだけど、でもなんとなく盛り上がっているというのがね、不思議な世界ですね。最後の全日本汁をみんなで残さず飲み干そうよってとこだろうね。

――ガハハハ！　全日本汁！（笑）。でもここにいるみんなに聞いたら、全然盛り上がってないですよ（笑）。

高田　あっ、そう。チラホラと盛り上がってんのかなと思ったけど。

――僕は「そごう」と「山一証券」の闘いのような気がしますね。どっちが潰れるんだという（笑）。まぁ、新日とか全日とかの看板を外して考えると、「団体プロレス」というモノが過渡期になっていますよね。だから、僕は次の時代に向けての先駆けというのが髙田道場であると思うんですよね。

プロレスラーにとっての強さとは何か？

――古き良き時代の新日の道場にいたプロレスラーには、強さを求めようにも、どうしても巡業というシステムがあったじゃないですか。だから、いまの『PRIDE』に出ている人のような練習をやるには、物理的な時間がなかったじゃないかと思うんですよね。

高田　そうだね。身体自体なかなか作れなかったからね。年間230～40試合あったからね。だから1ヶ月東京でオフがあったら、次の1ヶ月は（巡業に）出っぱなしですよ。

――『ビッグファイトシリーズ』とかですね。

高田　そう、そう。だから新弟子時代65キロしかない俺がね、70キロ位まで東京いる間に身体を作りますよね、無理矢理。でも巡業から帰ってくるとまた


高田といえばやっぱりこの笑顔。天性のスターとは高田のような人のことを言うのだろう。ボブチャンチン戦後もこの笑顔が見れるように、行け！　NOBU！

キロに戻ってるんですよ。それこそ、その土地にも1日しかいれないんで、自ずと練習時間も練習内容も限られてきますしね。だからその中でやれることってごく僅かなんですよ。

――僕は、プロレスラーは絶対弱くないとは思っているんですけど、VTに出て負けちゃうことが多いじゃないですか。それは巡業スタイルとかそういったモノの犠牲になっている部分もあると思うんですよ。

高田　だから後は、何のために練習するかということですよ。柔道が強くなるためにやんの？　アマレスのためにやんの？　プロレスのためなの？　それともVTで勝つためなの？　その違いだと思います。所詮、道場で裏技磨いたってたかがしれてるんですよ。でも、プロレス以外のVTの舞台で試合をするということを決定事項としてあればね、それに向かって緊張感を持って磨いていけますよね。「何かあったら」というのではやはり甘えがでますよ。

――「いざとなったらできるという」というのじゃダメだ、と。

高田　やっぱり目的意識を持って、これをやるんだ、誰に勝つんだと思って練習しないと、いい練習できないね（キッパリ）。

――プロレスの場合だと、練習と試合が違ったりということがありますよね。

高田　フリー（ファイト）系に出る人は、それに勝つためだけに練習してるんだよ。毎日毎日それだけに時間費やしてね。だから、そうやって練習するのと巡業の合間に片手間でやるのでは、進歩率が違いますよね。

――その辺の考えが明確になってきたのがUインターの頃ですか？

高田　そうですね。でも、その頃はまだ、アルティメットがなかった時代ですから。自分たちがやっているモノが最先端と行かないまでも、それに近いモノだと信じていた

からね。

――いや、当時としては間違いなく最先端ですよ。ただ地球の裏側で、ああいうことが行われていたということだけなんでしょうね。

髙田 そうだね。

――バービックとやったのが91年だと思いますけど、あの頃の髙田延彦の体って凄いですよね、シャープで。

髙田 みんなそういうことを言うんだよね。じゃあ、今はなんなんだって（笑）。やっぱり、そんなに違うかなぁ。

――当時のビデオとか見ると違いますよ。

髙田 今とも違う？

――今ともやっぱり違いますよ。

髙田 （残念そうに）違うかなぁ。裸でリング上がるのいやになってきたな。ライガーみたいに着ようかな（笑）。

――ガハハハ！

髙田 （ぼそっと）着ないよ。

――でも、髙田さん自身もそう思いませんか？（笑）。

髙田 本人はそんなに思ってないですよ。（第2次）UWFの頃は、また別ですけど。僕は今97、8キロですからバービックの頃と体重も変わってないし、コンディションもそんなに落ちてるという意識ないから、ね。そう考えると「どこが変わったの？」と。

――本人としては（笑）。

髙田 あの頃と比べて自分でも「落ちたな」と思ったら多分（現役を）やってないからね。でも無神経だよね。これからリングに上がろうとする人間に対してね。「随分、変わっちゃったね」って（笑）。非常にメンタルな部分に影響するんだよね。俺が本当にライガーの格好してきたらどうすんの？

――そしたら、鉢巻きして立ち上がって応援しますよ（笑）。

髙田 責任取って頂きたいね（笑）。

UWFインターとは何か？

――Uインターの頃は、「プロレスリング最強」というのを打ち出して、団体としてのイメージ付けが前面に出ていら頃でもありましたけど、その頃、髙田さん本人の趣向というのは、どこに向いていたんですか？

髙田 （第2次）UWFが終わる頃ってコンセプトが一番中途半端になってきてたんだよね。だから、ここでもう一度きっちり自分達も信念を持ってできるモノを打ち出したかったね。要するにね、僕は「プロレスが最強」だと思ってプロレス界に入った訳ですから、信念を持てるコンセプトとファンの人達にとって分かり易いコンセプトの両面を考えると、これしかないだろうと。「プロレスこそ一番強いんだよ」っていうのを実践しながら分かってもらうというね、それが基本的な発想だったんだよ。

――打ち出し方としては、大正解でしたね。

髙田 そうだね。

――その当時としてはコンセプトも大正解で、その練習的にもプロレス界の中では最先端に近いモノを取り入れて、VTに近いモノをやってきて、それなのになぜUインターというは、ダメになったんですか？

髙田 疲れたね。

――アハハハ！　髙田さんが疲れた？



Uインター時代は競技者としてより社長として疲れたね

髙田延彦
in青空プロレス道場

髙田 そうだね。競技者というより社長にだね。あっちがいがみ合ってる、あいつが言うこと聞かないとか、あっちこっちで火種がでてくる。何かね、ファイターとして自分自身がどんどん小さくなっていく感じがしたんだよね。

――モチベーションが上がらないと。

髙田 そう、何のためにやっているのか分からないわけですよ。プロレス界入った時の一途な思い込みだけの頃とは随分違うことやってるな、と。リングの中だけじゃなくて、精神的な部分でもね。

ボブチャンチン戦への意気込み

――今度イゴール・ボブチャンチンとやると聞いた時は本当に驚きましたよ。

髙田 僕も驚いた（ニッコリ）。

――アハハハ！　本当、髙田延彦というのは何も考えていないんじゃないかと思いましたよ。ホイス・グレイシーまでなら、ヒクソン繋がりでまだ分かりますよ。それがイゴール・ボブチャンチン！　みんな騒然としましたよね。

髙田 あっ、そう。

――髙田延彦という人はいったい何を考えているんだろう、と（笑）。だから髙田延彦の凄いところは、他者から「これをやれ」というプランを立てられて、「うん、いいよ」って即答できちゃうところですよ。そこは、すげーなと思うんですよ。

髙田 なんで？

――だってボブチャンチンとやるってなったら、小川直也だって3ヶ月くらい考えるという話もあるじゃないですか。実際にはどうなのか分からないけど。そういうの何精神っていうんですかね？

豪 「よし、やろう」という感じですよね。

髙田 うん。

豪 馬場イズムですね（笑）。

——馬場イズムとは違うだろ（笑）。

髙田 どっかに生きづいてるのかな、馬場イズムが（笑）。

豪 選挙の時も「よし、よろう」って感じだったんですか？

髙田 それは、もういいって。

——アハハハ！

豪 すいません（笑）。

——でも、それも他者の欲求を「しゃーない。よし、やってやろう」という決断力の凄さですよね。一番最初のヒクソン戦もそうですけど。

髙田 でもね、人のためとかっというのじゃなくて、ヒクソン戦なんかにしても最終的には自分がやりたかったんだよ。まして今回の試合に関しては年齢的にもこれを逃したらチャンスがないと思うんでね。だからチョイスするなら最上級の選手とやっておかなきゃ悔いが残るじゃないかなというのが一番じゃないかな。

——でも、ボブチャンチンですよ。

髙田 もちろん、恐怖心はありますよ。でも、それを越えることによって自分が強くなるんですよ。例えば、試合決まってから3ヶ月はいろんな技術を学ぶし、また今までとは違った練習方法も取り入れてみたりね。そうすると、緊張感も今までとは違うし、実際の試合でも新しく身につくモノ、学ぶモノもあるだろうしね。また自分がワンステップ上がれるというのがあるんだよね。だからね、試合に向けての緊張感というのは大きければ大きいほど後に残るモノも大きいんだよね。

——髙田さんは「最終的には自分がやりたくて決めた」とは言いますけど、自分のことを考えている選手は「やらない」という選択もできるわけですよね。

髙田 要は自分のことを考えるとき、どう考えるかということだよね。

——本当に髙田さんというのはチャレンジャーですね。

髙田 そう？ それはあんまり誉めてないね（笑）。

——いま、誉めたつもりはないですよ（笑）。ところでホイス戦から次のボブチャンチン戦を決めるまで8ヶ月くらいありましたけど、その間、何を考えてらしたんですか？

髙田 ホイスとの試合が終わってから2ヶ月くらいは、どの道を歩もうかなと考えましたよね。『PRIDE』のリングにまだ上がるのか？ それとも辞めるのか？ それ以外あの地点では選択肢ないわけですから。まぁ、あまりにも自分の中で納得いかない試合だったということもあるし。練習で体を動かしてるとやりたくなるんだよ。そしてやるんなら『PRIDE』のリングだなと。5月前には、秋口にはやりたいなと決めてましたね。

——それで、ボブチャンチンというオファーがあったのはいつ頃だったんですか？

髙田 ボブチャンチンというより打撃系だったんです。それで何人か打撃系いますからね。最終的には西武ドームが終わってからだね。

——そこからは、電光石火でしたね。決まるまでは。

髙田 そうですね。

——正直言って、そのボブチャンチンって、僕はいま一番、攻略しずらい選手だと思うんですよ。試合1ヶ月前にこんなこと言うのは何ですけど、ズバリ自信はあるんですか？

髙田 あんまりそういうこと言われちゃうと落ち込んできちゃうから（笑）。

——何でですか（笑）。ボブチャンチンは、この間エンセンとやりましたけど、あの人は「よくここまで殴れるな」というモチベーションがあるじゃないですか。そういう選手と髙田選手が闘うというのは試合展開も読めないし、もの凄くドキドキしますよね。やる方としても凄くドキドキするでしょうけどね。

髙田 その瞬間に自分のやってることができるかでないかで、全て決まっちゃうと思うんだよね。だから、今もあんまり練習以外の時は、試合のことは考えないようにしてるんだよ。

——とりあえず、禁酒してるらしいですけど、あと禁じていることは何ですか？

髙田 何だろうな？ 夜遊びかな。なるべく、早く帰る。

——「なるべく」ですか（笑）。「髙田延彦時間」の場合もありますからね（笑）。

豪 小川さんがまた『PRIDE』に参戦するとしたら（※この時点ではまだ決まってなかった）髙田さんはどんな心境ですか？

髙田 見てみたいですね。

——でも、インターネットで悪質な噂が流れてたんですよ。「小川が『PRIDE』に参戦しないのは、髙田道場が止めてるから」とか。

髙田 本当？ 結構、適当な話多いよね。

——いや、インターネットは、適当ですよ。

髙田 適当だね（キッパリ）。

——まぁ、僕等も適当と言えば適当ですけどね（笑）。

髙田 一番、適当だね（笑）。

——インターネットとかは、髙田さんはあまり見ないですか？

髙田 見ないですね。

豪 前田さんも、最近はいやらしいのしか見ないって言ってましたね（笑）。

——桜庭さんもあんまり好きじゃないって言ってましたしね。でも、やってる方にとっては、好き勝手に書かれたらたまったモノじゃないですよね。

髙田 そうでしょうね。また、そういうモノで腹が立ったりするのも嫌ですからね。見なきゃ、分からないモノを自分から覗いて、マイナス面になるようなことを取り入れることはないなと思うんですよね。

——結構、そういうモノに潰れちゃう選手もいますからね。

髙田 自分で見て？

——自分で見てです。そういうのは、アマチュア出身選手に多いですね。プロの世界に出る人は、人前に出るということがどう



対戦相手の顔が変形するまで殴り続ける男ボブチャンチン。髙田も『PRIDE・10』でのエンセン、『PRIDE・GP』でのアレクと同様に、ボコボコにされてしまうのか。それとも髙田に秘策はあるのか？

俺は免疫だらけだからね（笑）叩かれても出て行く！

いうことかということを教育されてますから、ある程度、どういうようなことを言われてもしょうがないだろうというのがありますよね。でもアマチュアの選手は、そういうネットの書き込みに影響される選手が多いんですよ。他者の目を意識せずに闘っていた人達は、他者の好奇な目にさらされると、それによって潰されていくというはありますよね。

高田　なるほどね。免疫がないんだ。俺なんて免疫だらけだからね（笑）。叩かれても、叩かれても出て行く！（笑）。

——アハハハ！　それでですね、免疫がついたと思われる2日後ですかね、僕ふと昨日思い出したんですけども、髙田さんから電話もらったんですよ。

高田　あっそう。

——僕も掛ける言葉も見当たらない状態の時で髙田さんから電話があって、「結果だせずに申し訳ありませんでした。色々応援してくれてありがとうございます」って言って、切ったんですよ。その時、俺はメチャクチャ感動しましたよ。

高田　あっそう。感動した？

——感動したというかね、そういった人生に対して向き合える人って凄いなって思うんですよ。あれだけ大勢の人が注目している中で、ああいった鮮烈なる負け方をして、しかも関係者にも電話をしたりとか、そういったことができるというのは凄いなと思いますよね。上手くは言えないですけどね。そういうのって新日本で叩きこまれたモノなんですか、それとも髙田さんが元々持っているモノですか？

高田　まぁ、持っていたんでしょうね。

——髙田さんの場合は理想のプロレスラー像みたいのがあって、常にそれを追いかけてきたということはありますよね。

高田　それもここ何年かはないですよ。なんかいつのまにか消えちゃったっていうか、ずっと頭の辺りにあったんですけどね。ある日、突然理想のプロレスラー像というのが消えてしまってね。

——桜庭さんと以前話た時に「『PRIDE』って昔僕らが子供の頃に見ていたプロレスのイメージですよね」って言うんですよ。髙田さんの今やってることもこの理想のプロレスラー像を何とかリングの上で形に表したいという作業にも見えなくもないですよね。

高田　そう？（ニコ）

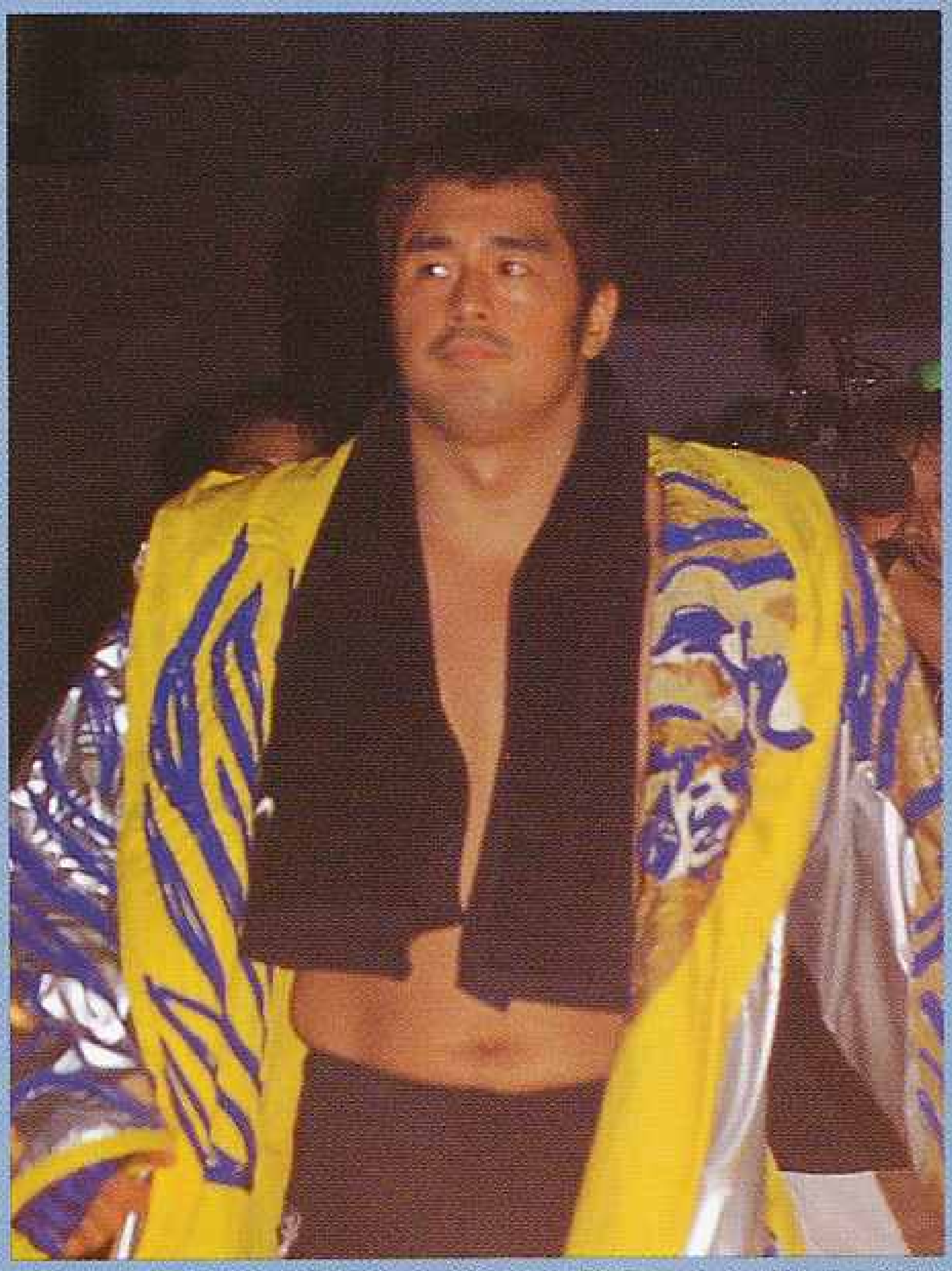
——では、最後にボブチャンチン戦について抱負を語ってもらいましょう！

高田　え〜、自分の持ってるモノが出せるような闘いを目指してます。その試合に向けての僕のテーマはそれだけですね。その結果として、勝ちが転がりこんでくれば儲けものです。そのつもりで向かって行きたいと思ってます。皆さんも大いに期待して応援して下さい。よろしくお願いします。

——大いに期待しましょう！　今日はありがとうございました！

〈大拍手〉

【00年9月30日　池袋・コミュニティカレッジにて収録】



試合内容と同時に大注目なのが髙田の入場シーン。はたして髙田はどんなコスチュームでどんな表情で北の最終兵器が待つリングに向かうのか？　新テーマ曲がかかる可能性もあるとか。

髙田、元気！

今回はページ数の都合上、泣く泣くカットしてしまったが、この他にも10年前に髙田がテレビ番組で「人生相談」をやっていた映像や、「いいとも」出演時のビデオを流したりと、大いに盛り上がった今回の「青空プロレス道場」。

髙田もボブチャンチンという、誰もが恐れる〝顔面ハカイダー〟との対戦を控えながら、ナーバスになることなく、実に自然体で話してくれた。

これまでの『PRIDE』での髙田は、気負いすぎたのか髙田本来の力が、すべて出た試合というモノは皆無に近い。

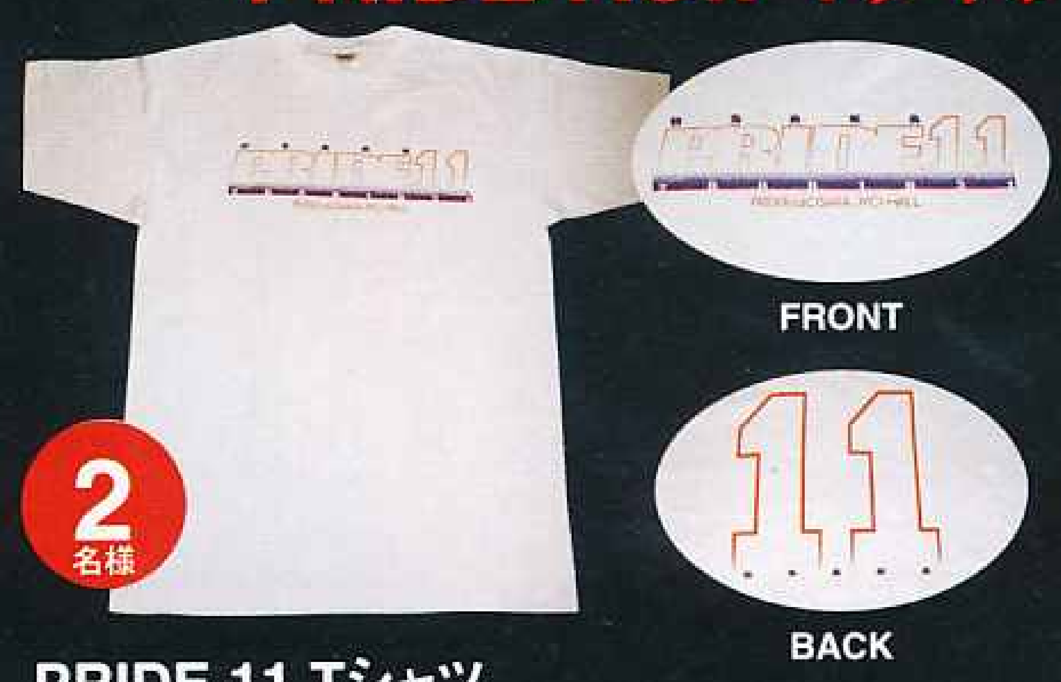
しかし、いまの髙田のある種、肩の力の抜けた、自然体の姿をリングに持ち込めたなら、今度こそ「100%の髙田」が見れるような気がしてならないのだ。

髙田が「最後のVT」の覚悟で挑むとも噂される今回のボブチャンチン戦。もしそうであるならば、ある意味『PRIDE・11』は、「100%の髙田」を見ることのできる、最後のチャンスかも知れないのだ。

ならば、やはり今回も応援せずにはいられない。

10・31大阪城ホール、心地よく魂を揺さぶられに行くとしよう。

PRIDE New Tシャツを一足早くプレゼント!!



PRIDE.11 Tシャツ

¥3.500／ホワイト　サイズ　S／M／L／XL
背番号「11」をあしらった『PRIDE.11』Tシャツ。今回はこのLサイズをプレゼント。応募方法はP160参照。



ボブチャンチンNew Tシャツ

¥3.800／レッド　サイズS／M／L／XL
『PRIDE.11』から新発売のボブチャンチンNEW、Tキャツ。髙田ファンでも思わずほしくなる一品だ。



桜庭和志が詩人デビュー!?

格闘 Do Judge 2000

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

構成／坂井ノブ
text by Sumo Nobu

撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Morry

『PRIDE.11』で馬鹿になれ!!



深刻化するサクの面倒くさい症候群!! その根っこをほじくりかえしてみました!!

『PRIDE.11』で猪木プロデュースにより、シャノン・"ザ・キャノン"・リッチとの対戦が決定したサク。前回あたりから、試合前に「やる気が起きない」との発言が目立ち始めたが……今回もやっぱり「やる気が起きない」らしい。というわけで、今回は同じく人類史上、最も「やる気が起きない」編集長こと山口日昇がサクの「やる気が起きない」原因を探ります。（絶賛失踪中）

—そういえば、昨日の（新日）ドーム大会にストロング・マシーンが出てきたの知ってます？

桜庭 えっ、知らないです。昨日の中継は見てないんで。

—ストロング・マシーンの黒いマスクを被った男が出てきたんですよ。Mr.Tっていうんですけど（笑）。そんで昔のストロングマシーンのテーマ曲が流れて。

桜庭 どんなやつですか？

—♪テレレレレッレレレ～っていうやつ。覚えてないですか？

桜庭 覚えてないなあ。

—今のファンにウケると思ったんでしょうけど、そこでシーンとしちゃってるんですよ、誰もそのテーマ曲知らないから（笑）。

桜庭 ああ、僕もわかんないです。あの昔のマシンは、マスクとか人数増えていくのがあまりに強烈すぎて、耳の方には残ってないんですよ。

—耳の方には記憶が残ってない（笑）。目には残ってたと。でも正体は後藤達俊だったんですけどね。平田淳嗣が出てきて。そして試合終わった後に

サク&山口（同時に）「お前後藤だろ！」

桜庭 ガハハハ！ あっちゃ～。今、そのオチ読めました（笑）。

—たぶんドームにいた6万人ぐらい読んでると思いますよ（笑）。でも、10月9日といえば、5年前に新日vsUインターが対抗戦やった日ですよ。そして5年後に新日vs全日の対抗戦があったわけですけど。これは興味ありました？

桜庭 あれっ、そうでしたっけ？

—ガハハハ！ 橋本選手復帰とか、そのへんのニュースとか知ってます？

桜庭 さっき、ちゃんこ部屋で『東スポ』を見て知りました。でも、お客さんは大勢入ってたんですよね？

—入ってましたよね、64800人。でもファンは初心者ばっかりですね。

桜庭 ああ、そうですか。昔から知ってる人は？

—もうほとんどいないんじゃないですかね。今そういう人は、むしろ『PRIDE』とか『リングス』見てますからね、実際。

桜庭 そういえば昨日はK—1もありましたよね？

—あ、K—1もありましたね。K—1もリングスもありましたね。ボクはドームで第1試合の藤波vs橋本戦だけ見てリングスに行きましたけどね（笑）。

桜庭 ガハハハ！ それはなんでですか？

—リングスが4時開始だったんですよ。そして新日が3時開始だったんで、第1試合だけ見てリングスの方に行きました。グッときましたね、橋本選手の復帰戦は。折

り鶴兄弟も出てきて。

桜庭　ああ、あの子供ですよね？

――そうそう。千羽鶴も画面に映って

桜庭　……。

――ガハハハ！　コメントしにくそうですね（笑）。あ、そういえば最近、豊永選手はボクの顔を見るなり、「もう平気っスから！試合できますから！」って言いながら寄って来るんですけど、体調とか大丈夫なんですか？

桜庭　ブクブク太ってますよ（笑）。

――ガハハハ！　それ体調じゃなくて、体型ですよ（笑）。

桜庭　じつはをこないだ「詩」をプレゼントしたんですよ。

――ほう、猪木さんみたいですね（笑）。

桜庭　「肉」っていうタイトルなんです。

――ひょっとして、「その一口が肉となり？」って感じですか（笑）。

桜庭　そうそうそう（笑）。

――ガハハハ！　そういうポエムを贈るぐらい元気ってことですか？

桜庭　そうですね。最近、あいつ霜降ってますから（笑）。

――ガハハハ！　霜降り肉になってますか（笑）。

桜庭　あっ！　来た！

（ここで怪訝そうな顔つきで豊永選手登場）

豊永　いま、ボクのこと話してませんでしたか？

――ちょうど今、話してたんですよ。もう話題沸騰（笑）。

豊永　なんで笑ってるんですか？

桜庭　食ったら、松坂牛より美味しいって話をしてたんだよ。

豊永　（口を尖らせて）えっ！　そんなのウソですよ！

――最近、霜降り肉になってるって話を聞いてたんです。

豊永　これでも絞ったんですよ。

桜庭　きっと、それが良かったんですよ。

――ああ、そうか、絞ったから余計に美味しくなって（笑）。

桜庭　そこで1回肉が締まってるんですよ（笑）。

――しかし、高田道場のみなさんは元気ですね！　こないだの『PRIDE．10』大会終了後に、帰りの駐車場で松井選手に会ったんですよ。顔面ボコボコだったじゃないですか？「大丈夫ですか？」って言ったら「大丈夫ッスよ。走って帰りますよ！」って言ってましたからね（笑）。

桜庭　あの腫れはすぐひきましたけどね。すごい回復力ですよ。

――ゲッ！　すごいなあ（笑）。

桜庭　何日か経ってあったら、もう普通の顔に戻ってました（笑）。

――ホント、高田道場は元気の塊ですよね。最近は道場に他の格闘家が出稽古に来たりしてるんですか？



日本人選手が集まる「ヘソ」のような場所となった高田道場。本人が好むと好まざると、サクの周辺には一流の格闘家たちが集まってきて、超一流の格闘環境が出来つつある。

桜庭　佐竹さんとか、ジャイアント落合さんとか来てますけど。

――スパーリングとかもやるんですか？

桜庭　はい、時々。でも、落合さんとスパーリングすると凄いんですよ。

――えっ、何が凄いんですか？

桜庭　なんか体とかマット中に縮れ毛がいっぱい付いてて「うおーっ！　これは誰の毛だ！」って思って、よくよく見ると髪の毛なんですけどね（笑）。

――ガハハハ！

桜庭　あれはびっくりしますよ（笑）。

――これは誰かの陰毛（陰謀）だって（笑）。

じつはボク、こないだ稔に「詩」をプレゼントしたんですよ

桜庭　そうそう（笑）。

――ま、そんなダジャレはさておいてですね、その佐竹選手が小川直也選手と対戦することになりましたけど。佐竹選手は、どんな調子ですかね？

桜庭　調子は良いんじゃないですかね。ボクはケガしてて、一緒に練習やってないんです。

――でも、だいぶ寝技上達したって話を聞いたんですけど。

桜庭　そうですね。体重のかけ方が上手くなってきましたね、今までより。

――じゃあ、佐竹選手はいま34歳ですけど、あまり年齢は感じないですか？

桜庭　はい。

――桜庭さん的には小川vs佐竹戦はどうなると思います？

桜庭　やっぱり佐竹さんに頑張って欲しいです。同じ練習してる仲間として。

――今『PRIDE』に上がってる日本人選手、たとえば佐竹選手とかジャイ落選手とかいろいろ練習してますけど、もう仲間って感覚ですか？

桜庭　そうですね。ご飯も一緒に食べますし（ニコニコ）。

――藤田選手とかも？

桜庭　はい。

――なるほど。そうすると、今『PRIDE』って、桜庭さんの中では1つの団体って感じですか？

桜庭　いや、団体でもないんじゃないですか（アッサリ）。いろんなところから、別の人が出て来たりとかするし。

――桜庭さんは、ぶっちゃけた話もう団体とかは嫌なんでしょ？

桜庭　……。

――まあ、面倒くさそうですからね（笑）。今度、日本人選手が集まって、仲間内でズーッと練習するようになってくると、日本人対決って出来なくなってくるじゃないですか？

桜庭　でも、「やる」って言ってる人はやるんじゃないですか。ボクはやりたくないって言ってるだけで。藤田とか「別に構わない」って言ってますよ。

――言ってますね。

桜庭　やる人はやるんじゃないですか。ボクはやらないですけど（笑）。

――そういえば、石沢選手は『PRIDE．10』の後、連絡取りました？

桜庭　いや、取ってないです。ボク連絡先わかんないんで（寂しそうに携帯を見つめ

ながら）。
――ガハハハ！　連絡先わかんないって言いながら携帯見てるよ（笑）。
桜庭　いや、番号は入ってないです。
――ああ、そうですか。石沢選手はちょっと残念でしたね。ああいう形で終わっちゃたのは。
桜庭　そうですね。まあ、勝つときもあれば負けるときもあるんで次、頑張って欲しいですね。しょうがないって言えばしょうがないことですし。
――是非、もう一度出てきて欲しいですよね。じゃあ、もし桜庭和志がプロモーターだったら、いま『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がってきたら面白そうな選手っていますか？
桜庭　出たいという人だけ出ればいいです（アッサリと）。
――ガハハハ！　愚問でしたね（笑）。それはプロレスラーでも格闘家でも何でもいいの？
桜庭　はい。出たいという人が出ればいいんじゃないですか？
――じゃあ、ぶっちゃけた話、小川選手に対しては、どういう印象持ってるんですか？　例えば『ＰＲＩＤＥ』に出る出ないで悶着があったりとか、いろいろお騒がせ男じゃないですか。
桜庭　どうですかね（ボソっと）。
――どうですかね（笑）。コメントしにくそうだな（笑）。高田さんにつっかけたり、ひと悶着ありましたけど。

格闘 Do Judge 2000

桜庭　とりあえず今のところはボクには、なんにもないし。でも、出るんだったら出る、出たくないんだったら出なければいいし。それは本人の自由なんで。



――いま、小川選手がヒクソン戦決定か？とか噂されてますけど、これもし決まっちゃたら桜庭さん的には悔しいですよね。
桜庭　いや、別に悔しくないですよ（笑）。
――本当？　まったく悔しくない？
桜庭　やりたい人がやればいいんで。
――まあ、ヒクソンも40歳を越えちゃいましたからね。
桜庭　逆にボクが40ぐらいの時に、その30前後のそういう人とやりたいと思わないかもしれないですし。いつも毎回言うことは一緒なんですよ。機会があったらやってみたい、なければやらなくていい。
――もし小川 vs ヒクソン戦が決まったら「くそ、もうちょっとモーションかけとけば良かったな！」って気持ちが出てこないとは限らないじゃないですか？
桜庭　いや、多分出てこないと思いますよ。ドラクエも手に入ったし（笑）。
――ガハハハ！　なんでドラクエが出てくる（笑）!?
桜庭　今、ファイナルファンタジーやってるんですけど、まだＤＩＳＣ―２なんですよ。
――あれは長くかかりそうですもんね。
桜庭　でも、もうボクの頭の中はドラクエに行っちゃてるんですよね（笑）。
――ガハハハ！　ヒクソンよりもドラクエ（笑）。
桜庭　だから進まないんですよ、ファイナルファンタジーが（笑）。でも先に終わらせないと、なんか損した気分になるんで（ニコニコ）。
――じゃあ、もうつまり今の言葉尻を捉えちゃうと、桜庭さんの vs グレイシーは、もう終わってるってことですか？
桜庭　いや、そういう意味ではなくて。ヘンゾとかホイスとかは、別にもう一回やっ

桜庭和志

てみたいと思います。ヒクソンはヒクソンで「条件次第だ」とか言ってるんですよね？　だから、そういう条件さえ揃えば、ボクもヒクソンとはやりたいと思います。

——なるほどね。

桜庭　「絶対やらせろ！」ってことはないので。他にもやってない人いっぱいいますからね。

——ヒクソンに関してはあっちこっちでいろんなインタビュー記事を読んでるからわかりますよね、実際にインタビューしなくても（笑）。ボクも同じことを聞くのは嫌なんですけど、一応ね、聞かないと（笑）。

桜庭　一般誌でも多いんですよね。ヒクソンのことを聞く人が。

——そうですか。まあ、そうもっていった方が、記事にしやすいですからね。

桜庭　表現の仕方は違っても、意味はもうみんな一緒ですよ。もういいんじゃないですかね。

——あと、『PRIDE．11』で候補に挙がってたハイアン戦を「もう少し延ばしておきましょうよ」って言ったそうですね。

桜庭　はい（ニコニコ）。

——その真意はどこにあるんですか？

桜庭　いや、だから……あんまり、対グレイシーが続いちゃうと面白くないですよ。見てる人も、飽きると思うんですよ。グレイシーが終わちゃったら全部終わっちゃいますからね。だったらもうちょっと長引かせればいいんじゃないですか（笑）。

——ガハハハ！　なるほどね。「あんな危険な奴とはやりたくない」とかコメントしてましたけど、そういうことじゃないんですね。

桜庭　いやあ、一応そういうことでもいいですよ（笑）。

——どっちなんだ（笑）！

桜庭　とりあえず今はやりたくない（笑）。そういうことでもいいから。

——あと、またヒクソンの話題で申し訳ないんですけど。これだけ聞きたかったんですよ。船木vsヒクソン戦を見て、高田さんが「日本人としては、船木に頑張って欲しかったけど、高田延彦個人としては船木が負けてホッとした部分もある」って言ってたんですよ。「やっぱりヒクソンにはサクが勝って欲しいって気持ちがあったから」って言ってたんですけど。その言葉に対してはどう思います？



桜庭　同じ道場の先輩に言われるのは嬉しいことですけれども。ただ……1億5000か2億ぐらいボクにもくれれば、やるかもしれないですね（笑）。

——だけど、誰かがヒクソンに勝ったら、絶対悔しいと思うけどなぁ。

桜庭　でも、「やりたい」とボクからは言わないですよ。自分で言うとまた問題あると思うんで。性格上、そういうことが好きじゃない（ニコニコ）。

——ガハハハ！　面倒くさいことは嫌い（笑）。

桜庭　そういう話になったら、逃げますね（笑）。

——ガハハハ！　逃げる（笑）。例えば話題作るとしても、新聞とか勝手に書くじゃないですか。書かせるままにしとけば、勝手に話題を繋げてくれますから（笑）。

桜庭　でも、どこの新聞だったか忘れましたけど、言ってもいないのに「ヒクソン出て来い！」なんて書くんですよ（口を尖らせながら）。そんなこと一言も言ってないのに。ボクもそういうのがあるから、最近嫌になってきたんですよ。ホントに逃げますもん（笑）。

どこの新聞が言ってもいないのに「ヒクソン出て来い！」なんて書くんですよ

——ガハハハ！

桜庭　「●●の記者が来てます」って言われたら、裏口から速攻で逃げて、そこまで自転車持ってきてもらいますもん（笑）。シレーッと前通って。「嫌なものには近づくな」って感じですね。

——リング上での桜庭さんじゃないですけど、相手の動きにあわせて転がっていかないとダメですよね（笑）。ところで、『PRIDE．11』で高田さんがボブチャンチンと闘うじゃないですか？　桜庭さんは、どういった展開になると思いますか。

桜庭　いやあ、どういった展開になるのかはボクにはわからないですね。

——いやあ、でも勝って欲しいというか。

桜庭　一緒に練習してるから頑張ってほしいです。

——まあ、そりゃそうですよね（笑）。

桜庭　でも、高田さんは今、佐竹さんとすごい練習をしてるので、いけるんじゃないですか？

——桜庭さんはボブチャンチンと一回対戦してるから、高田さんに対策とか聞かれませんか？

桜庭　聞かれました、「タックルどうやって取ったの？」って。ボクがタックル取ったやり方を今、高田さんは練習してますから。しかも、練習のパートナーが佐竹さんですからね。

——仮想・ボブチャンチンですね。桜庭さんから見て、ボブチャンチンの一番の怖さって何ですか？

桜庭　あのパンチですね。でも、無敵ではないですよ。いろんな、強い部分もありますけど、自分でやって弱い部分も発見できたので。

——えっ、どんなところですか？

桜庭　ボブチャンチンは、ケアーのタックルとか切ってるじゃないですか？　でも、ボクのタックルは切れなかったですからね。「ああ、なんだこの人はもしかしたら、こういうタックルに弱いのかな」と思いました。

——それって片足タックル？

桜庭　ええ。ケアーとかは、真正面から力で取るタックルですから。

——ガブリがうまいですもんね、ボブチャンチンは。で、話を戻しますけど、桜庭さんって普通の人が試合前に「勝ちたい」っていうのを、逆に「やってみないとわからない」っていつも言ってますよね。でも、裏

を返せばやっぱり絶対に負けたくないっていう気持ちを人一倍持ってんじゃないかなと思うんですよ（笑）。

桜庭 それはそうですよ（あっさりと）。逃げのために、負けたときのために言ってるんですよ、それは。負けるときもあるし勝つときもあるし。負けたときのために言ってるだけで。

――毎試合毎試合見るたんびに、「ホンット、この人は負けず嫌いだな」って思いますもんね（笑）。

桜庭 やられたら、一応、絶対やりかえしますから（笑）。

――こんなシレーッとした顔して日本で一番負けず嫌いなんじゃないかなと思って（笑）。割と普段から怒ってる人とかガーッて言ってる選手の方が、ちょっとやられるとシュンとしちゃうことってあるじゃないですか？

桜庭 そうッスね。そういう人は堪忍袋がちっちゃいからパンパンパンパン爆発するんですよ。ボクの堪忍袋は膨れ上がるんで、バーン！、バーン！って大爆発するという（笑）。

――だからそのヘンゾ戦の前の「やる気がない、やる気がない」っていう発言にしてもなんか騙されてるような気がするんですよ、ボクは（笑）。

桜庭 あれ本当ですよ（キッパリ）。言葉で「やる気がしない」っていうよりも、やる気がしないっていうか。

――どういう状態ですか（笑）。

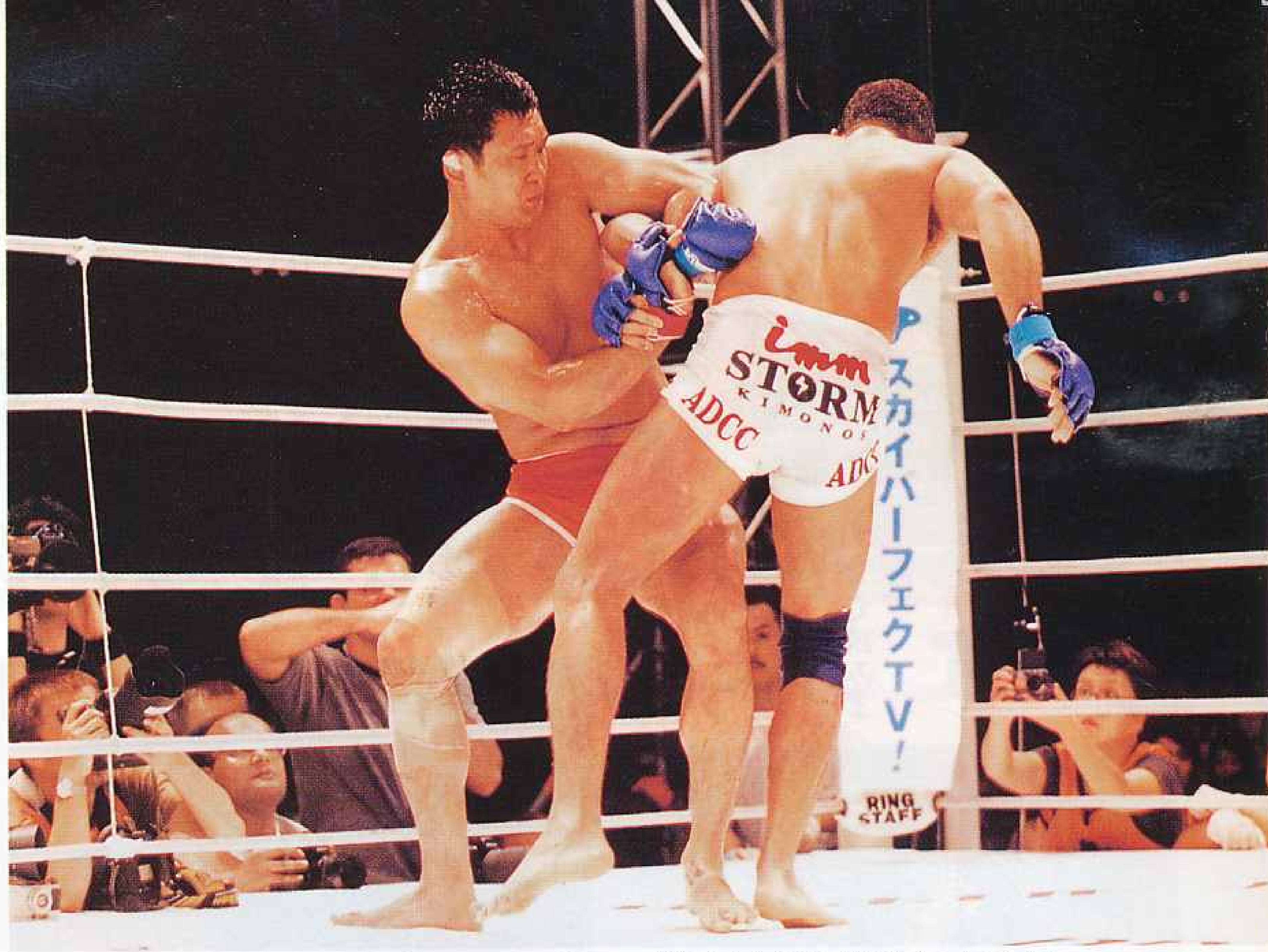
桜庭 やる気はあるんだけども体が動かない。それで、「やる気が起こらない」って言ってたんです。体が動かないっていうか、なんか体がノッていかないっていうか。

――まあ、いざとなったらノッちゃう人ですからね（笑）。

桜庭 まあ、ヘンゾ戦はね、最後ああいうふうに極まったから良かったんですけど。

――極まったから良かったっていうか、極めちゃうところがスゴイですよ、やっぱり（笑）。気がのらないと、そのまんま気がのらないまま終わっちゃう方が多いですからね。

桜庭 20分分のスタミナをラスト1分で使っただけですよ。



20分分のスタミナを1分間で使いきった『PRIDE．10』のヘンゾ戦のような大爆発を期待したいところだが……。

――ガハハハ！ 凝縮スタミナ（笑）。旅行に持ってく、携帯用のソースじゃないんですから（笑）。というわけで、そろそろ次回の『PRIDE．11』の話題に移りたいんですけれども、今度はアメリカ人の選手らしいですね？（このインタビューは対戦相手決定前に行われた）

桜庭 ドン・フライの推薦みたいですね。いや、その人とやっても負ける時は負けますよ。

――え～っ、またそういうこと言っちゃって（笑）。

桜庭 いや、ホントに。だって、ちゃんと練習を始めたの今日ですよ（ニコニコ）。ケガしてたんで。

――えっ、どこをケガしたんですか？

桜庭 ここ（と指さす）。

――ワキの下あたり？

桜庭 ワキの下っていうか……ワキのワキですね（笑）。

――ガハハハ！ ワキのワキ（笑）。

桜庭 筋が伸びたっていうか、肉離れなのか？ よくわかんないですけど。

――そんなこと試合前に言っちゃって大丈夫なんですか？

桜庭 大丈夫ですよ。

――もう治ったから？

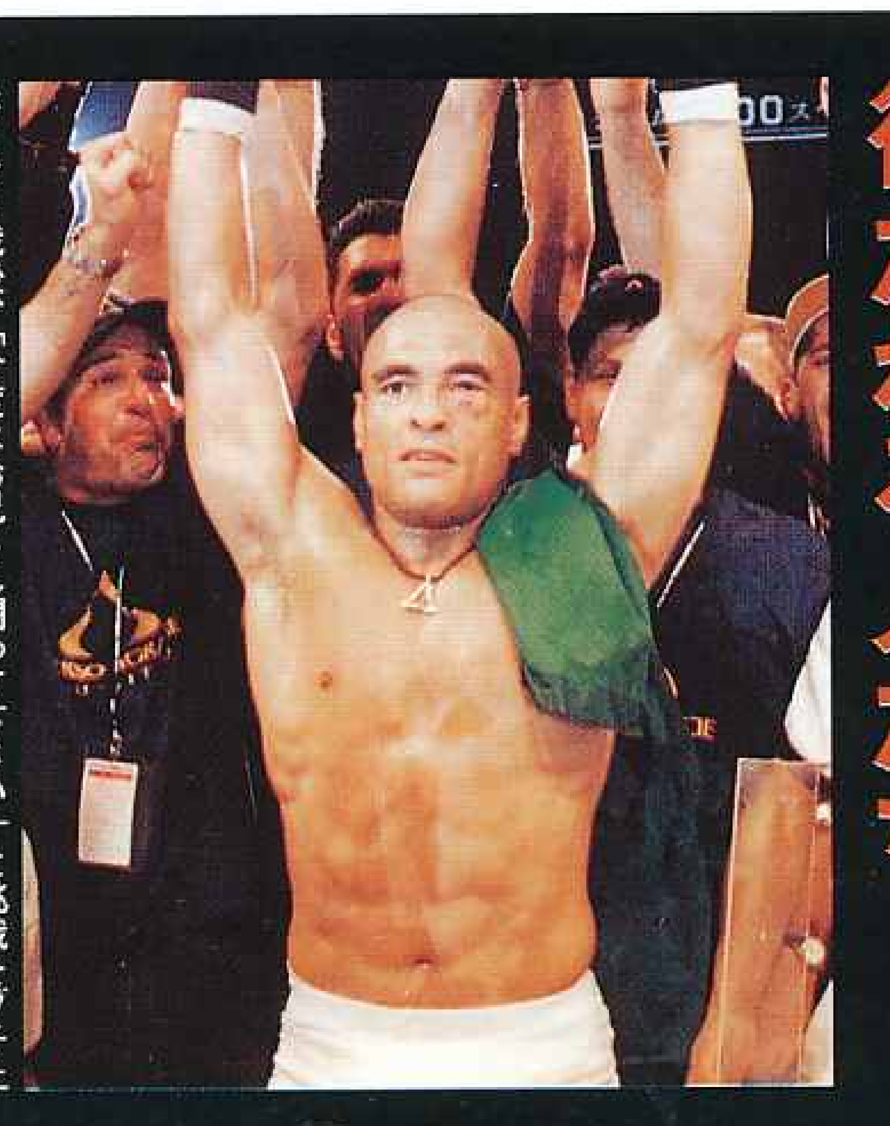
桜庭 いや、完全に治ったわけじゃないですけど。今日は何日でしたっけ？ 10月10日でしたっけ？ 試合まで20日もあれば完全に治りますよ。

――いや～、頼もしい（笑）。でも、1ヶ月ぐらい前って、だいたいどこかケガしてません（笑）？

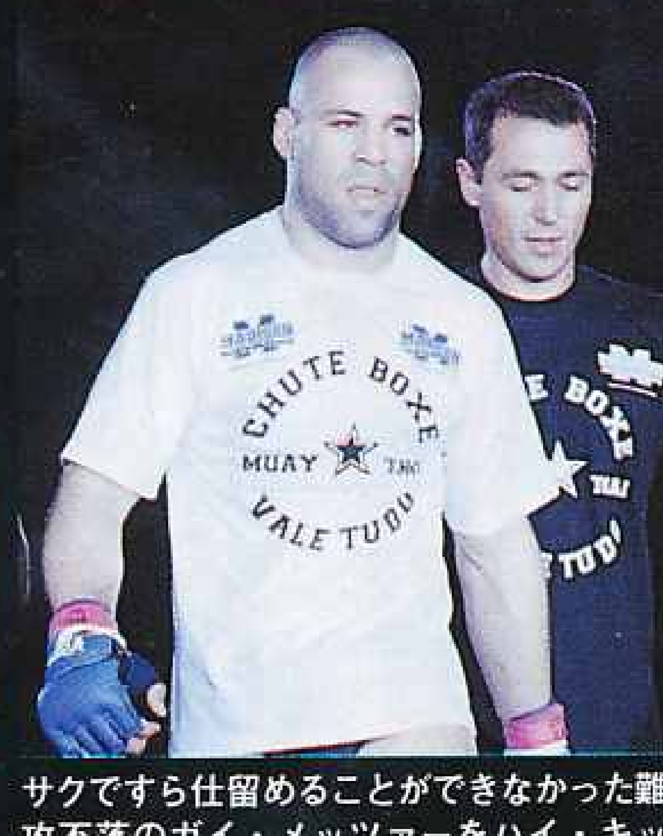
桜庭 みんな、ここで練習してるのは大きい人ばっかりですからねえ。

――わかった！ 桜庭さんは仕事やりたくないんだよね（笑）。仕事モードに入るのが

サクとの対戦が待たれる人たち


ホイラー戦後、「今度はお兄さん闘って下さい」と挑戦をブチ上げて1年。一族を着実に葬りグレイシー・ハンターの名をほしいままにするも一族最強の男を倒さなければ真の意味のグレイシー狩りは完了しない。


『PRIDE．10』で石沢常光から壮絶なKO勝ちを納めたハイアン。兄ヘンゾの敗戦直後に対戦要求を掲げ、サクの「デビュー2戦目の選手とはやりたくない」との発言で白紙に。



サクですら仕留めることができなかった難攻不落のガイ・メッツァーをハイ・キックで一発でKO！『PRIDE．11』で難敵アイブル戦に勝つようなことがあれば、サクへの挑戦も可能か？


『PRIDE．5』でサクに判定負けを喫するビクトー。しかし最近のビクトーは、確実に実績を積み上げリベンジのチャンスを虎視眈々と狙っているが、サクは頑に同じ相手との対戦を拒否している。

桜庭和志

嫌なんだよね、きっと。ボクもそうですから（笑）。

桜庭　それはあるかもしんないですね（笑）。

――ガハハハ！　あんまり前から仕事モードに入るのが嫌だから、あそこが痛い、ここが痛いって（笑）。ボクも全然職業は違うけど、原稿書くときは同じようにやらないですから（笑）。ところで今度の選手のビデオとか、もう見たんですか？

桜庭　まだ、見てないです（笑）。今から見ても早過ぎるんじゃないですか？

――ガハハハハ！　まあ、前々から準備する人じゃないですもんね（笑）。

桜庭　前から言ってることですけれども、大事なのは自分の得意な分野に引きずりこむなんじゃないかなと思いますね。逆に向こうの得意な分野とか得意なポジションとかにハマっちゃえば、ボクが負けちゃうし。

――そういうタイプなんでしょうね、桜庭さんはね（笑）。

桜庭　基本的にはそうですね。でも、最近はなんか段々いろんなことが面倒くさくなってきて。

――ガハハハ！　前からじゃないですか、面倒くさがってるのは（笑）。

桜庭　いや、前以上に面倒くさいんです（笑）。

――とりあえず、誰かとやりたいって、言っとけばいいんですよ。ぶっちゃけた話（笑）。

桜庭　誰かとですか？　とりあえずやったことない人がいいです（笑）。

――それもどっかのインタビューで読みましたよ（笑）。

桜庭　次回もやったことない人だから楽しみですよ（ニコニコ）。

――桜庭さんって、仕事モードに入るまではすごい時間が掛かるんですけど、いざ仕事に入っちゃうと楽しむ人じゃないですか。

桜庭　まあ、そうですね。朝起きて、ここ（高田道場）に来るのもカッタルいですからね。

――ガハハハ！

桜庭　来る途中はカッタルいですけど、もちろん来ればしっかりやりますよ。

――相手が誰であれ、試合する以上は楽しむってタイプですもんね。でも、『PRIDE．7』のアンソニー・マシアス戦みたいにインターバルの途中で「サクいいかげんにしろよ、お前！」っていう声が飛ぶ試合になる可能性もあるわけでしょ（笑）？

桜庭　それはやってみないとわかんないですよ。パンチ1発でやられちゃうかもしれないし。

――対戦相手のシャノン・〝ザ・キャノン〟・リッチはスーパーブロウルとかＩＶＣという海外のバーリ・トゥードに出てた選手ですよね。

桜庭　今度はボクが恥ずかし固めをやられるかもしれないし（笑）。

――……。

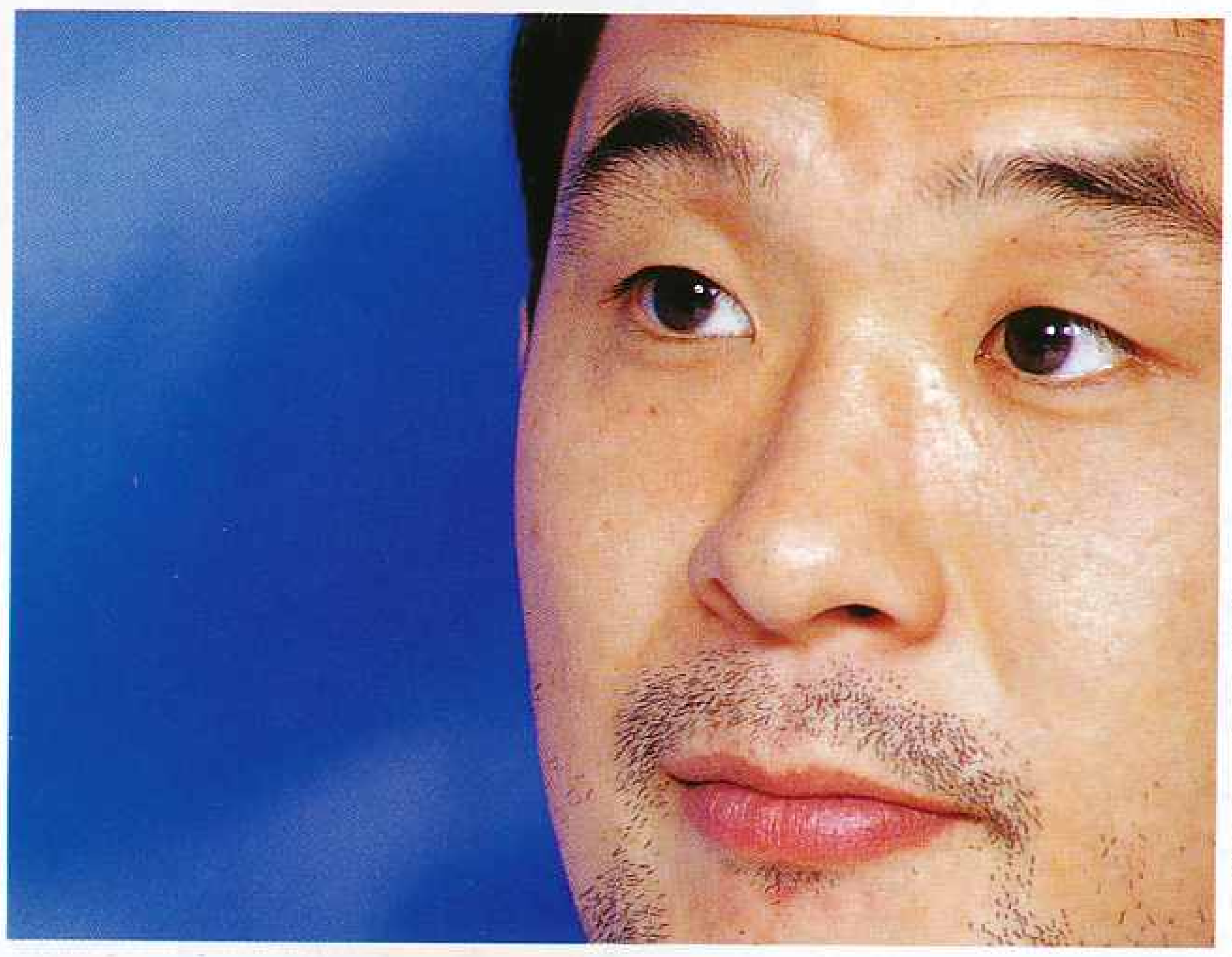
桜庭　……つまんなかったですか？

――ガハハハ！　なんか、その言葉の裏には自信が隠されてるような気がしてならないんだけどなぁ。たしかに、去年の『PRIDE．8』から、ハードな対戦相手が続いてますからね、「ここらでちょっと楽させてくれよ」っていう気持ちはあったんじゃないですか？

桜庭　半年ぐらい休みたいって気持ちは、まだありますけど（笑）。

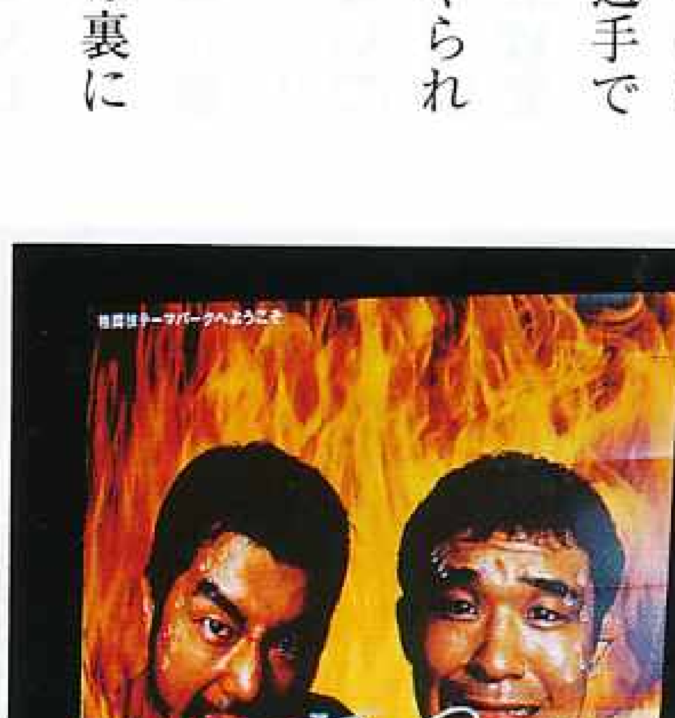
――それって、ヘンゾ戦が終わってから？　ホイス戦終わってから？

桜庭　ホイス戦の後ですね。休みボケ状態になってるときから、「半年か1年休みてえなあ」って思ってるんですよ。ホイス戦って90分でしょ？　それで「もう1年分ぐら



さくらば・かずし■昭和44年7月14日、秋田県南秋田郡出身。O型。平成5年8月13日、UWFインター日本武道館大会、vsスティーブ・ネルソン戦でデビュー。その後、キングダムを経て高田道場へ。97年12月の第1回ＵＦＣ―Ｊでグレイシー柔術黒帯のマーカス・”コナン“・シウヴェイラを破り、注目を浴びる。『ＰＲＩＤＥ』シリーズは、ほぼ毎回参戦している。今年5月の『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』ではホイス・グレイシーを戦闘不能に追い込み完勝、マット界の顔となる。趣味はゲーム、酒。先日もＣＭに出演している酎ハイを飲み過ぎて遅刻するなど相変わらずの呑気ぶり。180センチ、88キロ。

30歳を過ぎると疲れちゃうけど、視野が広くなってきて、いいとは思います



高田＆サク サイン入りポスタープレゼント

高田総裁とサクがドカーンと登場するかっこいいサクのポスターを２名さまにプレゼント！　応募方法はＰ１６０参照。

いやっちゃったんじゃないかなぁ」って思ってしまって。

――やっぱり、30歳過ぎると精神的にキックなってきます？

桜庭　だんだんキツくなってきますね。

――桜庭さん見てると、全然そういう感じは見受けないですけどね。

桜庭　実際、全然違いますよ。何年か前の練習と、今の練習も違いますね。以前は昼寝すると疲れも取れたんですけど、今は全然もうガンガンいく気もしないし（笑）。

――ガハハハ！　ずっと寝ていたい。

桜庭　でも、練習しなきゃいけないんで、練習するんです。その練習中も自分から前にいくんじゃなくて、ホント適当なフェイント掛けて（関節を）取るって感じね。

――それがインサイドワークですね。

桜庭　逆に以前よりも、視野が広くなってきてるんで、いいとは思いますよ。広く見えてると結構疲れないんで。

――桜庭さんは肉体の商売ですから、肉体にスイッチ入れるのが、なかなか難しくなってくるんでしょうね。

桜庭　ああ、そうですね。

――僕らの職業でも、歳をくうとなんか考えたり、原稿書くときって辛くなってきますから。

桜庭　ああ、そうですか。山口さんの場合は、頭を使うことがキックなってくるんですね。

――じゃあ、とにかく大阪城ホールでは期待してますんで、是非とも肉体のスイッチを入れて頑張ってください。

桜庭　（真顔で）何を期待するんですか？

――ガハハハ！　いや、面白い試合ですよ（笑）。最後にもうひとついいですか？　前回の入場を見た人が言ってたんですよ、「あれ？　普通だ」って（笑）。今回は何か仕掛けはあるんですか？

桜庭　普通が一番じゃないですか？

――それ言ったらなんでもそうですけどね（笑）。

桜庭　良くもなく悪くもなくで、普通が一番だと思いますよ。

――元気が一番！　じゃなくて、普通が一番（笑）！

桜庭　ボクもちょっと考えときます（ニコニコ）。

――是非、お願いします！

桜庭　でも、ちょっと考えて、30分ぐらいで忘れるかもしれないですけど（笑）。

――ガハハハ！　きっと忘れますね。

【00年10月30日、東京・高田道場にて収録】





（上）世界の強豪選手との対戦が続くサクの『ＰＲＩＤＥ』シリーズの中で、唯一の無名選手との対戦となった『ＰＲＩＤＥ．７』のアンソニー・マシアス戦。（下）炎のコマ、フロント・スープレックス、スライディング・キックなど創造的なファイトで、観客を魅了した裏名勝負のひとつ。シリアスな格闘技ファンからは「真面目にやれ！」という野次も飛んだが、サクの頭脳の奥深さを証明する一戦として記憶に残っているファンも多いはず。



PRIDE.11の相手は
ドン・フライの弟子
シャノン・"ザ・キャノン"・リッチ

1970年９月27日、アメリカ・アリゾナ州出身。175センチ、85キロ。初参戦。ファイターズハウス所属。ムエタイ、キックボクシング、柔道、ブラジリアン柔術など幅広い格闘技歴を誇るトータルファイター。様々な格闘技で約70戦以上の試合をこなしているだけに、バーリー・トゥードではその経験を活かした老練な試合運びに定評が有る。また、本人も得意技だと語っている、ムエタイ仕込みのキックとトリッキーな関節技は、切れ味も鋭い。今回は初来日、『ＰＲＩＤＥ』初参戦となるが、今や世界的なビッグネームとなった桜庭を破れば、一夜にしてシンデレラボーイとなるだけに、その鼻息は荒い。（『ＰＲＩＤＥ』のプレスリリースより）

■インタビュー後記■

またもや、まったく燃え上がらないサクだったが、当然試合直前までモチベーションをタメにタメて試合で大爆発させて、試合が終わったらいつものサクに戻るのだろう。とにかく、サクの真の姿はリング上でしか見ることができないのかもしれない。そう、ボクらが願うことはただひとつ。リング上で「馬鹿（みたい強くて、面白いサク）になれ！」ということである。

横浜商科大学『第33回飯山際』で桜庭和志トークショーが開催されるゾ！
【会場】横浜商科大学キャンパス内　体育館：キャパ800名【日程】平成12年11月5日（日）14：00～15：00
【問い合わせ】横浜商科大学　大学祭実行委員会TEL.045-573-8879【住所】横浜鶴見区東寺尾4-11-1【交通】ＪＲ横浜線大口駅下車（徒歩20分）



潜入現地リポート

9.16 KING OF THE CAGE

松井大二郎 またもや アメリカに散る!!

ああ勝利への道はかくも険しいのか!? 9月16日、ロサンゼルス郊外にあるサボバカジノにて、第5回King of the Cageが開催された。前回の6月大会に続き、高田道場の切り込み隊長・松井大二郎が参戦を果たしたのだが……。ロス在住の本誌通信員・山根由里さんのレポートをお伝えしよう!

撮影&文／山根由里（本誌通信員）

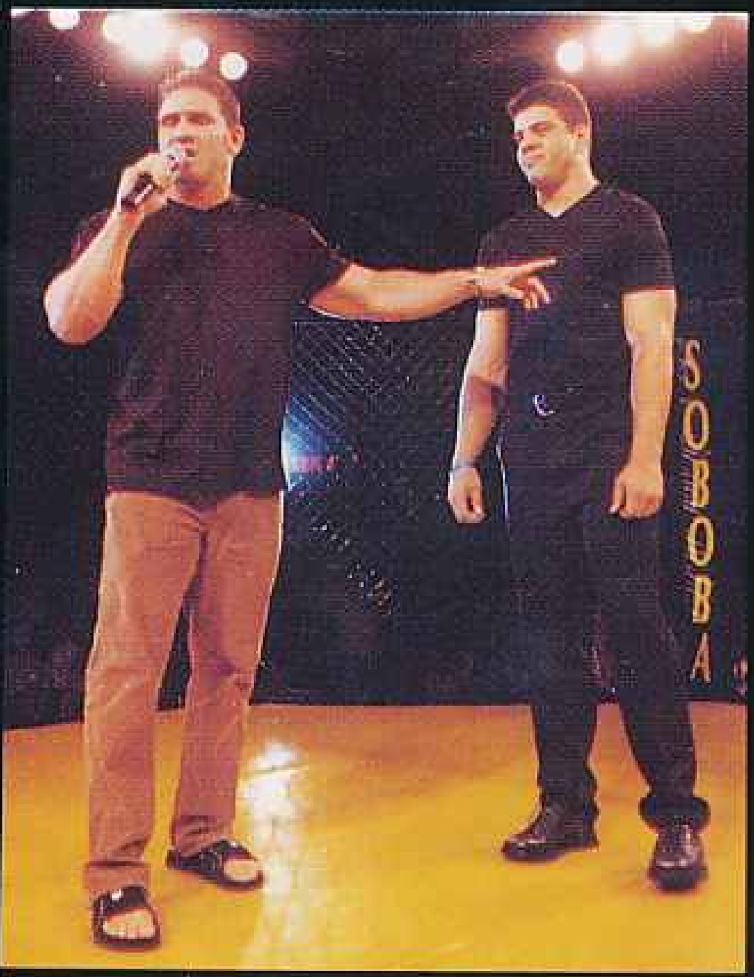
ロサンゼルスの9月前半は、残暑の真っ最中。『King of the Cage』が行われる会場は内陸部にあり、ロスよりさらに暑い。砂漠の中の屋外会場は、まさに「暑い夜には熱い戦いがよく似合う」状態。暗くなっても、ドライヤーの熱風に覆われたような暑さは治まらない。

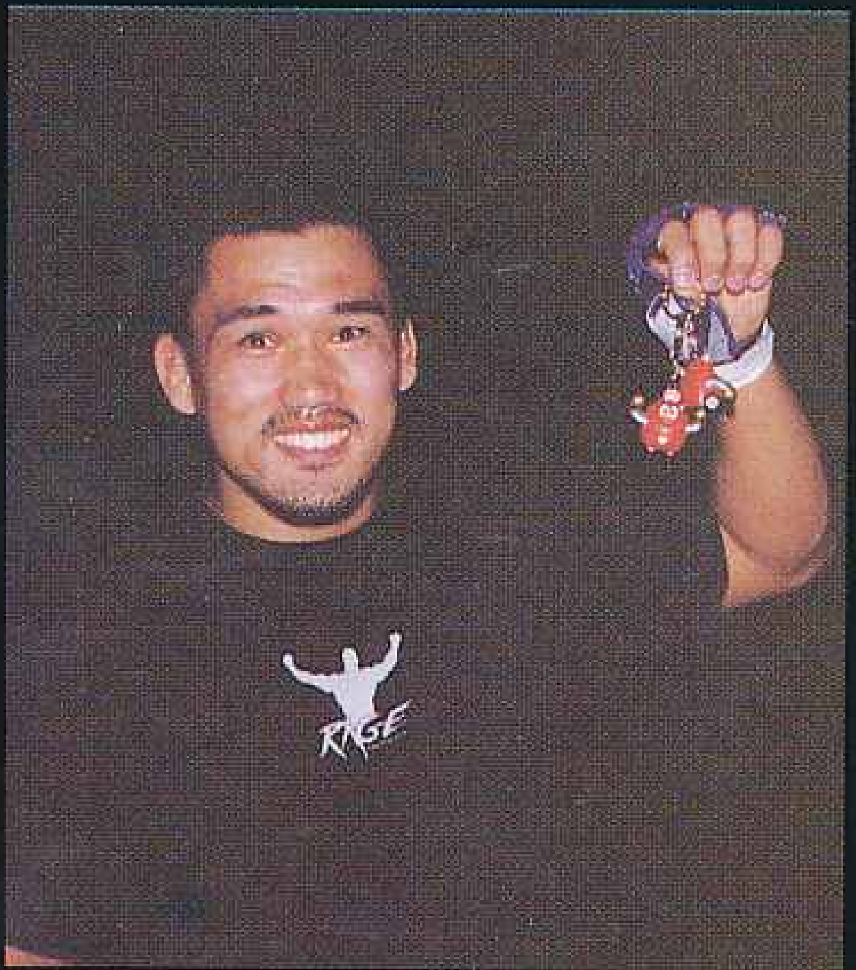
松井は今回、少し余裕を持って9月10日にロサンゼルス入りし、ジアン・マチャド（Jean-Jacques Machado）らマチャド兄弟が主宰するマチャド柔術アカデミーでトレーニングを行ってきた。当日には時差ボケもすっかり消え、「前回よりも全然、調子がいい」（松井）。マチャドの道場では、「ゲイリーっていうネイティブアメリカンのおじいさんが、『お前のことは知っている。このお守りをあげるから、がんばってくれ』って、手作りのお守りをプレゼントしてくれたんですよ。めちゃめちゃ、嬉しくて!」（松井）といった感動的な出来事もあった。

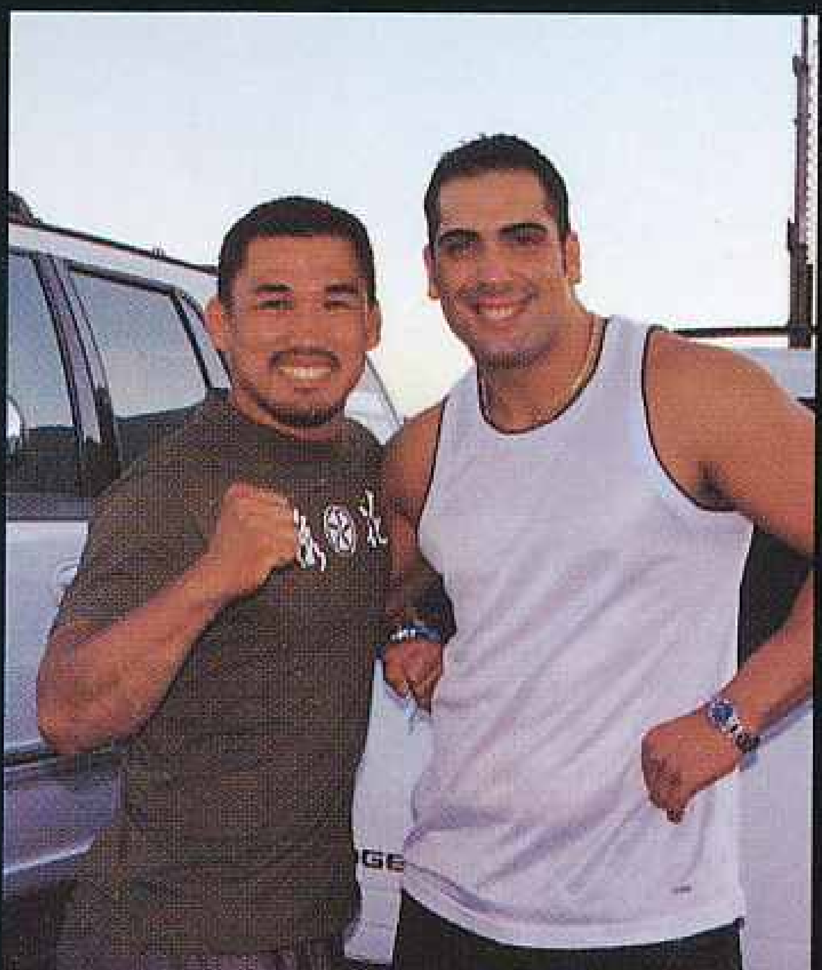
前半は、6試合が連続で行われた。大型のバンの中で休んだり、会場外のアスファルトに座り、進行中の試合が映し出されたスクリーンを見つめながら、自分の出番を待つ松井。「ＰＲＩＤＥのように先に出るほうがずっと楽ですね。いつ自分の順番が来るか、わからないし……」（松井）。試合形式に関しては、ＰＲＩＤＥの10分2Ｒは試合の流れを考えないといけないため、「思い切ってガーっといける『King of the Cage』の5分2Ｒのほうがいい」と語ってくれたのだが、後にメインの3試合のみ、5分3Ｒで行われることが判明した。

一方、松井の対戦相手、アミール（Amir Rahnavardi）は、他の試合には目もくれず、パートナーを相手に打撃の実戦練習に余念がない。

メインイベント前の休憩の終わりには、マーク・ケアーがリングに上がり、挨拶した。続いてメキシカン音楽が流れる中、10分近くもの間、華やかな花火が打ち上げられた。余談だが、アメリカで花火を見られる機会は少ない。多くの州では、一般人が花火を行うことは独立記念日を除いて禁止されている。各地で打ち上げ花火が行われるのも、


ライオンズ・デンのピート・ウイリアムスとケン・シャムロックがリングに登場。ウイリアムスが『King of the Cage』と契約を発表した。


このロボコンのキーホルダーは、なんと高田延彦総裁から送られたもの。現地では、ネイティブアメリカンのオジさんからお守りを贈られたそうだ。


今回、松井のセコンドにはリコ・ロドリゲスがついた。その陽気な性格（ナンパ師とも噂されるが？）で松井をガッチリとサポートしたぞ。


今回の対戦相手
アミール

アミールは1998年の『ＰＲＩＤＥ．3』に出場してゲーリー・グッドリッジと対戦している（結果は１ＲＴＫＯ負け）。

二度目のアメリカ遠征、連敗の雪辱を晴らすべく金網バーリ・トゥードに挑んだが……

独立記念日くらいのものだ。打ち上げ花火が見られる機会はそうそうないのである。『King of the Cage』は、非常に豪華な大会なのだ。

松井の出番は、メインイベントの中では最初の試合。アミールの後に登場した松井は、花道の手前で大きく深呼吸。松井の表情には、「必ず勝つ」という決意がみなぎっている。

1R、睨み合いから先にしかけたのはアミール。潰された松井は亀になってガードするが、アミールの膝が横から顔面に入ったのか鼻血を出してしまう。ここでドクターチェックのためにいったん試合がストップ。思わぬアクシデントで調子が狂ったか、1Rの松井は、あまりいいところがないまま終了。

2Rは、早々から果敢にパンチを繰り出した松井。アミールは「効いていないよ」といった挑発的な笑顔を見せる。今度は松井が上になり、足を取るが、すぐに抜けて逆にバックを取られてしまう。松井が上体を起こしてアミールに向き直ったため、マウントポジションで上に乗られる形になり、金網際でしばし膠着。

有効打がないまま迎えた3Rは、最も動きのあるラウンドとなった。開始直後の松井の打撃は残念ながら空振り。何度か上に乗られたり、首を取られそうになるが、立ち上がっては攻めに転じる松井。しかしアミールは、組み合ってから自分の有利な体勢に持っていくのが非常に巧い。松井から仕掛けても、アミールはうまく体を入れ替え、気が付くとアミールが上になっている。潰されては立ち上がり、いったん離れて再び組み合い、を繰り返すうちに試合終了。今回の松井は金網での戦いに戸惑いはなく、上に乗られたまま何もできなかった前回と比べれば格段の進歩が見られたものの、決定打に欠けていた。結局、上に乗られていた時間が長く、劣勢の感は否めなかった。

判定負けのアナウンスを聞き、リングに座り込む松井。納得できない松井は、リングの外に出てから「どうして負けなんだ!?」とセコンドや主催者側スタッフにくってかかった。

試合直後の怒りがおさまり、会場裏手で黙って座り込む松井とロドリゲス。そこへ、わざわざ2人を探してやってきたアミールは「松井は勇敢な選手。敬意を表するとともに、闘えたことを誇りに思う」と健闘を讃えたが、松井は言葉を返す元気もない。

熱の入ったセコンドで、ほとんど声が出なくなっていたロドリゲスは、かすれた声で松井に「今までの戦いの中で最高だったし、指示の通りに動けていた。しかし、相手のパンチが見えていないのでは、と思える場面があった。パンチを受ける練習をすれば、もっと強くなる」と、アドバイス。それでも、まだ言葉が出ない松井。着替えも終わり、ようやく少し落ち着いた松井に、言葉にできない気持ちを無理矢理言葉にしてもらった。「がんばりが報われないというか……。悪いのは自分なんですけど……。今日は勝たなきゃいけない試合だったのに……。2回出て2回とも負けるなんて……。悔しいっていうか、情けないっていうか……」。

楽に勝てる試合が組まれないのが、松井の運命なのか。「一勝」がなかなか上げられない松井。しかし、次のステップに踏み出せた時、今の悔しさ悲しさが必ず大きな力になるはずだ。がんばれ、松井!

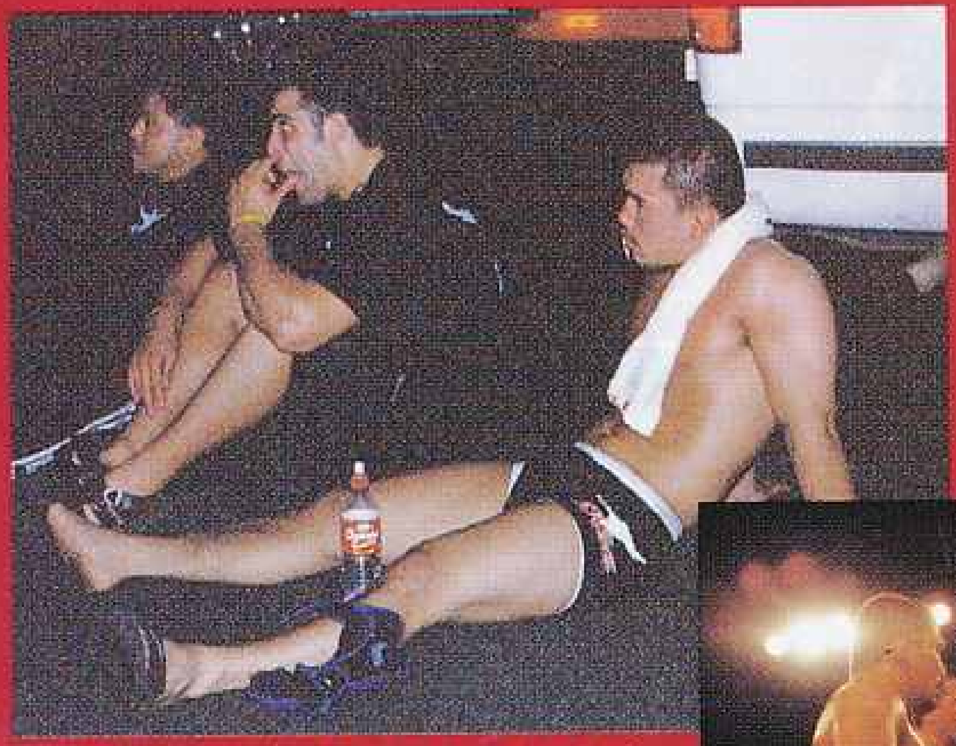
またも流血!!　されど無念の判定負け!!
「悔しいっていうか……情けないっていうか……」



上になられたことによって、ジャッジの判定は悪くなってしまったか……。



ガードを固めながら突っ込んでいく松井。金網2戦目ということもあり、表情からはリラックスしている印象を受ける。



収まらない松井が憮然とした表情で駐車場に座り込んでいるとファンがサインをねだりにやってくる。その闘志は確実に届いているのだ。



またしても判定決着となった松井のアメリカ遠征。次の試合では、是非とも一本勝ちする姿を見てみたい！



またも流血した松井。血の気が多すぎるのか、毎回打ち合うからなのか松井の試合で血を見ないことはほとんどない。

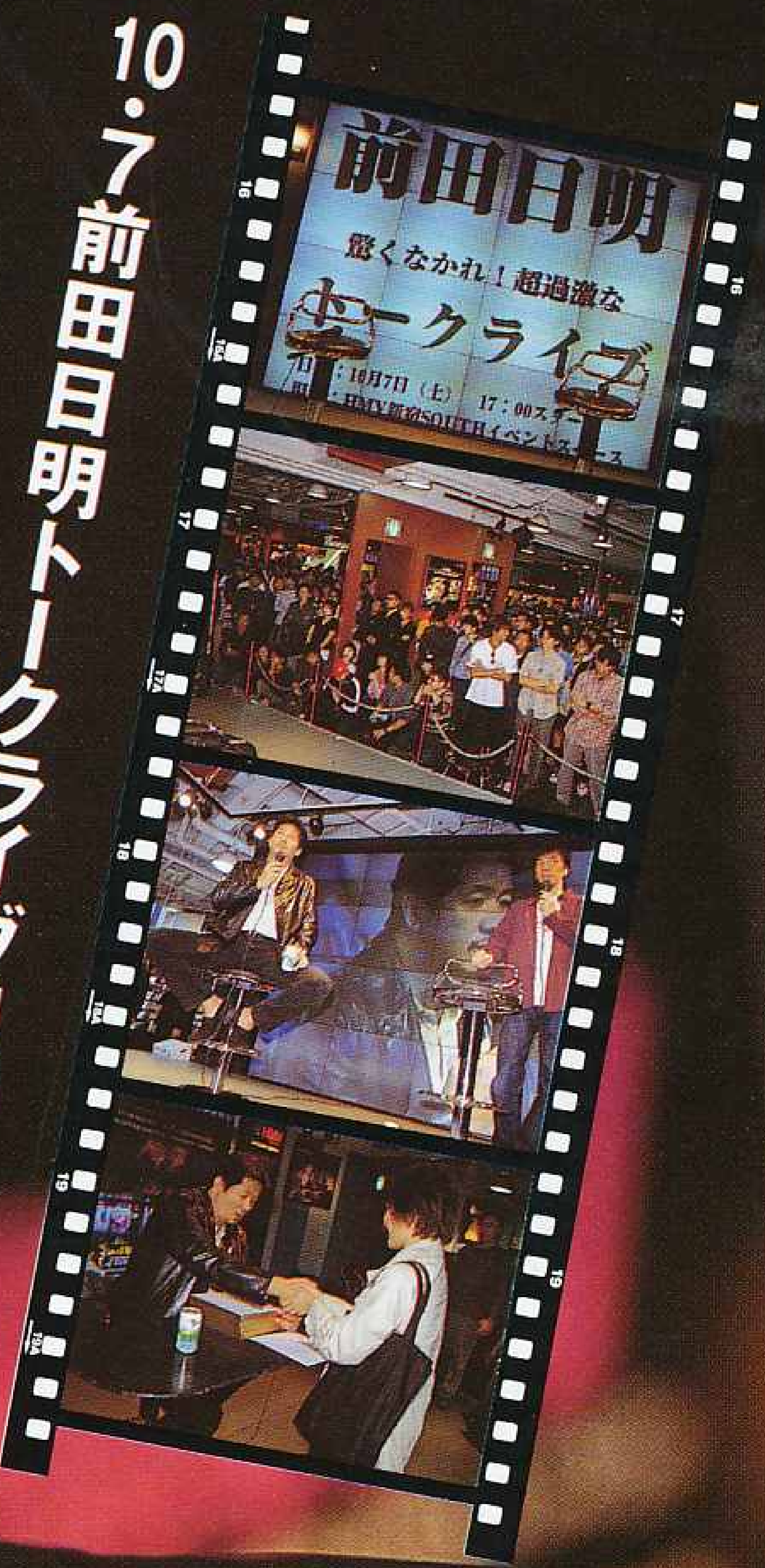
10・11バトラーツ後楽園大会で日高郁人と大乱闘!!

日本に帰ってきてからも「『King of cage』では負けてないっスよ！」と鼻息も荒い松井が、10月1日バトラーツの後楽園ホール大会で大乱闘を展開した。事件は佐野なおき＆平直行vs臼田勝美＆アーバン・ケンの試合中に起こった。場外乱闘を繰り広げる佐野の側についていた松井と、腕の骨折で欠場中の日高郁人が小競り合いを始めると、試合が終わった後にはリング上で視殺戦を繰り広げる！　バトラーツの島田裕二プロデューサーも「受けて立つ」と表明したことから、バトター角リングで松井のプロレスが実現することとなった。気になる初登場は11・26の駒沢大会が有力視されている。ケンカっぱやい松井にはもってこいの舞台だ！　必見でしょ！

■11・26駒沢大会の松井の対戦相手は誰だ！　P138のバトラーツのページ内で詳しく掲載しています。



10・7前田日明トークライヴHMV新宿SOUTH & 10・9KOK試合後コメント



前田総帥が久々にトークイベントを開催！2日後に控えたKOKの話を中心に、『PRIDE』、パンクラス、カレリン、さらには新日本vs全日本、ノアまでも語り尽くした。「驚くなかれ、超過激な前田日明トークライヴ」という時節柄、物騒なタイトルがついたこのイベント。はたしてそのタイトル通り、またしても爆弾発言はあったのか？ さあ、いますぐ読め！

前田日明が語る KOK 使用前&使用後

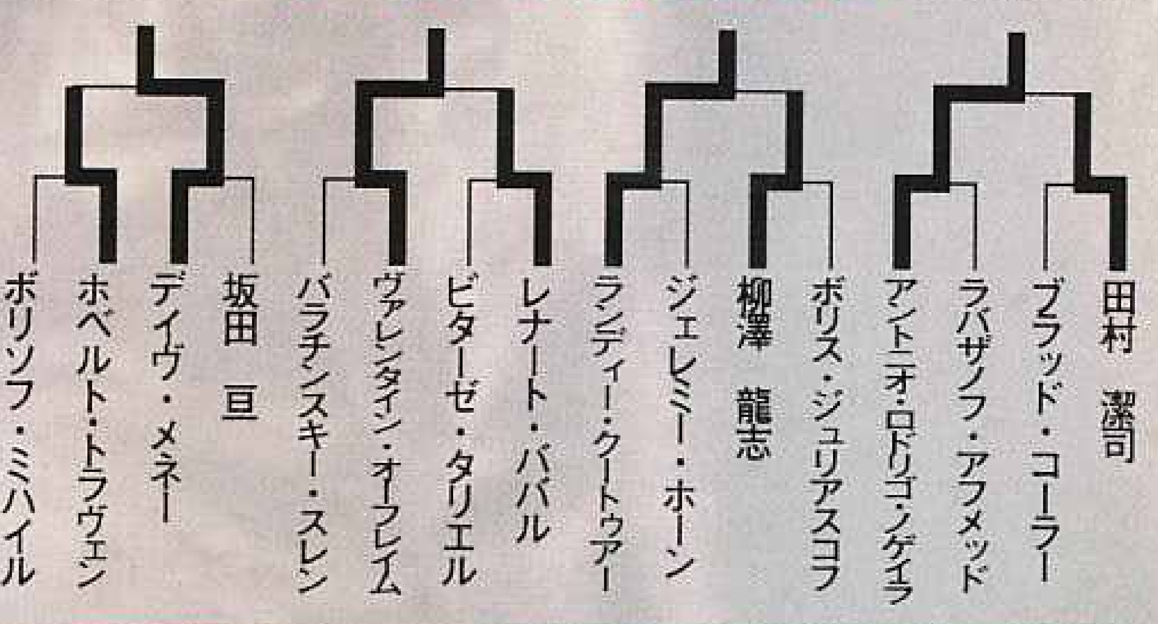
司会／山口日昇
interview by Noboru yamaguchi
構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda
試合写真／吉澤晃
photographs by Akira Yoshizawa

10.9代々木第2「KOK 2000」BOUT REVIEW付



ワールドメガバトルオープントーナメント2000

KING of KINGS Aブロック



三沢クンも選手たくさん抱えて大変やね。なんだっけあれ、ノバ？

〈久々に流れる『キャプチュード』テーマに乗って、前田総帥が登場。場内大歓声〉

──前田さん、ここはHMVというところなんですけど、来たことありますか？

前田　HMVって何？　わかんない。

──ガハハハ！「わかんない」（笑）。ここはですね、昔で言うレコード屋さんですね。ちなみに邦楽派ですか？　洋楽派ですか？

前田　最近あんまり聞かないね。

──椎名林檎とか知ってます？

前田　全然わかんない。なにそれ。

──ガハハハハ！「なにそれ」って歌手ですよ（笑）。

前田　あっそ。

──宇多田ヒカルは知ってますよね？

前田　宇多田ヒカルは知ってる。

──じゃあ、今好きなアーティストって誰ですか？

前田　これといっていないね。全然聞いていないからね。

──例えば、車の中とかでも聞いたりしないんですか？

前田　つい最近はね、親類が入院したんで、ヒマだからと思って昔の浪花節のCDを出てるやつ全部買ってきて、ヒマ潰しに聞かせたんだよね。

──お見舞いが浪花節ですか！（笑）。

前田　ほんで、一応全部聞き終わって、もう飽きたからって俺に返してきたんだよ。それをなんとなく聞いたらなかなか面白いんだよ。「これってラップじゃん」とか思ってね。

──浪花節はラップ説（笑）。さすがですね。ところで最近、前田さんは元気なんですか？

前田　まあ、ぼちぼちやね。

──先日のリングスUSA大会から帰って来て、公の場に出るのは初めてですよね。

前田　そうですね。

──報道陣もたくさん詰めかけてますけど、今年のKOKが開幕する10・9は結構興行ラッシュなんですよ。

前田　そうみたいやね。

──新日対全日がドームあって、K─1が福岡であって、みちのくプロレスなんかもありますけど、負けられないですね？

前田　いや、別に「ああ、そうなんか」って感じやね。



司会を務めたのは本誌鬼畜編集長、山口"ワイフビーター"日昇。ある意味似たもの同士の二人は妙に息が合っていた。

──ガハハハ。注目してるところとかはないんですか？　例えば新日対全日とか。

前田　だからなんだっけ、あれ？　ノバ？

──「ノバ」じゃなくて「ノア」ですよ！（笑）。

【場内大爆笑】

──入ろうかやめようか迷ってるんですか？（笑）。

前田　いや、なんか選手たくさん抱えてるでしょ。さっき、チラッと聞いたんだけど、選手がノーギャラで頑張ってるらしいやん。

──まあ、ノーギャラかどうかはわからないですけどね（笑）。

前田　そんなような経験は、俺は一杯あるからね、だから三沢クンも大変やなって思ってね。

──三沢社長は今38歳ですから、前田さんより年下ですよね？　社長の苦労は結構わかるんじゃないですか？

前田　大変だよ！　やるもんじゃないよ（笑）。

──やるもんじゃないですか（笑）。やっぱり、現役時代より社長業の方が大変ですか？

前田　大変！「（かわいらしく）もう、こんなの初めて〜」って感じやね（笑）。

──社長業の大変さを一般の人にも解りやすく言うと、どういう所が大変なんですか？

前田　そうだね〜、ちょっといろいろ問題があっても、前は瞬間湯沸かし器だったのが、瞬間的に湯沸かしするのを堪えて、ちょっと自分の中で圧力を弱めて、やさしく話をしなければいけないこととかね。

──では、瞬間湯沸かし器も前よりは治まってるんですね？（笑）。

前田　治まったと言うよりも、車でチューニングカーってあるじゃない？　エンジンがブローしないように限界が来たら圧力を逃がすブローオフバルブっていうのがあるんだけど、やっとそれが出来たかな、みたいなね。

──ハハハ。40過ぎて（笑）。じゃあ、選手とは円滑にいってるんですか？

前田　まあ、円滑というか、訳の解らんこと言ってる奴もいるけど、「偉そうなこと言うなよ」って感じだよ（笑）。そこまで言うならね、俺だって言ってもいいんだけど、「それ言っちゃうと恥ずかしいよ」って、「俺がいる前で穴掘っておいた方がいいんじゃない」、みたいなね。

──まあ、その辺は後ほどゆっくり聞くとして（笑）。前田さんが引退試合で闘ったカレリンがオリンピックで負けましたけど、試合は見てましたか？

前田　見ました、見ました。

──どうでしたか、感想は？

前田　最初は、何で負けたのかよく解らなかったんだよね。それが聞いたら2年前にルールが変わったらしいね。

●ここで、オリンピックは一人の選手が勝ち続けない為に何度もルールを変える。トーナメントの組み合わせも悪かった。首をケガしていた、というカレリンの敗因の話になる。

前田　あとひょっとしたら俺に2年前に足蹴られてそれが影響したのかな、と（笑）。

──ガハハハハ！　いや〜、そうですよ、きっと（笑）。

前田　ちょっと悪いことしたなと（笑）。カレリンの連覇を阻んだのは、実は俺だったんかなって（笑）。

──ガハハハ！　猪木ーアリ戦の後にアリが血栓症になった話がありますけど、たぶんカレリンも血栓症になっていたんでしょう（笑）。カレリンは前田さんが引退試合で闘った時と比べて、どんな感じを受けましたか？

前田　ちょっと、覇気がなかった感じだよね。

──解説とかでは、年齢の壁とか、よく言われてますけど。けど、前人未踏の4連覇を前にして、ああいう負け方をするっていうのは、生まれついてのプロって感じもしますよね。

前田　最後の5秒位、何もしないで、腕組んでる姿を見たときに、こいつはただ者じゃないなって思ったけどね。

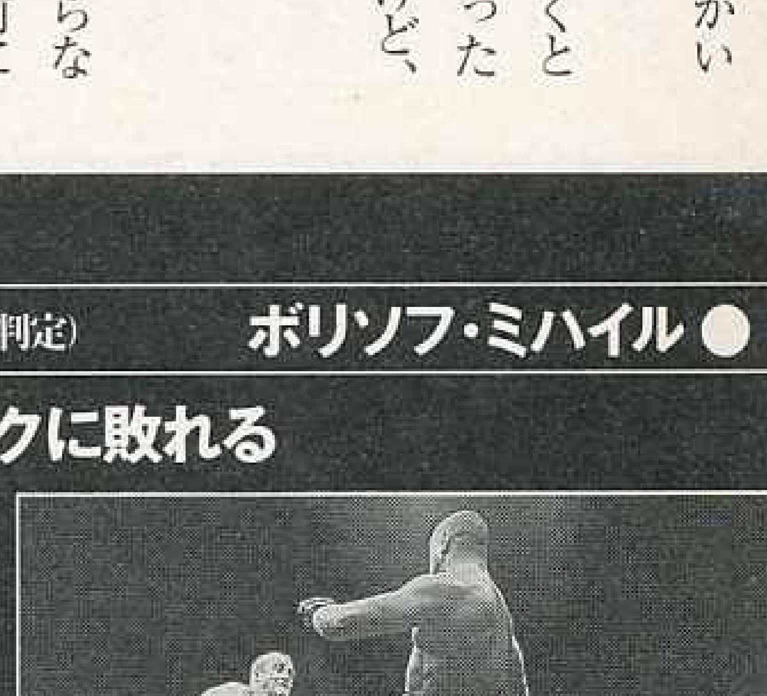
──それは、負けることを覚悟してたって

1st Match

○ホベルト・トラヴェン　（2R判定）　ボリソフ・ミハイル●

サンボ王者、柔術王者のキックに敗れる

99年にブラジリアン柔術世界選手権とアブダビ無差別級に優勝という、あからさまに「寝技世界一」っぽい実績がありながら、6月に来日した際はブルガリアのツベトフ相手に終始アウト・ボクシングで判定狙いの試合をしてファンを大いに失望させたトラヴェン。今度こそ極上のグラウンドを見せて欲しかったが、またしてもツベトフ戦と全く同じ「順応」戦法。柔術王とサンボ王がスタンドでぺちぺち殴り合う誰も望まない展開となってしまった。



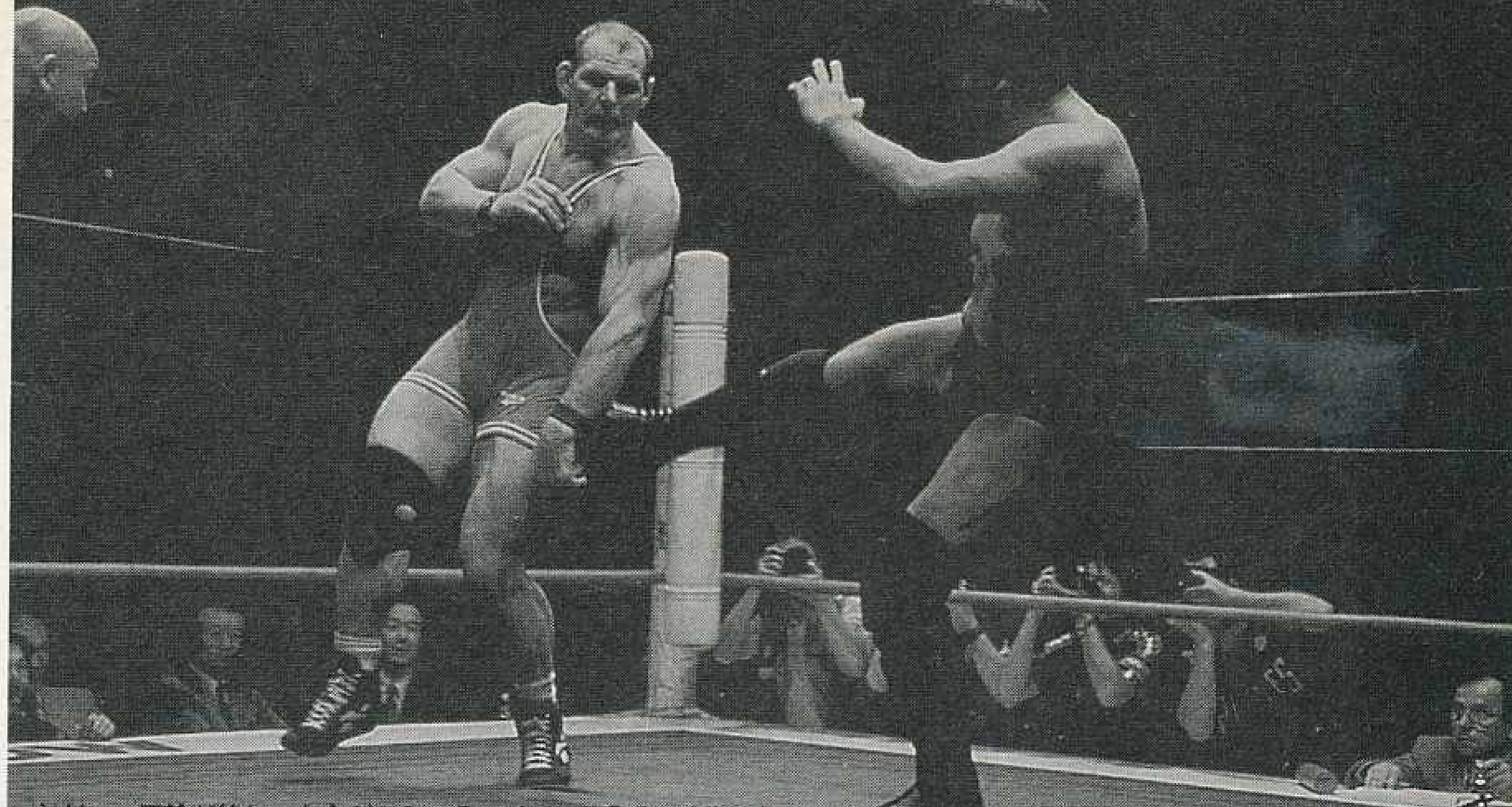
2nd Match

○デイヴ・メネー　（2R判定）　坂田　亘●

坂田、腰痛再発で無念の1回戦敗退

アメリカを代表するミドル級ファイターながら、7月のリングスUSAハワイ大会では、1回戦負けを喫するなど、調子を落としていたメネーが完全復活。坂田をスタンド、グラウンド両面で圧倒し、判定勝ちを挙げた。それにしても心配なのは、あまりにも悪かった坂田の動き。聞けばグスタボ・シム戦で痛めた腰が、開始早々蹴りを出した時点で爆発し、試合後は一人では歩けないほど悪化したという。ここはしっかり治して、今年春の"強い坂田"復活を望みたい。




シドニー五輪が終わった今だからこそ、改めて「現役時代の」カレリン[illegible]リングに上がった、前田日明引退試合の価値がわかる。

いう感じだったんですか？

前田　覚悟したのかはわかんないけど、何かいろいろ思うことがあったんだろうね。

——それでオリンピックは終わりましたけど、10月9日のリングスと同じ日に、新日本対全日本の対抗戦がありますよね。東スポにとると「プロレスのオリンピック」という大それた表現をされてるんですけど、実際、昔で言えば新日本対全日本って、もの凄いことですよね。

前田　でも、全日本って今何人いるの？

——いや、2人。

前田　そりゃ、寂しいね。

——ズバリ言って興味はありますか？

前田　いやぁ……ちょっとね、相手が弱ってるときに、「お前ら全日本だから勝負しようじゃないか」っていうのは、ちょっと卑怯っぽいよね。

——でも、新日本の常套手段ですよね？

前田　（唐突に）昔、武田信玄と上杉謙信がね。

——また、随分古い話ですね！（笑）。

〈場内、笑〉

前田　武田信玄が北条と揉めて、その結果、北条の方から塩が全然入ってこなくなっちゃったんだよね。それで武田側が困っちゃってね。そのときに上杉謙信の部下が、「今こそチャンスだからやっつけよう」となったらしいんだけど、上杉謙信は「俺は塩を武器に闘っているんじゃないんだ。武芸の意地を持って闘ってるから、そういうことは卑怯だ」って言って武田に塩を送ったんだよね。

——結構、有名な話ですよね。

前田　そうあってほしいよね、本当はね。

——敵に塩を送るぐらいであってほしいわけですね。

前田　ちょっとセコいからね、女々しいよね。

——女々しい！　前田用語ですね（笑）。じゃあ、従来のプロレスはもう前田さんの興味の蚊帳の外って感じですか？

前田　そう。アウト・オブ・眼中！

——ダハハハハ！

前田　「古い」って言われるんだけどね（笑）。

——いや、古いですよ。HMVでの発言とは到底思えないですよ（笑）。で、10月9日はリングスのKOKがあるわけですけど、このルールを思いついたキッカケは何だったんでしょうか？

前田　やっぱり、総合系というものを、見る人にとってわかりやすく、面白く見せれる可能性っていうものを今のレベルで考えると、ああなったわけですよ。

●ここで「何でもアリ」だと、技術以外の物を利用する戦略の方が大事になってしまうという話になる。

——じゃあ、世界に打って出ようという考えからこのルールは生まれたんですか？

前田　実際にアメリカでは州の95パーセント位は（VTは）出来ないでしょ。ヨーロッパでもグラウンドでの顔面パンチがあったら許可しませんよって感じだし。リングスがやろうとしているのはドサ回りじゃないからね。WBAとかWBCを目指してるからね。

——なるほど。決してWCWとかWWFじゃないんですね（笑）。

前田　WWFも凄いよ！

——アメリカでハマったらしいですね（笑）。

前田　マクマホンJrは天才やからね。今、娘まで出てるんだよ。大したもんだよ。

——よく見てますね～（笑）。アメリカ行ったら、やっぱり見ちゃうんですか？

前田　年がら年中やってるからさ、どうしても見ちゃうよね。

——KOKルールというものを去年から施行されたわけですけど、去年の収穫は一番のところは何だったんですかね？

前田　やっぱり、アメリカの南北両大陸のネットワークが出来たことやね。

——USA大会も大成功だったらしいですね。

前田　そうやね。

——この間の決勝も当然、前田さんが行ったわけですけど。

前田　いや俺、行けなかったんだよ。突然調子わるくなってさ、帰ってきたんだよ。

——じゃあ、試合自体まだご覧になってないんですか？

前田　うん。まだ見てない。でも、評判は良かったらしいね。

●ここでVTではボクシング協会に阻まれて開催不可能な、カリフォルニアやニューヨークなど大きな州で、KOKのビッグマッチが開催できそうだ、という話になる。

——今、総合格闘技と言えば、日本では『PRIDE』とかパンクラスとか、いろいろありますけど、「あいつらと同じようなルールは俺はやらへんで」というようなライバル心はあったんですか？

前田　そんなのは競う以前の問題でね。なんか、こいつら解ってないな、みたいなね。

——ダハハハハ！　競う以前の問題！

前田　「君たち、金があればいいってもんじゃないんだよ」ってね。やっぱり、会社だとか、組織だとか、現状で自分達のいる位置をわきまえてね。現実にファンが求めてるモノとの合致点をさがさなきゃならない。総合系の場合、アメリカでのアルティメット・スタイルを見てると、日本での5年先、10年先の答えが出ると思うんだよね。

——はい。

前田　それをよくわきまえて、落とし穴にはまらないように、いかにそれを回避して行くかっていうのが必要なんだよね。

——今度のKOKトーナメントでは、新顔が結構参戦します。中でも元パンクラスの柳澤選手が注目だと思いますけど、柳澤選手については、どういう印象をお持ちですか？

前田　まあ、柳澤にしろ誰にしろ、どこの団体出身だとか、そういうの全然関係ないんですよ。日本人選手としてね、海外の選手にね、ブラジル人選手なんかに勝ってもらえればいいんじゃないかなと思いますね。

——昔から対パンクラスという部分で言うと、前田さんはいろいろあるんですけど、選手に関しては何も言ってないですもんね。

前田　うん、何も言ってない！（キッパリ）。

●ここでロシアサンボ連盟の会長がロシア・オリンピック協会のトップで、レスリング

3rd Match

○ ヴァレンタイン・オーフレイム　（1R2分13秒TKO）　バラチンスキー・スレン ●

“リアル・サンボ王者”スレン、ヒザが外れ敗退

今大会再注目選手である“リアル・サンボ王者”スレン。一体どれほど強いのか、昨年のコピィロフ以上の衝撃が期待されたが、なぜかオーフレイム相手に大打撃戦を挑んできた。エンセンｖｓボブチャンチン戦のオープニングを思わせるド迫力であったが、オーフレイムのローキックで、バラチンスキーは痛めていた膝が外れ、無念のTKO負け。敗れたものの、その鍛えぬ抜かれた肉体を見るにつけ、これからのロシアサンボ連盟勢の逆襲には期待なのだ。

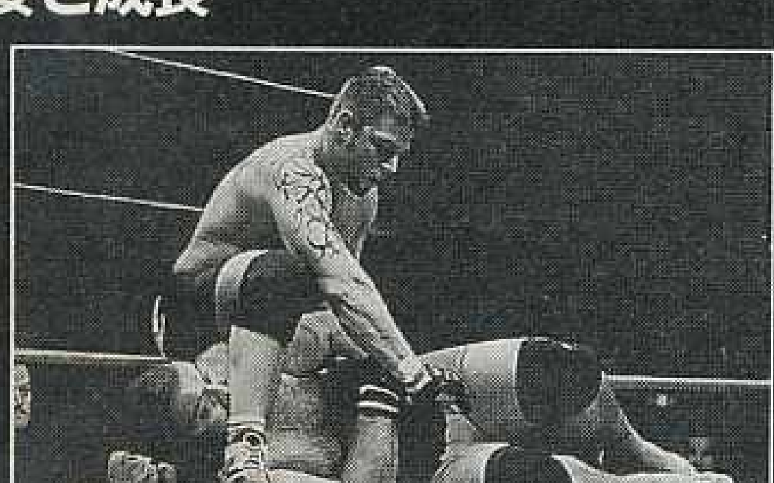


4th Match

○ レナート・ババル　（1R1分58秒、腕ひしぎ十字固め）　ビターゼ・タリエル ●

見逃せないタリエルの必死な姿と成長

昨年アイブルの顔面パンチに対応できずに完敗を喫して以来、1年ぶりの登場となるタリエル。その完敗劇があまりに衝撃的だったため、「KOKでは通用しない」という烙印を押されたタリエルだが、今年はひと味違った。オールド・リングスファンの声援を背に、ババルのタックルを2度がぶり、渾身の力でネックロックを極めるタリエル。最後は十字で敗れたものの、なんとかKOKに対応しようという、その必死な姿が胸を打った。次こそ頑張れ、タリエル！



全日本が弱ってる時に「勝負しよう」というのは卑怯。女々しいね

や柔道の強豪も呼べそうだということ。来年、サンボ連盟がリングス派遣選考会を兼ねて、道着ナシの大会を開くことなどが語られる。

——今、ヒクソン・グレイシーの対戦相手として、小川直也がやるとか、桜庭和志がやるとか、いろいろ言われてますけど、前田さんもやりたいって言ってましたよね。

前田　やってもいいよ。まあ、どうせやるんだったらさ、チャレンジャーという部分ではやりたくないんだよ。やるんだったら、トップ同士という扱いでやりたいね。

——それは例えばUWF対グレイシーとか、そういう感じでということですか？

前田　UWFなんて、どうでもいいよ。

——ダハハ！　どうでもいい！（笑）。

前田　俺が日本で総合系というものを一番最初に始めて、根をおろした人間なんで、そういった第一人者として扱ってくれるんだったら、やってもいいということやね。

——じゃあ、話が本格化したら、復帰するわけですか？

前田　その試合だけね。1試合だけ。

——小川なんかに譲ってられないぞと。

前田　いや、小川がやるのもいいと思うけどね。

——では、もし小川vsヒクソン戦が実現したら、どっちが勝つと思いますか？

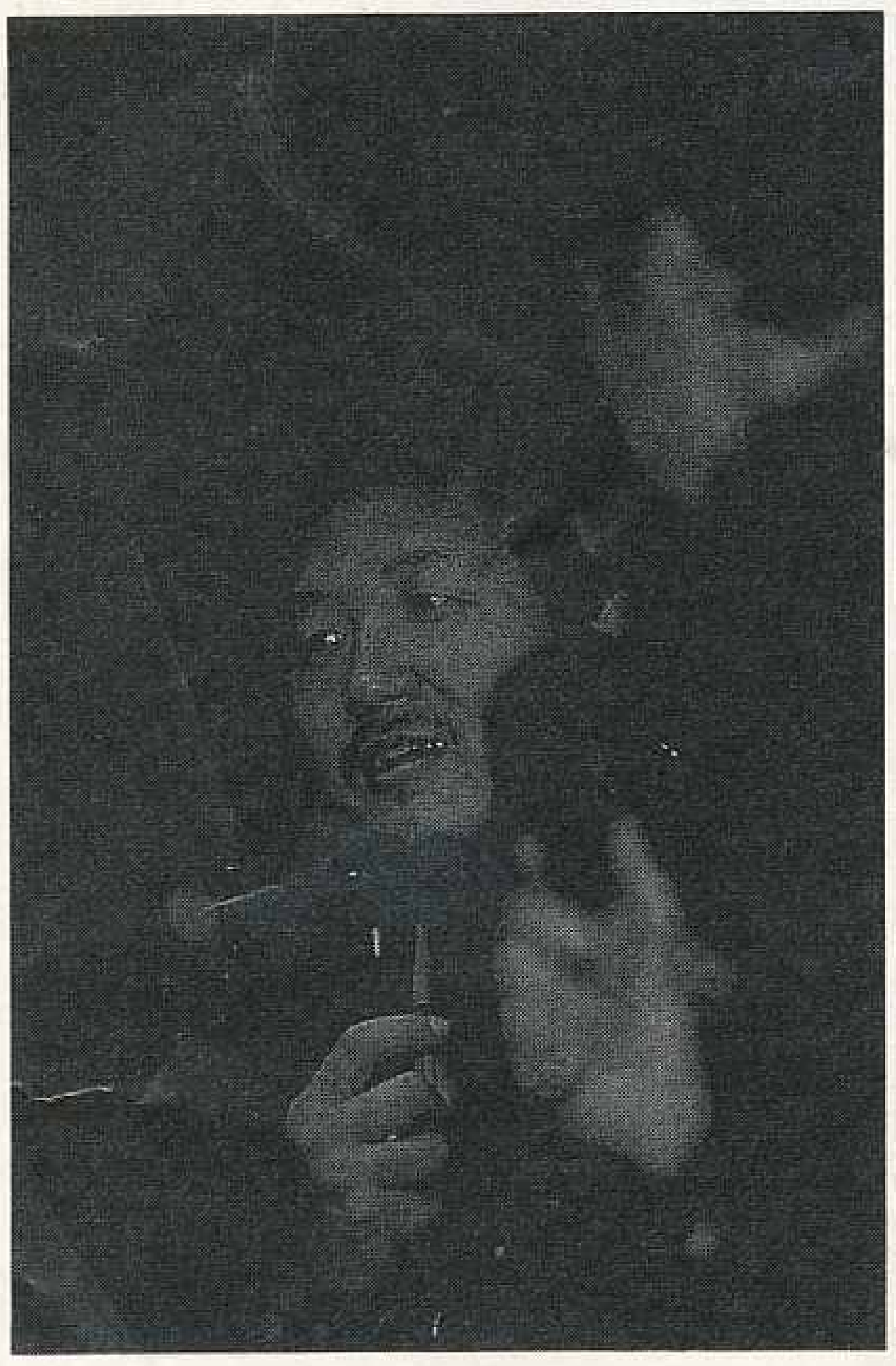
前田　まあ、簡単にはいかないと思うね。ヒクソンっていうのは技とか技術と言うよりも戦略という部分で絶対外さないんだよね。だから日本人選手の対ヒクソン戦のいろんな試合を見てると、どう対応するか、こうやられたらどうするか、ああやられたらどうするかとか、そんなことじゃないんだよね。

——はい。

前田　じゃなくて、もっと大きなね、自分がどう勝ち上がって行くかっていうデザイン、その戦略のデザインがないんだよ。それでいかれちゃうんだよね。

——船木vsヒクソン戦は前田さんがビデオ解説をやりましたよね。あの試合は見た感想はどうだったんでしょうか？

前田　1回目の高田vsヒクソン戦で高田が最初にやられたときに、船木達は高田に対して色々言ったと思うんだけど、あの試合を見た限りじゃ、それはお前達も言えないんじゃないかって感じだね。



——まあ、高田さんが最初に負けたときはボロクソに言われましたからね。

前田　そうそうそう。

——それで、ボロクソに言われたことに対しては、前田さんも頭にきたわけですよね。

前田　ボロクソに言われたことよりも、何て言うか、「あの高田に勝ったんだから、ヒクソンは凄い」っていう風な見方であればいいんだけど、あの報道を見てると、高田に対して「お前なんで負けてんねん」っていう感じだったんでしょ。ウチら業界の部分に対して、いい所がこれっぽっちもないんだよ。

——ああ、報道の仕方とか、そういう部分も含めてですね。

前田　みんな、自分で自分の首しめてるの全然わかってないんだよ。

——それじゃあ、そういうような勢いに対して、KOKルールだったら世界に打って出れるぞという部分はあったわけですよね。

前田　打って出るというか、何て言うか、どうせやるならメジャーでやりたいというね。

——前田さんはメジャー好きなんですか？

前田　いや、メジャー好きじゃないんだけど、ちょっと、零戦一機とムスタング一機欲しいからさ。

——ダハハハ！　また、過激な話が違う方向に（笑）。

前田　あれ飛べるヤツあるんだよ、飛べるヤツ。それ欲しいからさ、買えるように頑張りたいなと思ってね。

——前田さんは前に、ヨットのレースに出るとかも言ってましたよね？

前田　そう、ヨットもまたやろうと思って。

——またやろうとしてるんですか！（笑）。

前田　「メルボルン・大阪」っていってね4年に1回の大会で、オーストラリアのメルボルンから大阪まで2人乗りでやる、ヨットレースがあって。それ本当は引退試合の1年前位からエントリーして、準備してたんだよね。ちょっと不景気で金が揃わなくて断念したんだけど、それをいつかやってみたいね。

——それってヘタしたら死人が出るようなレースなんですよね。

前田　前大会でも、3、4人行方不明になってるんだよね。

——3、4人行方不明ですか！　……あれ!?　ダン・ヘンダーソン！

●ここで突然ダン・ヘンダーソンとランディ・クートゥアーが現れる。

〈場内騒然、大拍手〉

——いやぁ、僕も突然のことなんでなんだかわからないんですけど、飛び入りで来てくれたみたいですね。ダン・ヘンダーソン選手とランディ・クートゥアー選手です！

〈大拍手〉

——今回はクートゥアー選手のセコンドとして来日したわけなんですか？

ヘンダーソン　そうです。明後日、ランディーがリングスに出場するので、そのセコンドとして来日しました。そして、彼が今回のトーナメントで優勝すると思ってます。

——今年は、同門のクートゥアー選手が出場するので、ヘンダーソン選手は出場しないということですよね？

ヘンダーソン　その通りです。パートナー同士で闘いたくないですから。あと去年はとてもハードなファイトをしたんで、今回はリラックスしてエンジョイしようと思ってます。

前田　通訳さん、去年の賞金で何買ったか聞いてもらえます？

6th Match

◯ **柳澤龍志**　（1R3分45秒、足首固め）　**ボリス・ジュリアスコフ** ●

元パンクラス柳澤、歴史的一歩を白星で飾る



元パンクラスの日本人選手がリングスに参戦するという歴史的一戦。柳澤は戦前、ブーイングを覚悟していたようだが、リングスファンは勇気ある一歩を踏み出した柳澤を大歓声で迎え入れた。しかし、総合の実戦は8ヶ月ぶりの柳澤はいきなり大苦戦。ジュリアスコフのグラウンドコントロールに劣勢を強いられ、スリーパーを極められそうになる場面もあったが、最後は足首固めで逆転勝利。柳澤のイキイキとした表情が印象的だった。

5th Match

◯ **ランディー・クートゥアー**　（延長R、判定）　**ジェレミー・ホーン** ●

これぞ総合格闘技の未来形！



KOKがまたもや総合格闘技の進化形を生み出した！　これぞ力と力、技と技の名勝負。クートゥアーは昨年の王者ヘンダーソンをさらに大きく、力強くしたような凄玉。しかし勝ったクートゥアー以上にジェレミーの多彩な技が観客を魅了。飛びつき十字、ビクトル投げ、そしてなんとヨーロピアン・クラッチでのテイクダウンと、我が目を疑うような場面を次々と披露。こんな男が1回戦で姿を消すのだからKOKは恐ろしい。

―賞金を出した人がそう聞いてます（笑）。
ヘンダーソン　それまでずっとオリンピックを目指す為にレスリングの練習だけをしてきて、支払のツケが溜まってたので、それを支払いました。
前田　借金ですね！（ズバリ）。
〈場内爆笑〉
ヘンダーソン　残ったお金は将来のレスリングの勉強の為に残しておきました。
前田　賞金で愛人を囲ったとか、そういうことはないの？
ヘンダーソン　（苦笑い）2ヶ月前に結婚したばかりなので。
〈場内爆笑〉
前田　でも、子供は随分前からいたみたいやけど、それはアメリカン・スタイルなの？
ヘンダーソン　（ただただ苦笑い）。
―ヘンダーソン選手から見て、こういう質問をしてくる前田さんの印象はどうなんですか？（笑）。
前田　おもしろいって言ってるよ！
―本当に言ってるんですか（笑）。それじゃあ、クートゥアー選手の今年のKOKに賭ける意気込みをお聞きしたいんですけど。
クートゥアー　今回のトーナメントでは、皆さんもご存知の通り、いい選手が揃っているので、その中で試合ができて光栄です。ベストを尽くして試合に臨むだけです。
前田　自分が現役のときには、こういう賞金の懸かったトーナメントって無かったんですよ。だから去年の大会を見ながら、何度か賞金を持ち逃げしようか考えたね。
―ガハハハ！　20万ドルですからね。
前田　2200万円だよ！　ど～すんのって感じだよ（笑）。



『PRIDE』転出の噂が絶えないダン・ヘンダーソンが、ビッグサプライズとしてゲスト出演しても、ひたすら下ネタを連発する兄さん。その人間力は底なしだ。

―ちなみに小切手であげるわけですか？
前田　キャッシュだよ、キャッシュ！
―キャッシュ！　札束ですか！
前田　送金しようかって聞いたら、キャッシュがいいっていうから、現金であげたよ。
―うわ～、じゃあ札束を持ち帰ったわけですか？
前田　そうそうそう。（通訳さんに）税関に申告したのか聞いて下さい。
―金の話ばっかりですね（笑）。
ヘンダーソン　キャッシュを鞄に入れて、とても重かったんですけど飛行機の中でも抱いてました（笑）。申告は税関を通るときにちゃんとしました。
―ヘンダーソン選手は、今後また、KOKトーナメントに参戦するということはあるんでしょうか？
ヘンダーソン　わかりません。明日は明日の風が吹くという言葉がありますけど、来年には来年の風が吹くわけですから（笑）。
―わかりました。せっかくですからヘンダーソン選手に質問のある人に1人か2人聞いてみましょうか。質問のある人いますか？　いないですね。じゃあもう帰って貰いましょう（笑）。突然の乱入でしたが、ありがとうございました。
〈盛大な拍手〉
（ヘンダーソン&クートゥアー退場）
―いや～、ビックリしましたね。もの凄い仕込みをしますね、ポリスターとリングスは（笑）。というわけで、屈強な外人勢が多数参戦するKOKトーナメントですけど、ジャパン勢はやばいですよね、今回は。
前田　そうっすね。日本勢に勝ってほしいんですけどね。
―田村選手は1回戦で、グロム・ザザと対戦ですね。
前田　そう。コーラーが交通事故起こしたんだよ。
―コーラーも、車にまで突っ込んで行くことないのに（笑）。
前田　思わず、「こーらー！」って怒ったりしてね（笑）。
〈場内、笑〉
―HMV向きのダジャレではないですね（笑）。ジャパン勢で一番注目なのは、やっぱり田村選手だと思うんですけど、田村選手のここ最近のリングス批判というか、「新人が育ってない」「僕一人頑張ってもしょうがない」という発言がありましたけど、率直なところ、どう思ってるんですか？
前田　田村の言う通りですよ！　言う通りなんだけど、本当にそう思うんなら、道場に出てこいって。自分の所でばっかり練習しないで、新弟子の面倒見てくれって。
―ああ、U-FILEだけじゃなく、前田道場にも来い、と。そういう部分をクリアしてくれれば、何を言ってもいいよということですね。
前田　そうそう。
―でも、田村選手は、もしかしたら自分や他のジャパン勢にハッパをかける為に言ってるのかもしれないですよね。
前田　何いじけてんのかと思ったよ。
―それに対して、金原選手達が、「じゃあ、俺らは頑張ってないのか」って反論してるんですよね。
前田　金原の言うこともよく解るんだけどね。あんまり詳しい話をしちゃうと、ややこしいことになるんで言いたくないんですけどね。
―でも、田村選手は前回のKOKでヘンゾに勝ちましたからね。前田さんも、男の子の宿命を背負ってよく結果を出してくれたって誉めてましたよね。
前田　そ～うだよ！　ロレックスだよ！　サブマリーナだよ！　ブルーフェイスだよ！
（と、田村のことではなく自分を誉める前田総師であった）
―いくらでしたっけ？
前田　忘れた。
―ダハハ！　忘れましたか！　でも20万ドル出したり、いろいろ大変ですよね（笑）。
前田　欲しい刀が一本あったんやけど、諦めたよ。
―刀！（笑）。零戦には乗りたがったり、刀を欲しがったり、ヨットレースに出たかったり、40歳過ぎてこれだけ好奇心旺盛な人、初めて見ましたよ（笑）。
前田　重光っていうのが、良かったんだよ。
―それはまた刀の話ですか？（笑）。
〈場内、笑〉
―またHMV向けの話じゃないですね（笑）。（と、前田総師が例によって刀の話に持ち込もうとするのを寸前で防ぐ山口日

7th Match

○ アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ　（2R2分29秒、腕ひしぎ十字固め）　ラバザノフ・アフメッド ●

ノゲイラ強し！　コマンドサンボを完封

ノゲイラ強し！　昨年の日本初登場時に衝撃的な強さを見せつけたノゲイラが、昨年をさらにこえるほどのインパクトを与えた。とにかく目を見張るのは、その驚くべき仕掛けの速さ。ホイスに代表される「相手のミスを待つ」という、七面倒くさい柔術のセオリーを完全無視しての、圧倒的な極めの強さ。昨年“ロシアの秘密兵器”と呼ばれた、V・ハンの秘蔵っ子ラバザノフは、今年もその持ち味を全く発揮できずに終わってしまった。



8th Match

○ 田村潔司　（2R、判定）　グロム・ザザ ●

ザザの底力爆発！　されどそれを上回る田村の技術

コーラーの交通事故により、急遽参戦が決定したザザ。KOKになってから、ババルに一本負け、ホフマンにKO負けを喫したザザだが、この日は柔術怪獣を破った“強いザザ”が序盤から完全復活。20キロ軽い田村をモノ凄いタックルで転がし、グラウンドのパンチで攻めたてる。しかしパンチが田村の顔面に入りイエローを取られると失速。2Rは田村が今度はザザの五輪レベルのタックルをことごとく切り、文句ナシの判定勝ち。



昇であった）そう言えば、田村選手で思い出したんですけど、山本（宜久）選手は今どうしてるんですか？

前田 山本は、ちょっと壊れちゃってね。あいつ身体中ボロボロだったんだよ。だから「ちゃんと直せ」って言ってね。ヘルニアに関しては騙し騙しやってくれって感じだけど、このあいだ足首の手術して、つい2・3日前からトレーニングを再開したらしいね。

――じゃあ、Bブロックの方には出るわけですか？

前田 出ます。あと高阪も。

――じゃあ、Bブロックの方も期待ですね。

前田 そうやね、でも今、ケガ人多くてね。金原もアバラ折って休んでるからね。

――ケガ人だらけですね。ブラッド・コーラーは車に突っ込んじゃうし（笑）。

前田 「こーらーッ！」ってね（笑）。

――さっきも言ってましたよ、それ（笑）。ところで大阪でやるBブロックは12月22日ですよね。恐らくなんですけど、12月23日には『PRIDE』があるんですよ。また、熾烈な興行戦争になりそうですね。

前田 どこでやるの？ 東京でしょ。

――埼玉ドーム（実際はさいたまスーパーアリーナ）とか、噂されてますけどね。

前田 埼玉ドーム？ 埼玉にドームあったの？

――みたいですよ。屋内会場で3万5千人収容の体育館らしいですよ。

前田 へ～。埼玉ってど～なんかね～。

――場所の心配ですか（笑）。でも『PRIDE』って勢いあるじゃないですか。ここが一番聞きたいんですけど、実際に試合を見ると、その勢いのある『PRIDE』に負けない位リングスは面白いんですよ。でも、今一つ一般のファンには浸透してないというのが正直なところじゃないですか？

前田 そうだね。やっぱり、知らせる部分でのアイテムの違いがそうなんだろうね。

――例えばですね、『PRIDE』の地上波を利用する為に、リングスの選手を『PRIDE』に送り込むとか、そういうことはないんですか？ 前田日明プロデュースとして。

前田 そんなこと考えてるんだったら、地上波に移すよ。

――リングスをそのまま地上波に！

前田 そんなこと考えるんだったらの話だけどね。

――では、『PRIDE』に選手を送り込むとか、そういうことは今のところは無いということですね。

田村の言う通りですよ。でもそれを言うなら新弟子の面倒見てくれって

前田 ないね。

――KOKルールをやってれば、バーリ・トゥードが強くなると言う人もいますよね。

前田 ああ、あのヒゲのおっさんが言ったんだっけ？

〈場内、笑〉

――ヒゲのおっさん！ 骨法の堀辺師範ですね（笑）。

前田 何を言うてんや、当たり前やんけ！ キャリアが違うよ！（笑）。

――誉めてくれてるんだから、いいじゃないですか（笑）。

前田 そやね。よくぞ誉めた！ 誉めてつかわそう。苦しゅうない（笑）。

――では、まだBブロックの参加選手が発表されてない段階ですけど、今年一番の注目選手は誰になりますか？

前田 ちょっとわかんないね。去年、KOKの第1回やった時は、何やるんだろう？ 賞金高いから出て来ようって感じだったのが、今回の場合は、ルールが知られてきて、こういうルールでやって、どうやったら賞金取れるかっていうんで、取っ掛かり方が違うんですよね。ロシアサンボ連盟の連中はプライドある連中なんで、どういう選手を送ってきたのかな、とか。

――それは楽しみですよね。でも、なおさらジャパン勢に頑張ってほしいですね。

前田 まあ、でもね最初負けてても終わりよければすべてよしでね、最終的に勝てばいいんですよ。世界中のありとあらゆるジャンルの一流選手を呼んできて、その中で普通やったら一流選手。その中で勝てれば超一流選手。そういうことやね。

――なるほど。じゃあ、田村選手とかも超一流になりますよね？

前田 まあ、今やったら「一流の上」ってところですかね。

――厳しいですね～（笑）。ちなみに金原選手は？

前田 金原は「一流の中」だね。

――ガハハハハ！ また金原さんがボヤキますよ（笑）。

前田 金原は偉そうなこと言うんだけど、なんか直前になったら、バカみたいにオーバーワークしてさ、ケガ抱えて試合出たりするんだよね。山本もそうなんだよ。山本も金原もリングに上がった瞬間に壊れてるんだよ！

〈場内、笑〉

――試合の前に疲れちゃって（笑）。

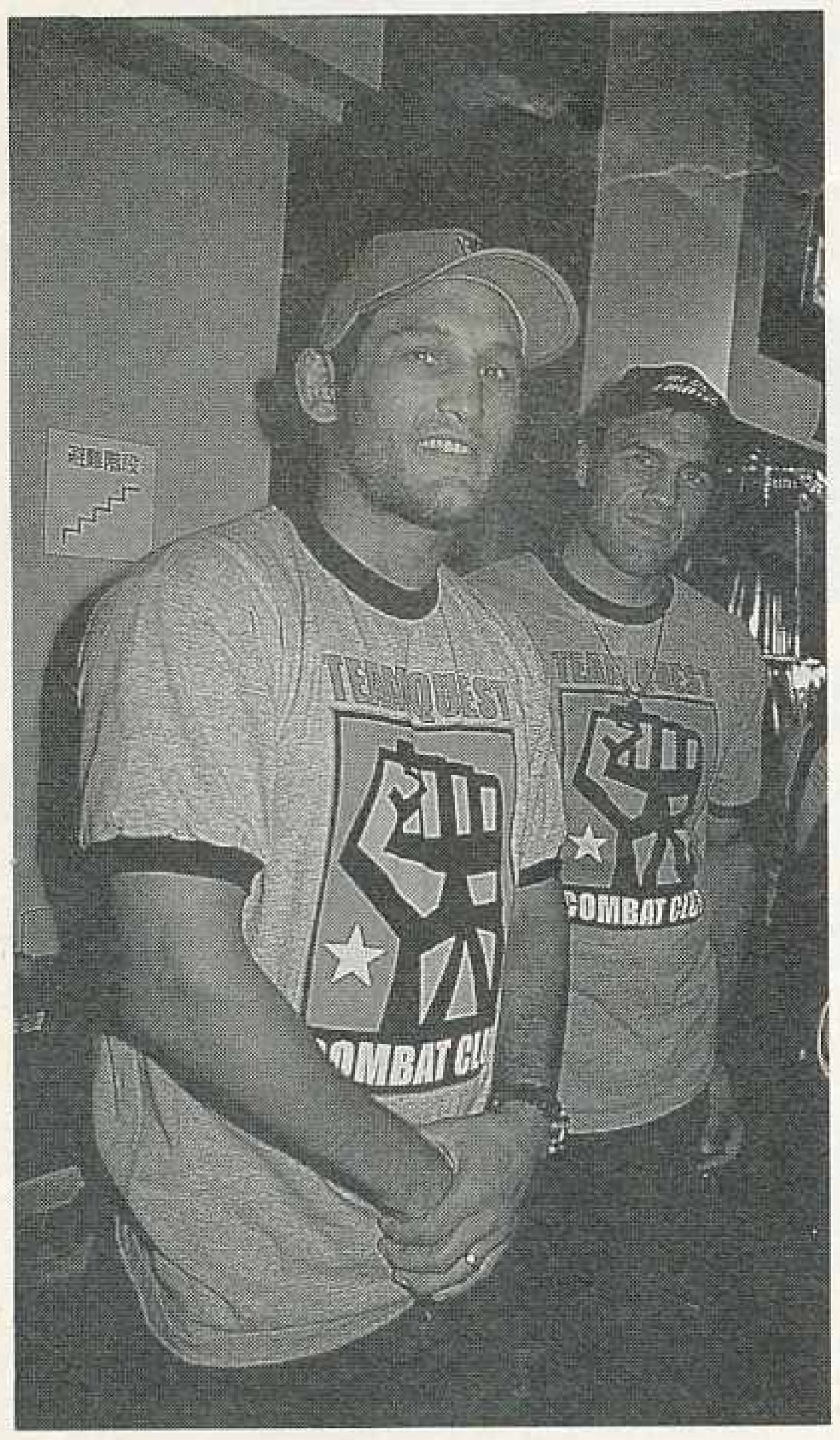
前田 練習なんだから、身体を強くする為に練習するんだから。壊すぐらい練習してどうすんだって。アホか？ってね。あいつらそれがわかんないんだよ。

――わかってるとは思いますけどね（笑）。山本選手は去年、小川選手とやるなんて話もありましたけど、今はもう、小川戦っていうものは無くなったんですよね？

前田 いまんところ無いですね。

――今、ズバリ言って小川選手に対してはどういう印象を持ってるんですか？

前田 う～ん、柔道の連中にいろいろ聞くとね、小川はチャンピオンだけど、寝技っていう部分で言うと、どうなんだろうなって言う人は多いね。じゃあ、誰が強いって話を聞くと、寝技でも立ち技でもという部分で篠原（信一）だったら凄いって言うのが多いね。

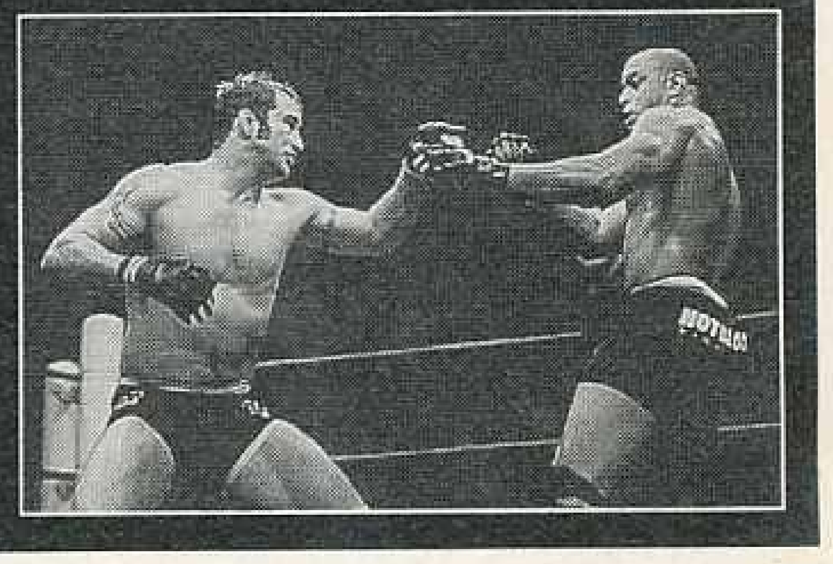


9th Match

○ デイヴ・メネー （延長R、判定） ホベルト・トラヴェン ●

伏兵メネーがトラヴェンの「順応」を完封

ボクシング技術で上回るメネーは、トラヴェンのタックルをことごとく潰し、スタンドのポイントで判定勝ち、番狂わせのグラウンド・ファイナル進出を決めた。これまで組み技系の相手に、グラウンドにつき合わず、スタンドのポイントで判定勝ちを狙うあからさまな「順応」で勝ってきたトラヴェンが、今度は逆の立場となる皮肉な結果。もし、次に来ることがあるなら、トラヴェンには今度こそ柔術世界王者のグラウンドを見せて欲しい。

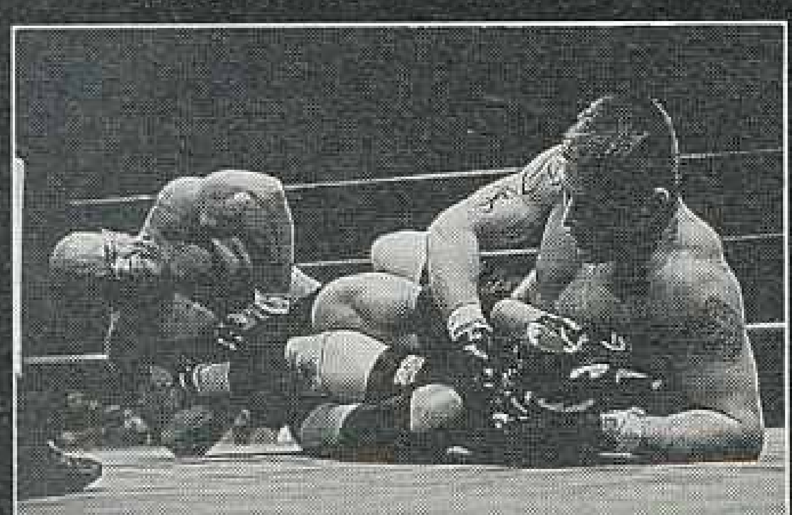


10th Match

○ ヴァレンタイン・オーフレイム （1R2分20秒） レナート・ババル ●

番狂せ！ オーフレイムがババルを破り大ブレイク！

昨年のKOKで準優勝。その後も来日する度に強くなるその姿から、今年は優勝候補の筆頭と目されたババルが、なんとオーフレイムに一本負けを喫する大波乱。これまでその破壊力抜群の打撃と、オランダ勢ナンバー1の足関節で誰もがその実力を認めながら、ムラっ気が災いし浮上のチャンスを逃していたオーフレイムが遂にブレイク！ ・ファン待望のリングス・オランダ新エース誕生である。



——あの決勝の判定もおかしかったですね。
前田 フランス人は嫌やね。
——フランス人は嫌（笑）。
前田 なんかあんな誤審で勝っておいて偉そうなこと言うてるやん。簀巻きにしてセーヌ川に流してやろうと思ったよ（笑）。
〈場内爆笑〉
——ガハハハハ！ ホントにHMVには向いてないですね（笑）。
前田 それに引き替え、昔、山下選手とやったエジプトのラシュワンね。山下が足を怪我してたから足を攻めずに偉かったよね。ああいうのが歴史に名を残すんだよ。

●ここで、「ヒゲのおっさん（by日明兄さん）が『KOKは五輪競技になりうる』と言っているが、そんなことは俺が20年前から言ってる」という話になる。

——というわけで（笑）、10月9日、代々木代2体育館で今年のKOK2000の一回戦がありますけど、前田さんに質問のしたい方はいますでしょうか？

●リングスネットワークでホモの人はいるかという質問が出て、「練習生でいて、おかげで新弟子が逃げて参った」と答える。

——またまた、HMVに相応しくない話が（笑）。じゃあ、あと1人位質問どうぞ。
ファン 先程のヘンダーソン選手なんですけど、DSEの森川社長が前田社長との話し合い次第では交渉したいと話してたんですけど、何か具体的な話し合いとかはあったんですか？
前田 今のところ無いですね。去年の一件で、勉強してくれてるんだったらいいんじゃないですか。
ファン 逆に『PRIDE』の選手をリングスに上げることは考えてないんでしょうか？
前田 わかんないね。わかんないけど、今のところは、あんまり考えてないね。
——わかんないけど、考えてないそうです（笑）。じゃあ、ヘンダーソンが『PRIDE』に参戦することも無いと言うことですか？
前田 そう思います。わかんないけど。
——今、リングスというのは選手の拘束というのはあるんですか？
前田 リングスは基本的に1年間の独占契約を結んでます。『PRIDE』なんかは結構、1試合ずつの契約とかが多いみたいやね。
——まあ、何試合契約とかもあるみたいですけどね。ところで今度、猪木さんが『PRIDE』のプロデューサーになったんですけど、これについてはどう思われますか？
前田 （ぶっきらぼうに）わかんないよ、そんなの！
〈場内、笑〉
前田 もう4年位前かな、新日本にはアマレス出身の使える人材が一杯いるから、今のうちだったら、結構いい結果残せると思って猪木さんに言ったら、「じゃあ、協力するよ」って言ってくれてたんだよ。けど、待てど暮らせど何にもやんなくてね、その頃藤田と話したら腐っちゃってるんだよ。腐っちゃったら、どうにもならないから、腐る前に穫っちゃおうと思ってね。
——穫っちゃおうと思いましたか（笑）。
前田 ひょいっと摘んだら、藤田は猪木さんに「お前、俺と一生会えなくなってもいいのか？」って言われたらしくてさ。ダメだよ、あんな後出しジャンケンは。よくいるじゃん、自分に女がいて、もうどうでもいいんだけど、穫られそうになったら、急に大事にしだしたりさ。非常に女々しいね。アントニオ・メメキ（笑）。
〈場内爆笑〉
——というまた、HMV向けじゃない話題で締めてもらいました（笑）。では前田さん、今日は本当にありがとうございました。
〈場内大拍手〉



10・9 KOK代々木大会終了後コメント

——残念ながら田村選手も敗れて日本人が全滅してしまいましたが。
前田 出来れば一人でも残って欲しかったけどね。ただ総合系ってまだ始まったばっかりでね、ウエイトがどうのこうのってあんまりないんですよ、ハッキリ言うと。体重が違っても対応できないと。
——田村さんも試合後のコメントで技術的に完敗したって言ってましたけど。
前田 今日は珍しく田村が押されてましたね。パッと極めにいった時に何かノゲイラが足でパッとホールドしてくるんですよ。それが上手いんですよ。こうなんて言うんだろ、ヒザよく絞まってるね。
——前田さんから見てどの辺が、ノゲイラが勝っていたてんでしょうか？
前田 う〜んそうだね、技術的な部分でいうと何かグレイシー（ブラジリアン柔術）に関しては（グラウンドの）いろんなバリエーションみたいなやつね、そして彼らはすごい体が柔らかいですね。ディフェンス・ポジションからの十字なんかもフッて力抜いた時にパッてやるでしょ。だから、集中力もすごいね。一番最後のフィニッシュだったら、一瞬パッと、一本目しのいでヨシっていう時にパッと取られちゃったような感じだからね。
——初参戦の柳澤選手についてはどうですか？
前田 ちょっと固かったね。ジュリアスコフのスリーパーが早々に決まったらどうしようかなと思ってね（笑）。ホントひやひやしたね。それとタックルとか見てて重いね、やっぱり。ちょっと彼は今の体重に慣れてないんじゃないのかな。
——今日、決勝トーナメントに上がった4人の中で、一番優勝の可能性がありそうなのはどの選手ですか？
前田 いや〜、ちょっとまだわかんないですよ。一つ言えるのは去年はまだね、ルールに慣れてない部分で対応した奴が勝ちやったけど。今年はルールもカチッと決まってきて、ポジション取ったからプラスとかいうのないんですよ。積極性っていうのを最大限とるんで、それもポジションをとるための積極性じゃないんですよ。極めにいくための積極性なんですよ。
——大阪大会は日本人が決勝残れるのかという部分が焦点なんですけど、現時点で出場が予定されているのは誰ですか？
前田 山本、高阪、あと一人誰だっけ、あ、金原。その3人です。
——先ほど佐竹さんに冗談のようにですけど「出たらどうだ？」って言ってましたが。
前田 いや、本気でいってんだよ！（キッパリ）。そんなの「出ない？」って言うのに冗談もクソもあらへんやん。
——日本人が勝ち上がる可能性は？
前田 いや、それはわかんないですよ。なんかあの〜、正直言って去年と同じように、外人が上を占めちゃうんじゃないかっていう気がせんでもないんでね。難しいッスよ。技術っていう部分もアレだけど、なんか精神的なものも昔は東洋人とか日本人の方が粘りがあったんですよ。しぶとさとか。でも、しぶとさっていう意味でいうとブラジリアンとか外人の選手の方が今はしぶといよね。日本人はパッと主導権取られちゃったら、ズルズルといっちゃし、かといって力が拮抗しても、ちょっと自分より上の人とやっちゃうと、どうしょうも出来なくなるっていうかね。
——前田さんも日本人選手に対してはなす術がないってことですか？
前田 なす術がないって感じじゃないですよ。まあ、今は過渡期なんで、いろんな選手を集めて、場所づくりをやってるところなんでね。それがカチッと決まってから、そんな中で揉まれてるとだんだん強くなるんじゃないですか。自分が持ってる技術を活かしきってないような試合もあるんでね。ここにきて急に柔術スタイルみたいな感じでみんなやりだしたけど、じゃあ今までやってきた技術が全然使えないのかっていったら、そんなことないんですよ。今みんなの目が柔術の方行っちゃてるから、そのうち誰かが上手く活かせるでしょ。所詮人間のやることですから格闘技って。

12th Match

◯ アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ（2R2分29秒、腕ひしぎ十字固め） 田村潔司 ●

田村にも完勝！ ノゲイラはどこまで強いのか!?

8・23大阪で波紋を投げかける発言をし、KOKの会見では「優勝宣言」をするなど、次々に自ら十字架を背負っていった田村。逆に言えばノゲイラはそれだけ自分を追い込まねば闘えぬ相手だったのではないか。ノゲイラの極めを寸前で切り返していく田村だが、最後は十字のコンビネーションで約2年ぶりのタップ。敗れた田村は「僕が負けて『ざまあみろ』と思った選手はBブロックで見せてほしい」と発言。敗れても田村は死なず！



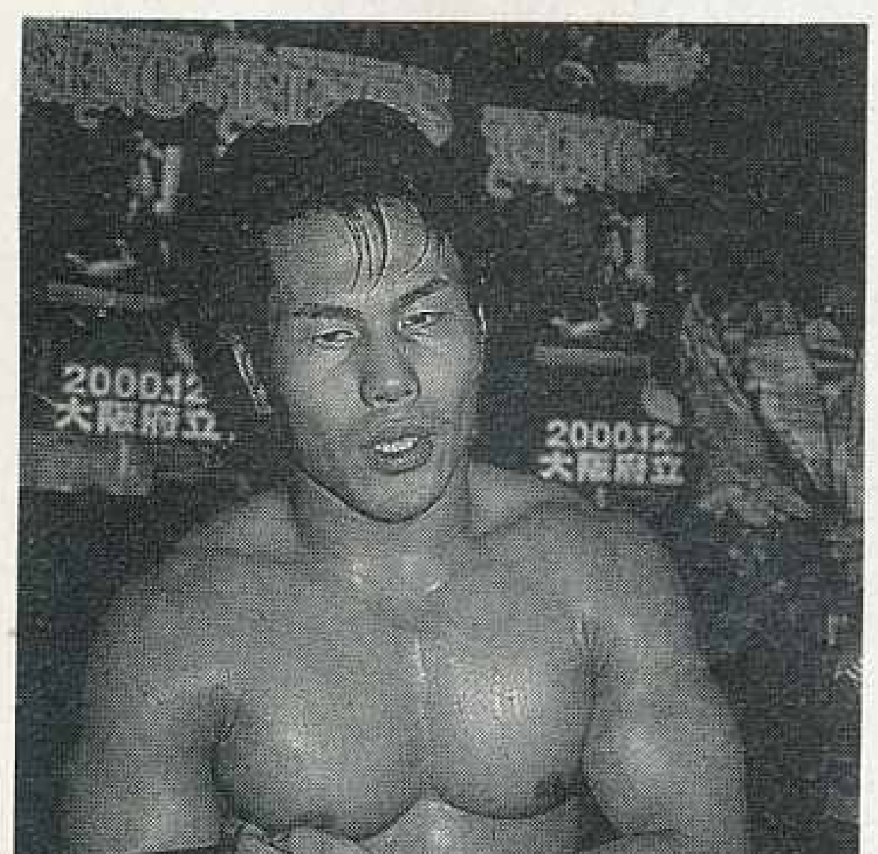
11th Match

◯ ランディー・クートゥアー （2R、判定） 柳澤龍志 ●

柳澤、2回戦で力尽きる

バリジャパでエンセンに、リングスではミーシャに敗れるなど、日本ではなかなか発結果を出せなかったクートゥアーが、KOKで遂に元UFC王者らしい実力を発揮した。これまでVTではグラウンド・オン・パウンドが主武器だったクートゥアーだが、今回は柳澤と打ち合うほどスタンドのパンチに磨きをかけ、トータル・ファイターとして大変貌を遂げきた。こうなると鬼に金棒。柳澤を寝技で10分間攻め続け、文句ナシの判定勝ち。





ノゲイラに一本負け！

田村潔司は試合後何を語ったか!?

「ざまあみろと思った選手は決勝に残ってもらいたい」

——2回戦敗退という結果に終わってしまいましたが。

田村　結構さっぱりしてますね。上にいったら苦しい闘いがあって、そういうプレッシャーに翻弄されたっちゅうところがあるんで。今日は攻めてそれで一本取られたんで、今すごいスッキリしているのと同時に（これからは）もっと外国人特有のパワーに対応できるようにするのが一番の闘いですね。

——ノゲイラ選手は体も絞り込んできましたし、かなり対策も練ってきたという話だったんですが、実際肌合わせて見てどうでしたか？

田村　そうですね、僕はサンボの出稽古に行ってきたことがあるんですけど、サンボやってる人は腕十字の取り方とか、ヒザ十字の取り方とかすごいテクニックやパワー持った選手がいて、僕はその人たちはアマチュアでも、すごい尊敬してるんです。それで今日ノゲイラとやって、サンボで練習してたタックルを思い出しながらなんかやってたんですけど、こんな強い人がいるんだなと思いましたね。僕はここ最近一本負けかあまりなくて、（普段は）ジムで指導とかしてしていて、自分で力負けして取られたって感覚が久しくなかったんで、今日そういう選手と闘えて、悔しいっていう気持ちに相次いで嬉しいって気持ち（があります）。僕よりもっと強い人がいるなっていう。やっぱり十字の取り方とか素晴らしい。（ノゲイラは）超、超一流ですね。

——最後に十字1回返した時に、さあこれからって感じはありましたか？

田村　いや、十字返した時は、返して十字を取り返すって時に待った間はありますけど、やはりその返された先を向こうが読んでたんで。だから僕がもっとその一手先二手を読むぐらいにならないと、ああいう選手にはかなわないですね。ちょっと、脱帽ですね。素晴らしいです。

——なんか田村さんのそういうイキイキした顔って久々に見たような感じがするんですけれども？

田村　強い、強かったです。だから、正直ノゲイラ選手に頭を下げて、練習見てもらいたいですね。それぐらい技術がある選手ですね。今まで力強さは感じてた選手はいたんですけれども、そういう選手と比べても（ノゲイラは）凄いッスね。

——残念ながらジャパン勢の決勝トーナメント進出はなくなったんですけれども。

田村　まだBブロックの方で選手がいると思うんで。今日、たぶん僕が負けて「ざまあみろ」って思った選手がいると思うんですよ。だからそういう気持ちを決勝トーナメントに残って見せてもらいたいですね。だから僕は柳澤選手にでも本当に残ってもらいたかったんですが、ダメだったんで、Bブロックにいる日本人選手に頑張ってもらいたいです。前回ボクが大阪大会で煽るような発言をしたんで、今度Bブロックの日本人選手に期待したいですね。

——今日で田村選手の今年のKOKは終わったんですが、これからどうしますか？

田村　どうしましょうかね？

——しばらく休みますか？

田村　ノゲイラみたいな選手に、揉まれたいですね。ボクは今ジム指導をやってて、やっぱりジムの方は、（僕が）一番強いと思ってるんですけれど、強くなればなるほど、もまれる機会ってないんで。今日はノゲイラとやって収穫が大きいですね。練習したいッス、彼と。だからこれからのとはホントわかんないッスけど、今日は純粋にボクらがやってる総合格闘技で関節技の取り合いで、ボクは純粋にもっと練習がしたいっていう気持ちになりましたね。純粋にもっと強くなってもいいんじゃないかと。今度大阪でBブロックあるんでそれは是非とも日本人選手に頑張って決勝に残ってもらいたいです。

No.32 Main-Event

4

格闘 Do Judge 2000

佐竹戦直前!
激語りインタビュー

小川直也



10・9をDo Judge! 1

本誌編集部10・9緊急座談会 42
新プロレス?　純プロレス?
本誌のジャッジにより10・9はリングスの勝ちとさせて頂きます座談会

ボブ戦直前!ノブ兄さんの「青空プロレス道場」 16
髙田延彦

シャノン戦決定!　「グレイシー狩り」一時休憩!? 22
桜庭和志

行きまっせ大阪! 14
『PRIDE11』見どころ

禁断の「生アキラ」、新宿HMVに君臨! 32
前田日明

田村を撃破!　KOKの大本命はコイツに決定! 81
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ボヤキング・オブ・キングスとその弟子の師弟対談 84
金原光弘×滑川康仁

究極のドラゴン語録から見た破壊王復帰への道 129
藤波辰爾語録

ノアの“和製カレリン”遂に覚醒! 73
本田多聞

以外な師弟対談“打倒プロレス”同盟結成!? 142
小路晃×青柳政司

紙のプロレス RADICAL

2000
No.32
CONTENTS

Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
マツくん●Kun Matsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

古賀ゆきえ●Yukie Koga
笠井　修●Osamu Kasai

Cover Model
小川直也

Cover Photo
森鷹博

※「RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。フニャチン野郎には、わかるまい。

No.32 Semi-Final

アメリカ遠征現地リポート 30
松井大二郎

闘将、静かに吠える 57
ラッシャー木村

外人天国万歳!「世界のプロレス」大特集 97
アーウィン&クルスチェフ

『紙プロ』からパンクラスへの大胆提言第2弾! 65
パンクラスがおもしろいってホント?

クラブファイトで戦列復帰! 147
山本喧一

I元編集長が橋本復帰戦をブッタ斬り! 136
喫茶店トークiモード

Scandal & Scoop

WWFがまたまた内幕を暴露した! 105
プロレスにおける情報公開は是か非か

ビートたけし氏のご子息、あつし君がバトを語る 138
バトラーツDo Judgeせよ!

Radical Fight

不滅の「不純プロレス」 114
狂い咲きインディーロード

激動だった1ヶ月の復習用に 154
紙の新聞

リング外の情報をこまめにチェック 124
格闘笑点

『紙プロ』練習生・幸田珍が雑用を学びにみちプロへ! 126
潜入!　みちのくプロレス

FMWの人気者!　教えて、薫子ちゃん! 152
荒井薫子

Columns

元気が一番!!　スーパーコラム!!! 89
『BEST OF THE スーパーコラム』
花くまゆうさく／掟ポルシェ／堀越日出夫

吉田文豪人生劇場『書評の星座PART2』 118

『ザ・検証』 110
椎名基樹／せき詩郎

Another

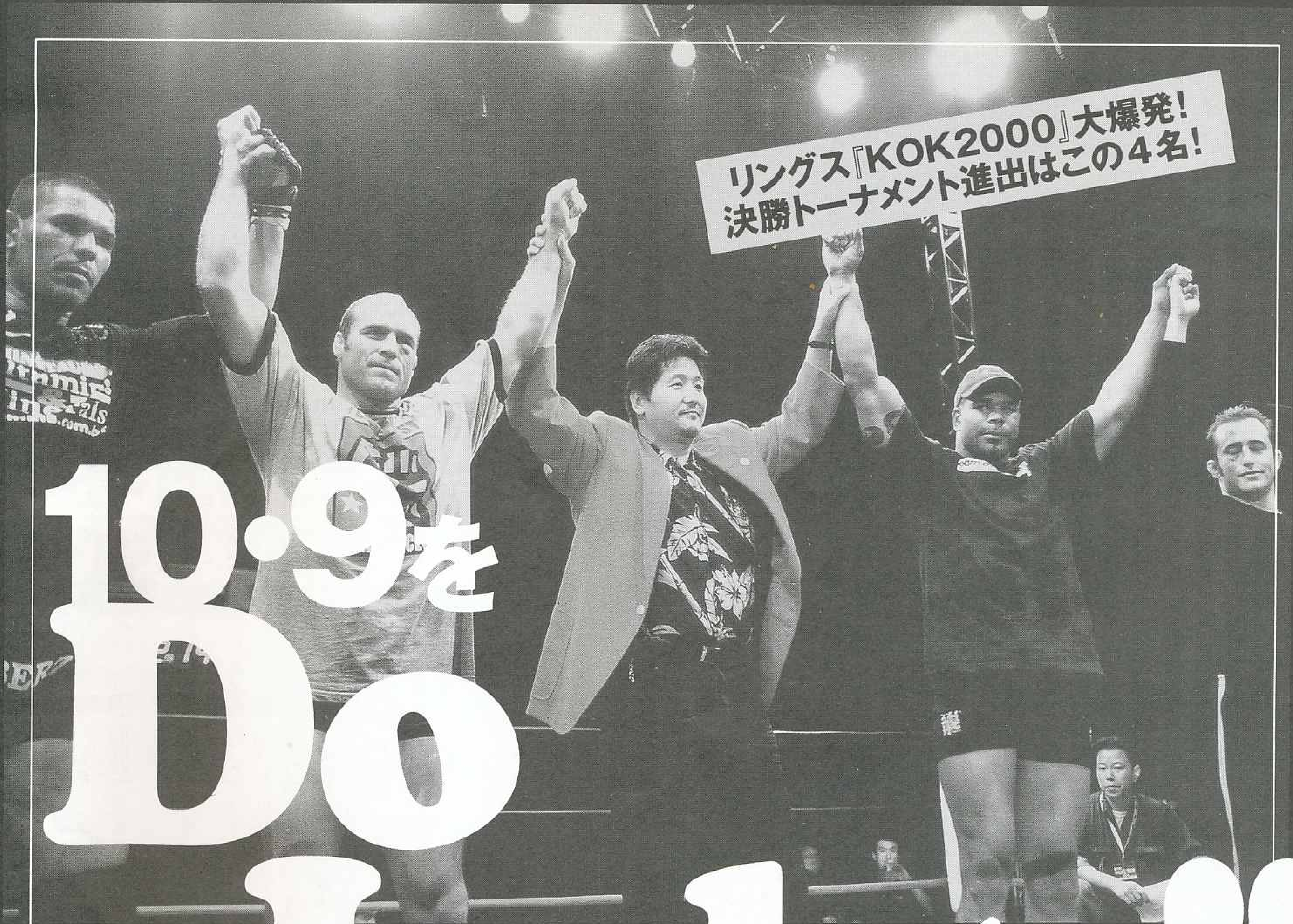
水戸泉（仮）の不祥事により、最終回 121
KAMIPURO UNIVERSITY

記憶よりも記録に残るプレゼントコーナー 158
オレ流読者プレゼント

RADICAL特製ピンナップ
荒井薫子
●
「摩天楼」
byヤマグチ ノリカズ

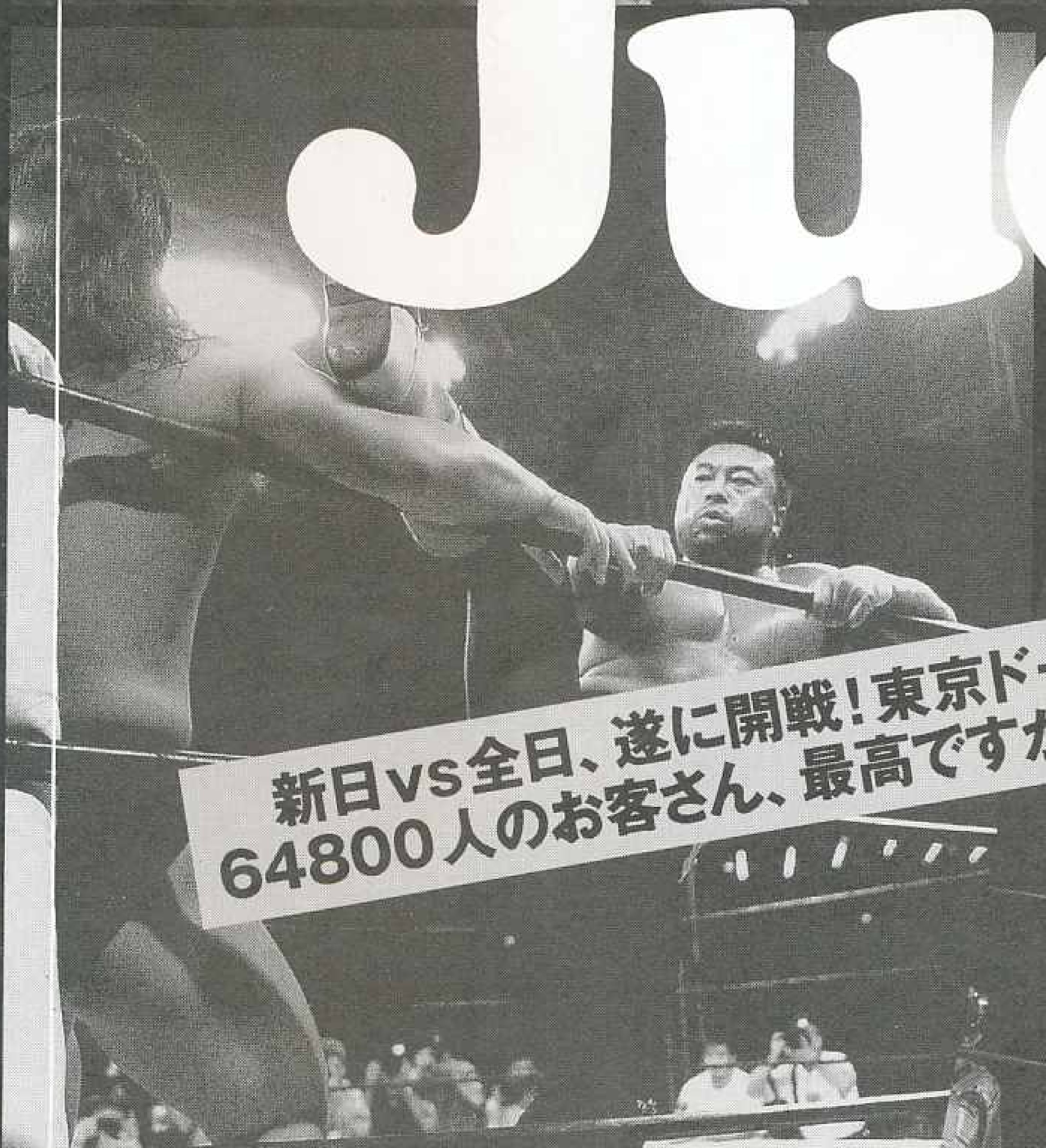
※真樹日佐夫先生の『無比人』は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

戸高アビバの座右の銘は「ベッドの上ではクールでありたい」なんだって――イカすね♥

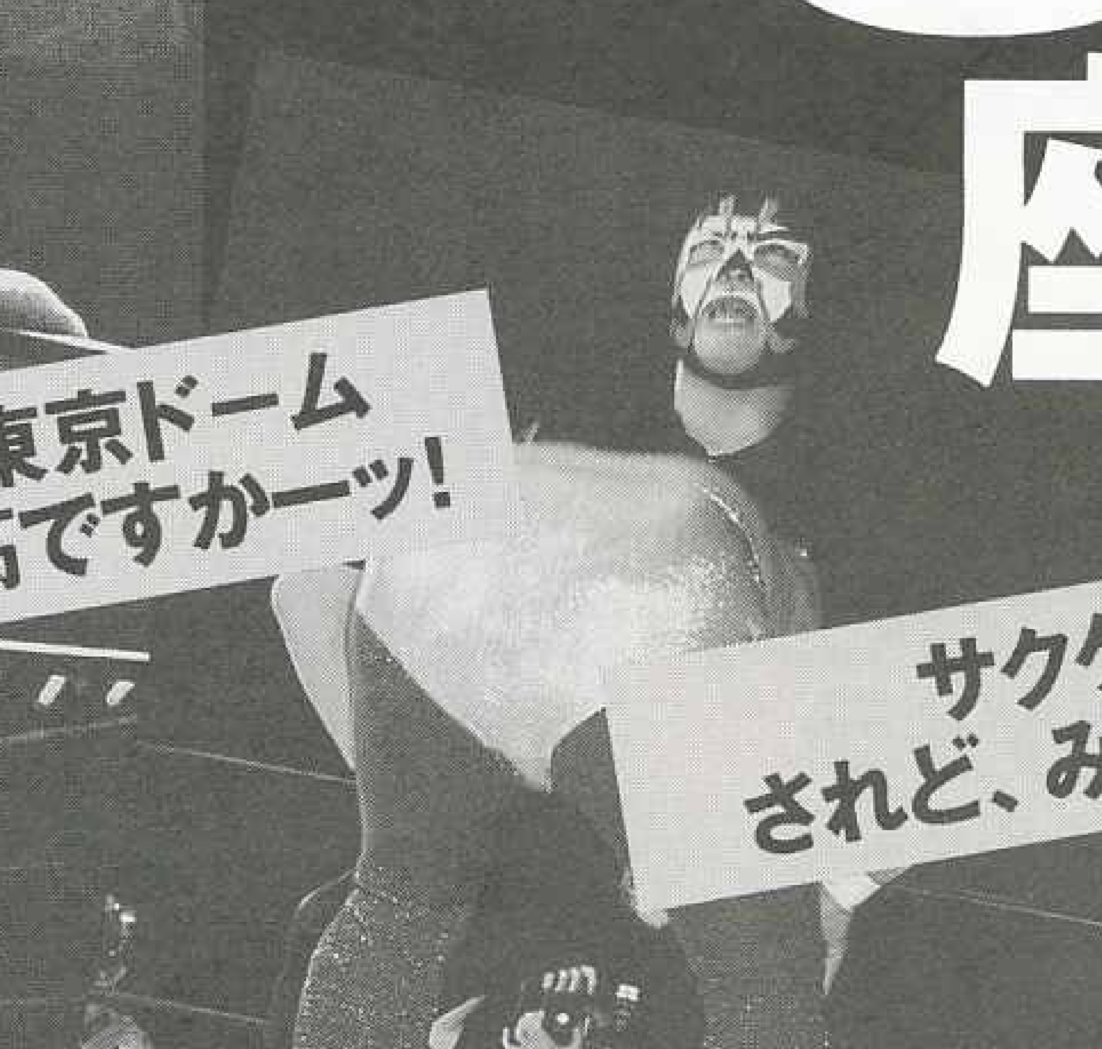


リングス『KOK2000』大爆発！
決勝トーナメント進出はこの4名！

10・9を Do Judge!! 座談会



新日vs全日、遂に開戦！東京ドーム
64800人のお客さん、最高ですかーッ！



サクケ、ドスに完敗！
されど、みんなの歌声に乾杯！

構成／松澤チョロ
text by Choro Matsuzawa

新日本対全日本という、最後の切り札を投入し、本誌に先がけて発行されたプロレス専門誌では「純プロレスの大逆襲！」と大々的に報じられるなど、"新プロレス"の躍進に一石を投じる格好となった10・9東京ドーム。しかし、本当にこれが"純プロレス"の復権に繋がると言えるのだろうか？10・9を本誌がドゥ・ジャッジ！

花道を泣きながら歩いてくる破壊王の人間性は断然支持したいね

山口 10・9は、オレは東京ドームで橋本（真也）対藤波（辰爾）の第一試合を見た後、リングスに行きました！

ガンツ 贅沢ですねぇ（笑）。

山口 非常に贅沢な一日でした（笑）。

豪 沢野さんも一緒にですか？

山口 そう。前猪木秘書と共にね。第一試合だけ見て、リングスに行ったんだけど。橋本対藤波を見た感想は、まあ、「笑った」とは言わないけど。

ノブ 笑ってたじゃないですか！

山口 笑ってないよ。「凄いものを見た」という意味では、笑ったんだけどね。まずね、とにかくプロレスファンは暖かい。で、花道を橋本が出てくる時に、橋本はすでに泣いてるんだよ。あの方向性は人間としては絶対に支持したいんだよね、オレは。

豪 あれはもう何も言えないですよね。

山口 そうそう、全然OKでしょ。

豪 ていうか、素で泣いてるのがわかりますからねぇ。プロレスとかそういうのを超えた、ホント、ナマの感情で泣いてるっていうのが。

山口 花道歩きながらさ、目が潤んでるじゃない（笑）。

チョロ でもお祈りしてるときは、普通なんですよね。ガッって入ってきた瞬間、入りこんで。

山口 やっぱ、橋本コールを聞いたからだよね。リングに上がったら涙を拭うような仕草してたけど。その人間性としての方向性は、ホントにオレは好きなんだよ。支持したいって言うか。

豪 千羽鶴を貰った時の涙も素でしたよね。

山口 うん。だから橋本は全然OK！で、試合はどうだった、豪ちゃんは。

豪 不恰好かつ不思議な試合で面白かったですけどね。

山口 面白かったよね、あれね。

豪 変なプロレスって絶対それだけでいいじゃないですか。いまの新日からはやっぱり、どっか外れた……。橋本対小川（直也）とかの危なっかしい不恰好なプロレスとは、また違うんだけども。

山口 うんうん。非常に窓際と言うか、瀬戸際と言うか（笑）。

豪 実権のない二人が、第一試合で何をやってるんだって気が非常にしますよね。

山口 しかもレフェリーは（山本）小鉄さんだからねぇ。

豪 新日の別会社の人ですからね。

ガンツ あれはドラゴン流解釈の「猪木プロレス」だと思うんですけどね。

山口 ああ、そっか。そういった意味ではそうかもしれない。

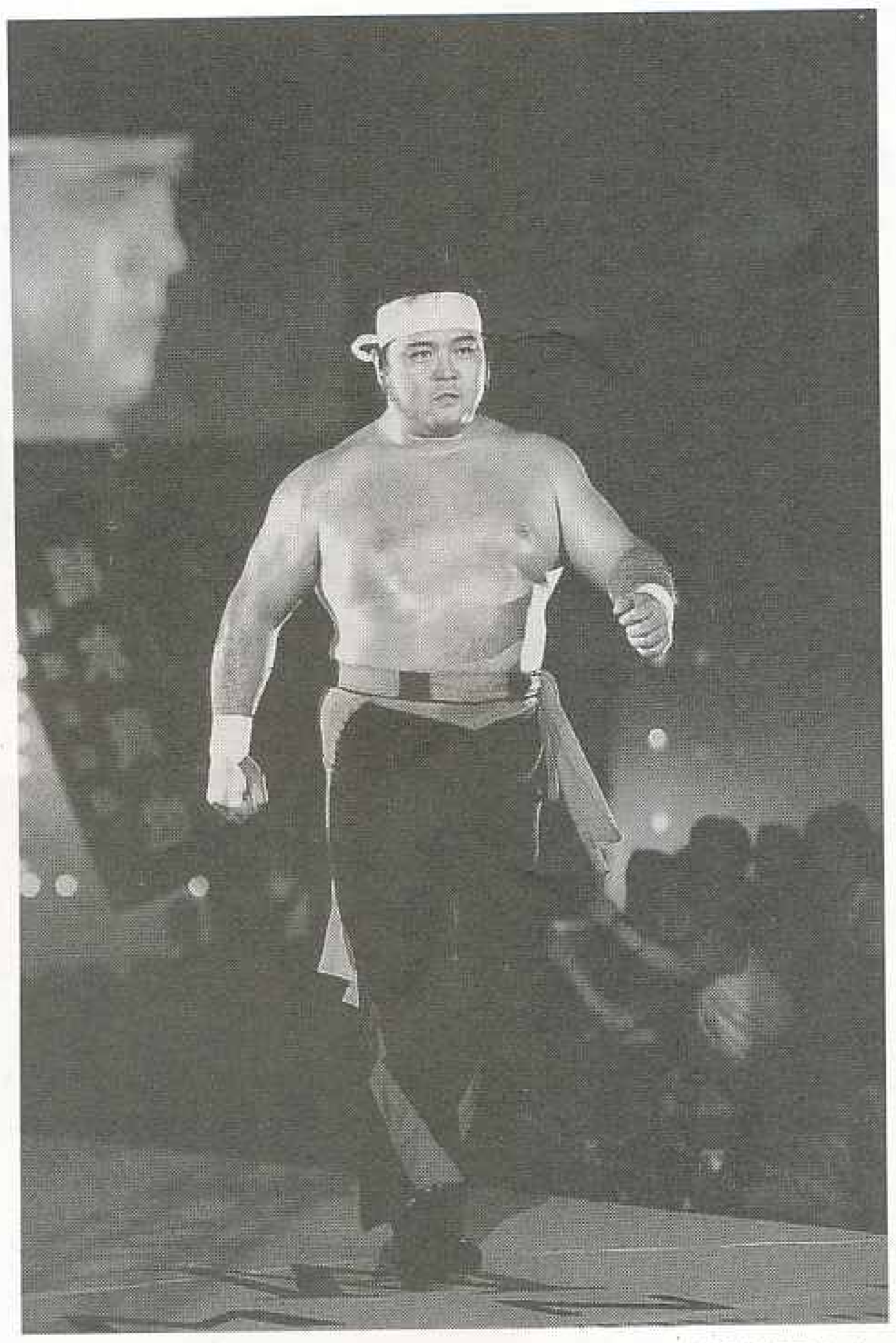
豪 突然キレて？　だけど逆に自分が制裁されてるじゃん（笑）。腰の入らないパンチの応酬ぶりっていうのも、何か凄かったですよね。

山口 手打ちのナックルパート。

豪 猪木さんみたいに腰入れながら手の甲で打つみたいなのとは違うじゃないですか。腰をドッシリ据えたまま、子供のケンカみたいな感じで（笑）。

山口 藤波も橋本も、一応怒りを表現してるんだけど、何に対して怒ってるんだかが、よくわからないよね（笑）。

豪 二人ともモヤモヤがあるのは凄い伝わってくるんですけど。



新日ファンが暖かく迎え入れた橋本の復帰戦。藤波社長を相手にして見せた破壊王の復活劇は格闘技路線と完全なるエンターテインメントの中間に位置する実に日本的な一戦だった。

山口 そうだね。スタイルとしては20年前のプロレス見てるような感じ？　藤波対橋本戦を見た限りではオッケーで、プロレスファンは凄く暖かいなと思って。居心地いいんだよ、プロレスの会場だから。だからこのままメインまで見て行きたいなと思ったんだけども……猪木さんの引退試合の古館（伊知郎）のナレーションの「旅から旅への精神の連続」ということを思い出して。

チョロ 水道橋から代々木まで移動したわけですね（笑）。

山口 そう。リングスに行ったわけですよ。そしたらリングスのファンが冷たいんだ、また（笑）。「田村ぁ、カッコいいよ、お前はよぉ！」とか、容赦ない野次が飛ぶわけ。でね、どっちが居心地いいかって言ったら、やっぱり冷たい方が居心地がいいんだよね。

豪 野次飛ばすような層が、全部そっちに行ってたんじゃないですか。

ガンツ ようやくリングスが〝場〟になってきたってことなんでしょうね。ターザン（山本）は頭っから『前田ワールド』としか考えてないですけど、もう『前田ワールド』じゃなくなっちゃってますよね。前田の理解をも超えてる気がするし。

豪 ターザンもそう言うんだったら、全日も叩けって（笑）。「全日コールなんかしてんじゃねえ！」って。

山口 その冷たさを田村が試合で黙らせるでしょ。それくらいの試合をしてるから、何かいいキャッチボールになってるんだよ。リング上と観客が。あまりにも新日は暖か過ぎるなっていうかね。

ノブ （負けずに）全日新日の対抗戦は暖かい上に盛り上がりましたからね。

豪 だけど本当に対抗してんの？

山口 オレね、ノブに質問したいんだよ。10・9ドーム最後まで見た人は？

ノブ （身を乗り出して）はい！　はい！　はい！

山口 ガハハハハ！

豪 玉ちゃん（玉袋筋太郎）みたいだな、お前。「わかりましぇ〜ん」とか（笑）。

山口 浅草キッドの昔のネタじゃないんだから、お前。非常にデルフィン達っぽくていいねえ（笑）。その感想を聞かせて欲しいんだけど。

ノブ いやあ、川田は素晴らしい試合をしましたね。

豪 キャラが素晴らしいんじゃなくて、試合が？

ノブ 試合が、まあ素晴らしいと。多分、あそこまでの興奮は一回限りだと思うんですよ。最初にやったから。そこでよくコケなかったっていうね。

豪 つまり、お前の喜びじゃないんでしょ、それ。会場の盛り上がりとかの

座談会出席者

山口日昇
噂には聞いていたが、まさかの締め切り直前の完全失踪。読者の時は笑えたが目の当たりすると決して笑えない本誌逃亡編集長（幸田珍）

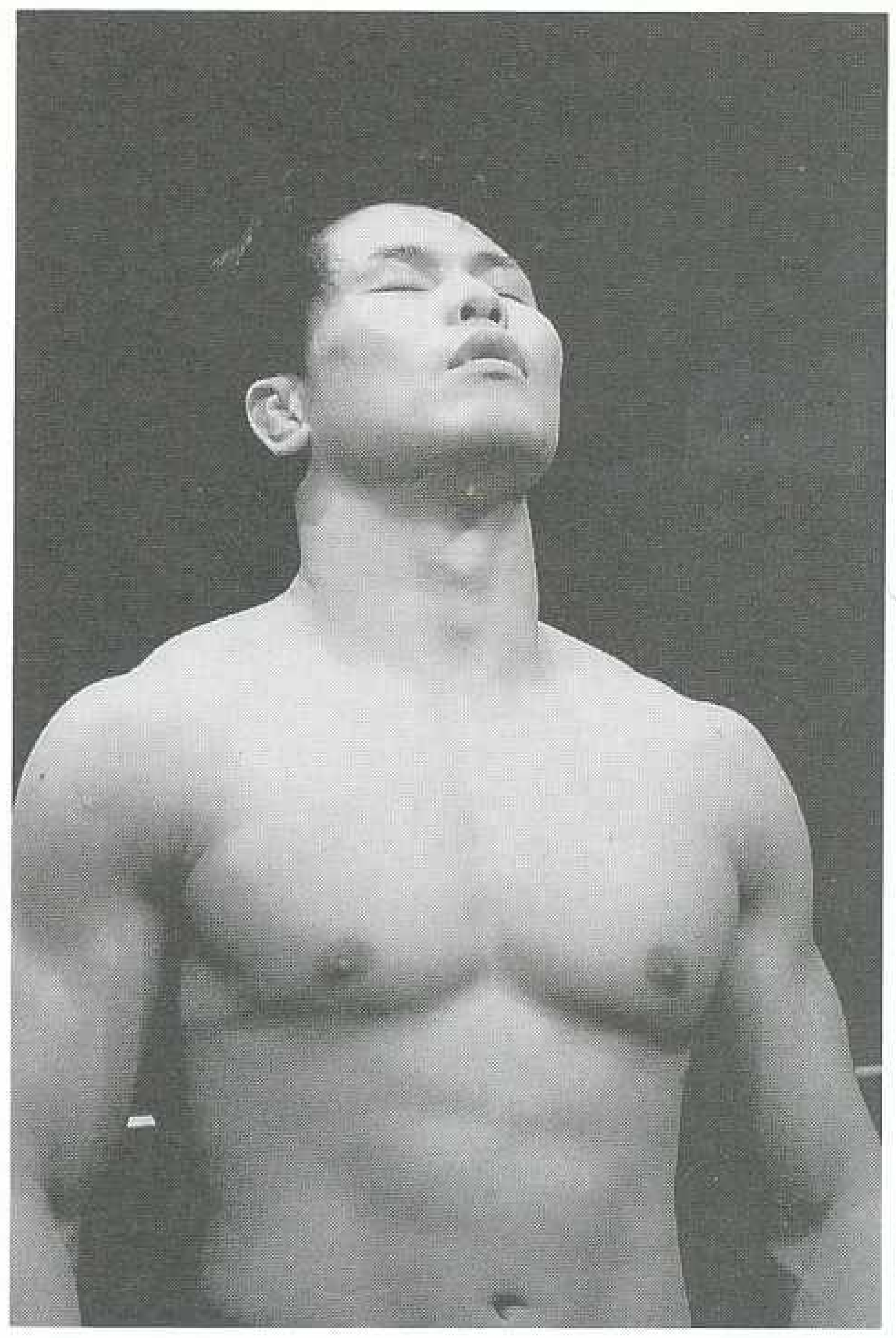
吉田豪
鬼のような仕事量をかかえても、表面上はシレーッとスカす、今時珍しい本物のダンディズムを貫き通す本誌スーパーバイザー（幸田珍）

スモーノブ
ボクには絶対「〜こわす」とは言ってくれない、スモー幻想ブチ砕くことこの上ない弱冠23歳のサウナ好き本誌編集員（幸田珍）

松澤チョロ
キャットファイトにレフェリーで出場するも、酔っ払い過ぎて出場選手以上の激しいカラミを見せた本誌デタラメ編集員（幸田珍）

堀江ガンツ
酔っ払うとヨシタク（吉田拓郎）をシャウトし、都合の悪いことはすべて忘れる本当に都合のいい酔い方をする本誌編集員（幸田珍）

評判でしょ。
ノブ まあ、そうですね……。
山口 「わかりましぇ～ん」か？（笑）。
ガンツ 川田が健介より上だったというのがわかったっていう、その「良かった」ですよね。
豪 だから三沢に受け身がヘタだなんだって言われてきた川田が、実は健介よりは巧かったっていうことでしょ？
ノブ それは、わかりましたよね。（大きな声で）それより「新日のトップだ！」って言い張ってた健介！
豪 言い張ってたって、失礼だな（笑）。
ノブ 「トップは長州じゃ」って大仁田も言ってましたから。それよりも、川田が素晴らしかったと。でも川田も素晴らしいと思うんですけど、もっとボクが素晴らしいと思ったのは、ノアの人達。
山口 何で、いきなりノアの話になるんだよ！
豪 唐突な持ち上げ方だな（笑）。
ノブ 10・7、8で見えたのが、やっぱ「プロレスって素晴らしいな」ってことですよね。
山口 ガハハハ！ お前、それ本気で言ってるんだろうな？
ノブ （ムキになって）本気ですよ。とりあえず、全日新日の対抗戦で見てたものよりも、ボクはもっと素晴らしいものをノアで見せてもらったと思ってるんで。
山口 まあ、ノアの話は置いておいて。
ノブ あれで〝純プロレス〟の最高峰みたいな書き方を、『週プロ』とかでしてましたけどね。
山口 『ゴング』もそうだしね。
豪 純プロレスは大丈夫みたいなね。
ノブ （熱くなって）「プロレスをナメるな！」ってホント思いますよね。
豪 ほぅ！ 噛み付くねぇ（笑）。
ノブ それに実況の時に、「王道」対「闘魂」とか言ってましたけど。
豪 それはホントに誰もが突っ込まなきゃいけないとこなんだけど、どっちも王道でも闘魂でもないでしょ。
チョロ 「健介の顔こそがストロングスタイル！」って言ってましたからね（笑）。初耳ですけど。
山口 やたらとストロングスタイルを連発してたよね、今回の辻さんは。
ノブ 試合前のドームのオーロラビジョンありますよね。馬場と猪木の顔が出てきて、カーッと交わるわけですよ。
山口 それはテレビでもやってたよ。
ノブ それを見てね、違うだろ顔がって思ったんです。長州と天龍が交わる映像じゃなきゃおかしいでしょ。
豪 新日対全日じゃなくて、長州対天龍だよ。WAR対ジャパンプロレスだろって、対抗戦としては。
山口 それは納得出来る。WAR対ジャパプロだったらわかる。
チョロ WARとジャパンだとバランス取れてて、いい対抗戦ですよね。
豪 それだったら誰も文句言わないけど、お前らが「王道」と「闘魂」の後継者なのかって。そこだけ引っ掛かる。健介が「俺こそ闘魂」って言い出したときから、おかしいとは思ってたんだけど。
山口 オレの感想から言うと、オレはテレビ観戦だったんだけど……ちょっと慎重にならないといけないな（笑）。あのね、歯が立ちません！（笑）。
豪 ボクらの感想と雑誌の評価が違いすぎましたね。
山口 ていうか、ネットとか見ると「面白い」っていう意見もあるし、ノブも面白いってその日は言ってたよね。だからオレはその日のうちにテレビで見てみたんだけど、それを面白いと思う感覚には、全く歯が立たないと言うか（笑）。
豪 予想以上に「面白い」っていう発言が多すぎて、ボクらは時代からズレてるのかなって。
ノブ だからどっちの力量が上かっていう目で見たら、「やっぱ健介は川田よりも…」っていう感じですよね。
豪 いや、そういうツッコミないじゃん。みんな素直に「全日は強い」とかさ、「『紙プロ』は川田をバカにしたけど、やっぱ川田は強いよ」って凄いピュアなお客さんが、無茶苦茶多かったわけでしょ。ああいうのを見ると、『紙プロ』はダメなんだなと思うね。
山口 時代に合ってないというよりも（笑）。時代に合ってないというよりも、6万4千人集まったというドームの雰囲気には合ってないということだよね。
豪 そいつらは買わなくていいっていう気持ちで、ホントいっぱいになりますよね。
山口 全然買わなくていいですよ、それは（キパッリ）。
豪 ホントに「全日と新日がついにやったぁー！」っていう単純な喜びで、盛り上がってるような感じが結構するじゃないですか。
ノブ そのお得感というか、看板は非常にデカイと思いますよ。
豪 だけど看板だけだからね。
ノブ 看板だけでも、あれだけ熱狂できるもんなんですよ、やっぱり。
豪 それは安上がりで幸せなファンだよね。
山口 試合内容自体も別に悪いとは思わないし、いいとも思わないんだよ、オレ。正直な話。
ガンツ でも、あれで〝四天王プロレス〟って言ったら、四天王に失礼な気がするし。あれを〝対抗戦〟って言ったら緊張感がない対抗戦で、存在する意味がないですよね。
豪 あれで〝痛みの伝わるプロレス〟って言われたら、格闘技に失礼だしね（笑）。
ガンツ 川田は「オレのキックは失礼」って言ってましたけど、あのフィニッシュはホントにキックを使う人に失礼というか。
山口 ていうか、お前の方が失礼だよ！
ガンツ 失礼しました（笑）。
山口 ホントにいいとも悪いとも思わない。何も引っ掛からないというのが、オレの感想。
ノブ 実際ああいう、キックとラリアットを打ち合ってましたけど、キャッチボールっていうものなら第一試合のパンチのキャッチボールの方が面白かったですよね。
山口 いや、面白いねぇ（笑）。
豪 測定不能なんだよね。
山口 何に対して訴えかけてるのか、よくわからないんだよね、第一試合は（笑）。
チョロ 藤波はドームではいつもボロボロになっちゃいますよねぇ。
豪 久しぶりに藤波見て死んだかと思った（笑）。
チョロ 膠着じゃなくて、硬直してましたよね。固まってこれはヤバイとか思って。
山口 そう、硬直あり！（笑）。藤波ってプロレスの職人だから、いつかのドーム大会で、藤波辰爾対石川敬士っていうのがあったよね。セミでこのカードはないだろうっていう雰囲気だったんだけど、見事に会場の雰囲気をひっくり返したんだよね。で、今はもう年が年だからさ、ああいう形になっちゃったけど、それでも職人としての意地が見えるわけよ。
豪 いつ何時、誰の技でも受ける！
山口 そうそう。
豪 受けきれないんだけどね（笑）。
山口 受けきれてないんだけど、その職人としての意地はOKなんだよ、オレ的には。小鉄さんのレフェリーとしての意地もOKなの。あまりどこが決まってるんだかよくわからないアームロックで、「折れ折れ！」言ってたりとか。
豪 「手首折っちゃうのかな」って？
山口 そうそう。あの昔のスタイルを今の時代に現出させてやるぞっていう、気迫はオッケーじゃん、小鉄さんの。で、橋本が泣いちゃうのもオッケー。


8月の大阪大会でのリングス・ジャパン批判で注目を集めた田村はトーナメント2回戦で敗退。ノゲイラから一本負けを喫したものの、実力のある選手と闘えたことに満足しているようだった。

みちプロはどうしたんだろ？ サスケの匂いがしないというし

格闘 Do Judge 2000

藤波の職人としての意地もオッケー。そういう意味で言うと、オレは第一試合で帰って正解だったなと思うんだよね（笑）。

ガンツ　それで第二試合はデルフィンですからね（笑）。

山口　ガハハハ！　デルフィンはデルフィンで、違う意味で見てみたいんだけど。（突然）面白い話があってね、某新聞社の記者が第一試合が終わった後にトイレでビック・サカ（坂口征二）と会ったんだって。かち合わせたんだって。そしたらビック・サカが「（ビック・サカ口調で）いい試合だったな、メイン喰っちゃうじゃないかなぁ」って言ってたらしいんだよ（笑）。

ガンツ　それはいい話ですね。

豪　そっちは本音なんですね。

チョロ　翌日の『東スポ』読んだら、メインは首脳陣関係が、みんな絶賛してましたけどね。長州から誰から。

豪　坂口も、「これで格闘技に流れるお客さんが戻ってくる」って。

山口　そうそう。あの発言はよくわからないんだけどね（笑）。

豪　ビジネスとしての発言なんですかね。トイレでの発言が真実？

山口　わからないよね、それは（笑）。東京ドームはトイレに注目！　ところでチョロ！　お前は10・9はみちのくプロレス行ったんだっけ？

チョロ　はい。

豪　みちのく見たかったんだよねぇ。

チョロ　何が見たかったんですか？

豪　歌！

山口　歌！　ガハハハ！

チョロ　でも、歌プラスアルファあるかと思って期待してたんですけど、結局なくて、ちょっと残念でしたけどね。

豪　スペシャル・ゲストが出そうな気がしたんだけどね。

チョロ　でも、太陽ケアの試合が中止になるよりは、杉作（J太郎）さんとデュエットが予定されてた岡元あつこがキャンセルだった方が……。

山口　ショックがデカイ？

チョロ　かなりデカイ（笑）。

山口　10・9の一日は、みんなそれぞれちりぢりにあちこちに取材行ってたわけだけど、10・9をモチーフにして、表紙コピーを考えようって言ってたんだけど。

豪　みちのくの10・9って、『週プロ』でも『ゴング』でも無視されてますよね。

山口　そうそう。速報も載ってないしね。で、オレの10・9を表現したコピーは「田村一本負け！　されど、KOK、純プロレスに一本勝ち！」なんだよ。ノブは？

ノブ　ボクはですね、藤波が硬直してる、そういうシーンを見て思い浮かんだコピーが「これが新時代のプロレス！」。

山口　ガハハハ！　それは違うなあ。

豪　それは旧時代だよ。

山口　化石のような試合じゃないか、それ（笑）。

豪　とんでもないもん掘り起こしちゃったっていう（笑）。

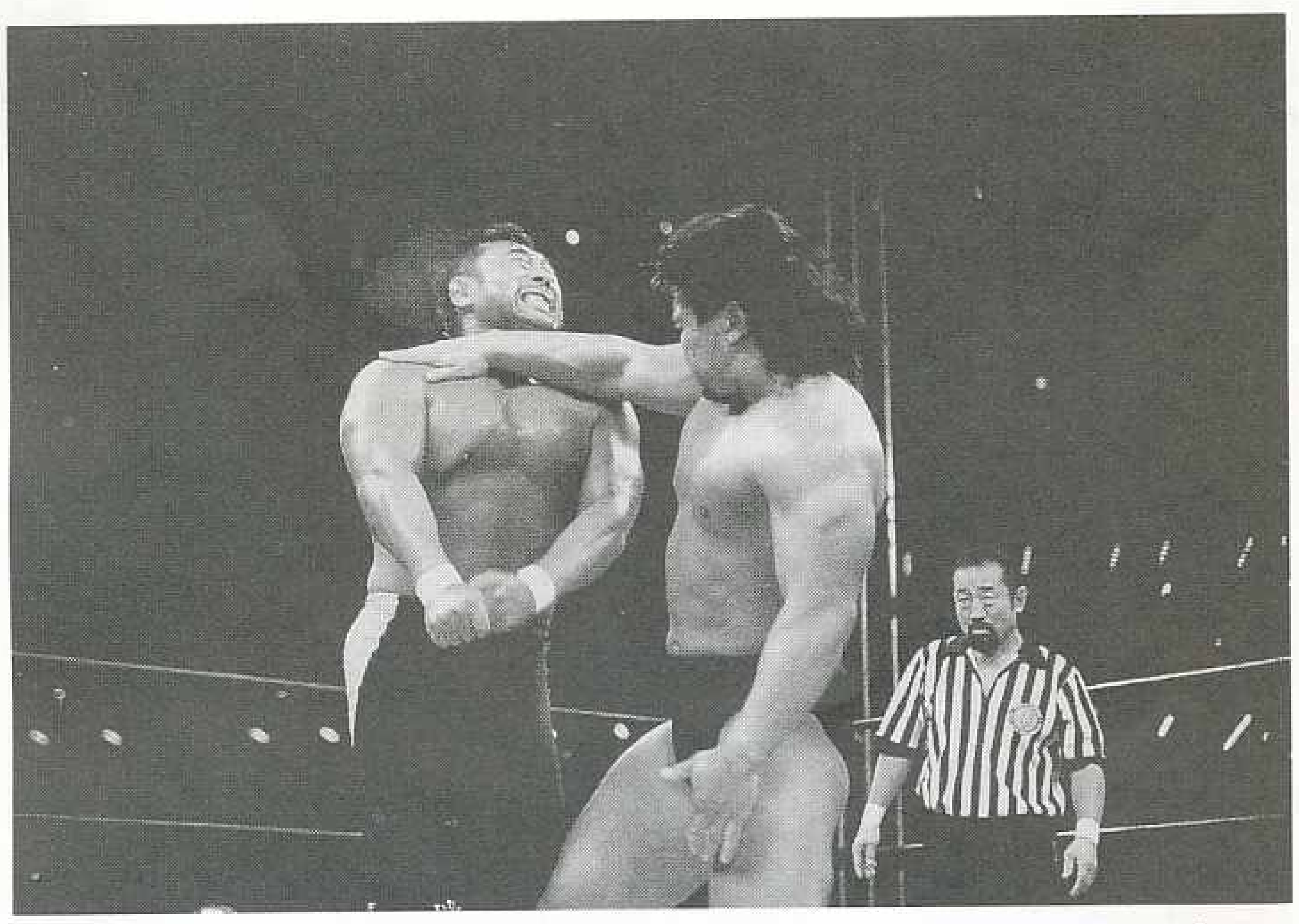
山口　で、みちのくに行ったチョロは？

チョロ　表紙コピーは「サスケ、ドスに一本負け！　されど、杉作J太郎さん一本立ち！」。

山口　この間は「赤組勝利」とか言ってたじゃん、お前（笑）。「赤組勝利」は面白いよ、それは。それを表紙にするのはOKだよ。でもウチは月刊誌だから読者ページでやってくれ（笑）。で、みちのくはどうだったの？　今はどんなことをやってるの？

チョロ　やっぱりいま、浪花が抜け、藤田が抜け、言葉悪いですけど、寄せ集めの上に紅白歌合戦っていう感じでみちのくの色は出てないんですよ。どっちかと言えば、新宿プロレスのような感じですね。

豪　でも前日のディファ有明大会のレポートを読むと、メチャクチャ面白そうじゃん。



健介と川田による、遂に実現した新日本と全日本のトップ同士による頂上対決。東京ドーム内では、すさまじい盛り上がりを見せ、年間最高試合の呼び声も高いが、世間にどこまで届いたのか疑問だ。

チョロ　だから「想像を絶する」っていう部分が、ディファの方に全部行っちゃったっていうか（笑）。サスケ対丸藤っていうノアとの交流戦があって、それとビックサプライズとしてカズ・ハヤシ、TAKAみちのくが入場ってところで。でも、昔のみちのくの良さ薄れかけてるかなと。サスケもちょっと元気ないし。

山口　ある人によると、「サスケの匂いが全くしない」っていう意見があったんだけど、どうなの？

豪　サスケ対丸藤は試合がどっちも淡泊だったんでしょ？

ノブ　でもサスケって前から試合は淡泊じゃないですか。頭を割っちゃったりっていう、色々なハプニングがあって、そっから盛り返すときのサスケが凄い不死鳥のように感じたわけじゃないですか。

山口　ネットの書き込みとか見てると、みちのくに関する書き込みがほとんどないんだよ（笑）。だから「どうしちゃったんだろ、みちプロ」っていうのは、あるよね。

チョロ　サスケの元気のなさって言うか、割と悩んだりもしてるとは思うんですけど、それが試合に出ちゃってるような……。

山口　なるほどね。でもある意味で、エンターテイメントプロレスなんでしょ？　興行としては。

チョロ　まあ、そうですね。ミックスドマッチありの、ルチャがありの……。

豪　第0試合もありの。

山口　まあみちプロはある種エンターテイメントだと考えると、「純プロレス」の新日本を一日見た感想はどうなの？

ノブ　それで「純プロレス」を一日見た感想は……。

山口＆豪　（元気よく）は～い！　は～い！　は～い！

ノブ　（無視して）やっぱり今回はアンケート採ったんですけど、その結果を見るにつけ、ボクもやっぱ違う……。

山口　何だよ？

ノブ　ボクはあの6万人の大観衆の中に溶け込んで、「ワーッ！」とは出来ないんですけど。

山口　そりゃそうだろ、お前記者なんだから！（笑）。お前が拳振り上げてたら大変なことになるよ。

豪　「川田潰せェーッ！」ってね（笑）。

山口　仕事しろよ、お前！

ノブ　いや、気分的にですよ。そういうことはできないんですけど。やっぱり端々に見えたのは、ボクが見た限りですけど、新日が随分トチ狂ったことをやり初めてオモシロいなと思いましたね。

山口　ガハハハハ！

豪　ノブの方が恐いよ。キチガイよばわり？

ノブ　だって、ドームのセミで「MR．T」ですよ？

山口　ストロング・マシーンが出てきたらしいね。

千羽鶴を踏み潰すくらいじゃないと
これからの橋本は危うい

豪　「MR T」があれだけ騒がれて、何者なのかと。で、ずっと気になってるところで蝶野が「Tは友達のT」っていう謎掛けをしたりしながら。

山口　天山が「MR Tはオレだ」と言ってみたりね。

豪　「まさか後藤達俊じゃないよな」っていうのはあったのにね。

ノブ　入場してきたら……ねえ?

豪　達俊マシーン(笑)。

ガンツ　しかもマシーンのテーマは誰も知らなかったっていう。

ノブ　解説の柴田さん風に言うと「後藤だな」っていうのは、みんな入場シーンで気づいてるわけですよね。

豪　だって金髪も出てるし。

ノブ　そっから試合のトーンって一気に下がったんですよ。

山口　なんか、全然湧かなかったらしいね、セミはね。

ノブ　やっぱ何なのかなと思ってずっと最後まで見てたら、平田が出てきて、「お前、後藤だろ!」っていう。

豪　凄い寸劇があったわけだよね。

チョロ　「お前、後藤だろ!」とは言ってないんですよね。

ノブ　言ってないの?って言うか何言ってるかわかんなかったし、現場では。

山口　結局何て言ってたの?

ガンツ　「マシーンはワシじゃ!」って言ってたらしいですよ。

チョロ　そういうことやらせたらやっぱりDDTとかの方が全然小慣れてて、それに比べると新日のは練れてないと言うか。

山口　じゃあサイドストーリーとしても、DDTに劣っちゃうわけだね?

チョロ　伏線をどんどん張っていったのに、オチが練れてなかったらお話になりませんよ。それはあの6万人の大観衆の前で披露するものじゃないですよね。

ノブ　新日的には、あれで受けると思ったんじゃないですか?

チョロ　「お前らの裏を掻いた」みたいな(笑)。

豪　「うわ、後藤だぁー!」って?

ノブ　しかも「お前、後藤だろ!って平田が言ったらオモシれえじゃん! ガハハハ!」なんつって。

豪　フロントはきっと大爆笑だよね。「今、マシンブームだしなぁ。これでフィギュア出せるよ」っていう感じかな(笑)。

山口　ガハハハ! ビジネスになるぜって?

豪　だから、TEAM2000の選手が他にマスク被ってたわけじゃん。3人マスクマン揃えてたから、そこも桜庭のコピーなんでしょ。

ノブ　ゆくゆくは桜庭(和志)を上げようっていう魂胆ですよね、きっと。

豪　そこまでは考えてないだろ(笑)。

チョロ　そのうちマネージャーとして若松(市政)を上げますよ。

豪　無駄に『PRIDE』の電波を感じますよね。

山口　じゃあ『PRIDE』とかを逆にパロディにしてやれっていう、そういう悪意もこもってるのかね?

豪　悪意よりも『PRIDE』がああいう商売してるんだから、ウチも商売するっていう(笑)。

山口　「元祖はウチだぜ!」ってこと?

ノブ　燃える商魂ですよね! ウチが、スーダラスタイルTシャツの黄色とか紺とか出してるじゃないですか。そしたら新日が速攻で出しましたもんね、同じヤツ。

豪　そうそう。ウチも商売するぞ! みたいな。訴えるとかじゃなくて、ウチも同じことするぜ!って。最近の新日は凄いですよ。

ノブ　そういうフットワークは素晴らしいんですけど……、だから10・9はあと一歩でしたね。

山口　それはポイントがずれてるっていうこと?

ノブ　そうそう。もう一つ突きぬければ、新日は大爆発しますよ。

山口　藤波対橋本は今の新日本からは、ちょっとずれてたよね。まあ、ずれてるから面白いんだけど(笑)。でもあの試合だったら、オレはバトラーツのバチバチの方が面白いと思うよ。

豪　というか、面白かった?

山口　いや、最近の石川対村上とかも面白いよ。で、橋本対藤波こそ、オレはエンターテインメントに針を振って欲しいんだよね。

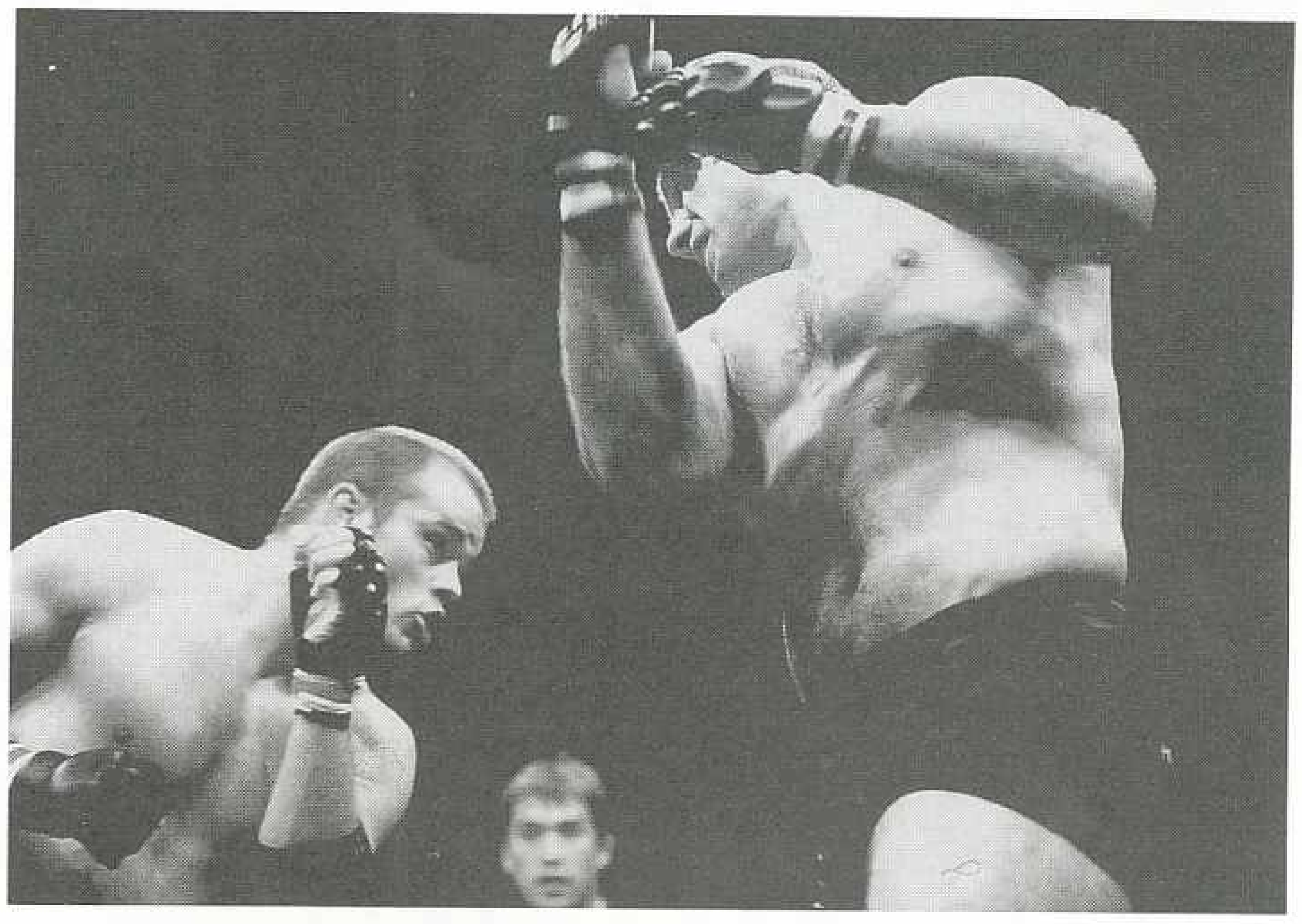
ノブ　でも『スポコン』からの流れとか考えても、やっぱりあれはエンターテインメントしようとしてるじゃないですか。入場ゲートのところに鶴が置いてあったりとか。

山口　だからあれをエンターテインメントだと仮定するなら、橋本があの後に独立宣言して、今後の橋本がどうなるんだって言うのは、見えないじゃない。

豪　そういうのもリング上でやって欲しいですよね。リング上で独立宣言やって、最近なにかと噂の安田(忠夫)がサッと寄り添って、そこで二人で何かしてっていう。

山口　そういうベタなことはやりたくないっていう意地とかも、もしかしたらあるのかもしれないけど。

豪　だったら「マシーンはワシじゃ!」は、やらないでしょ(笑)。



まさに総合格闘技の未来形と呼ぶに相応しい試合となった、ジェレミー・ホーンとランディ・クートゥアーの一戦。こんな試合がトーナメントの1回戦で組まれてしまうところが、リングスの魅力である。

山口　いやいや、橋本個人か藤波一派にはあるんじゃないかな?

豪　「オレたちはストロングスタイルだ」とか。

山口　そういうこだわりがあるから、針振れない部分もあるのかもしれないけど。でも千羽鶴くらい引き破って欲しいね、オレは(笑)。千羽鶴をグシャグシャに踏み潰して、千羽鶴兄弟にボディスラムやったらヒールになるじゃん。そこに怒った藤波がマジで突っ掛けていって、ヒール対ベビーフェイスになるっていうね。それくらいショッキングなことやってくれないと、オレは橋本の今後って、あの試合を見た限りでは危ういと思うんだよな。

豪　逆にたっつぁんが子供を襲ったりするダーク・ドラゴン路線もいいですね(笑)。

山口　マニアは大喜びするだろうけど、オレはもうちょっとわかりやすくていいんじゃないかなと思うんだよね。

ガンツ　それか自分の子供連れて対抗したりして(笑)。

山口　だから橋本対藤波がストロングスタイルを引きずってて、それをやりたくないってこだわりもわかるんだけど。でも復帰戦だからさ、ショックは与えなきゃいけないじゃん。

豪　ショックではありましたけどね。たっつぁんのダウンが。

山口　千羽鶴くらい踏み潰して欲しいっていう願望はあるけどね。だってあの試合で「純プロレス」の世界に戻ってきたんだからね。

ノブ　何やっても許されるわけですからね。

豪　でも、たっつぁんのダウンって、VTに出た時のケンドー・ナガサキのダウンみたいでしたよね。

山口　見事だったよね、あれは(笑)。それで、たっつぁんのセリフが面白い

んだろ？ 前日の調印式で。

ガンツ あんだけ毎日、スポーツ新聞で煽ってんのに前の日になって、「突然の指名だったんで、今慌ててコンディション調整してます」って（笑）。

山口 前日じゃねえか（笑）。だからその慌ててコンディション調整したのが失敗して、硬直しちゃったんだろうけど（笑）。でも確かにずれてて面白いよ。でも、その後、見たリングスとどっちが面白いかって言ったら、オレは文句なしにリングスなんだよね。

豪 ストロングスタイルは『PRIDE』にもありって前号でやってましたけど、リングスにもあったわけですね。そういうストロングスタイル云々って、健介もメインで言ってたわけで、それに対する蝶野のMR. Tって、ある意味革命と言うか、嫌がらせと言うか。そんな気がしますよね。冷静に中身を考えたら、大変な対決ですよ。平田対後藤のブロンドアウトローズ対決でしかないんですから（笑）。

山口 でもそう考えたら、やっぱりネタ不足、というかネタが練れてないよね。

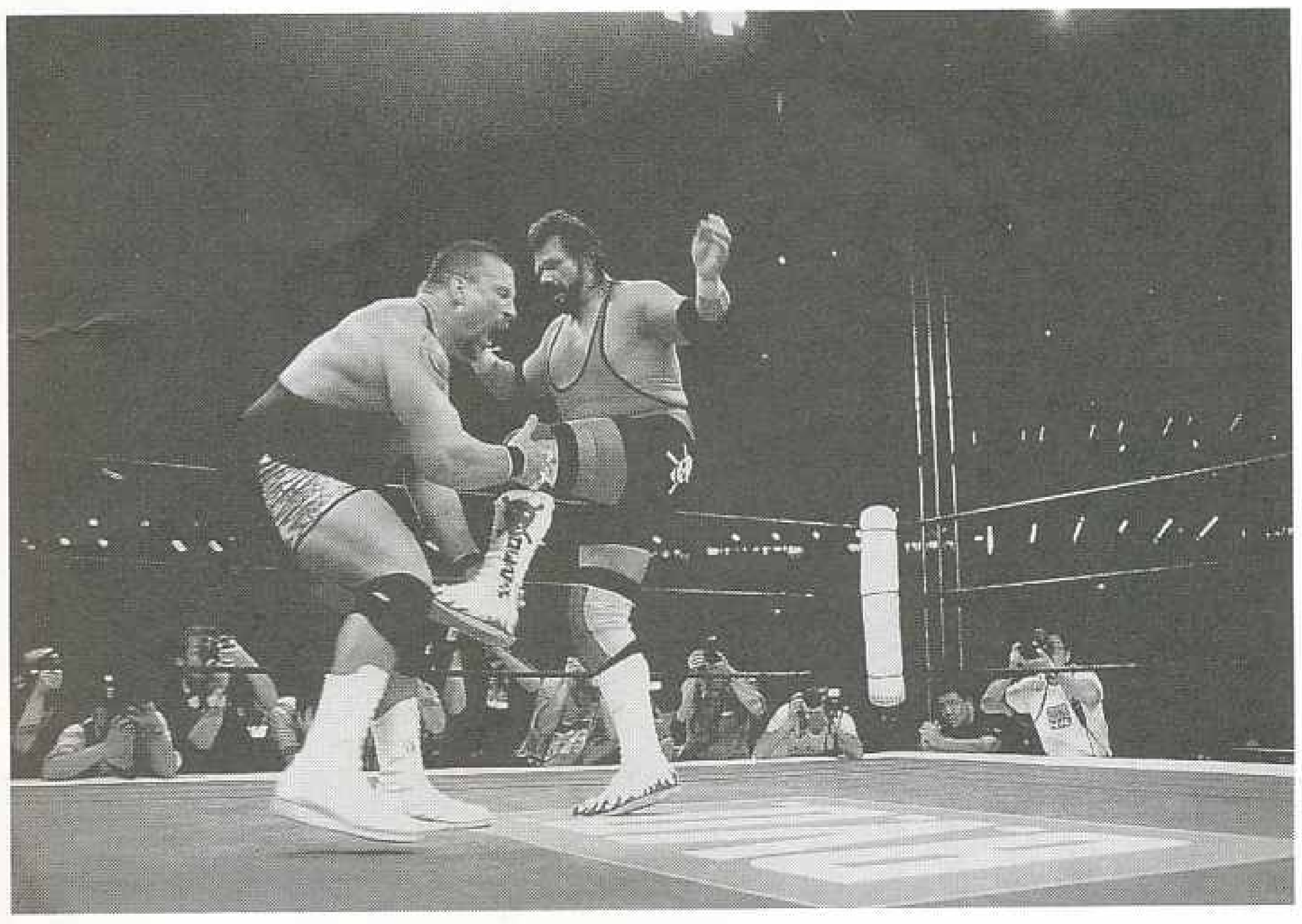
豪 ネタっていうか、中身不足（笑）。

ガンツ いまはエンターテインメントか、勝負論しかないと思うんですよね。

山口 だからその真ん中の、いわゆる猪木さんが言ってる、「日本には日本のプロレスがある」っていう、そのプロレスがいまは全くないわけだよね。

豪 それを必死にやろうとしてる藤波とかもまだ……。

山口 それをやるには藤波は年を取り過ぎちゃってるし。



東京ドーム大会終了後のアンケートでは、川田の次にMVPに推げる意見が多かったウイリアムス。試合内容はともかく、対抗戦ならではの存在感を見せたと言える。

逆に言えば藤波っていうのは、表現ヘタだからさ（笑）。

ガンツ 猪木さんが言う日本のプロレスっていうのは、勝負論として世間に届かせるプロレスのことなんでしょね。

山口 どういうこと？

ガンツ だから、いわゆる真剣勝負っていう言葉は使わないですけど、「どっちが勝つんだろ、どっちに勝って欲しい」っていう、そういう興味で広く世間まで届かせるんですよね。だけど今回の健介対川田戦っていうのは、ドームに集まった人とプロレスファンだけで世間の人にとっては全く関係がない状態じゃないですか。

豪 プロレスファンもやる前から「やっぱり川田か」って思ってただろうしね。

チョロ キャラ的には、どっちも潰してやるって言うか、勝負論を期待出来る二人ではあるんだけど、そんなのを気にしないっていう、昔のジャンボ（鶴田）と谷津（嘉章）とか木村健悟と木戸（修）の対抗戦の方が、やっぱり緊張感はあるんですよね。

ガンツ 緊張感の差がありますよね、10年前の2・10と、今回のと。

豪 あの試合はスゥイングしてたけど、中に意地とかしっかり見えたわけでしょ。

山口 スタイル対スタイルだったよね。

豪 今回の川田対健介戦はスタイル一緒ですからね。

山口 そうそう。Uインターとの対抗戦はイズム対イズムが垣間見えたけど。

豪 後髪が長いレスラー同士はスイングしますからね（笑）。

山口 今回はイズム対イズムもオレは見えづらかったんだよね。見えづらかったって言うより、見えない！

豪 長州イズム対天龍イズム！ そりゃあスイングしますよ、誰がどう見ても。そりゃ打ち合いますよ、ラリアット。

山口 そういう意味で、もしあれをプロレスファンがよしとするなら、オレは純プロレスにはホント歯が立たないわ、全く。

豪 そういう意味でプロレスラーとはどうあるべきか考えさせられるような話を、張本（勲）インタビュー（『TVチョップ』）で聞いてきたんですけど。

山口 どういうこと？ それ。

豪 張本は（力道山）さんと仲良かったから、力道山対木村の話とか聞いたんですよ。村松（友視）さんが言ってたじゃないですか。「あの試合は実は、『朝鮮人』と言われたことで暴走した」っていう話が出てきたっていう。あれは絶対、力道山について村松さんがあまりモノ知らないから、木村サイドが教えてるだけだと思うんですけど（笑）。それをぶつけたらあっさり言うんですよ。「ええ、そうです」って（笑）。「あの試合は最初から引き分けることになってたんだよね。プロレスっていうのは八百長とまでは言わないけど、ショーだから。でもね、ショーだけど何が力さんが凄かったかって言うと、あの人は本気で怒るんだよ」と。試合中に必ず本気で怒っちゃうから相手のレスラーも恐いし、それで潰さないように身体を鍛えてきてると。だからいまのプロレスと違うんだよって話をしてたんですよね。

山口 いい話だねえ。

豪 いい話ですよね。

山口 猪木さんもやっぱりそうだからね。本気で怒るし、怒りをきちんと表現するからね。

豪 その辺は重要だなっていう。

山口 村松さんは言ってたけど、「プロレスの根っこには人種抗争というものがある」って。アメリカンプロレスも元はそうだったじゃない？

豪 完全にそうだし、いまもそうですよ。

山口 いまもそうか。いまはやっぱりある意味平和な時代だからさ、なかなか人種抗争のギミックっていうのは届きになってるじゃない。

豪 ギミックなしでも長州とかは、そういう匂いがあったじゃないですか。健介とかが致命的に受け継げないのは、そこなわけですよね。怒りのない長州コピー。

山口 そう。だから何に対して怒ってるんだか、よくわからない。

豪 父親を殺した男とか、そういう方面には怒ってるんだろうけど。

山口 それはまずいだろう（笑）。

豪 凄くプライベートな（笑）。

山口 だからガンツが言ったのは、凄くいいヒントになって、ドームに集まってる人達だけにしか、勝敗の興味は届いてないんだよね。

豪 勝敗自体は単純に興味あったと思うんですよ。

山口 そう？

豪 だから「新日と全日どっちが勝つかなぁ」っていうレベルでしか見てない。

山口 でも猪木さんが言ってるように、最初っから勝負は見えてるんだよね。

豪 まさか見えてる通りのことするとは思ってもみませんでしたけどね。

チョロ 全日は、もう企業として、力も弱まってますからね。

ノブ 全日ファンの人とかに話を聞くんですけど、真剣に「取り込まれないで欲しい！」とか「潰れないで欲しい」とか。

豪 もう潰れてるようなものじゃん！

ノブ もう祈りにも近い感じなんですよ。涙なんかボロボロ流しちゃうような感じで。

豪 そういうプロレスファンはいらないよ。リングスファンにもそういうファンいるじゃないですか。

山口 いる？

豪 そういうヤバイ人。

山口 ガンツみたいなの？

豪 ●チガイ電話かけてくるじゃないですか。だからそういう狂信的なファンはいらないですね。

山口 狂信的なファンはいてもいいの。

ガチンコで面白い試合をやったら純プロレスはかなわないよ

いてもいいんだけど、それが中心に来ちゃったらマズいだろってことだなんだよね。

豪 パンクラスはそういうのが目立って叩かれてたけど、どこでもいますよ。『紙プロ』の狂信的なファンも気持ち悪い電話かけてきたりするし。

山口 『紙プロ』の狂信的なファンはとっとと消えて欲しいね、オレは（笑）。「自分が『紙プロ』の一番の読み手だ！」みたいなヤツいるじゃん、ネットとか読んでると。そういうヤツに限って、何も読んでないからね。

豪 「昔の『紙プロ』は良かった！」って散々言いながら、「竹内義和は素晴らしかった」とか言い出したりして。違うだろ、お前って言う（笑）。そういう人いますからね。びっくりしますよ。

山口 だからびっくりすることだらけなんだよね、新日本を見てると。

豪 いまの対抗戦に関するネットの反応でびっくりしたのが、「今回の対抗戦には緊張感とか全然ない。それに比べて武藤対高田は緊張感があった」って書き込みで。「え〜、そうだっけ？」って。その小さな差でもあると思うんですよ。若いファンの間で。

ノブ リングスは何が素晴らしいんですか？

山口 リングスには勝負論と観客論があるんだよ。簡単な話を言ってしまえば。

ノブ 勝負論はまあわかりますけど……観客論って何ですか？、リングスの観客は、さっき言った冷たい野次を飛ばすとか？

山口 いやいや、それは観客を論じてるってことだろ。オレが言ってるのは観客論のことだよ（笑）。

ノブ なんスか？ 観客論って。

山口 ガハハハ！ つまり、キミ用にわかりやすく言うと、ガチンコで面白い試合をやったら、純プロレスはかなわないよ、と。

豪 ガチンコはつまらないっていうのが、これまでの前提だったわけだよね。だから初期の『PRIDE』とかも、結局、勝敗論以外は別に何もなかったわけじゃん。「高田負けました」って以外に意味はなかったりするよね。

山口 ガチンコでやったら面白くないっていうのが、格闘技側の言い側だったんだよ。「つまんなくて当たり前だろ」ってことだったんだよ。

豪 それが桜庭の台頭から変わってきましたよね。

山口 わかりやすく伝えられたわけだよね。やっぱり田村とかも、勝負論の緊張感を持ちながらも凄くスイングする試合をやって。Uスタイルって言ってもいいくらいの試合をやってるわけだよね。それを見せられたら、やっぱり純プロレスは勝ち目がないじゃない。そこで純プロレスが何をやればいいのかって言ったら、さっき豪ちゃんが言ったような〝怒り〟を表現することだったりするんだよ。根っこにある人種抗争であったり、人種抗争をモチーフにして、猪木さんは軍団抗争だとか、そういったものに置き換えてきたわけだからね。ネットに一つだけいい書き込みがあって、横山やすしが言ってたことなんだけど、「最近の芸人は芸を盗むんじゃなく、ネタそのものを盗む」って。だから軍団抗争とか、いわゆるプロレスの根源的なもののネタをパクってはいるんだよ。軍団抗争やったりと色々なものをやったりとかしてるんだけど、そこに根っこの怒りがないし。何のためにプロレスをやってるのかというか、根っ子の部分を考えてるプロレスラーが少なくなってきてるよね。

豪 長州は下からのし上がろうととする思いを込めてラリアット打ってたのが、いまは何のためにラリアットを打ってるんだろうっていう。

山口 そうそう。長州力にはやっぱりその当時、維新軍の頃には、のし上がってやろうと本気でそう思ってたわけだしね。いまの新日本のプロレスラーからはそれが見えないから、大技の応酬になるわけでしょ、怒りって部分を何とか見せようとして。そういうプロレスだったらオレは、リングスの面白さにはかなわないと思うし、『PRIDE』の面白さにもかなわないと思っちゃうんだよ。でも、「そんなことはない、純プロレスは面白い」って言うんであれば、オレはホント歯が立たないし、純プロレスには触れないようにしようと思っちゃうんだよ。

豪 純プロレスは評価出来るんだろうけど、「この間の川田対健介が最高だ」って言われたら、それは、ちょっとっていう。

ノブ 純プロレスっていう括りにしちゃうと、また難しいんですけどね。

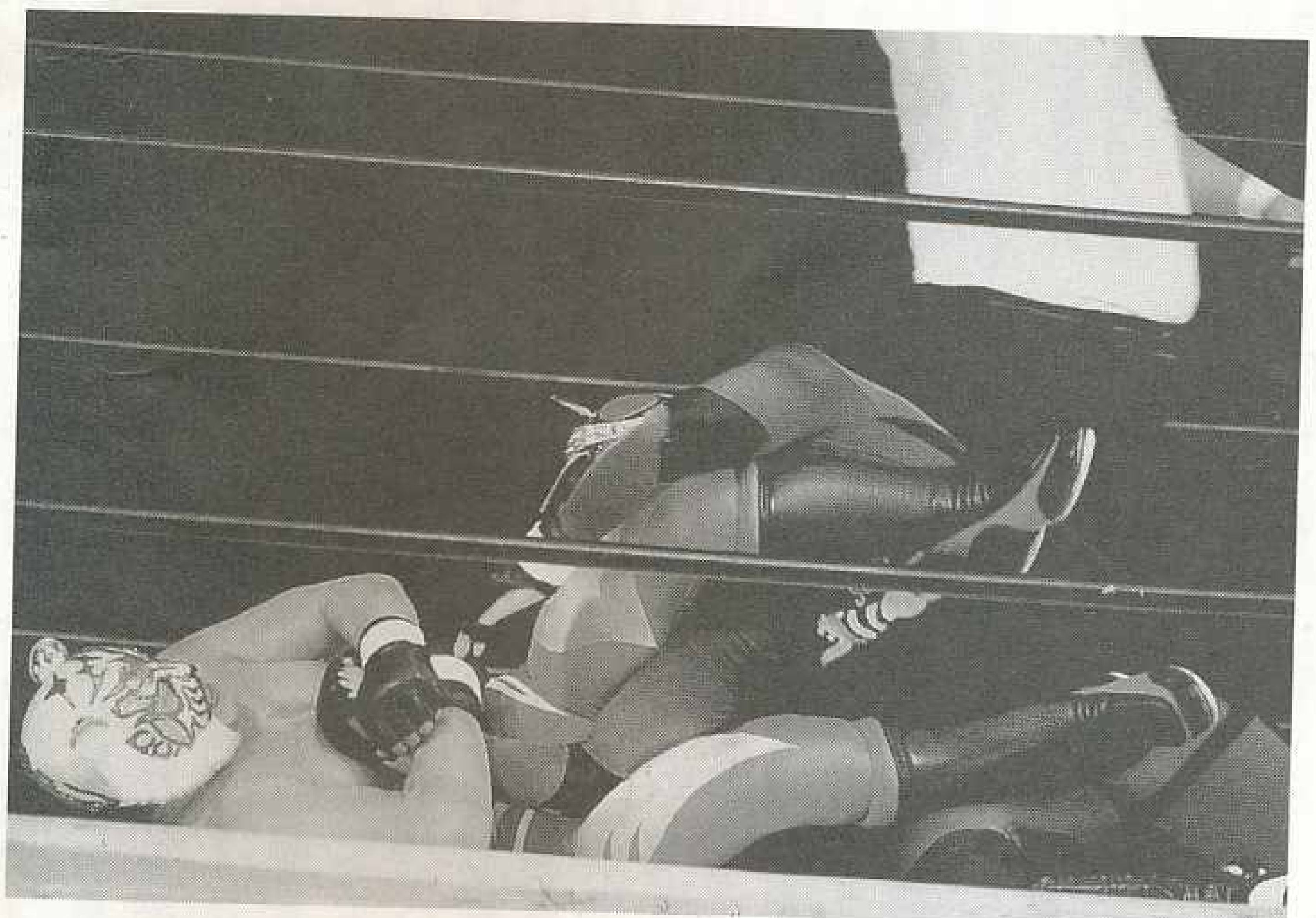
山口 それはわかるよ。

ノブ （冷静に）新日はヒドイ！

豪 ガハハハ！ お前も冷たいねえ。

ノブ いやぁ、もう言いますよ。いまノアにあって新日にないものって言うのは、ノアは試合スタイルをどんどん変えていこうっていう意識が面白くって、それを変えさせまいとする勢力がいて。それがグチャグチャになって試合をしてるとこなんですよ。

豪 定まってないから面白いんだよね。



ルチャの会場で異色の光を放ったタイガーマスクvs仮面シューター・スーパーライダーの元シューター対決。打撃あり関節ありスタイルは、初期のUWFを彷彿させた。

山口 だからプロレスこそ〝場〟にならなきゃおかしいんだよね。色々な主張があったり、スタイルがあったりイズムがあって。そのイズム対イズムになったり、スタイル対スタイルになるから面白いんであって。いまの新日本って言ったらさ、みんな同じ試合じゃない。ドーム大会に強調されるように。だから新日本のファンにとっては面白いよね。だけどリングスはリングスを知らなくて見に行ったって絶対に面白いって断言出来るよ、オレ。だってオレだって選手知らねえもん（笑）。ロシアのサンボ王の……。

チョロ バラチンスキー・スレン。いい名前ですよね（笑）。

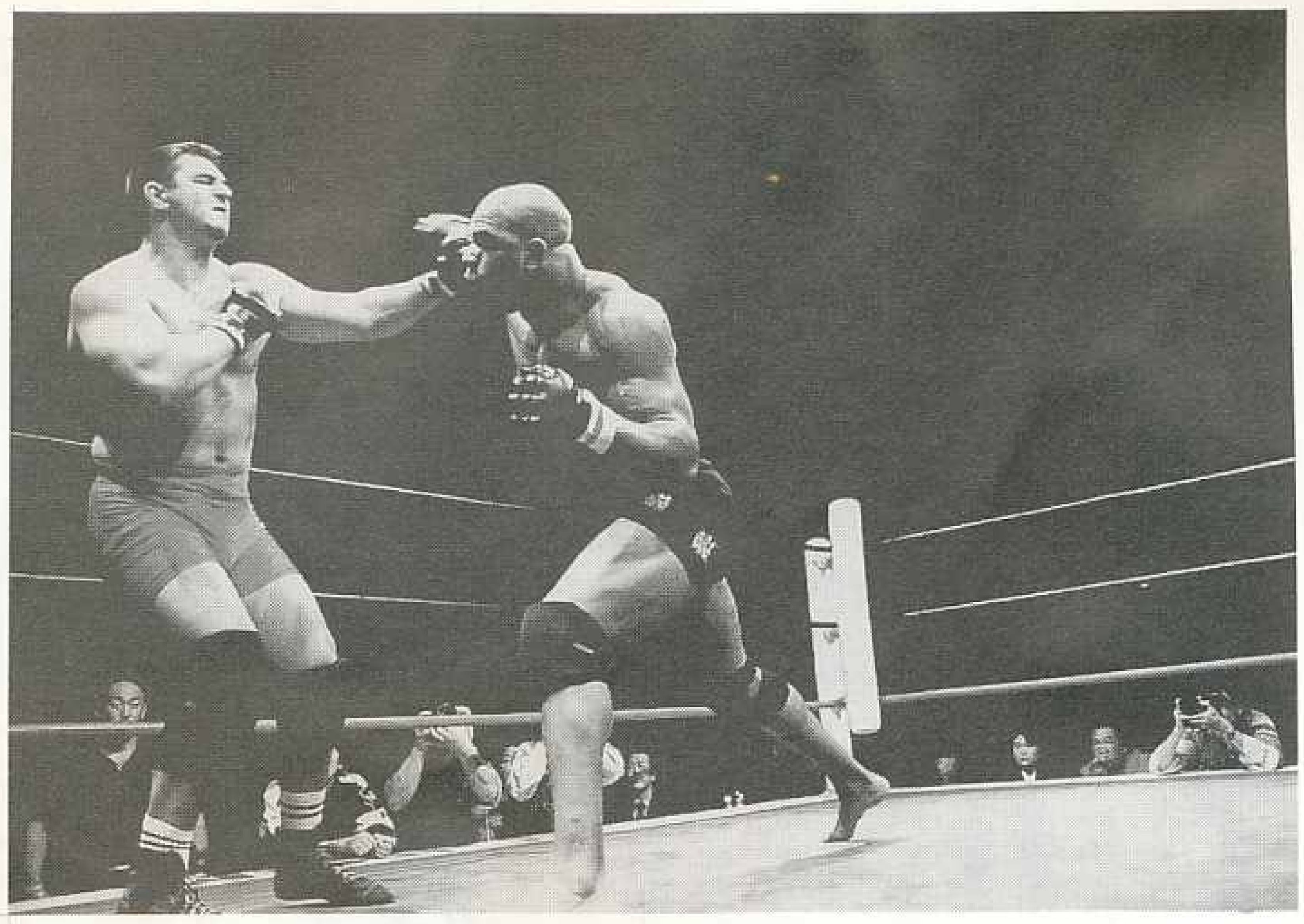
山口 バラチンスキーだって初めて見るわけだし。でも面白いんだよ。で、とにかくロシアの世界サンボ本物王者っていう触れ込みで来て、「ボリショフ・イゴリなんて聞いたこともない」って。ロシアサンボ連盟から送り込まれたバラチンスキーが打撃で勝負に行くんだよ、お前（笑）。しかも、打撃のセオリーを知ってるわけじゃなくて、ブンブン振り回してやるって言うか、とにかく向かっていく。しかもブラジリアン柔術のトップ・ファイターである（レナート・）ババルが、（ヴァレンタイン・）オーフレイムに負けちゃったりとかさ。

ガンツ でもジェレミー・ホーンにはビックリしますよね。新日ジュニアの動きをガチンコでやっちゃいますから。

山口 昔で言うスティーブ・ライトとかのランカシャースタイルの動きってあるじゃん、綺麗な。ああいう動きをガチンコでやっちゃうのよ。だからプロレス技が使えるっていうのを証明してくれてる選手が、かなりいるんだよね。

チョロ 全然Uスタイル越えちゃって

格闘 Do Judge 2000



ありとあらゆる大会が存在するため、数多くいるサンボの世界王者の中でも、正真正銘の世界王者バラチンスキー・スレン。彼ほどの実力を持っていても勝てない厳しさが今のリングスにはある。

から。

ガンツ 飛び付き十字やビクトル式ヒザ十字を何度もやって。田中稔じゃないんだから（笑）。

山口 一番最初に言った、「田村カッコいいよぉ！」って野次ったファンなんかは、どうせKOKルールの中では田村はカッコつけられないと思って、冷たい野次を飛ばすわけじゃん。でも田村は、きちんとUスタイル以上の試合をやっちゃうわけだよね。そこが凄いんだよ、負けたとはいえ。あの負けは全然傷つかないね。

ガンツ 田村が負けたことによって、他のジャパン勢にプレッシャーをかけてるっていうのは偶然なんですけど、良かったと思いますよね。

山口 何かお前、『週プロ』っぽい妄想なんじゃないの？（笑）。

ガンツ ホントにそういうことなんですよ。田村が言ってたのは。

山口 バラチンスキーとかタリエルとか、今のVT系のルールに対応出来ない選手達が、とにかく勝ちを求めて突っ込んでいくわけだよね。それはプロレスラーに望んでる闘い方なんだよ。ロシア勢を見てると、ホントプロレスラーとしては応援できるんだよね。とにかく「技術云々の問題じゃねえ！ 気迫で行ってやるぜ！」って言うのが見えるから。

豪 何で技術ある人間がそうするんだろう？っていう。

山口 そうそう。十分対応出来る技術のベースはあるにしても、いまのVTのセオリーとかKOKルールのセオリーを知らないから、とにかく気迫だけで突っ込んで、「負けたくない！」っていう意識をリング上で見せてくれるわけだよね。

ノブ ケンカ魂ですね。

山口 そういうこと。何でリングスが面白いかって言うと、オレ等が幻影として見てるプロレスラーがたくさんいるんだよ。だから修斗とかパンクラスみたいに、いわゆるVTのセオリーとか総合のセオリーを知ってる選手が闘ってるのは、ある意味格闘技内格闘技じゃん。プロレス内プロレスという言葉に置き換えてみると、リングスの場合違うもんね。

ガンツ それこそ「芸を盗まず、ネタを盗む」って感じですよね。技術ができ上がったのを貰ったら強くはなっても個性は出ませんよ。

山口 そうそう。パンクラスとか修斗とかはそうだよね。

豪 リングスもちょっとはネタ盗めよとか思いますけどね（笑）。

山口 みんなネタ盗まないで自分の芸だけで勝負しようと思うから（笑）。

ノブ タリエルとか芸達者ですね。

山口 そう！ みんな芸達者なんだよ。でもそれはプロにとって一番必要なことでしょ。オリンピックの話になっちゃうけど、（アレキサンダー・）カレリンの敗戦なんか見てても、「怪物は年齢に勝てなかった」とか色々言われてるけど、そんなの全然関係ないね。四連覇の舞台で負けれる、そのドラマティックな芸達者振りを評価しないと。三連覇するまでが大変なんだからさ。それをたった一回の敗戦で「年齢に勝てなかった」とかさ、チンケな見方だよ、アレは。

豪 1ポイント失っただけで、それも、わけわからないルールで（笑）。

山口 そうそう。それでカレリンは落ち込んで失踪しちゃったわけでしょ。

豪 カレリンツアーも無くなっちゃったし。

山口 それくらい自分の芸に自信を持って賭けてるわけだよ、カレリンなんかは。人のネタをパクってたらダメだってことだよ。それは新日本のプロレスラー達には言っておきたいな、オレは。

豪 ターザンの原稿も芸を感じましたよね。「発車オーライ、シュポー！」っていう（笑）。

山口 ターザン山本一夜限りの『週プロ』（NO1000）復活。

豪 「シュポー　ここから先はプロレスファンしか乗車できません。では行ってきます。発車オーライ、シュポー！」って（笑）。

山口 可愛いねぇ（笑）。

ガンツ 遺作って感じですね（笑）。

豪 でもこういうのがあると『週プロ』の中では存在力を感じますよね。

山口 感じるねぇ。それを読んだらツッコミどころは満載にせよ、大笑いするにせよ、やっぱりターザンが「今の『週プロ』なんかに本気で書いてられるか」っていうのも、想像しようと思えば想像出来るじゃない。

豪 嫌でも記憶に残るし。

山口 そうそう。やっぱね、歴史を感じさせてくれる人じゃないとダメだよね。そうだなぁ、今日の話の中で言うと、何かパンクラスと修斗はつまんないとは言わないけど、底辺拡大のためにはもの凄い功績をしてるし、業界にとっては凄い功績を残してるんだけども……やっぱなぁ、そういうことだよね。

ノブ うまい具合に針を振ってドゥ・スポーツを、確立させて欲しいですよね。

豪 リングスはスポーツにならないの？

ノブ あれはもう無理でしょ。タリエルとなんかやりたくないですもん。ちょっとやろうかなって気にならないじゃないですか。

チョロ でも、セーム・シュルトとかもやりたくないですよ。

山口 やりたくないよな。でもリングスではホント人が見れるよね、試合を通して。

ガンツ 見えすぎるくらい。

ノブ ノアなんかにしても人が見えるんですよ。

山口 どういう風に？

ノブ 永源が若手を厳しく攻めてみたりとか。

豪 押さえられてるのがなくなった分、人間性が見えるようになってきて。

ノブ 永源とか百田のファミリー軍団vs悪役商会が、今はすっごい緊張感あるんですよ。逆に、三沢とかの試合の方が安心して見てられる時もあるんですよ。

豪 安定しちゃってね。

ノブ もちろん緊張感はあるんですけどね。

豪 ナマの感情がモロに出るわけでしょ、逆に。

ノブ だから人が見えるって意味では凄く見通しが良くなってきたって言うか。

山口 なるほどね。

豪 エンターテインメント・プロレスって人は見えなくなるの？ FMWとか見るとそういう気がするよね。人を見せなくするやり方。

山口 でもホントにWWFみたいに振っちゃえば、人柄は見えるよね。

ノブ 見えます見えます。メチャメチャ見えます！

山口 例えリング上はエンターテイメントでも。

ノブ だからノアと違って全日と新日の対抗戦は、全日対新日の金看板を掲げて、どこまで試合が追い付けるかっていうことじゃないですか。そこで川田は80点くらいは出したと。

豪 そうなの？

ノブ というような、世間一般の評価はありますよね。逆にノアの秋山とか大森（隆男）とかのグチャグチャな抗争模様っていうのは、それと比べたら注目されてないですよね。

山口 まあ、新日対全日っていう抗争

長州力は6万人のバカを集めようとしている気がする（笑）

をやられれば、注目度としては違ってくるよね。

ノブ　ただ試合のクオリティーに関しては、ノアは絶対に高いんですよ。興行全体として見て、まず新日はモノトーンと言うか、一色なわけじゃないですか。長州色と言うか。それがもう、ノア全体として見たら色々あるわけですよ。非常にバラエティに富んでる。

豪　なんでノブがノアの広報みたいな役割になってるんだよ（笑）。

山口　でも、それは今までの全日本のイメージじゃないの？

ノブ　ノアは違うんですよ。

山口　オレはノアは見たことはないから、発言は差し控えるけど。

ガンツ　分裂前の全日はスタイルが同じじゃなくて、ただみんな同じ方向を向いてたんですよね。それ以前の全日本って、色々な方向いてた人が多かったじゃないですか。その時代にノアが戻ったような気がしますよね。逆にこれからノアでファンからもボロクソに言われる選手とか出てくるんじゃないですか。

ノブ　高山（善廣）とかには結構厳しい野次とか出てたねえ。

ガンツ　ていうか、試合がしょっぱくてって感じで？

ノブ　そこまでは言ってないけど、結構厳しい野次は飛ぶようになってますね。

ガンツ　10年前の全日の後楽園とかは厳しかったですからね。

山口　だって馬場さんに弁当箱投げたりしてたもんね。

豪　新日の客よりひどいですよ（笑）。

山口　「馬場、引っ込め！」って。

ノブ　そこまでいく可能性もあるんじゃないですかね。

豪　だからこそ川田でモノが飛んだと。

山口　でもあれは物が飛ぶのは演出の内だもんね。自然演出と言うかさ。

ノブ　大仁田（厚）が耕した部分ですよね。

豪　全日出身者には投げていいみたいな風潮ですからね。本気で怒って投げれば面白いですけどね。

山口　そういう意味ではお行儀が良過ぎるね。橋本の復帰戦で、橋本個人はいいんだけど、あの内容でしかも、あの衝撃度のなさで怒らないファンがいる方がおかしいと思う（笑）。結果的に変な迫力のない宗教みたいになっちゃってるよね。

豪　うわっ！（笑）。

山口　新日のやることだったら何でもいいみたいなところあるよね。「最高ですかーッ？」っていう法の華みたいなのは、一種異様な迫力があるから面白いでしょ。オレは、6万4千人も日本全国からバカを集めてるような感じがするもんな（笑）。「さあ、みんなバカになって騒ごうよぉ！」みたいな。

豪　「さあ、モノ投げようよ！　わぁ～!!」って。

山口　全日対新日は、「わ～い、わ～い！」って感じ。お前は河口仁か（笑）。

豪　「チクショー負けた！川田死ねーッ！」って。結局、『馬鹿になれ』っていうことですかね（笑）。

山口　ガハハハ！　もっとホントの意味でバカになってほしいと言うかさ。

ノブ　（唐突に）じゃあ結果的に10・9は誰が勝ったんですかね？

山口　なんだよ、いきなり！　だからオレはドゥ・ジャッジすると、やっぱりKOKがダントツで上。これはオレの個人的な意見だけどね。

豪　でも長州の勝ちでもあるんですよね。客入れて、二代目をトップにした抗争をスタートさせて。

山口　観客数だけ見れば、6万4千人対4千6百人だからね。

豪　長州の勝ち！

山口　長州の勝ちという意見があってもいいよ、それは。ただそれはボクはバカと呼ぶから（笑）。

ノブ　じゃあ、リングスファンはスマート？

山口　お前いきなり、シュート活字用語出すなよ（笑）。まあバカにも一流から五流まであるってことだよね。ファンと言うよりとにかく、大会のクオリティーと試合のクオリティーは全然リングスのが上だと思うね。でもそれは仕方ないことだけどね。

豪　前田対長州だったわけですね。

山口　まあ、人種抗争（笑）。でもちょっと、みちのくには頑張って欲しいなあ。例えば一番ブームの頃のサスケの勢いからすれば、何か仕掛けたはずだよね。

豪　仕掛けなくても、もの凄いクオリティーでとか。初期の後楽園大会とかの。

山口　そうそう。いまはサスケが何か受け身になってるような気がするね。サスケには、とにかく頑張って欲しい。サスケの自力はあんなもんじゃないはずだからね。だって6万4千人集まるドームと、勝負論が徹底したKOKの間に挟まれたら「よーし、やってやろう！」って言うのがサスケじゃん。……のはずなんだけどねぇ。

豪　でもKOKって負けても、そんなに傷つかないわけですよね。ゲーム性が高いから。

山口　でも、それは内容によるね。

豪　よく「『PRIDE』に出ろ！」って声があるじゃないですか。秋山とかKOKなら、すぐ対応出来るかなと思うんですけど。（仮面ジューター・スーパー・）ライダー対タイガー（マスク）の試合をKOKルールで見たいって……これはライダーが持たないか。

山口　で、10・9をジャッジメントすると、どうなの？

ノブ　ボクは、なんといっても10・7と10・8のノア！

山口　何を訳のわからないこと言ってるの？　10・9でジャッジしろって言ってるんだよ！

ノブ　10・9でジャッジすると、やっぱり長州力の凄さかなぁ。人集めの極意じゃないですけど、長州はそういう部分が非常に長けてますからね。

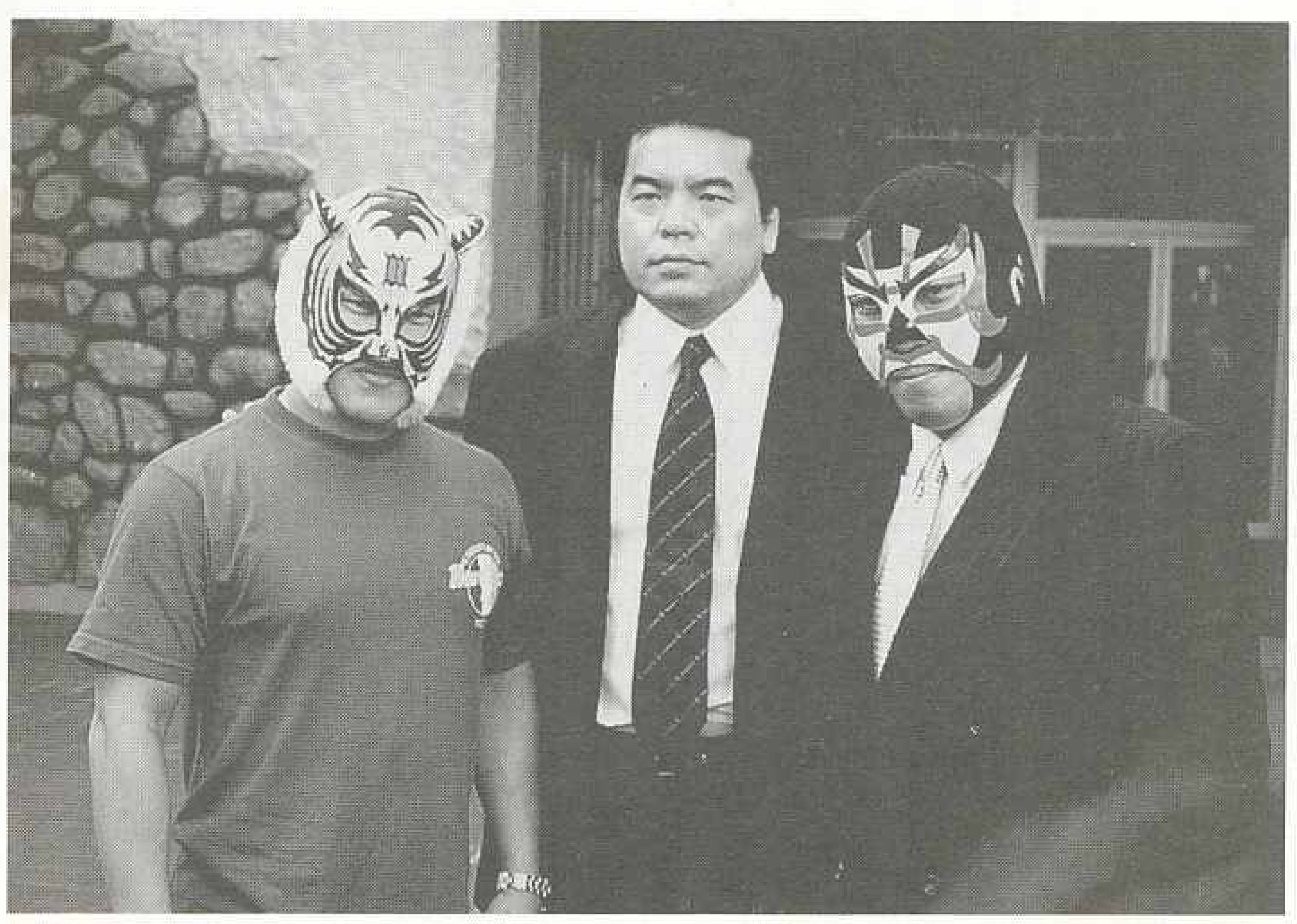
山口　長州と言うか、新日本ね。

ノブ　あれがうまいことギャグが炸裂すれば最高だったんですけどね。

山口　お前はプロレスに何を求めてるんだよ、ホントに。



音楽とプロレスの融合？　試合の合間合間で歌合戦を行ったみちのく。空席の目立つ会場でのイベントではあったが、その名調子で観客の心を鷲掴みにした司会の東玉助。



ノアーみちのくの交流戦。第一弾として、丸藤がサスケのベルトに挑戦。丸藤の潜在能力の高さに驚いたファンは少なくない筈だ。是非ともタイガーとの絡みも見てみたいものだ。

格闘 Do Judge 2000

ノブ 新日にはボクはギャグを極めてほしいと思うんですよ（キッパリ）。

豪 「もっと笑わせろ、この野郎！」って(笑)。

ノブ だって、こっちが見たくなくても、「お前、後藤だろ！」とかギャグやってくれるんですから。

豪 第一試合もギャグ入ってるのね？

ノブ 第一試合は、面白かったですよ。ギャグって意味じゃなくて、会長が言ってたように人間性の部分とか、あれはテレビで言えばドラマですよね。

山口 何かさ、Vシネマ見てるみたいな面白さなんだよ、第一試合は。Vシネマって面白いじゃん、見てると(笑)。「こんなにベタでいいのか？」って言う楽しみ方あるじゃん。ヒマ潰しには調度いいっていうかさ。これはVシネマの話で新日の話をしてるわけじゃないからね（笑）。その辺、勘違いしないで下さいね、皆さん！

ノブ そういうドラマになる流れもあったし、ドラマ＋ギャグっていう方向性も提示したわけじゃないですか。

豪 ホントに提示してんのか。そもそもオレよくわかんないけど。

ノブ だからそのギャグを磨けば、オレは他の団体はかなわないと思うんですよね。

山口 つまり新日はWWF化しろってこと？ WWF化するためには、もっと徹底的に訓練しなきゃダメだと思うよ。

豪 それだったら不器用な健介がトップに立つようじゃ、ダメでしょ。

ノブ 長州が試合しちゃうくらいのことして欲しいですよ。

豪 試合したじゃん。

ノブ ああいう試合じゃなくて車に轢かれたりとか。

山口 それ試合じゃないじゃん（笑）。

豪 「長州。車に轢かれろ！」っていうのが、お前のジャッジか？

ノブ 極端に針を振るっていう意味では、エースのオースチンもオーナーのビンスも車に轢かれたりしてるわけですよ。それくらいのことを『ワールドプロレスリング』で放送してもいいんじゃないかなと。もっとケツの穴のデカイところを見せてほしい。

山口 はい、チョロ君。10・9は？

チョロ 希望も込めてサスケですね。ノアとの交流は凄い可能性はあると思うんですよ。三沢とサスケの社長タッグは見たいですね。

山口 なんか、この座談会自体が小ネタになってるような気がするなぁ。

チョロ サスケ対ベイダーとか見たいじゃないですか。

山口 （無視して）で、ガンツ。

ガンツ 「新プロレス」と「純プロレス」と、どっちが残るかってことですよね。

山口 ま、両方とも残って欲しいんだよね。

ガンツ でもこれからのマット界は、「新プロレス」っていうのが見えてるんですよ。

豪 「新プロレス」と「純プロレス」と「旧プロレス」なんですよね。第一試合が「旧プロレス」で。

ガンツ やっぱり、ドラマ性と勝負論が同居したものが一番面白いと思うんですよね。それが二つ合わさったものが一番世間に受け入れられると思うんですよ。だからこの間の橋本対小川戦しかり、KOKも徐々にリングスファンじゃない人も入ってきてるし。それとプロレスファンにとっても、この2日後にやったボクシングの方が届いてますよね。

山口 畑山（隆則）対坂本（博之）ね。

ガンツ あっちの方が新日vs全日より確実に世間に届いてますよね。実際視聴率も20％以上だし。

山口 試合内容的にもね。

ガンツ 普段のボクシング中継なんか、プロレス中継以上に見てる人はいないはずなんですよ。これはやっぱりドラマ性がある勝負論っていうのは、絶対に広まることの証明ですよ。そういうのが見えましたよね。

山口 畑山対坂本はホント、今のプロレスに警鐘を鳴らしてると思うよ。あれをやられたら純プロレスはかなわねえだろうって話だからね。で、オレはやっぱり総括すると、新プロレス圧勝だよね。『週プロ』の増刊では、純プロレスの大逆襲になってるけど。

ノブ あの原稿を書いた人は凄いですよね。

豪 ああ書かなきゃ大変じゃん。

山口 「ああ書かなきゃ大変じゃん」って思わせること自体ダメだよね。

豪 ホントにそう思ってるんですかね？

山口 そう思いたいってことじゃないの、きっと。多分、年間最高試合賞は、健介対川田だよね。

豪 ていうか、他に話題のある試合がないですよね。

ガンツ サク対ホイスとかが選ばれたら変わっていくでしょうね。

豪 それは特別賞くらいだよね。

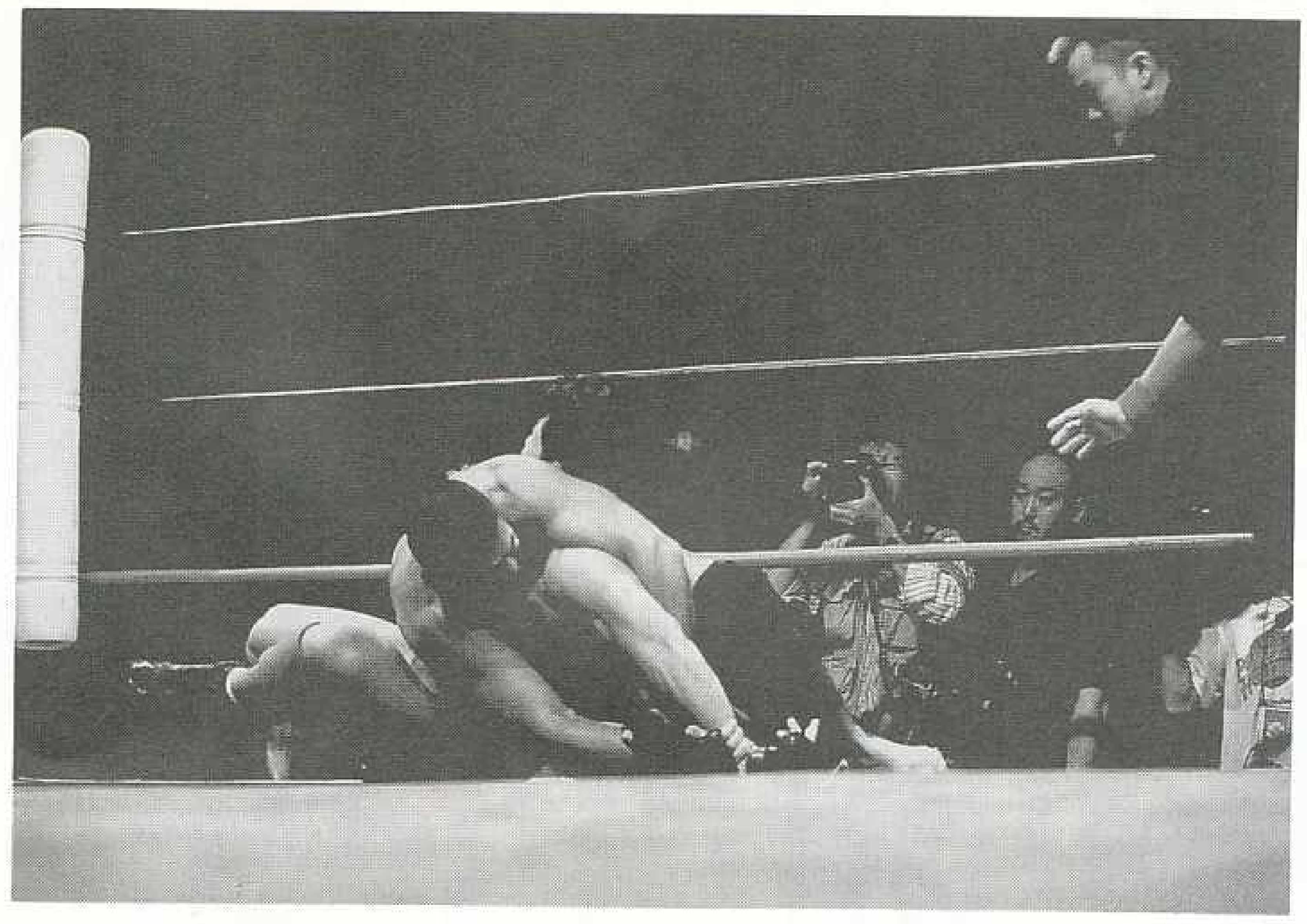
山口 新日と全日が順番に取らなきゃいけないんだよ（笑）。調度いいじゃん、両方出てるから。ホントはサク対ホイス（・グレイシー）が大賞を取るくらいじゃないと変わっていかないんだけどね。

豪 MVPは誰なんですかね？

ノブ 勝ったから川田でしょ。

豪 他にいないですよね。いまの純プロレスのMVPって。中西でもないだ

新日全日で起こっている事は全て長州のマット界乗っとり計画（笑）


田村が一本負けしたのは、実に2年振りのこと。あの田村が一本取られてしまうことが納得できてしまう程の"凄テク"を武器に、ノゲイラがトーナメントの大本命となったことは間違いないだろう。

ろうし。

山口 誰だろ。他に候補はいないの？

ノブ 小橋！

豪 新日だと健介？　G1制覇にIWGPチャンピオン。

ガンツ 多分、川田になるでしょう。

豪 それでいいんですかね？

山口 いや〜、よくない。やっぱサクッと対ホイスとかが取らない限り、新プロレスと純プロレスっていうのは、きちんと交わっていかないよね。

豪 交じ合わせる気もないでしょうけど。

チョロ ベストバウトが桜庭対ホイスとして、プロレス大賞にホイスが出席したら笑えますよね。

ガンツ わざわざ来日して（笑）。

豪 それも見たいねえ！　ホイスがたっつあんとこ行って、談笑したりとか（笑）。

山口 それでまた修斗勢が怒ったりとかね。そういう方が面白いじゃん。混沌として、それぞれが熱を持ってぶつけ合わないことには「関心ないです」っていうのは、一番面白くないからねえ。

ノブ （深く頷く）

山口 何頷いてるんだよ、お前！　ウチの編集部みたいだなと思ってるんだろ、今。みんな無関心でそっぽ向き合って作ってる雑誌（笑）。純プロレスって言えば、やっぱオレはバトラーツに期待するけどね。

豪 まだぁ？

山口 やっぱ石川vs村上絡みとか面白いんだよね。

豪 バトも"場"になっちゃうんですかね？

山口 だから期待も込めて、純プロレスの柱を担うようなムーブメントを起こして欲しいけどね。バトラーツには。それくらいのことやらないと、潰れるから（笑）。

豪 いい加減（笑）。

山口 うん（笑）。ホント11・26なんて、ドゥ・ジャッジすればいいんだよね、プロレスファンが。

豪 あれこそ、ドゥ・ジャッジだと。

山口 そう。ホントの意味でのドゥ・ジャッジをさ。暖かいファンは、もういいよ。暖かいファンだけになっちゃうのはよくない。批判のない世界に進歩はないから。

豪 全日自体を語らなくていいんですかね？　愚乱・浪花が参戦したりとか、いろいろありますけど。

ノブ カッキー（垣原賢人）が来たりとか。

山口 えっ、カッキーが来たの？

豪 「来たの？」って……。会長！

山口 いや、知らないんだよ。オレ。

豪 ノブが唯一怒ってるんですよ。「オレの視界に入らないでくれ」ってね。

山口 何でそんな怒ってるの？

ノブ 何がしたいんだか、よくわからないですよ（キッパリ）。

山口 それはオレもお前に言いたいよな。

豪 「お前が言うな！」ってことですよね（笑）。カッキーも別の意味でデンジャラスKだよね。ずっと気になってたんだけど。だから今の全日はオレは断じて是なんだよね。そういう意味で。凄いデンジャラスな人が集まって。浪速も今の幻想っていいじゃん。「雑用から逃げた人」っていう幻想を纏って登場する。

ガンツ デルフィンから寝返って、みちのくに残ったのに。

豪 凄くいい具合の「荒谷（信孝）は貧乏」っていうギミックとかさ。ギミックじゃないんだけど、別に（笑）。いいタマ集まってるよ、絶対。

山口 ……ダメな人達？（笑）。

豪 とは言わないですよ。デンジャラスな人達。

ノブ 軒を貸して母屋を取られるっていうのは、このことですよね。

豪 取られてるのかな？

ノブ どうなんだろ。どっちが主流なんですか？　今、天龍派と元子派と。

豪 元子派っているの？

チョロ 天龍派も元子派もないでしょ。長州派ですよ、きっと（笑）。

豪 カードでも、そんなに差別化されなくなりますよね。

山口 もう行ったり来たりでしょ。抗争が終わったら。

豪 そうすると全日が平成維震軍になるわけですかね？

山口 そうそう。

ノブ 越中もいますしね。

豪 だから越中なのか！　またもや先兵役をやらされて（笑）。

チョロ 長州が声かけてる可能性デカイと思うけどなあ。

豪 デカそうだよね。

チョロ とりあえずクッションで全日に入れて。だから長州の日本マット乗っ取り計画ですよ（笑）。

ガンツ 有り得ますよねえ。

豪 橋本の独立が全日入りの布石だったりとか。そういう嫌な……。

山口 それも絶対有り得るよ。「橋本全日入り」っていうのは。

豪 猪木さんが橋本に「全日に入れ」って言ったのは、そういう意味じゃないですよね。

山口 そうそう。「そういうことじゃないんだよ、橋本！」っていうさ。

ガンツ 長州力の日本マット統一化構想は、かなりの部分で進んでると思うんですけどね。

豪 来年ぐらいに、長州対天龍の頂上対決があるかもね。

ノブ 新日がラリアット一色になったように、日本プロレス界はラリアット一色になる日も、そう遠くはないわけですかね。

豪 全日はラリアットじゃなくて、延髄蹴り一色になっていくわけでしょ。

山口 水平チョップ一色とか（笑）。でも同じ色に染まったら面白くないよね。

豪 グチャグチャじゃないと、仕方ないですよ。

山口 毎回同じようなことばかり言ってるねえ（笑）、何を題材に持ってきても。

豪 でも、こんだけ言ってるのに読者に届かないのかって。

ノブ 『紙プロ』売れてないんじゃないですか？

山口 お前はなあっ！

豪 売れてるからこそ『紙プロ』読者がやってる掲示板で、あまりにも『紙プロ』読んでないような読者が書き込みしてるんだよ。ホントに「読者はバカです」っていう。

ノブ 『紙プロ』読んで欲しいですね、しっかり。以上！

豪 どういうまとめだよ（笑）。

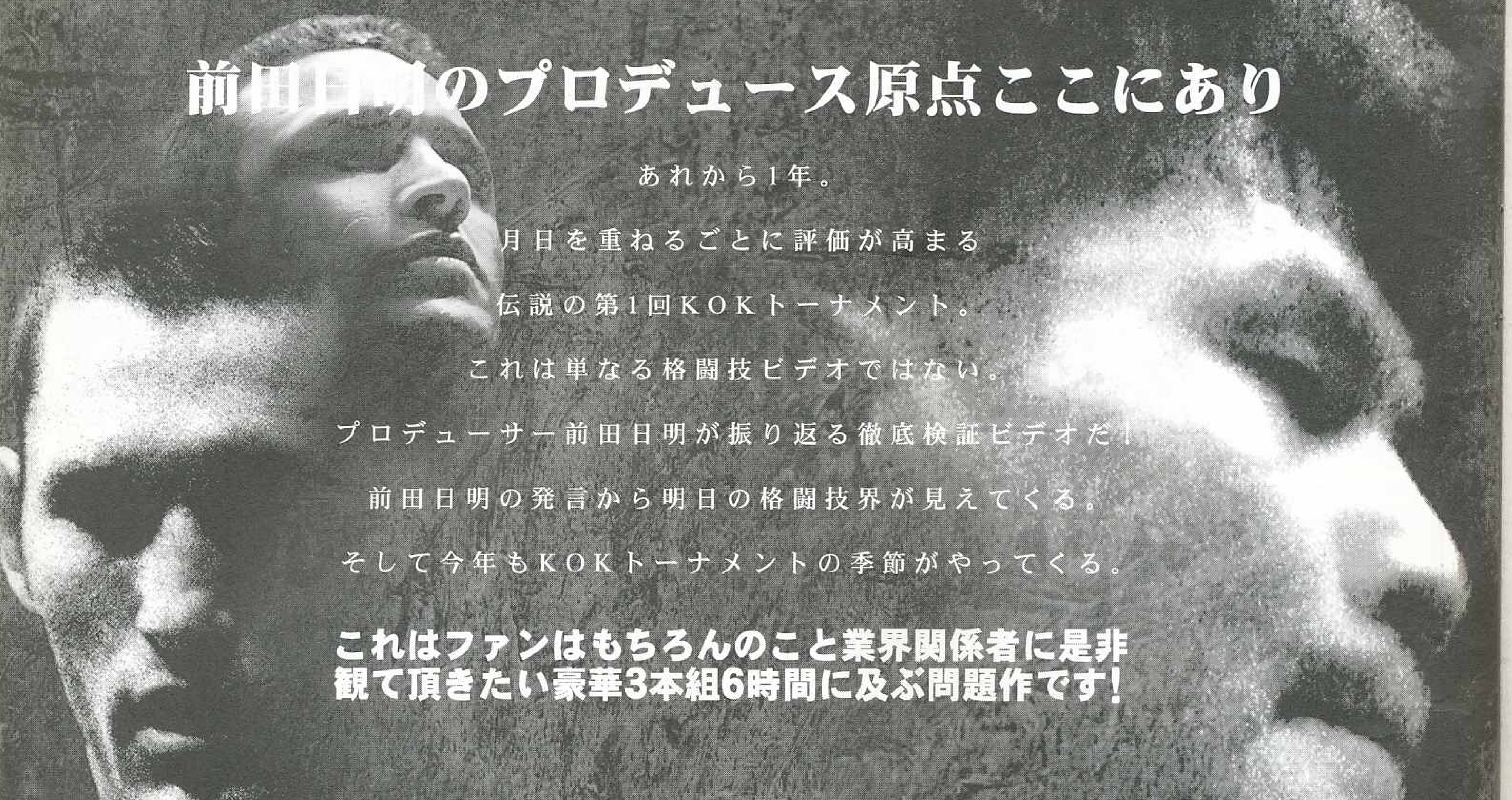
【10月中旬、山口日昇失踪5秒前！編集部にて収録／文中敬称略】

FIGHTING NETWORK RINGS

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT

KING of KINGS

前田日明のプロデュース原点ここにあり



あれから1年。

月日を重ねるごとに評価が高まる

伝説の第1回KOKトーナメント。

これは単なる格闘技ビデオではない。

プロデューサー前田日明が振り返る徹底検証ビデオだ!

前田日明の発言から明日の格闘技界が見えてくる。

そして今年もKOKトーナメントの季節がやってくる。

これはファンはもちろんのこと業界関係者に是非
観て頂きたい豪華3本組6時間に及ぶ問題作です!

1999.10.28 国立代々木競技場第二体育館
（観衆：4520人　超満員）

Aブロック YOYOGI ROUND

- ラバザノフ・アフメッド（リングス ロシア）
- リー・ハスデル（リングス イギリス）
- レナート・ババル（ブラジル）
- グロム・ザザ（リングス グルジア）
- アリスター・オーフレイム（リングス オランダ）
- コーチキン・ユーリー（リングス ロシア）
- アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ（ブラジル）
- ヴァレンタイン・オーフレイム（リングス オランダ）
- ジェレミー・ホーン（アメリカ）
- 金原弘光（リングス ジャパン）
- ダン・ヘンダーソン（アメリカ）
- ゴキテゼ・バクーリ（リングス グルジア）
- ジャスティン・マッコーリー（アメリカ）
- イリューヒン・ミーシャ（リングス ロシア）
- ブラッド・コーラー（アメリカ）
- 山本宜久（リングス ジャパン）

1999.12.22 大阪府立体育会館
（観衆：5100人　満員）

Bブロック OSAKA ROUND

- カステロ・ブランコ（ブラジル）
- アンドレィ・コピィロフ（リングス ロシア）
- タイロン・ロバーツ（アメリカ）
- リカルド・フィエート（リングス オランダ）
- ブランドン・リー（アメリカ）
- モーリス・スミス（アメリカ）
- ヘンゾ・グレイシー（ブラジル）
- 坂田　亘（リングス ジャパン）
- ギルバート・アイブル（リングス オランダ）
- ビターゼ・タリエル（リングス グルジア）
- クリストファー・ヘイズマン（リングス オーストラリア）
- 髙阪　剛（リングス ジャパン）
- ティム・ラジック（アメリカ）
- ボリス・ジュリアスコフ（リングス ブルガリア）
- デイブ・メネー（アメリカ）
- 田村潔司（リングス ジャパン）

2000.2.26 日本武道館
（観衆：13.000人　超満員札止め）

GRAND FINAL

—— 決勝トーナメント ——

- アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ（ブラジル）
- アンドレィ・コピィロフ（リングス ロシア）
- ダン・ヘンダーソン（アメリカ）
- ギルバート・アイブル（リングス オランダ）
- レナート・ババル（ブラジル）
- イリューヒン・ミーシャ（リングス ロシア）
- ヘンゾ・グレイシー（ブラジル）
- 田村潔司（リングス ジャパン）

—— スペシャルマッチ ——

- グロム・ザザ（リングス グルジア） VS ボビー・ホフマン（アメリカ）
- クリストファー・ヘイズマン（リングス オーストラリア） VS ブラッド・コーラー（アメリカ）

初回特典

KING of KINGS 特製ステッカー封入!

絶賛発売中!

価格 3本組 ￥14.286（税抜）/品番 PSVR-5070〜72/カラー/VHS/Hi-Fiステレオ

前田日明の検証インタビュー収録
記者会見は勿論、未公開映像満載
全試合完全ノーカット
田村『Uのテーマ』での入場シーン収録
その他、永久保存映像満載! ごちそうさま。

全国の有名CDショップ及びプロレスショップにてお買い求めになれます。ご予約の際はあらかじめ上記の品番を添えて御注文していただくと便利です。

●通信販売も御利用になれます。（詳細は当社ホームページを御参照下さい。）

POLYSTAR CO.,LTD （株）ポリスター 03(5721)3215

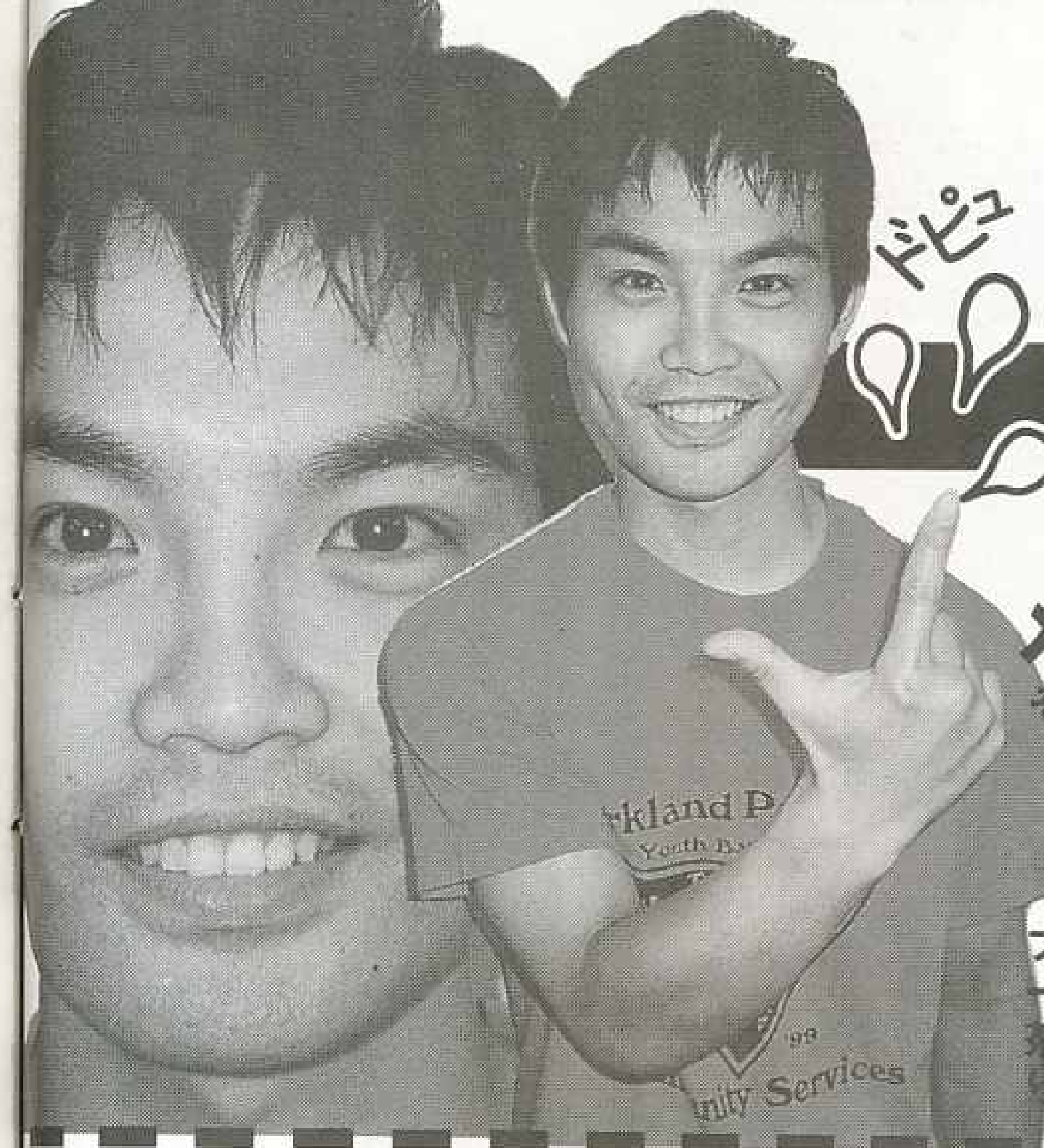
http://www.polystar.co.jp

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000

KING of KINGS大会スケジュール

2000年12月22日(金) 大阪府立体育会館 ／ 2001年2月24日(土) 両国国技館

紙プロ記者列伝 その五 戸高"マッハ"イク人



ドピュ 紙のプロレス

本誌バックナンバーのお知らせ



かわいい顔して早いで候!
メキシコ君並に下ネタ対応OK!!

その「マッハ」の由来とは……ただ単純に早いから。佐藤ルミナの6秒とまではいかないものの、どう頑張っても3分で(自分が)昇天確実という凄玉だ。相手にはガード・ポジションしかとらせない上に、少しでもポジショニングを変えるともっと短くなるらしい。試合前のシャワー中に興奮しすぎて発射したこともあるアンタッチャブルな戸高っちょ、まさにイク人(ト)なのだ。かわいい顔して秒殺シューターなのである。ガンバレ、マッハ!(※この原稿を入稿後、「顔が加藤茶に似てる」「パソコンに詳しい」という理由で戸高アビバに改名となりました。当社の新人なんて、そんなもんです。ご了承下さい)



第5号
特集 たたかいグランプリ
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男/ロングインタビュー馳浩/デビル雅美vs氏神一番/脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



第8号
特集 さらば新日本プロレス
ワイド座談会/初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー/セメントインタビュー関根勤/恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



第11号
特集 狂気とは何か?
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里/プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



第12号
特集 色気とは何か?
村松友視が前田日明を語る!/「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会/蝶野正洋も登場!/色気王A・猪木も登場



第13号
特集 道場破りとは何か?
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画 山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー/サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



第14号
特集 神秘とは何か?
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!/遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



第15号
特集 インディペンデントの逆襲
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二/巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



第16号
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー/ユセフ・トルコvs由利徹対談



第17号
特集 実況パワフル北朝鮮
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場/巻末特集「藤原組の逆襲」



第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて
引退宣言の読み方座談会/サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!/新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



第19号
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!/サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



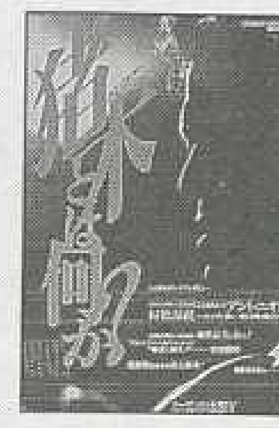
第20号
特集 たたかいグランプリ
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー/山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



第21号
特集 幻的格闘技
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!/高田文夫、ユセフ・トルコが登場



第22号
特集 この人が喝っ!!
巻頭インタビュー・ジョージ高野/プロレス雑誌を斬る!!/高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー/M・マスカラス宣言号



猪木とは何か?
スキャンダル[illegible]れていた時期の猪木を直撃! どうって[illegible]よ!/村松友視、立川談志、告発仕掛人・[illegible]が登場![illegible]のPKO発言を誌上再録
完売



パンクラス公式読本[矛]
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!/なぜか突然、佐山聡が登場!/故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



パンクラス公式読本[盾]
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?/故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!/松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!/引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!/完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!! ●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。 ●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。 ●送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊〜4冊=450円、5冊=520円、6冊以上=700円となります。 ●9号、10号、『猪木とは何か?』、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「バックナンバー通販」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※必ず本誌かRADICALかを明記してください。

※NO.1〜NO.4、NO.6、NO.8は完売しました!

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

No.5

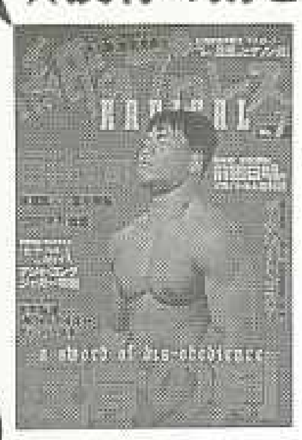
★すべてはここから始まった!



高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談!
前田日明の「人生は語らず」
世界格闘技連盟を語りたおす!
佐山聡（タイガーキング）
長井満也／柳澤龍志／ディック東郷
愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ
長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開!

No.7

★反骨の剣を研げ!!



鮮烈ロングインタビュー田村潔司
前田日明のメガバトル人生相談
「人生は語らず」／みちプロ経営危機の真実を激白!
ザ・グレートサスケ
新日本魂から長州力までを**木村健悟**／受け継がれるUの遺伝子**垣原賢人**／悲しきパンクラシスト**冨宅飛駈**
グレート・テキサンの涙の訴えを聞け! **テリー・ファンク**／喧嘩大王**タンク・アボット**／「女子プロレスとは何か?」**アジャ・コング**／**ジャガー横田**
世界で一番ニクイ奴! **冬木弘道**

No.9

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖! 無礼講大特集!!」



前田日明／ザ・グレート・サスケ
高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&格闘人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
「格闘家からみたプロレス!」
朝日昇&谷津嘉章／佐野なおき
下田美馬&三田英津子

No.10

★特集「灼熱の地殻変動'98」



大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談!
とにかく元気! 高田延彦ロングインタビュー
またもや大爆発!
谷津嘉章インタビュー第2弾!
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS松永高司
「紙のプレイボーイ」発進!!
ダイアナ&宮内美樹
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「紙プロスーパースター列伝」北沢幹之
冬木弘道ロングインタビュー

No.11

★特集「格闘Viagra'98」



高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か? 芸術か? それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」アポロ菅原

No.12

★特集「格闘TEPODON!! '98」



2度目のヒクソン戦直前!
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂!「S多重アリバイ」
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志／アレクサンダー大塚
山本喧一／神取&北尾／八木淳子
ダンプ松本／猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛

No.13

★特集「四角いジャングルRADICAL」



実写版「1・2の三四郎」降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
「10・11 PRIDE.4」とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
「高田VSヒクソン戦!!」
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
「10・11 PRIDE.4」
大反響!「S多重アリバイ」第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘
リッキー・フジ／堀辺正史

No.14

★特集「格闘DREAM CAST」



前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中! 金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章の死んでも男たち、目えつぶって30秒!!
『高田道場1999!』高田延彦／桜庭和志
佐野なおき／松井大二郎／豊永稔
「S多重トンパチ」第4弾 折原昌夫
★「虎の尾を踏む男たち'99」小路晃
4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫

No.15

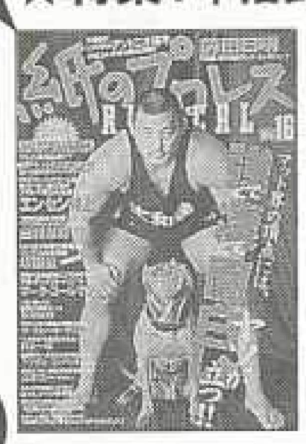
★特集1「格闘MARS ATTACKS!」



橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡／4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃!
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場! SASUKE
「語ろうマサ・サイトー!」
「S多重アリバイ」2連発!
佐野なおき&Mr.W

No.16

★特集1「格闘ノストラダムス'99」



エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一
村上一成／マーク・コールマン
石川雄規／ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
「語ろうジャンボ鶴田」
「S多重アリバイ」第7弾石川孝志

No.17

★特集1「格闘MAKE JUNGLE」



UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木
豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口／矢口壹琅／「怪物通信」
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18

★特集「格闘STAR WARS」



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー／高田延彦
エンセン井上／イーゲン井上／小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★「S多重アリバイ」第8弾将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック／G・グッドリッジ
R・グレイシー
「怪物通信」G・アイブル
「闘魂猪木塾とは何か?」

No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ!



マーク・ケアー戦直前高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆哮三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白!
「紙プロスーパースター列伝」ドン荒川
佐山聡／エンセン井上／成瀬昌由
TARUwith AYAKA／宇野薫
アレクサンダー大塚
「怪物通信」4連発!
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助／井上貴子／川口健次

No.20

★人間UFO吠えまくる!



小川直也インタビュー
独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見／佐山聡とは何か?
「語ろう藤波辰爾」／バス・ルッテン
「S多重アリバイ」第10弾ドン荒川
滑川康仁／カール・マレンコ／高阪剛
山本宜久／成瀬昌由／小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ／内藤恒仁
敗者『紙プロ』追放試合!
ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）

No.21

★恐怖のプロレス大魔王降臨!



小川直也ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ!
大仁田厚／前田日明絶叫激白!
本誌独占! 発見八木淳子
「S多重アリバイ」第11弾鶴見五郎
G・アイブル／R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上／山本喧一／高瀬大樹
アレクサンダー大塚／モハメド・ヨネ
CIMA／田中健一／平直行
コーラ・パワーズ／本誌独占G・サスケ死す!

No.22

★サク、グレイシーに完勝この上なし!



桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司
俺は逃げない! 山本喧一
スモーノブ初土俵! 大刀光
好評につき第2弾! 田中健一／馳浩／小川直也
ゴールドバーグ／坂田亘／木村浩一郎／長井満也
池田大輔／B・コーラー&A・ウォリアー
佐藤耕平／渡辺千景
ヒクソン&ホイラー兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

No.23

★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!



ホイス戦直前! 高田延彦インタビュー
超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上
つっぱれ大刀光
スモーノブがっぷり四つインタビュー佐々木嘉則
ヒクソン・グレイシー／W・ウィリアムス
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念ザ・グレート・サスケ
★「リングス『KOK』大特集!」
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー前田日明
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女多和田初美／木口宣昭

No.24

★頭、打ちすぎたかアレク!!



アレクサンダー大塚
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
「新プロレス」とは何か? 緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手! 桜庭和志
グレイシー討伐を公約! 田村潔司
VTの見方全て私が教えます! 堀辺正史
「柔道多重アリバイ」守山竜介
KOK大予想大会!／中西百重
語ろう船木VSヒクソン座談会
「紙のプロレスAMERICAN」
ブチ抜き17ページWWF大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一UFO対談

No.25

★「新プロレス」へ突き進めーッ! 格闘ロマン、続行ーッ!!



猪木イズムを携えた「思考する野獣」誕生ーッ!!
藤田和之ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念! 田村潔司
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!前田日明
椎名基樹のいい日アブダビ紀行文!
「UWF」が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突! 小川直也
UFOの特攻隊長、爆進!! 村上一成
石川雄規&小路晃対談
ミスター高橋の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秩父合宿リポート

No.26

★「プロレス」を頼むゾーッ!! やっちゃってくれサク!!



桜庭和志炎のロングインタビュー
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!
前田日明&田村潔司
人間UFO、4・7ゴールデンタイムで破壊王を壊滅!!小川直也
「プロレススーパースター外伝」ミスター高橋
本誌独占! 斎藤彰俊
遂に復活! クラッシュ2000／大仁田厚／エンセン井上
TAKAみちのく／山本宜久／村浜武洋
「4・7ドーム」&「格闘ドリームキャスト」座談会
女子総合格闘技ReMiXの全貌!

No.27

★「新プロレス」は連鎖する!



桜庭和志withサクラバマスク
ホイス完封記念インタビュー
ほ乳類最強の男藤田和之ド迫力に降臨!!
タムタム元気! 田村潔司
大仁田厚vs馳浩ハイテンション対談
佐山聡vs田中健一師弟対談
G・アイブル／K・シャムロック
本誌独占第2弾! 斉藤彰俊／格闘連鎖座談会
金原弘光／M・スペーヒー&R・アローナ&R・バルバ
ホイス&ホリオン&エリオその後／平直行／堀辺正史

No.28

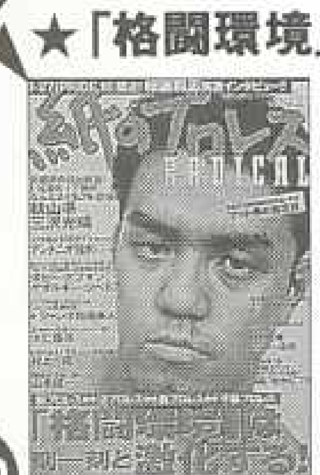
★「格闘リンク」続行ーーッ!!



小川直也ロングインタビュー
前田日明、尾崎社長を暴行? or説教?
"事件"の胸中をド激白!
無差別対戦表明、咆吼! 田村潔司
故・ジャンボ鶴田夫人、衝撃の真実を独白!
ヘンゾ・グレイシー／アラン・ゴエス／TKおかん
『紙プロスーパースター列伝』2連発! 山崎一夫&仲野信市／旭道山／池田大輔
豊永稔／ミスター高橋／I元編集長「井上用語の基礎知識」
山口日昇のサブウェイ「格闘リンク」トーク

No.29

★「格闘環境」は刻一刻と激化する!



秋山準マット界の新エース初登場インタビュー
三沢光晴&ノア勢フル登場
丸藤正道&金丸義信
故・ジャンボ鶴田夫人感動の闘病秘話
『PRIDE10』の主役はこの男桜庭和志
村上一成の波瀾万丈人生／小川直也／山本喧一／ホフマン&ツベトフ／TKおかん後半／大反響!
『紙プロスーパースター列伝』仲野信市後半
里村明衣子／I元編集長「井上用語の基礎知識」
大仁田厚

No.30

★燃えよ! 闘魂の火種!!



UFOの核弾頭村上一成
ヒクソン襲撃準備中小川直也
石沢常光という名のマスクマン暴言集
大和魂とトルコ魂の接近遭遇エンセン井上&ユフ・トルコ
怪物通信ヘンゾ&ハイアングレイシー
ノアから"怒りの火種"秋山準
『紙プロスーパースター列伝』永源遥／リングスinハワイ金原弘光／滑川康仁／格闘技界の未来を背負って立つ男高阪剛／緊急座談会さようなら長州力
「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り!

No.31

★真の「ストロング・スタイル」は『PRIDE.』にあり!!



咆吼三昧 E-mailインタビュー小川直也
サク&TKが焼鳥屋で越境対談
リングス・ジャパン批判は何処へ向かう? 田村潔司
KOK見どころ&正しい見方教えます堀辺正史の活字KOK
船濃密講座／谷津嘉章遂に『PRIDE』出陣! なっ!
今、川田利明がヤバい!! 川田語録／大反響!「紙プロスーパースター列伝」後半永源遥／高山善廣／ダン・スバーン／昭和の凄み炸裂!! ユセフ・トルコ
あなたはパンクラスが嫌いですか?

※NO.1～NO.4、NO.6、NO.8は完売しました!

前号で大反響を呼んだパンクラスに対する大胆提言第2弾!!



昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

闘将、プロレス人生を静かに吼える

金網デスマッチ、国際崩壊、こんばんわ事件、1vs3マッチ、愛犬死亡事件まで語り尽くす!!

ラッシャー木村【NOAH】



こんばんわ! というわけで、今回の『列伝』は”吼える闘将“ラッシャー木村が待望の登場だ! 前号で登場した辛口の永源遙が「泣き言も言わずまっすぐ生きてる」と讃えるほどの男・ラッシャー。日プロ~東プロ~国際~新日~旧UWF~全日~ノアと、激動のマット界の波に飲まれることなく生き抜いてきたのはラッシャー木村をおいて他にはいない。というわけで、長いイバラのプロレス人生を振り返ってもらった。「無口」で有名なラッシャーさんだが、実際にそんなことはなかったぞ! 心に染みるラッシャー木村一代記、プロレスファンなら必読だ!

聞き手/吉田豪
interview by Go Yoshida

撮影/松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga

構成/坂井ノブ
text by Nobu Sakai

国際プロレスはファミリーなんですね。楽しかった（微笑）。

木村　（吉田豪が持参したラッシャーの著作『猪木へのラブレター』を手に）あれ、こんなのどっから持って来たの？　懐かしいねぇ！

―非常に面白い本ですよね。僕は3冊も買っちゃいましたから（笑）。

木村　でも、どんな内容だったか忘れちゃった（微笑）。

―ダハハハ！　それでですね、木村さんが見ていた頃のプロレスと言えば力道山さんの存在が大きかったと思うんですけれども、その頃のプロレスラーって、酒、女、喧嘩みたいなイメージが強かったと思うんですよ。

木村　酒、女、喧嘩ですか？

―はい。でも木村さんはあまりそれを感じさせないじゃないですか。

木村　酒はよくやるけどねぇ（微笑）。

―ダハハハ！　優しそうな木村さんとは、だいぶギャップのあるプロレスに惹かれたのはなぜなんですか？

木村　何かね……、東京でポスターを見たんですね。

―それを見て、すぐに「プロレスをやりたい」と思ったわけですか？

木村　そうですね。あとテレビで見てたしね。

―もともと腕っぷしには自信があったと。

木村　多少はあったけどね。

―じゃあ、喧嘩したりとかは？

木村　いや、喧嘩はやったことないけど（微笑）。

―あっ、そうでしたか（笑）。

木村　少し体を鍛えなくちゃいけないのかなと思って、相撲に入ったんです。

―そうなんですか？　最初に相撲に入ったきっかけというのは、相撲部屋に行ったらチャンコが出てきて断りきれずにそのまま入ってしまったからだと聞いたこともあるんですけど（笑）。

木村　まあ、そういう事情もあるしね、「体を鍛えるのにもいいな」っていうのもあったんですよ。

―どっちにしても丁度いいと（笑）。相撲で同期にいたのが（上田）馬之助さんでしたっけ？

木村　馬之助と（林）牛之助ね。

―部屋も同じだったんですか？

木村　いや、馬之助と牛之助が同じ部屋だったんですよ。俺は違ったんですけどね。3年くらい、20歳までやりました。相撲でも、なるべく立ち会いでガーンといくようにしてたんですよ。

―ダハハハ！　プロレスのことを考えて相撲を取ってたんですね（笑）。

木村　そう。マワシを取って投げるというのもあったけど、プロレスでは、タイツを持って投げる訳には行かないからね（微笑）。

―で、相撲やってたらかなり出世しそうになっちゃったそうですけど。

木村　やってるうちにね。十両まで上がっちゃうと、なかなか辞められないでしょ。そうするとプロレスに入るのも遅くなっちゃうしね。

―それで、十両に上がる直前に相撲は辞めたわけですね。

木村　やってたら、上がりそうな気がしちゃって（微笑）。全然、向いてないわけじゃなかったと思いますね。相撲の巡業も好きでしたから。

―ちなみに、相撲の巡業ってどういう感じなんですか？

木村　まぁ、稽古して、チャンコ食べて、酒飲んで。

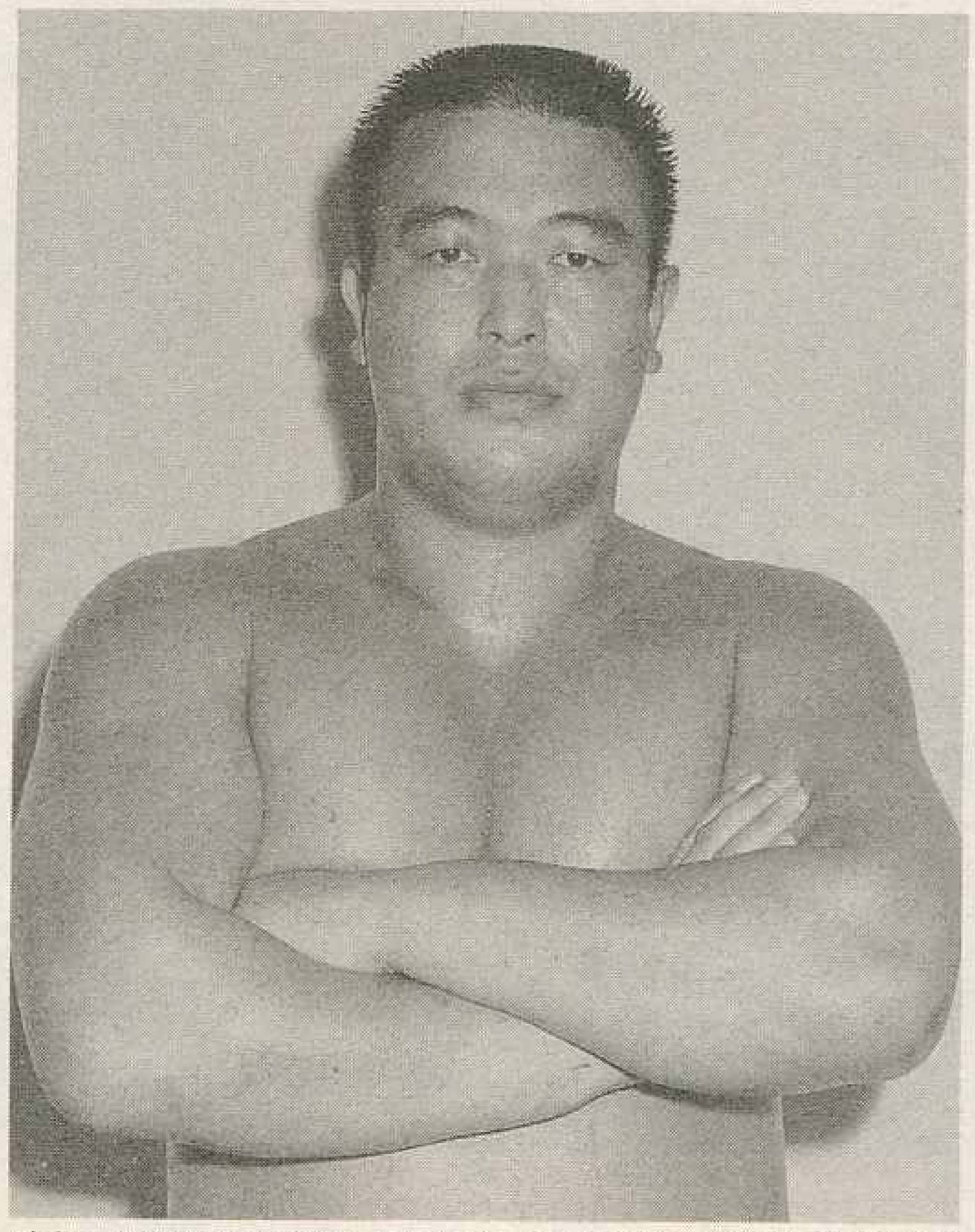
―そこでも、お酒ですか（笑）。

木村　そうです。でも十両以上になると、なかなか辞めさせてくれないしね。それで、自分で床屋に行ってね、「切って下さい」と。「本当に切っていいんですか？」って、そこの床屋も知ってた人だから心配してくれるんですよ。「いいから、早く切れ！」ってね。

―切らなきゃ決意も鈍りますからね。それで、念願のプロレス入りしてみて、どうでしたか？

木村　また相撲と違ってね、きついものがありましたね。

―『猪木へのラブレター』によると、当時はスクワットを毎日2000回ぐらい平気でやってたそうですけど。



デビュー当時の木村政雄選手。額に傷がないのは新鮮だ。相撲出身の選手にありがちなアンコ型の体型ではなく、鍛え上げられた肉体はプロレスラーそのもの。

木村　そうですね。始めの頃は、稽古が終わったら歩けないんですよ。新人ですからね。ダンベルとかも全部片付けないといけないし。それ持つと足がガクガクしちゃってね。あれも疲れますけど、スクワットっていうのは使う筋肉が違うんですよ。

―相撲を経験したのがプラスになった部分とマイナスになった部分もあると思うんですが、いかがでした？

木村　プラスになる方が多かったですよ。稽古にしても、辛いことも我慢出来ますからね。

―当時の日本プロレスのトレーニングって、どんな感じだったんですか？

木村　相撲の稽古みたいのもやりましたね。リングの上で、みんなマワシを着けてね。

―いわゆる寝技とかも練習するわけですよね。

木村　そうですね。先輩連中が次から次へと攻めてくるんです、こっちは1人なのに。関節技の練習ですからね。全然、動けなくってね。

―プロレスの同期というと、どなたになるんですか？

木村　完全な同期というのはいないんです。まぁ、（ザ・グレート・）カブキさんが、僕より半年くらい入門が早いかな。

―カブキさんはいい先輩ですよね。そんなに恐くないし（笑）。

木村　それから、（サンダー）杉山が来て、（マサ）斉藤が来て、その後に（グレート）草津が来たんですよね。

―みんなそれぞれ、アマチュアで実績を持ってる方達ですね。後輩で、アマレスで強い人達が入って来ると、木村さん的には反骨心も出て来るんじゃないですか？

木村　反骨心というか……あの頃は自分のことで精一杯でしたね。

―当時、木村さんはどなたの付き人をされてたんですか？

木村　僕は、豊登さんの付き人をやってました。豊登さんは僕のいた部屋の吉葉山という親方に可愛がってもらったらしいんですよ。「お前、吉葉山さんのところにいたのか？」って言われて。

―それで、よく豊登さんに飲みに連れて行ってもらっていたんですよね。

木村　豊登さんは飲まないけど、人に飲ませるのが好きだったからね（微笑）。あの人は、寿司屋なんか行っても凄いんですよね、食べる量が。びっくりしましたね。

―豊登さんがガンガン食べて、ラッシャーさんがガンガン飲むと。

木村　そう（微笑）。「飲めない」って言ってもダメなんですよ。「飲め」って言われたら。本当、底無しだから（キッパリ）。

―ダハハハ、お酒でも断れない（笑）。特に、豊登さんから注がれて「飲めない」なんて言えないですよね。



前号で大反響を呼んだパンクラスに対する大胆提言第2弾!!

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス

スーパースター列伝

木村　そうですね。相撲の大先輩でもあるしね。

――その豊登さんとの関係から東京プロレスに移ることになったんですか？

木村　そうなんですよ。日本プロレスに入ってまだそんなに経ってなかったんだけど、「お前はこっちに来るんだ」と。

――有無を言わさず連れていかれたわけですね。行ってみてどうでした、東京プロレスって？

木村　う〜ん、最初は、もの凄い人数がくる予定だったんだけど……行ってみたら、いないんですよね、人が。「どうなっちゃったんだよ？」って。まあ、猪木さんは絶対来るという話だったですけどね。

――なんだか、やがて木村さんが入ることになる旧UWFみたいですね（笑）。東京プロレスと日本プロレスでは、どんな違いがあったんですか？

木村　そんなに違いはなかったと思いますけどね。旗揚げ前に伊豆の伊東っちゅうところで合宿張りましてね。砂浜で走ったりとか、あと山に行ったりとかね（微笑）。

――そのへんだけ聞くと楽しそうですけどね。

木村　そう。そのへんだけはね。

――そのへんだけ（笑）。たしかに、凄いですよね。あの短期間でさまざまな波乱があったわけですからね。

木村　そりゃあ……、もうね……。

――木村さんにしてみれば、リング焼き討ち事件から、豊登さんと猪木さんの訴訟合戦まで、いきなりプロレス界の暗い面を入門早々に見せられちゃった状態だと思うんですよ。

木村　（徐々にうつむきながら）まぁ、キツかったですね……。

――それでプロレスに幻滅したりしませんでしたか？

木村　好きで入ったから辞めようなんていう気持ちはなかったですけどね。

――結果的に東京プロレスは分裂したわけですけど、木村さんとしては豊登さんについて行くしかないという状況だったんでしょうか？

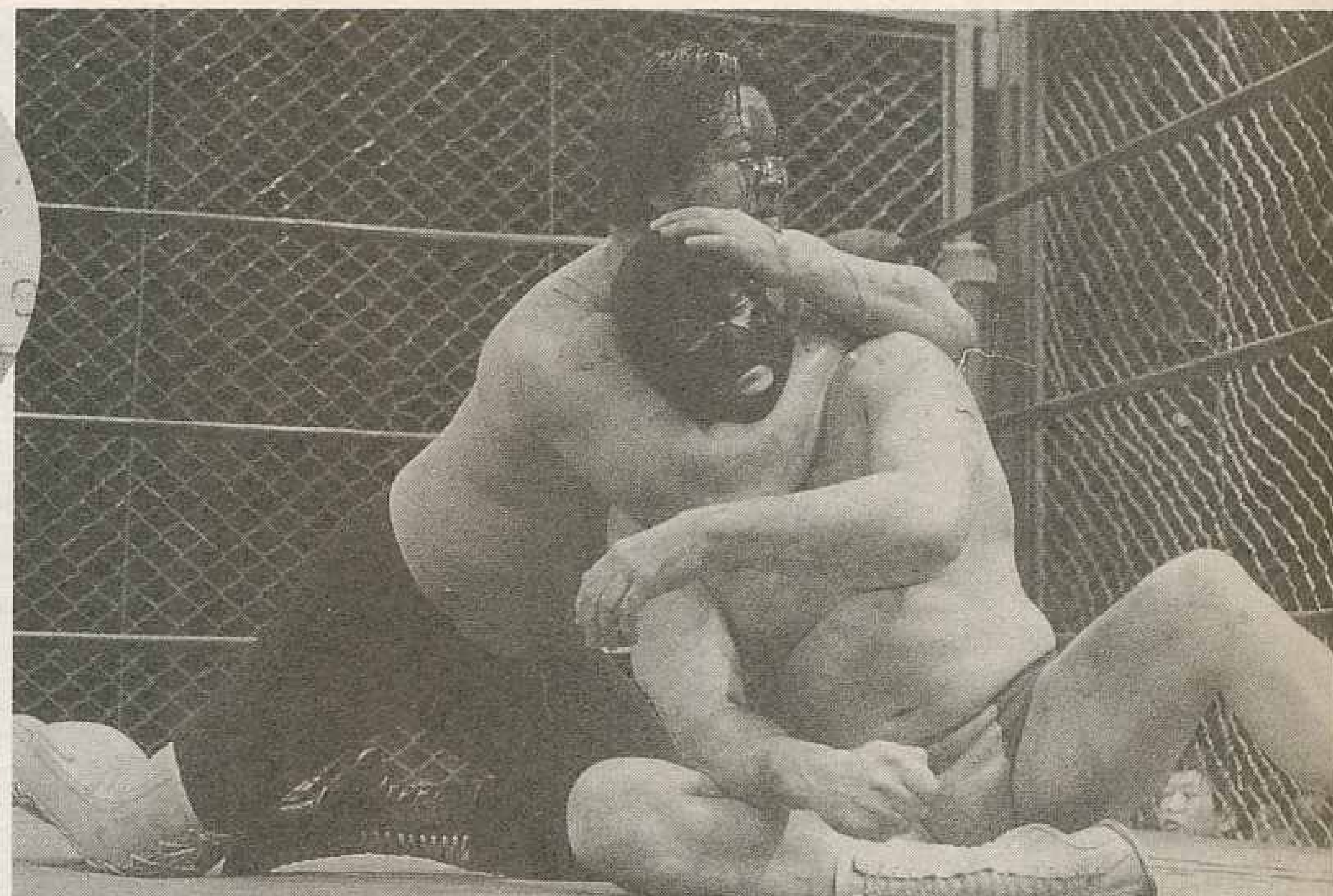
木村　まあ、そうですね。豊登さんについて、他の団体でやるしかないなと。

――当時は日本プロレス以外だと国際という選択肢しかないわけですけど、打って変わって国際は雰囲気が良かったみたいですね。

木村　（途端に声が大きくなり）国際はファミリーなんですよね。楽しかった（微笑）。

――いきなり表情が変わりましたね（笑）。ようやくやってて楽しいと思える団体に出会ったわけでしょうけど。

木村　楽しいっちゅうかね。お金はないんですよ。





斬新なアイデアと豊富な外人選手で話題を呼んだ国際。吉原功社長の人柄に惹かれて、集まる選手も人情派の選手が多かった。その中でラッシャーは「金網の鬼」として無敵の強さを発揮、エースとして君臨していたのだ。

――お金はないんですか!?

木村　ないけど、家族みたいに、みんなで酒飲んでね（微笑）。営業も、レスラーも一緒だったね（しみじみと）。

――はぁ〜、それは楽しそうですねぇ。

木村　派閥みたいなのがないんですよ。ファミリーみたいなモノだから。

――会社組織なのにまったく派閥がないってのも凄い状態ですよね。

木村　みんな、辞めてからも、どこ行っても付き合いは続いてるから。たまに会って宴会をやると、みんな昔に戻っちゃうんですよね（しみじみと）。随分と時間は経ってんだけど、そん時だけは昔に戻っちゃって、アホなことばっかり言ってね（微笑）。

――当時は木村さんも、一番ガンガン飲んでたわけですよね？

木村　そうでしょうね。（声がさらに大きくなり）大きな樽を開けてね。バケツになみなみと注いで、みんなでまわし飲みするんですよ。

――バ、バケツですか!?

木村　まわし飲みやるのはいいんだけど、みんなあんまり飲まないんだよなぁ。ちょっとしか飲まない。最後の人が空けなきゃいけないんだよ。それで仕方がないから僕がほとんど全部飲んだりして（微笑）。

――バケツ一杯飲みましたか！

木村　お酒で腹一杯なって、動けなくなったのは初めてだったですよ（微笑）。

――いや〜、本当に楽しそうですね。

木村　本当楽しかったね（微笑）。

――木村さんも国際時代のことを話すときは、メチャクチャ表情が明るいですもんね。

木村　明るいでしょ？　家にいるときはじっとしてることが多いんだけど、昔の仲間から電話があると、途端に大きな声で笑い出すもん（微笑）。女房なんかね、「あんた国際の人から電話があると物凄く明るくなるね」って（微笑）。別にどうっちゅうわけじゃないんですけど、話するだけでいいんですよ。

――楽しい想い出がたくさんあったんですね。他のプロレス団体との違いって何なんですかね？

木村　何だろう、やっぱり吉原（功）社長かねぇ。

――吉原さんの人間性ですか。

木村　吉原社長は何もしゃべらない人だったんですけどね。

――2人で飲んでも、全然しゃべらなかったという有名な話もありますね。

木村　会社にいても、全然しゃべらないですよ。酒飲んで、たまにフフフって笑うぐらいで。

――木村さんより無口だったんですね（笑）。

木村　いや、遥かに無口だったんじゃないですか？　いや、僕もしゃべんない方ですけどね。

――国際時代、一番仲が良かった人というのはどなたですか？

木村　ずいぶん前に亡くなったですけども、スネーク奄美というレスラーがいたんですよ。あれは、いい男だったね（しみじみと）。もう死ぬまであいう奴には会えないだろうなぁ……。

――どんな方だったんですか？

木村　いや、いい人間なんですよ（しみじみと）。

――いい人と言われてる木村さんがそう言うくらいだから、よっぽどいい人なんでしょうね（笑）。

木村　元・国際の連中なら「あいつは良かったなぁ」ってみんな言いますよ。練習はよくする男だったねぇ。生真面目だし、そうかといって、みんなと騒ぐときはものすごく騒ぐんですよ。しかもね、どういうわけか嫌味が一つもないんだ。

――はぁ〜、プロレス界では非常に珍しいタイプですね。

木村　ずっと僕の付き人やってたんです。休みの時は家に来て、飲んだり食べたりしてね。鹿児島の方行くとね、僕の好きな酒飲むときのツマミなんかを買ってくるんです（微笑）。

――一緒に飲もうという感じで。付き人と先輩というよりは友達に近い感覚なんですかね。

木村　あいつの奥さんが札幌で飲み屋をやってる

んですね、僕が札幌に行ったときは必ず行きます。たまに違う店に行こうかなと思うけど、待ってるから行かなきゃいけない（微笑）。札幌に行ったら僕が来ると思って、みんなで集まって待っててくれるんですよ。

――それじゃ行かないわけにはいかないですね（笑）。ちょっと国際プロレスについていろいろうかがいたいんですが。当時、何度も流れちゃいましたけど猪木さんと闘えそうなチャンスというのがありましたよね。やっぱり「猪木さんと闘いたい」という気持ちはあったわけですか？

木村　気持ちの中では一時期、「絶対誰にも負けない！」という自信がありましたからね。だけど、（ジョージ・）ゴーディエンコとやったら「こんな強い奴はいない」と思った（微笑）。

――外人レスラーで誰が強かったかって話になると、木村さんは必ずゴーディエンコの名前を挙げますよね。

木村　ゴーディエンコは、本当に強かったから強いってね。

――本当に強かったから、強いんですか（笑）。

木村　言い方はおかしいけど、とにかく本当に強かったんですよ。組んだ瞬間に分かるんです。「あ～、こりゃ強いな」と思っちゃう。

――当時、ゴーディエンコはそれほど評価されてなかったですよね。いまでも伝説になってますから、相当なものだったんでしょうけど。

木村　地味だったからね。自分をアピールするわけでも何でもなくてね。

――カール・ゴッチですら「あいつは強い」と言ってたそうですね。

木村　カール・ゴッチも一応自分の手前があるから、「勝てないかもしれないけど、負けない」ってね。そういう言い方しか出来ないんですよ。

――それだけ強い、と。試合を見たことがないから、ボクの中で幻想が高まる一方なんですよ。

木村　なんか10才のときに、100キロのバーベル持ち上げてたらしいよ。

――エ～ッ、そうなんですか！

木村　普通、そんなこと出来るわけないって（微笑）。だから何て言うの、生まれつきナチュラルな力があるんですよね。

――ちなみに、日本人レスラーで「こいつは強い！」と思った人はいますか？

木村　みんな強かったような気がしますよね。

――ダハハハ！　いいフォローですね（笑）。では、外人で他に強かった選手っていましたか？

木村　（ドン・レオ）ジョナサンも元気っていうか、強いレスラーでしたねぇ（しみじみと）。（ビル）ロビンソンは色んなことを出来るんですよ、技も研究してたし。でも、ゴーディエンコみたいな「こいつはどうしようもない強さだな」というのはないけどね（微笑）。

――どうしようもない強さ（笑）。当時、国際プロレスにはヨーロッパのランカシャースタイルの人とかが多く来日してましたよね。

木村　ヨーロッパのレスラーって、ほっそりした感じ、あまり身体がごつくないじゃないですか。

――わりと技巧派タイプですからね。

木村　それがやったら凄いんですよ。

――強いんですか？

木村　強い！　ぶつかったら、吹っ飛ぶんじゃないかと思いましたよ。ヨーロッパのレスラーというのは、みんなプライドを持ってますからね。

――ちゃんと強さにプライドを持っていると。木村さんも力は相当自信があったんじゃないんですか？

木村　その頃は、ベンチプレスでも200キロ以上やってましたからね。

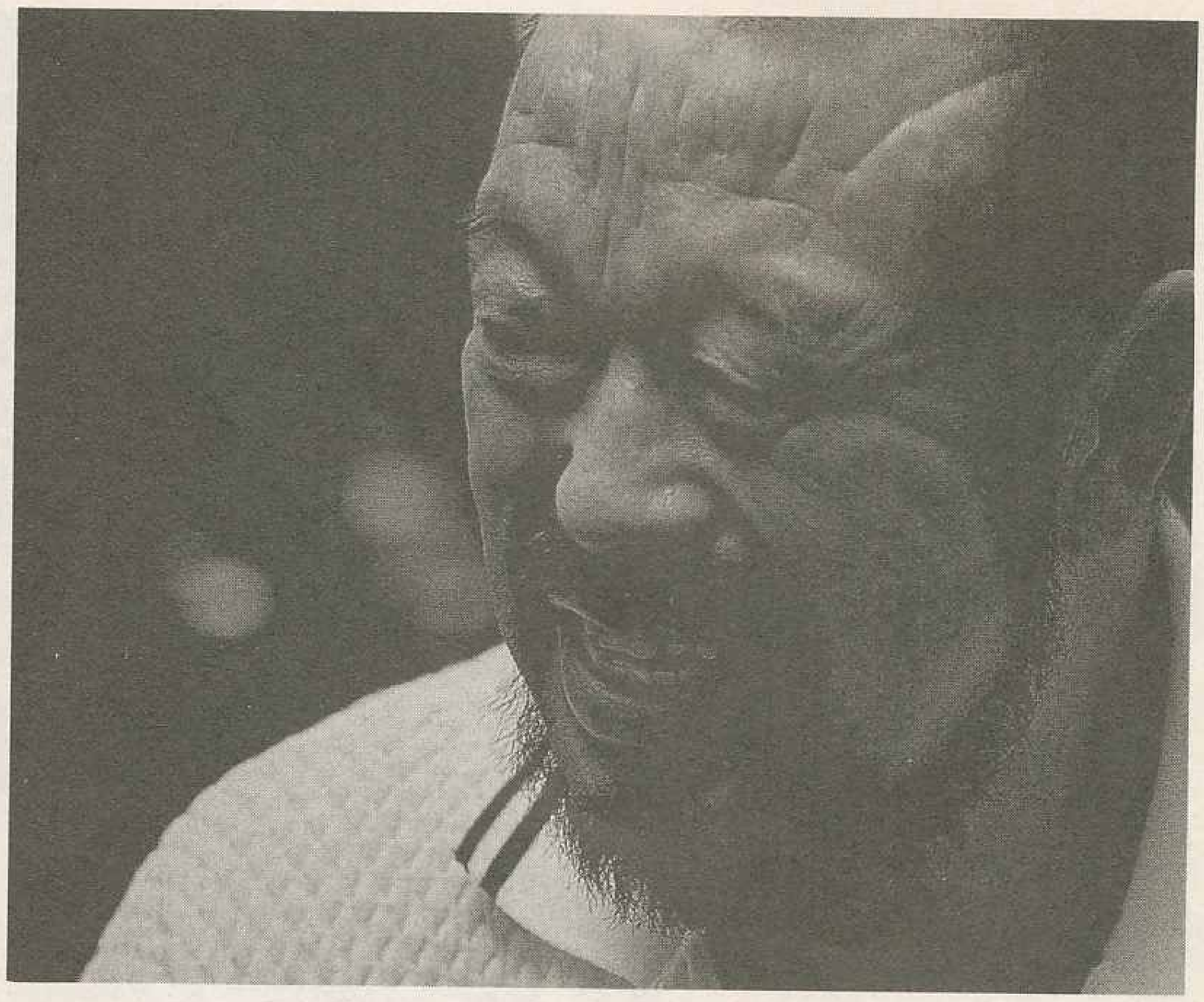
――かなり凄いですね！

木村　重いモノ担いだりとか相当やったつもりだったけどね。

――それでもかなわなかったと。当時の国際は、ホント素敵な外人選手が多かったですよね。当時はまだファンにあまり見る目がなかったと思うんですけど、いまなら絶対注目されますよ。

木村　本当にそう思いますよ。

――早過ぎた団体だったとか、よく言われてますけどね。



バケツに酒をなみなみ注いで みんなでまわし飲みするんです ほとんど僕が飲みました（微笑）

木村　（声が再び大きくなり）いまだに国際のファンクラブだった人達が何人か集まって、飲んだりしてるんですよね。「あんた達、いいかげんにしなさい」って言うんだけど（微笑）。

――木村さんもいまだにファンの集いに顔を出したりしてるんですか？

木村　ええ。飲んだりしますね（微笑）。

――はぁ～、ホントにファミリーなんですねぇ。それで話を戻しますが、木村さんは国際時代にアメリカ遠征に行かれてますよね。そこで、素人の力自慢と対決したことがあるそうですが。

木村　プロモーターが「素人で日本人相手に勝負したいというヤツを上げてもいいか？」って言ってくるんですよ。だから「いいよ」って。

――いいよ！　でも、どんな相手が出てくるか分らないですよね？

木村　どんなのが来ても大丈夫だと思ったから。

――まず勝てるだろう、と（笑）。絶対負けないという自信もバリバリにあるわけですよね。

木村　まあ元気だったしね（微笑）。関節だってなんだって押えつけちゃってね。何度かやりました。プロモーターも喜ぶんですよ。

――ヤバイ相手とかはいなかったんですか？

木村　いや、みんなごっついですよ。上がってくるくらいだから、自信がある連中ですよ。

――それでも木村さんは危ない目に会うこともなかったわけですね。

木村　ないですよ。パッと極めちゃうんです。どんな大きくたって、相撲時代には、そいつらよりもっと大きい奴がいくらでもいたから。

――なるほど！　倒す技術は相撲で学び、その先の技術はプロレスで学んでいたってわけですね。

木村　そうですね。倒しあいっこだったら、相撲取りは絶対負けないです（キッパリ）。その後の極め方とかは相撲取りは知らないけど、僕はプロレスをやっていろんな技を覚えましたから。

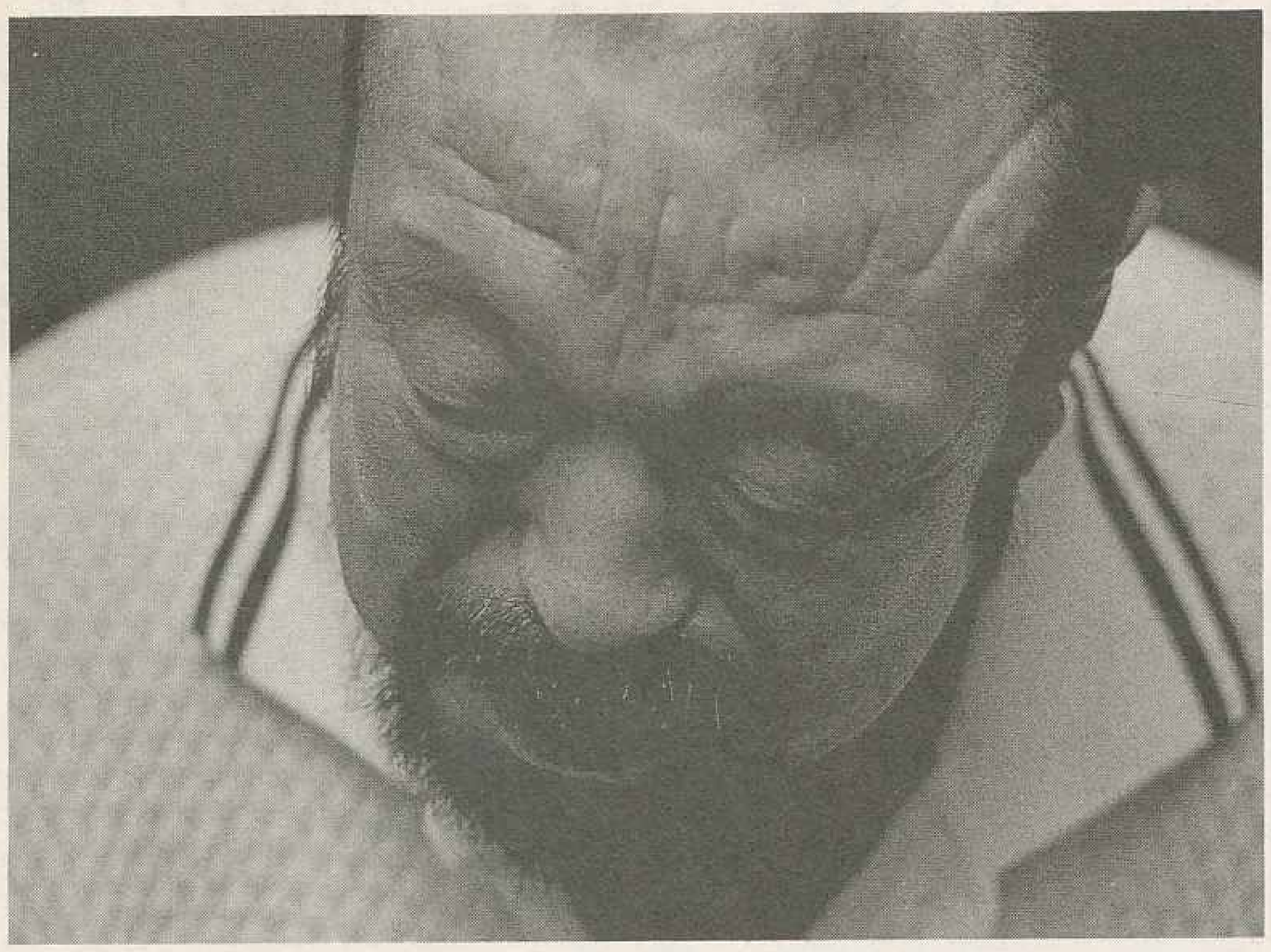
――そこらの素人相手ぐらいじゃビクともしないぜ、と。

木村　相撲取りが思いっきりブチかましてくるのに比べたら、顔殴ろうが、頭突きだろうが、素人なんて屁みたいなモノだからね。

――屁みたいなもの！　シビレますね、木村さん！　その頃、海外遠征行った人って、みんな

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

そういう修羅場をくぐったりしてるんですか？
木村　さぁ、他の人はどうか知りません。
―ダハハハハ！　それで海外遠征で一番印象的なのは、やっぱりドリー・ファンクとの連戦になりますか？
木村　そうですね。向こうに行ってすぐドリー・ファンクとNWA選手権やったんですけどね。
―そんな凄いことになってるのに、当時の日本ではあまり話題にならなかったのがもったいないですよね。
木村　いや、日本へ記事を送るということを全然やらなかったもので……。
―あ、そうなんですか⁉
木村　記事は一切送ってないから。何にも！　会社から後で、どうしてそういう資料を送らなかったんだって言われましたよ。
―当時は海外遠征したら、みんな現地の新聞とかを日本の新聞社に送ってたんですよね。木村さんはそれを知らなかったんですか？　それとも、やらなかったんですか？
木村　やらなかったんです。
―敢えて？
木村　うん（キッパリ）。
―どうして、また？
木村　いや、アメリカにいる間は頑張って、帰りゃいいかと思ってね。
―変に、自分を売ることはしたくなかったんですかね？
木村　いまから考えりゃ、そうですかね。
―いや～、木村さんくらい「俺が、俺が」っていう欲がないのはプロレス界でも珍しいと思うんですよね（笑）。
木村　ハハハハハ。
―海外では、よく動物園に行ってたという記事を読んだことがあるんですけども、それは本当なんですか？
木村　行きましたね。試合が休みだと。
―「遊びに行こう」と若手を誘ってどこに連れて行ってくれるのかと思えば動物園だったっていう（笑）。
木村　そうです。ロサンゼルスで、新日本の小林邦昭がいたんですよ。「動物園行こうか」って言ったら、「えー、動物園行くんですか⁉」って（微笑）。
―一緒に行ったんですか？
木村　行った、行った。
―これも聞いた話なんですけど、若手の選手を「動物図鑑一緒に見ようよ」って誘った話はホントですか。
木村　（はにかみながら）家には、いっぱい動物図鑑あるからね。
―本当に動物好きらしいですね。
木村　好きだね。でも、いまは何も飼ってないんですよ、これが。
―そうなんですか？
木村　この間、猫が死んでね……（しんみりと）。それからは、もう死ぬ時が嫌でねぇ。死んだ時は葬式を出して、ちゃんと人間みたいにお墓を買って、お骨を納めましたよ。
―墓参りもちゃんと行くんですか？
木村　行くよ。お線香あげて、水あげてね。きれいに花をとっかえる。
―ホントに動物好きなんですねぇ。昔、火事のとき猫だけ連れて逃げたって聞いたこともありますけど（笑）。
木村　ああ。昔ね、火事でマンションの真下の方から煙が上がって来たんですけど、猫だけを抱えてさっと逃げましたからね。そのときは女房に怒られた（微笑）。
―ダハハハハ！　最高です！
木村　そのときは猫のことしか考えていなかったから。猫は逃げられないじゃない。人間だったら逃げれるけど。
―筋は通ってます（笑）。いや～、木村さんって本当にいい人ですね！



木村　（突然また声が大きくなり）それでね、いまの家の近所に犬がいるんですよ。朝と夜必ず1日2回遊びに来るんですよ。奥さんが連れてウチに置いてってちゃうの。
―木村さんが面倒みてあげてるんですか？
木村　（嬉しそうに）可愛がってやってるんだけどね。これが、朝眠い時に部屋に来て僕を起こすんです。でも、眠いから放っておくと、顔引っ掻いて大変なんだ。「起きろ」って（微笑）。
―朝から一緒に遊んであげるわけですね（笑）。
木村　そう（微笑）。公園へ連れて行ってね。これがどうしようもないくらいかわいいんだ（いきなり、ごそごそとするラッシャー）。
―あ、写真でもあるんですか？
木村　家にはいっぱいあるんだけど。1枚だけここに入ってる（と、財布に貼ったプリクラのシールを見せてくれる）。
―ほぉ～、かわいいっスね。小形犬ですか？
木村　そう。
―名前はなんて言うんですか？
木村　（頬を赤くして）ジュディ。
―ダハハハハ！　ジュディ（笑）。かわいくてしょうがないんですか？
木村　かわいい（微笑）。もうメチャクチャだよ。3週間に1回床屋に行くの。床屋に行って綺麗にしてもらってね（微笑）。
―木村さん、犬の話も本当に幸せそうな顔して喋りますね（笑）。
木村　幸せ（微笑）。
―ダハハハ！　ちなみに子供の頃、熊を飼ってたって話を聞いたことがあるんですが、本当なんですか？
木村　うん、本当。
―他にそんなプロレスラーいませんよ（笑）。
木村　熊っていうか、何でも飼った。農家の家から牛をもらってきて、親父に「どうすんだ」って怒られたこともあったね。親父も怒りながら、裏に小屋を建ててくれたりね（微笑）。
―牛もちゃんと飼ったんですか？
木村　うん。2年くらい飼って、品評会に出したんですよ。「よしゃ、俺も出してやろう」と思ってね。一所懸命磨いてね。それで、出した。
―はー、そうなんですか。で、どうだったんですか？
木村　（嬉しそうに）優勝した。
―優勝！　凄いですね！
木村　まさか、優勝するとは思わんかったけど。
―それだけ大事に育ててあげたと。
木村　でも、牛ってあまり長く飼えないでしょ。
―大きくなっちゃいますからね。
木村　「売ってくれ」ってくるんですよね。優勝したヤツだから。だけど、親戚の農家の家に持って行ったんですよ。
―それだけ動物好きだと、やっぱり新日に参戦していた頃の事件は相当ショックだったと思うんですが……。
木村　（顔をしかめて）あの時は参ったね……。朝から晩まで凄いんだから。
―狂信的な新日ファンが、家に向かって卵を投げつけたりしたんですよね。
木村　「出てこーい！」とか言ってね。俺はいいんだけど近所にみっともないじゃないですか。

――近所の手前もありますからね。

木村　出ていって止めさせようとしたら、余計にやるからね、じっとしてたんだけど、物はぶつけるし、大きな声で叫ぶんだ。

――それで愛犬がノイローゼになっちゃったんですよね？

木村　熊五郎と大五郎という犬がいたんですよね。毎日ああいうことがあると、おかしくなっちゃうね。

――熊五郎が円形脱毛症になって、ノイローゼで死んじゃったんですよね？

木村　（うつむいたまま）……。

――プロレスが一番のブームだった時だったからこそ、ファンもそれだけ熱くなってたんだとは思うんですけど。

木村　だから高田馬場に引っ越してね。引っ越したらね、今度は夜遅くに歩いてると酔っぱらい達が大きな声で「マイク」コールやるんだよね（微笑）。

――ダハハハハハ！

木村　酔っぱらっているからどうしようもないんだよね。近所の人も困っちゃってね。どうしようもなくなって、そこも引っ越したからね。そんなことがあったからいまの住所は、あまり人に言わないんです。でも、静かなとこですよ。

――それもある意味、人気の証明みたいな部分もあるとは思うんですけど。

木村　絶対、マイク止めようと思ったもんね。

――ダハハハハハ！　こんなことになるんだったら（笑）。人気商売は苦労も多いわけですね。

木村　マイクコールくらいだったらいいんだけども、夜中に大きな声で4、5人でやられると凄く響くんですよ。

――あと、そもそも犬を飼い始めたきっかけが泥棒に2回も入られたからだと聞いたんですが。

木村　そうですね。それも、昼間留守にしている間だったから。

――時期的には国際の頃ですか？

木村　国際時代ですね。ウィスキーとかの酒まで持っていかれましたよ。

――高いお酒ばっかり盗られちゃったそうですね。

木村　あとカバンね。ルイ・ヴィトンとか、バカみたいにヴィトンばかり集めてたから。

――根こそぎ盗まれたんですか？

木村　隣の人に、その時のことを聞いたら、「車にいっぱい詰め込んでました」って。さすがに、背広とかは持って行ってないんですよね。

――サイズがあわなかったんですかね（笑）。

木村　あと、僕はライターを集めるのが趣味だったんだけど、1個もなかったね。いいヤツばっかり集めてたんですよ。

――被害額も百万単位ですか？

木村　そんなモノじゃないですよ（淡々と）。

――うわぁ……。ちょっと切ない話になってきたんで話を戻しますけど、木村さんは海外遠征から戻ってきてすぐに金網デスマッチを始めたわけですよね？

木村　そうですね。日本に戻ってきて吉原社長に「アメリカでこういうデスマッチをしました」って言ったら、「じゃ、やってみるか」と。「そうですね、やってみますか」となってね。

――それだけバカ受けした反面、過激すぎて当時の中継では放送禁止になっちゃったみたいですけど。

木村　いまでは、みんな流血とかしますけど、当時はあんまりなかったですからね。

――いまはアルティメット大会とかで、また金網が使われていますけどね。

木村　なんか、やってますね。

――そういうモノに対して、木村さんとしてはどういう感想をお持ちなんですか？

木村　俺は、あまりよく分かりません（キッパリ）。見たりなんかしたこともないし。別に新聞とかでも見ないし。

――じゃあ、日本初のデスマッチをやってきた木村さんとしては、いま他団体で頻繁に行われているデスマッチについてはどう思いますか？

木村　自分でもプロレスやってるのにおかしいんですけど、他のこと知らないんですよ。でも、聞いたことはあります。大仁田（厚）がバラ線を張ってやるとか。その程度ですよ。

――当時、そういう形式のデスマッチがあったら木村さんはやられてました？

木村　バラ線を張ってですか？　何とも言いかねますね。

――もし吉原さんに言われたら？

木村　（間髪入れずに）言わないよ！　そんなこと。

――昔はデスマッチといっても、そんなにいき過ぎたモノではなかったと。

木村　そうですね。だから、金網の中ではノックアウトするかギブアップするかというレスリングだったんですよ。

――あくまでもレスリングだと。そういえば、木村さんはオックス・ベーカーと足が折れたまま闘って失神KOさせたこともあるんですよね？

木村　いや、折れてるとは思わなかったですけど。全然力入らないし、そのまま病院行ったら、複雑骨折なんて言われちゃってね（微笑）。

――興奮状態だったんでしょうかね。

木村　まさかそんなことになってるなんて思ってなかったよ。もう痛い、痛い、凄く痛い！　で、足を引きずりながら控え室まで歩いたんです。

――それもすごい話ですよね。普通、担架とかで運ばれると思うんですよ。

木村　俺だって複雑骨折してるって分かっていたら担架で運んでもらいますけど、気付かなかったから（微笑）。

――そんな非常に楽しかった国際プロレスが崩壊して、新日に移籍するのはやむを得ない選択だったわけですよね。移籍すれば関係者にお金がでるっていう話もあったみたいだし。

木村　そうですね。まぁ、吉原社長に言われましてね。

――ずっと猪木さんと闘いたいと思い続けてきて遂に機会が訪れたわけですが、トップ同士の対戦のはずが、新日ブームのせいで木村さんがヒール的な扱いになってしまいましたよね。

木村　凄かったですね、「帰れコール」ですか（微笑）。あの人と闘う人は、みんな悪者扱いですから。たとえどんな人でもね。

――なかでも木村さんは一番酷い扱いというか、ファンの憎悪が凄かったと思うんですよ。

木村　客が熱くなりゃなるほど、こっちも「何クソ、この野郎！」となりますからね。でも、あの当時のファンの人は、いま何をしてるのかなとも思いますね（微笑）。

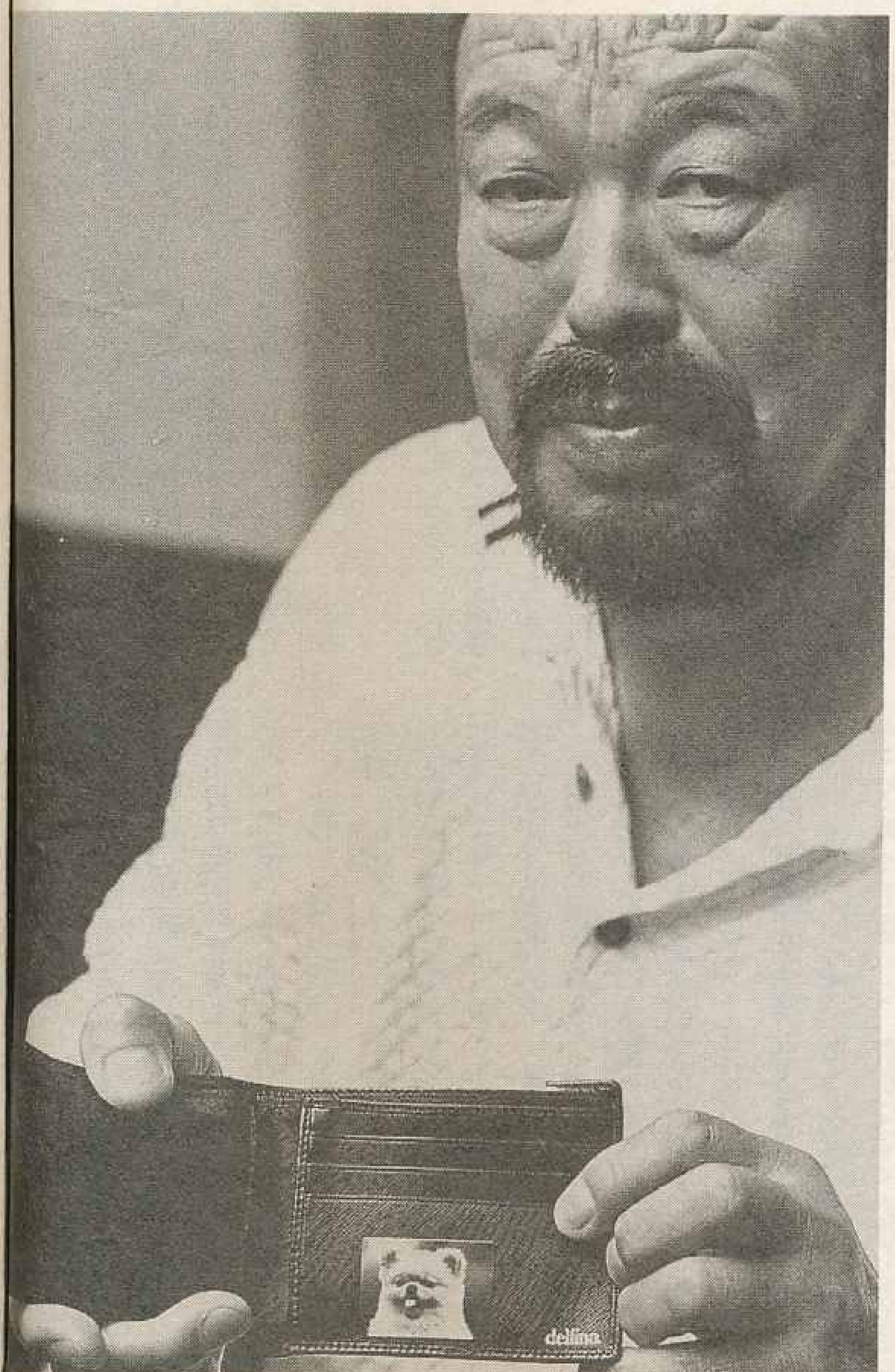
――僕もその世代ですから、半分くらいは残ってそうな気がしますけどね。

木村　あの頃、大阪の体育館で客がかなり暴れたことがあったでしょ。

――髪切りマッチで負けたのに、木村さんが髪を切らないで逆に猪木さんの髪の毛を切っちゃったときですね。

木村　とてもじゃないけど、表から出られないんだもん。体育館ではみんな物投げてるし。あのときは裏口から出て、タクシー拾って帰ったもんね。新日で体育館にかなりの額を払ったらしいよ、あれ。

――そんな大変な暴動状態だったんですか！



前号で大反響を呼んだパンクラスに対する大胆提言第2弾!!

で、あの頃の話となるとどうしても聞かなければいけないのが、最初に新日登場したときの「こんばんわ」という伝説のマイクなんですけれど。

木村　……なんで俺、あそこで「こんばんわ」って言ったんだろうねぇ？

――いや、知りません（笑）。

木村　ともかくいろんなことを言おうと思ったんだけど、最初に挨拶しようと思っちゃってね（微笑）。まずは「こんばんわ」ってみんなに言わなくちゃいけないと思ったからなぁ（微笑）。

――ダハハハハ！　当時のファンは、単なる敵として見ていたから気付かなかったでしょうけど、そのへんに木村さんの人柄がでますよね（笑）。1vs3マッチのときなんか、相当に屈辱感もあったと思うんですが、いかがでしたか？

木村　そりゃ、ありましたよ。1vs1でも「そうはいかん！」と思っていたけど、「1vs3だと？　ふざけんじゃねえ、この野郎！」と思ったけどね。

――勝っても、負けても得しないわけですからね。ああいうカードを組むのが猪木さんと新間（寿）さんのえげつない部分だと思うんですよね。

木村　フフフフ（微笑）。

――えげつないといえば、猪木さんと何回目かのシングル対決（83年9月21日、大阪府立体育館）で猪木さんがあまり木村さんの技を受けないプロレスをしたと言われる試合がありましたね。

木村　まあ、技をあまり受けないというのは、かえってその方がよくないですか？　技を受けないなら、受けないでもいいと思うよ。そういう試合もありますから。

――それと同時期に、新日参戦のパートーナーだった浜口さんと寺西さんが維新軍に流れていったんですが、そのとき木村さんとしてはどう感じました？

木村　それはそれでしょうがないんじゃないですか？

――そして、木村さんもUWFに参加することになるわけですね。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

近所の犬を可愛がってるんだ名前？-（頬を赤くして）ジュディ♥

木村　（またまた表情が暗くなり）UWFも、いろんなことがあったんですよ。あまり言えないけどね。

――東京プロレスの頃から付き合いのある新間さんに誘われたんですよね？

木村　（段々と声も小さくなり）うん、そうです。何ちゅうかな、頼まれたらね……。

――嫌とは言えない性格ですからね（笑）。

木村　世話になってるしね。我々がいかなかったら誰も行かないですよ。そこで「頼む。頼む」って言われたらね。

――当時からUWFの選手は木村さんのことは悪く言わないというか、方向性は違っても「あの人はちゃんと練習をしてた」と言われてたんですよね。

木村　そうですか？　練習は好きなもんでね。

――当時は、「UWFは正しい」みたいなマスコミの煽りがあったせいで、あそこから抜けた人達はUWFスタイルに対応できずに逃げたんだみたいな話が言われ方をしたと思うんですよ。

木村　それはあり得ないですよ。旗揚げしてから何人か集まって来て団体としての形ができたじゃないですか。だから、俺はもういなくてもいいだろうと思ってね。

――最初に「こんな団体にしよう！」みたいな構想はあったんですか？

木村　（長い沈黙）……まぁ、言わないでおきましょう。言わなくても、知ってる人は知ってると思うから。

――結構、表に出てますけどね。

猪木さんが来る来ないの話まで。

木村　ハハハハハ……。

――そこで、全日本という道がまた出て来ましたよね。馬場さんに対しては昔から信頼感があったわけですか？

木村　「どうしても会ってくれ」と言うんでね。そのとき、ちょうど何もしてなかったもんで。

――新日時代はかなり過酷な思いをしてきたと思うんですけど、全日でまた大分リラックスできましたか？

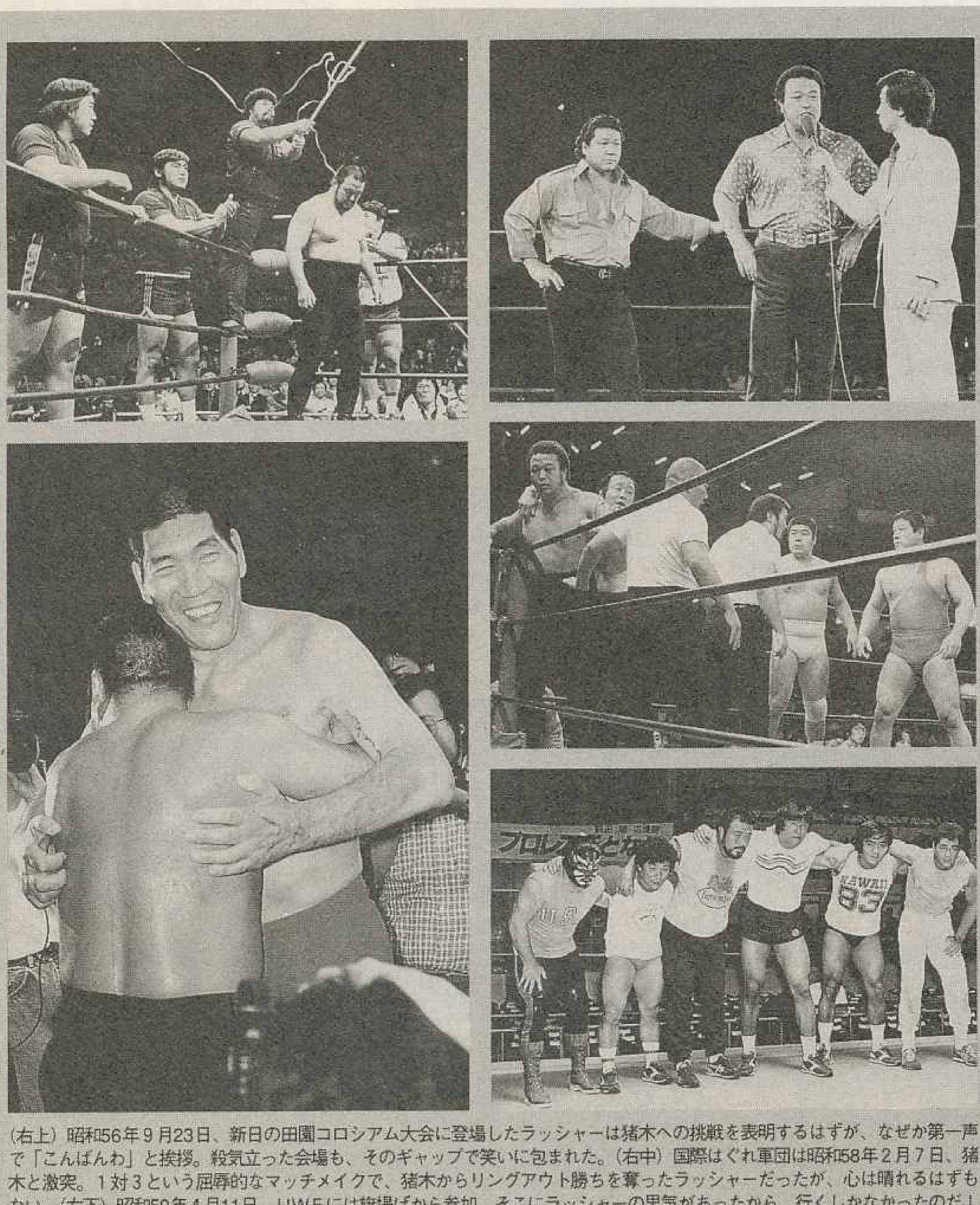
木村　ああいうタッグ（義兄弟タッグ）を組むようになってね。最初のうちは違ったけど。

――馬場さんと抗争していましたからね。義兄弟タッグを組むようになってからはファンにもかなり受け入れられてたと思うんですけど、パートーナーとして馬場さんはどうでしたか？

木村　いや、もうお互いにベテランですから、いちいちどうのこうの言わなくても上手くいきますんでね。試合前にああしろこうしろなんて、何も話したことないですよ。

――それだけ全日本の水は木村さんに合っていたと思うんですよね。それが分裂という形になって、木村さんがノアへと移ったのは正直言って非常に意外だったんですけど、理由は何だったんですか？　まあ、やっぱり言えないことも多いとは思いますが。

木村　（またうつむきながら）うん、言えないことはありますけど……。馬場さんがいなくなってからね……。馬場さんがいたら、分裂しな



（右上）昭和56年9月23日、新日の田園コロシアム大会に登場したラッシャーは猪木への挑戦を表明するはずが、なぜか第一声で「こんばんわ」と挨拶。殺気立った会場も、そのギャップで笑いに包まれた。（右中）国際はぐれ軍団は昭和58年2月7日、猪木と激突。1対3という屈辱的なマッチメイクで、猪木からリングアウト勝ちを奪ったラッシャーだったが、心は晴れるはずもない。（右下）昭和59年4月11日、UWFには旗揚げから参加。そこにラッシャーの男気があったから、行くしかなかったのだ！（左上）全日に移籍してからは国際からの移籍組を率いて大暴れした。特にジャイアント馬場との抗争の中で、馬場を挑発するために行っていたマイク・アピールが、いつのまにかトレードマークとして定着していく。（左下）足を骨折から、約半年ぶりに復帰した馬場に「アニキ！」と抱きつくラッシャー。まさに義兄弟と呼ぶにふさわしい絶妙なコンビである。ときどきラッシャーのマイクで吹き出す馬場が印象的だった。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ノアに来た理由？レスラーも社員もみんな明るいし張り切ってる。それで何とかわかってください。

かったとは思いますけどね。

——馬場さんへの信頼感というのが、それだけあったということですか？

木村 ええ。

——三沢（光晴）社長のノアを選んだ理由は何だったんでしょうか？

木村 （急に表情が明るくなり）まぁ、現在ですね、レスラーも社員も、みんな凄くのびのびしているし、明るいんですよ。それで分かってもらいたいなということで（微笑）。

——ダハハハハ！ わかりました。ノアの話も表情が明るいですね。社員の方にも何人かお話を聞いたんですけど、やる気が全然違うみたいですね。

木村 みんなのびのびしてるでしょ？

——ええ。つまりリング上でもリング外でもやりたいのにやれないことがあったと。

木村 レスラーを見てもみんな明るいし、張り切ってるし、営業もみんな張り切って明るいし、それで何とかわかって下さい（微笑）。

——わかりました（笑）。個人的には、これまでマイクで結婚問題をいじり続けていた渕さんとの別れというのは残念だったんですけどね。

木村 渕は渕でね、また頑張ってもらいたいと。

——結婚も対抗戦も頑張ってほしいですよね（笑）。新日本プロレスとの対抗戦で大活躍してますけど。

木村 対抗戦とかそういうのではなくて……。まぁ、頑張って。

——ノアとして今後、木村さんがやろうとしていることはありますか？

木村 特別には……。自分では何もできないですからね。自分なりに何かの役に立てばと思いますけど。

——会社の役に立てばと。

木村 あと、僕はプロレスが好きなんでしょうね、やっぱり。

——やはり引退後も、この仕事に関わっていきたいとお考えですか？

木村 今は何も考えてないですね。体の続く限り頑張りますよ。辞めたらどうしようかとか、考えないです。

——なるほど、では今日の試合も頑張って下さい。

木村 はい（微笑）。

【10月7日、プロレスリング・ノア事務所にて収録】

■インタビュー後記

試合開始直前の慌ただしい時間を割いてもらい、ラッシャー木村の長い長いプロレス人生を振り返ってもらったわけだが、言葉の端々からその素晴らしく、微笑ましい人間性を感じて頂けることだろう。

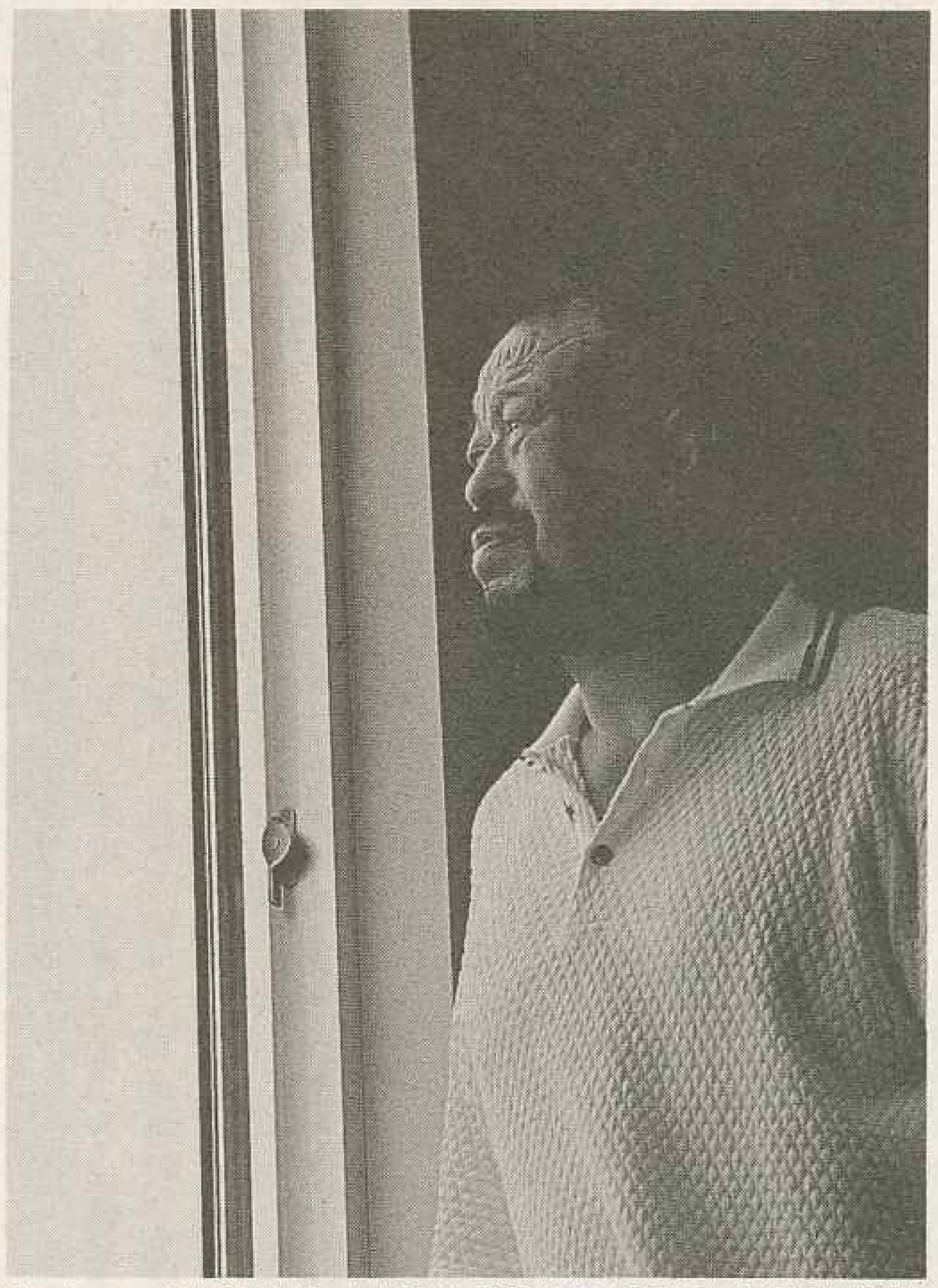
文中にも出てくるラッシャー木村の名著『猪木へのラブレター』（'83年刊）の裏表紙に、ラッシャーの友人である三遊亭圓歌師匠がメッセージを寄せているので、それを少し抜粋してみよう。

●

〝悪になりきれない悪〟〝どんな試合においてもスタンバイの遅い男〟これが大方のプロレスファンの意見だろう。彼のその男らしさがすべて出ないうちにゴングは鳴り〝ワン、ツー、スリー〟となる。しかし彼の場合、場内より場外に己の生き様を見せる。そのラッシャー、いや政雄が私の家に来ると弟子と同じように決して膝を崩さない。

●

圓歌師匠も指摘しているとおり、当時の試合ではラッシャーの魅力が100％発揮されていなかった。ファンも、あのマイクアピールでようやくラッシャーの魅力に気付いたのではないだろうか？ あの試合後のひとときの語らいは、男・ラッシャー木村の素敵な人間性を発揮するために存在する。さあ、今からでも遅くはない！ 好きなプロレス（と動物）に惜しみなく愛を注ぎ続けるラッシャーの生き様を目に焼き付けよう。そしてマイクも聞き逃すな！



らっしゃー・きむら■本名・木村政雄。昭和16年6月30日、北海道中川郡出身。高校を中退し、大相撲宮城野部屋に入門。その後、昭和39年に日本プロレス入門。東京プロレスを経て、国際プロレスへ。エースとなり金網デスマッチで不敗神話を築く。国際が56年に崩壊すると新日へ移籍。その後、UWFを経て、全日本プロレスへ。そして三沢光晴らとともにプロレスリング・ノアに参加している。マット界の人間国宝ともいえるマイク・アピールは必聴だ。前座戦線には欠かせないプロレスラーである。酒をこよなく愛すがトレーニングは決して欠かさない。185センチ、125キロ。

激レア ラッシャー木村本にサインを入れてプレゼント



古本界のキング・オブ・ディギン・吉田豪が私物を読者プレゼントに大提供!!『猪木へのラブレター』にラッシャーさんのサインを入れて1名様にプレゼント!! 応募方法はP160参照!!

秋もマイクは絶好調！ 11月シリーズ『Navigation in November』大会日程

11月4日（土）東京・ディファ有明（18:00）
11月6日（月）新潟・五泉総合会館（18:30）
11月7日（火）福島・鶴ヶ城体育館（18:30）
11月8日（水）山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
11月9日（木）千葉・千葉公園体育館（18:30）
11月11日（土）京都・KBSホール（18:00）
11月12日（日）愛知・豊田市体育館（17:00）
11月13日（月）静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
11月15日（水）東京・後楽園ホール（18:30）
11月16日（木）東京・後楽園ホール（18:30）
【参加外国人選手（全戦参加）】
ベイダー／スコーピオ／リチャード・スリンガー

お問い合せ■プロレスリング・ノアTEL.03-3527-5311

前号で大反響を呼んだパンクラスに対する大胆提言第2弾!!



新システム
若手が大躍進!!



船木誠勝
スクリーンデビュー!!



近藤有己
UFCで激勝!!

皆さん!!

パンクラスがおもしろいってホントですか?

HYBRID WRESTLING PANCRASE



尾崎社長
前田日明と奮闘中!!

本誌はパンクラスを真正面から捉えます!!

前号でジェレミー・ホーンの独占告白と共に大きな話題を呼んだパンクラス特集！　前号の記事は賛否両論さまざまで、パンクラス系のホームページ上でも論争が起こっておりました。御用マスコミを抱え込む体質のパンクラスを冷静に批評するメディアをファンが求めていたということでしょうか？　今回も問題点はビシバシ指摘し、可能性を感じる部分はクローズアップしてお伝えします！　というわけで、今号もP党ライター・大坪ケムタ氏が近藤のUFC初参戦をアメリカまで追っかけ、返す刀で9・24横浜大会と船木が出演した『五条霊戦記』まで一気に斬りまくります！　パンクラス好きな人も嫌いな人も、みんなでパンクラスについて考えよう！　（編集部）

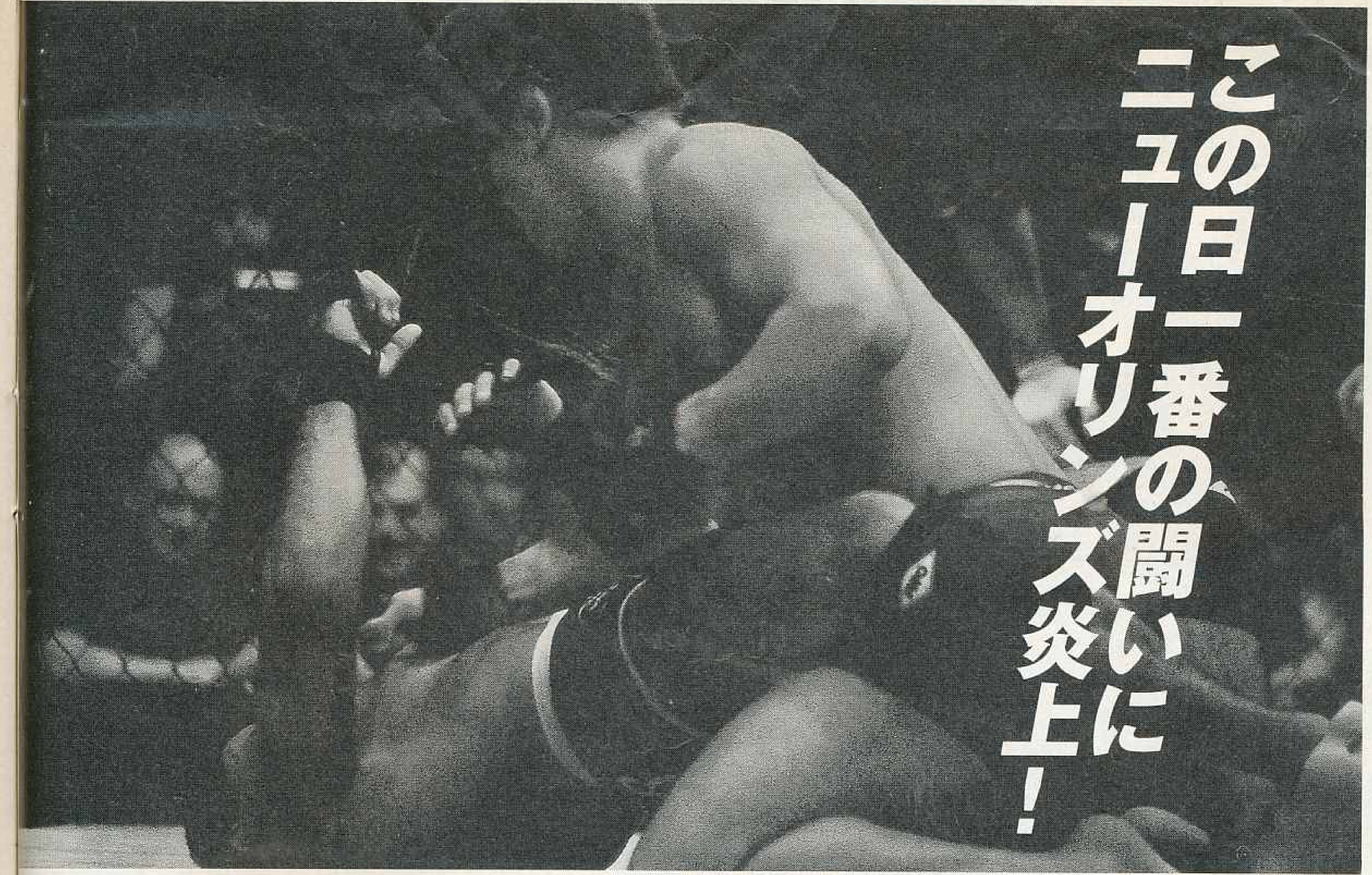
構成／大坪ケムタ
text by Kemuta Ootsubo

CHASE 1

9・22 UFC27・ルイジアナ州ニューオリンズ 近藤有己参戦!!

大一番でこの勝利！器が違う、ハートが違う！

近藤激勝！ UFCでの世界デビュー戦は船木敗戦を一気に忘れさせる、超ハデなものだった。当日の試合とオクタゴンの光景を、この一戦のために齢28にして初海外旅行を敢行した大坪ケムタのニューオリンズ現地レポート！



この日一番の闘いにニューオリンズ炎上！

前回予告した通り、行ってきましたよニューオリンズ！ 観てきましたよ生UFC&近藤激勝！ ひと月前のことゆえ結果&試合内容はイマサラなので、『紙プロ』的にはUFC会場の雰囲気を中心にお送りしたい。

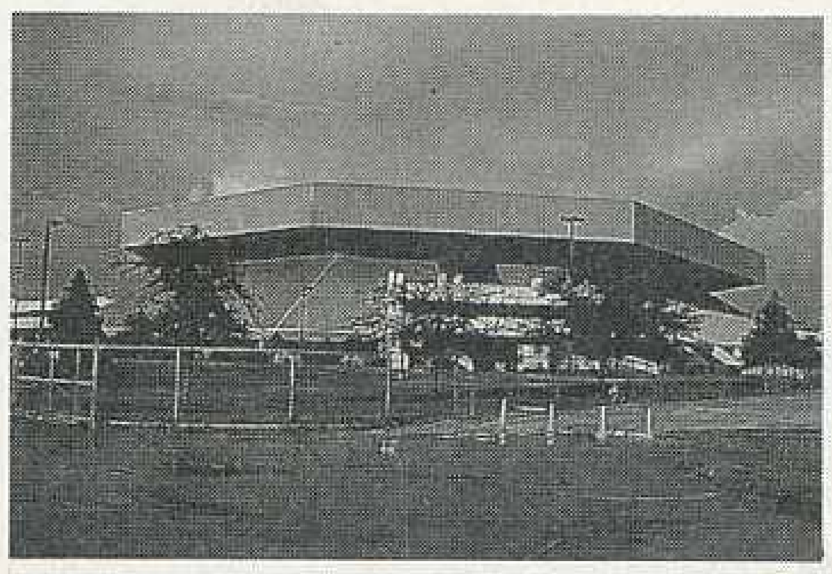
今回会場となったのはニューオリンズ市フロントレイクアリーナ。しかしこの会場が中心部から遠い！ 電車もネェ、バスもネェ、な「俺ら東京さ行ぐだ」チックな場所と聞き、わざわざタクシーで30分ほどでやっと到着。只ただ野ッ原にデカイ体育館があるだけ。そこにエッチラオッチラ車でやってくる格闘技好きのアンチャンたち。そこには修斗会場のようなオサレの風はなく、西部開拓時代から伝わるであろう素手喧嘩好きの匂いが。

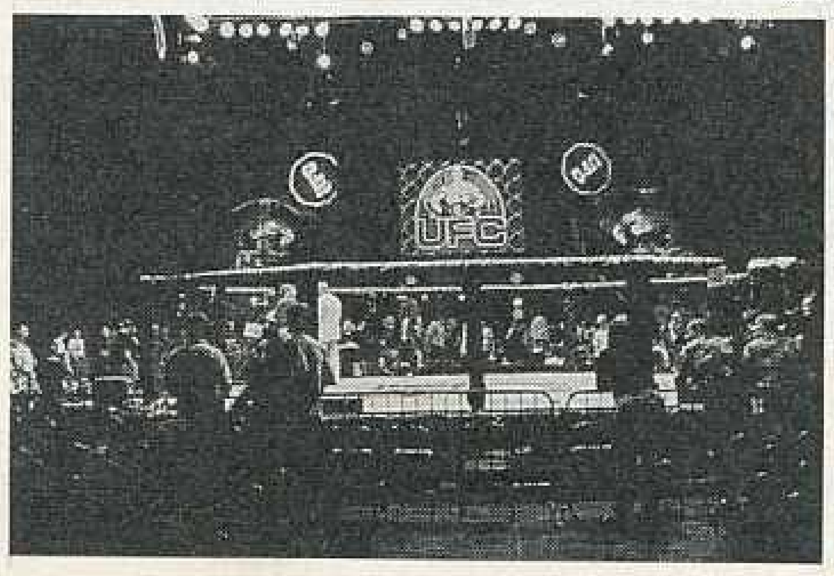
といっても格闘技Tシャツ野郎がゴロゴロと溜まる入り口の光景は日本と大差ナシ。大差あるのはチケットの値段。なんとリングサイドでお値段51ドル！ FMW並の価格でプライド並のメンバーが見れるなんて……。ゲートをくぐり、会場内に入ると意外と狭い。あえて言えば新日の地方会場といった感じか。しかも2階は最後までガラガラだったし。そんな地方臭漂う場所だけに、試合前には選手&有名関係者が会場内をウロウロ。中でもモーリス・スミスやティト・オーティズ、マーク・コールマンらは、さすがに少年たちからサイン&記念撮影会攻め。TV用のド派手な照明、バカデカいオクタゴン、それを横目にトップ選手とファンとのこんなノンビリしたコミュニケーションの光景なんて日本じゃ修斗くらいしか見れないよなぁ、という意味のユルさを感じたり。

それが一転、会場が熱を帯びだしたのはMCとUFC名物の巨漢レフェリー・ジョン・マッカーシーが会場に現れるころ。花道の周りにファンが集まりだし、客席のフリークがお手製のプラカードを用意し始めるころ、解説のモニターに生放送の映像が映り出す。ニューオリンズの町並とオクタゴンファイトをリミックスしたオープニング映像、そしてMCの「レイディ～スアンッジェントルメン！」のコールと共に番組、そして試合が始まった。

しかし第1～3試合までドローと判定と、膠着気味の試合が続き、フラストレーションが溜まった観客の飛ばす野太いブーイングが会場に響く。その上パンフもなければ試合順も発表されないため、何試合目に近藤戦が組まれてるかすら分かりゃしない。と思ったら頭上のビジョンに近藤のプロモビデオが！ 映し出されたのはパンクラスでのルッテン戦とフランク戦、確かにUFCで見せるならこの二人との闘いに限る。先に青道衣で登場したダンテスに続き、近藤オクタゴンに登場！

近藤という選手は非常に運のいい選手だ。なんて書き方をすればファンから叩かれるんだろうが、別にラッキーパンチや近藤の対戦相手に限ってミスが多いというワケではない。パンクラスに限らずプロレスに格闘技、ひいては全てのスポーツにおいて毎回全力を出し切れる選手というのはそうはいない。天から授けられた才能を持った上





大学の施設でケンカ大会が行われる素晴らしい国・アメリカ。趣は新日の地方会場といった感じだが、中はTVのための演出がかっちりと施されている。暗ければ空席も映らないしね。

で努力を重ね、99%勝つはずが残りの1%に砕け散った試合を何度も見てきている。競馬で言えばメジロマックイーンの天皇賞、柔道ならば田村の過去のアトランタ・オリンピックでの敗戦、そしてパンクラスなら船木のルッテン戦。これはもう実力とかいうレベルではなく「運の強さ」としか言えないだろう。そして、意外とそれこそが時代のヒーローたる人間に最も必要な要素だったりする。

その上、昨年の國奥とのタイトルマッチでの飛びヒザKOや、コロシアム2000のヒベイロ戦で22秒KOといった派手な勝ち方をキメてくれる、よっぽど心臓が強くなくちゃ出来ない「魅せる力」。このふたつを信じれないコトには、こちとらニューオリンズくんだりまで来やしねぇ。言っときますけど、自腹です。

そんな思いで花道の奥にカメラを向けたボクの前に現れたのは……着流しの近藤、しかもコロシアム2000で船木が身につけたヤツ！

……正直言ってカックン超特急。別に縁起が悪いとか、そういうことではない。近藤はじめパンクラス第二世代は船木の影を消すことこそが使命。日本人臭い「これまでのパンクラス、船木を背負う」的なものでなく、「これまでのパンクラス、船木を消す」ような姿を見せて欲しかった……無表情なドライさが魅力の近藤に、そんなウェットさは似合わない。こちとら「船木以降」を見たいのに～！ 引きずってどうする！ まぁ観衆からすりゃ「オォ、オリエンタル・キモノ！」てなもんで、船木vsヒクソン云々は知ったこっちゃないだろうが。不動心Tシャツを着込んだセコンドは高橋・石井、そしてなんと藤田の顔！ おそらく観戦に来てた日本人（取材陣を除き5名程）は、藤田が離日前に語った「UFCを見学しに行く」ってコレかい！と総ツッコミしたに違いない。立派にセコンドしてましたよ。

裸足&グローブ姿は見慣れたものの、金網越しに見る近藤の姿は非常に新鮮。表情はいつも通り、よくも悪くも無表情。マッカーシーが間に入る。「アユゥレェディ？ ゴォ！」

ティトに代わる対戦相手のダンテス、ブラジルの柔術家で昨年のアブダビコンバットブラジル予選決勝でリングス参戦中のアントニオ・ロドリゴ・ノゲイラに判定負け、くらいしかデータがない。今（具体的に言えば10月9日リングスKOK代々木大会後）だからこそ「ノゲイラに続く国内予選2位」の凄みが分かるものの、その時点ではイマイチ謎。しかもすでに近藤は、アブダビ王者・ヒベイロをKOしているだけに見る側としては楽観視してた部分もあったかもしれない。

だが、そんな気分は一瞬で打ち砕かれる。グラウンドで上に位置した近藤を簡単にスイープするダンテス、そしてあっという間にマウントからの連打！ うわぁ船木vsヒクソンの再現じゃん！ 顔面はキッチリガードしてるものの、これだけ一方的ならレフェリーに止められかねない。ようやく抜けたと思っても首、三角と容赦なく狙ってくるダンテスを凌ぐのに精一杯の近藤、寝技の実力は歴然だった。しかし日本人のヒヤヒヤぶりに反して、寝ては殴り立っては殴りの試合展開にそれまで不完全燃焼だった観客はヤンヤの喝采。攻められては返し、の風車の理論的展開がウケたか、2ラウンド終了時には「ユーキコール」まで発生！ ラウンドが進むに従い、単発ではあるがスタンド・グラウンド共に近藤のパンチが当りはじめ、確実にダメージを与えている。館内のムードは近藤寄りと絶好の雰囲気の中で最終3ラウンドを迎える。

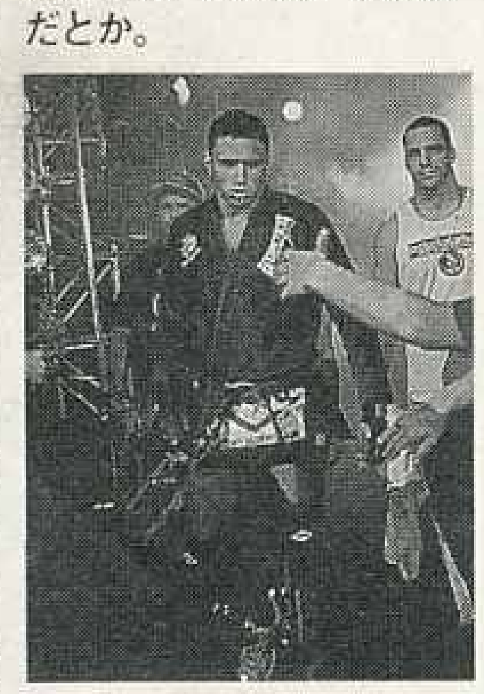
開始早々、組み付こうとするダンテスの頬を打ち抜く右フック！ 一気に腰砕けになった相手の上から、無表情に鉄拳を振り下ろす近藤。しかし、ガードで粘ろうとするダンテスからはひとまず離れ、スタンド決着を狙う。ここで右ハイやバックスピンキックまで見せると観客は大歓声！ スタンドでは勝ち目のない柔術家・ダンテス、密着しようとタックルに入ろうとした瞬間に左ヒザがガツン！ 倒れこんだダンテスを金網に追い詰め、ゴツゴツと右フックの連打を入れたところでレフェリーが試合をストップ、近藤が見事な逆転勝利を挙げた！

うがった見方かもしれないが、プロモーションビデオの内容の差や〝Japanese legend〟というニックネームから見ても、ダンテスより近藤の方をスター的存在にしようという主催者の意図が何となく感じられた、正直言って。しかしダンテスは紛れもない実力者だったし、レフェリングに偏りがあったとも思えない。それでいながら、これ以降の試合を完全に喰う内容を見せた近藤。事実、UFC公式ホームページでは「年間最高試合のひとつ」とまで評している。確かにポジショニングなど課題も見えた一戦だったが、それがために観衆を夢中にさせるスリリングな闘いを実現し、それを克服した。改めて近藤の強運さ、それは自分の最大限を引き出せるハートの強さなのだなぁと実感した一戦だった。

あとは手短に他の試合と会場の印象を紹介しよう。印象深いのは共に腕ひしぎ逆十字でキッチリ一本勝ちを決めたファビアノ・イハとジェレミー・ホーン。軽中量級らしいスピード感溢れた試合、と思いきや意外と観客の反応悪し。やはりタコ殴り系が活躍してくれないとウケが悪いのだろうか？ セミのボビー・ホフマンvsモーリス・スミスは1、2Rはホフマン攻めっぱなしの展開。本誌インタビューからも「成り上がり」指向なキャラだけに気合入りまくりだ。しかし3ラウンドで、金網に押し付けての連打というモーリスの老獪な戦術の前に逆転負け。しかしこの豪快さんキャラは再来日に期待したい。そしてこの日のメインはスバーンvsヒーゾ。〝The Beast is back!〟なんてプラカードを掲げる中坊デブもいる。対するはペドロ・ヒーゾ、高坂もKOされた打撃は脅威。まさに新旧対決！ といった雰囲気だったのだが・・結果、ローキック2発でスバーンうずくまりKO。観衆一同、恐ろしいばかりの愛憎一体の大ブーイング！ アメリカ人は勝てないベビーフェイスにはクソミソなのね。キビしーッ！

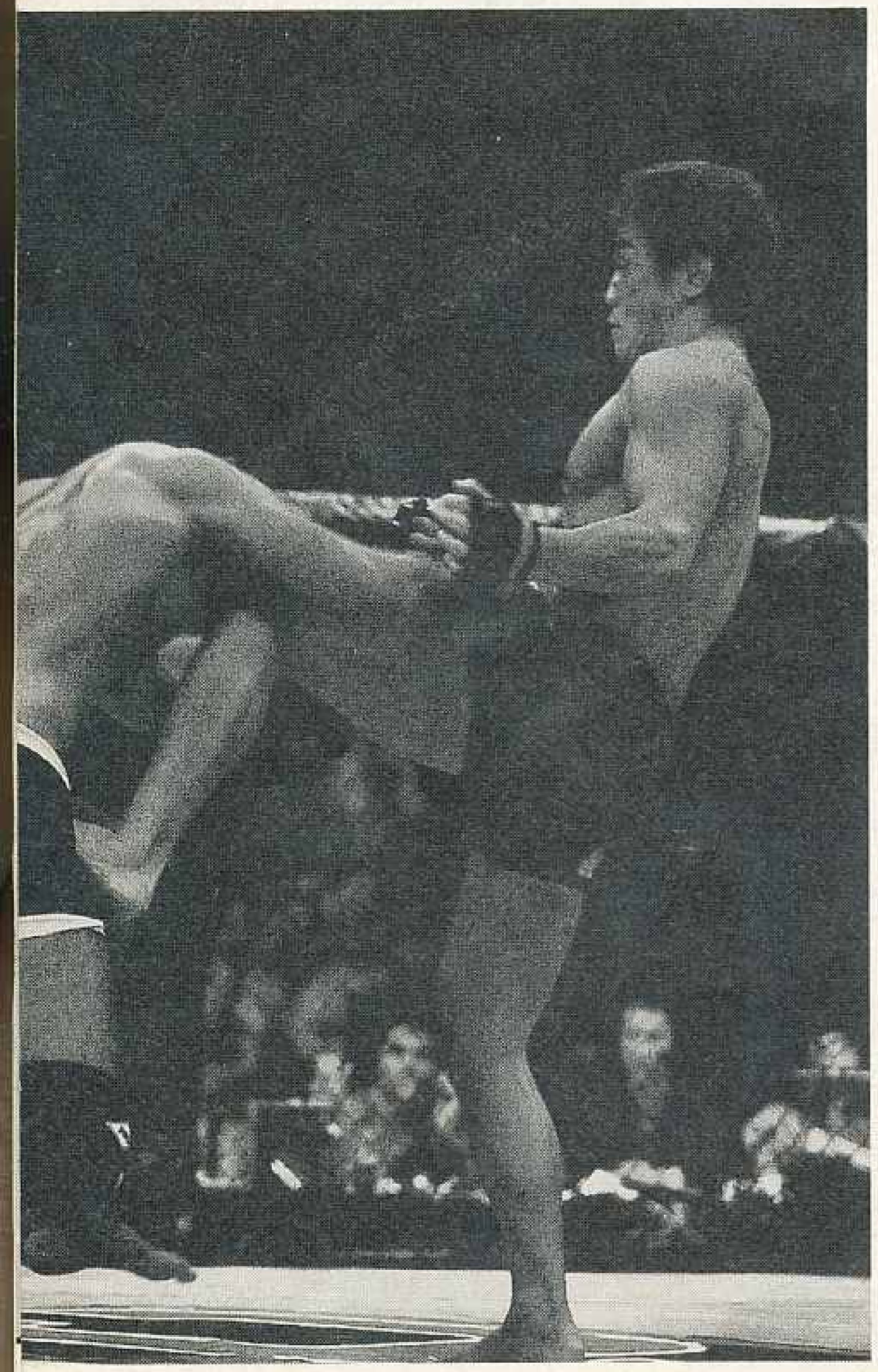
加えて会場で感じたのが「日本人」というだけでチョイと特別扱いなこと。会場をフラフラしてるとすれ違いざまに「オゥ！ サクラァ～バ」と言われたと思うと、花道で次の選手を待ってる間に「サクラバとヒクソンはどちらが強いのか？」といった質問をされたり、近藤戦の間カメラを構えてると前の外人が「ジャパニーズプリーズ」と前を開けてくれたりと、何かと親切にされたり話し掛けられたり。やっぱり柔術の母国であることと、桜庭の活躍が少なくとも格闘技ファンの間で日本のイメージを上げているのか？ ああ桜庭効果偉大なり。





“カフェ”・ダンテスの「カフェ」とは弱いの意味だとか。

近藤の着流しに喜んでどーする!? 過去は断ち切れ！と言いたいところだ。殺人マシンのような近藤の闘いぶりに、お涙頂戴は似合わない。それにしても近藤の打撃のセンスは本物だ！



CHASE 2

9・24パンクラス横浜文化体育館大会
3階級の王者が決定、これは追撃への予告編！



近藤のUFC快勝から二日後行われた横浜大会。3階級の王座が決まる大一番を、評価しつつもやっぱり叩く！そして船木のキーワードからこれからのパンクラスを予想！「21世紀のプロレス」は21世紀までに完成するのか？

桜庭を筆頭に藤田、ケアー、ボブチャンチン、それに小川、佐竹といった世界格闘界でもトップクラスのファイター、そして猪木という金看板をもって刺激的なカードを組むプライド。

見る側にとってより白熱出来るKOKルールと、長年培ったネットワークにより様々な格闘技の世界王者クラス&イイ味を持つ選手による贅沢な闘いを堪能出来るリングス。

他には無いアマチュア底辺という財産を持ち、積極的に海外にも参戦、結果を出し続けていると共に、ファッション的な部分も含めた展開に独自のファン求心力を持つ修斗。

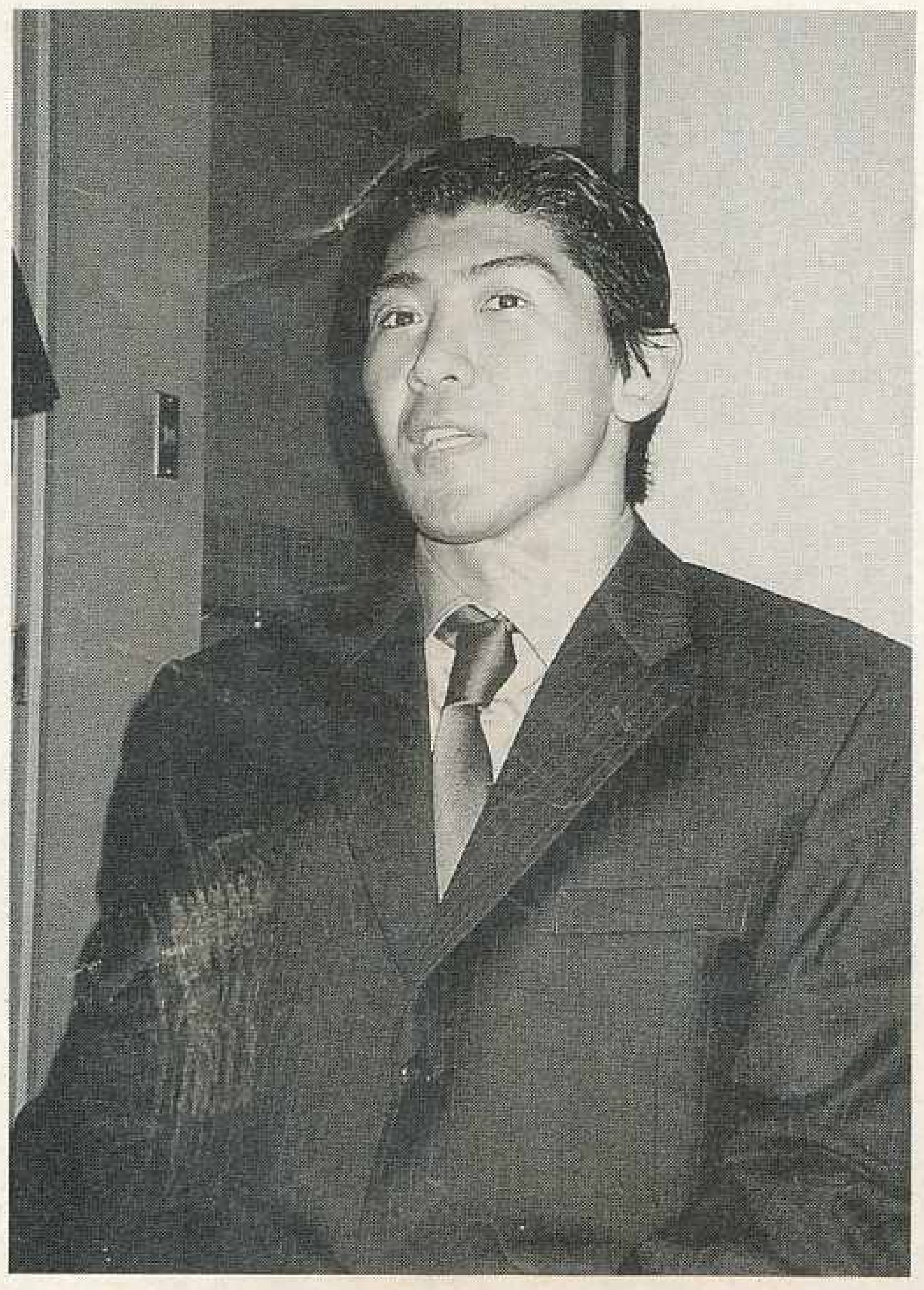
この3団体に比べ、ハッキリ言ってパンクラスは一歩、いや2歩か3歩は確実に遅れていた。そりゃ、イイ外人は呼んだと思えば他リングへ、試合は膠着気味、Tシャツは出せど売店に2時間並ぶ修斗にはかなわず、いつの間にかTVの『SRS』から消えてるし……そういう印象を持たれるのは仕方がない。選手の質はともかく、高橋のUFCでの勝利以降団体としてのダイナミズムが物足りなかった、というのは誰もが認めざるを得ない事実なのだから。その出遅れを一気に払拭するはずだった船木vsヒクソン戦でさえも、船木が完敗！「エース」ではないものの、「シンボル」の敗北、そして引退。これは確実に団体にはダメージがあるはず。ますます心配になってくる。

しかし昨年からの開国路線により、「船木以後」のパンクラスは予想以上に確立していた。美濃輪、山宮らの外のリングへの挑戦、逆に慧舟会、RJW、高田道場といった他流派日本人選手の参戦。「パンクラスという戦場」はより一層広がりを見せ、一方でパンクラシストでの他流試合へと踏み出す。改革は徐々に進んでいる。

そんなわけで、無差別級タイトルの防衛戦と新設された2階級の王座決定戦をカードの軸とした横浜大会は「船木以後」を決定付ける最初のビッグマッチになる……と思われた。

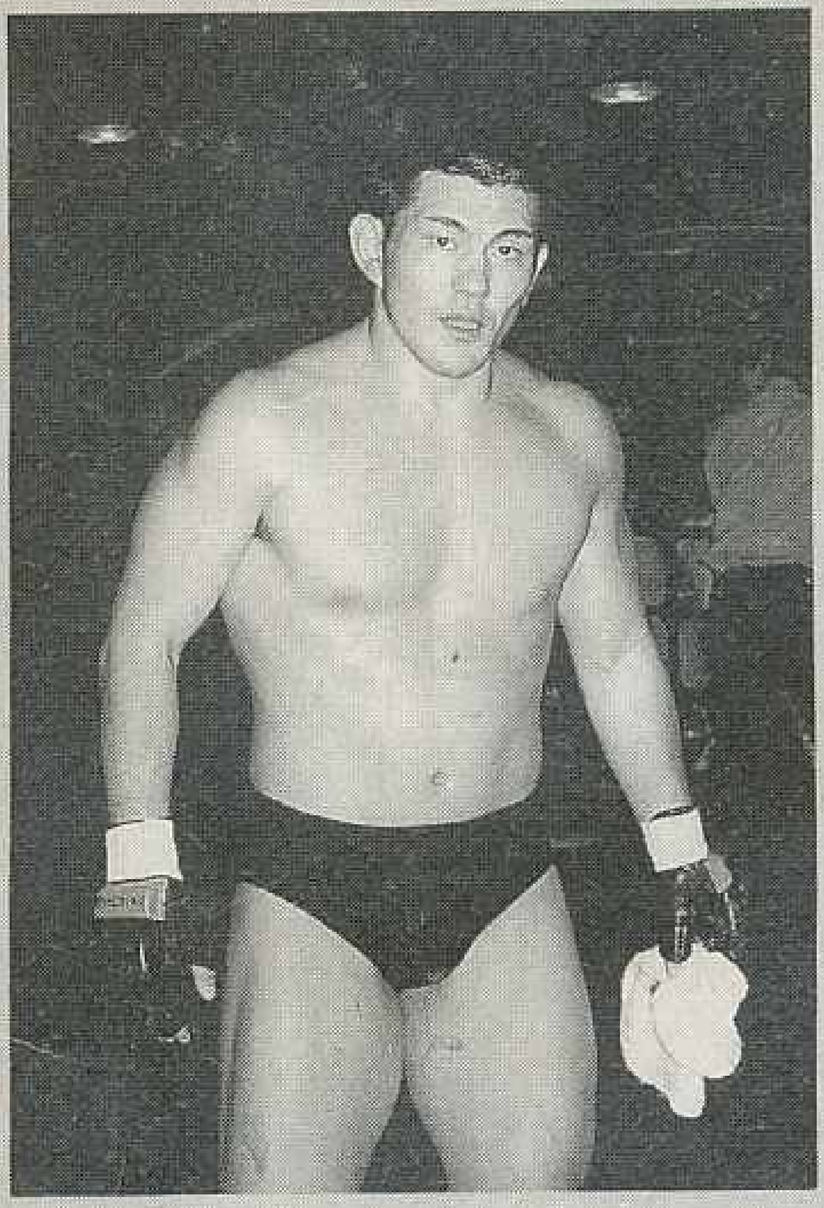
が、何かが違う！　何かが足りない！

たとえば、横浜大会を報じる翌週の『週プロ』No.998号。表紙は近藤、そして「パンクラスにいま、何が…!!」のコピー。パンクラスファンを心躍らせる表紙を開いてみると、まずヤスカクの『続・海人』なUFC近藤戦レビュー、そして横浜大会速報。鈴木戦がトップ、船木のコメント、んでシッシー総括。で、終わり。えぇぇぇぇ!?　試合内容が最低だったとしても、シッシーの総括「渋谷の試合を見て、初め



この大会からスタートする衛星チャンネル『skyA』での中継番組でも解説を務めた船木。来年からの逆襲を予告するなど、早くもプロデューサーとしての手腕を発揮してくれそうな勢い。

相変わらず次々と ココがダメだよ パンクラス!!



復帰3戦目の今回、序盤のキレのあるタックルは復活？と思わせたけれど、途中古傷の腰を痛めてギブアップ。タオルを被ってても伝わって来たギラついた色気を放つ、「プロレスラー」な鈴木の姿は今は無い。商売っ気なさそうな顔して横浜大会は出場させる、そんな客寄せでいいのか？　しかも相手は負けても傷がつかない初参戦外国人。どうせいつ引退するか分からないなら、勝敗関係なく後輩とボコボコにやりあう姿が見たい！　特に鈴木vs美濃輪戦とか。あと船木より鈴木の方が俳優向いてる気がするんだけど……当然Vシネで（以上、吉田豪からの提言）。



一勝もしてないのに写真集にフィギュア発売と、かつてない話題先行型レスラー謙吾。復帰戦は勝ちこそすれど、開始直後にいいパンチを当てただけに喰い足りない、物足りなさを与える一戦となってしまった。謙吾を見ていると日本プロレス時代ひたすら下積みから鍛えた猪木に対し、エリート教育を施された馬場の事を思い出す。確かに謙吾のズバ抜けたヘビー級の体格・素質・キャラクターはエリート教育するにふさわしいもの。しかし、いわば「猪木的」に育てられてきた渡辺や石井らとの同世代対決を行うことで、これまでの中間報告をそろそろ期待したいところ。



山宮のこの日の問題？発言その2が「優勝したら船木さんが『賞金1万円やる』って言ってたんで」。比較するのも切ないくらいだが、前田が田村へのごほうびに、金無垢のロレックスを渡したことを考えると……以前、その前田がパンクラスの選手の給与の少なさをやり玉に挙げたことがあったが、これで信憑性が一気に高まってしまった。結婚式で何かと物入りな時期なのか？　子供のお駄賃じゃないんだから、チャンピオンに1万円はないだろう。こんな事言いたら『飛び蹴りゴッデス』ばりに「試合に関係ないでしょう！」とマイク投げつけられそうだが。

て『今日、来て、よかった』と思った」という状態なのに、何で載せるのは鈴木戦なの？　いい試合なら、総括よりも、その試合を大きく扱ってよ！

全体的にやや煮え切らない印象も受けた横浜大会。しかし試合後、プロデューサーの船木は、自ら指揮をとる来年からのパンクラスについて様々な発言をしている。「これからは『自由』です、外に出て行くのもOKです」「21世紀からは『野獣革命』ですね、今まで以上に弱肉強食になります。いなくなってしまう人間もいるかもしれません」（以上、skyA解説より）・「全部つながってくると思いますから。もう団体とか関係なしに。へたすりゃ『プロレス』ともつながりますから。」（SRS No.31）・「あとは全体的にみていてルールをもう2段階くらい変えたいなという案は出ましたね」（週刊プロレスNo.998）

「自由」「野獣革命」、そして「全部つながってくる」。この三つがこれからのパンクラスのキーワードだろう。それにしても野獣！　船木が敬愛する松田優作の出演作は『野獣死すべし』だったっけ……ってことは、殺す気なのか、船木!?

冗談はさておき、まず今後、期待したいのはブッキングも含めたカード編成。寝技で圧倒されたUFCの近藤戦の結果を受けて、まず見たいのはブラジルの柔術系選手との対戦だろう。そこにタイミングよく、ブスタマンチが参戦決定。また、12月大会ではブラジル人柔術家ヒカルド・リボーリオ（99年アブダビ大会3位）の参戦が噂されている。と思えばアッと驚く某プロレスラーにオファーが来ている、という噂も。加えてバス・ルッテンがWTWという「プロレス」団体を旗上げ準備中で、「総合の技術とプロレスのドラマが売り」という居直りUWFのような方針。コーチにコールマンらの顔も見え、技術的には本物のよう。この辺も「『プロレス』ともつながります」発言の意味に含まれてることも考えられる。だとしたら、凄いぞ船木！

現在パンクラス本隊は3階級に分けた事で、1階級あたりの選手層が薄くなった。そこで選手はより一層、シリアスな闘いを求められる。その意識改革が出来なかった人間は船木の言う通り「いなくなってしまう」だろう。働きながら参戦している他団体のアマチュア選手に負けるプロに金を払っておくほど団体に余裕はないし、見る側もたけし軍団に負けたチームを応援する阪神ファンほど優しくはないぞ。

そしてUFCをはじめとした外への侵攻。『コロシアム2001』『UFC―J』『コンデンターズ』といった過去の実績大会に加え、サムライルール、11月に行われる総合系大会などにも参戦が噂されている。ここに「全部つながってくる」という言葉が当てはまる。それに加えて、横浜大会で山宮の口から「石澤の仇を……」という仇討発言が出たりと、選手の積極的な姿勢が頼もしい。パンクラシストのマイナスイメージとして、「団体に守られている」というのがあったが、これからは選手各個人が自らのプロデュースする力を試されることになるだろう。これが船木の言う「自由」だろう。当然、責任も当然くるが。

そういう意味でもパンクラスのフロントは緩やかなコミッション化をはかっていくのが理想的だろう。例をあげるなら一時期FMWが目指した機構化。あくまでもパンクラス内部でありながら、東京・横浜、そして来年完成の大阪道場間はあえて「鎖国」し、対抗意識を持たせるのも面白い。またあくまでも興行として、本隊第三世代（謙吾とかの世代）と他団体選手による小ホール大会、要はアマチュアパンクラスのプロ版を組んでも面白い……と書けば書くほど修斗みたいだが。

改めて今回の横浜大会を考えてみる。近藤はティトとのミドル級王者挑戦という「次」の試合を見据え、山宮は「次」は石澤の仇討ちという心意気、無差別級も渋谷が負けたことで一層シュルトの首の値が上がり「次」のコンテンダーが注目される。そしてケガの再発によりギブアップの鈴木みのるに「次」はあるのか？　初勝利を上げた謙吾の「次」こそ試合内容で！　な思い。そんな次、ツギ尽くし。しかし、ここ最近のパンクラスマットにおいて、「これからの流れを期待させる興行」というのがあっただろうか？　各選手で次回を期待させるものはあっても、今回のようなまるごと次のドラマを期待させるような興行は久しぶりじゃないだろうか。9・24横浜大会はこれから動き出すパンクラスへの「大いなる予告編」だったのだ。

実際、10月後楽園ホール大会のカードは早速「予告編」から「本編」への移行を感じさせるもの。菊田vsブスタマンチ戦に続いて、須藤元気のランキング戦。そして以下4試合は全て慧舟会／RJW連合軍との4対4対抗戦と、これまで以上に対抗戦ムードを煽る。せっかくパンクラスで名を挙げた星野と矢野の不参加は惜しい気もするが。

CHASE 3

10・7から全国東宝系にて絶賛公開中!!

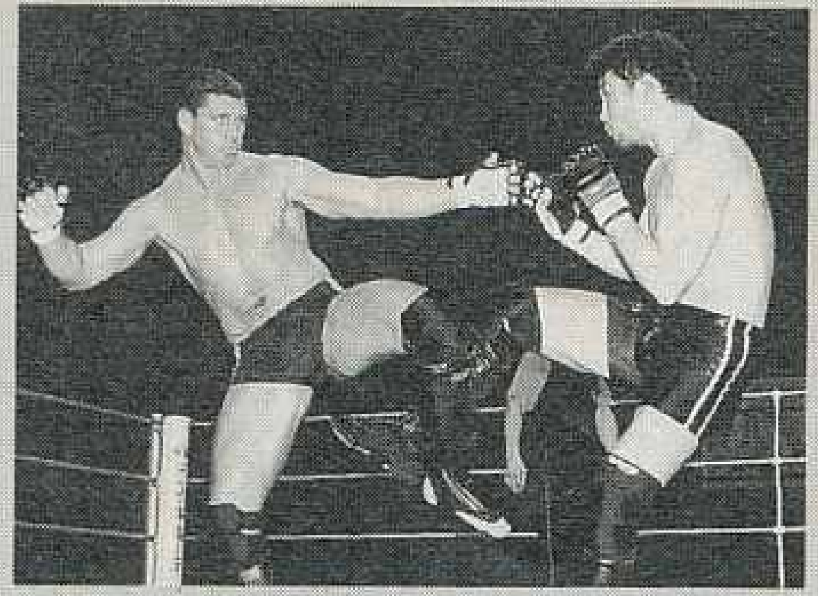
五条霊戦記に船木誠勝が出演したぞ!!

こんなに凄いぞ　やはり未来は

この男たちにかかっている!!

外国人勢

2階級新設で外国人も活性化!!
ブラジル勢参入の今後にますます期待





ド派手な実績・豪快なキャラクター格闘家が揃うリングスに比べ、小粒な印象は否めないパンクラス外国勢（大粒過ぎるシュルトを除く）。しかしミドル級王者決勝の二人をはじめ、外国人選手の活躍が目立ったのが今大会。

まずはミドル級王者となったネイサン・マーコート。デビュー戦の須藤元気からの一本負けの印象も強く、決勝1回戦が國奥というのもあって軽視していたら、これが驚く成長ぶり。1回戦で高瀬を失神させた打撃も巧ければ、下からの足技の巧さも絶妙。日本に滞在してマジメに練習する所といい、泣き声で感謝の辞を述べるマイクといい、日本人好みのイイ人キャラ。

また前号でオススメしたショーニー・カーターもサイドキック・バックハンドブローといった変則の蹴りに、無尽蔵のスタミナと、曲者ぶりを十分に発揮。また、地味ながらも定期参戦してたオマー・ブイシェも予選2戦を共に5分足らずで一本勝ちを収める実力をアピール。鈴木に挑んだデニス・ケインも通販番組に出てきそうな笑顔と守りの堅さが目についた逸材。

別の意味で目立ったのはジョー・チャールズ。41歳120キロ、過去にはUFCでスパーン・タクタロフ・ベウフォードといったメジャー選手と対戦しいずれも敗北という無駄に派手な戦歴。試合でも単にスタンドを嫌がっての巨体浴びせ蹴りを見せたりとパンクラスらしからぬ味出しまくり。こういう「キャラ立ち外人」の定期参戦も期待したい。

KEI山宮

キャラも試合も地味な男の自己主張!
21世紀の鍵は意外とこの男かも



16人が参加するライトヘビー級トーナメントで決勝に駒を進めたのはKEII山宮と美濃輪育久。思い返してみれば、山宮はTAKAみちのく戦や佐野なおき戦といった対他団体日本人選手の試合を第二世代ではいち早く行った選手。また美濃輪も大道塾のWARS参戦や、他流派が揃った昨年のネオブラッドトーナメントで優勝するなど、共にパンクラスの「対他流派日本人」の矢表に出て闘ってきた二人。そんな「パンクラスのプライド」を試される場を潜り抜けてきた二人が、ライトヘビー級王座という団体内の頂点を極める場に出てきたのは当然といえば当然の結果である。

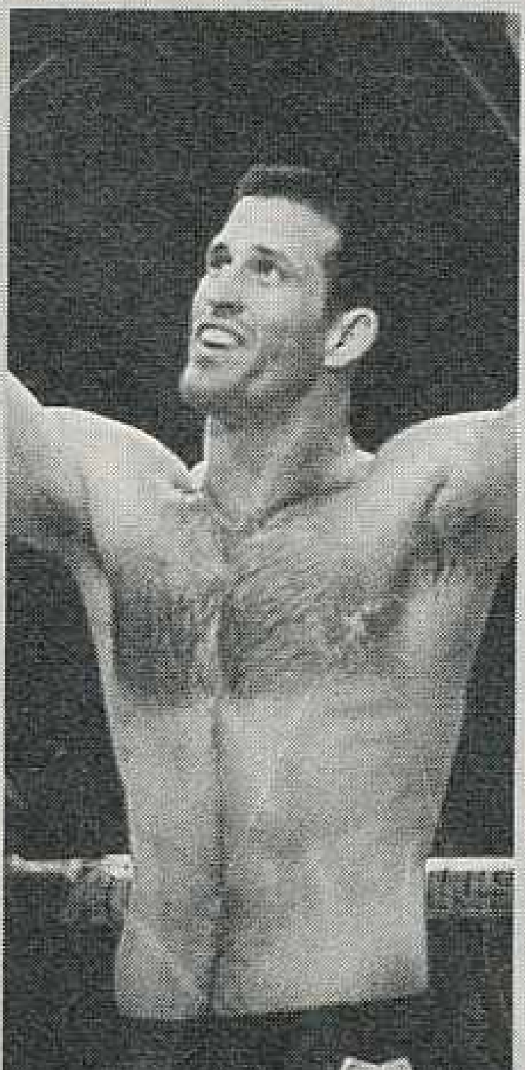
試合はタックルの美濃輪とそれを潰す山宮の応酬。美濃輪も下から仕掛けるも切り返され、鉄槌を見舞われる。延長ではスタンドで飛びヒザまで見せ、終盤のギロチンチョークでポイントを稼いだ山宮が判定勝ち。

加えて注目すべきは山宮の「石澤さんの仇を討ちたい」発言。いい意味でこの会社を無視した発言はこれまでのパンクラスに無かったもの。以前鈴木戦で相手のケガを攻めれず、逆に「攻めて来い！」と激を飛ばされてしまうほどリング上で気弱だった男の自己主張。ハイアン戦がもしプライドで実現すれば、ライト級活性化の目玉のひとつになるのはもちろん、逆に「佐野の仇討ち」となる桜庭戦の可能性すら。パンクラスは一度遺恨のあった相手だと腰重いんで、動いてくれませんか森下社長！

菊田vs ブスタマンチ実現

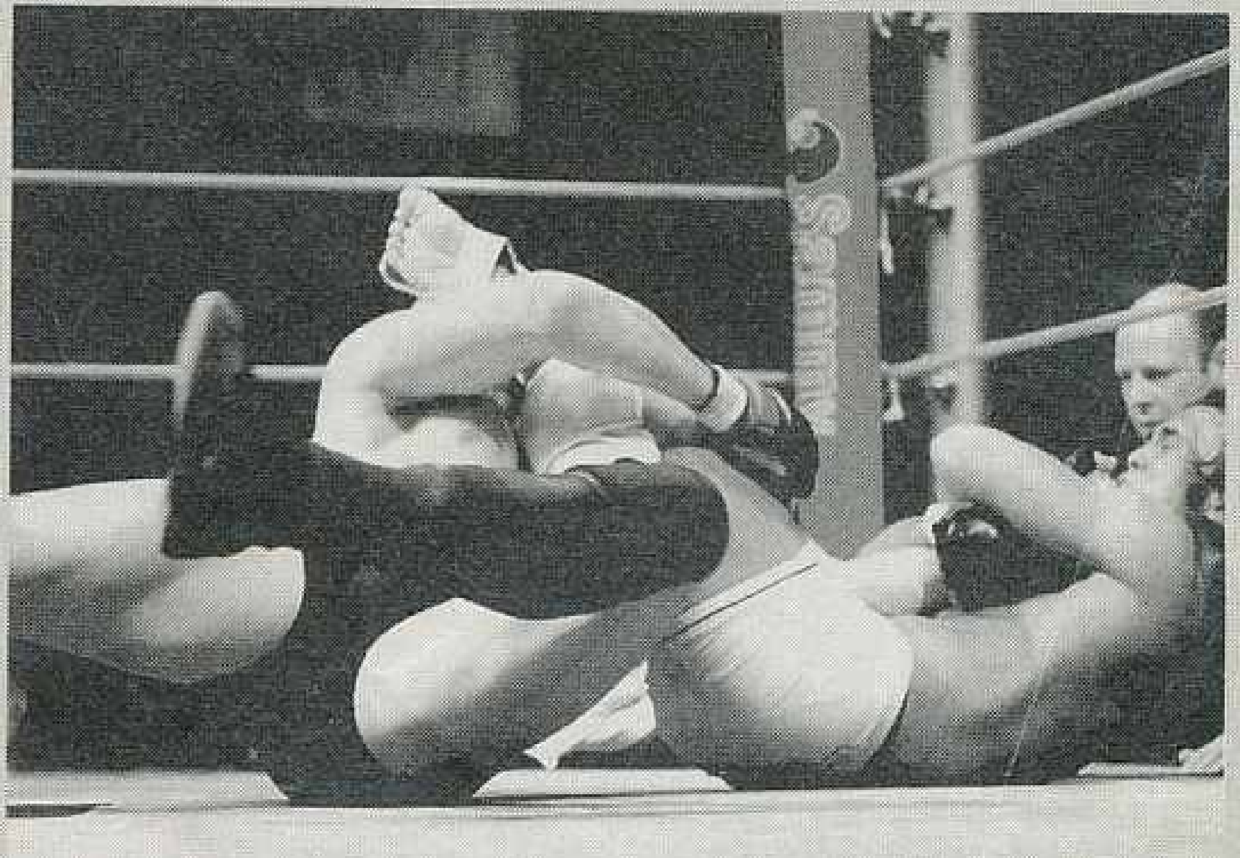
「世界一」対「日本一」の寝技対決
リーダー菊田入団以来の大勝負!





リングスでは田村がノゲイラに手玉に取られ、パンクラスも近藤がダンテスの寝技に圧倒、とこの数週間で2団体のエースがブラジル柔術家との技術の差を見せつけられた。それだけに今回の菊田vsブスタマンチはパンクラス内だけでなく、日本の総合において大きな意味がある闘いとなった。「寝技日本一」とうたわれた菊田のレベルが柔術世界王者にどれだけ通用するのか？　日本一と世界一、その差が測定されるのが今回の試合だ。プライドでのヘンゾ戦を見る限り、分がいいとは言えない。しかし本来の技術に加え、イズマイウとダンテスを倒した「チーム・パンクラス」の対柔術戦術が加わった菊田がどう闘うのか？　全総合ファン必見の一戦！

渋谷修身



「見切りのタックル」はまさに格闘芸術
来年はパンクラス内外一層の活躍を！

正直言って、見る側のモチベーションが高いとは言い難かった渋谷のベルト挑戦。しかし始まってみると真正面からシュルトの巨人パンチ&巨人キックをかいくぐり、腕ひしぎも極まる寸前まで追い詰める姿を見れば興奮必至、この日一番のベストマッチ。同期ながら近藤に大きく水を開けられた感のある渋谷、しかしタックルの切れは流石。12月のコンテンダーズへの再出場なども期待したいところだが。

しかしシュルトからすれば、まだまだ磐石のレフェリーストップ勝ち。次に挑むのは菊田が熱望されているが、それもブスタマンチ戦次第。階級制により層が薄くなった無差別級王座に菊田が挑戦するのか、それともライトヘビー級王者かつ無差別級3位でもある山宮が2冠狙い？　打撃系では難しい階級越えも、総合では不可能ではない話。とにかくシュルトが「このリングに敵無し」と、返上して次のリングに行く前に誰か止めてくれぇ！　でもシュルトの他リングでの活躍も見たいような……。

花くまゆうさく観戦記
『五条霊戦記』

猪木がなにしようと猪木ファンは崇拝するし、前田がどんな発言しようとも前田ファンはうなづく、「猪木なら前田ならなにしてもいいの世界」があるように、「石井聰亙の映画はすべて肯定する世界」もあり、私はそこに住んでいる。

前作「ユメノ銀河」、見ててかったるくなったりしたのだが、それでもあれはつまんなかったとは言えないし言うつもりも毛頭ない。今回の『GOJOE』も映画秘宝では★ひとつだった。でも俺は宣言するね『GOJOE』おもしろい！石井聰亙最高！　船木ふつう！」と。

はじめ船木が映画に出演とニュースされてもピクンともしなかったが、それが石井聰亙監督作品と聞けば、船木に関係なくピクッと起き上がった。それからはもう早く見たくてたまらない病だ。中学生の時、『狂い咲きサンダーロード』の洗礼を受けトリコになってから、石井作品の新作をワクワク待つのは人生の年中行事のひとつである。正直言って船木と石井聰亙の組み合わせはピンとこなかった（「数学できんでなにが悪か！」と高校大パニックのセリフを船木が叫ぶのを想像したぐらい）。しかし思えば昔から石井作品とプロレスはリンクしている。「狂い咲きサンダーロード」では、バトルロイヤル広場やバックブリーカー砦やエルボー連合などあり、スーパー右翼の講義の内容は黒板を見るかぎりWWFについてであろう。『爆裂都市』では上田馬之助も出演し、早すぎた神戸浩チックなセリフ回し（というかスーパー棒読み）で怪演しているし、最後は金玉刺され死亡！とステキだった（遠藤ミチロウは感電し爆笑死！とこちらも最高）。

そんで今回の船木はどうだったか!?　というと「普通！」としかでてこない。演技はそんなヘタじゃなかったし、がんばってそつの無い演技をしていたと思う。だからこそ逆に何の印象も残らないし「普通」としか言えないのだ。『爆裂都市』での上田馬之助のように、年々語れるインパクトはなかったのです。リング上でも、新日スタイル、Uスタイル、VTスタイルとなんでもそつなくこなすため、逆に何が名勝負だったかというとあまり浮かばず、ルッテン戦やブラガ戦やヒクソン戦と負け試合しか浮かばない悲しさがあるが、それと同じでしょうか。

やはり「記録に残る試合」より「記憶に残る試合」でしょう。このままでは、役者としての船木は記録にしか残らないので、記憶に残るような年々語られるような演技を今後の船木に期待したい。



この半年でヒクソン戦敗北、引退、離婚発覚、結婚と人生の格闘ロードを慌しく突っ走る我らが船木誠勝。今度は念願の映画出演！　雑誌で映画評コーナーを持つほどのマニアでもある船木、『五条霊戦記』ではどんな役者ぶりを見せたのか？



下敷きにはいつも雑誌の切り抜きを挟むよなクラスの女子的には浅野忠信と永瀬正敏の初共演、中坊魂を隠しきれないロッキンな男子的には石井聰亙監督作品、そして船木ファンには映画初出演と、あらゆるニーズに話題満載な『五条霊戦記』。義経と弁慶という昔ながらの物語をベースにしながら、豪快な殺陣とCG、そしてこれまでにない義経像・弁慶像を描くことでパワフルな娯楽大作に仕上がった。

脚本を含めこの巨作を手掛けたのはカリスマ監督・石井聰亙。やはり代表作といえば見た者全員に男とは？　山田辰夫！な美意識を植え付ける『狂い咲きサンダーロード』（80）、当時はロッキンな人だった陣内孝則が主役を演じ、今や芥川賞作家の町田町蔵が頭の弱い子を演じる『爆裂都市BurstCity』（82）。『逆噴射家族』（84）『エンジェル・ダスト』（94）は各国の映画祭でグランプリを受賞しており、海外からも注目を浴びている。今回は近作とは一転、久々の本格アクション映画となる。

時代は平安時代末期。源氏を倒し、政権を握った平家だが、荒廃した都に夜ごと平家武者が惨殺されるという事件が起きた。これを鬼のしわざ、と人々は恐れたが、その正体は源氏の生き残り・遮那王こと源義経（浅野忠信）だった。その頃、不動明王より「鬼を斬れ」とお告げを受けたのが武蔵坊弁慶（隆大介）。鬼切丸を手に今日へ向かう弁慶、そして道中出会った刀鍛冶の鉄吉（永瀬正敏）。弁慶と義経、ふたりの「鬼」の闘いはいかなる決着を見るのか？

公開初日、有楽町で行われた舞台挨拶にも船木自ら出席。浅野・永瀬や石井監督は革ジャンや革パンでビシッとキメてきたのに対し、我らが船木は明らかに場違いな帝都大戦風のロングコートみたいな真っ青なスーツ。その浮きっぷりは会場に集まった格闘技に無知な女の子に「プロレスラーって奇抜な格好が好きなのね」の印象を与えたこと間違いなし。

同作は世界公開という事で、リングでは負けても映画ではヒクソンに勝った船木。主演も張れる元格闘家チャック・ノリスやドルフ・ラングレン日本版になれるのか、はたまた『毎度おさわがせします』の極悪同盟レベルで終わるのか、負けるな船木！　生きたいんだったら闘い続けるしかねえんだよ！



本誌・吉田豪秘蔵の『狂い咲き～』のポスター。船木にはこういったブチキレキャラも似合う？



この『五条霊戦記』は、あらゆる意味で日本映画の最先端を突っ走る超大作。それを断る船木も凄いが、石井監督が口説き落として出演までこぎ着けたそうだ。とにかくプロレスファンなら見ておくべき！　全国東宝系劇場にて絶賛公開中！

船木の役どころは白河飛礫打ちの棟梁・湛塊。ドロボウヒゲに毛皮のベスト、というフリントストーンな格好の山賊の頭である。弁慶にかつて勝負で負けており、しつこく勝負を迫る。「ヒクソン？　顔も見たくないです」な彼氏には似合わぬ「もう一丁！」イズムだけど。演技は意外と？　バッチリで言われなきゃ初出演のレスラーとは思えないもの。アクションシーンが少ないのが残念か。でも声はやっぱり優作チックでした。



eb! enter brain

首都圏の書店・コンビニで好評発売中!!

表紙：釈由美子



TV 男のための テレビ・エンタメ情報誌 チョップ!

月刊テレビチョップ

Vol.3
定価480円（税込み）

10/24～11/30 38日分 テレビ番組表

総力特集 あの番組のココが面白い!!

秋の新番組 徹底視聴リポート

アナでない！アイドルでない!!

テレビで気になる彼女たち

『スーパーサッカー』白石美帆
『SRS』長谷川京子
『おはスタ』望月由香
『日本語で暮らそう』板倉香 ほか






『ミッドナイト IN六本木』から『未来ナース』まで
'85～'99 深夜番組クロニクル

『バガボンド』『MONSTER』だけじゃない！
いま本当に面白い青年マンガはコレだ!!

現代を代表するパーソナリティは誰だ！
ラジオNOW!!

吉田豪の「男気万字固め」
ゲスト 張本 勲



特別インタビュー
「山寺宏一、飛び道具あります」



名プロデューサーの肖像
『花王名人劇場』澤田隆治

誰も言わない！観る側からのビッグ提言！
シドニーオリンピック大総括

●高須光聖の「こんな感じで行っときましょか。」ゲスト・ホフディラン
●映　画『X-メン』ヒュー・ジャックマン
●芝　居『ゴドーを待ちながら』柄本明

●通信販売のお問合せ先：株式会社アスキー イーシー　電話(03)5351-8202　http://www.famitsu.com/
〒154-8528 東京都世田谷区若林1-18-10 みかみビル　営業局　電話(03)5433-7850　株式会社エンターブレイン

HONDA TAMON



遂に覚醒!!

和製カレリン

坂井ノブ=聞き手
text by Nobu Sakai
森鷹博=撮影
photographs by Takahiro Mori
平工幸雄=試合写真
photographs by Yukio Hiraku

日本レスリング史上最多タイトル獲得
&ロス・ソウル・バルセロナ五輪代表レスラー

本田多聞

毎日タイヤを引っ張って学校まで4～5キロ歩いてましたよ

地方巡業もスタートして、いよいよ本格始動するノアに、頼もしい男が帰ってきた！　シリーズ開幕戦となった10月7日のディファ有明大会で、旗揚げ以来初めて試合に登場した多聞が衝撃的な戦線復帰を飾ったのだ。右ヒザ手術から復帰したばかりなのに、低いタックルからバックにまわってのテイクダウン、ローリング、最後は関節技と、アマレスを基調にした流れるような攻めで新生・本田多聞をアピールしてみせた。日本アマレス史上最も輝かしい戦歴を誇る和製カレリンが、その〝凄み〟をいかんなく発揮するときがやってきたのだ！

このインタビューはシリーズ開幕前に収録したものだが、今後の多聞の方向性を示すものとなるはずだ。新生・多聞スタイル、本誌は断固支持します！

――今日はプロレスの話はもちろんなんですが、アマレスの話もおうかがいしたいと思っているんです。

本田　はい。

――さっそくですが、今回のシドニー五輪のレスリングはいかがでした？

本田　日本の選手も紙一重で決勝に上がれなかった人が多かったように思うんですけどね。いまのレスリングのトーナメント制のルールが1位を決めればいいという考え方だから、2位、3位になってくる人間はそれなりに実力あるけど、それ以外にも同じくらいの実力なのに1回戦で消えているのが何人もいると思うんですけどね。

――なるほど。カレリンも負けちゃいましたよね、決勝までいきましたけど。

本田　カレリンも負けるべくして負けたと言うべきかもしれないですね。長い間ずっとトップにいて気持ちを維持するのもきついんじゃないですか。その上に、旧ソ連の体制の時ではレスリングだけに没頭出来ていたかもしれないけど、ロシアになってから国会議員も兼ねたりしてるでしょ。そうすると、そっちの仕事で精神を使うと言うか神経をすり減らすしね。

――まぁ、カレリンは非常に惜しかったですけど、本田さんも言ってみれば和製カレリンだと思うんですよ。

本田　そんな、そんな（と謙遜）。

――レスリング時代の経歴を見たら、全日本チャンピオン8回、83年のアジア選手権も制覇して、オリンピックも3回出場してるわけですよね。他にいませんよ、こんな凄い人は（笑）。

本田　でも、もうすぐデビューする杉浦の方がカレリンと同じグレコローマンをやってたから、和製カレリンにふさわしいんじゃないですか？　なんか、そこまで言われると照れちゃうよ（笑）。

――アハハハ！　カレリンといえば冷蔵庫抱えて8階まで階段で上がったエピソードが有名ですけど、多聞さんもそんなエピソードはありますか？

本田　中学校の頃は毎日タイヤを引っ張って学校まで歩いてましたよ（笑）。

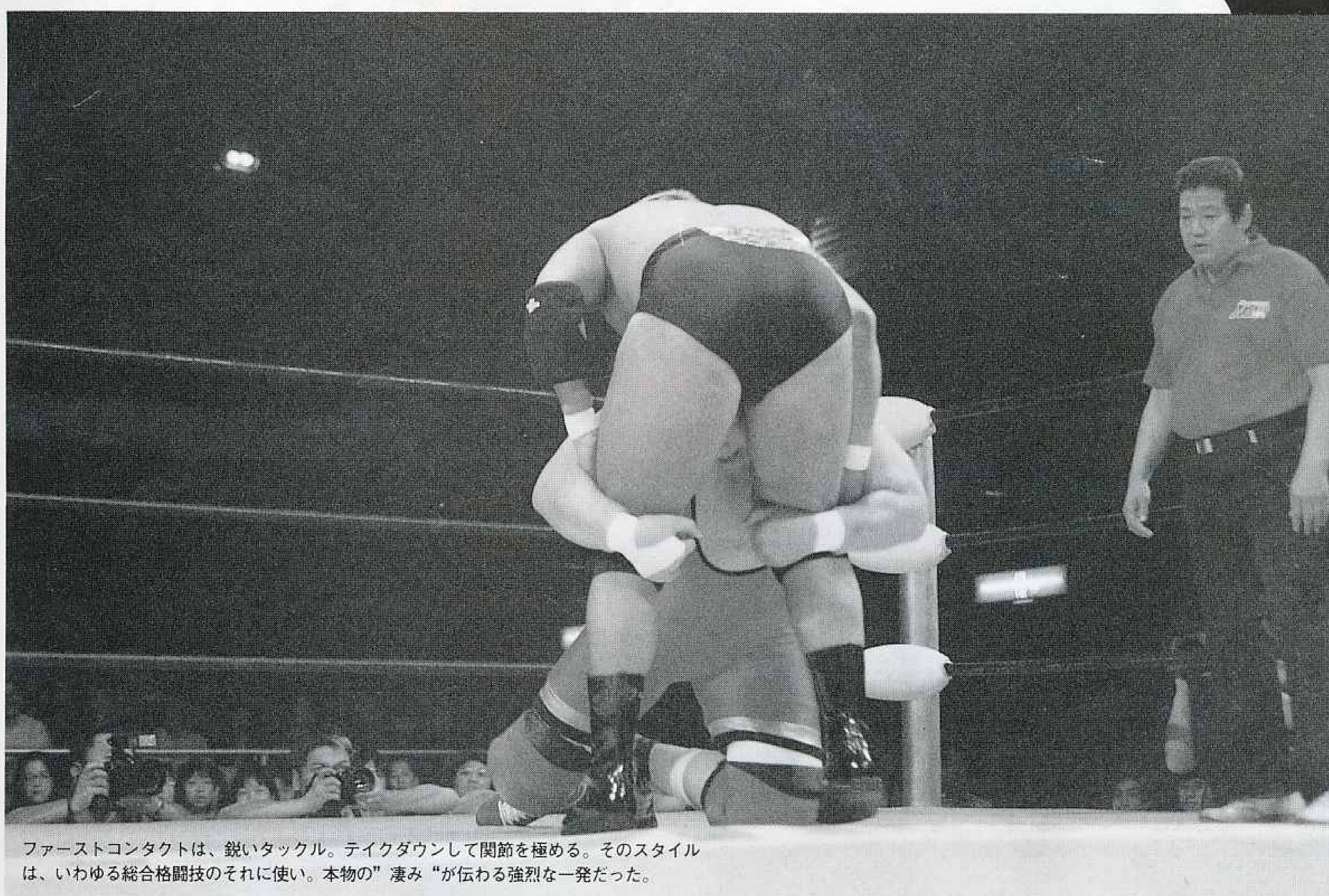
――え～っ！　距離はどれくらいあるんですか？

本田　4、5キロあったかな。

――そんなに！

本田　さすがに学校の中にタイヤは持ち込めないから、近くの工場に置かせてもらってね。

――まさに怪物ですよね（笑）。



ファーストコンタクトは、鋭いタックル。テイクダウンして関節を極める。そのスタイルは、いわゆる総合格闘技のそれに使い。本物の”凄み“が伝わる強烈な一発だった。

本田　父親が「やりなさい」とね。スポーツに関しての最初の指導者は父親ですからね。考え方とかもね。レスリング版『巨人の星』とかよく言われましたよ（笑）。

――多聞さんのお父さんはカヌーのオリンピック選手だったとお聞きしたんですが？

本田　はい。東京オリンピックのカヌーの代表です。親父は自衛隊体育学校という、アスリート集めてオリンピック出場を目指す組織があるわけですよ。そこにいたんです。自衛隊の志気高揚のための施設として体育専門にやってるところなんですけどね。

――それでレスリングを始めたきっかけは何だったんですか？

本田　小学校4年の時かな？　ミュンヘン五輪があって、ウチの父親がカヌーのコーチとして行ってたんですよ。帰ってくる時に空港まで迎えに行ったんですけど、そのとき自衛隊のレスリングの人たちと同じマイクロバスに乗せてもらったんですよ。そこでグレコの52キロ級で銀メダルを取った平山さんって、私が最後現役だった時にレスリング班の監督だった人なんですけど、その人のメダル見せてもらったんです。オリンピックの銀メダルを小学校4年生が見て触れるなんてことはなかなかないでしょ？

――いまだにボクは見たことないです（笑）。

本田　それを触って、「うわぁー」って思って（笑）。「レスリングやればメダル取れるぞ」と思ってね。「やっぱりオリンピックいいなぁ」って思って。周りが「オリンピック、オリン

ピック」って言ってる人間ばっかりだったから「あー、俺もメダルほしい」となるわけですよ。そのとき自分の周囲でやってる人達でメダル取ってる経験者が多い種目がレスリングでしたからね。

――なるほど、じゃあオリンピックに出てメダルを取るのが最大の動機だったんですね。そもそも子供の頃、木口道場でレスリングを教わってたんですよね？　アマレスの木口（宣昭）先生に取材したとき、そう聞きましたけど。

本田　いや。木口道場に習いに行ったんじゃなくて、木口先生や木口道場の人を通じて大会に出て、レスリングを教えていただいたりしてたんです。元々習ったところは、親父の職場である自衛隊ですから。

――え～っ、子供の頃から自衛隊で練習してたんですか？

本田　ええ、大人に混じって子供が練習してたんですよ。

――小学生が（笑）。そうだったんですか、そりゃ強くなるわけですね。

本田　そのころは埼玉に住んでたんで、木口道場まで行くのは少し遠かったんです。

――なるほど、それでオリンピックでは最高で5位でしたよね。メダルには残念ながら届かなかったわけですけど。

本田　結局、日本人で重量級で勝つというのは大変なことなんですよ。

――よく言いますよね。

本田　やっぱり、体が大きい選手は、他の競技に行っちゃうわけですからね。相撲とかちょっとでも大きい子がいたらどんどん引っ張っていくでしょ？　また背が高くてバランスの取れた体している子は球技にいくでしょ。その残りがレスリングって考えられ方はいやだけど、そういうところなんですよ。

――プロのある・なしというのは大きいのかもしれないですね。

本田　そうですね。プロレスとアマチュアのレスリングは競技特性が全く違いますしね。

――「プロが栄えればアマも栄える」と、故・八田一朗レスリング協会会長におっしゃってましたけど、それがなかなか実現していなかったですよね。

本田　東京オリンピックの頃のヘビー級とか重たいクラスの人達ってプロに転向して結構、



全日時代には封印していたものが一気に爆発した形となった新生・多聞。新プロレスのファンの目をも奪うであろう本格的な技の数々は、是非生で見ることをオススメしたい！

HONDA TAMON

名前を残す人になっているんですけどね。

――サンダー杉山さんとか。

本田　マサ斉藤さんもそうですね。

――ここ最近では、アマレスからプロレスに入る人の中でも多聞さんが一番実績ありますもんね。その後プロレスラーとなるわけですけれども、プロレスとアマレスの違いで戸惑ったりはしませんでしたか？

本田　そうでもないですね。むしろ、最初の頃はあまりアマレス技を使いたくなかったんですよ。

――なぜですか？

本田　他に覚えることもいっぱいありますし、まずはプロレスの基礎を学んでからだと思ってましたから。ただ、ある程度わかってくると自分なりの個性が必要になってきますよね？　そうなると自分の持っている得意なモノは何かとなったときに私の場合はアマレスだと。それをどう活かしていくかというのは、今も探しているところなんですよ。難しいんですよね。

――全日本時代、多聞さんの試合スタイルで真っ先に目に飛び込んでくるのはあの頭突きでしたよね。

本田　みんな頭突き使う人は、頭が固いから使うんですけど、じつは私の頭突きはアマレス時代のタックルから派生してるんですよ。

――へ？　どういうことですか？

本田　私は「蛙飛びタックル」って呼んでいたんですけど。飛び込む時に相手のミゾオチ狙って頭から行く技を使ってたんです。腹に頭がメリ込んだら息が詰まるじゃないですか？　その時に足を刈るというタックルなんですよ。以前、川田（利明）さんと試合したときにボロクソにやられて、何もできなくて苦し紛れに「蛙飛びタックル」に行ったら予想以上に苦しんでいたんで、「これいけるぞ」と。それから使うようになったんですよ。

――タックルから頭突きが生まれたんですね（笑）。倒れこむ時とか、写真で見ると髪と顔がスゴイことになっていますけど。

本田　気合入れないとやっぱり恐いですよ。顔から突っ込むのは。

――なるほど。

本田　新日本の中西（学）選手は、デビュー当時レスリングの技とかを多く使ってたけど、それがプロレスの技を覚えていってあれだけじゃダメだなと思ってそれをあまり使わなくなって、しばらくしたら逆にスピアー（高速タックル）とか使ってアマレスの動きが戻って来たでしょ、最初の頃のように。

――そうですね。

本田　プロになって技術を色々勉強していった上で、プロレスのいい部分とアマレスのいい部分と併せてね、プロのリングの上で使える技に変えなきゃいけないと思うんですよ。それを今、探してる状態ではあります。


――じゃあ、これから多聞さんはアマレスを取り入れてガンガン変わっていく、と。それは楽しみですね！

本田　頭の中では色んなイメージが駆け巡ってるんですけどね。

――最近、秋山（準）選手がインタビューで「これからは、若手にはアマレスをやらせていきたい」とおっしゃってるんですけど。

本田　とにかく、相手を転がして、その後グラウンドで上になることを考えたら、格闘技の素養のなかった人間には一番基本になると思いますからね。それを知っておくとケガも減ると思います。まあ、軽くやった程度じゃアマレスとしては完成しないでしょうけど、プロレスに役立てるためにやるということはいいことだと思いますよ。相手を転がしたり押さえたりするという理論は同じですからね。

――最近ではバーリ・トゥードの影響もあって、プロレスの中にも非常に格闘技的なモノを取り入れようという動きがありますよね。



アマレスとプロレスの融合は難しいけど、面白いモノになります

本田　そうですね。いいモノは受け入れて、目指しているモノは違うと思ったら排除していってるとは思うんですけども。

――多聞さんはレスリング時代、どんな技が得意だったんですか？

本田　地味なんですけど、片足タックルと両足タックルですね。それからグラウンドに入ると股割きってあるんですけど、プロレスでいうグランドコブラみたいなヤツですね。後はアンクルホールド。投げ技だと一本背負いと飛行機投げ。アマレスの頃からパワーファイターじゃないですよ。最低限の力で相手を合理的に転がすことに快感を覚えてましたね。

――テクニシャンですねえ。

本田　テクニシャンって自分で言うのは嫌ですけど（笑）、頭の中で合理的に試合をしたいと常に考えてましたよね。

――ノアでも秋山選手は非常にいい形で格闘技的なものを取り入れて成功してると思うんですが、そうなってくると多聞さんにもすごく期待したいですよね。

本田　アマレスとプロレスを融合するっていうのは難しいけど、出来上がったら面白いモノになりますよ。プロレスは、世間一般からショーとされている部分は強いですけどね。そういった部分もありながらも、私は「この人達にはかなわないや」と思わせるような凄い部分を出さないといけないと思うんですよ。

――ホントそうですよね。だから、そのままレスリングの技をプロレスの試合で使っても新鮮だと思うんですけどね。

本田　「これが何なの？」って、お客さんに分かってもらえない可能性はありますけどね。

――ようやく今回、ヒザの手術からの復帰戦となるわけですけど、じつはまだノアで試合はしてないんですよね。

本田　そうなんですよね。

――旗揚げしてからのノアはいかがですか？

本田　旗揚げ戦はみんなデビュー戦のように緊張してる感じが分かりましたよね。でも、来てくれた人達の反応が良かったんで、この団体になって良かったなと。出来れば旗揚げから出たかったなと思いましたよ。

――皆さん、いろいろとイメチェンしてテーマ曲変えたりとかしてますけれども。

本田　「やろう」という気持ちの表れだと思うんですけど。みんな活き活きしてましたよね。テーマソングに関しても本人好みのモノが流れていたんじゃないですか。

――多聞さんは、そのへん全日本時代から自由にやってた印象は受けるんですけどね（笑）。

本田　そうですね。でも、馬場社長が可愛がっていただきまして、「キチンとしたヘアースタイルにしろ」とは言われてましたけど。一時期、「髪を切ったら10万円だ」って賞金賭けられてましたけどね（笑）。

――アハハハ！　賞金首ならぬ賞金髪ですか。

本田　タイツもやっぱり「王道の短いヤツに」とか言われてましたけどね。まあ、普段からそういう感じでだったんで、元子夫人の方が意外に理解を示してくれまして「あの子に言っても変わらないし、あれがあの子だから」っということで認めてくれまして。でも、そのことについては、譲らなくてよかったと思いますよ。

――髪の毛にしてもテーマ曲にしてもこだわりがありますよね。

本田　そうですね。でも難しかったですよ。デビューしたての頃、テーマ曲ないでしょ。だから、その辺から持って来てイメージにあわせて曲をかけてくれるんですけど、それがイヤでしょうがなかったですよ！

――アハハハ！　これが俺の曲だと思われるのはかなわない、と（笑）。当時のコスチュームというのは？

本田　赤のショートタイツで、黒のリングシュ

HONDA TAMON

自衛官が笑って全員失業できる時が来たらいいなって思ってました

ーズです。ある程度経ってから、「自分でタイツ考えてみろ」っということになって、自分で考えたのにしたら「趣味悪いな」って言われて。

——アハハハ！　あれは、やっぱりアマレスを意識して釣りパンツにしたんですか？

本田　そうです。あと、パンクバンドの人達がしている青白赤のリストバンドがあるじゃないですか？　あれと合せて、タイツの脇に入れる色を決めたんですけど、誰も分かってくれなかったですよね（寂しそうに）。「趣味が悪い」っていう話だけでね。

——自分を貫くのも辛いですね（笑）。本田さんはご自分でバンドも自分でやられてるんですよね？

本田　誰がそんなこと言ったんですか？

——いろんな雑誌に出てるじゃないですか（笑）。

本田　遊びですよ、カラオケ替わりです。

——目撃した人の話によると、マイクスタンド振り上げて、ものすごいライブだったようですけど。

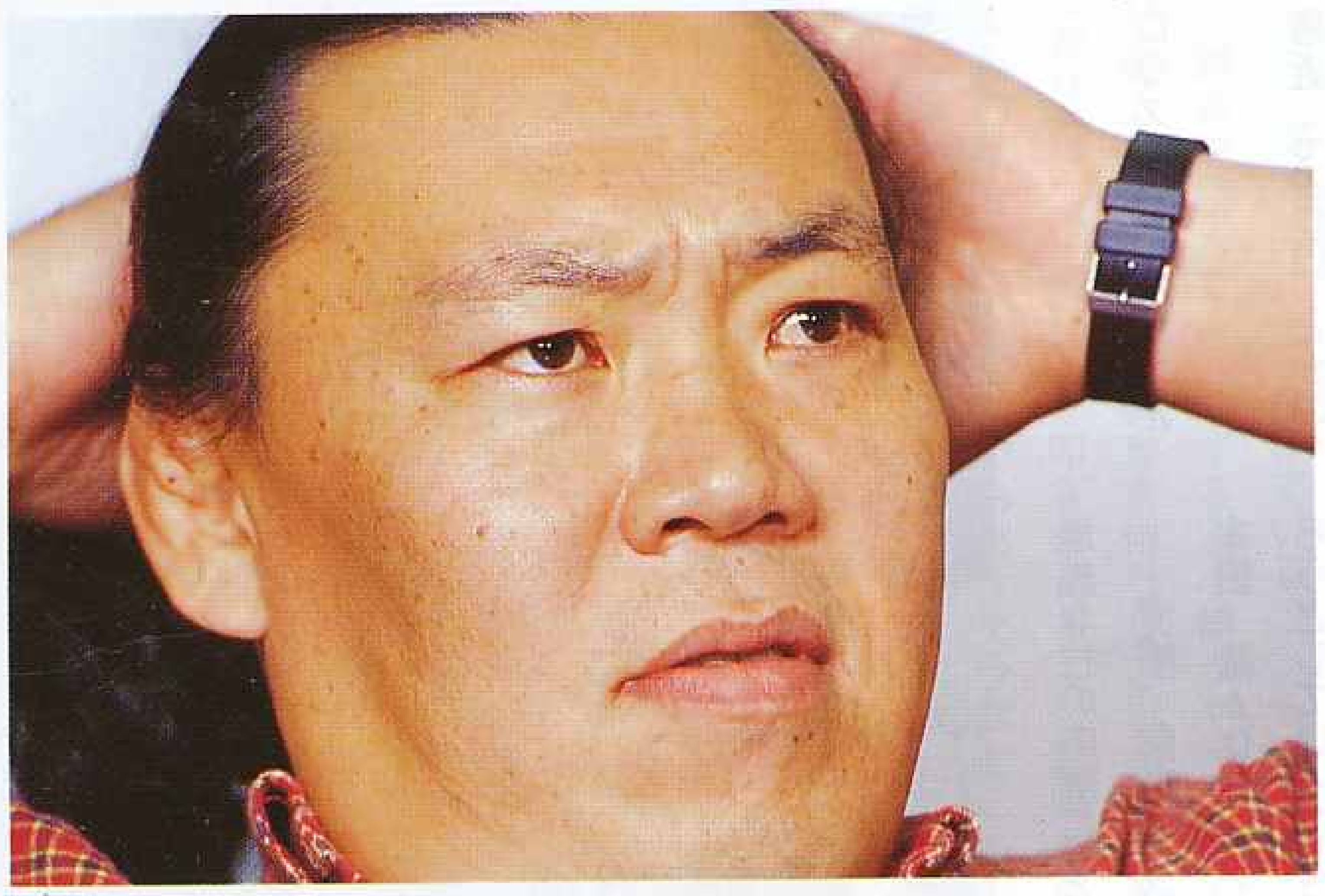
本田　ラモーンズのカバーをやってます。

——タモーンズですよね（笑）。

本田　同じバンドを組んでる人達は10年以上バンドやってるような連中で、すぐに弾けるような連中ばっかりだから。ボーカルが一番問題なんです（笑）。

——問題なんですか（笑）。

格闘 Do Judge 2000



本田　英文字でしょ。覚えるのもなかなか大変ですからね（笑）。

——やっぱり好きなジャンルはパンクになるんですかね？

本田　パンクですね。でも昔のも好きですよ。初期B級パンクの映像がいっぱい入ってるビデオとか集めてましたから。あの頃のライブって、「この中でやってたら命掛けだな」と思うような激しさがありますよね。シド・ヴィシャスが客に向かってギターで殴りかかる瞬間だって、殺らなきゃ殺られるっという顔ですよ。

——そうですね。ボクはこないだ『ノー・フューチャー』というセックス・ピストルズのドキュメンタリー映画見たら、その中でシドが「パンクとは自分に忠実であること」って言ってたんですよ。多聞さんのそういうこだわりも、やっぱり「自分に忠実でありたい」という姿勢ですよね？

本田　そうですね、だから今のパンクって考え方も当時と比べて違うような気がしますね。友達とかウチの家内とかもそういうのが好きで話すんですけどね。「軽く肩の力抜いて観た方がいいんじゃないの」って言われますよ。

——多聞さんは、たとえばどんなことを考えるんですか？

本田　たとえば、ちょっと危険な発言かもしれないけど、自分の国がアナーキーなモノになるというか、制度とかなくなってしまって、みんなが本当の民主主義のように暮らせたらいいなって思ってましたよ。だから、当時は自衛官でありながら、自衛官が笑って全員失業できる時が来たらいいなって思ってましたからね（笑）。

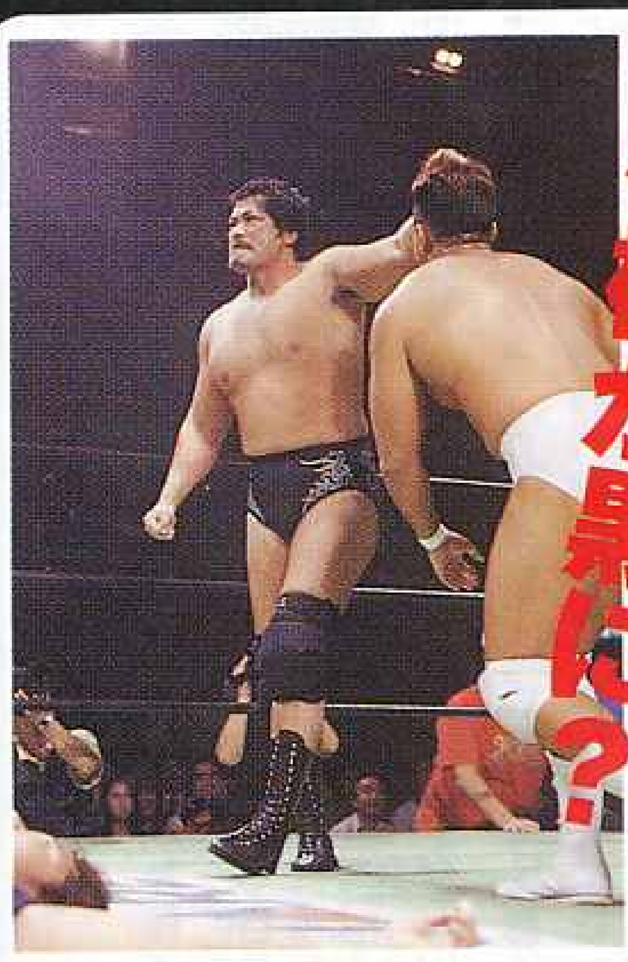
——アナーキーin自衛隊ですか（笑）。多聞さんって、バリバリ体育会系の自衛隊にいたのに、すごく文科系の匂いがしますよね。

本田　まあ、友達もみんな体育会系だけど、飲んだらみんな語るの好きですよね。ある程度、自分の種目を極めた人間ですから。だから自分の哲学を持ってるんですよ。だから語りモードに入るとうるさいですよ（笑）。

——なるほど（笑）。音楽といえば、1回目の『フジ・ロック・フェスティバル』（国内最大級の野外ライブ）の時のことが伝説になってますよね。台風が来て悪天候の中で、バタバタと人が倒れていくのを本田さんが担いで救護室まで運んだそうですけど（笑）。

本田　あれは戦場でしたよ（しみじみ）。ダイブするやつはいるし、後ろから押してくるやつはいるし、倒れて泣いてる子とかいましたからね。

——それを多聞さんが抱えて救助したわけで



驚愕！　なんと、10・7の開幕戦で小橋がオレンジ色のタイツを捨てて黒一色のタイツを身に纏った！　そして、鬼のようなファイトで秋山から電撃的にフォールをダッシュ！　一体何が起こったんだ？

←P.79に急げ!!

本誌・吉田豪秘蔵 タモーンズグッズ御開帳!!



タモーンズ　ウェア

これが伝説の通販限定『タモーンズ』Tシャツ。長袖やパーカーもある。プリントのずれ具合に、ほとばしるＤＩＹ精神を感じることが出来るはず。他のグッズやライブ活動については『悶絶！　プロレス秘宝館』（バーンコーポレーション）の吉田豪原稿に詳しいので必読！

CDの解説も！！

謎の覆面ライター・ジョーイ・タモーン氏が、ＣＤに収録されたバンドの解説をするＯＮ－ＳＥＮレーベルのオムニバス盤。解説の最後には「このＣＤを聞いたら最後…おまえも背中に火が付くぜ!!」との名文が！

好きなことをできる限り長くやりたい あと10年は続けたいんです

HONDA TAMON

すね。

本田　起こしただけで、そんな大袈裟なモノじゃないです。だって、自分もライブを見たいんですから。

――あっ、そうだったんですか（笑）。

本田　最後まで見たかったけど、あんまりにも状態も酷いし、私も熱が出て来ちゃって、寒くてたまらないから帰っちゃったんです。後ろ髪引かれるような思いで。残念でしたけど、いい経験をしましたよ。

――かなり話が脱線しちゃったんで、元に戻しましょうか（笑）。

本田　あの時は、ハイロウズが一番良かったなぁ（遠い目）。

――アハハハ！　で、最近『PRIDE』とかの総合格闘技が注目されてきてますけど多聞さんはご覧になってますか？

本田　会場にはいかないですけど、映像は見てますよ。U系の団体の試合も、ウチは衛星放送が入らないですけど、泊まったホテルで放送している時は見ますから。

――ああいった試合をやってみたいなとか思いませんか？

本田　知ってる人間が出てて、頑張ってるなあとかは思いますけどね……藤田選手やパンクラスの高橋選手とか。

――日大の後輩ですもんね。

本田　高橋選手が学生時代に一緒に合宿してた間柄ですから。お互いに選んだルールがこれで良かったのかなとは思いますけどね。ああいうバーリ・トゥードのようなルールって、実力が競ってくると駆け引きとか関係なしに単純な技の応酬になりますよね？

――実際、膠着する試合とか多いですからね。

本田　確かにそういう系統の団体の人達がやろうとしていることは面白いことだと思うし、それに挑むということは大変なことだと思うんですよ。だけど、最終的には地味な技の応酬になるでしょ。それをどういうふうに打破するかっていうことは、スゴク大きなポイントですよね。

――ウチの読者なんかだと、多聞さんに総合格闘技の試合に出てほしいというような声が多いんですが、多聞さん自身もそういう期待感とかは感じてますか？

本田　まあ……両膝がね、まだ完治してないじゃないですか？　今の膝の状態で1年で引退してもいいつもりでいるなら、賭けて出ていってもいいですけど、私はまだ10年ぐらいは好きなことを続けたいなと思ってるんで。

――好きなことって、つまりプロレスですよね。

本田　私は、好きなことをできる限り長くやりたいとは思ってるんですよね。馬場社長もね、亡くなるまで好きなことをやったというのは羨ましい限りですよね。『あしたのジョー』じゃないけど短く燃え尽きちまうか、「みっともない」って言われるような状態でも続けるかって言う感じです。「みっともない」って言われる時点で現役でいられるか、それともトレーナーでやってるかもしれないですけどね。

――プロレスラーの人は、引退後が辛い場合も多々ありますからね。

本田　プロレスの世界も、コーチやトレーナーの育成とか、怪我をどういうふうにケアしていくかとか考えないといけないと思いますからね。そういう部分が確立されてないでしょ？

――亡くなったジャンボ鶴田さんも、そういうようなことをおっしゃってましたよね。

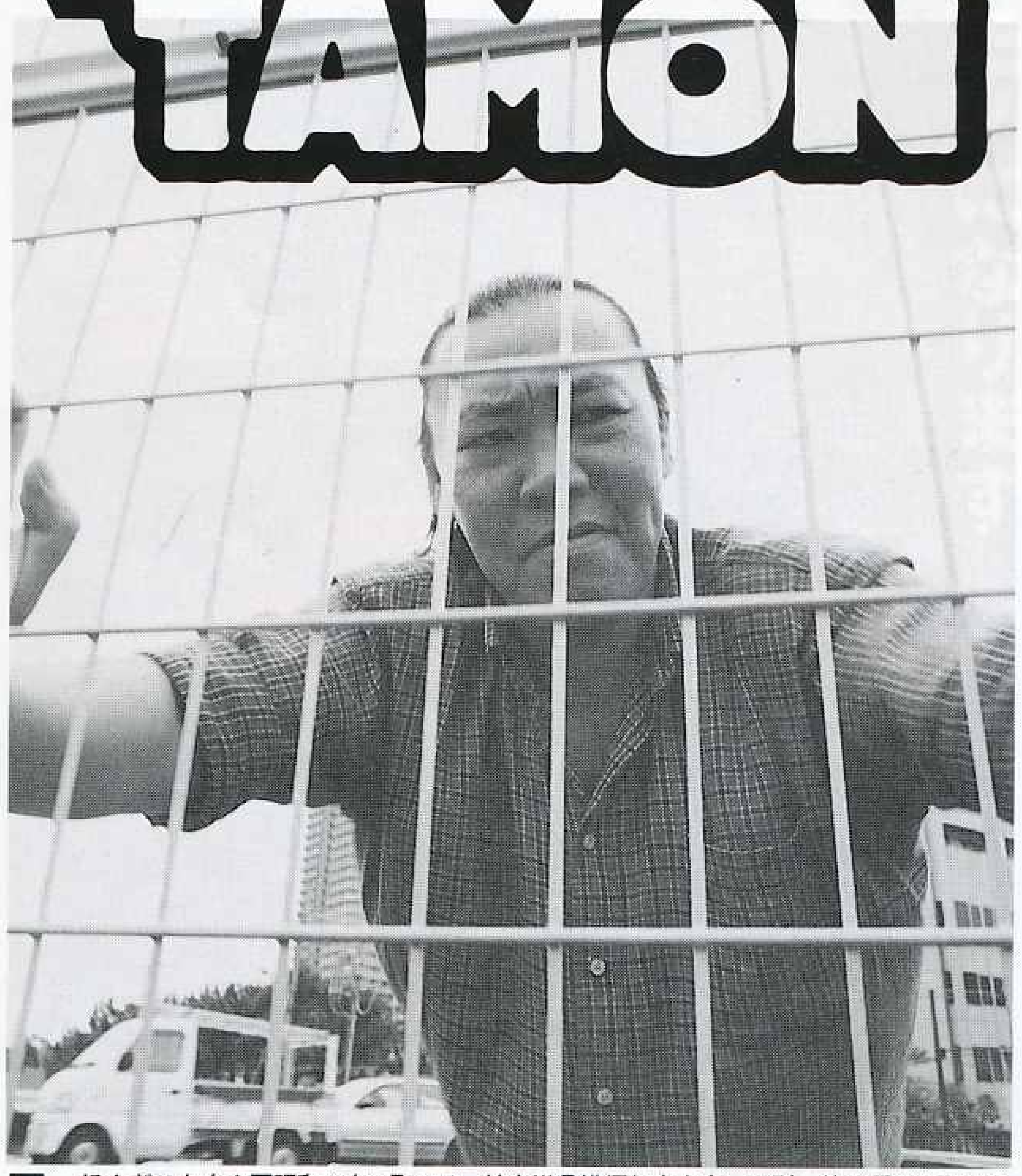
本田　筑波大学で勉強してたのも結局、そういう道を開こうと思ってやりだしたと思うんですよ。鶴田さんがやろうとしたことは物凄く大きいことだったと思うんですよね。私はノアに期待してますから、試合だけじゃなくて会社組織として理想のモノになっていくように、そういう部分に関しても期待してます。三沢社長をはじめ重役の方々はそういうこともやってくれてるんで、選手としても心置きなくやりたいことを前面に押し出してやるということですね。

――リング上をこう変えたいというような考えはありますか？

本田　まず、自分としてはアマとプロの技を融合させて完全なる自分のモノを突き詰めて行くという感じですよね。自分の中で考えていることに突き進みたいです。

【10月5日、プロレスリング・ノア事務所にて収録】

インタビュー後記■今回のインタビューでは多聞のワン&オンリーな〝個性〟の根源にも迫ってみたのだが、『紙プロ』読者の皆さん的には、いかがだろうか？　リング内でも、リング外でも、ノアの信念である「自由」を手にした多聞はこれからますます大暴れしてくれるはずだ！



PROFILE

ほんだ・たもん■昭和38年8月15日、神奈川県横須賀市出身。B型。幼い頃からオリンピックを目指し、ロサンゼルス、ソウル、バルセロナと３回オリンピックに出場した。現在、高田道場で指導中のソウル五輪金メダリスト・小林選手（電話ボックスで金メダルを忘れて事件になったあの人）とは高校＆大学の同級生でもある。平成５年10月８日、大分県立荷揚町体育館vsテッド・デビアス戦でデビュー。個性的なファイト・スタイルで人気も高く、アジアタッグ王者も奪取していたが、今年６月にプロレスリング・ノアに参加。ちなみに、入場テーマはＧ．Ｂ．Ｈの『ノー・サヴァイヴァー』。１８８センチ、１２７キロ。

BONUS TRACK



練習生の杉浦は多聞と同じく自衛隊出身でアマレスの全日本王者にもなった逸材。当然、デビューしたら要注目！

怒涛の勢いで師走を駆け抜ける 12月シリーズの大会日程表

The Final Navigation 2000

12月2日（土）	18：00	東京・ディファ有明
12月3日（日）	15：00	新潟・長岡市厚生会館
12月4日（月）	18：30	群馬・伊勢崎市民体育館
12月5日（火）	18：30	東北地区予定
12月7日（木）	18：30	東北地区予定
12月8日（金）	18：30	仙台・宮城県スポーツセンター
12月10日（日）	15：00	静岡・アクトシティ浜松
12月12日（火）	18：30	茨城・鹿島市立体育館
12月13日（水）	18：30	神奈川・伊勢原市体育館
12月15日（金）	18：30	新潟・新潟市体育館

One Night Navigation

12月22日（金）	18：00	川崎市体育館

Great Voyage

12月23日（祝）	16：00	東京・有明コロシアム

NOAH REPORT

12・23初のビッグマッチ開催決定!! ダイナミックに動きだしたノアから目が離せない！

頭「格闘技の良い部分、アメリカン・プロレスの良い部分、すべてを取り込んでいく」というノアが、地方巡業の開始とともにダイナミックに動き出した。

細かい流れは下の囲みを読んで頂くとして、そのド迫力には、つくづく圧倒されるばかりだ。

10月8日、横浜大会の試合後に大森がカメラのフラッシュを前にガナりまくっていたときのことだった。写真を撮るべくカメラを構えたボクの背中にドカーンというものすごい衝撃が走った！

激痛でよろけながら後ろを振り返ると、そこに立っていたのは、上半身裸で下はジーンズ着用の田上明！ なんと、ボクは田上の15文キックを喰らってしまったのだ！（当然、力は加減してくれたのだろうが）そのまま、ハンセンが乱入してきたときのジャイアント馬場を彷彿とさせるすさまじいハイテンションで大森につかみ掛かる田上。巨大なゴミ箱をブン投げながらとてつもない乱闘を繰り広げている。

すると小橋がやってきて、無言のまま怖ろしい形相で控室のドアを叩きまくる！ 怒鳴り声のひとつでもあげそうなところだが、小橋は終始無言で制止する若手をブンブン振り払いながら、泣き叫ぶ菊地の声も耳に入らず、ひたすら突進する。

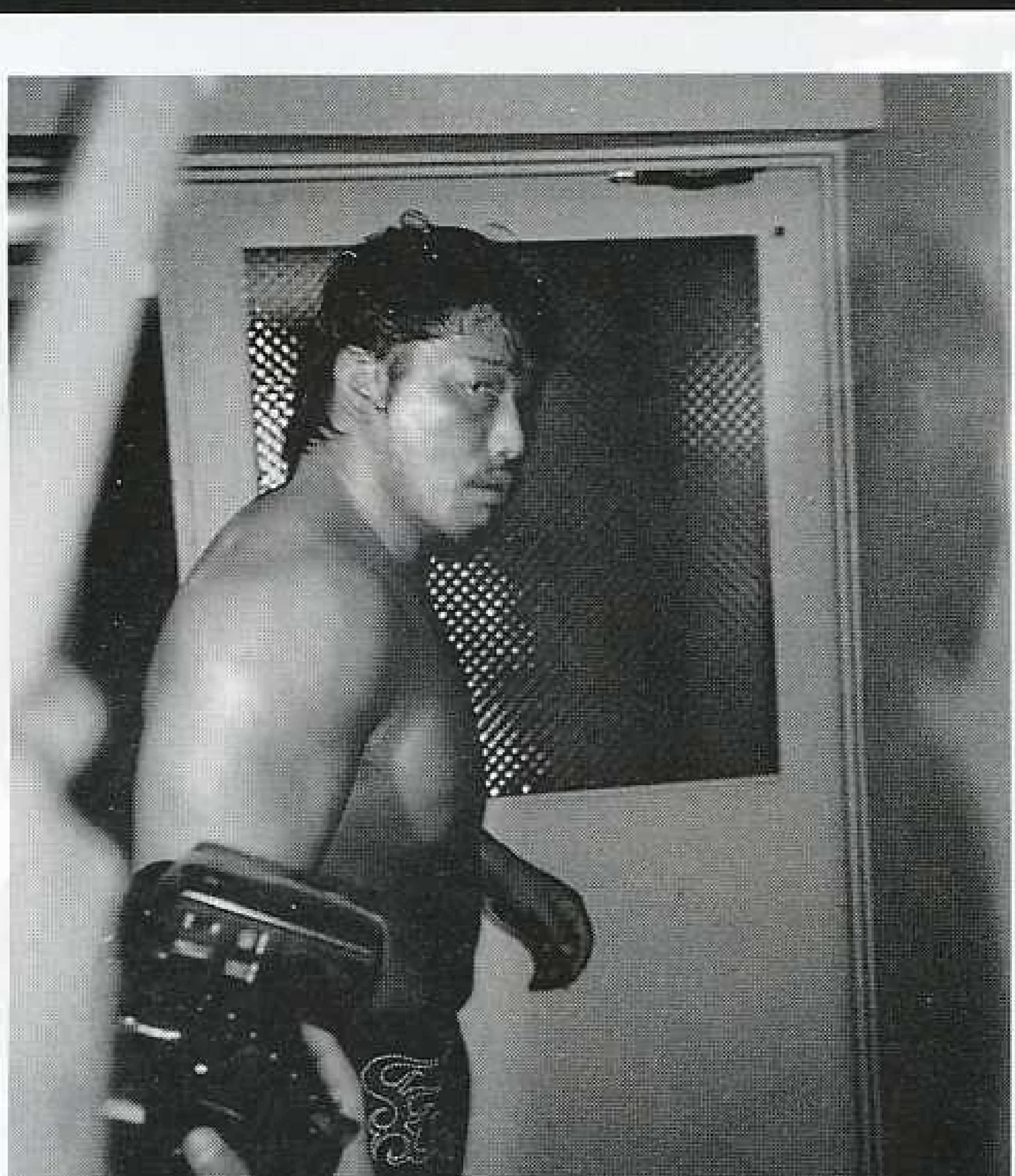
そうかと思えば、10月11日の愛知大会では青柳館長と斉藤彰俊が電撃参戦を果たした（詳しくはP110の『ザ・検証』を参照）。

おなじみ悪役商会の試合にしても、永源が橋誠に対してワキ毛抜き攻撃を繰り広げた直後、同じく橋に多聞が目の覚めるような両足タックルを決めたりする。

とにかく、多種多様な要素がひとつのリングでぶつかり合う混沌とした状態になってきた。

K—1以降、「プロデュース」という言葉がプロレスでも盛んに言われるようになった。言ってみれば、分裂前の全日も馬場プロデュースな空間だったわけだが、ノアでは各自のプロデュースで多用な価値観が存在するようになった。ある意味、もの凄い空間だと思いませんか？

全てを味わい尽くすには会場に行くしかない。TVでいいや、と思ってたら永久に面白さは味わえない面白さがノアの会場にはある！



ノア vs 『PRIDE』の興行戦争勃発！ 旗揚げ初のビッグマッチだ！ Great Voyage

12月23日（土・祝）有明コロシアム　試合開始　午後4時

●チケット料金（税込）

アリーナS席	￥15000（記念品付き）
アリーナA席	￥10000
スタンドS席	￥10000
スタンドA席	￥7000
スタンドB席	￥5000
スタンド自由席	￥3000
スタンド自由席小中学生	￥2000

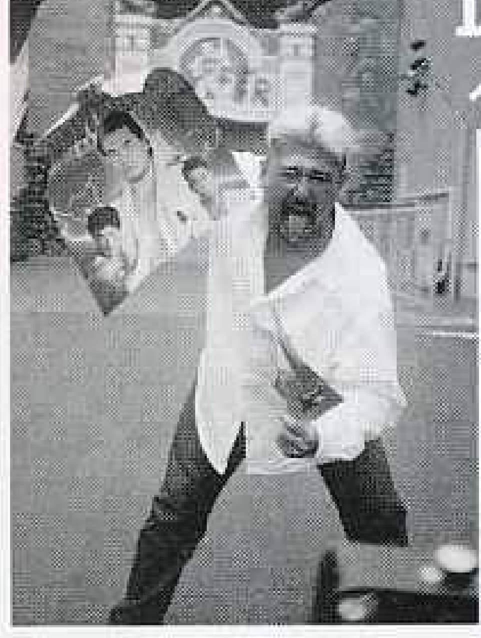
●チケット発売日

※オフィシャルファンクラブ『NOAH's ark』会員予約
10月28日（土）午後12時～午後3時
受付電話番号03－3527－5313

※一般発売は11月4日（土）午前10時～
お問い合せ■プロレスリング・ノア
TEL.03—35273—5311

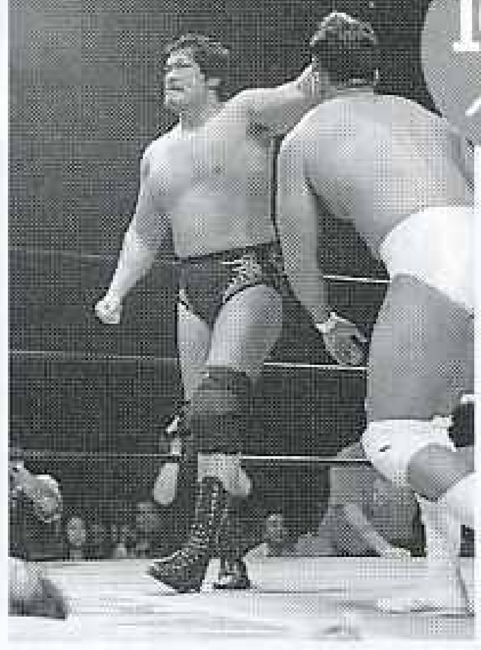
鬼神・小橋が復讐開始！ 裏切者の大森を血ダルマに！

10/2 ディファ有明



大森隆男が会見を開き、「秋山とタッグを組んだ高山の目を覚まさせる！」と宣言。そのために、小橋とタッグを組んで、猛威を振るう秋山＆高山組と激突すると宣言。ポスターも破り捨てて気合いも満点だ！ どうなる、ノーフィアー!?

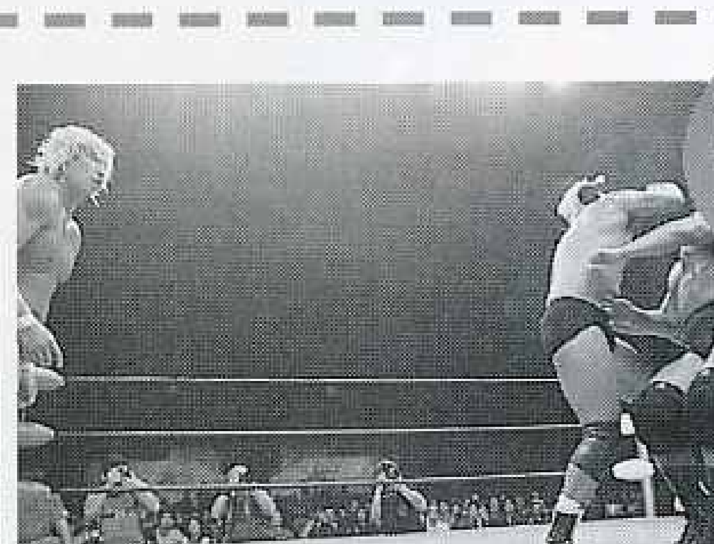
10/7 ディファ有明



秋山＆高山の挑発、若手の反乱などで、さすがの小橋も、遂に堪忍袋の緒が切れた！ 全身を黒のコスチューム（デザインはリボルバー）で包み、ひたすら怒りをたたきつける鬼神ような闘いぶりで、秋山からピンフォールを奪うと、会場全体から大・小橋コールが発生！ 新生・小橋は怖すぎる！

小橋と大森を中心に動いた10月シリーズの序盤戦。横浜大会の見事な裏切りで、その後はカードが大幅変更になった。10月11日、名古屋大会では小橋が大森と激突、またしても鬼神・小橋が大森を大流血に追い込み完勝！ もはや誰も手を付けられないのか？ この試合のダメージで、大森はその後の数日間を欠場するほどだった。この原稿を書いている現時点では、まだ結果は出ていないが最終戦の岩手大会で全面的に激突する。刻一刻と、ノアのリング上はものすごい勢いで流れているのだ！ 乗り遅れるな！

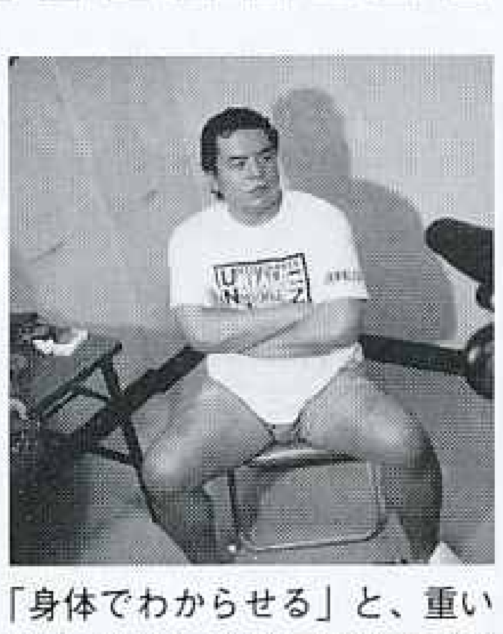
10/8 横浜文体



大森が小橋にラリアット一閃！ なんと、秋山＆高山サイドに寝返ったのだった。

控室では小橋がノーフィアー控室に殴り込みをかけて大乱闘が発生！





「身体でわからせる」と、重い腰を上げて、遂に三沢も大森＆高山＆秋山狩りを表明。


愛ある限り魂の尽きるまで闘い続ける怒涛のキャラクターマガジン、いざ出陣!!
CHARACTER Q
キャラクター・キュー
C・Q創刊記念
誌上限定
フュギュア
銭ゲバ
ソフビ貯金箱
創刊
定価1,260円(税込)
特集
人造人間キカイダー
石ノ森ヒーローの真髄にみる究極の不完全
DYNAMIC PRODUCTION 30th. ANNIVERSARY
ダイナミック1970-2000
仮面ライダークウガ
未来戦隊タイムレンジャー
ゴジラ×メガギラス
鉄甲機ミカヅキ
ウルトラマンネオス
松田優作
バイオハザード
絶賛発売中
英知出版株式会社
〒162-0825
東京都新宿区神楽坂6-59
tel03-5229-4350



グランドファイナルでは ファンの皆さんにもっと素晴らしい 柔術ショーをお見せしましょう

あの田村潔司に完勝!!
21世紀初のキング・オブ・キングスはこの男か!?

Antonio Rodrigo Nogueira

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／森鷹博
photographs by Morry
試合撮影／吉澤晃
photographs by Akira Yoshhizawa

「田村、1年10ヶ月ぶりのギブアップ負け」という衝撃的な結末で幕を開けた「KOK2000」。その田村を破った張本人がこのノゲイラである。昨年のKOKでは優勝したダン・ヘンダーソンに「体重判定」で敗れながらも、実質的な優勝者の声も多かったこの男。今年は判定ルールを「克服」し、全試合一本勝ちの完全優勝を狙う！

我々B（ブラジリアン）・トップチームにヒクソンに負けるような人間は一人もいない

「コイツが優勝ですよ……」

昨年10月に第1回KOKトーナメントで衝撃の日本デビューをはたしたノゲイラ。その試合のTV解説を務め、ノゲイラの底なしの実力を目の当たりにした田村潔司が力無く呟いたのが冒頭の言葉である。

ノゲイラは田村の言葉通り、1回戦で今年のKOKでババルを破り遂にブレイクしたヴァレンタイン・オーフレイムに完勝したのを皮切りに、コーチキン・ユーリー、コピィロフを破って順調に勝ち上がり、準決勝のダン・ヘンダーソン戦もグラウンドのポジショニングで終始上回り誰もがノゲイラの判定勝ちと思ったが、ジャッジは約10キロの体重差を考慮し、ノゲイラはまさかの判定負けを喫してしまった。

この判定に大きなショックを受けたノゲイラは、試合後の会見で「このような判定をされるなら、これから先リングスに上がるかどうかは分からない」というコメントを残し、実際その後、同じくKOKで活躍したババルやジェレミーがレギュラー参戦する中、8・23大阪大会まで来日が途絶えていた。

ここではまず、半年ぶりのリングス復帰となる大阪大会出場時に収録したインタビューをお蔵だし掲載することにしよう。

——ノゲイラ選手は半年ぶりの来日になりますけど、実はヘンダーソン戦の試合の判定がかなり微妙だったので、それに嫌気がさしてリングスにはもう来ないんじゃないかと心配してたんですよ。

ノゲイラ　それは申し訳ない（笑）。確かにあの試合の判定は大いに不満だよ。間違いなく僕が勝っていたと思うし、試合を見た人はみんな「あの判定はおかしい」と言ってくれた。君だってそう思うだろ？　ただ僕自身、日本で成功するという夢があるから、一度負けを宣告されたぐらいじゃ諦めきれないし、その実現の為に戻って来たんだ。それにリングス自体には悪い感情は一切ないし、逆に感謝の気持ちでいっぱいなんだよ。

——では、この半年間はどのような生活を送っていたんですか？

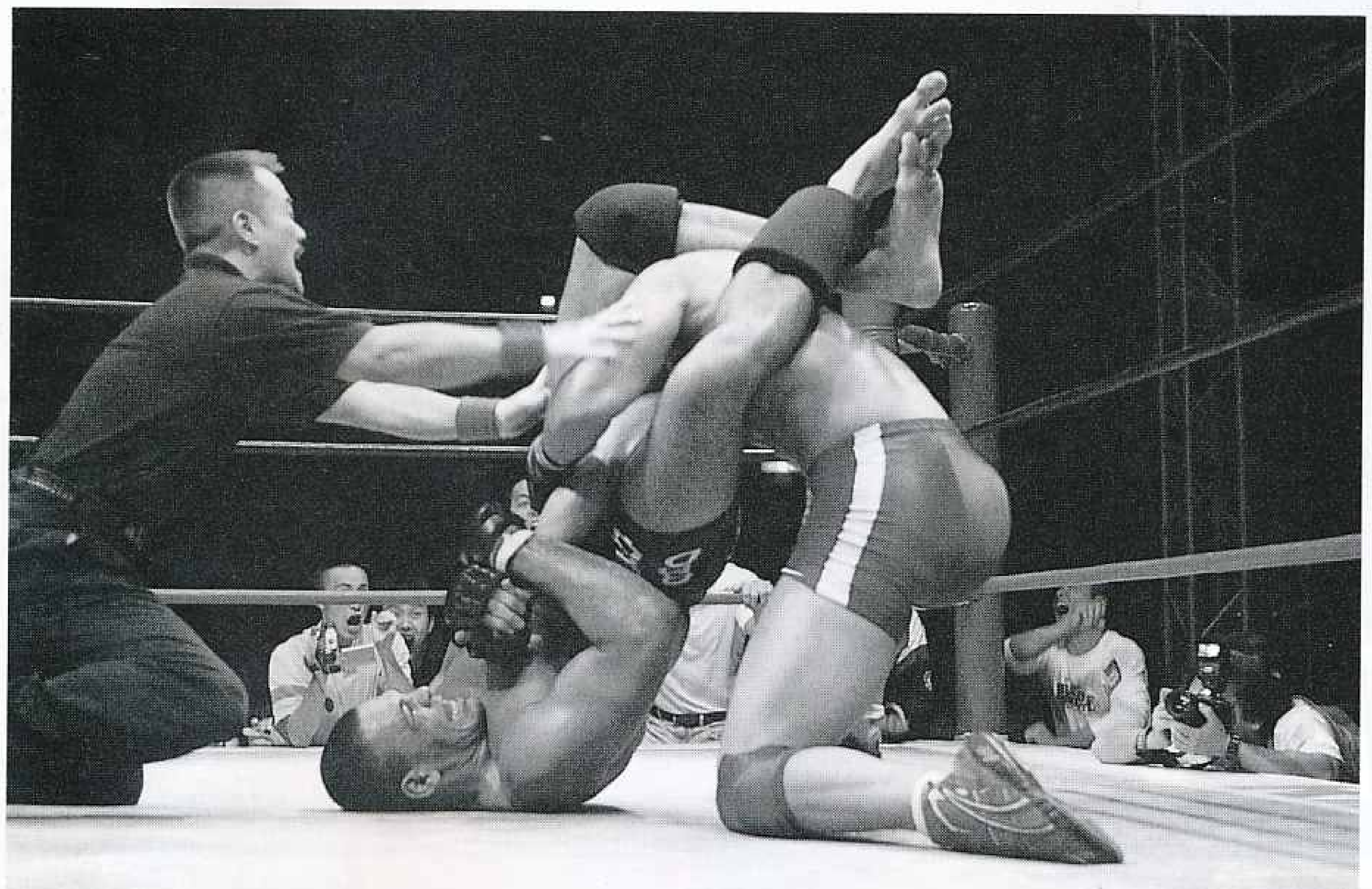
ノゲイラ　実はKOKの後、3ヶ月間は治療に専念してたんだ。そして残りの3ヶ月間で今回の準備を進めてきた。特に相手がコーサカだと聞いた後は、この試合はこれから僕が日本で闘っていく上で非常に重要な試合になると思ったので、1日3回に渡るハードな練習を積んできたよ。

——具体的にどんな練習を積んできたんですか？

ノゲイラ　朝7時に起きて、9時から11時位まで、まずは柔術の練習。その後にポジショニングの練習や、相手が決まっていればビデオを見て相手の研究したりすることを午前中にやっているよ。そして午後はリングに上がってレスリングとボクシング。夜は、筋トレ等のフィジカル面の練習や、実戦スパーリングをやることが多いね。

——ほとんど一日中が練習時間じゃないですか！　オーバーワークで体を壊したり、疲れが溜まったりしないんですか？

ノゲイラ　もちろん疲れるよ。でも試合の後は充分に休息を取るようにしているから大丈夫。それに今年6月にブラジリアン・トップチームに参加してからは、フィジカル面をパウロ・カローゾ、柔術をマリオ・スペーヒーというブラジルのトップに師事することができて、スパーリングも世界最高のメンバーとできるので、自分自身、日に日にレベルアップしていることに充実感を感じているんだ。



相手のミスを待って極めるという、柔術家のイメージを破壊するよう、田村を相手にグラウンドで攻めて攻めて攻めまくったノゲイラ。その積極性と世界レベルの技術は、敗れた田村をして「頭を下げて、技術を見てほしい」とまで言わせるものだった。

——ノゲイラ選手は以前はアメリカ在住だったと思うんですけど、ブラジリアン・トップチーム所属しているということは、現在はブラジルに帰っているんですか？

ノゲイラ　以前はアメリカにある道場で柔術を教えるためにアメリカに住んでいたんだけど、自分自身がプロとしてトップに立つためにブラジルに帰る決心をしたんだ。

——それでは、昨年の時点でも強かったノゲイラ選手のプロとしての本当の凄さが見られるのはこれからなんですね。

ノゲイラ　そう、今は自分が強くなるために全ての時間を使えるので、昨年より間違いなくいい動きができるよ。

——ノゲイラ選手が所属しているブラジリアン・トップチームは、日本でも有名な選手が沢山いるんですけど、やはりブラジルに数多くあるチームの中でも最強だと思いますか？

ノゲイラ　トップチームの前身であるカーウソン・グレイシーチームは、過去10年間に渡ってクラブ対抗の柔術大会で負けたことがないんだ。そのカーウソンチームの主力メンバーが全てトップチームにいるわけだから、間違いなくブラジルNO・1のチームだと言えるよ。それにトップチームは柔術だけでなく、VTの選手としてもトップの選手が揃っているから、僕はブラジルだけでなく、世界NO・1のチームだと思うよ。

——でも日本ではどうしてもヒクソン派やホイス派グレイシー一族が最強だというイメージがあるんですけど、それについてはどう思いますか？

ノゲイラ　その考えにはどうしても賛成出来ないね。グレイシーはヒクソンとホイラーが目立つ程度で、あとは別に大した選手じゃないだろ？　それに比べて我々トップチームは誰もが認めるブラジルのトップをズラリと揃えていて、ヒカルド・アローナを始めとする若くて素晴らしい素質を持った選手もいる。そしてその下にはさらに30人に及ぶ黒帯の予備軍がいるんだよ。だからトップチームからは、これからもどんどん強い選手が生まれてくると思うよ。

——日本ではヒクソン・グレイシーは神格化された存在になっているんですけど、ブラジルでの評判はどうなんでしょうか？

ノゲイラ　ブラジルでは彼に対しての評価が非常に別れるんだ。彼のことを素晴らしいと尊敬する人も多し、逆に一方で自分の方が強いと思っている選手もたくさんいる。でも、ただひとつ意見が分かれないことは、彼自身がそれほど強い相手と闘ってきていないということさ。彼は常に比較的勝つ可能性の高い

みんな「あの判定はおかしい」と言ってくれ
きて、スパーリングも世界最高のメンバーと
うことさ。彼は常に比較的勝つ可能性の高い

日本のファンが一本勝ちを望むなら
全試合一本勝ちで優勝を狙うよ

選手を選んで闘ってきたことは、彼自身が素晴らしいかどうかに関係なく事実。だから僕の所属するブラジリアン・トップチームの選手のレベルは少なくとも彼と同等か、それ以上だと思っているよ。

――ヒクソン選手は日本で闘う以前にブラジルで柔術をやっていた時代から相手を選ぶ傾向があったんですか?

ノゲイラ　もう10年以上前、彼がある程度のレベルに達した時から相手を選ぶようになったらしいよ。その理由は主に体格差だったんだが、それならば彼と体重差のない、サクラバやフランク・シャムロックとなぜ闘わないのか、と言いたいんだよ。

――いや～、ヒクソン選手に対しては皆さん手厳しいですね。では、話をリングスに戻させて下さい。そもそもリングスに上がろうと思ったキッカケは何だったんですか?

ノゲイラ　去年の9月頃からKOKというイベントがインターネットや口コミを通じてアメリカで非常に評判になっていたからだよ。そして僕は自分の名前を上げるのに丁度いい大会だと思ったんだ。賞金も大きな魅力だったけど、タムラ、コーサカ、ヘンゾ・グレイシーといったメンバーの中で闘うことにも関心があったよ。

――では、実際に参加してみてのリングスの印象を聞かせて下さい。

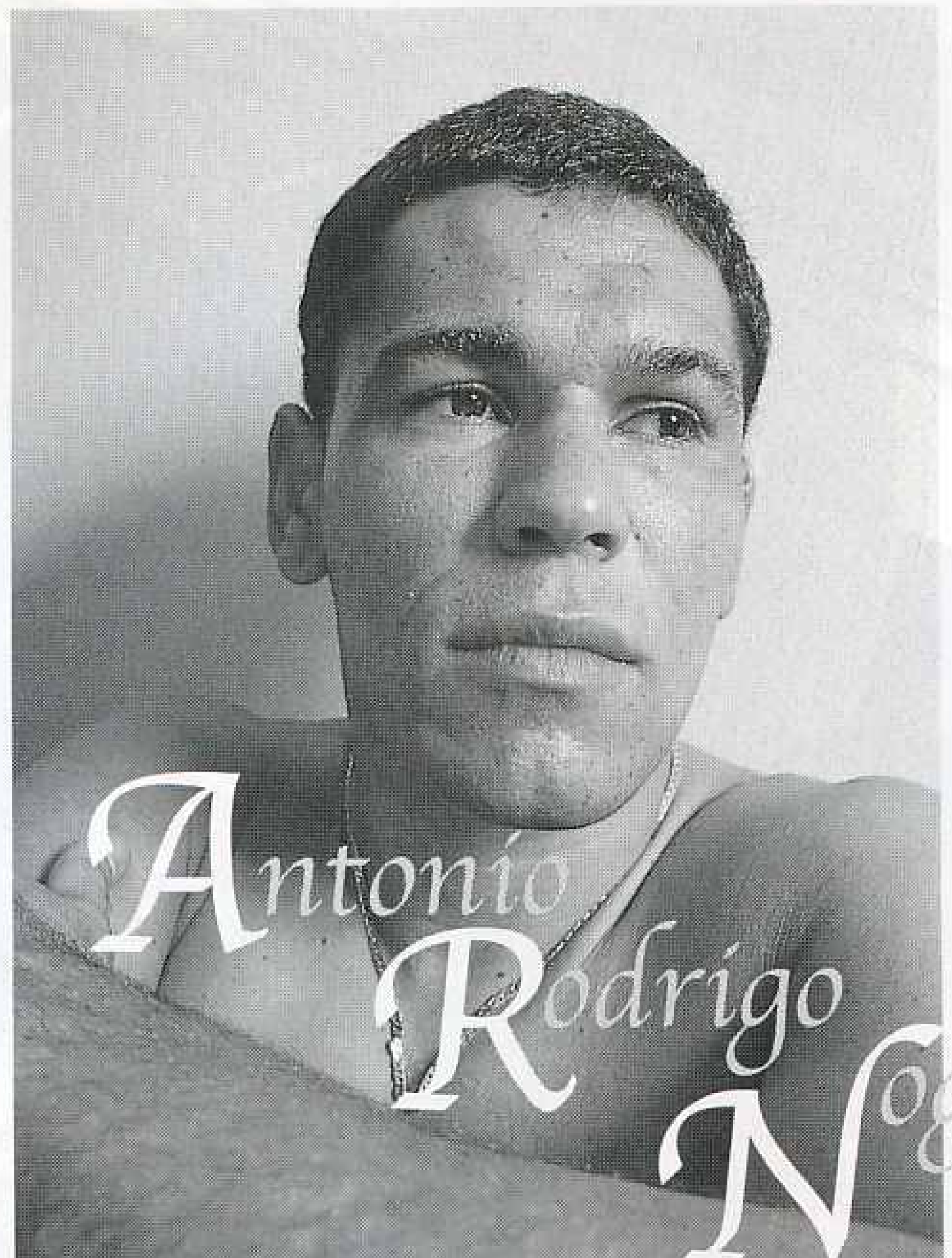
ノゲイラ　まず組織が非常にしっかりしているよ。世界中探しても、これほどしっかりした格闘技の組織を探すことは難しいと思うね。それと大会毎に新しい選手を参加させて、高いレベルを常に維持しようとしている姿勢が素晴らしい。それに特にKOK以降、リングスは世界的に有名になってきているので、そこに参加出来ることに、非常に光栄に思っているんだ。

――では、近々「リングス・ブラジル」という組織が本格的に始動する予定なんですけど、その組織に関しては興味はありますか?

ノゲイラ　リングス・ブラジルの設立によって、ブラジルでもトーナメントが開催される可能性がでてきたので、僕自身、非常に関心があるし、素晴らしいことだと思うね。このプランが成功することを僕も願っているよ。

このインタビューの翌日、ノゲイラは高阪戦でヘビー級同士とは思えないほどの、白熱の技術戦を展開。ここでもマウントを奪うなど、ヒザの靭帯を切り、思うように動けないTKに対して有利に試合を進めるが、判定はドロー。ポジショニングを重視しないリングスの採点基準にまたもや泣く結果となった。

そして3度目の正直として挑んだ今回のKOK。ノゲイラは「一本勝ち以外は勝ちではない」とばかりに、超アグレッシブな闘いを見せ、ロシアのラバザノフ、そして日本のエース田村に怒涛の一本勝ちを収めた。では、ここから先はノゲイラの田村戦直後の共同インタビューをお届けしよう。



【Antonio Rodrigo Nogueira】ブラジリアン・トップチーム所属。1976年1月2日、ブラジル・バイア州出身。191cm、103kg。ブラジリアン柔術世界選手権では97年に準優勝、99年には3位に輝く。その他にリオデジャネイロ選手権優勝7回、ノースイースタン選手権に6回優勝するなど、24歳にして柔術ではトップクラスの実績を持つ。恵まれた肉体と確かな技術を合わせ持つこの男が、“最強”と呼ばれる日も近いだろう。

――決勝トーナメント出場が決定したお気持ちをお聞かせ下さい。

ノゲイラ　決勝大会に残れたということに対して非常に満足していますし、誇りにも思います。また僕の柔術を日本で再び見せることができることに対して喜びを感じています。

――田村戦の感想を聞かせて下さい。

ノゲイラ　特に日本の選手と闘うっている時には、それなりのプレッシャーを感じますね。ただリングに上がれば、もう自分が勝つんだ、自分の闘いができるんだと確信していました。そして闘いに挑む前に、神に祈ったから勝つことが出来たと思います。

――田村選手の印象は?

ノゲイラ　タムラは非常に素晴らしいテクニックをもったいい選手だと思います。そしてグラウンドだけでなく、スタンドの蹴りも素晴らしい。僕は試合開始早々から自分のリズムに持ち込んで一刻も早く極めようと思っていましたが、なかなか自分のペースを掴むことはできなかった。しかし、幸い最終的に一本勝ちできたことに非常に満足しています。

――前回は判定で悔しい思いをされたので、今回は一本狙いで最初からいかれたのでしょうか?

ノゲイラ　去年のヘンダーソン戦ですね。あとコーサカとの試合は非常に厳しい闘いでしたが、僕としてはマウントポジションを奪うなどいい闘いが出来たと思ってます。しかし結果的にああいう判定が下ってしまい、非常に残念でした。だから今回は絶対に勝つんだ、ハッキリした形で勝ちたい、そしてできるだけ早く極めたいと思って闘いに臨みました。やはり日本のファンの人たちも、一本勝ちを望んでいるということを僕自身わかっていましたから、僕は全試合一本勝ちが出来るような練習を積んできたんです。

――2月の決勝大会で優勝する自信の程を語ってください。

ノゲイラ　もちろん2月は優勝を狙います。今回は非常にいい調整が出来たわけですが、それ以上の調整をして2月には臨むつもりです。そしてそれだけの良い調整が出来る環境の下に自分はいると思います。ブラジリアン・トップチームという優れた仲間たちと練習を積むこと、そしてスポンサー(バッドボーイなど)が僕にいい条件を与えてくれてます。ですから、2月にはファンの方々にもっとすばらしいショーをお見せできると確信しております。

――最後にファンにメッセージをどうぞ。

ノゲイラ　また日本の再び日本に来れたことを非常に幸せに思ってます。そして2月にはもっと良いテクニックを見せて、ファンの方を喜んでもらいたいです。日本の方は僕に対して非常によくしてくれますから、それに恩返しする意味でもいい試合を見せたいですね。

ヘンダーソン戦での判定負け、高阪戦でのドロー裁定によって、「一本勝ちしか勝つ道はない」という発想から、超アグレッシブなファイターに変貌したノゲイラ。これはKOKルールを克服した、最もいい例だろう。

10・9を見る限り田村が昨年言ったように、ノゲイラが全試合一本勝ちで優勝することも十分にある得る。もしかしたらリングスはとんでもない怪物を生み出してしまったのかも知れない。果たして、短期間でここまで進化したノゲイラを止める選手は現れるのか。2・24両国を刮目せよ!(気が早い?)



滑川、無差別出撃宣言！
ターゲットはシュルトとヤマケン？

リングスUSA決勝大会
5ページ大（？）特集!!

田村、2回戦負け
今度こそ
金ちゃんの出番！

本誌NO.30で30ページという怒涛のボリュームで大特集したリングスUSA大会inハワイ。そうなると決勝大会となる今回もドドーンと大特集かと思いきや、残念ながら諸事情（主に金銭面）により現地取材を断念。その代わりと言ってはなんですが、アメリカ帰りのお二人に思いきり語ってもらいました。本邦初公開の師弟対談。もちろん膠着ナシ！　ボヤキ有り！ではいってみよう。

アメリカ帰りの師弟対談

金原弘光 × 滑川康仁

ボヤキング・オブ・キングス × その弟子

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda
協力／WOWOW日本衛星放送（株）
special thanks by WOWOW

金原弘光×滑川康仁

今日は『紙プロ』に一言いいたい。俺は進学校出身だ！失礼なこと言うな！（金原）

金原　まず、今日は『紙プロ』に言っておきたいことがあるから。

——どうぞなんなりと（笑）。

金原　何あれ、「金原の高校は進学校ではない」とか書いてあってさ、俺は進学校だよ！

——ああ、「凄頭」（笑）。（『紙プロ』31号を出して）これですね。

金原　これだこれ。ここ読んでよ。

——え～と、「金原の瀬戸高校は、進学率は高い。といっても、最高でも成蹊大なので進学率は高くても決して進学校ではない」だそうです（笑）。

金原　成蹊ってどこの大学？

——確か吉祥寺の方にあったと思います。

金原　ここに書いてあるの東京の大学だけでしょ。そんな、名古屋の方（金原の出身地）はいっぱい大学あるんだから、名古屋の人間が東京の大学受ける訳ないじゃない。実際、自分のクラスで東京出てきたの俺だけだからね。他は名古屋大とか、みんないい所行きますよ。名古屋大ってこっちで言ったら東大受けるような奴が受けるところだからね。

——そうなんですか。

金原　それなのに「サクは中央大だからやっぱりIQレスラーだ」とか書いてあってさ、スポーツ推薦で行った奴のIQなんてどんなモノだよ！

——確かにあまり関係ないですよね（笑）。

金原　宮戸（優光）さんとかは、素晴らしいんですよ。ちゃんと試験受けて入ってるから。でも後はほとんどスポーツ推薦でしょ。だから「ウチの学校は進学校だ失礼なこと言うな！」って載せといてよ。今日はこれさえ言えたら、もうインタビュー終わりでいいから（笑）。

——そうはいきませんよ！（笑）。では、恒例のオープニング・ボヤキはこれくらいにして（笑）、本題に入りましょう。

金原　今日は何の話？

——今回はですね、アメリカ帰りのお二人にリングスUSA決勝大会のお話を中心に、いろいろ聞いていこうと思うんですけど、一応、師弟対談という形でよろしいでしょうか？

滑川　はい（微笑）。

金原　へ～、師弟だったんだ（笑）。

——弟子にした覚えはない、と（笑）。リングスUSA決勝大会はどうでした？



前田道場に取材に行くと必ずといっていいほど一緒にスパーリングしているこの2人。何気に息もピッタリなのだ。

滑川　楽しかったです（微笑）。

金原　お前、旅行の話じゃないんだから、まず自分の試合について語れよ（笑）。

——滑川さんは、前回のインタビューで「自分の中の課題を克服したい」という話をしていたんですけども、今回の課題はなんだったんですか？

滑川　毎回同じなんスけど、リキまずリラックスしてやろうと。でも、そういうのを考える前に終わっちゃったんで（苦笑）。

金原　なぁ、あの試合何分だっけ？

滑川　1分30秒です。

金原　1分30秒？　アハハハ！

——笑っちゃ悪いですよ（笑）。作戦的にはどういう感じだったんですか？

滑川　クリス（ヘイズマン）と試合当日の朝しゃべったんスけど、時差ボケでだいぶ疲れてたみたいだったんスよ。だから最初からラッシュしてくるだろうと思って、それを凌いで、後から攻める予定だったんスけど……そのままやられちゃいました（苦笑）。

金原　「1分で終わらせる」ってクリスが予告してたんだよ。その通りになってんの（笑）。

——金原さんは試合前に何か指示は出してたんですか？

金原　寝技は向こうの方が極めが強いから、寝かされてもすぐに立ち上がって、またすぐに殴りに行けって、どんどん掻き回すしかないって言ったんですよ。でも、倒されたら全然起き上がれなくって終わり（笑）。

——金原さんは本当は出場する予定がケガで欠場だったんですよね。

金原　うん、肋骨が折れて今も付いてないの。6月に（レナート・）ババルとやったときから痛かったから、その時からヒビは入ってたみたいなんだよね。それが8月に練習中に折れたみたい。でも連戦が続いてて辛かったから、いい怪我の功名で休めて良かった。本当に、怪我して良かったよ（笑）。

——「怪我して良かった」って、学校を休みたい小学生じゃないんですから（笑）。

金原　もし出てても、今回のアメリカみたいに客が少ないと気合い入らないからね。

——客入りは悪かったんですか？

金原　そう。客の反応はいいんだけどね。アメリカはボクシング・コミッションが厳しくて田舎でしかできないから、UFCなんかも全然客入らないでしょ。そういった意味で、海外でやるんなら大会場が超満員になるオランダやロシアの方がまだ面白いね。

——やっぱり客が入ると燃えるモノですか？

金原　そりゃそうでしょ。Uインターの終わり頃に客がホント少ししか入らなかった時なんか全然ヤル気しなかったもんね。

——でも、金原さん前号で田村さんに「ヤル気ないなんて言ったらダメだ」って言ってたじゃないですか（笑）。

金原　いや～、でも一時武道館でずっとやって満員だったUインターがさ、行ったことのないような小さいところへ行くわけじゃない。そんな小さいところでさえガラガラなんだよ。そうなると、試合前に本当ヤル気しないもんね。一時の勢いを知ってるだけに「なんじゃこりゃ」と思ってね。

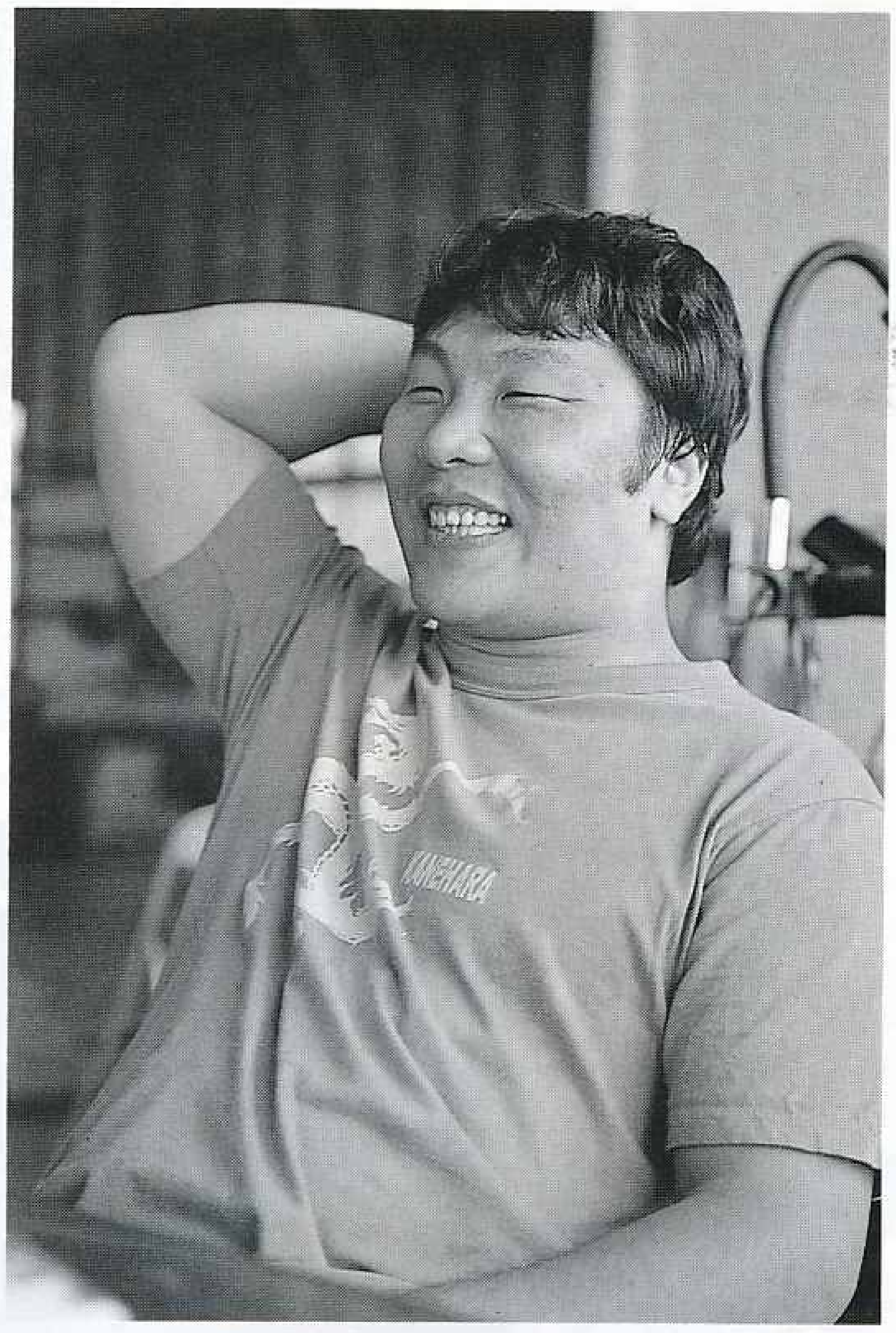
——でも色んなところで経験することで、糧になることもあるんじゃないですか？

金原　それはあるけどね。俺なんかドームの6万人から、客が数人しかいないタイの見せ物小屋みたいなところまでやってるから（笑）。

——滑川さんもいろんなところでやってますけど、一番印象深いところってどこですか？

滑川　オランダの雰囲気が良かったですね。

——どんな感じなんですか？



日本人トーナメントやって誰が一番頑張ってるか決めたらいいんだよ

金原　オランダは殺伐としてて凄いよ。選手が控え室で「アーーッ！」とか叫んでたり、試合終わるとみんなボコボコの顔して控え室に帰ってくるしね。（滑川を指さしながら）そのうちの1人なんだけどさ（笑）。

——客席の盛り上がりも凄いんですか？

金原　凄いよぉ。リングサイドにテーブル付のVIP席があってさ、みんな煙草とか、もっとキツイのとか（笑）吸いながら「ぶっ殺せ！」って叫んでるからね。

——なんか地下プロレスみたいですね。

金原　そうそう、本当にそんな感じだよ。今度オランダまで見に来た方がいいよ。

——選手とすれば、そういうところに行くと燃えてくるモノなんですか？

金原　燃えないと、やられちゃうし怪我しちゃうよ。相手のテンションが異常に高いから。

——滑川さんなんか、テンション上げるの得意だから向いてますよね。

金原　テンション上げるの得意なの？

滑川　僕は、燃えます。試合前に燃えすぎて疲れちゃうんスけど（苦笑）。

金原　初めて聞いたな。こいつは全然闘志がないヤツだなと思ってた。密かにメラメラしたものがあったんだ（笑）。

——滑川さんは、USA決勝大会で目に付いた選手はいましたか？

滑川　自分は、ジョシュ・ホールですね。

——ハワイ大会で金原さんと凄い殴り合いをした選手ですね。

金原　俺はやっぱりジェレミー・ホーンが一番印象に残ったよ。そのジョシュ・ホールもすぐに極めちゃったしね。また極め方も、腕十字から膝十字に移行するという凄くいいコンビネーションだったでしょ。練習でも難しいコンビネーションなのに、試合で極めちゃったからね。あれ見て、こいつはホントに凄いなと思ったね。

——パット・ミレティッチの所はみんなで新しいテクニックを考えてるみたいですね。

金原　あそこは、みんな格闘マニアだから。1日3回練習して、それ以外はビデオ見て研究してるっていうからね。あそこまで行ったらほとんど中毒。オタッキーだよ（笑）。

——でも練習環境としたら最高ですよね。今、前田道場は怪我人続出で、そういった意味では凄く大変なんじゃないですか？

金原　そうだね、今は滑川ぐらいしかスパーリングの相手がいないからね。

——USA決勝大会前は金原さんも怪我してたから滑川さんも、スパーとかできなかったじゃないですか？

滑川　そうですね。新弟子くらいですね。

金原　滑川も新弟子使って上手くやればいいんだけどさ、基本とか、そういうことやろうとしないからダメなんだよ。

滑川　（ぼそっと）やってます……！

金原　新弟子とスパーリングしても、力量に差があるわけだからテクニックの練習がバンバンできる訳でしょ。十字の入り方一つにしても、何通りもあるからそれを何回も何回も練習したりして。あとは刺し合いばっかりとかさ、そういう練習できるからね。滑川もアメリカでのクリスとの試合の時に、簡単に胴タックルもらっちゃったでしょ。そういうところ見ちゃったら、基本がもう少しあった方がいいなって感じますよね。

——滑川さんどうですか？

滑川　これからすぐやります！

——アハハハ！　金原さんは、KOKに向けて前田道場ではどんな練習なさるんですか？

金原　肋骨折れてるから、まだそんなに練習してないよ。でも、そろそろ始めないとレベル高いから難しいよね。

——KOK開幕戦を見ても、またレベルが上った感じで、もうトータルにできないと勝てなくなってきましたよね。

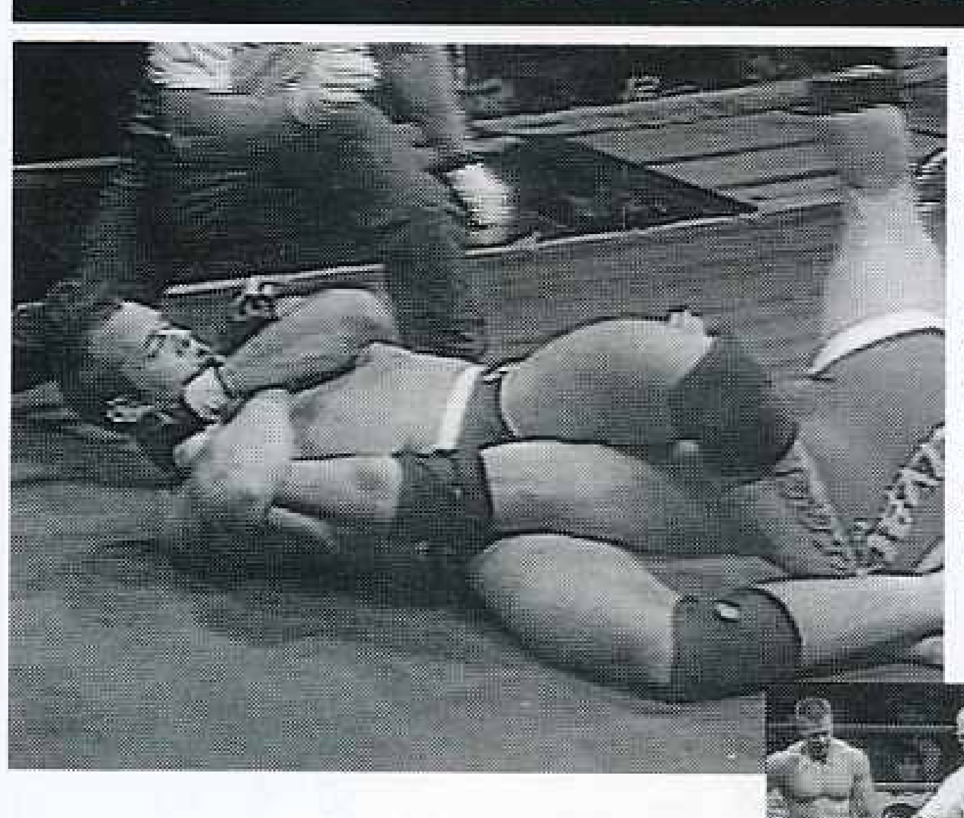
金原　ホントそうだよね。オーフレイムなんかも凄く極めが強くなってきたし、クートゥアーなんかもダン・ヘンダーソンを一回り大きくしたような感じでいいよね。ジェレミー・ホーン戦は、本当にレベル高かったよ。あれを1回戦でやるのはもったいない、決勝トーナメントのカードだよ。

——田村さんの試合の感想はいかがですか？

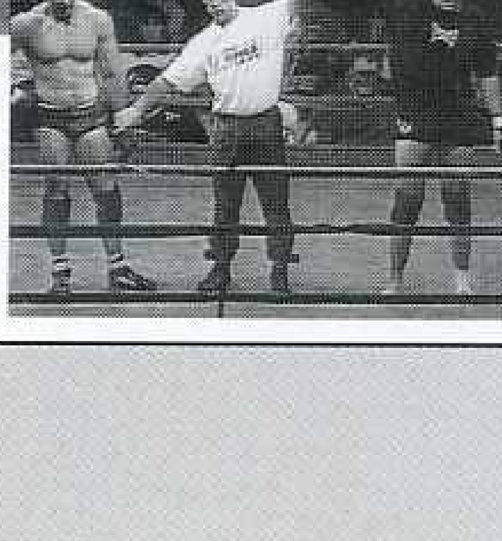
金原　いや、試合のレベルは素晴らしかったですよ。でも、田村さん以上にノゲイラのコンディションとか極めにいく姿勢が凄かったから、ノゲイラの強さが目立っちゃったね。

——でかいし、動けるし、極められる。あの試合を見て「ノゲイラに勝てるやついるのか？」

全試合一本勝ち！ ジェレミーぶっち切りの優勝！



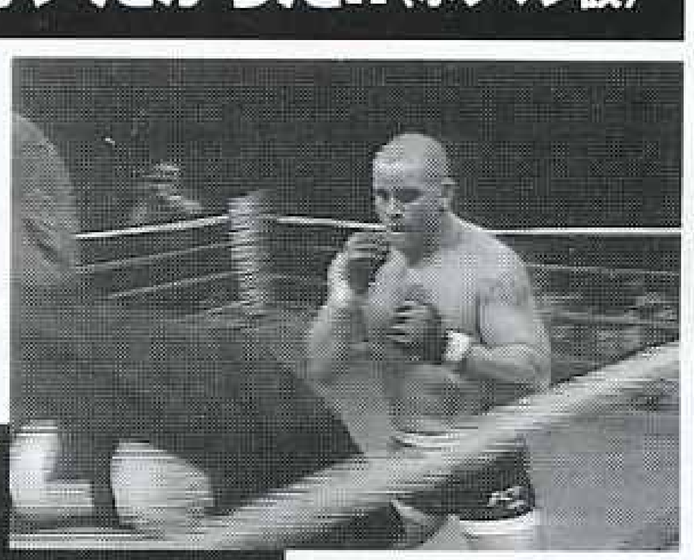
金ちゃんも絶賛したジェレミーのテク。ボトムからの腕狙いと見せかけて、ヒザ十字に移行し新鋭J・ホールに完勝。殴り合い中心のリングスUSAの中で、ジェレミーの技術はひときわ際だっていた。



決勝では“サブミッション・マスター”と紹介されたヘイズマンをも腕十字葬。ジェレミーは結局、1回戦から全試合KOか一本勝ちでブッチ切りの優勝。

オレは負けない！ なぜならチャンピオンだからだ!!（ホフマン談）

この1週間前にUFCでモーリスに判定負けしたホフマンだが、この日はそれを全く感じさせない暴れっぷり。今回負傷欠場したTKとの真の決勝戦をKOKで見たい。





「相手も強かったが、チャンピオンは勝たなきゃならないんだ！　俺がリングの支配者だ!!」と、試合後のインタビューでも期待通り吠えまくってくれたホフマン。プロレスラー以上にプロレスラーな男である。

リングスUSA大会
RINGS STARS
決勝トーナメント

9.30　アメリカ・イリノイ州モリーン
マーク・オブ・ザ・クアッド・シティーズ

ミレティッチ軍団強し！
ヘビーはボビー・ホフマン
ミドルはジェレミー・ホーンが制す！

と思いましたよ。

金原　でも相性があるから、ノゲイラもクートゥアーからはタックル取れないだろうし、そしたらパンチでやられる可能性はあるよ。

――じゃあ田村さんも、相性的にかわいそうな部分があったかもしれないですね。

金原　やっぱり90キロくらいの人間だと、100キロを越えた人間のタックルを切るのは難しいでしょ。だから田村さんもヘンゾとかのタックルは切れても、ノゲイラのタックルを切るのは難しかったみたいだね。

――金原さんは田村さんの大阪（8・23）での「日本人が頑張ってない」発言に対して、「言いたいことは山ほどある」って前号で言ってましたけど、どうですか？

金原　いや、もういいよ、その話は。滑川の方があるんじゃないの、田村さんに言いたいことをメモに書いてるらしいから（笑）。

滑川　あれは言ってないのに、チョロさんに勝手に書かれたんですよ！　そんなノートに言いたいこと書いてるなんて、僕が暗い人間みたいじゃないっスか！

金原　それじゃ、何も言いたいことはないんだ。

滑川　ないですね。

――でもそこで「何クソッ」てならないと、田村さんも拍子抜けるんじゃないですか？

滑川　恨みはないっスけど、ブラッド・コーラーが出れないって聞いたとき、自分が田村さんと一回戦でやりたいとは思ったんスよ。

――それは見たかったですねぇ。

金原　だからKOKが終わったら、また一つの企画として日本人トーナメントをやったら面白いんじゃない。そこで直接闘って誰が頑張ってるか決めればいいんだから。

――「誰が頑張ってるかハッキリさせたらいいんや！」ってとこですね（笑）。滑川さんは、日本人対決についてどう思いますか？

滑川　自分も先輩達とやってみたいっスね。

――日本人同士で、拳で殴りあったりというのは抵抗ありませんか？

金原　俺は平気だけど。滑川は？

滑川　自分も関係ないです。

――エンセン（井上）さんなんかは、日本人相手は嫌だと言うじゃないですか。

金原　それは育った環境の違いだよ。俺なんかUインターの頃から同門同士の対決ばかりやってきた訳でしょ。でも、エンセンの場合は逆だからね。グレイシーっていう同門は絶対にしない所から育っているから、その辺の違いだろうね。

――キングダム時代なんか、仲間同士でオープン・フィンガー・グローブ付けてボコボコに毎日殴り合っていたワケですからね。

金原　だからなんてことないよ。それで、終わったらお互いに「お疲れさん」って言えるからね。

――そういった部分でU系って、プロの根性が座ってるという気がしますね。

金原　それが当たり前で育ってきたからね。

――では、いよいよ金原さんが出場するKOK、Bブロックのお話なんですけど、もう対戦相手とか聞いてるんですか？

金原　いや、まだ全然聞いてないけどね。

――1回戦の相手がヒカルド・アローナじゃないかという噂があるんですけど。

金原　またぁ、どんな噂ぁ。実は俺もその噂聞いてさ、「勘弁してくれよ」と思ったんだけどさ（笑）。

――金原さんの耳にも入ってましたか（笑）。

金原　アローナって、あのノゲイラが「今ブラジルで一番強い」って言うくらいの奴だよ。なんで1回戦からそんな相手とやんなきゃいけないの。また、金原潰しのトーナメントかって思うわけじゃん。田村さんが負けて日本人全滅の危機なんだから、せめて日本人が残れるようにしてほしいよ（笑）。

――滑川さんは次の試合は決まってるんですか？

滑川　来年3月にオーストラリアに呼ぶとはクリスから聞いてます。

金原　その前に1月のオランダがあるよ。

滑川　それも出来れば出たいっス。

金原　セーム・シュルトが待ってるよ（笑）。

――もう相手も限定されてるんですか（笑）。どうですか、セーム・シュルト戦は？

滑川　僕は組まれたらセーム・シュルトであろうが誰であろうがやりますよ！

――では、ヤマケンさんの『タイタン・ファイト』なんてどうですか？　賞金80万円でプロも出れるらしいですよ。

金原　そんなの山本本人が出て優勝すればいいじゃん。なぁ？

滑川　はい。

――いや、それに優勝したらヤマケンさんに挑戦できるらしいんですよ。

金原　アハハハ！　さすがチャンピオン。もう「山本様」だね、完全に（笑）。

――その他に『クラブ・ファイト』っていう、ヤマケンさんが賞金首になって、一般公募の挑戦者と毎月闘う企画もあるんですよ。

金原　毎月いくら貰えるの？

シュルトだろうが誰だろうが組まれれば誰とでもやりますよ！



ヘビー級 決勝トーナメント 優勝ボビー・ホフマン

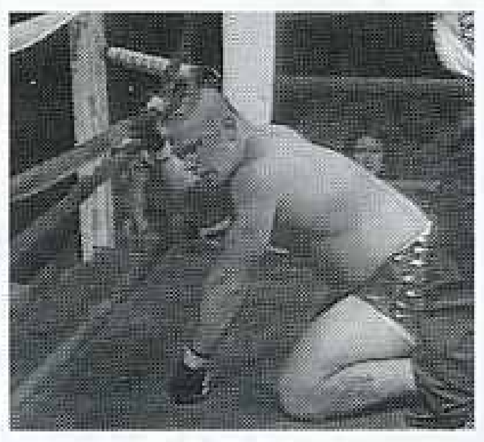
- ボビー・ホフマン
- エリック・ペレ
- アーロン・ブリンク
- トム・サワー

ミドル級 決勝トーナメント 優勝ジェレミー・ホーン

- ジョッシュ・ホール
- ジェレミー・ホーン
- クリストファー・ヘイズマン
- 滑川康仁

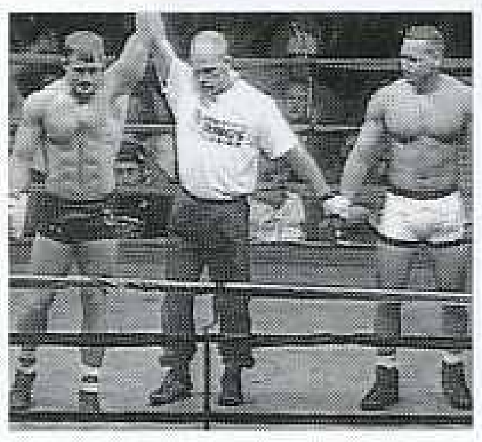
…その他の試合…

トム・ソーヤ敗れる！



ハワイ大会では、あのオーフレイムを秒殺KOするなど大活躍だった"トム・ソーヤー"ことトム・サワーだが、この日はスタミナ切れでKO負け。立ち技のコピィロフか!?

WEF王者M・ヒューズ登場



8・23大阪でヘイズマンを判定で破ったM・ヒューズはR・ニューマンに肩固めで勝利。極めの技術が向上すれば、KOKミドル級戦線のトップに立てる男だ。

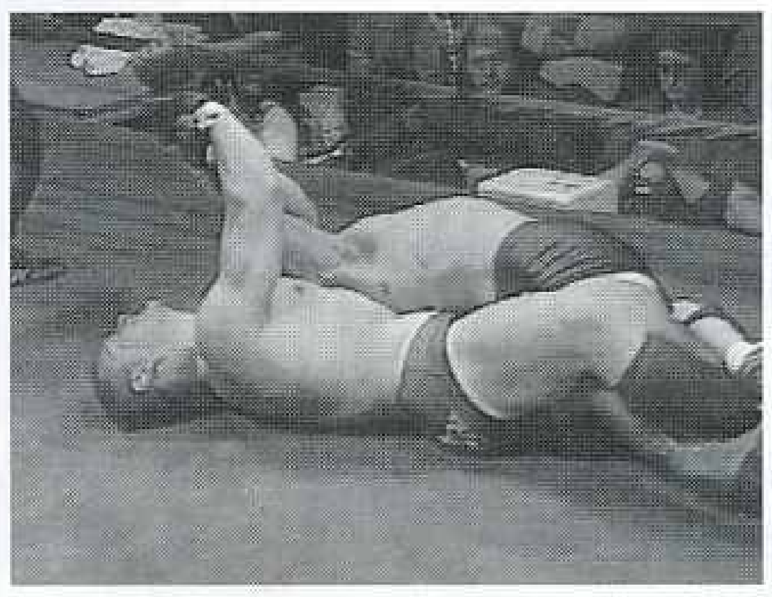
"日本代表"滑川 親友ヘイズマンに完敗



滑川はヘイズマンの胴タックルを差して四つ相撲に持ち込むが、パワーでグラウンドに持ち込まれてしまう。



「試合で力まないことが課題」という滑川。試合前はリラックスしているように見えるが……。



一旦グラウンドに持ち込めばそこはヘイズマンの庭。昨年のKOKでTKと互角に争った関節地獄で滑川を追い込み、最後はアンダーからのアームロックでタップ。滑川は親友に対して非情になりきれなかったか。

田村さんに「頑張ってな」って言われて「ハイ」って応えちゃったよ（笑）（金原）

――アマチュアだと50万から。プロだとそれ相応の100万とか出すらしいんですよ。
金原 うっそぉ！　滑川、100万貰えるってよ。
滑川 お金はほしいですね（微笑）。
金原 滑川、次の試合いつだっけ？
滑川 まだ何も聞いてないです。
金原 しばらく時間あるの？
滑川 はい。
金原 決定！（笑）。
――金原裁定により、山本喧一vs滑川康仁が決定しました……ってホントかよ（笑）。金原さんは出たくないですか？
金原 俺は100万より、KOKで22万ドルを狙うからいいよ（笑）。
――そうなると少なくとも、両国の決勝トーナメントには残らないといけませんよね。
金原 俺さぁ、田村さんがノゲイラに負けた後にね「お疲れさまです」って挨拶したら、「金原、Bブロックで頑張ってな」って言われちゃって、「ハイ」って思わず言っちゃったんだよ（笑）。
――バトンを受け取っちゃった訳ですね（笑）。
金原 まぁ、TKに頑張って貰おうか（笑）。でも両国が外人だけのトーナメントのなっちゃうと本当にまずいからね、頑張りますよ。
――では最後になりますけど、田村さんなんかはよくリングスの改革案とか口にしますけど、金原さんとか滑川さんってリングスへの要求とかはないんですか？
金原 ちょっと興行形態を変えたらいいと思うんだよね。今は2ヶ月に一回だけど、その他に海外が入るから一人が何回も出たりする訳じゃない。それより興行は毎月でもいいから、日本人を分けて出してほしいよね。
――確かにパンクラスや修斗なんかは毎月のようにやっているようで、同じ選手は3・4ヶ月に1度くらいしか出てないですよね。
金原 この間の後楽園は坂田さんがメイン張ったけど、それぞれがメインを張る回し方でやった方がいいと思うんだよね。メイン張れば選手もそれぞれで名前が上がっていくわけだし、おんぶにだっこは出来ないからね。
――金原さんもキングダムくらいからメイン張るようになりましたけど、メインの重責はやはりありますか？
金原 やっぱりお客さんあっての世界だからお客さんに満足して帰って貰わないといけないっていうのが一番あるよね。それに俺なんか、Uインターの若手時代からいつも宮戸さんに「いい試合をしなきゃいけない」って教えられているワケ。そういうのはやっぱり、体のどこかに染み付いてるんじゃないかな。



――宮戸さんは、いい意味で興行というかプロとは何ぞやというのがあるんでしょうね。
金原 Uインター出身の選手ってみんな「面白い試合したい」って言うでしょ。それはそうしなきゃいけないって教えられてきたからだよ。だって俺なんて昔さ、宮戸さんに事務所に呼ばれて、そこでデビューしたばっかの桜庭の試合と僕の試合のビデオを一緒に見せられてさ、「お前の試合のどこが悪いかわかるか」とか言われたことあるからね（笑）。
――ガハハハ！
金原 全然違いなんか分からなかったけどさ（笑）、やっぱそういうのも必要じゃない？
――いや、ホントそうですよね。では今回も結論はリングスには宮戸さんが必要、と（笑）。滑川さんは最後に何か言っておきたいことはありますか？　今日はほとんど喋ってませんけど（笑）。
滑川 僕は田村さんに対して何もありません。メモもありません。それだけです（笑）。
金原 最後に一言だけいい？
――なんですか？
金原 俺、この前30才になったんだよ。でもさぁ、誕生日に自分のホームページ見たら「おめでとう」の書き込みが一言も入ってないんだよ！
――ガハハハハハ！
金原 「プレゼントくれ」とまでは言わないけど、「誕生日おめでとう」ぐらい入ってるだろうと思うワケじゃない。そうしたら何も入ってないもんな。悲しかったよ、30なのに。
――それはもう来年、期待して下さい（笑）。
金原 いや、もういいや。これでファンまで敵に回す覚悟ができたから（笑）。これからはファンに優しい「庶民派レスラー」は返上して、ノーフィアーみたいになるから（笑）。
――ガハハハ！　金髪の金原さんはゼヒ見たいですね（笑）。では、最後に期待通りボヤキが出たところで今回はお開きにしましょう（笑）。

【00年10月10日　前田道場にて収録】

チケット情報

金ちゃん悲願のグランドファイナル進出なるか!?
TK、ヤマヨシの出場も決定！

ワールドメガバトル・オープントーナメント
King of Kings 2000　Bブロック

12月22日（金）大阪府立体育会館
（18：00ゴング）
チケット
RRS ¥20.000　ARS ¥15.000　RS ¥10.000
SS ¥6.000　スタンドS ¥7.000　スタンドA ¥5.000　スタンドB ¥3.000
学生特別優待券A　¥2.000　学生特別優待券B ¥1.000（高校生以下、要学生証）

チケットぴあ、ローソン・チケット、他
プロレス・ショップ等で10月28日（土）
午前10時より一般発売開始

次号予告

誰もやらない事に挑戦する
「紙プロイズム」2大インタビュー

目からウロコのさわりを紹介



ビターゼ・タリエル

Q：グルジアやロシアの選手は空手、レスリング、サンボそれぞれの分野で一流の選手がいるのに技術交流がされないのはなぜなんですか？
A：それは国土に問題があるんだ……

&

ラバザノフ・アフメッド

「私はサンボではなく、ロシア軍主催アルティメット大会のチャンピオンです」



OCTOBER.2000

BEST OF THE スーパーコラム™

暑い夜には熱い闘いがよく似あう!!
涼しい秋にはクールなコラムがよく似あう!!!

★今号のラインナップ★

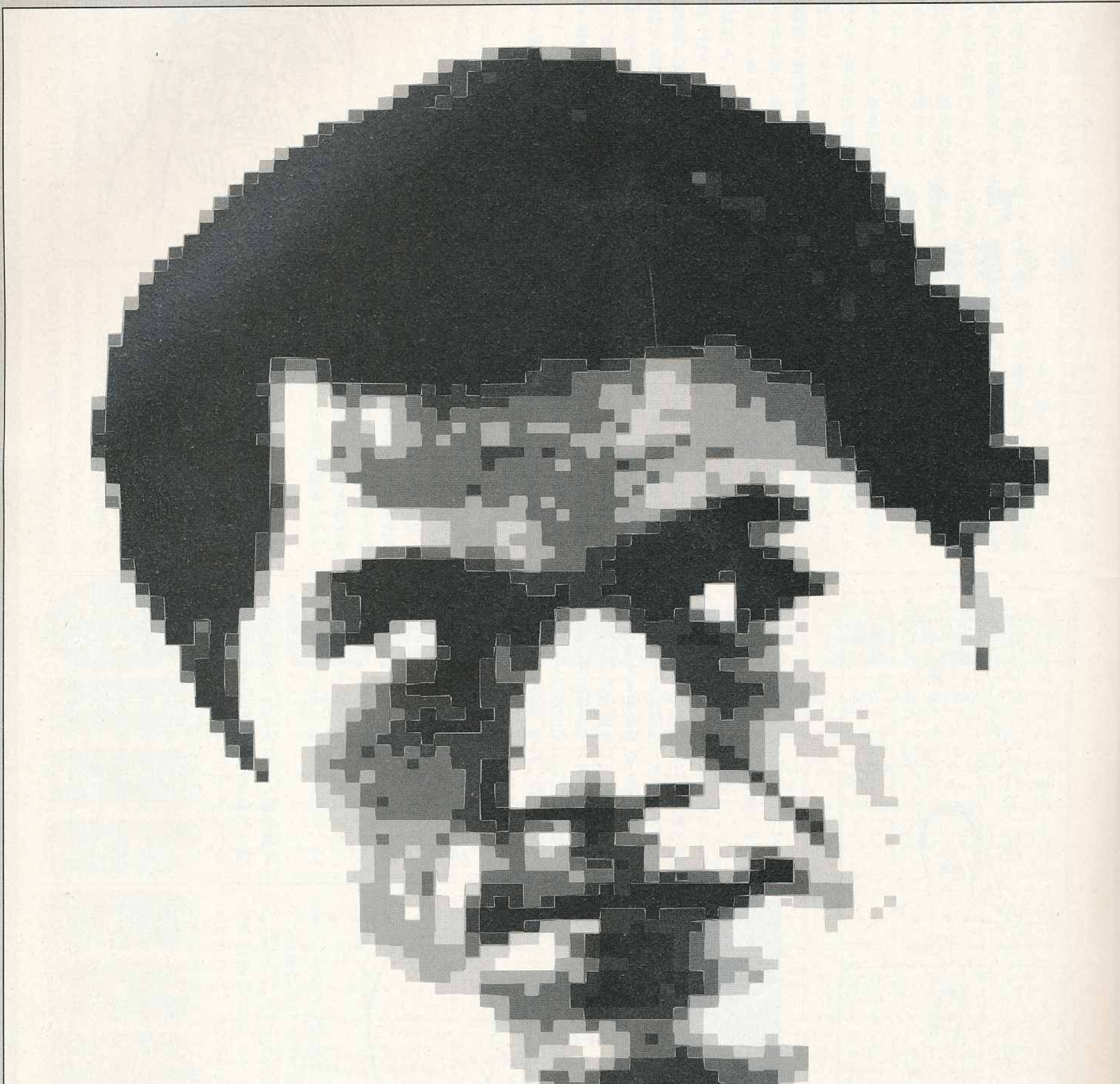
●花くまゆうさく
『リングの汁RADICAL』

●堀越日出夫
『プロレス長者番付』

●堀越日出夫
『凄　頭』(すごたま)

●掟ポルシェ(ロマンポルシェ)
『業☆勝ちます』

●イナズマ★K
『実録 最狂プロレスファン列伝 ATAQUEさん』



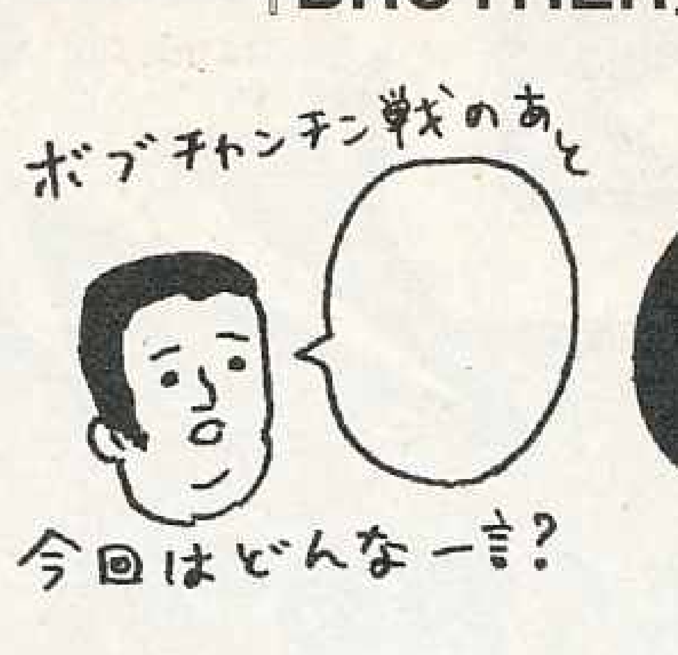
Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

BEST OF THE スパコラム

はやく見たいね

『BROTHER』に『バトル・ロワイアル』に『DOA2』

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL



大注目だった植松vs朝日戦だが、ちと消化不良で残念。しかし、植松に対してあんな足だしてても足関食らわなかった朝日にビックリ！ ふつうなら即刻極められてギブだ、すごいね。試合早々の朝日の顔にもビックリ（恐い）！ 紙プロ前号130ページの高山の顔写真もビックリだ！ 恐すぎるよ！ 小学生か中1ぐらいの時、ゴングの付録でシークの顔どアップポスターがあって、私はそれを家族4人が住むには狭い団地の部屋に貼ったことがあります。そして空手の本に人体の急所図があったので、なぜかシークの顔に顔面の急所をマジックで付けていった。子供なので無我夢中で黒点を付けてく…そして付け終わり我に返った時にはもう遅かった。ただでさえ、家族4人がごはんを食べたりテレビを見たりフトンひいて寝る部屋に貼るには無理があったザ・シークの顔面どアップポスターだったが、その顔に黒点が何個もプラスされ、グロテスク度200％アップとなってしまったのだ。顔中に黒いブツブツだらけのアラブ人の顔面ポスター、それも目をひんむいてこっちを見ている。さすがに自分の手でそのポスターを剥ぎました。子供なりに自主規制ってのを学んだ。



話は高山に戻すが、電車内で最近見かけるポスターで、こっちを見ている女性の顔に「痴漢は犯罪です」とかそんなようなコピーのがあります。しかし、あんなんで利き目あるのだろうか？ ここはやはり高山の出番でしょう。前号130ページの高山のあの恐ろしい顔のポスターを電車内にベタベタ貼れば痴漢だけでなくスリにも利き目あるのではないだろうか。気持ち悪くなる人もいるかもしれないけども……。あと、中央線のホーム下に設置すれば、中央線の自殺も減るのではないか？

引退後、潰しがきかず困るレスラーが多い中、高山はこの顔と体があるので将来は潰しがきくなとしみじみ思ってたら、もう今度ドラマ出るみたいですね。嶋田久作や阿藤海らにライバル出現か？ それに今、花の応援団を作ったら青田赤道は高山がいただきでしょう。

で、10月31日 花くま先生はどっちに行きますか？

今月の31日はいろいろあるね、東京では菊田vsブスタマンチですよ。一方的に安生を倒したブスタマンチに菊田、パンクラスで久びさに燃えるカードだ！ しかし、当日は大阪でプライド11なので、菊田が勝とうが負けようが翌日の新聞は結果しか載らないんでしょうね、かわいそう。

プライド11は、いよいよ谷津登場。いままで十数年なまけていたツケが回ってくるのか？ それともサビついてなんかいないのか？ 菊田vsブスタマンチと共にこの日大注目だ。最近のインタビュー見てると応援したくなる、がんばれ谷津！（ハンセンブッチャー組とのデビューから谷津を見て20年、はじめて谷津を応援する）。

それにしても小川は出場するのか？ 桜庭の相手は誰なのか？ これ書いてる時点では何も発表されてないので判らないが、ジャイアント落合は日本人とやってほしいな、佐藤耕平とか松井大二郎と。佐藤耕平は、プライドやパンクラス上がって名を上げてほしいですよね。入江vs落合もプライド第1試合でやればいいかもしれない、そんで大会終了後に会場外で例の署名運動すればより多く署名集まるかも？



K―1ジャパンがあるように、プライドジャパンもやればいいのにね、佐竹、落合、佐藤、松井、入江、ヤマケン、小路、アレク、大山利幸、他にも重量級はいろいろいる、やりようによってはK―1ジャパンより面白くできんじゃないのかな。桜庭は打撃なしの特別ルールで登場とかね。

入江といえば、こないだビデオで今年のコンバットレスリング全日本大会見たんだけど、入江部屋の今成選手は凄いね。強いし、足関一直線のそのスタイルがいい。なんとなく顔がスポーツ会館のアキレス大王・大久保凡選手に似てたけど、あの手の顔は足関スペシャリストのDNAでも流れているのだろうか？

最後に、修斗の北森リングアナどうもおつかれさまでした。九州でもがんばってください。

北森アナの後任は誰になるのか？ 大木凡人リングアナ復活はあるのか？ そしてデビロックから凡人Tシャツ発売とか!? なわけないか。いずれにせよ明日10月9日下北大会で（これ書いてるのは8日）にハッキリする。さらにサンボ王者はKOKでどうなる!? より強力にプロレスインポにさせてくれる健介のコメントはどんな内容か？ すべては明日だ。



はなくま・ゆうさく■SAW全日本大会は、3回戦敗退でガックシ。村田卓見くんも出場しがんばってました。

タブーに挑戦!! 心の貧乏人にならないための短期集中連載!!!

短期集中連載!!

プロレス長者番付

第4回 '75～'84の長者は誰だ!?

プロレスラーの年収を考える短期集中連載の第4回。今回は一気に10年分のデータを一挙放出！「だ、だ、誰か来てエーー…！」と叫びたくなるほど、アントンは凄かった。表を見れば、アントンのひとり勝ちだ。

有名人データー墓堀人・堀越日出夫

考えてみれば、81～83年は初代タイガーマスクの時代で、新日的にはウハウハだったはずで、ドサクサにまぎれて新間寿まで長者番付に名を連ねるくらいだったのだ。82年なんか、約4千万だ。

しかし、もっとスゴイのはやはり猪木。調べてみて初めて知ったのだが、猪木は格闘技路線に突入して以来、すなわち76年以降、スポーツ界の長者ベスト10の常連だった。77、78年は1億円プレイヤーとしてスポーツ選手として4位（1位はワンちゃんで2位はチョーさん）。

それ以降も、立候補した89年まで毎年長者として君臨しつづけ、83年には自己最高の納税額8263万を記録する。つまり、年収1億数千万ほど。ただ、この金はブラジル方面にそのまま流出していたかもしれないが。

実際、アリ戦でのギャラはギネスに載るほどの金額だったものの、なんで2500万なの？ とはいえ、いかに猪木のスケールが大きかったか、十分理解してもらえるはず。

坂口は81年以降、6年連続ランクインし、93年に復帰した以外はランク外。それでも、馬場を上回ること4回。しかも、86年にはわずかばかりではあるが"猪木越え"を達成している。86年はUWFが乗りこんできた年だが、はて、そんな要因があったか？

藤波は載ったり載らなかったりではあるが、84年に初登場を果たす。ここ10年の年収が約3000万であることを考えると、この時代のほうが儲かってたのだ。

長州は84年にランカーの仲間入りを果たしただけで、意外にも登場したことはない。あの長州が2700万円以下なんて、ちょっと信じられない。ボクもジャパンプロのグッズを買ったのに（でも、今にいたるまでドラゴン・ファン）。

これに対して全日勢はどうか。猪木にこそ数字的に劣るが、馬場はやはり優秀なビジネスマンぶりを遺憾なく発揮している。

当然、この数値はTV番組やCM出演の際のギャラも込みなのを忘れてはならないが、馬場もまた一流なのである。

驚くのは、新日黄金期だった82年、馬場の年収が猪木を超えていたことである。あとは、猪木セミリタイア期までは、馬場は猪木以下であった。

82年ごろって、全日マットに何があったのか？ さっき考えてみたら、ハンセンが全日本に乱入してきたのが81年の年末だから、そう、これは「ハンセン特需」なのだ。

でも、それは馬場さんだけの話。当時の天龍はギャラの低さを訴えること頻りだったが、それが証明された。

表の鶴田と天龍のギャラに注目してほしい。鶴田は81年に初登場した（推定4千万弱）ほどスター扱いであったが、天龍は全日時代にはついぞ登場したことはなかったのだ。これでは天龍が不満を示すのもムリはない。では、来月は特別編をお送りします。

75'～84' ランキング	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
アントニオ猪木	4,341万円 (8,000万円)	2,548万円 (5,000万円)	5,209万円 (9,200万円)	5,875万円 (10,000万円)	6,379万円 (11,000万円)	6,498万円 (12,000万円)	4,910万円 (8,900万円)	3,730万円 (7,200万円)	8,263万円 (13,800万円)	5,866万円 (9,800万円)
坂口征二	••••	••••	••••	••••	••••	••••	3,587万円 (6,800万円)	2,208万円 (4,800万円)	1,727万円 (4,100万円)	2,486万円 (4,900万円)
藤波辰爾	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	1,437万円 (3,600万円)
長州力	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	••••	1,159万円 (3,000万円)
新間寿	••••	••••	••••	••••	••••	••••	1,348万円 (3,500万円)	1,722万円 (4,100万円)	••••	••••
ジャイアント馬場	••••	2,083万円 (4,300万円)	2,167万円 (4,400万円)	••••	••••	••••	3,231万円 (6,400万円)	4,063万円 (7,600万円)	1,337万円 (3,500万円)	1,197万円 (3,000万円)
ジャンボ鶴田	••••	••••	••••	••••	••••	••••	1,457万円 (3,700万円)	1,129万円 (2,900万円)	••••	••••

※（　）内はかなりラフな推定年収。

有名人学歴KGB・堀越日出夫の

凄頭

偏差値を通してプロレスを見ろ！

先日、新宿地下街でホームレス同士のケンカを目撃。観戦してると、プロレス技のオンパレード！　ヘッドバット、三沢式エルボー、そしてフィニッシュはなんと武藤式フラッシュニング・エルボー!!　彼、強いよ。

プロレスラー及び関係者の学歴を通して、プロレスを考える当連載の第5回目。新日本、全日本＋ノア、SWS、UWF系と続けてきたが、今月は女子プロ編をお贈りしたい。

前回までに判明したことに、「なーんだ、プロレスラーって意外と学歴があるじゃないのよ！」というものがあった。なにしろ、新日も全日（分裂前）も大学経験者が40％以上もいたのだから、大したモノだ。

一般にある、「スポーツ選手＝頭わるいんじゃないの？」というコンセンサスを老舗2団体は、必死になって引っぺがそうとしていたのかもしれない。

しかーし！　そんな涙ぐましい両団体の経営努力の足をぐいぐい引っ張らん勢いなのが、女子プロ各団体なのであった。

今回調べのついた範囲でいうと、大学のキャンパスライフをマン喫したのはたーったの8名！

この「8」を、今まで女子プロレスラーに一瞬でもなったことのあるすべての選手の数で割ると、多分、円周率くらいの値になるのではないだろうか？

しかも、レヴェルが低いよ！

でも、25才定年制という松永イズムが永年あったため、それには早めに入門するのが得策に決まってるわけで、だから、大学なんかに行ってるヒマなんぞありゃしなかったのだ、女子は。

さて、高校編を一望すると2秒で気がつくのは、中退者の病的なまでの多さである。

その数なんと40人中14人。校名不明者の中にも白鳥智香子、尾崎魔弓、玉田凛映、半田美希、RIE、三田英津子、下田美馬などなど、無尽蔵の中退者を誇っている。

女子プロを目指すものにとっては「プロレスＶ学歴」という不等式が完全に成り立っていると思われるので、これはこれで情熱のほとばしりというか。大仁田でなくとも、この生き方は誰も否定せんよ。

昨今、「高校中退者激増」が社会問題化しているが、そんなもん、とっくに女子プロレスラーが実現させていた。いつもプロレスが世間よりも早いことがここでも証明されたのだ。さすがプロレス！　って、あんまウレシくしくないけど。

そして、中卒者。表に挙げた以外にも里村明衣子とかボリショイ・キッドとかジャガー横田とか、こっちも無尽蔵。

わが国の高校進学率は96・9％であるからして、やはり女子プロ界というのは極めて特殊な世界なのである。

そういえば、数年前に某女子プロ団体が経営する「S●N族」に行ったことがある。この店では女子プロレスラーの卵がウェイトレスを勤めていることで知られている。

入店すると、そのウェイトレスに席を案内されるわけだが、彼女の説明が本官にはちっとも理解できなかったのだ。どうやら、メニューによって席が違うということを彼女はアッピールしたかったようなのだが、その時はぜんぜん理解できなかった。

見るからに中学を卒業したての彼女の国語力、意志伝達能力はウェイトレスに期待されているレヴェルのはるか下をいってたことだけは間違いない、残念ながら。その日、なんだかある意味で女子プロ界の縮図を見たような気がしたのだが、これは言い過ぎか？

さて、恒例の同窓生情報。

ブル中野の板橋区立成増小（のちに転校）は石橋貴明の母校。そのブルは、ムーン章子（とっくに引退）と同じ川口市立芝東中の卒業生である。

風間ルミとチャパリータASARIはおんなじ二階堂高校（世田谷区）。体操の強豪として知られる同校は、他にも水沢アキ、宍戸留美（元アイドルで現声優）も輩出している。

尾崎魔弓と高橋奈苗は奇しくも蕨市立塚越小のOG同士。お互いに、幼少時のヒミツを握り合ってる可能性がある。

天田麗文（引退）とアイドルの橘実里（ZONE所属）は、これまた奇しくも同じ中学。桐生市立東中学（群馬）だ。

目黒区立東山中の同窓生は、泉谷しげると宮崎有妃。宮崎ってまだやってるんだっけ？　辞めたんだっけか？（まだ現役バリバリです・編集部注）。ま、とにもかくにも珍妙なる組み合わせである。

長谷川咲恵と沼尾マキエ（って誰だっけ？）は、ともに宇都宮女子商業高校（栃木）の同窓生。

おばっち飯塚と森嶋猛（ノア）は東京学館浦安高校（千葉）。ヤクルトの石井一久投手もそう。

井上貴子と元アイドル＝木内美歩はおなじ取手市立戸頭東小。両者の生年月日を調べてみると、貴子が6年生の時に木内が1年生だったことが判明。プロレス界とアイドル界が意外な線でつながった。

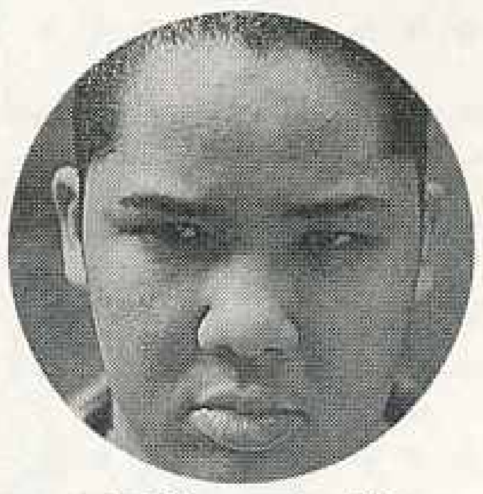
では、今月はここまで。学歴ネタはまだまだあるので、来月も続きます。

通信簿の先生のコメントが気になる女子レスラーたち…ガンバリましょう

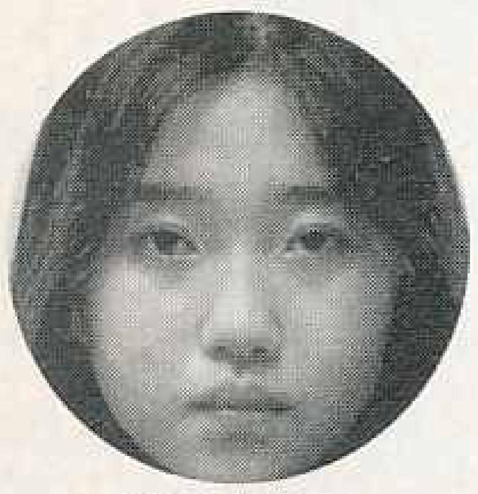
凄頭な女たち



ブル中野
中学入学当初は「勉強は中の上くらい」（『金網の青春』より）だったが、タバコ、シンナーを自在に操るほどの不良に転身。



アジャコング
一時期は獣医を目指すものの、「相変わらずほとんど勉強することはなかった」（『強くなりたい』より）との発言がすべてだろう。



広田さくら
中学時代は下から10番以内を常にキープする安定した実力の持ち主だったが、一念発起して成績も急上昇。２ケタ台にまで上がった。

ほりこし・ひでお■西武新宿線・中井駅付近に住んでた頃、キラー・カンちゃんを頻繁に目撃。黒のジャージ上下を粋に着こなすカンちゃんは、ママチャリに乗って買い出しに出かけるのが日課だったようで、デカイ体躯を丸めるカンちゃんの背中は寂しそうだった。

女子プロレスは近未来の日本社会か!?

あまりにも40台が多すぎ!! 意外にもKAORUがトップ

高卒編

★偏差値ランキング★ ー都内近郊ー

60

61 KAORU➡順天高（中退）

59 イーグル沢井➡目白学園高

57 小松崎由美子➡茨城県立鉾田一高

54 バイソン木村➡目黒学園女子高（現多摩大目黒高）
おばっち飯塚➡東京学館浦安高
小泉かおり➡埼玉栄高

53 尾崎魔弓➡北豊島高（中退）

51 穂積詩子➡藤村女子高

50 ダンプ松本➡大宮開成高

50

49 山田敏代➡南陵高（中退）

47 Cooga➡入間向陽高（中退）

46 キューティー鈴木➡川口女子高（現川口総合高、中退）

43 ライオネス飛鳥➡蓮田高（中退）
北斗晶➡神田女学園高（中退）

42 風間ルミ➡日本女子体育大二階堂高
チャパリータASARI➡日本女子体育大二階堂高
工藤めぐみ➡千葉県立白井高（中退）

40 神取忍➡横浜学園高

39 倉垣翼➡千葉県立流山南高
中野知陽呂➡武蔵野高（東京）

40

38 プラム麻里子➡大森東高

★出身校一覧★

?井上京子➡山形城北女子高
?植松寿絵➡富士宮農業高・食品流通
?大森ゆかり➡創政高
?カルロス天野➡清水市立商業高
?キャンディー奥津➡第一女子商業高（広島・中退）
?コンバット豊田➡和歌山工業高
?ジャッキー佐藤➡神奈川県立商工高（中退）
?高橋美香➡宇都宮短大付属高（中退）
?豊田真奈美➡益田商業高
?永友加奈子➡函館女子商業高
?西脇充子➡岐阜県立揖斐高（中退）
?沼尾マキエ➡宇都宮女子商業高
?長谷川咲恵➡宇都宮女子商業高
?ハーレー斉藤➡焼津高（中退）
?藤井巳幸➡三重県立四日市商業高
?福岡晶➡秋田和洋女子高
?広田さくら➡愛知県立瀬戸高→安城農林高（中退）
?八樹広弓➡福島県立東白川農商高
?輝優優➡泉州高

寸評 久々に出た『デラプロ』初夏号によれば、広田さくらの人生に女子プロレスラーが集約される部分があることが分かる。瀬戸高に行ったはいいが、なんもすることがなく1学期で中退。その後、獣医か動物園の飼育係をこころざし、農林高校に進むも、2ヶ月でやめる。一見、行き当たりばったりのドタバタ半生だが、その行動力とストレートさは評価に値するはず。ただ単に、勉強に自信がないから、他の道を目指した結果、「プロレス」が浮上してきたわけではない、と弁護しておこう。

どうでもいいけど ZAP磯崎どこ行った？

大卒編

★偏差値ランキング★

60

54 清水真理子➡東洋大・文・英米文

50 八木淳子➡帝京大（学部不明）
シャーク土屋➡多摩美術大・美術

50

49 日向あずみ➡十文字学園女子短大（学科不明）
門恵美子➡大阪芸術大・芸術・写真

43 坂井澄江➡昭和学院短大

41 ZAP磯崎➡国際武道大・体育

? マッハ文朱➡南カリフォルニア大・経済

40

寸評 おお、神よ。なぜ女子プロレスラーには大卒者が少ないのでしょう……、と教会でひざまずきたくなるような惨憺たるランキングである。

でも、大卒者はフツーに就職すればいいわけで、女子プロのファンになることはあるかもしれないが、レスラーになりたいなんて、一瞬も思ったことはないはず。だから、これでよし。

八木淳子とZAP磯崎をのぞいては、「女子プロに憧れはあったけど、なんだかズルズルきちゃって、自分より年下のレスラーが活躍してる場面を見て、プロレスへの思いが大学に入ってから一気に爆発した」というタイプなのだろうか、アマレスやってましたとか、オリンピック出ましたとかいう人材が決定的に不足している。

だから、女子も男子にならって、高校・大学の柔道部やアマレス部を視察し、スカウティング活動に精を出したほうがよいのではないだろうか。

以上、余計なおせっかいでした。

マット界に中卒の嵐、吹き荒れる! 来るべき21世紀、この流れはもう誰にも止められないのだろうか……

中卒編

★出身校一覧★

アジャ・コング➡昭島市立多摩辺中
ダイナマイト関西➡京都市立勧修中
立野記代➡足利市立一中
長与千種➡大村市立玖島中
浜田文子➡豊島区立十中
府川唯未➡横須賀市立衣笠中
ブル中野➡川口市立芝東中
その他、多数

寸評 左に挙げたのは、学校名が判明しているレスラー。つまり、判然としない皆さんはまだゴロゴロしている。

なぜか。なぜ中卒で一気にプロレス界に足を踏み込むのか。それは、アジャの自伝に求めることができる。

たまたま近所にきた全女を観戦して、アジャはひらめいた。あたしがやりたいのはこれだ、と。そして、母親に告げた。「獣医やめて女子プロやるわ」と。

その後、受験勉強などは一切せず、級友がシャーペンを持ってる間、ダンベルを持っていたアジャ。この思い入れ（=思い込み）が王者を生んだ。

その一方、「25才定年制」が形骸化してきた影響もあるのか、平成に突入してからは、「中卒即女子プロ」という例は少なくなったような気もする。プロレスの伝統=中卒の火を消すな！

男の男による男のためのコラム



男気啓豪バンド『ロマンポルシェ』の説教担当掟ポルシェ

男☆勝ちます

新宿二丁目スペシャルの巻

新宿二丁目。男と男が一本のポッキーを両端から食べっこしたりする姿がチラホラ見受けられる野郎供のハートフル愛ランド。そんなイヴなきエデンで繰り広げられる壮大なヨタ物語が『新宿二丁目劇場』！　全身の力が脱け落ちるチマチマした仕掛けだらけ（「気が付けば王座ベルトが質入されてる」、「火炎殺法の練習中に誤ってガソリンを飲み込んで気持ち悪くなり背中をさすってもらう」等）の二丁目劇場の張本人、IWAジャパン浅野起洲社長とは何者か？　そりゃあ二丁目の人だし柳腰だし当然……ってオマエらわかったようなクチきいてんじゃねエ!!　おなじみ『なのヨ節』の中に秘めれれた特殊男気チラリズムにビンビンこなけりゃ男じゃないぜ！

〝尻の穴の大きい男〟掟ポルシェが、敢えてアナルをおちょぼ口にひきしめて送る浅野社長インタビュー！　読めコラ～!!

★

掟　ロマンポルシェ。というのは、「男とは何か？」「男はどう生きるべきか？」を活動のテーマにしているバンドなんですが、俺から見て浅野社長はある意味非常に「男だな」と思うんですよ。

浅野　アラッ！　うれしいこといってくれんじゃな～い。

掟　団体（IWA）が傾いた時、手持ちの不動産や店舗を惜しげもなくツブしてまで選手を喰わせようとしましたよね。プロレスが本業なんだから当り前なのかもしれないけど、ああいうことって本当に男気がなけりゃ出来ないですよ！

浅野　そりゃあ自分のところに来た人間は、バカでもなんでもかわいいじゃない？　面倒見られるうちは見ますヨ。ボクにはまだ『花膳』（浅野社長が現在唯一経営する定食屋）があるからネ。

掟　IWA最後の砦の『花膳』ですね。けっこうお客さん入ってるみたいですけど、選手の方々も食べに来るんですか？

浅野　一切来ないです。そういうの嫌だから（キッパリ）。

掟　え！　そうなんですか？　俺はまたてっきりビートたけしがたけし軍団の食事の面倒を見る為にやってた『北野屋』みたいなもんかと思ってましたよ。

浅野　全然！　来たらキッチリ金払ってもらうよ～。自分んところの選手から金は取りづらいけど、こっちの商売は別！

掟　ターザン後藤は食い逃げしてましたけどね（笑）。

浅野　名前は出さないけど、某団体の●●なんて、この辺でボクを見つけると追っかけくんだよね～。あいつタダ食いしようと思ってニコヤカにこっちにやってくんの。図々しいよね、まったく（笑）。

掟　他団体の選手には鬼になりきれないと。で、本業のIWAについてなんですが、俺自身、旗揚げ当初はもう死ぬほど見てましたよ！　皆勤賞ってぐらい。なんせあの頃のIWAって野次り甲斐ありましたからね～。

浅野　何言ってもオッケーだからね！

掟　ええ。でも何言っても大丈夫な状況ってそうなかなか作れたもんじゃないですよね。当時、中牧（昭二）は俺のヒーローでしたよ。本当に苦しそうな表情のトペ（通称・ジェットマグロ）には中年の悲哀があってタマんなかったなぁ。

アラッ!?　ボクは今でもプロレスにトキメキっぱなしですヨォ!!（浅野社長）

浅野　中牧とは今でもたまに電話で話すけどね。アイツも大仁田（厚）とか間近で見て来たはずなのに、どうすればもっと光るか考えてないから、もったいないねえ。

掟　荒谷（信孝）がエースで、前座には宮川道場の得体の知れない空手家がいて。言葉は悪いですが、あの頃のうさん臭さはプロレスの原風景を見てるようでトキメいちゃいましたね！

浅野　トキメいちゃったぁ？　アラ、ボクは今もプロレスにトキメキっぱなしですよォ!!（またも愛苦しい笑顔）

掟　……で、第一期IWAは川崎球場でピークを迎える訳ですよね。

浅野　あの時は最高だったね……。

掟　白馬に乗って入場するテリー・ファンクと、若きデスマッチ王カクタス・ジャックがメインなんて今考えても贅沢でしたね。時限爆弾有刺鉄線爆破ボードダブルヘルデスマッチでしたっけ？　私事でなんですけど、あの日の前日に湘南に遊びに行って、地元のヤンキー連中にボコボコにされまして（笑）。顔面から血を流しながら、傷口も縫わずに見てたんであの日の試合はよく覚えてますよ。

浅野　アラ、大変だったね。

掟　いえいえ、病院行くの後回しにしてまで観に行って良かったですよ。あの試合時限爆弾の方がポスッって感じで不発気味だったんで、テリーがそれを察して有刺鉄線爆破ボードに自分から突っ込んでいったと、テリー凄えな、プロだなって思いましたよ！

浅野　消防法の規定よりも爆薬多くしたらそりゃあハデなんだけど、ボクはそういうこと出来ない人なんですよ。だっていくらデスマッチでも本当に死なれたらダメでしょ？　そこをうまいことカバーしてくれたあの二人には感謝してる。ギャラは高いけどね（笑）。

掟　その昔は全日の東北興行をプロモートしてた浅野社長からすれば、やはり外人呼んでナンボってとこありますか？

浅野　確かに、そうだね。来年からはまた外人大勢呼んでドカーンと行きたいけどォ。本来ボクの経営哲学では、やって損するところを、あまりやらずにトントンでいって5年、10年もたそうって考えだから。細く長くが本当は一番。そしてお金はキレイに。払うものは払う、貰うものは貰う。そこは馬場さん方式



新宿2丁目劇場史上最もショッキングだったのが、浅野社長が全裸で段ボールに詰められて会場に送られてきた事件だろう。20年以上も実績があるプロモーターがここまでするか？

BEST OF THE スパコラム

だからね。
掟　外人呼ぶのも大事だが、自分んところで選手育ててやっていくのが本筋だと。
浅野　自分のところで選手を育てないで、引き抜きばっかりしてるところもあるけど、ああいうのはダメ！
掟　ダハハ！　選手を育てるどころか、今や浅野社長ご自身がすっかり試合の要のレスラーになっちゃいましたよね。
浅野　いえいえ、ボクは素人だから。
掟　でも、浅野社長が出ないともうメインにならないじゃないですか（笑）。練習とか相当してるんじゃないですか。
浅野　そんなヒマありませんよ（笑）。『花膳』の仕込みで市場に仕入れにも行かなきゃいけないしさ～。大会の当日だってプロレスの仕事に行く前に、ちゃんと仕込みやってんだから！
掟　『花膳』の仕込みが終わってから、ダンボールに詰められたり、海に飛び込んだり、バイクに跳ねられたりしてると（笑）。
浅野　そりゃそうですよ。ボク、働くのが本当に好きだから！　それに『花膳』が繁盛すれば、またプロレスにお金かけられるんだし。どっちもお仕事！
掟　商売人の鏡ですね（笑）。
浅野　そう！　客商売はお客さん来てくれてナンボだもの。誠意を持って一生懸命仕事すんのは何事も同じね。胸張ってるばかりじゃ誰も付いて来ないよ、○○さんみたいにさぁ～（笑）。
掟　ダハハ！
浅野　威張ってばかりで仕事は何もしないって噂ですからね（笑）。ボクなんか、もう働きすぎで腰が痛いもの。サウナに毎日行って汗流すのが健康法なんだよねぇ。疲れが取れるんだ、コレが！
掟　仕事で汗流した後は、サウナで汗流すと。男ですね。ロマンポルシェ。は今度ビデオを出すんですが、各界の男らしい方々に〝男とは何か〟について語ってもらった映像を曲間に挿入するんですよ。真樹日佐夫先生、ビル・ロビンソン、宮戸優光さんですとか。で、浅野社長にもぜひお聞きしたいんですが。
浅野　宮戸ってUインターの？
掟　はい。今はスネークピット・ジャパンというジムをやられてます。毎日体張って、生徒の皆さんに教えてるみたいですよ。
浅野　彼いくつになったの？　もう結婚しちゃった？
掟　まだ30代半ばじゃないですかね。確か独身だったと思いますよ。
浅野　良かったら、ウチのリングに上がるように言っといてよ（笑）。
掟　U系と浅野社長の邂逅ですか！　引退したって本人言ってましたけど、面白そうなんで言っておきます（笑）。
浅野　男とは何か？　ねぇ……う～ん、まぁ一筋ってことじゃない？　プロレスも仕事も飽きっぽい奴はダメ。耐えに耐えて、これと決めたら最後まで貫くのが男ですよ。フリーターみたいに、アッチふらふらコッチふらふらじゃあ通用しないよね。フリーターじゃ銀行は金貸してくれないもん！　ボクはこのままプロレス一筋！　ガムシャラに働いて50歳までに武道館で新宿二丁目劇場やるのがボクの夢ですから！　みてらっしゃい！



10月9日、みちのくプロレスの新宿厚生年金会館大会では、なんと生歌まで披露した社長。ジャイアンのリサイタルよりも激しいダミ声でシャウト！　コスプレもハマっている。テーマは当然、『素敵な16歳』だ！



浅野起洲社長と猛牛CLUBのバッファロー太野の歌声を収録した『すてきな16歳／24000のキス』はユニバーサルから発売中！　っていうか廃盤中？



男気啓蒙バンド・ロマンポルシェの説教が満載のCD『暴力大将』は絶賛発売中！　最新作『男峠』も絶賛発売中！　今後は浅野社長ともレーベルメイトだ！

男とは何か？ う～ん、一途ってことじゃない？ （浅野社長）

★

かくして、俺の浅野社長インタビューは終わった。本当は正味4万字程度、気の遠くなりそうなほどの〝なのヨ節〟が延々と繰り返されたんだが、8割方の話が経営理念か露骨な暴露話のどちらかなため、大幅カット。社長！　頼むからもうちょっと書ける話してくれよ！

10月13日、後楽園ホールに来たのはプレスリーではなく、大方の予想通りホンキー・トンク・マンだった……。花束贈呈にやってきたユニバーサルミュージックの部長に対し「ね！　そっくりでしょ？」を連発する浅野社長。本人じゃねぇのかよ！　と、誰もツッコんだりしないのは社長の人柄故か。これが新日なら金返せコール、ここが両国なら暴動確実だが、IWAの客はおおらかなようだ。

そして浅野社長と太いパイプでブッスリとつながった俺達ロマンポルシェ。の12月3日ディファ有明大会への出演が決定！　同じユニバーサルの釜の飯を喰う者として友情参戦（もちろんミュージシャンとして）だ！　社長、一肌脱がせてもらいます!!

【'00年10月4日、新宿二丁目・珈琲館にて収録】

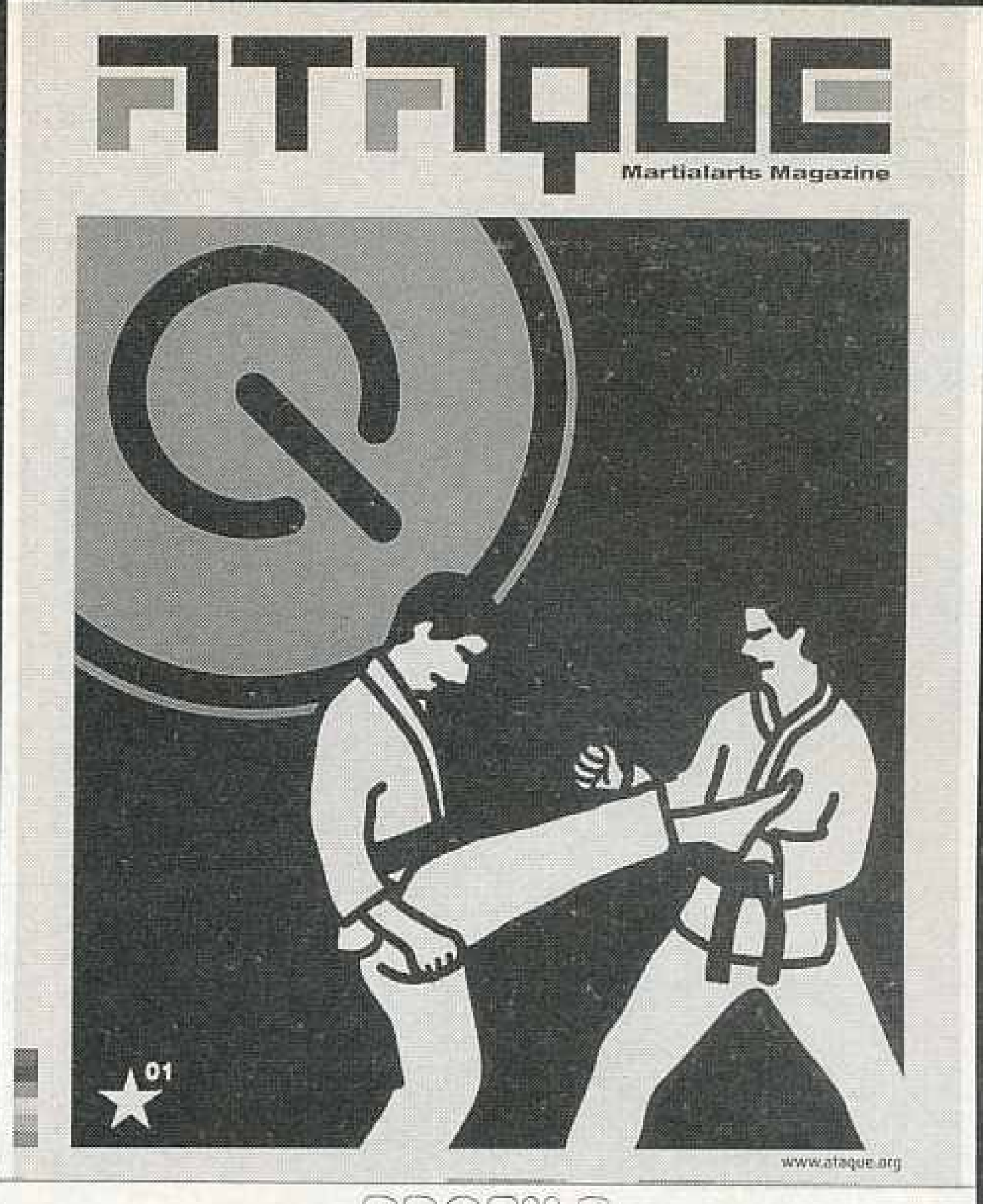


交渉成立！　で、満面の笑みを浮かべる社長。

BEST OF THE スパコラム

実録 格闘技が好きな人も、この指止まれ!!
最狂格闘技ファン列伝

構成/イナズマ★K



PROFILE

No.9 『ATAQUE』編集長
川端正吾

プーチン大統領サンビスト話やヒクソンが87年の西武の広告に出てたとか、T2000胴着などなど、数々のナイス・スクープを展開している『relax』誌の格闘コーナー担当が川端サンだ。横浜生まれの25歳。他にも「ATAQUEチームで前回のコンテンダーズの大会パンフレットも製作しました。11月大会のパンフも現在製作中です。あと格闘技系では「ターザン」別冊の『格闘技BOOK闘うココロ闘うカラダ』ってのもやりました」。TKのおかんも連載してる『relax』、当然ながら『紙プロ』読者も必読だ!さて今回取り上げた『ATAQUE』はどこで売ってるの? 「ヴァキュームレコーズ各店、ワールドスポーツプラザ各店、タワーレコード渋谷店、リブロ池袋店です。通販はいまのところ行ってません」とのこと。とりあえずお店に行きましょう。じゃあ最後に、今後の予定を教えて下さい。「専用ファイルも遂に完成。製作中の2号目と同時に11月のコンテンダーズ・ディファ有明大会から販売予定! あと『ATAQUE』WEBもそろそろ稼動, <www.ataque.org>です!」

知る人ぞ知るマーシャルアーツ・マガジン『ATAQUE』。その筋では人伝いで話題になっているこの本(ボクは北野のアツシくんから、アツシ君は水道橋博士から聞いたそうだ)。ヴァーリ・トゥードや修斗の影響でこれだけ寝技の需要(!?)があるのに、寝技系格闘技の本はほぼ皆無。もっとゴロゴロしようよ! もっと世界に寝技本を!って勢いです。そんな熱い御要望にバッチリ答えちゃうのがこの『ATAQUE』。いわゆる格闘技専門誌と趣は違い、その大半はブラジリアン柔術をヴィジュアル重視で紹介している。嫌味のないおしゃれ感と細かい資料性の融合が素晴しい。柔術系の選手が胴着で花道を歩くのは理想的な入場シーンの一つ。あのカッコ良さのポイントはパッチいっぱい貼りまくりの胴着だ。この本が偉いのはブラジルのキモノブランドのエンブレムを日本で初めて正しくカッコ良く紹介しているとこだ(しかも有名無名69コも!)。カーウソン・グレイシー派の特集や柔術の基本ルール、グレイシー一族ファミリーツリーなど、細かさとポップさのバランスも抜群。『打倒グレイシー!』一直線なキッズも、ここら辺からブラジリアン柔術の見方を変えてもいいんじゃないでしょうか。では、エディターの川端正吾サンに『ATAQUE』を作るきっかけから聞いてみよう。

今回はちょっとプロレスと違うけど、カッコいい雑誌なので紹介します!!

「ある格闘技の大会で全試合終了後、女のコが誰もいないリングのマットの匂いをかいでるんですよっ! なんだぁ～と思ったら選手の汗の匂いをチェックしてるみたいで(笑)。格闘技のギャルファンもここまできたかと衝撃を受けまして(笑)。女のコって選手がどんな服着てたとか、ケツのカタチはどうだとか、耳がすごいカタチしてるとか、どーでもいいディテールを気にしてたりして。そーゆー見方ってのもおもしろいなぁって。試合以外の格闘技にまつわるエトセトラをつめこんだ女性誌を作ったらどうかな、なんて始まったんです。だから『ATAQUE』は格闘技誌史上初の女性誌なんですよ(笑)」

なんとびっくり以外なコンセプト(笑)。ページが切り離せるファイル形式も面白い。

「シート ごとに話題が完結するような構成にしてあります。ホルダーにどんどん追加していく作業って楽しくて。デザイナーさんとファイルを使った格闘技の本を作ろうってことになったのがきっかけですね」

ではプロレスなんていかがなもんでしょうか。

「あんま観てませんでした。たまたま周りにプロレス好きのトモダチとかいなかっただけだと思います。幼い時に通ってこなかったもので、プロレスのコクみたいなもんがわかんないんですよ。ほんと、すみません」

あら残念。でも、プロレスファンにもばっちりストライクゾーンです。そのかわりモー娘。最狂好きだそうです。では格闘技観戦歴を教えて!

「ベストバウトは修斗のエンセンvsズール戦。キルキル野蛮人時代のエンセンと伝説のおじいちゃんの衝撃的かつ一方的な試合をライヴで見てしまって(笑)、それ以来修斗三昧です。よく行くのは修斗とシュートボクシング。好きな選手はマッハ速人。もう強いだけじゃなくて、存在自体、人間力みたいのがすごいから。常人の理解を超えたとほうもないでっかさを感じます。エンセンは負け試合になっても必ず名勝負をしてくれるから大好きです。三島☆ド根性ノ助は身のこなしとかツラとかがブラジルっぽくて好き。あと、中井祐樹選手は日本人なら皆リスペクトすべき人。ブラジル人ならシャリオンとかソゲイラ(でっかいのもちっさいのも)とか、ルタのカカレコとかかな」

ではブラジリアン柔術の魅力をプロレスファンにも教えてあげちゃってください。

「もちろん、今の総合格闘技界を支える技術体系もすばらしいですけど。胴着のデコレーションっぷりでしょう。派手派手カスタム胴着をキモノなんて呼んじゃうトンチンカンなミクスチャー感がステキです。『ATAQUE』でも調子にのってキモノをデコるパッチを作ったりしました」

巷でウワサのアツーシー柔術(浅草キッドのホームページ参照)のメンバーとして、ボクもそのパッチ欲しいッス。さて、プロレス&格闘技が音楽やファッションとリンクしていくことに、川端サンはどう思いますか。

「若いお客さんがたくさん集まっていいですよね。Tシャツとかすごいですもんね。でも、最近はおしゃれもいいけど……なんて気も。選手の顔面フォトプリントがドーンとフロントに、なんてベタなTシャツとかもそろそろ恋しい季節なのかなと(笑)」

なるほど、じゃあ今度の高田延彦Tシャツなんて川端さんにオススメかも。もちろん、この『ATAQUE』はプロレスファンにもオススメです。



このようにデザインもカッコよく実際切り離せるのがミソ。プロレスとリンクしてる話も多いので必読ですよ、みなさん!!

…たのか!?

"ガイジン"レスラーがいなけりゃプロレスじゃない!

"純プロレス"復興への近道は ズバリ 外人天国にすることである!!



本誌しかできない(つーか、やらない?)『世界のプロレス』が面白い理由

上は『世界のプロレス～NWAジャパン・ワールド・タッグリーグ戦』のパンフレットです。人数だけでいえば、新日のG-1タッグは言うに及ばず、全日の最強タッグをも凌駕する外人レスラーである。これぞ『世界のプロレス』の面目躍如! "迷わず行けよ、行けばわかるさ" と9・23に開幕したAブロック全6戦だったが、観客数は相変わらずの寂しい入り。しかしながら、10数人もの世界の野郎共は「んなこたぁ知ったこっちゃねえ!」とばかりに、熱い肉弾戦を繰り広げたのだ。諸事情によりBブロックは延期となってしまったが、世紀末の外人天国団体、『世界のプロレス』炎上ーッ!

構成/チョロ

知る人
『ATAQU
るこの本
君は水道
トゥード
あるのに

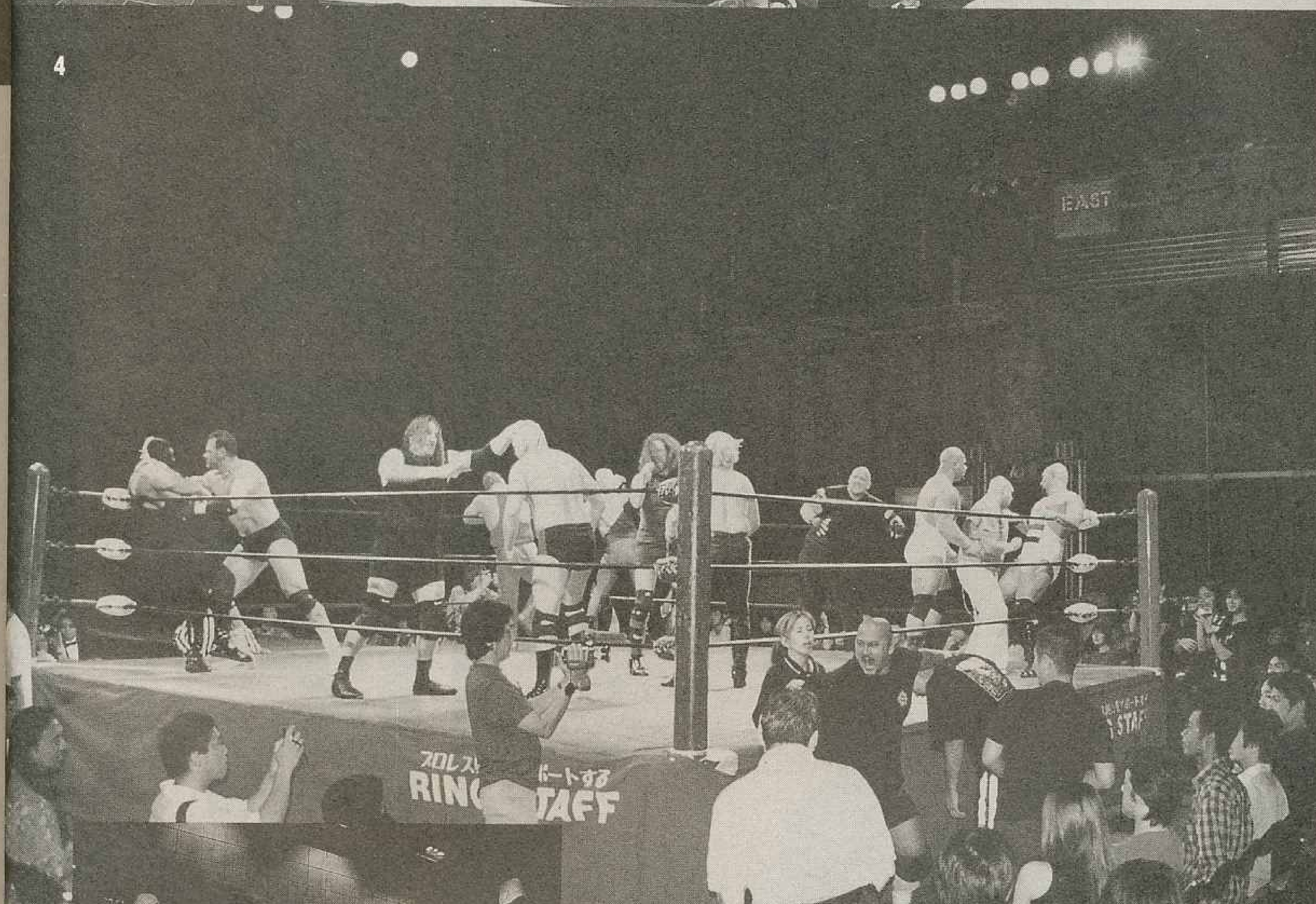
ATAQUE
Martialarts Magazine

実録

デカくて、強くて、胡散臭いレスラーが大集結！『セカプロ』がいまヤバイ!!



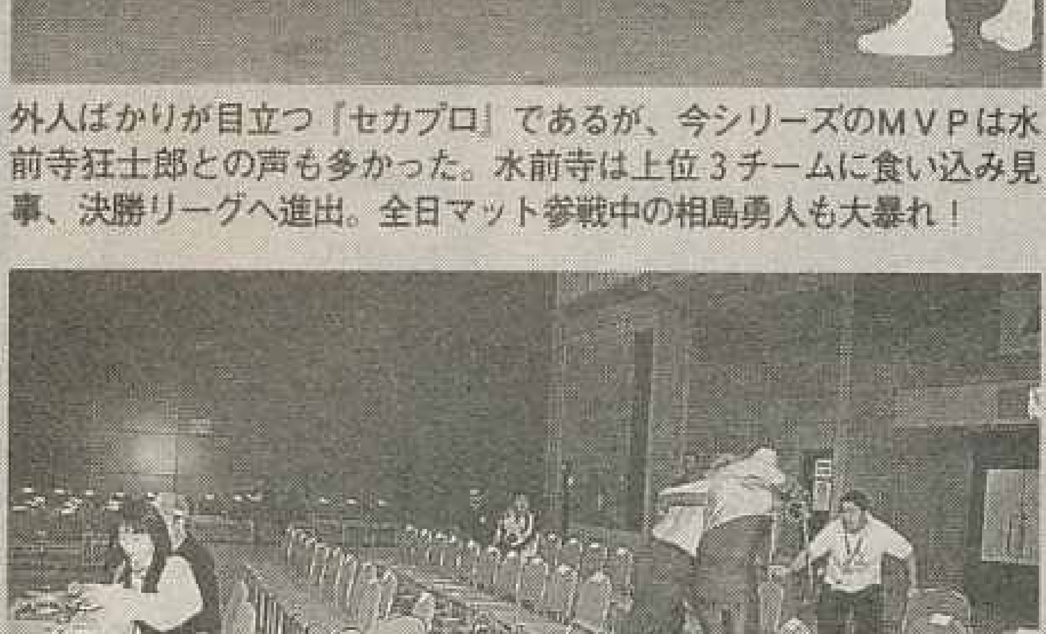




❶開幕前、都内の一流ホテルで高級料理がズラリと並ぶ豪華な記者会見を行った『セカプロ』。しかし取材陣はわずか5名ほど。それでも無駄に豪華をウリにしている『セカプロ』らしく、KKKを引き連れロッテリアンが乱入、さらには出席予定のなかったブラック・コークスも乱入するなど大騒ぎ❷今シリーズを仕切ったのがKKKを率いるロッテリアン。勝手に開会宣言をし、リングアナまで務めたのだ。最終戦での決勝リーグ順位決定マッチでは敗れた相島組を勝者とコール。「私達のチームはBブロックなの。Aブロックなんて関係ないじゃん！」と驚愕のアピール。❸日本の女子マネージャーの中では一番のパフォーマーであるロッテリアン❹ビッグなレスラー達がリング内外で大暴れ。乱入、乱闘、和解、裏切り、逆ギレ、『セカプロ』では日常の出来事である❹これまでとは、体型からパフォーマンスまで明らかに別人だったペプシ・ボーイ。やはりペプシは●●●●●●●が一番！



外人ばかりが目立つ『セカプロ』であるが、今シリーズのMVPは水前寺狂士郎との声も多かった。水前寺は上位3チームに食い込み見事、決勝リーグへ進出。全日マット参戦中の相島勇人も大暴れ！

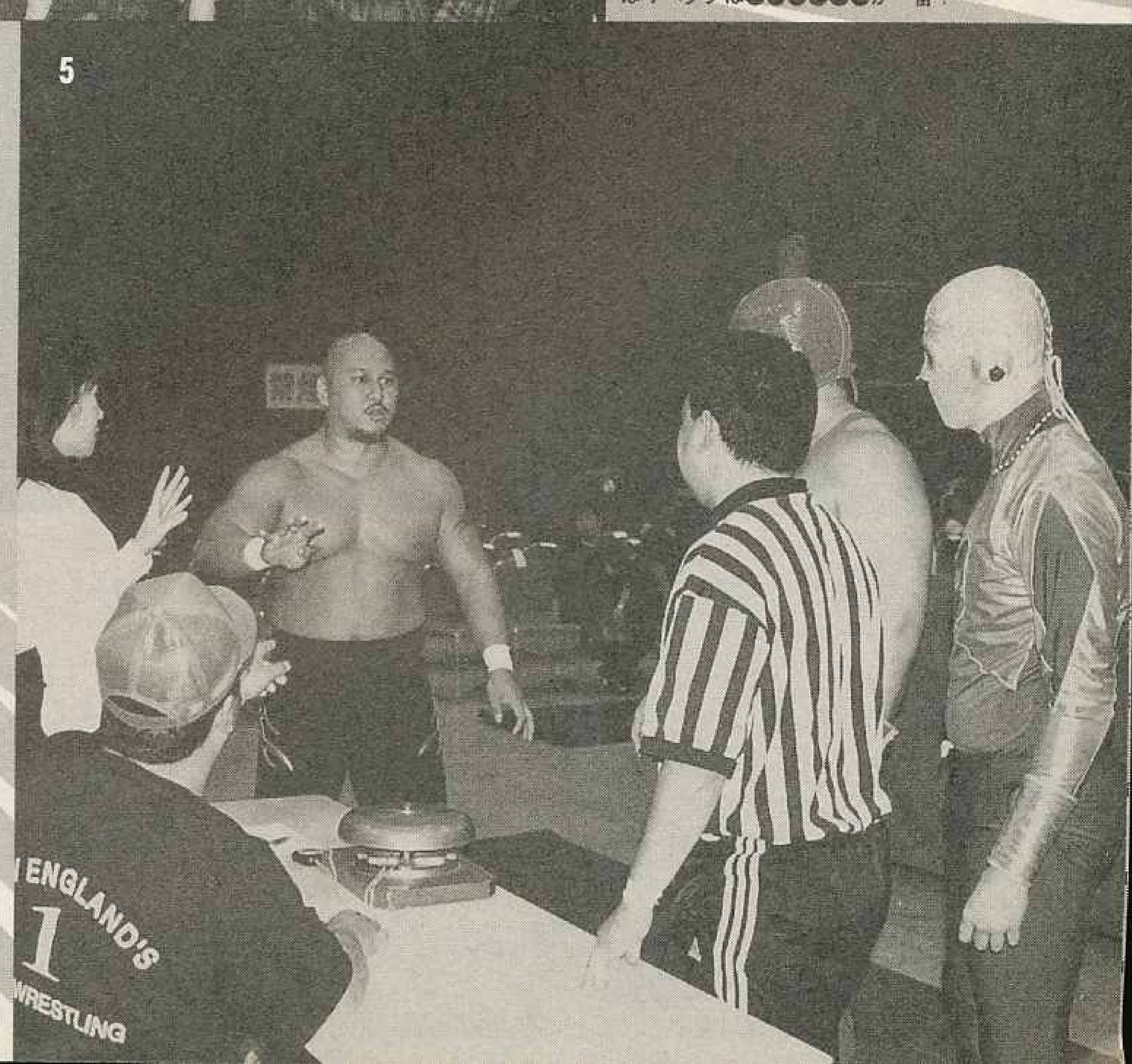


ガランとした寂しい場内ではあるが、各選手のハイテンション振りには、いつもながら驚かされる。会場の外での場外乱闘は当たり前、9・26三重大会では、なんと海に投げ込まれる選手も。凄すぎッ！

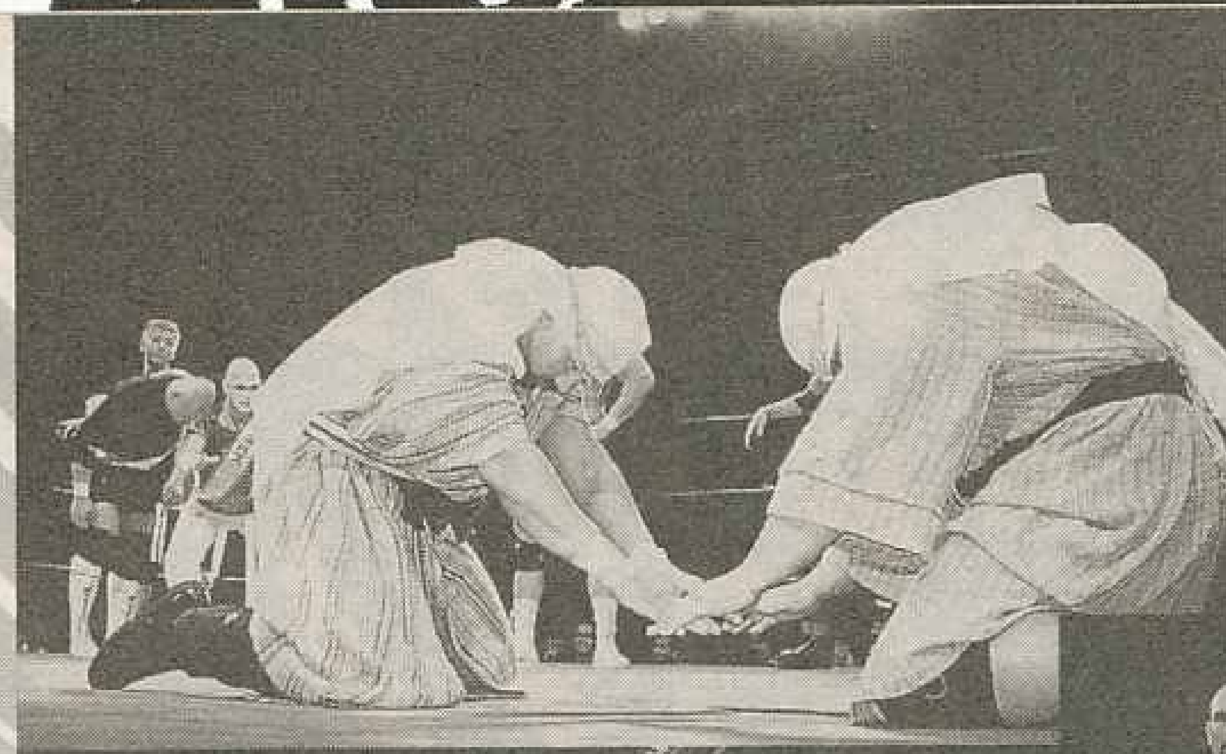




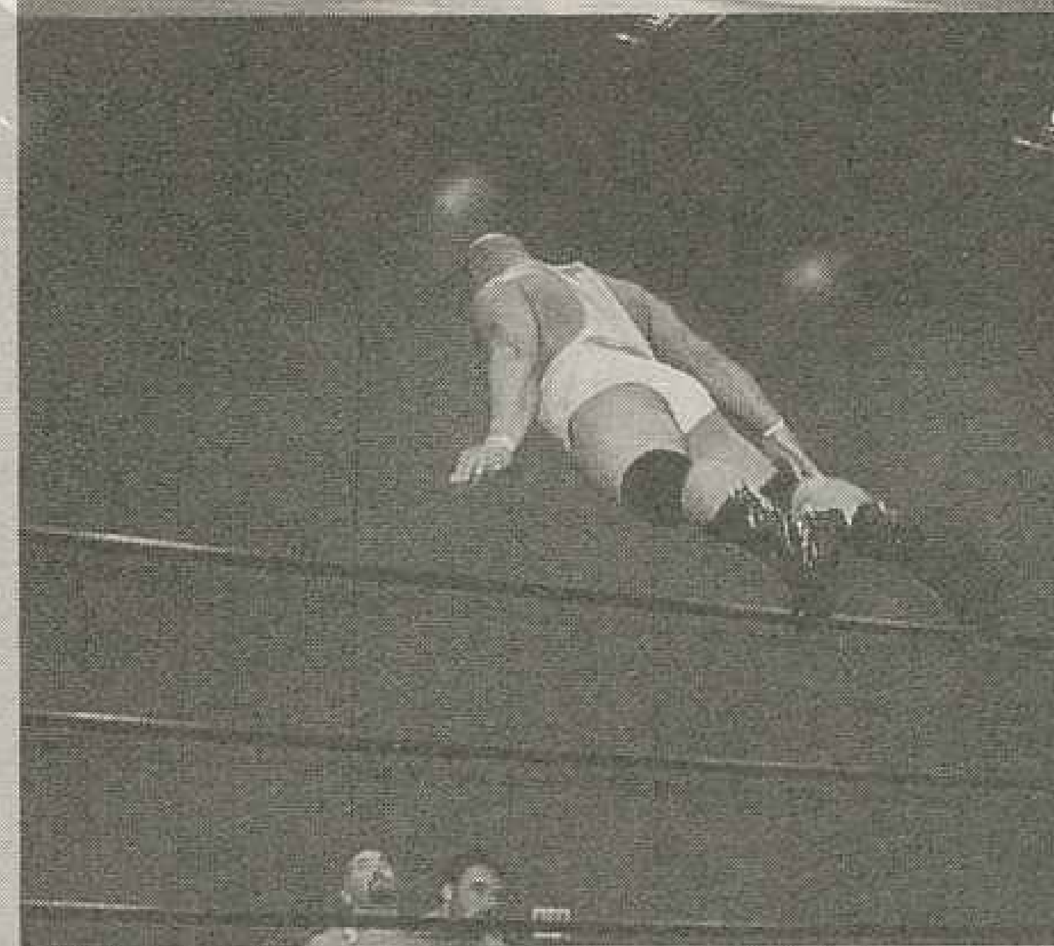
試合終了後も一瞬足りとも目が離せないのが『セカプロ』。開幕戦では全選手参加の大乱闘を繰り広げ、そのまま選手バスに乗り込み発進！ 乱闘に夢中になっていた水前寺は慌ててバスを追い掛けた。翌日はレフェリーのグレースが……。

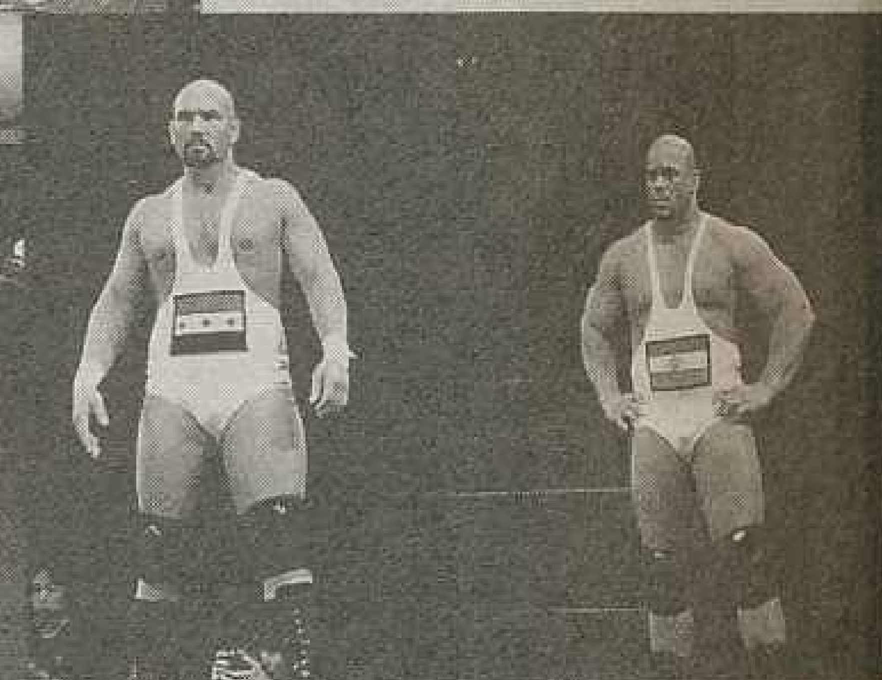


…スが…ったのか!?



今大会の掘り出しモノがダブル・アイアン・シーク1号&2号。アイアン・シークを崇高するという2人はコスチュームから、お祈り、そして得意技のキャメルクラッチまで完璧なムーブを披露。特にノータッチトペも楽々こなすD・I・S1号はヤバ過ぎ!





『セカプロ』を見るな!『セカプロ』は感じろ!!

『世界のプロレス』バンザイッ!　出だしからトルコさんばりに断言するが、ズバリ言ってそういうことなのだ(別にお手上げと言っているわけではない)。なにがって、今の日本マット界で、『セカプロ』ほど外人レスラーを呼んでくれる団体がどこにある?　メジャー団体である新日本、分裂後の全日本、そしてノアも、ここ最近は外人レスラーの固定化が進む一方である。ズバリ言ってそれではいけない。

現在、純プロレスは総合格闘技人気に押され気味であるが、その要因のひとつとして外人選手の存在があげられるだろう。昇り調子の『PRIDE』、そしてリングスのKOKにしても活躍している日本人選手はごくわずかで、幅を利かせているのは外人選手というのはオボッチャマでもわかるはず。良くも悪くも今の総合格闘技界において、時代はまさに外人天国と言えるだろう!　かつてのプロレス界もそうだった。ワールドリーグ戦、チャンピオンカーニバル、IWGPに世界最強タッグ、心ときめくシリーズには外人レスラーが大挙参戦していたものだ。それがいつしかマット界の主流が日本人対決になると、目新しい外人レスラーの来日はめっきり少なくなってしまった。確かに「金が掛かる、選手によって当たりハズレが大きい、客を呼べない」といった問題点もあるだろうが、プロレスには外人レスラーが必要不可欠であるというのは力道山の時代から決まっているのだ。

というわけで、純プロレスが大逆襲するためのカギを握っているのは、新日と全日との対抗戦ではなく、『セカプロ』なのだ!(かなり強引)。……ごめんなさい、言い過ぎました。この原稿を書いている、たった今、10月27日から予定していたシリーズの延期のリリースが…。これでは逆襲もクソもする暇がない。『セカプロ』には8月シリーズも突然キャンセルした前科もある。ハッキリ言って、その無責任な団体運営に関してはお粗末の一言。しかし、リング上に目を向けると、現在のマット界で摩訶不思議なパワーを発しているのは事実なのだ。

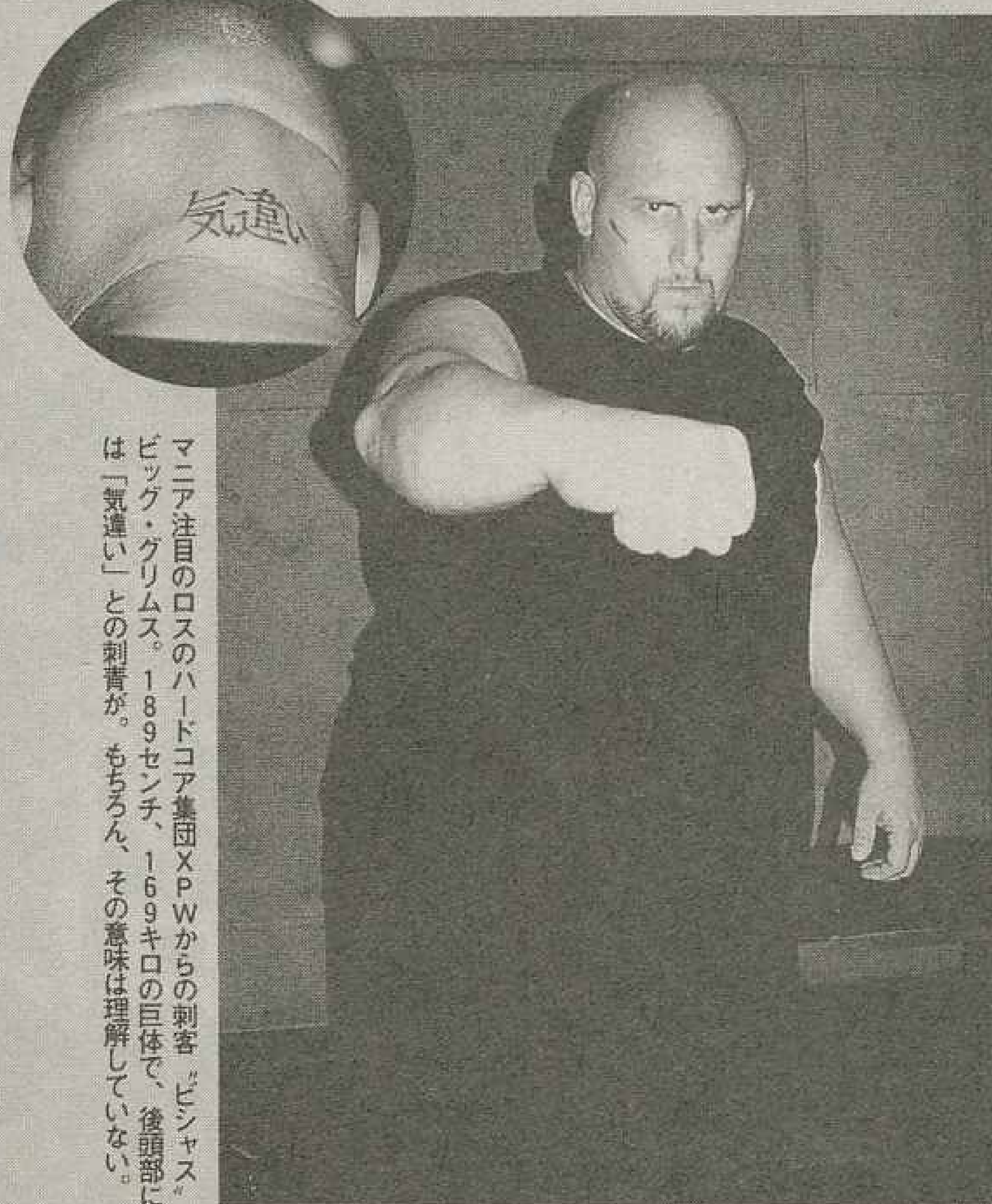
『セカプロ』が招聘する選手は、どっからどう見てもプロレスラーにしか見えないデカイ外人がほとんど。もちろん、ただ単にデカイ外人を呼べばいいのかというとそうではない。『セカプロ』が凄いのは、招聘する外人にハズレがないというのはもちろん、例えハズレであったとしても、その選手にキャラクターを与え(それがシリーズ中でも)、その上、キッチリと選手にやる気を持たせている点なのだ。そして、試合後にはボス格のアーウィンを中心に、その日の試合についてのディスカッションが長時間繰り広げられるという。そりゃ面白くなるわけだ。『セカプロ』マットにおける外人選手の「何もそこまで」と感じざるを得ないモチベーションの高さには何度見ても驚かされるのだ。

現時点では、次のシリーズがいつ行われるのかは皆目見当がつかないが、もし、あなたの家の近くに日付も会場名も明記されていない胡散臭い『セカプロ』のポスターを発見したら、騙されたと思って会場に足を運んでみて下さい。外人レスラーの異常なまでのやる気と得体のしれない不思議なパワーに圧倒されること間違いなし!

スペースの関係上、強引に結論。デカくて、やる気があって、いい意味でも悪い意味でも胡散臭く、素晴らしき外人レスラーは世界中に山の如し!　ガイジンパワーまで新プロレスに持っていかれてどうする。純プロレスよ、原点に帰り、いまこそ外人天国に戻るべし!　そして最後にもう一度だけ言わせてもらう。『世界のプロレス』バンザイッ!

というわけで、次のページから、今回のタッグリーグ戦で年齢を全く感じさせない暴れっぷりを見せてくれたビル・アーウィンとスーパー・デストロイヤー21号に独占(そりゃそーだ)直撃インタビュー敢行!

デカくて、動けて、ギャラも安い!(推測) またしてもガイジンレスラーにハズレなし!



マニア注目のロスのハードコア集団XPWからの刺客"ビシャス"ビッグ・グリムス。189センチ、169キロの巨体で、後頭部には「気違い」との刺青が。もちろん、その意味は理解していない。



オーストラリアから参戦したマーク・メルセデス(左)とビリー・コール(右)。マレンコ道場出身のメルセデスはシドニー五輪を取材中の『東スポ』記者の目に留まり来日前に『東スポ』デビュー。シリーズ途中からメルセデスは神父に、コールはジーザスに変身し(させられ?)、やんやの喝采を浴びた。それにしても2人ともハマり過ぎ!

ビル ――久々の日本はどうですかッ！
（ビールを片手に既に上機嫌）オ〜
――あとはケン・パテラの団体だね。
――警官暴行事件を起こし、その巻き添え
ン・ノー（笑）。
ビル（ダーソウの肩を叩き）まあ、それ
（笑）。
をしてミネアポリスにレッツゴーだ！

『世界のプロレス』に来襲した
ベテラン"ガイジン"レスラーの声を聞け!!!

聞き手＆撮影／チョロ
interview & photographs by Choro
協力／シュン山口
special thanks by Shun Ymaguchi



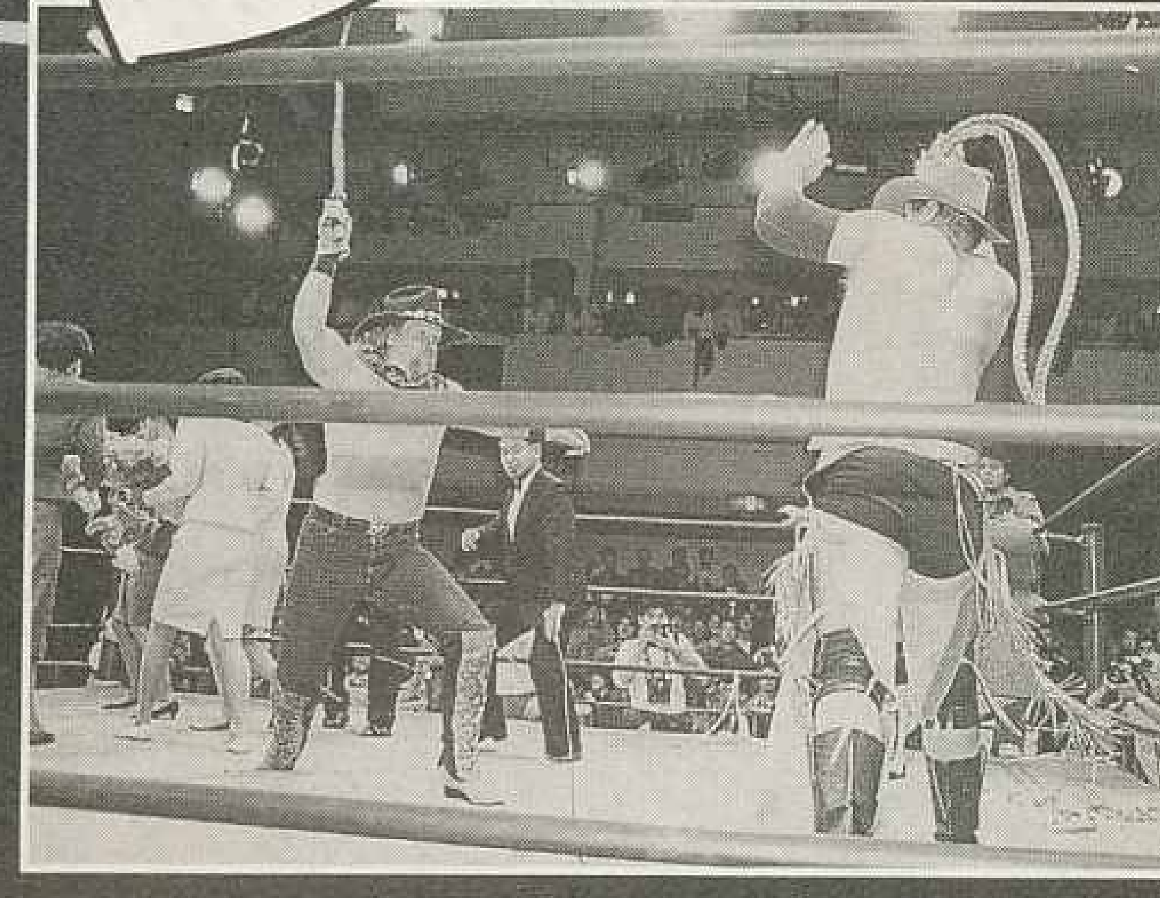
ビル・アーウィン

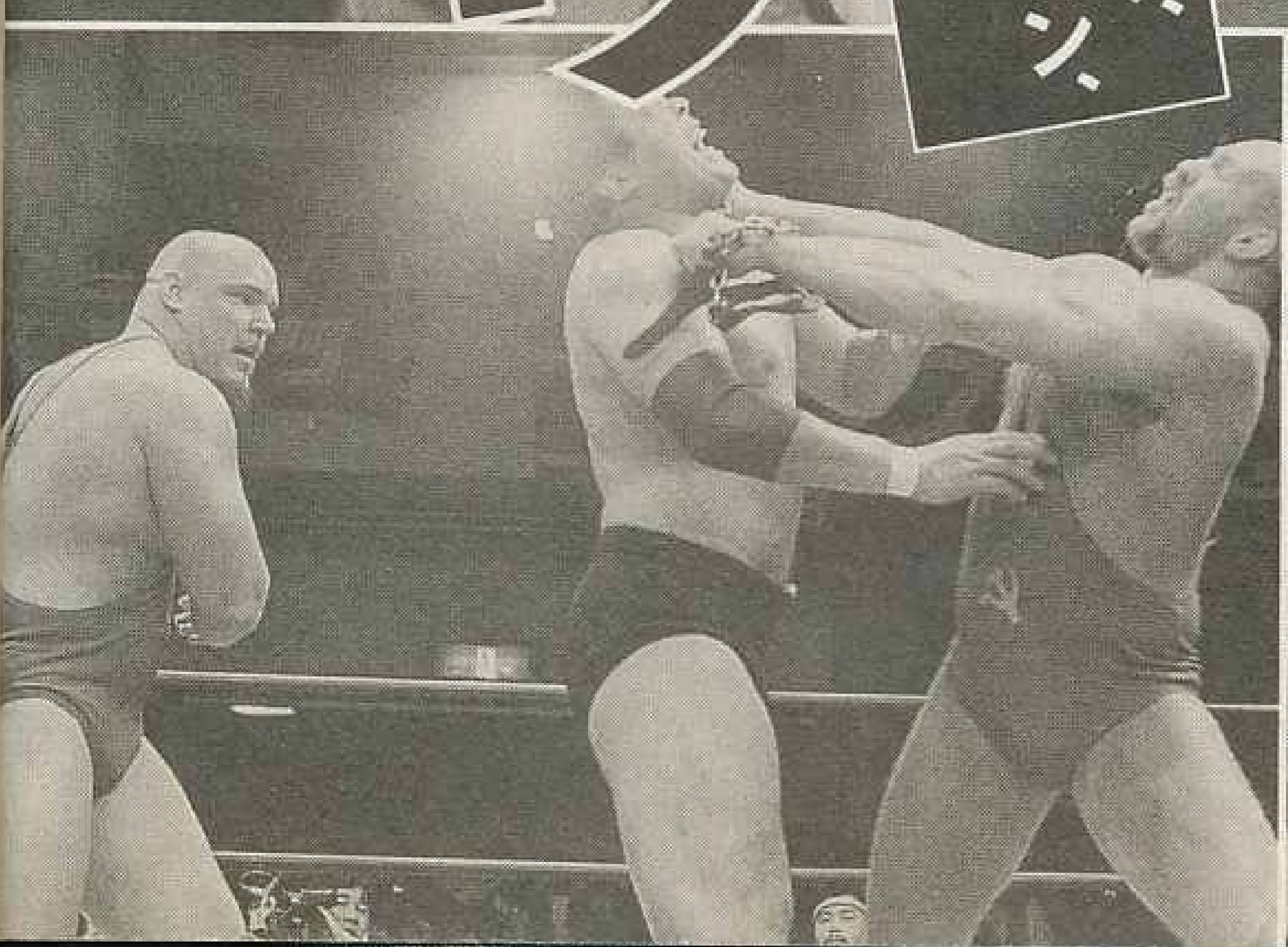
ある時はスーパー・デストロイヤー2号、ある時はロング・ライダース、またある時はジ・アステロイド、その男の名は……

バリー・ダーソウ

ある時は、"ザ・ラシアンズ"クラッシャー・クルスチェフ、ある時は"ザ・デモリッション"スマッシュ・デモリッション、またある時はリポマン、その正体は……

無駄に豪華、無駄に贅沢
そして無闇に面白い
世界のプロレス





旗揚げ時から無駄に豪華な世界のレスラーを呼び続けてきた『世界のプロレス』。その一筋縄ではいかない外人レスラー連中を仕切っている男の名はビル・アーウィン。T・ゴディとのコンビで全日の最強タッグに参戦したり、B・ブロディと組んで馬場＆ジャンボの持つインタータッグ王座に挑戦したりと、地味ながらも不思議な存在感を持つ外人レスラーである。今回の『セカプロ』のタッグリーグ戦では、スーパー・デストロイヤー21号という、正体は全日本でも活躍し、WWFでタッグチャンピオンにもなっているという男を引き連れての来日となったアーウィン。早速、ふたりに話を聞いてみると、21号はおもむろにマスクに手を掛けたのだった……。

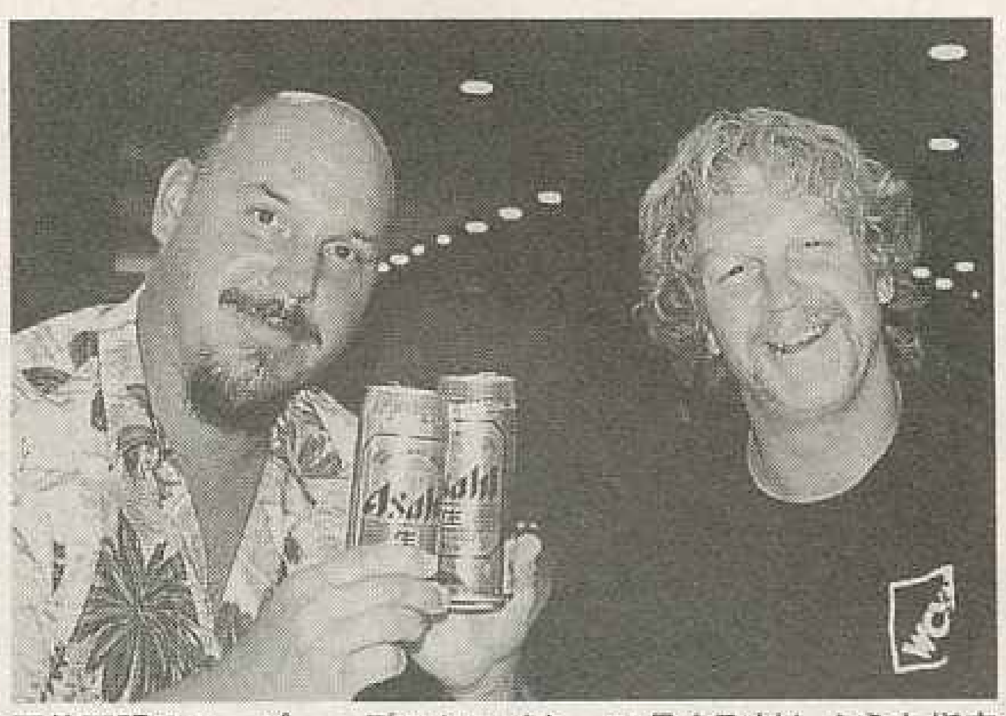
無駄に豪華、無駄に贅沢 そして無闇に面白い

世界のプロレス









正体不明のスーパー・デストロイヤー21号を取材しようと指定されたホテルのロビーへ行くと、そこには『NWAジャパン・ワールド・タッグリーグ戦』の21号のパートナー、ビル・アーウィンの姿が。「こうなったら二人まとめてインタビューだ！」と意気込んで話を聞き始めると突然21号がマスクを脱ぎ出したから、さあ大変！　その正体はタッグリーグ戦、Bブロック出場予定のリポマンだったのだ。なにがなんだか…取材続行ッ！

―久々の日本はどうですかッ！

ビル　（ビールを片手に既に上機嫌）オ～イエ～イ！　日本は最高だ！　カンパ～イ！　お前も飲めよ！

―カンパ～イ（笑）。それで、21号選手は正体不明ということですけど、アーウィンさんとは旧知の間柄みたいですね。ズバリ、ヒントを教えてくれませんか（笑）。

21号　オーケイ！　オレはミネソタ出身、ビル・アーウィンとは昔から仲がいい、WWFではペイントをしていた、NWAではロシア人を名乗っていた、リポマンを名乗っていたこともある（といっていきなりマスクを脱ぎ出す21号）。

ビル　オォ～～、何やってんだ！

21号　もういいさ、仕事も終わったしな（笑）。オレはバリー・ダーソウだ！

―ワァ～オ！　21号の正体はラシアンズのクラッシャー・クルスチェフでお馴染み、バリー・ダーソウさんでしたか（笑）。で、おふたりに聞きますけど、いま主に活動している団体はどこになるんですか？

ダーソウ　オレは今はフリーでやってるんだ。呼んでくれればどこでもキッチリ仕事をするよ（笑）。

ビル　オレは今は『世界のプロレス』に力を入れてるよ（笑）。あとはケン・パテラの団体だね。

―警官暴行事件を起こし、その巻き添えを食ったマサ斉藤さんまで刑務所入りとなってしまった、あのケン・パテラですか？

ダーソウ　そうだ。彼が、いまAWAを運営してるんだよ。

ビル　ニック・ボックウィンクル、ジャンボ（鶴田）もベルトを巻いたAWAだよ。

―AWAは興行能力がなくなって消滅したって聞いたことがあるんですけど、いまでもやってるんですか？

ダーソウ　確かに一度、AWAは消滅したのは事実だよ。でも、ケン・パテラが中心となって再び活動しているんだ。

ビル　あとはエディ・シャーキー、ジェシー・ベンチュラ、彼らもAWAをヘルプしているよ。

―へぇ～、ウォリアーズを育てたシャーキーと、ミネソタ州知事のベンチュラも関わってるんですか。それはオールドファンにはたまらないですね。で、いまのAWAのチャンピオンは誰なんですか？

ダーソウ　（苦笑いを浮かべ）1ヶ月前まではオレがチャンピオンだったんだ。

―えっ、そうだったんですか？

ダーソウ　残念ながらベルトは〝ロッキー・センセーション〟マット・バーンに取られてしまったけどな（苦笑）。

ビル　オォ～！（と大袈裟に頭を抱える）何で負けたんだよ？

ダーソウ　（首を振りながら）アイ・ドン・ノー（笑）。

ビル　（ダーソウの肩を叩き）まあ、それもプロレスラーだ！　カンパ～イ（と言ってビールをグイッと飲み干す）。お前も一気だ！（とビールを差し出す）

―カ、カンパ～イ（苦笑）。いまのAWAのトップ選手っていうのはどの辺の選手なんですか？

ダーソウ　日本でも有名な選手がたくさん活躍しているよ。キングコング・バンディ、タタンカ、ジム・ナイドハート、ホンキートンクマン、ジム・ブランゼル、ロード・ウォリアーズ……。

ビル　（ダーソウを指さし）ブラック・トップ・ブリー（ダーソウの別キャラ名）もいるぜ（笑）。

ダーソウ　それとバロン・フォン・ラシクもやってるぜ！

―えっ、バロン・フォン・ラシクもまだ現役でやってるんですか？

ビル　オ～イエ～イ！　彼はクレイジーだぜ！（笑）。あとマッドドック・バション、アブドーラ・ザ・ブッチャーもマネージャーをやったり乱入したりしてるんだ。

ダーソウ　WCWとの契約が既に切れているカート・ヘニングが来るのも時間の問題だよ。他にも活きのいいヤングボーイだって、たくさんいるからな。

―それは凄い！　これから日本でも注目されるでしょうね。

ビル　そういうことだ。お前も取材の用意をしてミネアポリスにレッツゴーだ！（笑）。

―わ、わかりました（苦笑）。

ビル　（突然）オイ、お前に聞きたいことがある！

―は、はい、なんでしょうか？

ビル　（たまたま着てたブロディトレーナーを指差し）お前が着ているその服はどこで売ってるんだ？

―これは『世界のプロレス』の本拠地の九州にある『グランドコブラ』です。

ビル　今度、連れてってくれ！

―オ、オッケー（笑）。

ビル　ブロディはオレのグッドフレンドなんだ。ブロディが亡くなった今でも、それは変わることはない（キッパリ）。レスラーとしてだけではなく彼とはリングを降りても仲間だった。アイ・ライク・ブルーザー・ブロディ！（と握手を求める）

ダーソウ　ミー・トゥー！（と三人でガッチリ握手）。彼はよくトラブルメーカーと言われていたけど、そういう感じは全く受けなかったよな？

ビル　ブロディがトラブルメーカー？　ノーノーノー！　死んでしまったから言うワケじゃねえが、彼はホントにいい奴だったよ。現場にいたわけじゃないから、殺されちまった理由っていうのはオレにはわからねえ。しかし何があろうと彼とはいつまでもグッドフレンドだ。

ダーソウ　彼からは、テクニック、レスリング哲学という点で非常に勉強させてもらったよ。

―日本でもブロディはインテリジェンスモンスターって言われてましたからね。

ビル　オ～イエ～イ！　まさに彼はインテリジェンス・モンスターさ。そしてベリー・ベストレスラーだ。あまり彼と比較できるレスラーはいないな（キッパリ）。

―ブロディとの思い出で、特に印象に残っていることは何ですか？

ビル　オォ～、たくさんありすぎるよ（といって頭をかきむしりながら考える）。ひとつだけ、よ～く覚えてるのは、「スクワットをしろ、ランニングは欠かすな、とにかくハードな練習をして、しっかり身体を

例えば、プロレスに映画のような台本があるとしよう……（アーウィン）

作るんだ。それができない奴らは、いつまでたってもオレを倒すことはできない」ってよく言ってたよ。とにかく彼の練習量は半端じゃなかった。

――ブロディは練習量もモンスター級だったわけですね。

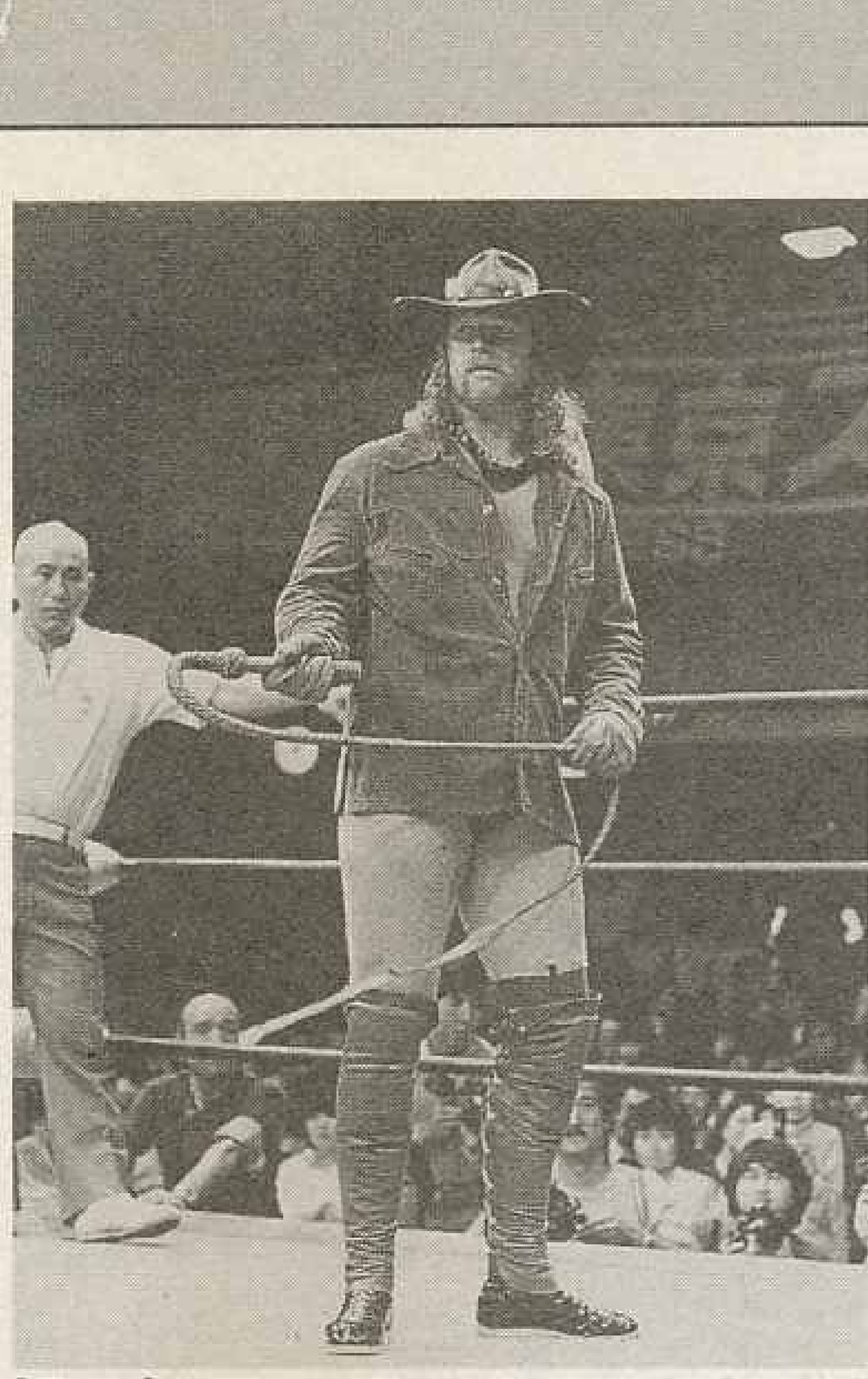
ビル　その通りだ！　まあ、今時の勘違いレスラーと全盛期のブロディやハンセンが闘ったら、生きたまま「ガブッ」っと喰われちまうだろうな。ガッハッハッハッ！

――生きたまま喰われますか（笑）。

ビル　彼らの前で余計なアピールだとか、ただ単に飛んだり跳ねたりしてたら、ノンストップでガンガンガンやられちまうだろうな（笑）。いまのヤングボーイズは何が何だかわからないままリングの上でお休みさ。ガッハッハッ！

ダーソウ　なぜそういうファイトスタイルでくるのかが理解できない連中が多すぎるんだ。レスリングを疎かにして、パフォーマンスと見栄えばっかり気にしてる連中には身体で分からせるしかねえからな。しかし悲しいことに、やられた奴らは反省もせずに、トラブルメーカーの一言で片付けちまうんだよ。（呆れ顔で）オーノー！

――おふたりとも、パフォーマンス重視で、レスリングを疎かにしているレスラーが多くなっていると感じてるわけですね。





【写真左】様々なリングネームを使い分けるアーウィンだが、本名名義時のコスチュームは日本マット初登場の頃から変わらぬカウボーイスタイル。ハンセンのブルロープと並び観客を恐怖に叩きこむのがアーウィンのムチ。今回の来日でも、いい音をさせていた【写真右】全日マットに来日した際のスーパー・デストロイヤーズ。ビル・アーウィンと兄のスコット・アーウィンが正体なのだが、正直言ってどっちがどっちだか全くわからない。

ビル　バン、バン！（とテーブルを叩き）感じてるんじゃなくて多いんだよォォ！

ダーソウ　小言を言うつもりはないが、プロレスってものを理解してない奴らが多すぎるんだ。今のヤングボーイたちはWWFとかをTVで見て、その上っ面だけをコピーしてるんだよ。

ビル　いいか、例えば、プロレスに映画のような台本があるとしよう（笑）。

――台本？　あるとしましょう！（笑）。

ビル　今の連中は、自分がこの技を出したら相手がこう受ける、この技を交わしたら次はこの技とか、そういうのばっかりなんだよォォ！　バン、バン！（とテーブルを叩く）。アドリブができない奴らが多すぎる。オレらは演劇を見せてるわけじゃねえんだよ！

無駄に豪華、無駄に贅沢　そして無闇に面白い
世界のプロレス

ダーソウ　オレがWWFでやってた頃は、どういうことをプロモーターが望んでいるかって説明を受けたら、それを一瞬で理解したもんだよ。最後の最後までの説明はいらないんだ。いいレスラーの条件は、要求されたストーリーをリングの上から、いかに客に伝えられるってことなんだよ。リングの上での出来事はいつも変わっていくもんだから、そこでアドリブが必要になってくるんだ。

――はいはい。

ダーソウ　オレらだったら客を悲しませたり、楽しませたり、怒らせたり、ヒールをやる時にはリング上のオレらが憎み合ってるっていうのをキッチリと客に伝えられるからな。それがレスラーとしてのプライドってもんだ！

ビル　その通りだ！　オレらぐらいになると、この客にはハイスパート、この客はこのムーブを求めているってのがすぐにわかるんだよ。まず客を楽しませるのが第一だ。自己満足はその次でいいのさ。だけど、今のヤングボーイ達は、試合が始まっちまうと客を見る余裕がないんだよ。

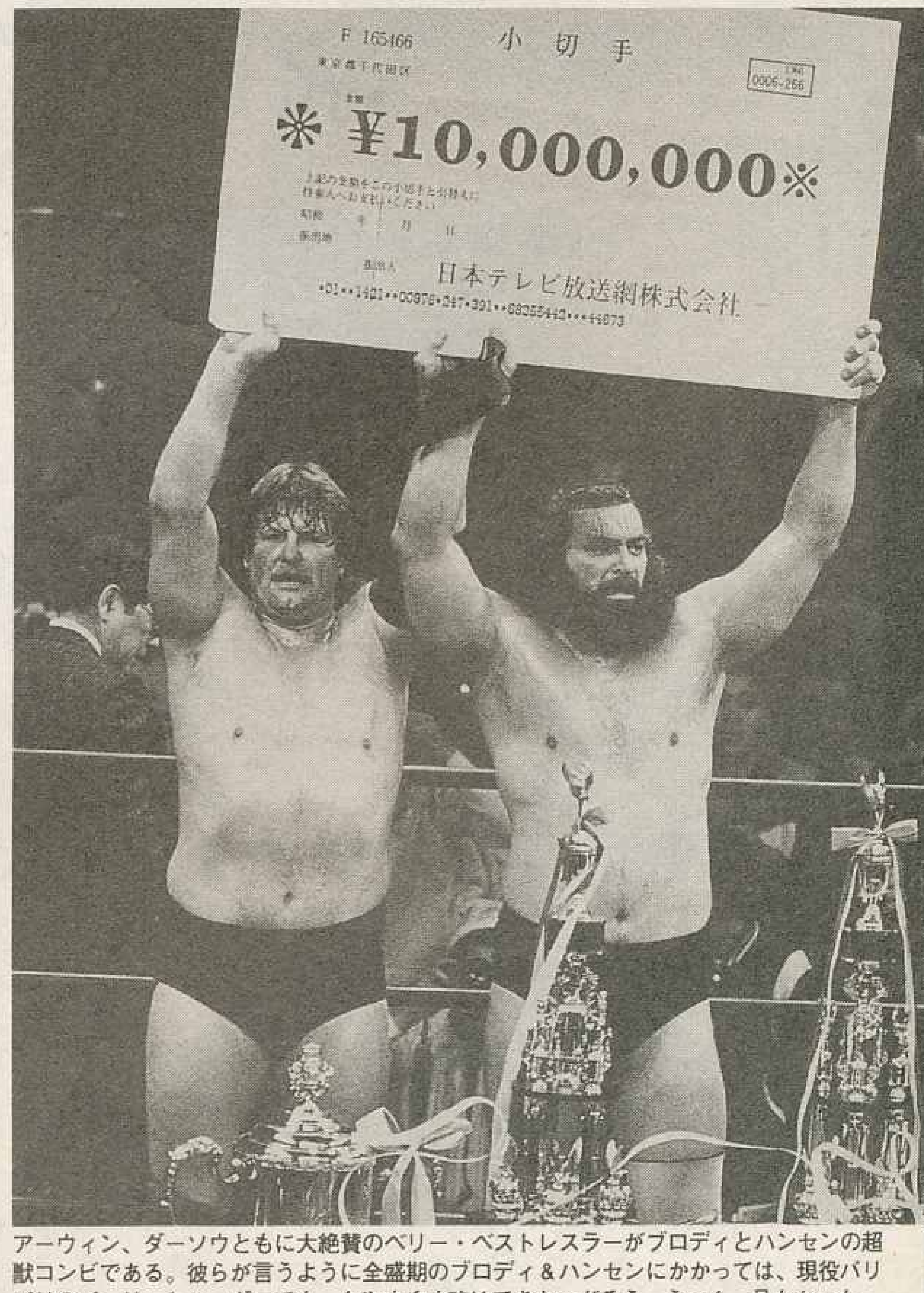
ダーソウ　余裕もないし、最初っから決めたことをやらなければいけないって思い込んでる連中が多いんだ。オレらにとっては会場に入った瞬間に既にゴングが鳴っているんだ。そこがどういう場所か、どういう客が集まるのか、求められているレスリングは何なのかっていうことを探るんだよ。

ビル　もちろん女もチェックする（笑）。ガッハッハッハッ！

――それも重要ですよね（笑）。

ビル　何をやれば喜ぶか、何をやればブーイングが起こるか、そういうのを見ながら探りながら感じながら試合を作っていくんだよ。そういうことを今のヤングボーイ達は理解してないんじゃねえか。

ダーソウ　ちょっとでも試合の流れが崩れると、慌てて何をやっていいのかわからなくなる連中が多いよな。今のプロレスを見てて苦しいのは、いろんな意味でホントの



アーウィン、ダーソウともに大絶賛のベリー・ベストレスラーがブロディとハンセンの超獣コンビである。彼らが言うように全盛期のブロディ＆ハンセンにかかっては、現役バリバリのバーリ・トゥーダーでも、たやすく攻略はできないだろう。う〜ん、見たかった。

…スが…たのか!?

プロレスリングをしてないんじゃないかって感じるからなんだ。やっぱり闘いながら客が何を求めているのかを探るっていうのはレスラーの喜びでもあるからな。

ビル　その通りだ！

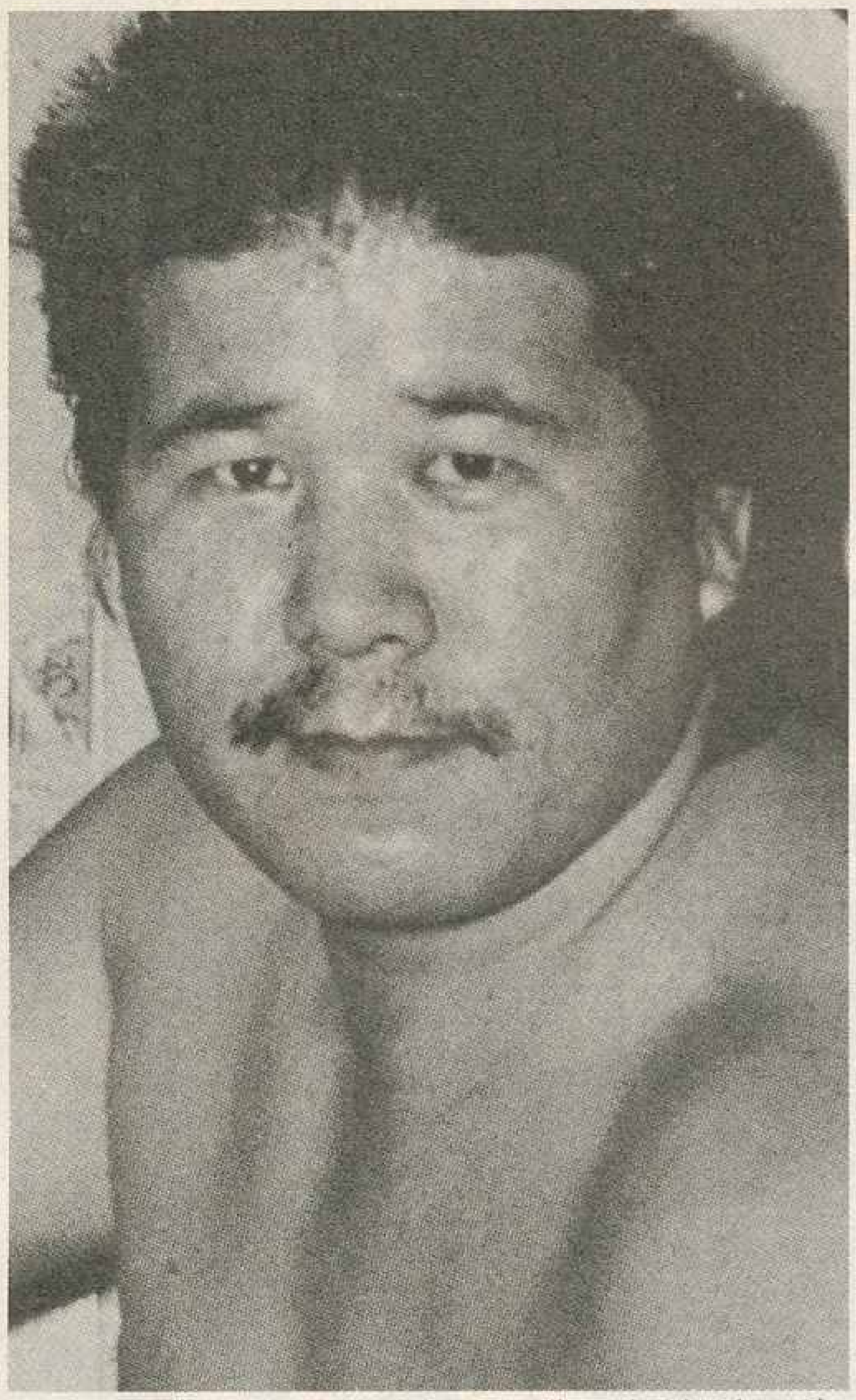
ダーソウ　オレ達が育ったプロレスっていうのは、例えば、自分が何かをしたい時、そして相手が何かをしたい時、ファンには気付かれないように身体で会話をするんだよ。だが、今は全部がただのエンターテインメントになっている。だから、レスラーの人間像が試合から見えてこないんだ。

――それはわかる気がします。で、いままで闘った日本人の中で特に印象に残っている選手は誰ですか？

無駄に豪華、無駄に贅沢
そして無闇に面白い
世界のプロレス

ダーソウ　（即座に）ジャイアント・バ～バ！

――えっ、馬場さんですか？



アーウィンのグッドフレンドだったというハル薗田。米国遠征時にマジック・ドラゴンに変身、日本でも覆面、そして素顔でも活躍していたが、87年11月、南アフリカ航空機の墜落事故により帰らぬ人となってしまった。

シュートファイト？ 客にとっては退屈なんじゃないか？（ダーソウ）

ダーソウ　オレは東京ドーム（90年4月13日）でババ＆アンドレ組と闘ったが、あの試合は自分のレスラー人生の中のハイライトだ。ババさんはジェントルマンだし、そして非常に強かった。しかもWWFでのライバルだったアンドレとババさんのタッグと闘えたことは、いまでも凄く印象に残ってるよ。

――おふたりは、ジャンボ鶴田さんや長州力さんとも対戦してますけど、闘ってみてどうでしたか？

ビル　オレはトロントでブロディと組んで馬場＆鶴田組の持つインタータッグにも挑戦してるからな。オレらがボストンから遅れてきたらミセス元子さんに「あなた達はなんで遅れてくるの？」って怒られたこともあった（苦笑）。

――元子さんに怒られましたか（笑）。鶴田さんは、日本のファンの間でも最強説を唱える人が数多くいるんですけど、それについてはどう思います？

ビル　それは正しい（キッパリ）。ジャンボとは何回も闘っているが、いつもぶっ飛ばされてたんで、あまりいい気はしなかったけどな（笑）。ジャンボはブロディやハンセンと並ぶベリーグッドレスラーのひとりだよ。

――長州力さんはどうですか？

ダーソウ　チョーシュー？ 彼もベリーグッドレスラーだよ。

ビル　そうだな。ジャンボもチョーシューもムタもカブキもグッドレスラーだ。それと忘れちゃいけねえのが、（ハル）ソノダだ！

――えっ、ハル薗田さんですか。

ビル　彼はオレのグッドフレンドだった。ソノダが作ってくれたクリスマスツリーと、そのデコレーションをオレは今でも大切にしてるよ（しみじみと）。

――薗田さんの手作りのクリスマスツリーですか？

ビル　そうだ。毎年クリスマスには、そのツリーを出して、彼に対して祈っているんだ。（遠くを見つめ）彼が飛行機事故で亡くなったとカブキから聞いた時はショックで固まってしまったよ。あれはホントに悲しい出来事だった。バーン！（突然、テーブルを叩き）カブキといえば思い出した！ キラー・カンは今どうしてるんだ？

――カンさんは、いまは飲み屋を経営してます。でも、突然どうしたんですか（笑）。

ビル　（いきなりマイクアピール口調になり）覚えてるか、キラー・カン！ テキサスを一緒にオレの車でサーキットしている時のことだ！ 酒を飲み過ぎて途中で車を止めて、みんなでションベンをしただろ！ そしたらオレらに向かってデカイ犬が飛び掛かってきた。お前はその犬をとっ捕まえて、家に持って帰って料理をして喰っちまった！ その頃を思い出して、もう一度オレと闘え！ 犬のように尻尾をまいて逃げるんじゃねえぞ！ ガッハッハッハッ！

ダーソウ　（負けずにマイクアピール口調で）オレもお前とはWWFで何度も闘ってきた。飲み屋なんか早いとこ閉めてここのリングに上がって来いよ！ カモン!!

ビル　いつでも待ってるぜ！

――（圧倒されて）っ、伝えておきます。話は変わりますけど、先ほどダン・スバーンのインタビュー（『紙プロR31号』）を見て「ヤツはクレイジーだ」って言ってましたけど、どういうことですか？

ダーソウ　ダンのことはよく知ってるよ。とてもいいヤツだが、彼はシュートファイターだろ（笑）。彼を裏切るとシュートを仕掛けてくるからな。

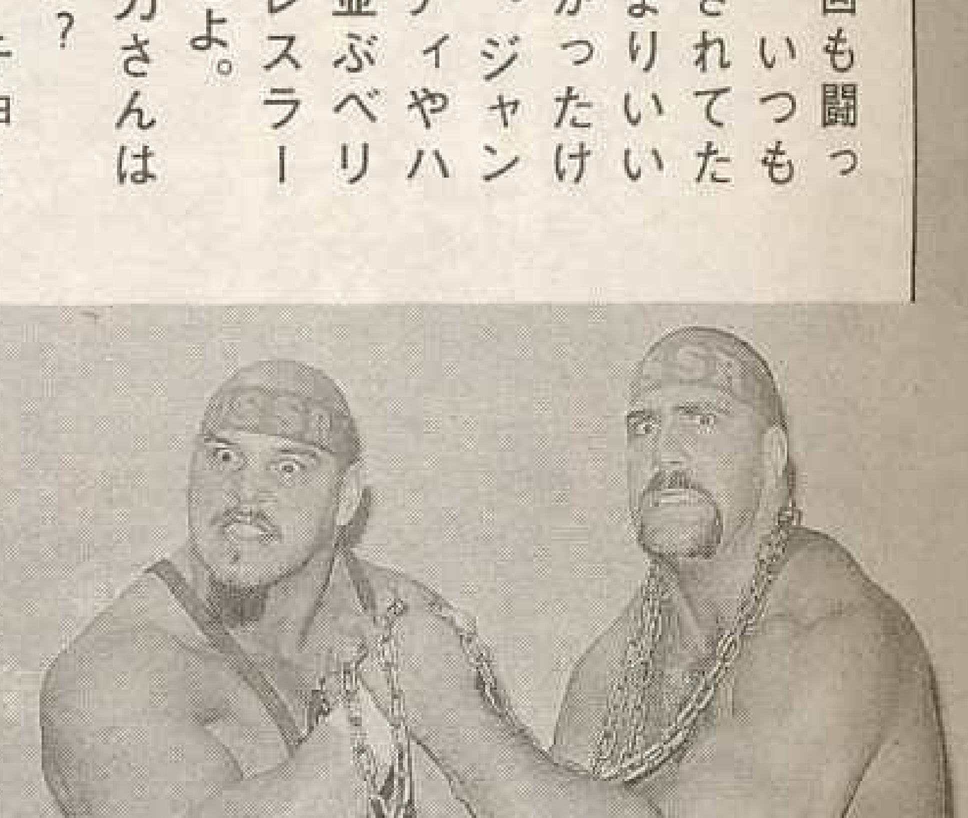
ビル　イッツ・クレイジー（笑）。

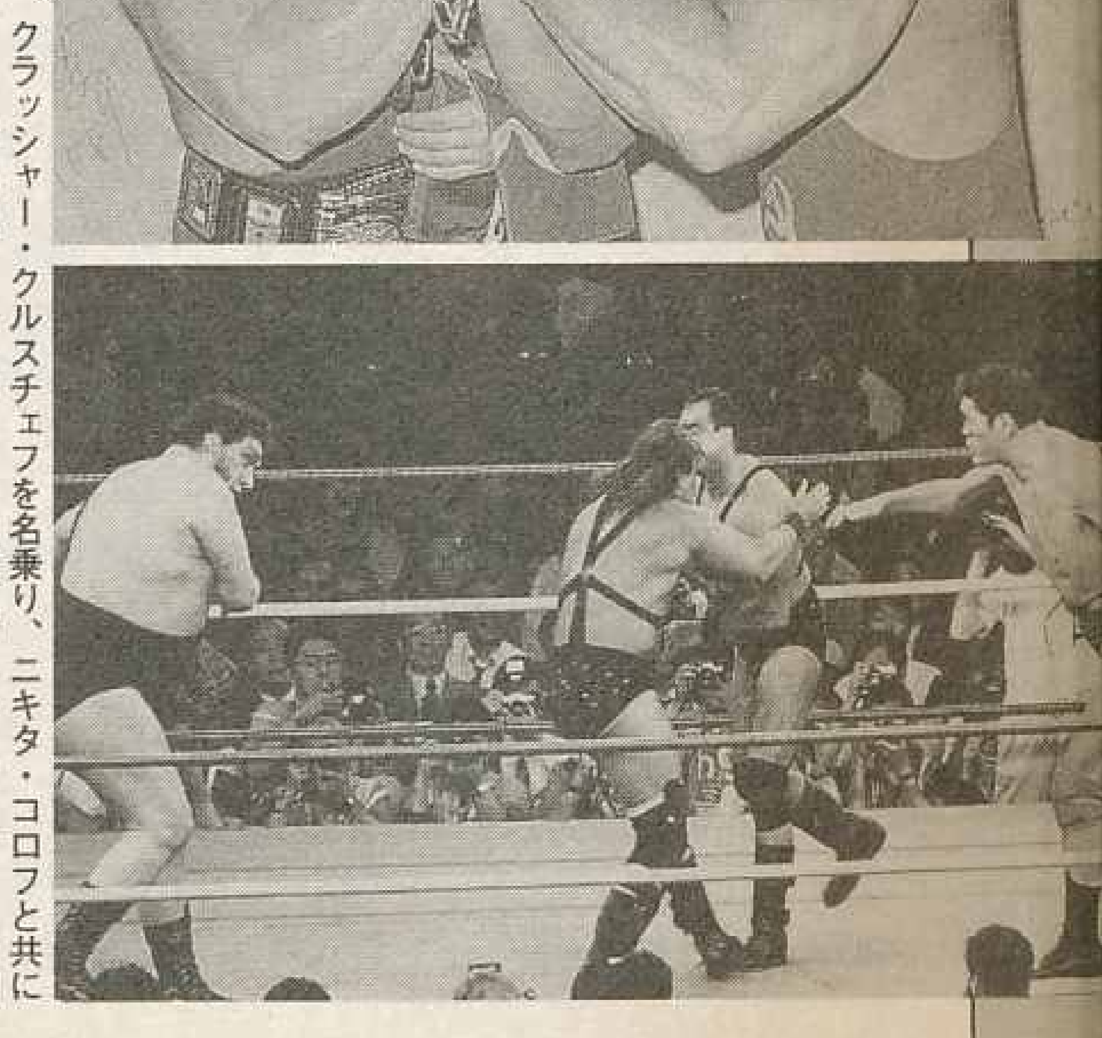
――日本ではプロレスがシュートファイト人気に押されているところがあるんですけど、アメリカではどうなんですか？

ダーソウ　確かに、アメリカでもいろんな大会が開かれてるが、ハッキリ言って客にとっては退屈なんじゃないか？

ビル　アクションも少ないし、つまんないね。あ～～ぁ（とあくびをする）。

ダーソウ　アメリカのファンっていうのは常にアクションアクションを求めてるんだよ。わかりやすいパンチとキックの打ち合いだったら見る気もするけど、実際試合が





【写真上】にせロシア人キャラ、クラッシャー・クルスチェフを名乗り、ニキタ・コロフと共にザ・ラシアンズとして、全日マットに二度参戦しているダーソウ。第二のウォリアーズとして期待されたが、残念ながらウォリアーズ以上のインパクトは残せず【写真下】90・4・13、東京ドームで行われた『日米レスリング・サミット』。スマッシュ・デモリッションとしてアンドレ＆馬場組と対戦したダーソウだったが、最後は16文からアンドレのエルボーでフォール負け。

オレはスバーンに挑戦したい！シュートでもオッケーだ!!（アーウィン）

無駄に豪華、無駄に贅沢　そして無闇に面白い
世界のプロレス

始まったら、すぐ寝ころんでグラウンドばっかりだろ。

ビル　（ビールを一気に飲み干し）シュートマッチだったら酒場のケンカの方がよっぽど面白いぜ！　ガッハッハッ！

——その通り！　でも、日本では結局、誰が一番強いんだっていうのを知りたがってるファンが多いんですよ。

ビル　それはアメリカも一緒だよ。オレらを見てみろ！（と言ってマッスルポーズを取るふたり）。どうだ、オレらが弱そうに見えるか？（ニヤリ）

——い、いや、とても弱そうには見えません。ふたりとも間違いなく強い！

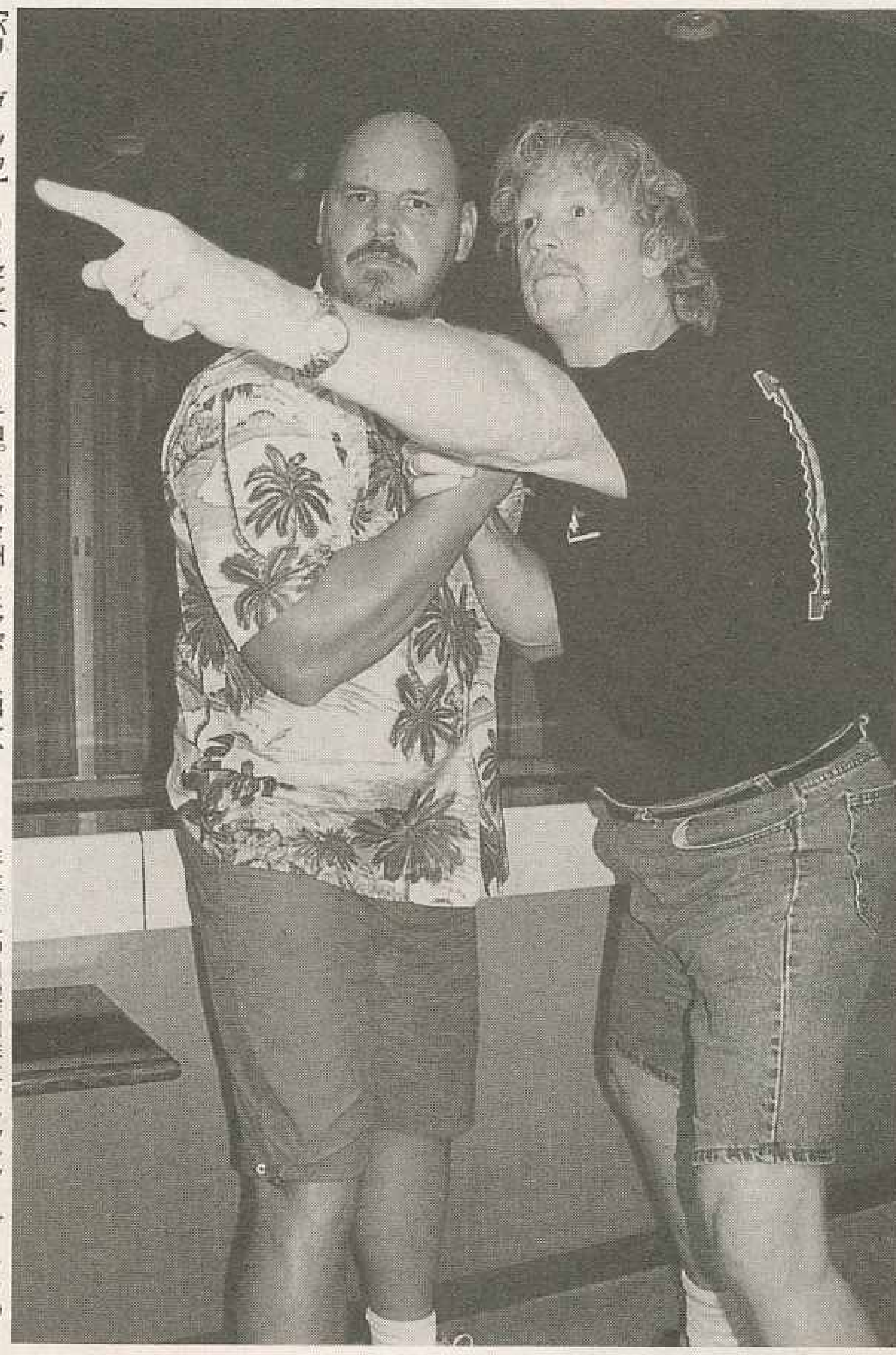
ビル　そうだろ？　それがプロレスラーさ！　ガッハッハッ！

ダーソウ　まあファンもプロレスについて情報がたくさん入りすぎて、良くも悪くも頭が賢くなってきているのは確かだ。いまはレスラーの舞台裏まで知りたがる連中が多くなってるからな（苦笑）。

——ここ最近、『レスリング・ウィズ・シャドウズ』とか『ビヨンド・ザ・マット』といったマット界の内幕を公開している映画が作られてますけど、それについては、どう思います？

ビル　アメリカの、特にWWFのスターは大きな存在になりすぎたんだ。そうなるとファンはそのスターのことをもっと知りたがるだろ？　今のファンは映画俳優のファンと一緒で、レスラーの楽屋裏のゴシップが見たいだけだろ。まあ今のレスラーは映画俳優と一緒みたいなもんだからな（苦笑）。

ダーソウ　ただ、アメリカの社会ではプロレスに限らず舞台裏は当たり前のように出てくるんだよ。まあ、そんなもんが出たからって揺らぎはしないさ。プロレスはそんなちっぽけなものじゃないからな。



【ビル・アーウィン】188センチ、113キロ。ジョージア州アトランタ出身、1952年生まれの48歳。プロフットボーラーを目指していたがスカウトされてプロレス入り。実兄のスコットとのスーパー・デストロイヤーズでは2号を名乗り、その後は兄とのロング・ライダーズで大暴れ。87年の兄の急死後は独立団体を転戦し各団体で王者となる。日本では全日本マットで活躍。『世界のプロレス』旗揚げ後は外人のエース格となる。

【バリー・ダーソウ】193センチ、135キロ。ミネソタ州ミネアポリス出身、1959年生まれの41歳。81年にクラッシャー・ダーソウのリングネームでAWA地区でデビュー後、クラッシャー・クルスチェフ（ザ・ラシアンズ）、スマッシュ・デモリッション（ザ・デモリッション）、リポマン、ブラック・トップ・ブリーを名乗り世界中で活躍。日本へは全日本、レスリングサミットに来日。『世界のプロレス』へは初登場となる。

ビル　見られて困るようなことがあるんだったら、それを上回ることをリング上でやればいいだけのことだよ。

ダーソウ　確かにビンス・マクマホンJrはキャラクターを膨らませることに関しては天才だよ。でも、彼にとってのグッドレスラーは「うまくしゃべれること、カッコよく歩けること、ファンを興奮させること」っていうのが、一番の判断基準なんだ。ダンのようなシュートファイターは、サブミッションもテイクダウンも知ってるが、WWFではそれは特別重要なことではないんだ。ダンは本物のプロレスラーとしては非常にいいものを持っているが、ビンスはその才能を見抜けなかったと思う。ケン・シャムロックも「UFCのチャンピオンになるよりWWFのチャンピオンになる方が遥かに大変なことなんだ」って言ってただろ。

プロレスは大変なんだよ（笑）。

ビル　プロレスリング・イズ・ベリーベリー・ハード！　アマチュアレスラーやオリンピックレスラーは痛めつけることしか知らねえだろ！　だけどプロレスラーは痛めつけて、なおかつその痛みをファンに届かせなきゃいけないわけだ。わかるだろ？

——はい、わかります。

ビル　プロレスとシュートファイトと、どっちが面白いかなんて考えればすぐわかるはずだ。強さばっかり求めてて、25列目の客に届かなきゃ意味がねえんだよ！

——なんで25列目なんだ（笑）。

ビル　シュートファイトの連中も、何をやってどこが痛いのかを客に伝えなきゃダメだろ。オレから言わせてもらうと、もっと落ち着いてゆっくりやれって話だよ！

ダーソウ　よくシュートファイトではグレイシーグレイシーって騒いでるが、ブロディやハンセンとやったら全然歯がたたないだろ！

ビル　その通りだ！　ブロディだったらシュートで上回って、さらにエンターテインメントとしても見せてくれるはずさ。

——ブロディのオクタゴンでのファイトは見たかったなぁ。金網の中にキングコングですからね（笑）。

ビル　でも、お前のところのマガジンをパラパラ見てると、俺もチャレンジしたくなったよ。

——何のチャレンジですか？

ビル　オレはダン・スバーンにチャレンジしたい（キッパリ）。どんなスタイルでもオッケーだ！　たとえ、それがシュートでもな（ニヤリ）。

——谷津嘉章に続いて、アーウィンも『PRIDE』参戦か（笑）。

ビル　ノーノーノー！　もちろん『世界のプロレス』のリングでだ（笑）。ガッハッハッハッ！

——そういうことか（笑）。それだったら、ブラッド・コーラーでもいいわけですよね。

ビル　イエ～イ！　カモン、コーラー！　コーラーもオレはよく知ってるからな。アイツもレスラーとしてだいぶ良くなってきた。もう少しのところまできてるよ。

——アーウィン＆ダーソウ対スバーン＆コーラー戦なんて、ゼヒ見たいですね。

ダーソウ　そうか、それなら早くブッキングしろ！（マイクアピール口調で）ダン！　コーラー！　いつだって構わねえ！　お前らのケツを蹴っ飛ばしてやるぜ！

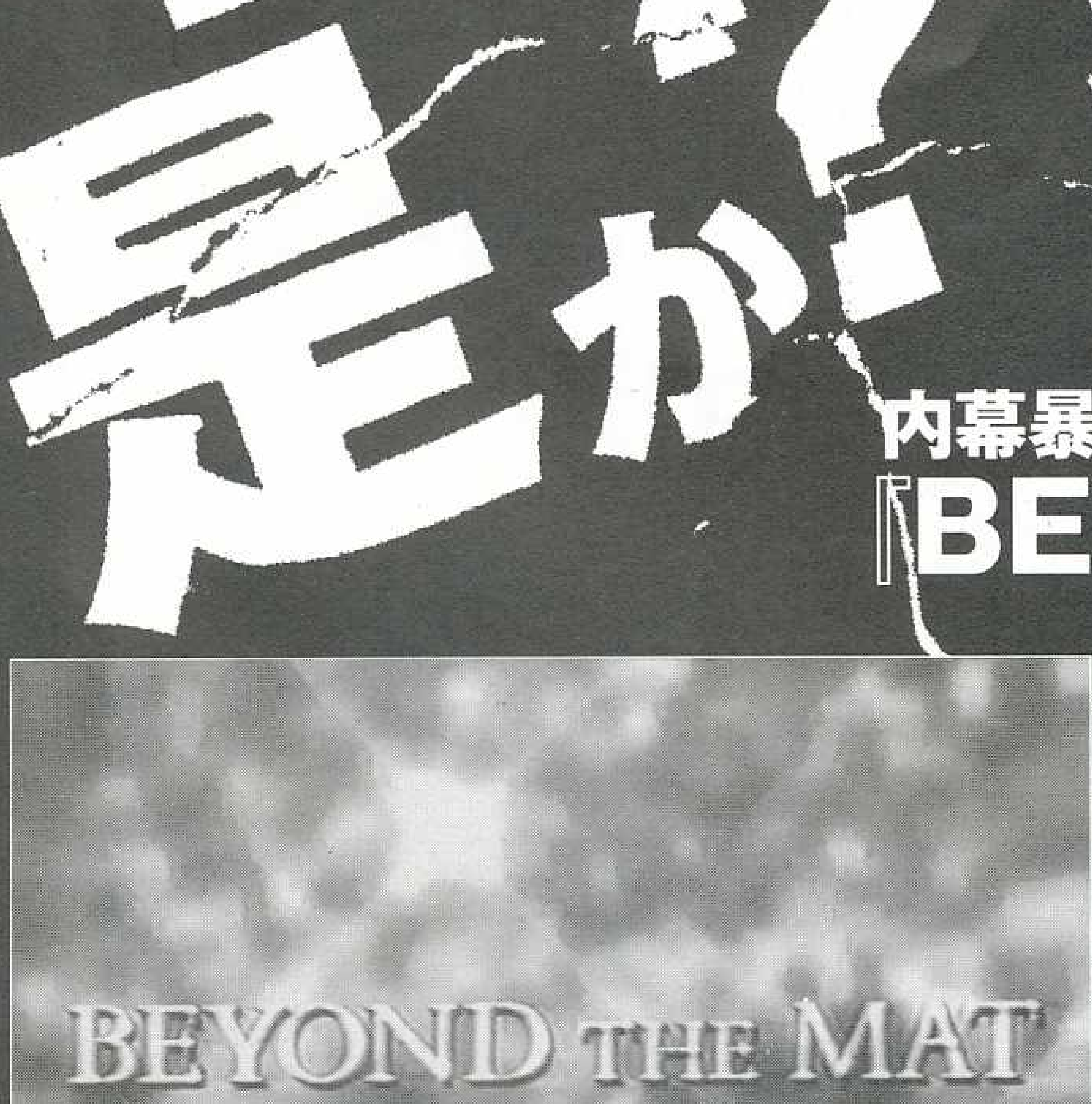
ビル　望むところだ！　いつでも受けてやる！　ストーン・コールドでも構わねえ！　文句のある奴は『世界のプロレス』のリングで待ってるぜ！　ガッハッハッ！

【00年9月27日、静岡県浜松市内のホテルで収録】

日本のプロレスが進むべき方向はここなのか!?

プロレスの情報公開は是か？非か？

遂に出た!! スーパースター総出演の内幕暴露凄絶ドキュメンタリー作品『BEYOND THE MAT』を誌上独占プレビュー!!



本誌前々号の『レスリング・ウィズ・シャドウズ』特集は大きな反響を呼んだようだ。空前のスケールで大ブーム中のWWFを他の専門誌じゃまず出来ない（やらない？）「プロレスの情報公開」という側面からブッた斬ってみたわけだが、某誌では狂信的なグッズコレクター（？）氏から、「見方が間違ってる」とのお叱りも受けた揚げ句、自慢のお宝まで披露してもらいロアングリ状態。企画自体が単なるWWFファン限定の特集ではなく、全プロレスファン&関係者に向けて「プロレスの情報公開」の是非を問うているわけで、今回も前回同様に作品の純粋な批評だけをするつもりはない（たしかに素晴らしい作品だけど）。そんな怒りも真摯に受け止めつつ、今号でも懲りずにアメリカにおける「プロレスの情報公開」を紹介しつつ、その目的と意味を考える禁断の特集第2弾を行います！ 構成／坂井ノブ

社会ではプロレ

ンのようなシュートファイターは、サブミ

客に届かなきゃ意味がねえんだよ！

本誌は「同じことを日本でやれ！」と言う気は毛頭ありません!!

WWFはここまでやってホントに大丈夫か？

〜『BEYOND THE MAT』の内容はこんなに凄い〜

『ビヨンド〜』は舞台裏を克明に描きながら、プロレスという“スポーツ・エンターテイメント”に賭ける人々の人生を描き出すドキュメンタリー作品だ。さまざまな境遇にあるプロレスラーたちがそれぞれの立場で抱えている“陰”の部分をオムニバス形式で取り上げていくわけだが、日本語字幕もなく、ボクらの半チクな英語だけで内容を紹介するのは厳しい側面もあるものの、今回も「プロレスの情報公開」的な側面から、この作品を紹介してみたい。まだ日本では発売されていないが、今回も日本のファンが見たらド肝を抜かすこと間違いなしの衝撃的な内容となっている。是非とも日本発売を望みたいところだ。

ビンス大絶叫！「ゲロだ！ ゲロだ！」ジェイク・ロバーツはコカイン使用告白!!

世の中〝光〟があるから、〝陰〟が引き立つ。冒頭でアメリカ・プロレス界の光輝く頂点に君臨するビンス・マクマホンが登場し、さっそく「レスリングとはスポーツ性とエンターテイメント性の両面を併せ持つモノだ」「観衆の興味を引き付けるために、我々は映画を作るんだ」と得意気に語り、WWFのプロレスが脚本家らを中心に作られていく過程を次々と紹介していく。

さらには新たな大ヒット・キャラクターを生み出すべく、精力的に新人選手の面接も行う。この日は、思い通りにゲロを吐ける元アメフト選手がビンスの面接を受けた。（その選手とは、受け身失敗の大事故で現在もリハビリ中のドロズ！）

ビンスはいきなりゴキゲンだ。「君は、思い通りにゲロ（PUKE）を吐けるそうだね？ 今までにないキャラクターだ。面白い！ WWFのスタイルにじつにマッチしているじゃないか」ゲロがマッチするリングというのも凄い話だが、「とりあえず、ゲロを吐いてもらおうか」とビンスはゴミ箱を彼の前に突き出す。そして、「ゲロが出るぞ、ゲロだ、ゲロだ、ゲロだ！」と大絶叫、50歳を過ぎた社長がゲロだ、ゲロだと大騒ぎする、そんな素敵なWWFの舞台裏を垣間見せてくれる。

で、そんなゲロまみれの〝光〟があれば、当然のように〝陰〟も存在する。ここで何人かのレスラーたちの実人生を追っていくわけだが、なかでも一番ショッキングかつ悲惨な生活を送っていたのは、なんとジェイク〝ザ・スネーク〟ロバーツだった。

「クスリなんて敗者のためのモノだと否定していたさ。でも、1月間に27〜28試合をこなさなきゃいけないんだ。それを続けていくために薬は必要不可欠なモノだった。眠るために薬をやり、そして痛みを紛らわすために薬をやり……。コカイン飲むことで、演じ続けられたんだ」と一発キメながら、虚ろな目で語るジェイク。衝撃の映像だ。

ある種の耐久競技であるプロレスにケガは当然のようについてまわる。それを克服するのにクスリの力を借りた、というわけだ。裏を返せば、〝スポーツエンターテイメント〟であってもプロレスがいかに苛酷なものであるということがイヤというほど伝わってくる。

痛みを紛らわすためにクスリを使う者もいれば、痛みを喜ぶかのようなクレイジー・ファイトでトップを取った男もいる。それが〝マンカインド〟こと、ミック・フォーリーだ。

だが、そんなキャラとは裏腹に、家族は彼のボロボロな体を心配し引退を望んでいる。そんな気持ちを悟り、悩むミック。

そんな折、『ロイヤル・ランブル』でのロックとの対戦を迎える。悩みを解決すべく家族を会場に呼んだミックは、自分の身を気遣う娘を安心させようと「ロックは、ダディの友達だろ？ 本気でダディを傷つけたりはしないんだよ」と声をかける。ロックも子供を安心させようと非常に優しい。

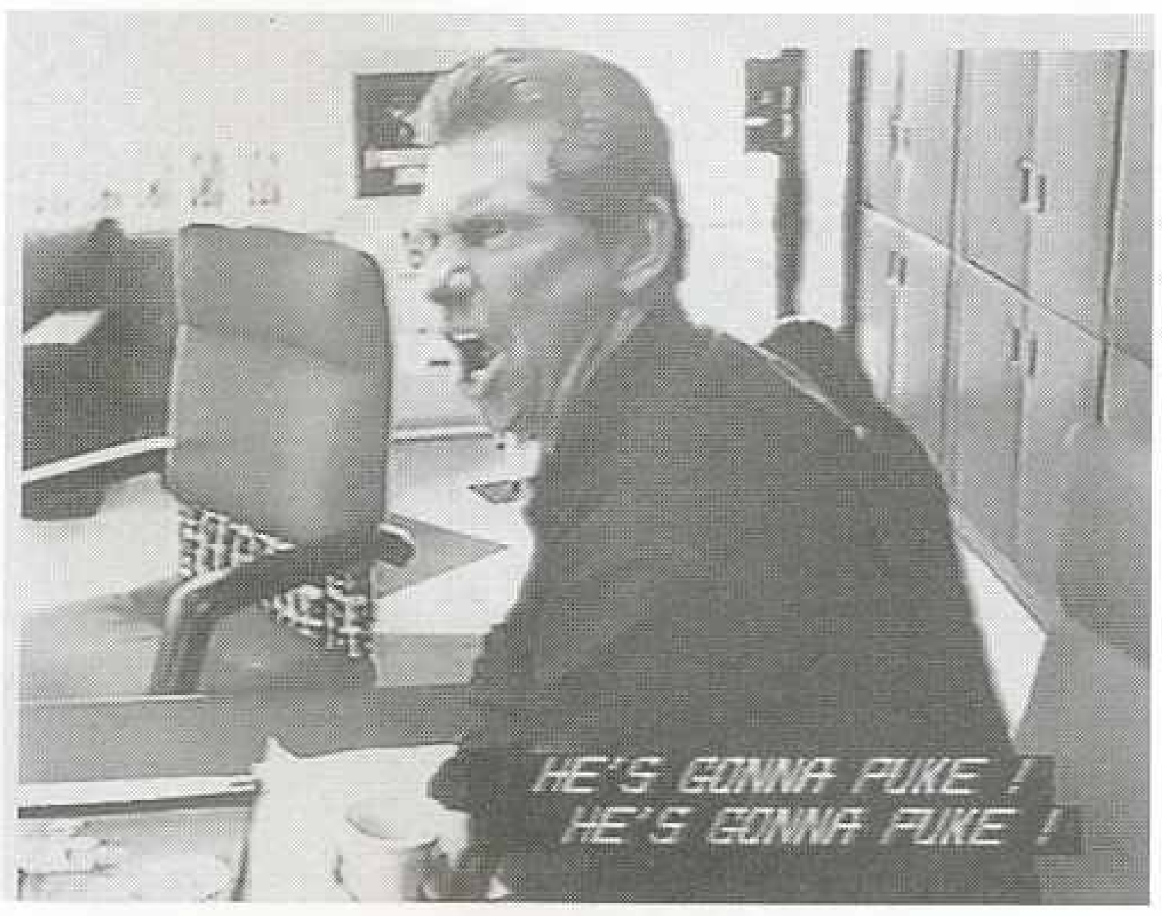
試合直前になると、バックステージにも緊張感が走る。入念なカメラチェックで「決定的な瞬間を絶対に逃せない。梯子から飛ぶ前にアナウンサーを一度見るんだ」と確認。ミックとロックは何度となく梯子から落ちる際のタイミングを確認する。「打ち合わせ」をここまであけっぴろげに公開したのは史上初か？

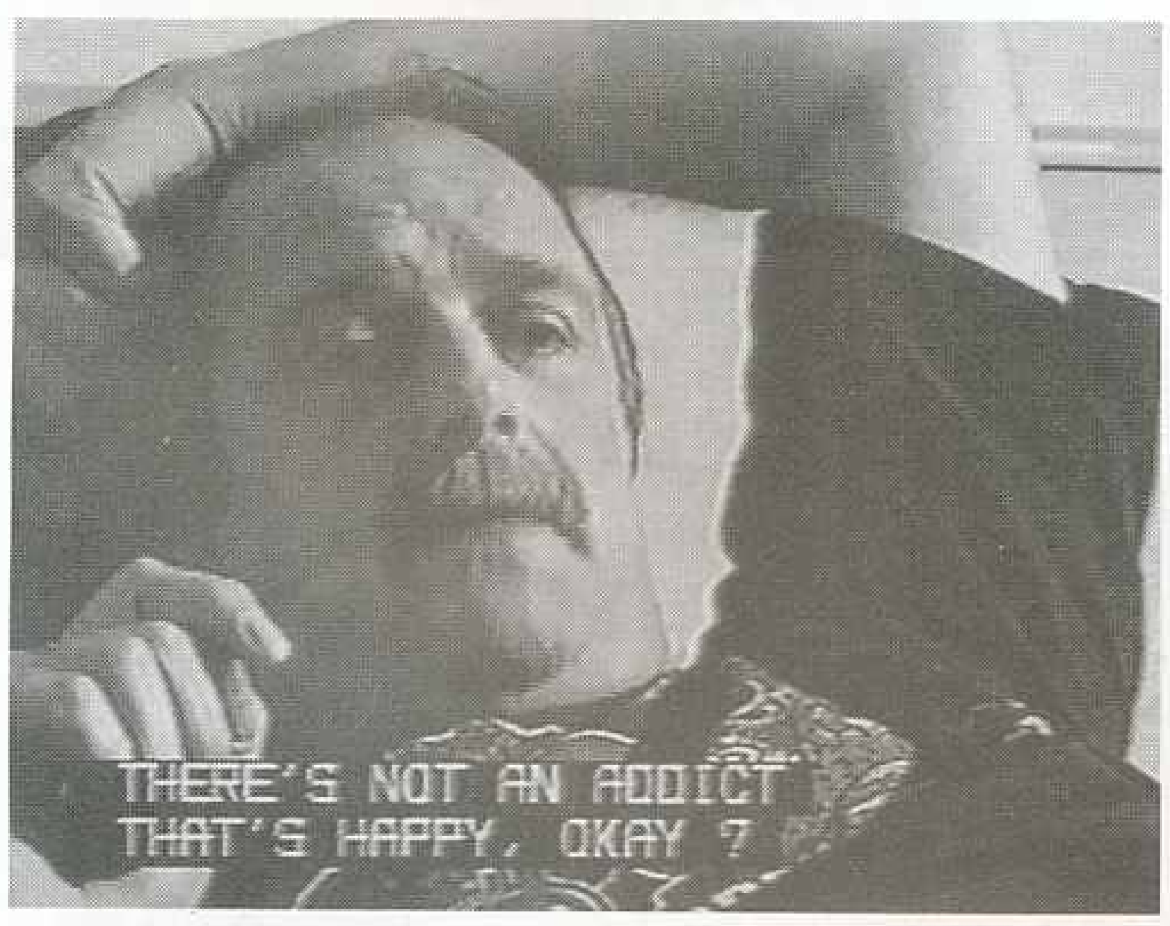
家族が見守る中、試合が始まる。大流血するミック。それを見て泣きしゃくる子供達。遂に、耐え切れず妻は子供を連れて試合の途中で席を離れる。予定通りにタイトルが移動する。ミックは観客に称えられるロックを背に、セコンドに肩を借りてロッカールームへ戻る。ミックは、血を流しながらも子供達に「ダディは大丈夫」と笑顔を振り巻く。

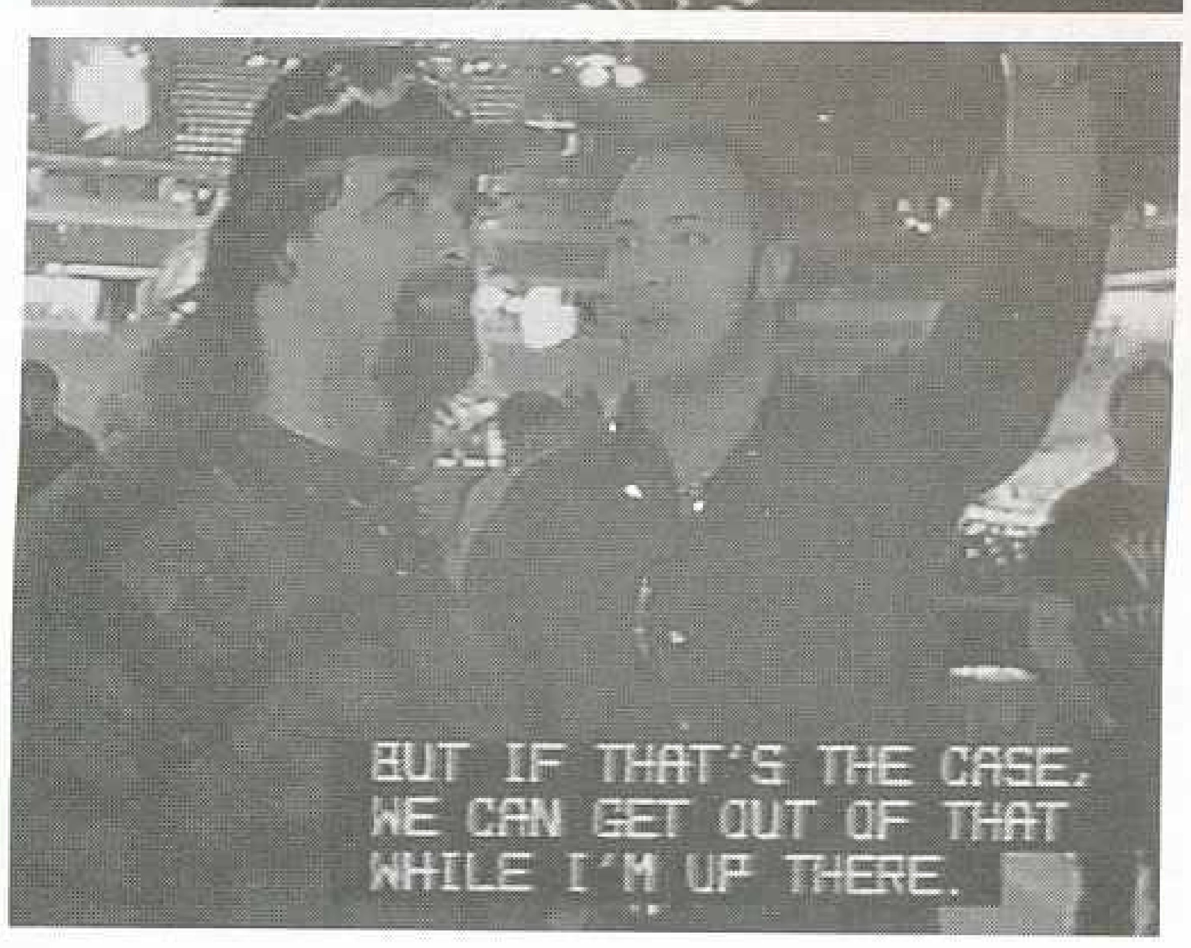
「もう、これ以上は止めて」と妻。会場を去る際、満足そうなビンスと会う。ミックは、「今日の試合は酷すぎたとは思わないか。攻めてた方も辛かったと思うよ」と。「何を言ってるんだ。君のキャラクターは不死身なんだぞ。お前が叫ぶことで観客はエキサイトするんだ。これが、ショウ・ビジネスなんだよ!!」というビンスの象徴的なセリフでその家族の長い一日は終わる。

この作品の中での「情報公開」はあくまでもスパイスでしかない。ただ、それによって制約がなく、自由度の高い、それでいて非常にリアルなドキュメントになり、「プロレス」というものを改めて考えさせられるクオリティの高い作品になったといえる。これを公開してもまったくゆるがないアメリカのプロレスの〝強さ〟にはただただ驚くばかりだ。

というわけで、次ページからはアメリカにおけるプロレス報道の様子を紹介してみたい。







えっ!?　全米最大のTV雑誌に業界用語解説!?

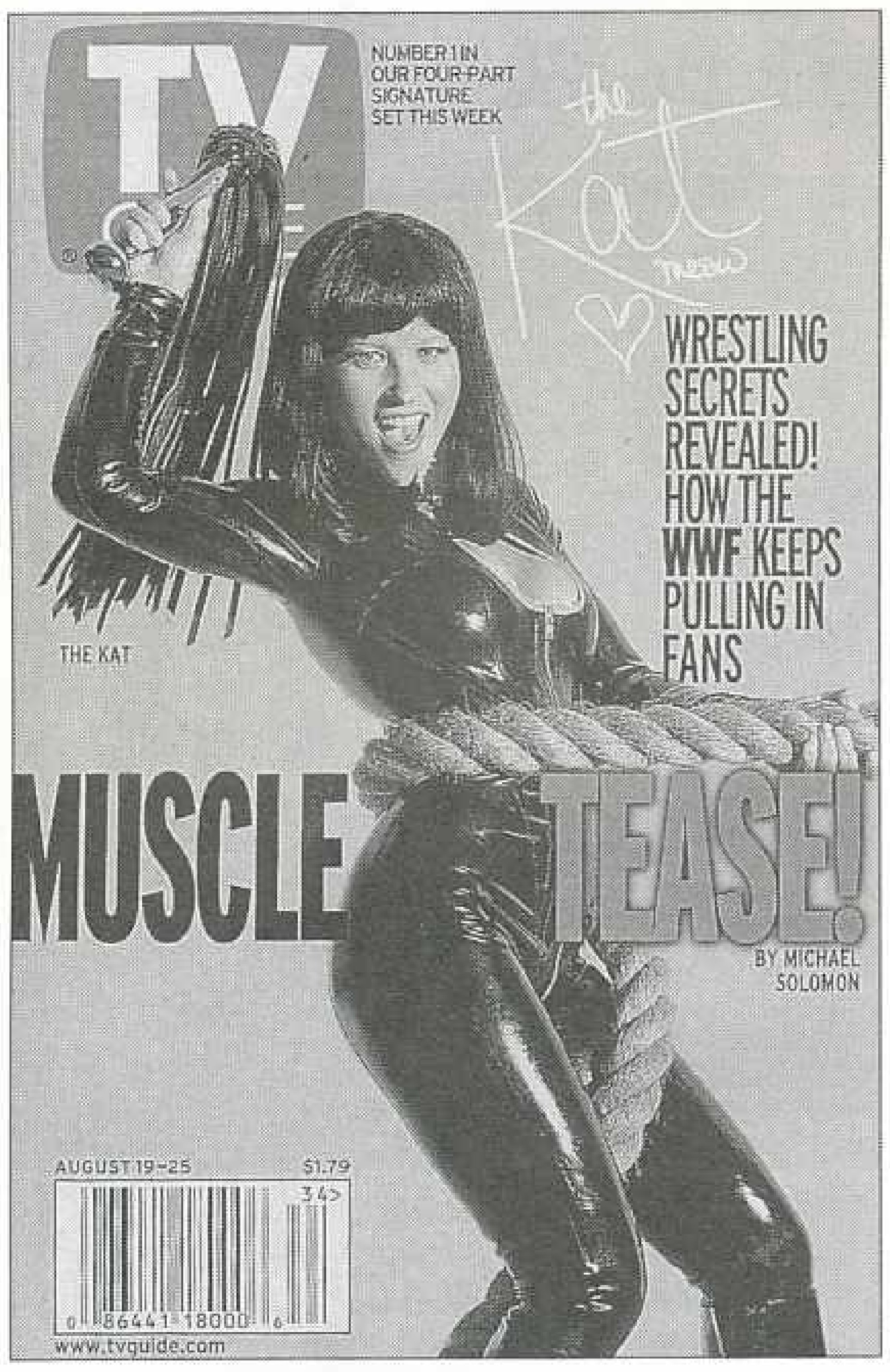
アメリカの情報公開はここまできた!!

～「情報公開」の功罪を徹底検証せよ!!～

アメリカでのプロレス業界の情報公開の波は、新次元に突入した。『TVガイド』という雑誌がある。発行部数は1887万部。新聞より売れているし、週刊少年マガジンの5倍というお化け雑誌であり、もちろん世界最大の発行部数を売りにしている。そのオバケ雑誌の中で、日本で同じことをやったら間違いなく大問題になる非常にとんでもない特集が組まれてしまったのだ！　それがなんと「プロレスの情報公開」だったのだ！

というわけで今回もインターネット上で活躍する“シュート活字”専門家の方々に登場していただき、アメリカでの「情報公開」の現状についてリポートしてもらった

文・シュート活字普及委員会



これが世界最大の規模で全米にバラまかれた問題の『TVガイド』他にもジェリコ、リキシ、アングルらが表紙を飾った

シュート活字最先端！エンターテイメントの国アメリカからの衝撃の現状報告

アメプロの人気沸騰ぶりについては、今更説明するまでもないだろう。月曜夜に裏番組で激突するWWFの「RAW」と、WCWの「ナイトロ」の各2時間を筆頭に、水曜日にはおなじく各2時間のWCW「サンダー」と木曜日のWWF「スマックダウン」が高視聴率をキープ。さらに日曜夜のMTVでのWWF「ヒート」は、TAKAみちのくら普段「RAW」で観られない選手たちと、ロック音楽との合体が斬新な構成だ。その他、土曜のメジャー二団体の再構成番組や、第三勢力ECWまで入れると、膨大な時間のプロレス中継が毎週ガンガン放送されている格好になる。

従って『TVガイド』にとっては、プロレスファンはここ数年間のお得意様なのだ。しょっちゅうプロレス関連の記事が載っているのは、もはや定番であって驚きですらなくなっている。

商売としての『TVガイド』の凄さに関して説明すると、同じ週の表紙だけ複数用意して、マニアに全部買わそうとする戦略が大成功している。プロ野球が話題の週ならメッツとヤンキースの主砲選手の表紙を用意したり、娯楽番組が焦点ならば主役の2名を別表紙にして、両方買わせようとする。

念のために書くと、『TVガイド』はどんな小さなスーパーに買い物に行っても、レジの一番目立つ場所に置いてあるハンディ・サイズの週刊誌である。郵便で定期購読している一般家庭数も莫大だし、良くも悪くもアメリカン・カルチャーの象徴と言っていいだろう。

日本の皆様にとって驚く情報としては、この別表紙作戦が最も成功しているのは、プロレスラー特集の号という事実だろう。人気ドラマの俳優でもなければ、アイドル・ミュージシャンでもない。WWFの熟女セイブル（現在強制引退中）や、エースのロック様、マンカインドの醜いマスク姿、禿頭スティーブ・オースチンが、普段の週以上にバカ売れしてしまうのである。

4種類の別表紙は、ここ2年だけでも4回もやっている。今回の8月19日～25日号は、キャット嬢、クリス・ジェリコ、五輪金メダルのカート・アングル、そして相撲ギミックのリキシ（力士、元ファトゥー）だった。ちなみにこれは売上の順番であり、週の最後にはどこの売店に行ってもキャット嬢は売り切れで、リキシのばかりが置いてあった。大衆は正直なのである。

各選手のEメール・アドレス付の紹介も従来のスタイルとは違っていて、それぞれのキャラの台本とアングル展開までを紹介する。キャット嬢は「実生活では、TV解説者ジェリー・ローラーの彼女」と、本当のことが書いてあってビックリさせられるのだ。

タブーなし！怖いものなし！暴露あり！『TVガイド』の恐るべきWWF特集の中身とは？

巻頭記事の中身の方は、すでにプロレス特集を連発し過ぎて、普通のネタでは興味が持続できないと思ったのだろう。なんと「秘密暴露！　なぜWWFはファンを惹き付けるのか？」と題した、徹底的なケーフェイ破り記事を掲載してしまった。

なにしろ、「これまでは知ってる業界人はしゃべらないし、わかってると言いふらしてる連中は、本当の仕組みを知らない世界、それがプロレスだった」という、思わせぶりな書き出しで始まる。

そして圧巻なのは、禁断の業界用語集を公開してしまったのだから凄い。単行本の読者用なら過去にも例があるし、日本でもインターネットには詳しい解説が掲載されている。しかし、『TVガイド』はお茶の間で、おばあちゃんから子供さんにまで読まれている一般誌である。一部のマニア用のメディアではないのだ。

もちろんWWFはこの特集に全面協力して

本誌No.30の紹介記事に田中正志本人が激怒!! いったい何に怒ったのかというと……

私が紙プロ30号のレスリング・ウィズ・シャドウズ特集で書いた文章は、田中正志氏に見せないまま掲載してしまったので、後日大目玉を食らうはめになった。いわく、「最悪だ、迷惑だ、不愉快だ」「おまえは何も見えてない、誤解を広めた」「　もっと知りたきゃ金よこせ　で、それで実際に一度でも金取ったことがあったか？」などなど。ああ。

しかし、氏は真ジャーナリストとして情熱は失っておらず、近藤が一流柔術家に激勝を飾ったUFC27を現地リポートし、シカゴ国際映画祭で上映された、ガイアの若手に密着したイギリス製ドキュメント映画も追いかけ、と精力的に活動を続けている。

また、今回の　ビヨンド・ザ・マット　特集についても、「俺に書かせろ」と文句を言いつつも快く資料を提供し、またTVガイドも提供、「この記事の著者はオブザーバーの読者で、そもそも俺やデイブのを見て書いたのがアレですから」と格の違いを見せつけている。

「開戦！プロレス・シュート宣言」収録の禁断の業界用語集
http://homepage1.nifty.com/memo8/shoot/terms.html
田中正志氏の昨年12月に行われた講演会の筆記録を販売中！
http://dotalkcaffe.virtualave.net/hanbai.html

文・森下忠（シュート活字普及委員会）

いて、55歳になったビンス・マクマホン代表もインタビューされている。89年のある裁判の席上で、プロレスの仕組みを公開したエンタテインメント宣言以来、WWFは真剣勝負幻想で商売する方法論を破棄した。むしろ情報公開に協力する側に回り、その一方でリングの内外に大胆な演出を導入し、超一流のエンタテインメントとして一般層に幅広く浸透させることに成功した結果、それが逆に今日の大繁栄に結びついたのは言うまでもない。

TVガイドの記事はマクマホン自身の悪役キャラクターを説明しながら、最後に「リアリティはイージー。スポーツ中継なんて見たそのままを伝えるだけ。だけどフィクションはいかに難しいことか」との、代表のお言葉で結んでいる。一端仕組みをばらしておいて、最後は底なし沼の奥深さに読者をハメる構成なのだ。

「リアリティーはイージー。だけどフィクションはいかに難しいことか」（ビンス）

If you smell what the rock is cookin'

例えばスーパースターのロックは、その自伝が20週間もベストセラー・リストの一位になっている。つまり世間一般からも認められた本ということになるが、「お仕事」の仕組みがあっさり説明されている点がミソである。そこでプロレスが勝敗を争う競技だとか従来のセオリー通りの「プロレス本」を書いていたら、ニューヨーク・タイムズの書評欄で取り上げられただろうか？　相手にすらされなかったことは間違いない。

もともとロックは、番組中でも「最もシビレるスポーツ・エンタテイナー」という紹介をされている新人類なのだ。勝った負けたなんかどうでもよくて、ロックの演説にお客様は満足して、Tシャツを買って会場を後にするのである。

アメリカで唯一全国紙『USA TODAY』の日曜版の『USA WEEKEND6月25日号』は、「プロレスvs野球」という派手なカラーの見出しを付け、ロック様とメッツの打撃王マイク・ピアッツァ捕手の写真が目を惹いた。中身はもっと驚きで、なんでも現在アメリカの「国民的娯楽の二大殿堂はプロレスと野球なのだ」と断言しているのである。

ちなみに10月5日の木曜日、『スマックダウン』の視聴率は5・0％で、メッツvsジャイアンツのプレーオフ戦は4・8％だった。

野球関係者が最もショックを受けたのは、10代の視聴者に関してはプロレスが6・7％なのに、野球は1・4％だったことである。

「ウォール・ストリート・ジャーナル」からこの「USA」紙まで、ビジネスとしてのプロレスを取り上げる回数は増える一方だ。必ずしつこい程に、「プロレスはもちろん事前にブックの決まっているショーだが」と書いてある。ジャーナリズムを実践する一般紙では、それが大前提になっており、その上で最近の成功を冷静に分析している。

長年に渡って「プロレス市民権の獲得」を標榜しながら、いつまでたっても世間からは「プロレスは八百長でしょ？」などと言われてしまう日本のプロレス。対して、「超一流のエンタテインメント」と評価されて、株式公開にも成功し、ウォール街からも「総資産規模がビリオン・ダラーの会社だ」と認定されたWWF。

かくして日米のプロレスにおける経済格差は、とりかえしのつかない大きさに広がってしまった。

ロックがはっきりと、「自分たちのやってることはパフォーマンスだ」と書いてるアメリカのプロレスの状況は、「メディアは『東スポ』だけでよい」と広言する長州力に代表されるような日本のプロレスの状況と、正反対に位置しているのだ。

次期大統領はプロレスファンが決める？　応援演説にロック様が堂々の登場！

今年の合衆国は、大統領選挙の年である。一週間続く共和党大会の中日に、ロックらWWF勢の応援演説があり、無事に大役を勤めて強烈な印象を残した。もちろん、あの「If you smell what the rock is cookin'（ロック様が料理する匂いが味わえるかい！）」のお決まりの台詞は、その日のニュース番組のトップ。しかもロック夫妻は、大統領候補夫妻のすぐ下の席に座り、その日は他の応援演説中でも、ずっとプライムタイムの画面に映りつづけてしまったのだ。

WWFの一週間の番組合計視聴者は1400万世帯を超える。若者有権者からの票集めには、プロレス中継は巨大な存在となっていた。もともと特定の政党や候補の支持が目的ではなく、若者層の国政への関心と、投票を呼びかけるのが参加の趣旨だと表明していたWWFは、番組中でも何度も選挙への登録キャンペーンを展開。そしてまんまと、民主党大会の方にも呼ばれてしまったのである。

かくして人気者のロックは、ついにハリウッド映画『スコーピオン・キング』の主演第一作の契約を発表。その額は6億円なのだそうだ。

最後に、これだけは改めて言っておきたい。本誌は、この企画で無目的に「日本も情報公開すべし！」とか「プロレスの裏側はこうなのだ」とかあおり立てるつもりでやっているわけではない。日本のマット界の何倍ものスケールで大成功を収めたWWFという怪物団体が、日本のプロレス界では考えられないようなことをなぜ、どのような目的で公開しているのかを検証することが第一である。そして、これからも継続して日本のプロレスに及ぼす影響や可能性を探っていく所存である。

（坂井ノブ）


THE KAT

games, a theme restau-

AKA: Miss Kitty
SIGNATURE MOVE: Changes wigs and outfits more than Elton John in a 1974 concert
WWF TITLES HELD: Women's Champion
THE KAT'S STORY: After a brief run in the National Wrestling Alliance, the Kat joined the WWF in 1999 as a manager; she was a valet to Debra McMichael and Jeff Jarrett before getting over with the crowd as Chyna's look-alike assistant, Miss Kitty, complete with a black wig and a leather bikini. When she became Women's Champion, the Kat abandoned the Mini Me gimmick. Now a bona fide WWF Diva, the Kat's a fan favorite because of her flirtatious persona and outrageous costumes.
THE KAT'S ANGLE: Although the Kat has been the longtime real-life girlfriend of WWF announcer Jerry "the King" Lawler, the two have rarely blended business and pleasure. The King lusts after the Kat from his ringside seat, but he never lets on that his affection is actually requited.
OBLIGATORY WEBSITE: www.kinglawler.com/stacy.html
WANT TO E-MAIL HER?: StacyMissKitty@aol.com
REALITY CHECK: The Kat (Stacy Carter) was the first female wrestler to go topless at an NWA event, when her shirt was ripped off.

18

『TVガイド』版 禁断の業界用語集

よく聴け！　ベビーフェイス諸君。業界人のようにしゃべりたいかい？　これを読めばアナタもオーバーするぜ！

LISTEN UP, BABY FACE!

You wanna talk like a wrestling pro? Read this glossary, and you'll be *so* over...

ANGLE: [noun] a current plot line
BABY FACE: [noun] a good guy. Also: face
BLADE: [verb] the act of cutting the skin with a hidden razor to cause bleeding
GIMMICK: [noun] a wrestler's persona
HEAT: [noun] a reaction, positive or negative, from the crowd
HEEL: [noun] a bad guy
JUICE: [noun] blood
OVER: [adjective] a wrestler made popular with the fans, as in "putting someone over" or "getting someone over"

ANGLE【名詞】アングル：現在の台本の展開
BABY FACE【名詞】ベビーフェイス：グッドガイ（正義の味方）
BLADE【動詞】ブレイド：隠したカミソリで皮膚を切って流血すること
GIMMICK【名詞】ギミック：レスラーのパーソナリティー、キャラクター
HEAT【名詞】ヒート：客の反応、ブーイングと歓声の両方を意味する
HEEL【名詞】ヒール：バッドガイ（悪役）
JUICE【名詞】ジュース：流血のこと
OVER【形容詞】オーバー：選手が客に受ける状態。対戦相手をオーバーさせる場合も含まれる
POP【動詞】ポップ：選手のムーブ（動き）に関して、突如として歓声が出る状態
PUSH【名詞】プッシュ：　台本上ある選手をより高いランクに持っていくこと。例えばタイトル挑戦の機会を与える
SELL【動詞】セル：対戦相手の攻撃によって、痛がる動作や表情。客に痛みを伝えること
SHOOT【名詞】シュート：マジなこと。リングでの本当の攻撃。ワークの反対語。
TURN【動詞】ターン：悪役から善玉に替わること。その逆も含む。
WORK【名詞】ワーク：フィクションとしてのプロレスの筋書き、あるいはリングでの騙しの構造の総称。シュートの反対語

（編集部注：この囲みはアメリカの「TVガイド」誌に掲載された記事を忠実に翻訳したもので、本誌編集部は一切手を加えていません！）

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン
Champion

【広告のページです】

食欲の秋！ 読書の秋！ プロレスの秋！

チャンピオンは総力を挙げてアナタのプロレス・ライフを応援します！

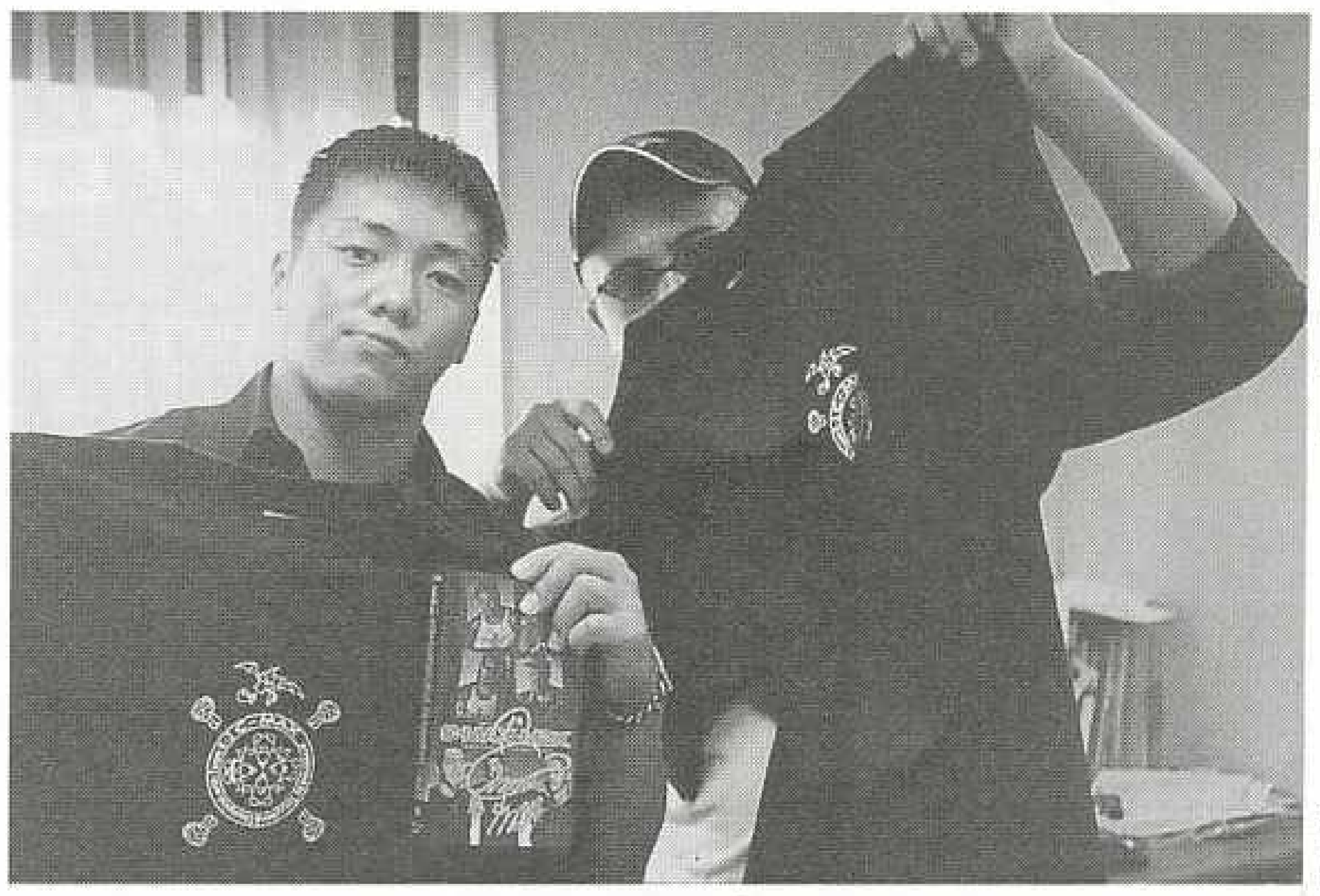


観戦前にチェックしとけ！
クスいグッズをゲッチューせよ！



ザ・オコノミ店長のオススメショッピング！

ざ・おこのみてんちょう■チャンピオン東京店の覆面店長。関西出身なだけに、お好み焼きなのかと思ったら、さにあらず。客の好みにあわせてグッズを仕入れるデキる男なのである。正体は西上馬之助？ それとも、またダンチョー？



11月6日（月）ROCK WESTでCIMAトークライブ開催決定!!

¥6,000（18:00～）

※チャンピオンとC-MAXのコラボTシャツがついてくる!!

10／7チャンピオンで開催されているサイン会に、なんとC－MAXが堂々登場！ 他にも闘龍門グッズ揃ってます！

毎週土・日はSALEを開催中！ 来てや!



10.31 PRIDE11（大阪城ホール）観戦前に

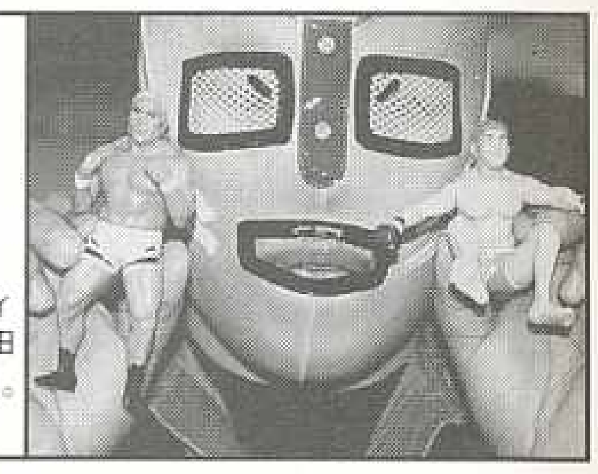


遂に佐竹雅昭と激突することになったオーちゃん長ソデ（¥4500）Tシャツ。秋にはこれを着るしかない！

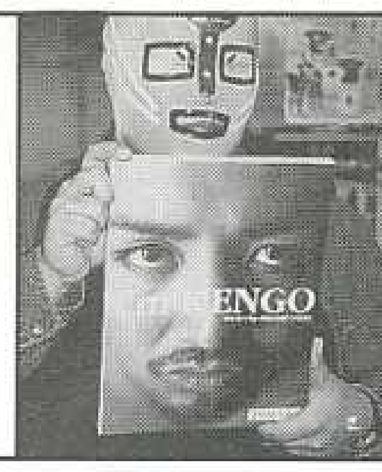


佐竹雅昭死刑Tシャツ（¥3500）なんとも不吉なこのTシャツ、佐竹ファンのみならず小川ファンも買おう!?

遂に出ました桜庭和志フィギュア（¥2100）と藤田和之フィギュア（¥1500）。一家に一体飾るべき！



10.31 パンクラス（後楽園ホール）観戦前に

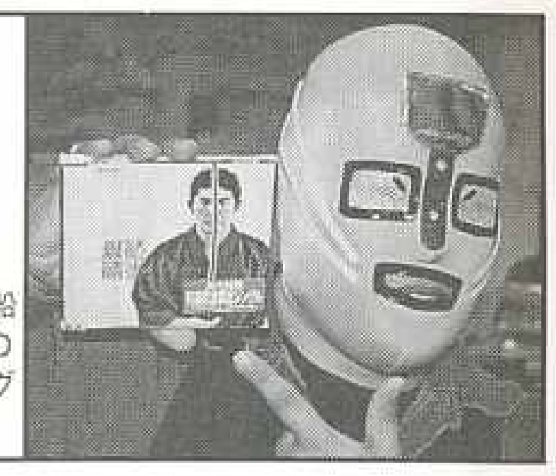


長いブランクから復活を遂げた謙吾の写真集『I'm KENGO』（¥3500）は超クール。すべてがさらけ出してある！



パンクラス4月の横浜文体大会のDVDソフト（¥5040）が登場！ ビッグマッチは記憶に残しておくべき!

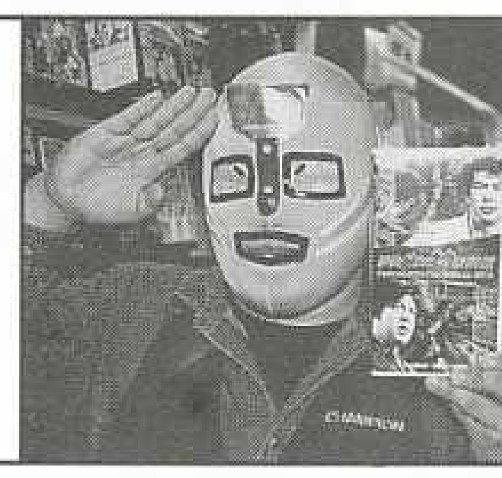
12月に引退興行も行う船木誠勝テーマ曲CD（¥1260）。マキシ・シングルなのが今風ですね。



10.29 掣圏道（有明コロシアム）観戦前に



初代タイガーマスクのDVD 6枚ボックス（¥31500）は、すべてのプロレスファンが見るべき！ ヤバすぎ!



先取り新着グッズ紹介

今年6月の大会『掣圏道vsPRIDE』がビデオ（¥9500）になった! 佐竹の勝利は感動ものだぞ!



なんと、メカニカル・ムタとWWFジュニアを取ったときの藤波が遂に登場！ 定価未定。見つけたら即買いだ！

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ！ いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法！

<グッズ通信販売>

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える！ プロレスファンよ、いますぐ来い！

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金＋送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

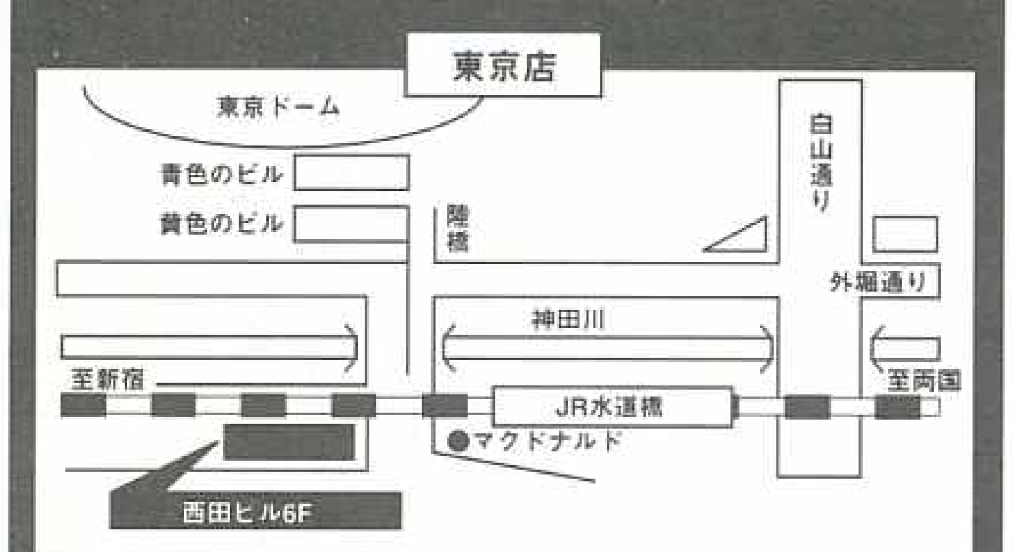
<ビデオのレンタル方法>

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!! レンタル方法は以下の3通り！ どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ！

1. 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
2. 店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
3. TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

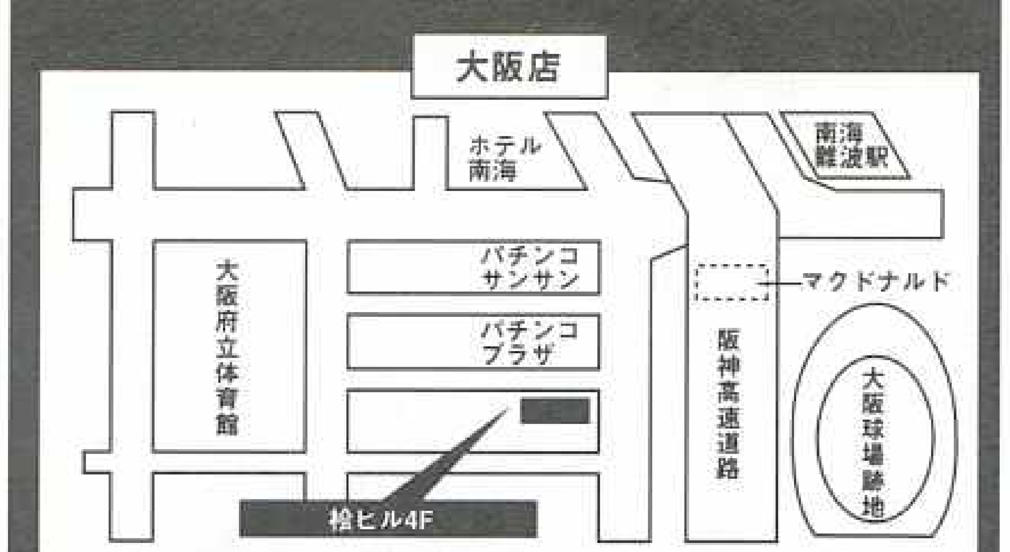
いずれかの方法で注文をお願いします！ 東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店



〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237 FAX.03-3221-6267
営業時間 11:00～22:20（年中無休）

Champion大阪店



〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186 FAX.06-6645-5187
営業時間 11:00～22:00（年中無休）

オフィシャルビデオランキング

ビデオ・レンタルが本業だということが忘れられそうなので、人気のビデオ・ランキングをつけました。借りるときの参考にしてください！

1位 FMW『BACK DRAFT』（東芝EMI）
2位 掣圏道『掣圏道vsPEIDE』（メディア・ファクトリー）
3位 アルシオン『STARDOM2000』（クエスト）
4位 UFC『ジ・アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ』（スパイク）
5位 高阪剛のバーリ・トゥード必勝法（バンダイ・ビジュアル）

人気選手の店頭サイン会、続々実施中！

●CD『ポケットメモリー』購入の方が対象です!!
10／29（日）15:00～17:00 白鳥智香子サイン会
●恒例! カカオプランニング・マスクセール 11／4（土）・5（日）12:00～

※時間等は各店にお問い合わせ下さい。これからも続々と店頭イベントを行なう予定なので、お楽しみに！ また団体関係者の方からのイベント開催のご要望もお待ちしております。

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com

ザ・検証

プロレス点と線

ヤワラちゃん、おめでとう！ 次は恋の金メダルですね！ あと篠原選手残念。あの審判はあれですね、あの、ダンプ松本とかに有利な判定をするレフリーですね。そしてサッカー残念！ 高木がいればなあ。せめて永島でもいれば！ というわけでいきなり時期外れのリードを書いてみましたが、今回もザ・検証が始まります！ おい、検証するんだったらとことんするぞ（棒読み）！ 今回も“顔がストロングスタイル”健介イズム爆発です！

ザ・検証

【今月の検証】 斉藤彰俊&青柳政司、ノアに維震の衝撃!!

byせき詩郎

近頃、元維震軍メンバー周辺が慌ただしい。となると、私も慌ただしくなる（勝手に）。

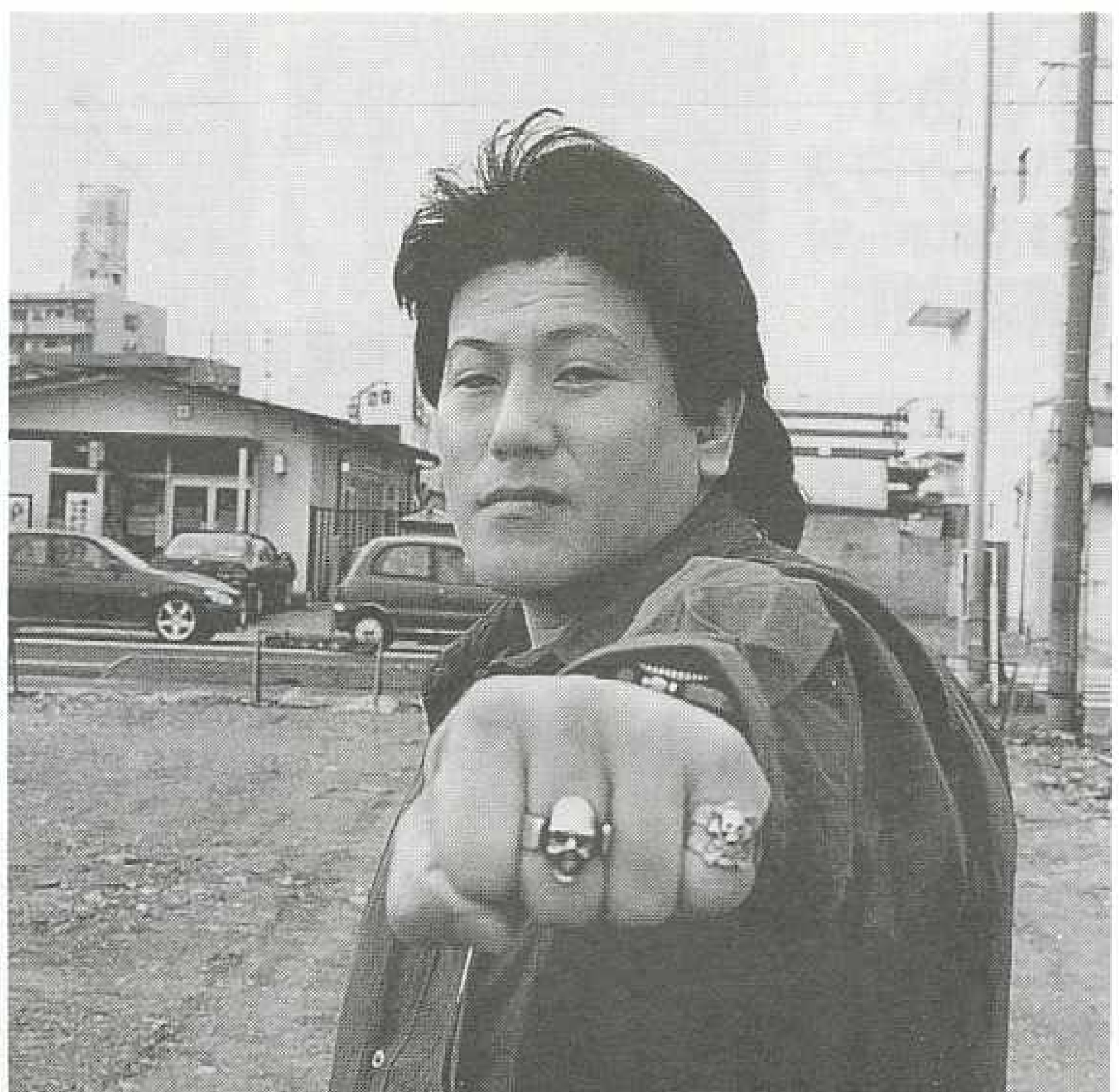
まずは、9月16日、名古屋。新日と全日の対抗戦。蝶野・後藤対渕・ケアというカードが組まれている。

満を持しての元維震、後藤達俊の出陣。思えば新日への外敵には維震軍が体を張って防波堤となってきた。そのスタンスは解散後も変わってはいない。

さっそく私は名古屋へ飛んだのだが、驚いた！ 何に驚いたかって、ヒロの黒さに！ ヒロの肌が真っ黒！ もともと黒かったけどいつのまにか一段と黒くなっているではないか！ いつ、何時、誰とでも、誰がいても肌を焼くのヒロイズムが大爆発している。こんなに肌を焼いていたら10年かかる日焼けも3年でできてしまうヒロイズム。「この肌を焼けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば日焼けはなし。焼けばその紫外線が日焼けとなる。迷わず焼けよ。焼けばわかる」でお馴染みのヒロイズム。相手を十分に日焼けさせ、それ以上の日焼けで勝つヒロイズム。この調子で焼いていくとヒロはどうなってしまうのか！ でもそんなこと言ったら「日焼けする前に日焼けした後のこと考える奴、いるかよ！」と張り手されてしまうだろう。他の格闘家とは覚悟の量が違うプロレスラーの中で、日焼けの量が圧倒的に違うヒロ。とにかく尋常じゃないほど黒い。まるで肌がT2000のユニフォーム！

ヒロの日焼けと同時に、もうひとつ気になったのが、私の後方に座ってた客の越中に対するヤジ。「裏切り者！」だとか「帰れ！」だとかそれは酷いもの。おいおい、何をそんなに真剣になってるんだ！ たかがプロレスの一部じゃないか。裏切るもなにもないだろう。真剣過ぎるんだよ！ だいたいな越中の敵はいつだって蝶野であり新日なんだよ！ 他の選手へのヤジはともかく、越中への悪口は絶対に許さんぞ！（私が一番真剣）

とにかく、後藤登場まで試合は順調に進んでいった。小原と越中もきっちり勝った（タッグマッチで）。川田の家でたくさん練習してきたような挨拶も終わった。健介らしさが十二分に発揮された棒読みアピールも終わった。さあ、



オリンピックで維震軍の旗を持ったり振ったりしてる選手＆客が皆無！ 日本もまだまだだなあ（私がまだまだ）。そういうわけで彰俊復活！ 夢にまで見た復活！ ところで本当に維震軍の夢を見てしまう時があります。

お膳立ては整った！

中西の試合とかでトイレにも行って来たので私の準備も万端だ！

照明が変わり、後藤のテーマ曲が会場に鳴り響く（本当は蝶野の）！ 蝶野を従え、後藤の入場！ ヒロとは対照的な白い肌が映える。相変わらずのふてぶてしさ！

おいおい、後藤カッコいいんじゃない（いきなりタメ口）!?

T2000メンバーがリングジャック！ 後から入場してきた渕とケアはリングへあがれない。それに怒った越中が、どこか慌てながら飛び出してきた！ すると先ほどの後ろの客が「越中引っ込め！」と大ブーイング。こいつはなにを熱くなっているんだか。熱くなりすぎだよ。プロレスの演出じゃねえか。だいたいこのままT2000がリングジャックしてたらいつまでも試合が始まらないだろうが。越中が登場しないと動かないんだよ！ いや、それにしてもさすが越中！ さあ、そのままT2000を全員蹴散らして、一人でリングジャックしてくれ！ うお〜〜！（私が一番熱くなっている）

レフェリーを3人くらい連れてくるといった、越中の実に大人な解決法によりT2000はリングから下ろされた。その時、渕とケアの奇襲攻撃！ これにはさすがにクレバーな蝶野も意表を突かれたか、急所攻撃を受け、リング下へ。はやくも蝶野は戦闘不能だ！

新日勢はもはや後藤一人。試合はいつしか1対2のハンディキャップマッチに。しかし後藤は慌てることなく、ラリアットで渕とケアをばったばったとなぎ倒す。そして今度はバックドロップ！ これには渕もケアもKO寸前！

凄いぞ後藤、強いぞ後藤、頑張れ後藤（私が会場で一番興奮）！ もしかして秒殺じゃないのか!? 秒殺なんてパンクラスみたい（実に単純な表現）！ 早くフォールしろ後藤、早くフォールしろって（世界で一番真剣に見てる私）！

次の瞬間、後藤がとった行動はフォールではなく、なんとアピールだった！ プロだ、実にプロだ。ファンタジスタだ。ゲームでフォールボタンとアピールボタンを間違えて押しちゃったような後藤のアピールは観客の大声援を得ることに成功する。と、同時に大切な目的を失ってしまった。そのアピールの間にケアが蘇生。ほんの数十秒。しかし三途の川を渡りかけていたが向こう岸で死んだおじいちゃんがくるなと行ったためひき返してくるには十分な時間だった。なんだかという技（太陽ケアバスターとかそんな感じ。適当）で後藤が大ダメージを負う。そして後藤が逆に秒殺……。あの時間違えずにフォールボタンさえ押していれば……（ファミコン世代）

以後、マット界はコントの時間が終わり、歌の時間になるように急展開。越中は全日と完全に結託し、MR.Tは大方の「正体は菊池孝では？」という予想を裏切り後藤！ 小原はいつもと同じく気合が入っている（想像）。そしてヒロは相変わらず黒い。

そんな時、驚くべきニュースが入ってきた。維震軍はこの人抜きでは語れない。といったらおわかりであろう。そう、テリー・ファンク、じゃなくて斎藤彰俊の復活だ。沈黙を破り、あの男が帰ってくるのだ！

もういてもたってもいられない。私は仕事（家事手伝い）。お父さんの肩モミとか）を放り出し、再び名古屋へと飛

維震軍復活はもうそこまで来ている!! やはり維震軍とそれ以外じゃ勢いが違うって!!

び立った！　って名古屋ばっかり！　今度の対抗戦（全日の興行）も名古屋だし。（そこで突然ですが名古屋で私を泊めてくれる人募集。プレステ完備で、私が維震のことばっかり話しても「うん、うん、そうだね」と聞いてくれ、「維震軍がいちばん強いのはわかったから、今日はゆっくり休みなさい」と子供をなだめるように寝かしつけてくれる人は今すぐ連絡を！）

彰俊が復活するリングはなんとノア！館長が勝手に決めてきたのかどうかは知らないがノアである。ノアは初めて見る。良く考えてみると旧全日も生で見たことは無い。もし彰俊が上がらなかったら、きっと一生見ることはなかったであろう。つまりその日の興行は彰俊以外、興味がなかった。「彰俊の試合までゲームボーイ（なんかハムスターが占いとかしてくれるやつと、ゾナーっていう人となぞなぞ対決するゲームなど）でもしよっと！」と、せっかく旅行に来たのにゲームボーイばっかりやってる子供みたいなことを考えていた。

が、しかし、ノアはおもしろい！　正直、予想外であった。特に若い選手は新日とは比べ物にならない。運動神経が良すぎる。「この選手とこの選手、あとあの選手も維震軍に欲しいなあ」と維震軍スカウトノートにメモしながら、退屈させない試合運びと驚くような動きにただただ見とれていた。

もちろん若い選手だけではない。「今こうなんだ」と新たな発見をさせてくれた関節技をする志賀。スコーピオってこんなんだったっけと困惑させてくれた、まるで田舎のラップ好き（ヤンキー）のような動き。噂どおりの菊池の玉砕。サイン色紙に「返し技みるならこの人！」と添え書きされるような小川……。維震軍のお馴染みサウナの喧嘩を見馴れていた私の目には新鮮に映る、ノアの〝ホストの喧嘩〟を彷彿させる試合。

そしてラッシャー木村。私は石川啄木の『たはむれに　母を背負ひて　そのあまり　軽きに泣きて　三歩歩まず』という句を思い出さずにはいられなかった。子供の頃新日でみてたラッシャーはあんなに元気だったのに。そして今でもあのままだと思っていたのに。いつのまにか年老いていまいた。高齢化社会は確実にやってきてるんだ。ラッシャーの他、永源や百田、そして若手が入り乱れているこのタッグマッチは、プロレススーパースター列伝のファンクス兄弟の話で、シニアがバーベキュー中「まだまだ負けん」とかいってレスリングをはじめたシーンを思い起こさせ、同時に孫や甥に相撲をとらせている親戚やおじいさん達がいる正月のいち風景を連想させてくれた……。

そうこうしているうち（田上とか多聞みているうち）に、いよいよ彰俊の試合となった。

彰俊の入場。一段と大きくなったように見える彰俊の身体。物凄い形相。気合い十分なのは二階席からもわかる。まるで誠心会館と新日の抗争時を思い起こさせる。久々にみる彰俊。彰俊が動いてる！　彰俊かっこいい〜！（大興奮）

ノアの丸藤&井上側についた多人数のセコンドが緊張感を加速させ、会場の雰囲気を盛り上げる。彰俊がなにやら怒鳴った。その声に押され、私のボルテージもいやがおうなしに上がる。

そしてゴング！　彰俊の蹴り！　重く鈍い音が鳴り響き、場内はざわめく。旧全日（ノア）ファンよ、これが維震の蹴りだ！　見たか、聞いたか、感じたか！　これが維震だ！　まるで授業参観日で「今答えたのが家の息子なんですよ！　ああみえても優しい子でねえ」と聞かれてないのに一人で話しているおばさんのように、私は得意気だ。そうだ、あれが彰俊なんだ！

少しして館長にタッチ。館長がそこそこ頑張って……。

再び彰俊だ！　再び彰俊の鉈を振り落としたような蹴りが炸裂。ノアの人たじたじ。これだ、これが彰俊なんだ！　旧全日（ノア）ファンよ、ちゃんと見てるか？　これが維震だ！　まるでまったく野球に興味の無い奥さんに無理矢理プロ野球を見せ、「ねえ、みた、みた？　今の元木のバッティングを。あれぞ元木の真骨頂だよね。本当に見たの？　本当に凄いと思ってるの？　じゃあ、どこが凄かったのか言ってみて！」とひとりで興奮して、ひとりで怒ってる夫のように、私は興奮状態だ。そうだ、あれが彰俊なんだ！

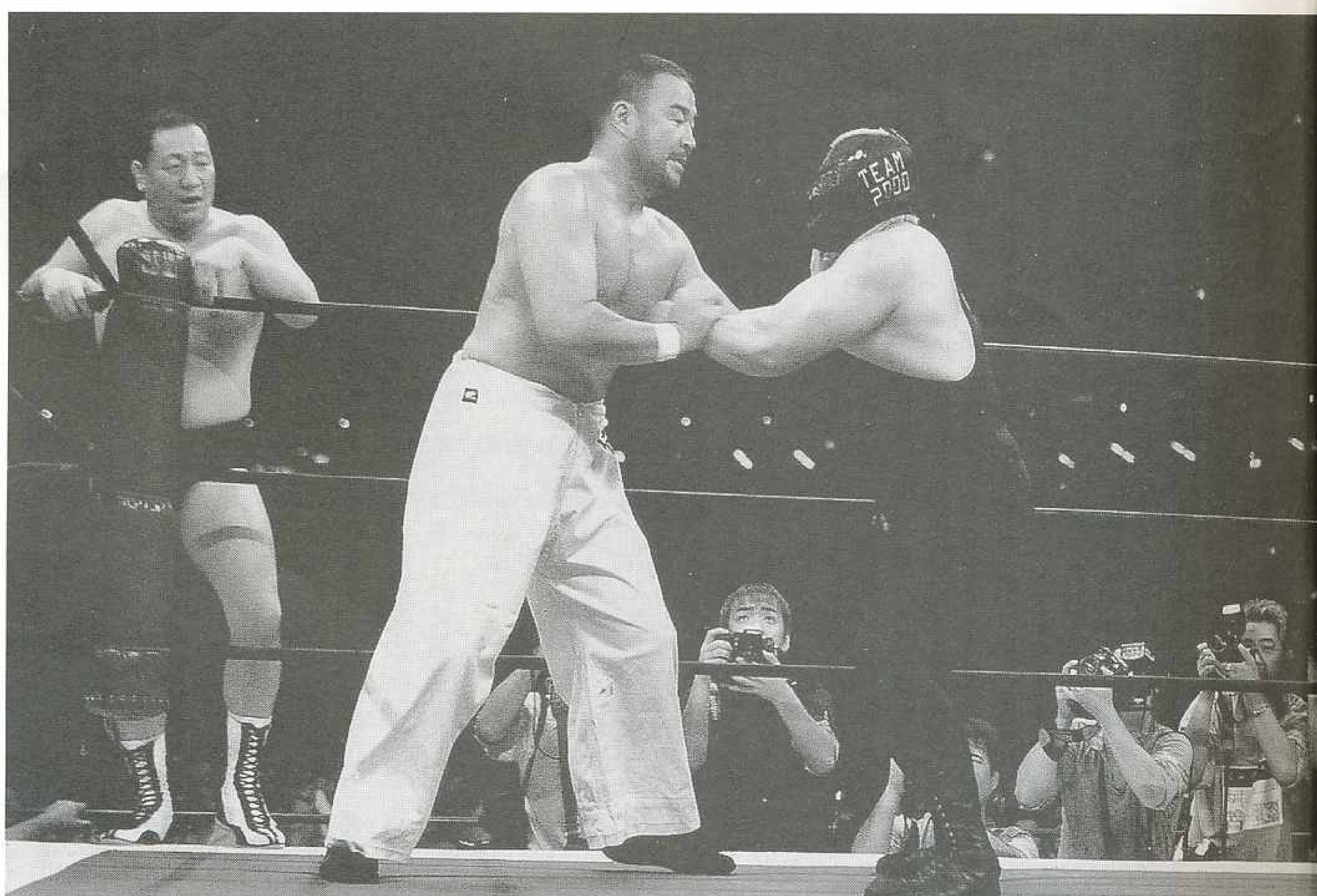
少しして館長にまたタッチ。館長が割と頑張って……。

またまた彰俊だ！　蹴りでダウンさせ、グラウンドへ。新日時代より格段にグラウンド技術がアップしている。素早い動きで腕関節を狙う。ノアの人びっくり！　ただの空手家だと思ってたんじゃないの？　いいえ、彰俊は違いますよ！　まるで「これただの切手だと思ってるんじゃないの？　それが違うんだな。よくここを見てみてよ。ほら、なんかおかしくない？　おかしいでしょ？　小指が長いでしょ。実はこれエラー切手と言って、結構レアなものなんだ」とおとなしい友達に自慢する、ちょっと嫌われ者の子供のように、私は完全にみんなが飽きれてしまう状態になっている。そうだ、あれが彰俊なんだ！

完全に興奮状態となった私は、この後の詳しい試合内容を覚えていない。気づくと、乱闘後、ひとりリングに残った館長がマイクアピールをしていた。そしてもうひとつ大事なことに気づく。編集の坂井君に写真を撮ってくるよう頼まれていたことを。全然写真撮ってないや！

こうして維震の遺伝子が、新日、全日、ノアの3団体にばら巻かれた。21世紀に向けてマット界は維震中心に動き出したのだ。T2000として新日を内部から破壊しつつある後藤と小原。全日として外側から新日をぶっ潰す気でいる越中。そして彰俊&館長と2人に賛同したノア選手で作られるだろう『ノア版反選手会同盟』。私の頭の中では、都合良く点が繋がり線となった。維震軍復活はもうそこまできている！

以上、今回の検証結果は「やはり維震軍とそれ以外じゃ勢いが違う！」に決定！



東京ドームの越中良いとこなし＆天龍大激怒の試合。越中が負けたのだが、その一方では負けにより新日を守ったことにもなるパラドックスが存在する試合。維震軍を偽装解散→本隊を安心させる→そこでぶっ潰す作戦が着々と！

★他のHPとは勢いが違うよ！　せき詩郎HP『平成維震二軍』を見てろって！　➲http://home9.highway.ne.jp/ishingun/index.htm

ザ・検証

【今月の検証】
蝶野はなぜサングラスをかけたのか？

by 椎名基樹

いや〜驚いた、田代まさし。「ミニにタコができた」ができたって、一体どういう意味なの⁉ さらに「この後（盗撮）、タコを買いに行くつもりだった」ってのも、バツグンに意味不明。

田代といえば、ご存じSRSの司会者。格闘技ファンってことになっているけど、確かその入り口は猪木だったハズ。だから、多分この釈明記者会見（終始権藤監督のポーズの）の前、猪木寛至著『燃えよ闘魂』の一節「わたしはどんな苦しい場面に直面しても〝えい！ くそ、やるだけやってやれ〟という開き直りができるのは、自慢ではないがわたしの精神力のたくましさだと思っている」という言葉を思い出したに違いない。

俺も東三四郎も、ピンチの時は必ず思い出す、いわば「逆ギレのススメ」。さらに、田代クン（猪木風）に思い出して欲しいのは、「ピンチの時こそ逆にチャンス」という、もう一歩進んだ逆ギレ哲学（風車の理論）。どうせ、元の場所には戻れないのだから、開き直って『スーパー写真塾』あたりに、盗撮コーナーを持ったらよろしい。盗撮大好きタレントとしての、地位を確立すれば、大好きな盗撮も堂々とできるというもの。

いや、盗撮はできないにしても、全国の盗撮愛好者から、生々しい作品が続々届けられるハズ。大体、全国のマイナーパワーズ（無職、オタク、フリーライター、元週プロ編集長等）は、「田代さんって意外と庶民的な趣味なのね」と逆に好感を持ったハズ。に、してもダジャレビデオって個人的に作って、どこで発表するつもりだったのだろう？ もし、本当にもしダジャレビデオが存在するならば、そっちの方が気になる！

そして、この一ヶ月で、もう一つ驚いたのは、ヤマケン（ヤマケンの〝ケン〟はケンカの〝喧〟！）主催の「タイタンファイト」だ。一体、誰なの、あのおっかねえ、若者たちは！ いつの間にあんなスゲーの育ててたんだ、安生、コノヤロー！

特に優勝した、梁正基選手。体格も良いし、ツラ&風体も不良少年ってな感じで、カッコ良くていいねえ。技術はまだ発展途上かもしれないけど、ケンカさせたら強いだろうなあ。それと、体は小さいが、所英男選手のメチャウマの柔術テクは一体何なの？ 柔術の世界ではもう有名選手なの？ そして、パワーオブドリーム所属ではないけど、俺が一番目をひかれたのは、崔領二選手。ツラ構えもイイし、なんと言っても、身長187？、さらにまだ10代！ そして、所属がカマクラジム！ あんた、ゴルドーの弟子なの？ とにかく、どいつもこいつも、若くて、活きが良くて、ヤングとは言っても30代ってな感じだったライオンどもとは大違い！ 彼らは完全に「VTやるべえ、ケンカだべ」ってな世代。もう、サイは投げられていて（もちろん、修斗とかはもう方向が定まってんだけど）、猪木が何をプロデュースしようが、もう本当に近い将来、彼ら若いやつらの天下になってるのは、一目瞭然。それを育ててるのが、安生ってのが、いいではないですか。ヤマケン&安生とも、がんばってください。

蝶野を「いぶし銀」から「スーパースター」にした最大のギミック・サングラス

と、いうことで検証。テーマは「蝶野はなぜサングラスをかけたか？」。蝶野といえば、世紀末維震軍「T-2000」を率い、現在プロレス界一のスターである。しかし、闘魂三銃士（武藤、蝶野、あと誰だっけ？）時代は、武藤はおろか、橋本にすら一歩先に行かれている、印象があった。

しかし、天山とともにエゴイスト集団（！）を結成し、ブラックバタフライ（‼）に変身したとたん、あれよあれよという間に、スーパースターになってしまった。三銃士時代、蝶野がいぶし銀といったタイプになると予想した人は多いのではないか？

俺もその一人だ。

そして、蝶野を「いぶし銀」から「スーパースター」にした、最大のギミックがサングラスなのだ。それは、何もサングラスが蝶野の暴走族キャラとリンクしたからではない。サングラスが蝶野最大の弱点「笑い上戸」を隠したからなのだ。

蝶野の笑い上戸ぶりが最高に表れてしまった例は、何と言っても猪木&坂口vs蝶野&橋本の控え室の攻防の時であろう。もう説明不要だろうが、あの猪木が「闘う前に負けること考えるヤツがいるかよ！」と叫び、アナウンサーに闘魂を注入をし、そして、そのB面といった感じで、橋本が「時が来た〜」とあまりに素っ頓狂に叫んだので、その傍らの蝶野は堪えきれず吹き出してしまった事件だ。蝶野は笑いを我慢できないタイプなのだ。俺もそのタイプなので、よくわかるぞ、蝶野。その他、サムライTVでゲッター小林とかいう痛いキャラの人を相手にする時など、蝶野が笑いを堪えていることは、今でも度々目にする。それにこの前、「タイムショック」にT-2000が出た時、若手芸人のクビを絞めるドン・フライを見て、嬉しそうに笑う蝶野ったらなかった。

かくして、蝶野はサングラスをかけ、あの人の良さそうな目を隠し、ヒールに変身できたのだ。



担当編集・坂井ノブの
線路歩いて絵を描いて……vol.3

CAT FIGHT WORLD

第7回目

キャットファイト的視点から見た

「女子プロレスとは?」

バトル本店 女子プロレス担当 **橋山**さん

女子プロレスとは?

女子プロレスとは読んで字の如く、女子によるプロレス。だが、それは女子が闘う以上、広義のキャットファイトである! という持論を今回は展開していただきました。

豊富な関節技、複雑に絡み合うストーリーに、大・大・大注目!!

橋山 プロレス雑誌で、我々が語るのもなんなんですが(笑)。

——「キャットファイトならでは」の視点で教えて下さい。

橋山 えっとねえ……前回木根さんが「ガチンコ対決の魅力」でしたっけ?で、女子プロレスのことを言ってましたけど。

——えーと、女子プロレスにお色気を感じるという奴ですね?

橋山 そうそう、それです。女性が男性のプロレスに何かを感じるように(笑)、男性も女性のプロレスには何かを感じるわけですよ。ほら、某バラエティーでもアイドル同士プロレスさせるコーナーとかあったでしょう?

——昔から、アイドルとプロレスを絡ませる番組は多かったですね。

橋山 格闘技には、どこか、そういう部分ってのがあるんだと思いますよ。その、お色気に近いものってのが……。女子プロレスってのは、ほら関節技が豊富じゃないですか。絡み合うんですよ、色んなところ、そういう「絡み」にお色気を感じるんですよね。

——なるほど、関節技。それで、苦悶に喘ぐレスラーの顔が良いわけですね?

橋山 お、分かってきたじゃないですか(笑)。レスラーの場合、特にそういう部分も大事にするじゃないですか(笑)。多分。それも、やっぱりお色気の要素です。

——もちろん、全部が全部ってわけじゃあないですよね?

橋山 そりゃ、そうでしょう(笑)自分はプロレス大好きですから、女子プロレス見ていて「燃える展開だ!」って、熱くなる事だってあります。言ってもいいのかな?

——どうぞ(笑)。

橋山 選手によって見る目が変わります。

——……なるほど……。

橋山 大きくないスレンダーな選手とか、小さい選手とか、可愛い選手とか(笑)そんな選手同士の試合は、どうしてもお色気目当てで見てしまう。

——○○選手とか、好きですね?

橋山 彼女の場合は、シチュエーションも良いですよ。強くなりたって気持ちが伝わってきますもん。でも若手に負けちゃったりして……。そう、女子プロレスのいいところって、シチュエーション、ストーリーがあるって事なんです!

——と、言いますと?

橋山 ライバル関係や、因縁対決などプロレスにはかかせない燃えるシチュエーションが、良いんです!

——前回のガチンコ対決でも、シチュエーションが大事だと言ってましたよ。木根さんが。

橋山 そうですそうです。だから、「コイツだけには負けたくない!」という選手に、負けちゃう瞬間とか。しかも、関節技かけられて、どうする事も出来なくて、最後の最後でギブアップしちゃう瞬間!!

——そこにお色気を感じるんですかぁ?

橋山 感じます。キャットファイト好きな人なら、絶対に感じますって! そういう、バック(ストーリー)があればこそ、女子プロレスに魅力を感じるじゃないですか。

——どんな競技でも、選手一人一人にストーリーはありますが……。

橋山 ドラマなんですよ、ドラマ。若手の頃から散々ライバル関係きづき上げて、中堅の頃にタイトルマッチなんかやっちゃって。それで、もう相手の技とか知り尽くしている同士が力尽きるまで戦う!

——女子プロレスの魅力ってのは、華麗な空中殺法や、トリッキーな返し技、女子ならではのマイクアピールなんかを想像しますけど。

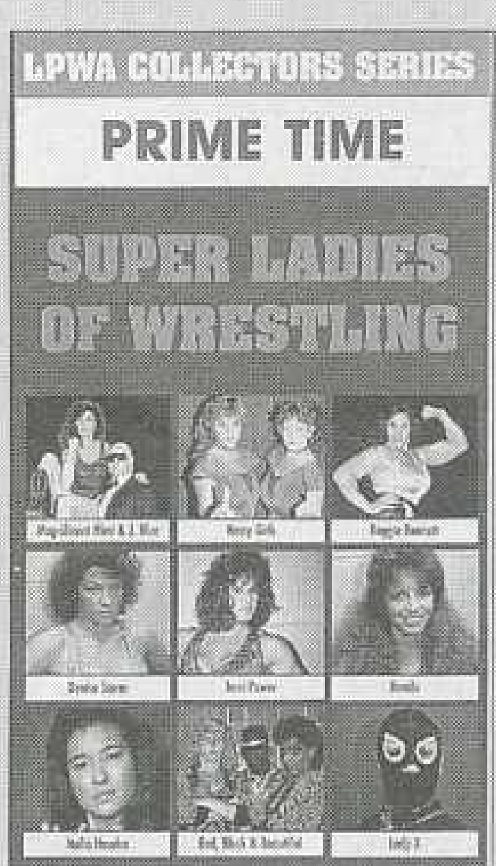
橋山 キャットファイトならではの視点でって言ったのは自分じゃないですか……(苦笑)。海外キャットファイトでは結構あるんです。ストーリーのあるキャットファイト。好きな男性を取り合って、キャットファイト。とか、某国と某国の女スパイ同士がキャットファイトとか(笑)

——ドラマ性が重要。なるほど。

橋山 豊富な関節技、複雑に絡み合うストーリー! 女子プロレス界はこれからも、本当に頑張って欲しいです!!

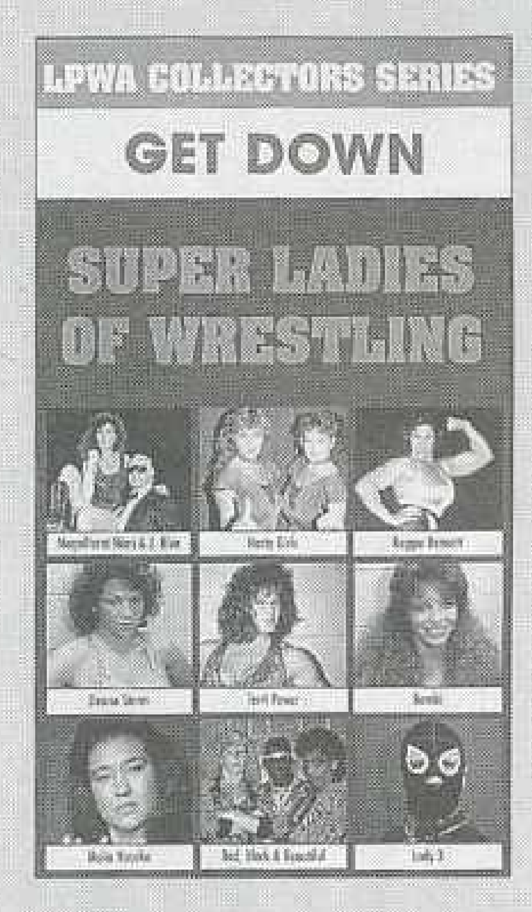
今月のオススメビデオです!!

PRIME TIME LPWA-20



とにかく凄い数の試合を詰め込んだオムニバス盤。マニアの間では、非常に評価が高い伝説のアメリカ女子プロレス団体・LPWAの作品。デスピナやレイ・ラニ・カイやスーザン・セックストンの勇姿に涙せよ!
(89分)¥8,000

GET DOWN LPWA-23



日本でおなじみのレジー・ベネット姉さん、涙なくして見られないマリア・ホサカなど、とんでもなく懐かしい選手が大挙襲来! あなたがもし女子プロレス通を自認するならば、このビデオを避けては通れないゾ!
(88分)¥8,000

たとえ「純プロレス」がこの世から絶滅しようとも

愛すべきプロレスバカたちの「不純プロレス」は不滅よ♡



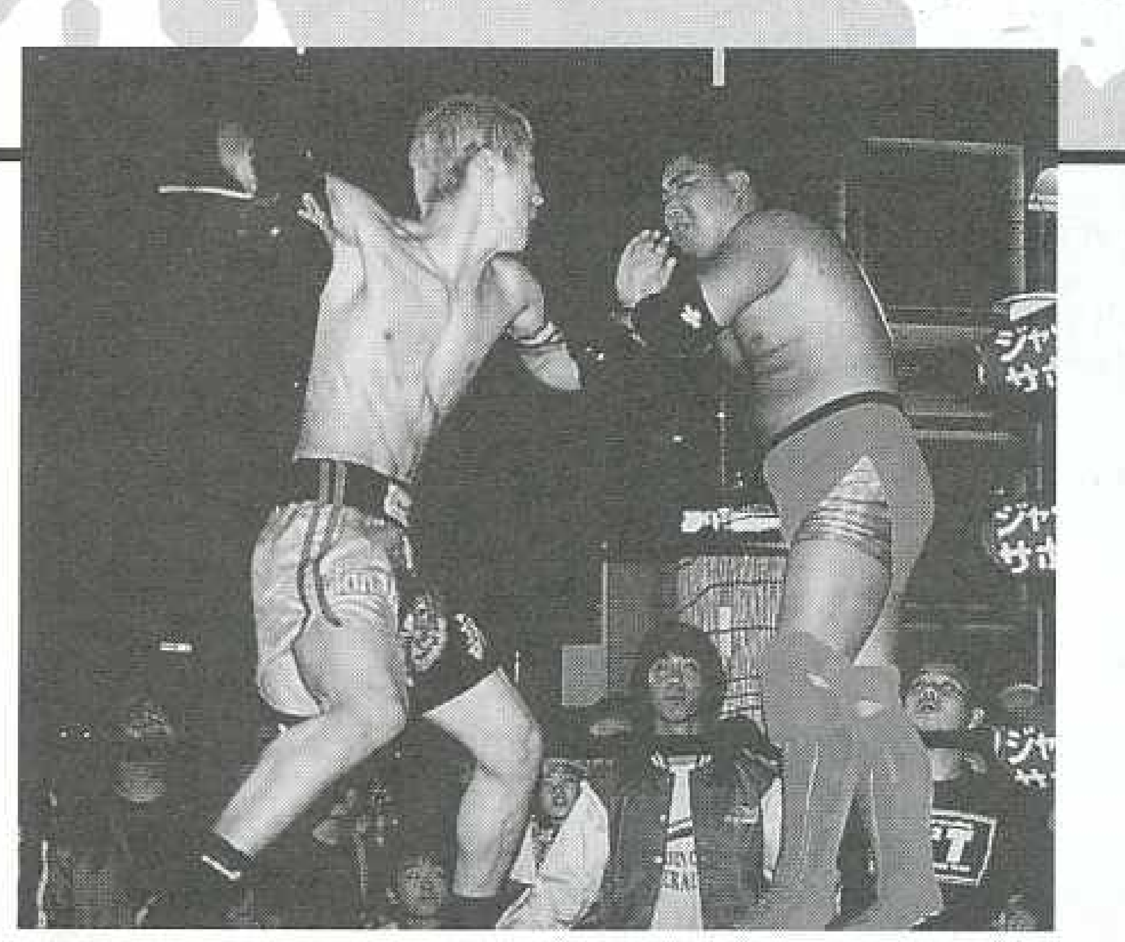
狂い咲きインディーロード

～本誌注目のミニマル団体観戦記～

こんちわーッス！『紙プロ』練習生の幸田珍です。メジャーもろくに知らないのにインディーのことなんて語れるわけないんですが、元魚屋の意地にかけて、勢いだけでいかせていただきます。ヘイッ、いらっしゃい、いらっしゃい！　よっしゃーっ！　日本全国に散らばっているインディーファンの野郎共だけに、あまりに鋭いピンポイントでブチ込む『狂い咲きインディーロード』。移り変わりの早いインディー界と秋の空、しっかりついてこないと置いてかれるぜ！　今月も狂い咲け――ッ！（今号のモデル＝荒井薫子）

DDT
DDTはプロレス界のスマップになるかも？

（文・幸田珍）



高田慎一選手との体格差もノー問題。真正面からのド派手な打撃戦でタノムサクは会場を盛り上げた。ちなみにタノムサクの母来場。

ズバリ言おう。タノムサク鳥羽の命はあと2年！（妄想）。不治の病にかかっているとか、そんな理由ではなく、彼の過激な試合スタイルが寿命を縮めてるのだ。

プロレスに疎いボクは少しでも知識を増やすために、スキあらば会場へ行き勉強中の身。そこで見つけたのが、アンディ・フグなき今、最もオカモチが似合うキックボクサー兼レスラーのタノムサク鳥羽だ（中華料理店「紫苑」勤務）。彼は身長175センチ、体重65キロと一般成人男性そのもの（以下？）の体で毎試合、幾度となく脳震盪を起こしては立ち上がる、ある意味危険な男なのだ。空手キッドを自負するボクのマメ知識では、キックやボクシングなどの打撃系の試合は、1ヶ月ぐらいは試合間隔をおくのが常識である。しかしタノムサクは格闘ターミネーターのジェレミー・ホーンをも凌駕するほどのハイペースで闘い続ける。タノムサクとMIKAMIのタッグチーム「SUICIDE BOYZ（自殺少年）」の名に偽りなし！　そんな試合スタイルだから、さぞやタノムサクは強面キャラかと思いきや会場中の観客の手を、はしゃぎながら無差別的に叩いて入場するヤンチャなお兄さんの一面も。ヘラヘラしてるが、やるときはやる。そんなギャップに女の子は絶対弱い（ハズ？）。もしボクが女の子だったら、一発ヤラしたるを通り越して子供産みたくなるちゅうの！

ボクが見た数試合の中から、勝手に選ぶタノムサクのベストバウトは、木村浩一郎＆「昭和」対タノムサク鳥羽＆MIKAMI戦（9・21）。特にタノムサクと木村のバチバチのシバキ合いは最高！　木村は破壊力抜群の上段蹴りでタノムサクをぶっ倒すと、立て続けにサッカーボールキック！〝ドゴォーン〟というおよそ人間の背中を蹴った音とは思えないほどの強烈な一発。妄想好きのボクは「木村がもしシドニーでPKを蹴っていたら日本はアメリカに負けなかったのに」と思うぐらい素晴らしいキックだ。しかしタノムサクもやられっぱなしではない、いったん攻撃に転ずると相手の体に「これ以上やったら死ぬだろ！」パンチ、上段、中段蹴りの速射砲。やられた分のダメージを、きっちり倍以上返すという礼儀正しさ。やってもやられても度がすぎる男、タノムサク。ボクはそんな彼氏に夢中です。

今やプロレス誌よりもTV（遂にNHKにも進出！）、一般誌（『週刊宝島』で連載中の高木三四郎伝説、『ホットドッグプレス』の驚愕の9ページ大特集、その他諸々）の方が露出が多いという、他の団体が羨むほどに世間の取りこみに成功しているDDT。〝自由ヶ丘女神祭り〟の前夜祭として、行われたDDT興行（10・7）は商店街のど真ん中の駐車場が会場となり、ゴザシートと立ち見のみと常打ち会場である渋谷クラブアトムとは、かなり趣が違う空間だ。お祭りだから当然プロレスファン以外の人たちの姿も見られた。そんなプロレス無関心層も三四郎のファイトとヒットラーばりの大衆心理を熟知したマイクに煽られ、思わず、ファイヤーポーズをとるマダムもいた。これぞイッツ、サンシリュージョン（珍・命名）。DDTについて、ある自由ヶ丘マダムは「最初ね、私はプロレスをやるって聞いたときは、野蛮でこの街にふさわしくないわ、フン！って思ってたのよ。お酒もでるって聞いてて、暴動でも起きるんじゃないのって、奥様会でも問題になってたのよ。でも見てビックリ、すっごい楽しいじゃないの。結構いいものね、プロレスって」とご満悦の表情でお話してくれた。DDTは、今やコギャル層はおろか奥様層（たった一人に聞いただけだが、んなこたぁどーでもいいんだよ！）までも取りこみ、プロレス界のスマップ的存在になる日も近い。「昆虫占い」でテントウムシのボクは、大樹に寄り添うことが得意。いずれプロレス界の大樹になるかもしれないDDTにボクはすり寄りたい！





（写真右）祭りの女性スタッフもタノムサクをお気に入りの様子。ちなみに後のリングは傾いており、かなり闘いづらそうだった。
（写真下）三四郎集会は自由ヶ丘でも大好評、なかには「ヒュー！」と奇声を発するマダムまででた。三四郎の魅力はもはや老若男女かかわらず心を鷲掴みにしてはなさない。

大日本プロレス
突貫小僧　葛西純　俺のデスマッチ論を聞け!!

（文・三浦店長）

デスマッチの〝デス〟は死なんです。デスマッチは常に死を連想させなければダメだと思う！



葛西純

二千年の葛西純の夏は暑く長かった。大日本プロレスが団体として注目と露出が増加し存在感が徐々に開花しつつあった時期、その本論とサイドストーリーとは無縁に炎上しまくったのだ。4・30札幌で蛍光灯ボードデスマッチ、5・3秋葉原でファイアーデスマッチ、7・30大阪でファイアーデスマッチ、8・6秋葉原でファイアータッグデスマッチ、8・28広島でファイアーデスマッチと、よくぞここまでと思う程短期間に闘いまくった。

常にデスマッチ四人衆の影に隠れてしまう微妙なスタンスに立ちながらも、試合におけるインパクトとバンプは追随を許さないのだが、悲しいかなメディアに登場する機会は多いとは言えないのだ。会場人気は高いのに専門誌等ではあまり取り上げられない葛西純の道場のある鴨居の地で語ったデスマッチに対する意見、そしてプロレス観を耳をそばだてて聞け！（参照＝紙プロR26号）

「本間選手もそうかもしれないですけど、自分はデスマッチがやりたくて大日本に入門したんですよ。前に『紙プロ』のインタビューでも言いましたけど、自分のプロレスラーとしての憧れはW★INGで輝いていた頃の松永選手でした。あのパンパンに張った筋肉と存在感には打ちのめされました。最初に有刺鉄線ハチマキをまいて入場してきた試合があったじゃないですか。あれはカッコ良かったですよねー。自分のプロレスのルーツは間違いなくあの頃の松永光弘です！」

体格的にはジュニアの範疇に入る葛西選手が常に大型選手と闘い続けているが、そのことについては、

「自分はジュニアの闘いについては全く興味がありません（キッパリ）。これは生意気なことを言っているんじゃなくて、はっきり言って出来ないんです（笑）。飛び技も苦手ですし、切り返しの機転もあんまりきかないんで。それに大日本には、ティオーさん、茂木さん、ウィンガーというキャリアもあって視野も広い選手がいるんで自分は入り込めませんよ。ファンタもうまいし、伊藤も出てきたし。それよりも自分は大きな選手相手に正面からぶつかるデスマッチでガンガン行きたいですね。

それで、プロレスにはポリスマンっていう役割があるじゃないですか。初来日で実力も技も何もわからない選手の力量を計るために最初に当てて試すレスラーって。自分はそういうの結構多いんですけど、向いていると思うんですよ。ウチの団体はムチャな外人が多いから最初の試合って何をされるかわからないんで無気味なんですけど、度胸一発でカミ合った試合にして初めてのムーブと技を受けきるっていうのが自分は好きなんですよ。

CZWの時もそうでしたけど、ホチキスや芝刈機を日本で最初に食ったのは自分ですからね。CZWのデカイ奴等も自分も正面から行く方なんで、今の闘いは正直ややりやすいし面白いですよ」

そして葛西純の表現するアングラなデスマッチとはいったい何なのか？

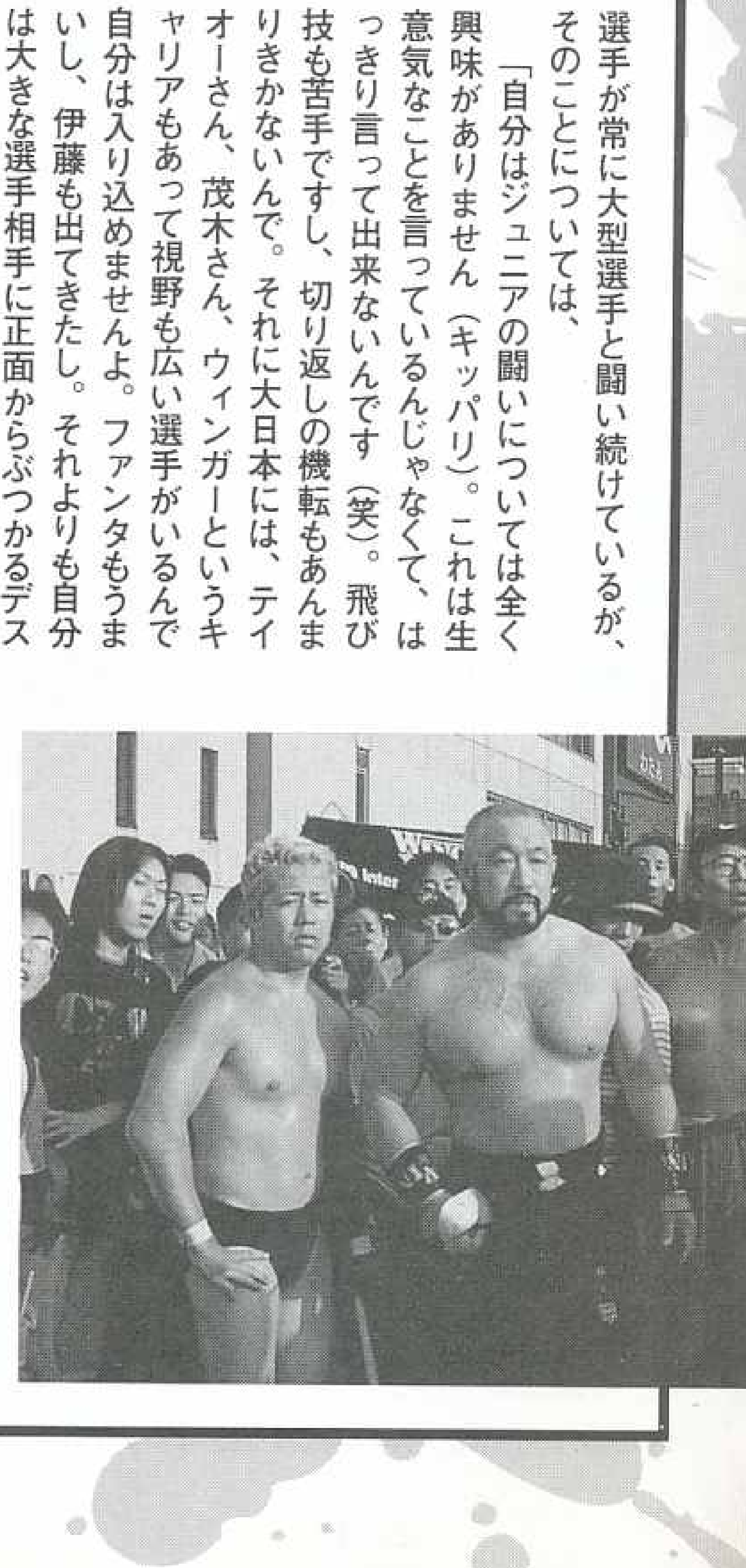
「ウチの団体の上の人達はデスマッチに対する考え方が違っていて、それが大日本のデスマッチを面白くしていると思うんですよ。これが、みんな同じ方向を向いていたら危険性とかがもっと先鋭化されてファンも離れていたと思うんですよ。その中でも自分は根底がW★INGですから一番考え方が過激かもしれないですね。ハッキリ言いますけど、デスマッチのデスは死なんです。デスマッチは危険なもので常に死を連想させなければダメだと思うし。勿論本当に死んでしまうのは論外ですけど、それ程の緊張感を試合で表現しなければいけないし、ギリギリの線までを肉体を酷使して生還するのがプロだと思いますから。だから自分のデスマッチはグロくなってしまうのかもしれないですけど、デスマッチと名の付く試合をする以上は死と向かい合わせの闘いを見せたいし、ギリギリで受けきる自信もあります。プロとしてのプライドを持って闘っていますから（キッパリ）」

「自分は絶対に本間選手のような爽やかなデスマッチはできません。もっとドロドロした葛西純のアングラな試合を観てもらうことしかないんです。確かにこんな考え方だから観客を選んでしまっているのかもしれないですけど、ハードコアではないデスマッチの本質は自分の考えで間違いないと思います。何度も言いますがデスマッチのデスは死なんです。そこまで表現できない試合は名前を変えてください」

「秋葉原で松永選手と組んでCZWと闘ったファイアーがあったじゃないですか。自分はあの試合は思いっきりハジけることができて大満足してたんですよ。多少見づらかったかなというのはあったと思うんですけど、内容については最高のことが表現できたと思っていたんですよ。でも、あとで専門誌を見たら随分叩かれていて……。そんなに悪い試合でしたかねぇ？　ファンからも、『満足した』とか『凄かった』とか言ってもらったんですけど、雑誌の力は大きいんで、誌面だけ見た人はきっと誌面通りの試合だったと思うんですよ。松永選手も満足していたみたいだし、難かしいですよねぇ。専門誌とかでも一方的に書きすぎなんじゃないかって感じたりするんですけどね。やっぱり自分に声をかけてくれたファンの意見とかも載せて欲しかったですよ」

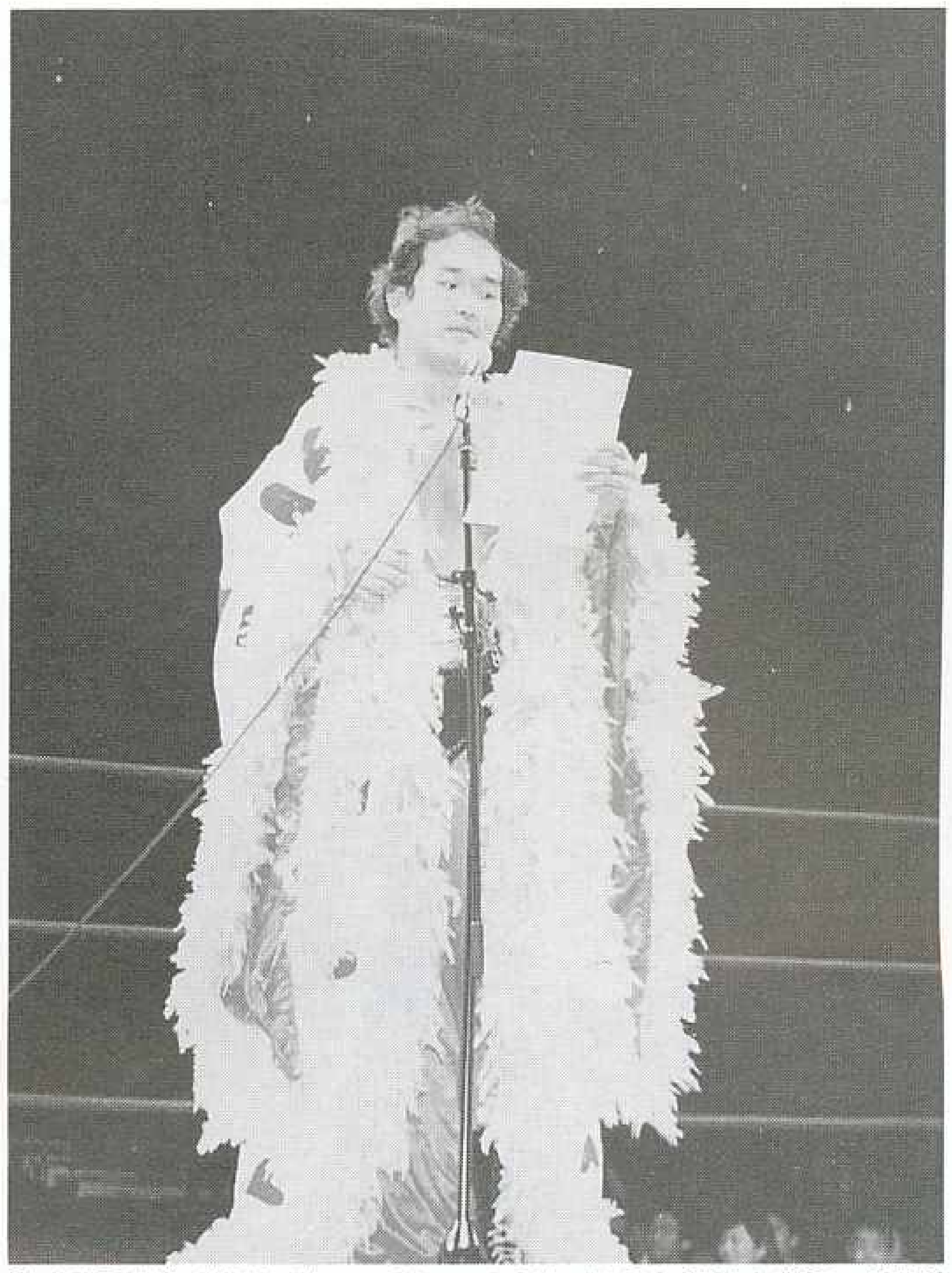
そして最後に、葛西選手の破天荒な夢は、

「ブラジルに渡って、ビーチでグレイシー一族の誰かを有刺鉄線バットでボコボコにしたいですね。それで『大日本のリングで待ってるぜ！』と言い捨てて夕日を浴びながら去ったりして」



大仁田興行、大仁田劇場第二幕開演！ その裏で、悲しき天才がまたやっちゃったよ

（文・アビバ）



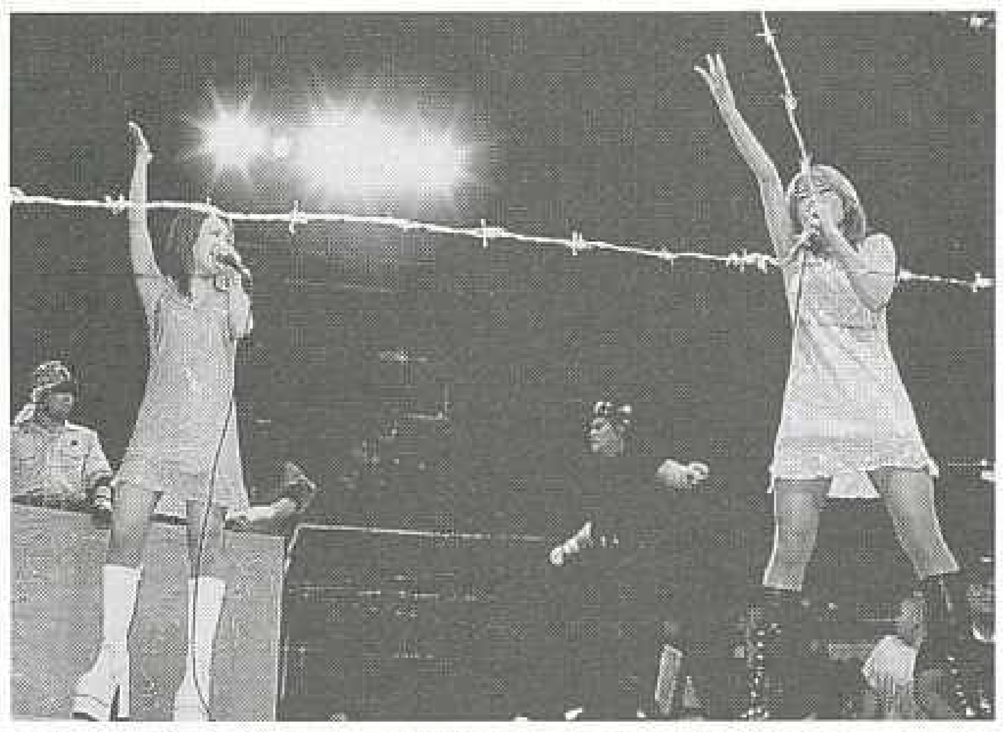
「あまり長過ぎて客引かせちゃってさぁ。この後、『よろしく猪木』（作詞・作曲ジニアス）を歌う予定だったのに」と反省することしきりのジニアス。

長州との一戦を終えて始めての大仁田興行。メインで無事に土地権利書奪還マッチに勝利した大仁田は、親戚のトメさんに無事権利書を手渡し、下町の消え往く駄菓子屋の火を守った。あっちゃんとトメさんとの感動的な涙のフィナーレ……っと思いきや、これは単なる大仁田劇場・第2部の序章に過ぎなかった。果てしなく続く大仁田劇場、大仁田の自慰行為は終わりを知らない。とにかく、詳細は他誌あるいはテレビで確認して候。

ところで、今宵の主役は、本当に大仁田厚っだったのか？ 確かに、大仁田は自ら参戦の決まった全日本と新日本との対抗戦交渉役に名乗り上げ、渕よりも自分が適任であることをマスコミ各社に訴えた。しかし、もっと凄い人を名指しで指名したガイがこの興行にはいたのだ。各種マスコミが敢えて触れることを恐れ、真実を抹殺しようとしているようだが、『紙プロ』はそんな事なかれ主義を断固として認めん！ そのガイの名は、本誌ではお馴染みの悲しき天才セッド・ジニアス！

フレアーをも凌駕した優雅な衣装（自称）に身をまとい登場したジニアスは、入場早々にマイクを握り、「デス・イズ・ウォ！ ワッチュ・ゴナ・ドゥ？（これは、戦争だ。どうするんだ？ 殺るか、殺られるかだぞ）」と鉄人から学んだモノの一つと思われる鉄人イングリッシュはヒネリ具合も笑撃的な一発だった。推するに、彼のナゾ掛けはすでにここから始まっていたのだろう。この先制打で完全に主導権を握ったジニアス。終始、スーパー・トーキョー・トムを圧倒しての秒殺劇。そして遂に、驚くべき言葉が彼の口から漏れた。「大仁田厚が長州力をリングに引っ張り上げましたが、私はアントニオ猪木にリング上にてプロレスというものを教えていただきたい」（ジニアス本人より本誌宛に送られたコメント原稿より抜粋）。何と、アントニオ猪木への対戦表明だぁぁぁ。猪木さん、目を覚まさせて下さぁぁぁい！

このピュアハートは本物かと思い、直撃単独インタビューを敢行するも「後は、マスコミさん次第です」と何とも肩透かしな一言、本気なのかジニアス！ でも、後日『紙プロ』編集部を尋ねて来た際、大量の缶コーヒーを差し入れして下さったジニアスさん、我々はそんなあなたを前面的にバックアップします（どうやって？）。ということで、猪木さぁぁぁん、ワッチュ・ゴナ・ドゥ？



世の中、金だぁぁぁ！ 金があれば女の子でも無問題と、中牧が連れ来た女の子達。僕は、右かな？ でもどっちも最高！

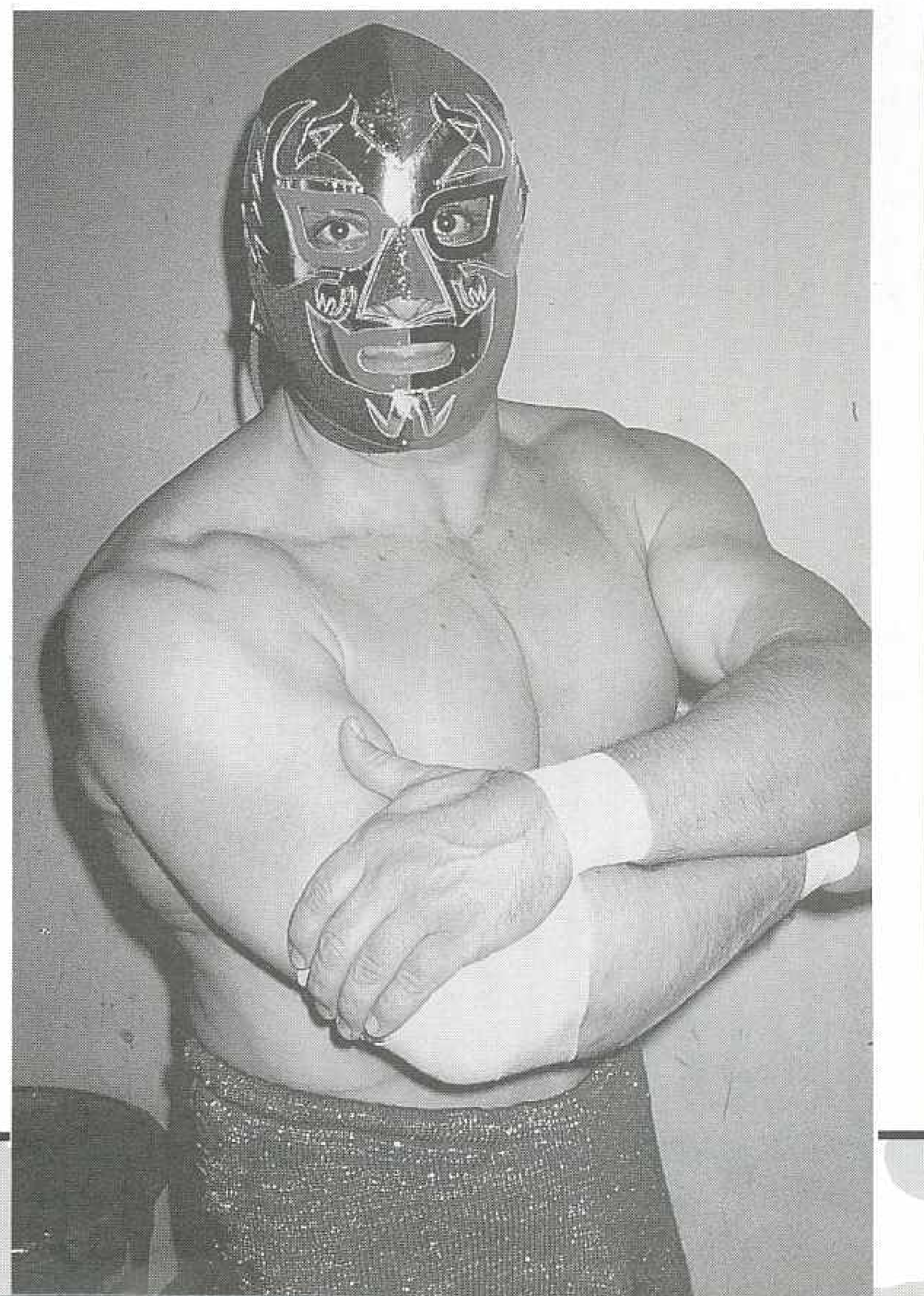




（右）トメ叔母ちゃんのために駄菓子屋の権利書をを奪い返すあっちゃん。（下）大仁田劇場・第二幕開演！ 手当り次第に取材陣と絡むあっちゃん、第二幕の盛り上がりのためにも第2の真鍋アナの発掘は急務だ。僕でどう？

新宿プロレス ドス、元気いっぱい、おっぱいに完勝！

（文・水戸泉）



うまいメシ、歌、エロ、コント、そしてプロレス。風呂とサウナも完備してれば、非の打ち所がないんだが、とにかくオヤジ系元気の素が詰まった新宿プロレス。今回の目玉は初参戦のドスカラスにつきるだろう。こうした場では「いかにお客を満足して返すか」、というメインイベンターとしての技量が問われてくる。その点でドスは文句なし！ 完璧に集まった300人の心を鷲掴みにしてみせた。何が凄いって、その間とアピール！

「ウッシ！」（高田延彦のそれよりも、元気にガッツポーズつきで）の一声で、会場を一色に染めてしまったのだ。思えば、新宿プロレスの第1回目は、バトラーツのバチバチファイトで、第2回目は村上一成の参戦で、そして今回はドス・カラスによって最後はビシッと空気が締まっている。プロレスラーたるものストリップや中華料理にも負けてはならないのだ。

そういった意味で今日のドスはとても元気いっぱいで、おっぱいにも勝っていた。ウノ・ドス・カラス！

おっぱいといえば、控室でこんなことがあった。ドスカラスと乱闘寸前までにらみ合ったサスケが、「10・9はマスカラ・コントラ・マスカラになる可能性がある」とシリアスに語っている横で、「脱げ脱げ～！」の大合唱。「サスケに、『マスクを脱げ！』とはずいぶんな言いぐさだな」と、声のする方を見てみると、なんと！ 某有名AV女優が、みんなから「脱げコール」を浴びている！「たいへんなことになりましたよ……」と真顔でコメントするサスケの横で、あらわになった美巨乳が弾ける！……その後、ジュクプロの会場で配布している割引券を握りしめ、『椎名淫語』に行ったのは言うまでもない。

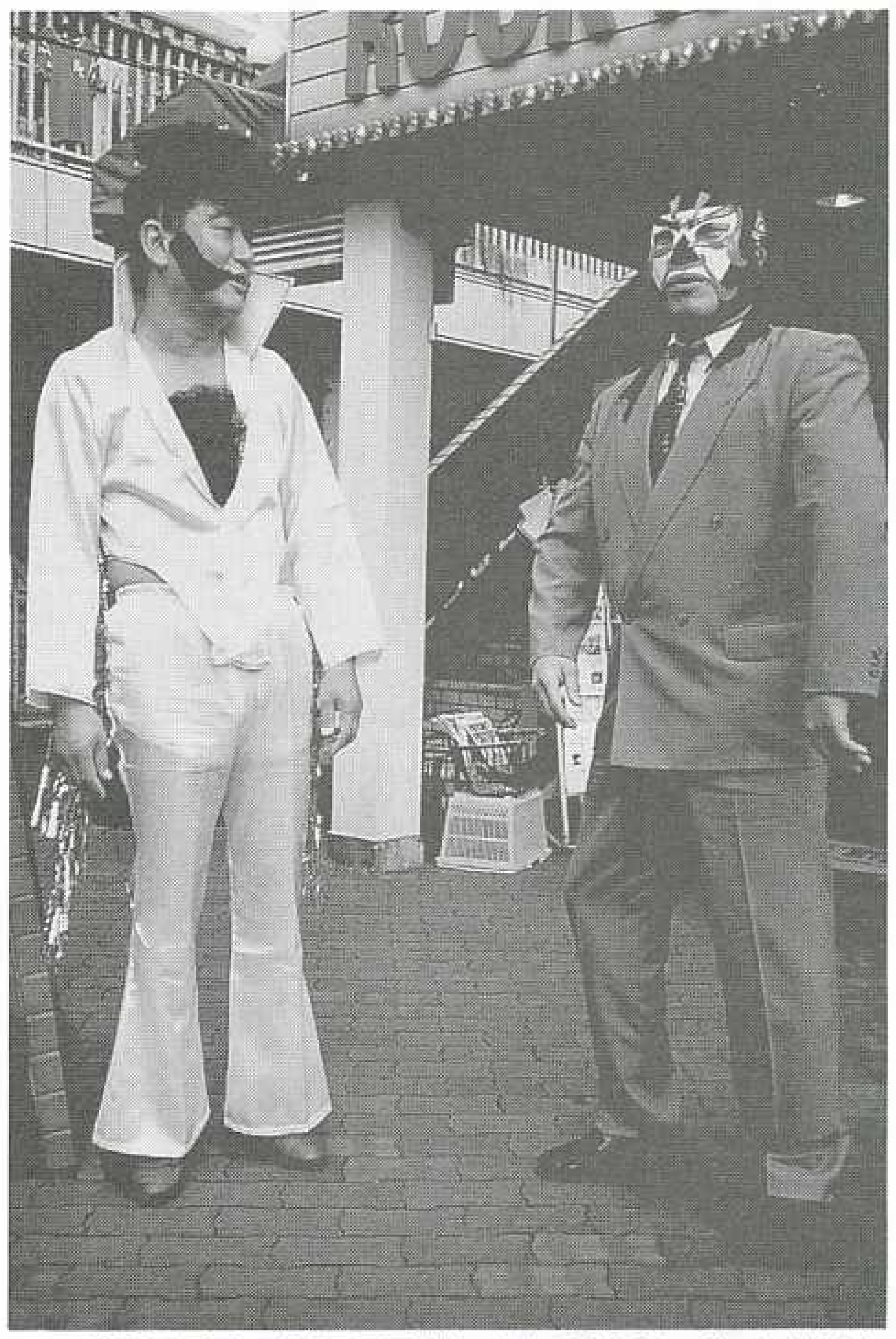
VIVA！ ジュクプロ！ 舞台裏も楽しい新宿プロレスを本誌は応援します！

（水戸泉）

ウッシ、ウッシと今回ドスも大活躍したジュク・プロの次回興行告知だぁぁぁ！ 新宿プロレス第5弾 日時／11月7日（火）試合開始／19：00 場所／東京・大飯店8F大ホール お問合せ：ロックウエスト（03-5459-7988）

IWA エロと音楽の両輪を転がす新宿二丁目超特急！

（文・スモーノブ）



サスケ社長も大絶賛の新宿二丁目劇場。音楽にはうるさいサスケがなんと１３００枚も買い取ってしまった。アー、ビバ！　ビバ！

いまに始まったことではないが、浅野社長の『シベリア超特急』も顔負けの暴走ぶりは凄すぎ。新宿二丁目劇場と銘打った独特のエンターテイメント路線は、他じゃ醸し出せない深い味わいがある。そこで、今月の浅野社長はまたもや大暴走してくれた。まずIWAから送られてきたプレスリリースに書いてあった会見場はなんと原宿・竹下通りのロックンロール・ミュージアム！　そして、そこに現れた浅野社長のいでたちはエルビス・プレスリー！　エルビス好きの佐山聡が見たら怒りだしそうなコスプレの極北！　そこにサスケも加わり、さらに加速度UPだ。その結果が10・9みちのく新宿厚生年金大会の浅野社長リサイタル……じゃなかった、プロレス紅白歌合戦に殴り込み。そしてCDの売り込みにも余念がない。さらに10月13日、後楽園大会に「プレスリーを呼ぶ！」発言へと繋がっていることは明白だ。ユニバーサルを巻き込んだことにより、次々と音楽でリンクが張られていく。

しかし、今月の浅野社長は、ボロ市通りという江戸時代に物々交換で賑わった交通の要所にリアカーを引いてCDとネギ、CDとタコヤキ、CDと豆腐など次々と交換を成立させ、花膳の仕入れに精を出す。そこに現れたのはバッファロー太野&フレディ・クルーガー。世田谷に畑を持つ太野が、なんとたい肥を浅野社長の頭からブッかける！　クソまみれになりながらも「あ～あ、ネギが……」としょんぼりする社長。全裸、SM、ストリップとあらゆるエロが満載されてきたIWAが、遂にスカトロの領域にまで足を踏み入れた！　IWAの裏テーマ『エロ』方面でも暴走の予感がプンプンと匂ってきそうな今月の新宿二丁目劇場でした！



ホームタウンの新宿二丁目を離れ世田谷区まで物々交換にやって来た浅野社長。なんとか３６枚をさばいたもののバッファロー太野が文字通りクソをぶっかけて全てが台なしとなった。「いやんなっちゃうわ、プンプン」





「シャンラララランランラン」！　赤組の大トリ（?）を務め上げた浅野社長とバックサンサーの子供達。「すてきな16才」を熱唱（笑?）後は、CD販売会で先頭に立って手売りと貧乏暇なし状態（哀）。

はみ出し情報2000

ぶっこみ情報PART1【平直行編】

ある時はプロレスラー、ある時は柔術家、またある時はKOKレフェリーでもある平直行が、柔術をベースとした新たな総合格闘技道場を11月1日より東京・大井町に『ストライプル』という名でオープン。プライベート&グループレッスンも有り。しかもクラス以外は24時間道場を使い放題だ！　今すぐ入会しよう！◆練習日／火曜日19:30～21:00　土曜日19:00～20:30　◆入会金／15.000円　◆会費／8.000円　◆お問い合せ／ゴールドジムサウス東京
☎03-5460-3535まで。

ぶっこみ情報PART2【和術慧舟會・西道場関東本部開設編】

発売時にはすでに結果は出ているが、10・22有明コロシアム、サムライ・プロジェクトにてジャイ落と対戦した西良典が千葉県市川市に『和術慧舟會・西道場』をオープン。今すぐ入会！◆お問い合せ／和術慧舟會・西道場☎047-333-7811まで。

ぶっこみ情報PART8【ジパング編】

ZIPANG　PROMOTION
11月1日（水）HI　ENERGY　AUTUMN　～疾走する熱血疾風～
会場　東京・板橋区立産文ホール　試合開始　19:00
【第一試合】吉田和則&I AM CODY　VS　セニョール・スイカ&ジェット・フリーザー
【第二試合】マスクド・ハルコン　VS　菊沢　光信
【セミファイナル】PWCヘビー級選手権試合　島田宏　VS　X
【メインエベント】足立　知也&Mr.Coo　VS　ヘブン&地球外生命体（弟）バビーン

■本誌練習生・幸田珍の炎のプロレスお勉強会「プロレスってなんですか？」ではプロレスもしくはプロレスラーについてわかりやすく講義していただける選手を大募集！　練習生のボクでなんですが、すぐにインタビューに行きます。我こそはナイス・ティーチャーと思われる選手は是非ご一報を！　第一希望は、地球外生命体（弟）バビーン選手！　カモン、バビーン!!
〒151－0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
（株）ダブルクロス「マジっすか？　先生そんな…」係まで

一言物申す!
(by三浦店長)
イーンディーないかい？

夢のメジャー交流も開始され、今後この業界がどうなってしまうのか、再度の隆盛を取りもどせるのかと期待感がふくらむ昨今である。

このまま順調にメジャー交流が続いていけば、インディーまでもふくめて今後吸収合併の波にさらされてしまうことは自明の理。そして一つのインディー団体が潰れてしまっても生命力の強いレスラー達は生き残り続け、活躍の場を模索していく。

現在インディー団体は多すぎると言われていながらも残存し続けていられるのは、それぞれ個性と特色を持った残るだけの理由があるからであろうし、各々が差別化意識を充分に認識しているからこそ残るべくして残っているのである。

そして今後、間口を広げて観客を取り込んで行くためには何をなすべきかと考えると、答えとして出てくるのは初心に帰れということ。地方の会場で一見のおじいちゃんが観てもわかりやすく、プロの迫力と面白さを充分理解させることができる試合を展開することこそがサバイバルの第一歩。

現在WWF化したサイドストーリー全盛であるけれど、確かに大都市圏ではそれでもいいだろうが、一歩地方へ足を踏み出した時にそのままのテンションを維持しているのかは疑問だ。

地方の小会場で子供やおじいちゃんをリピーターとする努力とファイトを全国中のインディー団体が繰り広げていけば、プロレスという真の意味でのエンターテイメントスポーツはいつまでも生き残る。メジャーが回りきれない小さな街の体育館が夢のワンダーランドの入口となる。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

各方面から大量にバッシングが寄せられているShow氏監修の『猪木語録　闘魂伝書世紀末篇』（メディアワークス）や、元猪木秘書・沢野慎太郎氏からのみバッシングが寄せられている柳沢忠之氏（『SRS・DX』発行人）構成の『猪木詩集「馬鹿になれ」』（角川書店）については次号で紹介予定。「A.M.1:30頃、佐山聡とPの尾崎社長が旭川の街を一緒に歩いていた。佐山は余裕で100キロを超えているのがわかるジャージ姿でした」（abecchi君より）などのタレコミもまだ受け付けている書評コーナー。〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

『向井亜紀式交友録 おしゃべりなからだ』

（双葉社／1300円）



高田夫人・向井亜紀が芸能人の身体のパーツにまつわるエピソードのみならず、ついでに**「マルコ・ファスさんの前腕」「桜庭和志さんの心臓」「高田延彦のアドレナリン」**も紹介してくれる一冊。

当然、高田のことを**「勝っても負けても〝チャンピオン〟と呼んで」**いる赤井英和や、試合会場で**「握り拳をブルブル震わせ、殺気すら漂う形相」**のまま**「うちのダンナを汗ダラダラ状態で応援」**していたという草野仁、パーティーで偶然隣り合わせた高田と**「瞬間湯沸かし器的に意気投合。目撃談によると、2人して怒涛の勢いで酌み交わしていたかと思ったら、最後は高田がキーさんの膝枕で眠ってしまった」**というキーさんこと吉川晃司など、高田にまつわるちょっといい話も大量に収録するのみならず、**「サク（桜庭和志）は後輩たちと飲むためにサラ金に借金までこさえていた」**なる情報まで出ているのだから、マニアとしては嬉しい限りだろう。

そして、それ以上に重要なのが思わずヒクソン対高田戦直後の前田日明ばりに「高田（亜紀・本名）は壊れてたんや！」と言いたくなってしまう、彼女の壮絶なカミングアウトなのであった。

「やっぱ高田と結婚するんやな。おめでと。でも、スポーツマンのところへ嫁ぐいうことは、覚悟せなあかんで。ええか、いっつもヘラヘラした妻でおれよ。ダンナが勝って帰ってきても負けて帰ってきても、同じヘラヘラで迎えることや。勝った時、〝うわぁ、やったね〟って、派手に祝ってしもうたら、負けた時、な一んも声をかけられへん。〝あら、今日、試合だったんだっけ？〟って、たとえ、それまで泣いてても、ヘラヘラ言う。それが一番いい妻なんやからな」

島田紳助にそうアドバイスされても、いざ結婚すれば**「今、連絡があってサ、高田、負けたんだって、試合。……どうしよう。私、東京へ帰りたくなくなってきちゃった……」**と思いっきりうろたえまくっていた彼女。

友人の竹内都子に**「そんなこと言ったら絶対ダメ！　亜紀ちゃんだけは普通にしとかな。ね、しっかりしなくていいから、頑張らなくていいから」**と言われてなんとか高田の元には戻ったそうだが、彼女はサクとは違ってヘラヘラできない体質だったのだろう。

なにしろ、25歳でペットの死を原因とする自律神経失調症になってしまった彼女は、**「吹き出物が顔中にマジで200個以上でき、なかなか治らなかった」**ほどに**「肌がボッロボロ」**となり、髪の毛も**「脳天部分が丸く束になって白」**くなってしまうという異常事態に突入。それがさらに**「29歳の時、両親に結婚を反対されて倍増」**し、やがて**「ダンナの試合の度にチョコチョコと円形脱毛症が出現しては消え……」**という状態になってしまったらしいのだから、とんでもない話なのである。

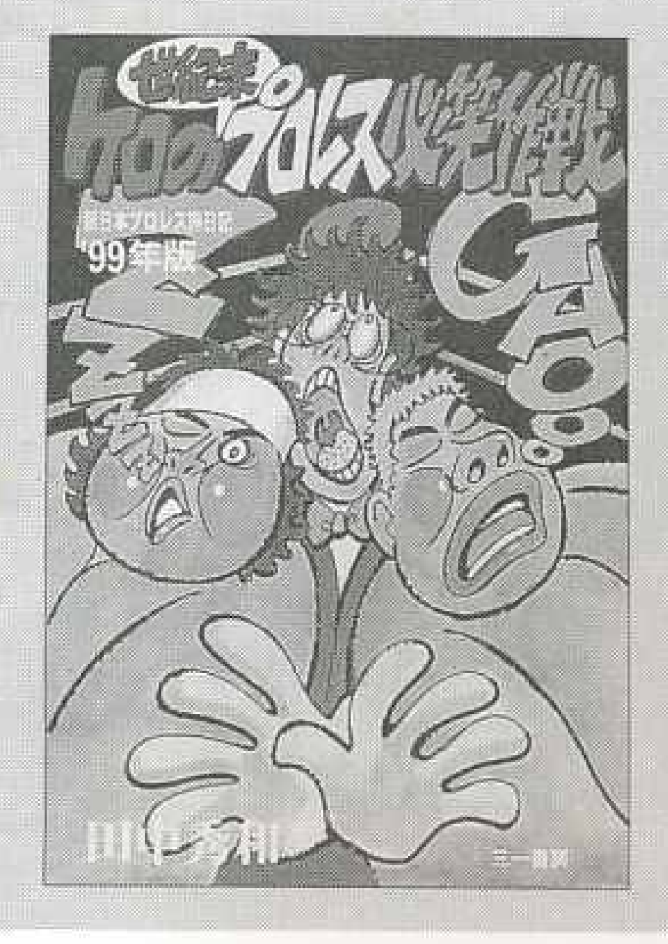
こうして**「考えることは暗く堂々巡りというひどい状態」**になった彼女を見かねた石井苗子が**「亜紀と私は同じ控室にしてちょうだいね」**とスタッフに頼み、**「亜紀はいいコ。ちゃんとみんなを幸せにしてるよ」**と言いながら**「紫色のセクシー・ランジェリー姿でギュッと抱きしめてくれた」**という誤解を受けかねない告白も、抜群すぎ！

高田があまり試合をしなくなったのも、彼女の健康のためには結果的に良かったわけなのだろうが、ボブチャンチン戦決定により彼女の円形脱毛症も再発必至。どうする、どうなる、彼女の頭髪！

なお、そんな衝撃情報の詰まったこの本の中で最も個人的に衝撃的だったのが、**「今月下旬に、宮澤正明、黒田征太郎、長友啓典の3氏セッションによる高田の写真集&絵本が出版される」**という一文なのであった。何それ？

『ケロの世紀末プロレス必笑作戦』

（田中秀和／三一書房／1238円）



冒頭でケロちゃんが**「この『旅日記シリーズ』の主役といえば、橋本真也。その橋本は、1999年はほとんどお休み、巡業も出ていません。橋本以外の選手で、毎日ネタがあるのかってことですが、果たしてどうなったか」**と書いているように、ただでさえテンションの低いこのシリーズの中でもズバ抜けて盛り上がりの少ない一冊。

めぼしい話題といえば、ブライアン・ジョンストンが巡業にギター持参しているだの大谷がAVの通販でトラブルに巻き込まれただのという他愛もないことぐらいで、あとは人の名前を間違えまくったり解説席で泥酔したりするマサ斎藤（G1をジーアイと呼ぶ男）や、『なすび』の影響で『ケガをしない舞』を控室で躍りまくる安田忠夫など、『紙プロ』好きのする昭和な男たちが面白いだけでしかない。

そのため、後書きでケロちゃんが**「いかがでしたか。以前より、少しソフトになった感じ、しましたか。やはり、爆笑王、橋本がいないと、こうなってしまうんでしょうか。早く帰ってこいよ、この『旅日記』のために……」**とボヤくのも非常に頷ける次第であり、ほとんど興行には参加してないながらも体育館に太鼓があるだけで全員に**「今日は叩くなよ！」**と言われ続け、**「みんな同じことを言うなぁー。でも、やっぱりこれをやらせなきゃ」**と『いなかっぺ大将』のテーマを打ち鳴らす橋本が最大限のインパクトを残しているようでは、長州主導の新日はハッキリ言ってノー・フューチャーでしかないのである。

そんな状況でただ一人光り輝いていたのが、いきなり表紙にも抜擢された藤田和之だったのであった。

何が凄いって、控室で先輩たちに誕生日を祝われれば**「パンツをはく前、つまり下半身モロ出しの中、ローソクの火を消し」**てみせ、バスに乗れば堂々と一番前の席に座って発車と同時に爆睡。その巨大なイビキで長州を激怒させる藤田は、まさに大物としか言い様がないはずだろう。

「藤田！　お前、前に座ってもいい。いいが、寝るんだったら後ろに座れ。いいか、寝るんだったら後ろに座れ、いいな。何だ、何か文句があるか！　わかったな」

ここまで長州に説教されようとも、当の長州が新幹線で帰ろうものなら藤田は**「やったー」**と大声で叫んで、一番前の長州の席を堂々と奪取！

長州の右腕である越中に**「藤田、てめー、寝るんじゃないだろうなぁ。寝るんだったら後ろに行け！」**と怒鳴られても、藤田は動じることなく**「いいじゃないですか。大丈夫ですよ、一番前ですから。声は前に行きますから」**と豪語して、大音響のイビキをバス中に響かせてみせたというのだ！

デビュー前に道場で見たときからすでにふてぶてしさの塊だった藤田だが、どうもその姿勢だけは相変わらずの様子。しかし、その藤田すらも既に離脱してしまったのだから、長州主導の新日に語るべきことはもはやほとんどないのである……。

『三沢さん、なぜノアだったのか、わかりました』

（中田潤／BABジャパン／1400円）



純プロレスと格闘技の間に立たされた中田潤先生が**「プロレスからレスリングのムーブがなくなったのはなぜなのか」**を追い求めていくという、著者の揺れる思いがビンビンに伝わってくるこの本。雑誌『BRUTUS』でのルー・テーズ会見記や『プロレスの達人』の原稿なんかをノンストップ三沢ミックスというべきスタイルで編集しているため新たな発見は少ないんだが、一気に読ませる技量はさすが中田潤先生と唸らされる一冊である。

そもそも秋山準に「もっとレスリングの動きを取り入れなければ」などといまさら指摘されるまでもなく、プロレスとは元来レスリングの動きが必要不可欠なはずの代物だった。

「馬場さんが立ち上がるために背中を見せた瞬間、（ジャック）ブリスコの地を這うようなロータックルが飛んできた。立ち上がった馬場さんの表情に緊張が走り、明らかに腰が引けているのがわかった」

「馬場さんが脳天唐竹割りを繰り出しても（ビル）ロビンソンはそれをことごとくディフェンスしてしまう。一瞬でも隙を作ると、ロビンソンが片足タックルで飛び込んでくる」

あのジャイアント馬場でさえ、かくも「シューティングを超えたプロレス」と言うべきレスリングに根付いた攻防を繰り広げていたのだから、もちろんジャンボ鶴田に関しては言うまでもないだろう。

「若きジャンボ鶴田は、相手がビル・ロビンソンであろうが、ラッシャー木村であろうが、アブドーラ・ザ・ブッチャーであろうが、常に両足タックルから試合を組み立てていた。タックルで崩し、素早い体重移動でバックを取り、関節技、打撃技に移行する」

それが、いつしか三沢に言わせると**「内向的で保守的で予定調和的な全日本プロレス」**へと試合スタイルも含めて移行してしまったのだから、全日から離れたことで「自由」をテーマにアマレスの動きを取り込もうとしているノアの方向性は断じて正しいし、ボクも全面支持できるわけなのだ。

一時期、思慮に欠けるプロレス批判で無駄に敵を増やした太田章に対しても、「太田さんには『スパーリングをやろうよ』と声をかけたことがあります。俺はいつでもいいですよ。俺は太田さんとアマレスをやります。じゃあ太田さん、プロレスやりますか?」と言い切ってみせたという三沢。

そこには誰もが幻想を感じることだろうが、やっぱり三沢が語る川田エピソードの方にこそボクは巨大な幻想を感じずにはいられないのである。

「部に入ってきたとき、川田はなんにも喋らないやつでね。暗いやつだなあ、と思いましたね。寮に入っても周りと馴染まないやつで、よく先輩に殴られてた。喋らないのに一言多いやつなんですよ。『○○先輩、練習そんなにやってないのに強いっスねえ』とか言っちゃうの（笑）。後輩にそう言われたら、やっぱ殴るしかないでしょう」

これ自体は足利工大付属高校レスリング部時代の有名なエピソードかもしれないが、さらに三沢対川田が壮絶な試合になった理由をあっさりとこう語ってみせるのだから、もうたまらない。

「川田は、中途半端にやると中途半端なことを言い出すやつだから。『この次やったら絶対、負けない』とかね。それまで、積もり積もったものもあったんですよ。お前、ちゃんとやれよ、みたいな試合ばっかり川田はやっていましたからね。試合中に気に入らないことがあると、ふてくされてパートナーがやられていてもタッチしなかったり。俺と小橋と川田で組んでタッグマッチやってたとき、何が気に入らないのか試合を投げ出して怒って帰っちゃったこともありましたね。小橋がフォールにいって、俺しようがないから外人2人ガーッと抱えてね、やっとのことでスリーカウント（笑）」

あのふてくされた表情がギミックでも何でもなくて、単なる地だったのであろうことがようやく徐々にわかってきた彼氏。新日との対抗戦では「積もり積もったもの」がないため普通にスイングする試合になってしまったようだが、できれば川田には独自のボヤキ節でレスラー間のビートを買ってから試合して欲しいと心から望むばかりなのである。



『船出——三沢光晴自伝』

（構成・山崎淳／光文社／1200円）

もはや演歌の7インチにしか見えないジャケが「凄いねプロレス」と思わせる、三沢名義としては初の著書。文字が大きく、あからさまに聞き書きでしかない内容はかなり薄味なのでマニアには正直言ってお奨めできないが、値段相応なので問題なし!

なにしろ「馬場さんには命を預けられるけど、オーナーは違う」と三沢が何度もアピールしていた真意がなんとなく推測できる、「馬場さんは、いろんな意味で本当に男の気落ちを考えてくれる人だったんですよ」という男気エピソードの数々が本当にシビレるわけなのである。

まずは某写真週刊誌でもすでにバラされた事実なのだが、三沢がデビューするなり馬場はポケットマネーを渡して「これで越中と一緒に（風俗）行ってこい」と男らしく言い放ち、おかげで三沢は晴れて風俗デビュー（ちなみに「越中さんは好きでしたよねえ」とのことで、一緒に行くために「風俗代を前借りさせられた」こともあるらしい）。

さらに「デキちゃった結婚」することを馬場に報告したら「その女でええのか?」と単刀直入にズバリ聞いてきたというのだから、「言葉が判別しずらいでしょ」というハンデを超えて三沢が心を開いていったのも当然の話。同時に、三沢が元子夫人に心を閉ざしたの当然の話なのである。

そして高校時代の「夜這い」写真を公開したり、「俺、奥手は奥手だったと思いますよ。中1まで、子供がどうやってできるか知らなかったもん。センズリも知らなかったし」と聞いてもいないことを告白したりするのは予想通りとしても、前田日明にも通じる鉄拳主義ぶりを赤裸々に告白し始めるのが、予想外ゆえ非常に興味深いのだ。

つまり、息子がデパートで理不尽なおねだりをしようものなら、「『ふざけんな、このヤロー』って、パーンと張りますね。デパートの通路だと、3メートルぐらい吹っ飛んでいきますよ」というほどの体罰を容赦なく敢行! 続いて「子供って2〜3分後は笑ってますよね。まるで川田みたい（笑）」とのことで、あくまでも明るいノリで川田への鉄拳制裁も告白していくのであった。

まずは高校時代、後輩の川田に後がまを任せて階級を上げられるはずが、川田が弱かったためやむなく70キロ級で続けることとなり、減量に苦しんだことから始まったらしい両者の確執。

「川田は階級を落とされたことでブーブー言うし。『お前がもっと強けりゃ2人とも減量しなくてすむだろう』ってね。アイツその頃から一言多いんですよね。試合が終わって疲れてるのに、『三沢さん、強いっスねえ。あんまり練習しないのに』なんて言うから、ボコボコに殴りつけてましたよ。これはイジメじゃなくてシツケですから（笑）」

こうして「あんまり練習しない」先輩が実は三沢だったと発覚したところで、三沢は壮絶な川田のシツケぶりも告白していくわけなのである。

「冬木さん、川田とは仲良くなかったんですよ。あれは俺がいけなかったのかなあ。川田は俺の1年後に合宿所に入ってきたでしょ。俺は高校のときから知ってるから、入門当初から容赦ないわけですよ。アイツがまた余計な憎まれ口を叩くから、思い切りぶっ飛ばして、うずくまっているところに階段の上から膝蹴りを入れたり。冬木さんはびっくりして見てるんですよ。『普通、そこまでやんねーだろ』って。俺は、『いいんだよ、コイツは』ってね。あれで冬木さんもそう思っちゃったのかも。ただ、川田はいくらやられてもケロッとしてるんですけどね」

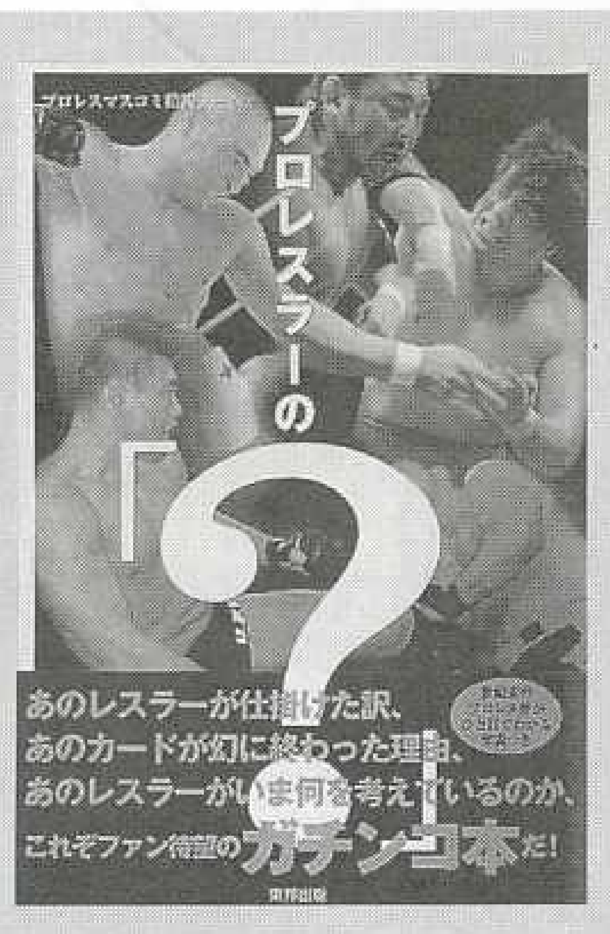
当然、リング外でここまでハードヒットな痛みの伝わる戦いを繰り広げていたのだから、リング上のプロレスが激しくなるのも当たり前。

「小橋にはどんな技でも思い切りできるんだけど、川田は受けが上手い方じゃないんで、考えながらやらなきゃいけない。結局、打撃系なら思い切りやってもそれほどの怪我はしないだろうと、そうなっちゃう。だから、意外に俺と川田の試合は非情に見えるんですよね。それは俺が川田を信用していないから、そうなるんですよ」

信用がないからこそ名勝負が誕生する! 純プロレスがエンターテイメントや格闘技に勝てるのは、こういう生々しい部分しかないとボクは心から確信した次第なのである。

『プロレスラーの?』

（プロレスマスコミ精鋭チーム／東邦出版／1333円）



桜庭本『ぼく。』のヒットで勢いづく東邦出版がリリースした、美麗なジャケが目を引く本書。しかし、実は藤原らしき似顔絵がジャケを飾った『プロレス・格闘技　あの謎が解けた　実はこうだった!!』の続編だったりするのだから、あまり期待しない方がいいだろう。

なにしろ、著者は「プロレスマスコミ精鋭チーム」を名乗っておきながらプロレスマスコミでも精鋭でもないため、「安生によって流れた藤田のリングス移籍」「船木戦実現へ（小川が）パンクラスに直談判!!」など、一度は表沙汰になっているネタを大仰に書くばかりなのだから正直いただけないし、全ての団体を全方位で褒めちぎるスタイルに説得力はほとんどありゃしないのだ。

あと、「（猪木は）自ら社長を務めた東京プロレスから古巣・日本プロレスに復帰した67年2月以降、新日本プロレスの放送が夕方枠に移行する88年4月まで、ゴールデンタイムに実に21年間も毎週連続登場していたのだ」など、初期新日にテレビ放映がなかったという当たり前の事実すら見逃していたりと（日プロ放映終了〜新日放送開始の間に『ワールド・キックボクシング』中継があったらしい）、詰めの甘さが目立つこともキッチリ指摘しておきたい次第なのである。

『格闘魂』

（アントニオ猪木責任編集／角川書店／838円）



どこかで見たような写真（というか『メンズウォーカー』の表紙）、どこかで見たようなタイトル（というか小学館の格闘技ムック『格魂』）など、既視感だらけでフックの弱いジャケの本書。ぶっちゃけた話が『SRS・DX』が手掛けた『メンズウォーカー』格闘技特集号のネタも大量に流用した休刊記念ムックみたいなものなので、Show氏とカタブツ君が大活躍しているという実に強烈な代物である。

そのためか絵面&話題性重視な対談の数々（エンセン対桜庭あつこ、佐竹対デヴィ夫人、船木対石井聰亙など）はハッキリ言って全滅であり、面白いと思えるのは桜庭対豊永の同門対決ぐらいのもの。「ホイス戦では足4の字固めって必殺技にはならなかったんですか?」「自分、KONISHIKIだったら勝てると思うんですよ。あと、末期の頃のジャイアント馬場さん」などとつまらないことばかり言い続ける不肖・宮嶋対桜庭対談のように、世間への擦り寄り方がいちいち裏目に出たマッチメイクばかりなのであった。

巻頭の村松友視対アントニオ猪木対談も、村松さんが木村政彦の「朝鮮人」発言をスクープしているぐらいでちょっとイマイチなんだが、さすがは猪木。「キラー猪木の独り言」とでもいうべきとんでもない告白を淡々と始めて圧倒的なインパクトを残すから、やっぱりレベルが違いすぎるのだ。

「俺が夜遊びをしたというか、たまたま六本木あたりをチャラチャラと遊んでて。それで酔っ払って帰っていったらね、ケンカしたわけじゃないんだけど、俺は家に帰るとすぐにパンツ一丁になるから、ズボンを脱ごうとしてよろけたんですよ。そうして女房の目を突っついちゃった。で、コンタクトをはめてたんで目に傷がついちゃった。そこにワケのわかんない菌が住み着いちゃったというか。で、日本とアメリカで有名な医者にかかったんだけど、わかんないんですよ、とにかく原因がね」

そんな明らかに猪木を原因とする無意識の眼潰しゆえ、女房が「失明しちゃうんじゃないか」という状態になったわけなのである! 凄え!

「俺はこれまで3人、目えやっちゃったじゃないですか。だからこれが怨念というか、それが因果応報で回ってきてるのかなあと思って。（アクラム）ペールワンとバク・ソンナンと、アメリカの修業時代に1人いるんですよ。だから一回、ペールワンとバク・ソンナンの墓参りをしてこなきゃいけないかなと思ったりしてるんです」

あくまでも淡々とこう語っていく猪木。やっぱり、この手の巨大なドラマを背負っているようなプロレスラーに、ちょっとやそっとで勝てるわけがない。そういう意味で「やるよお、俺は。事件史じゃなくて名を残すから」と語る前田日明は猪木イズム最狂・最後の継承者だったはずなのだが、リング外での「また暴れる」的な暴走行為の噂を聞くにつれ、猪木というより力道山イズムの隔世遺伝だったのだと痛感させられる次第なのであった。

なお、他に重要な企画といえば、プライドの過激な仕掛人・百瀬博教の力道山コレクション（ちなみに、マニア注目の「力道山を刺した男」村田勝志インタビューはイマイチ）。そして、ボクが参加&スーパーバイズした元『週プロ』編集長・ターザン山本対現『週ゴン』編集長・GK金澤（ウィズ山口日昇）という、確実に川田対健介よりも注目に値する世紀の対決だと断言して間違いないだろう。

まるで古き良きNWA王者のごとくノラリクラリとしたファイトを続けるターザンに容赦なくシュートを仕掛け、「活字プロレスっていうのが僕、嫌いでね! 何が嫌いかって言ったら、『活字プロレス』と『プロ格』。『なんだよ、それ!』っていうね」「あと『密航』! なぁ〜にが密航だ、ふざけんじゃねぇよ」と、豪快に吠えまくるGK。

この頂上対決は言うまでもなくGKの圧勝であり、読めば必ず誰もが「ワーク活字の第一人者、GK恐るべし!」と思い知らされるはずなので、ボクはぜひとも皆様にオススメしたいのである。なあ、金澤!

アメリカの薬局「メイジファーマシー」の協力により、一部大幅値下げ！

健康食品よりも効果のあるワンクラス上の商品を！

アンドロステジオン 筋肉増強薬
—ホームラン王マグワイアも愛用—



究極の筋肉増強薬として有名。米国内では補助栄養剤として市販されている。法律的に購入、使用は全く問題ないが、I.O.C(国際オリンピック協会)が禁止薬物として指定する筋肉増強剤なのでドーピング検査のある人は使用できない。

100錠（約3ヵ月分）
1個 16,000円
2個 30,000円
3個 42,000円（税込み）

プロザック 脳内薬
—全世界で二千万人以上が愛用する抗うつ剤—



塩酸フルオキシンを原料としたうつ病の薬。欧米では健康な人にも気軽に処方されている。考え方をプラス指向にし集中力が高まり積極性が増す。又、自信を持って行動し、性格が変わり、明るくなるといわれている。

20mg/30錠（1ヵ月分）
1箱 13,000円
2箱 22,000円（税込み）

ロゲインエキストラストレングス 育毛促進薬
—育毛に革命を起こしたベストセラー—



「効き目がなければ返金します」というキャンペーンを行ったが返金を求めた客はいなかったという。1日に2回、頭に直接すりこむ。

2%・5%
男性用・女性用
（ホワイトタイプ）
3本(3ヵ月分) 14,000円
6本(6ヵ月分) 27,000円
12本(1年分) 51,000円（税込み）

プロペシア 飲む育毛促進薬
—世界初の経口タイプ—



試験では服用の83%の人が髪を増やす効果があったという。アメリカ国内で購入するには処方箋が必要で、それだけ効果が期待できる。

1mg/30錠（約1ヵ月分）
1個 15,000円
3個 40,000円
6個 75,000円
3個+ロゲイン 3本 50,000円
6個+ロゲイン 6本 95,000円（税込み）

ザンドロックス 育毛促進薬
—ミノキシルズ12.5%配合—



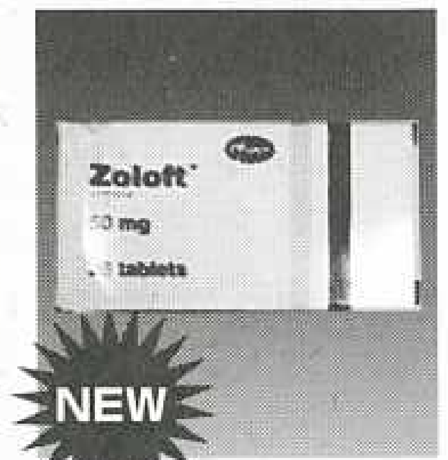
ミノキシルズ12.5%配合の超強力育毛剤。必ずロゲインなどのミノキシルズ配合の商品で3〜6 カ月頭皮を慣らして、次の段階で使用するようにして下さい。

※生え際に特に効果があると言われていますので、生え際に使用するようにして下さい。頭頂部にはロゲイン等の商品を使用し、生え際にはザンドロックスを使用（併用可）して下さい。ロゲイン等の商品で頭頂部に効果のなかった方のみ、頭頂部に使用して下さい。

約4ヵ月分 38,000円（税込み）

お申し込み・問い合せは
フリーダイヤル 0120-680-214

ゾロフト 抗うつ薬



プロザック以上の効果があると言われる知る人ぞ知る抗うつ薬。プロザックより早く効果が現れ、プロザックが効かなかった人にも効果があった例もある。依存性もなく早漏の治療薬としても有名。

50mg/28錠 1個 15,000円　2個 28,000円
100mg/28錠 1個 18,000円　2個 34,000円（税込み）

ゼニカル ダイエット薬



98年に大手医薬品メーカー、ロシェ社が開発したやせ薬。従来のやせ薬が食欲抑制や下剤効果に重点を置いていたのに対し、ゼニカルは体内に脂肪を吸収させないことを主眼を置いています。アメリカでは99年4月に認可されました。

84食分 26,000円（税込み）

ジンク（亜鉛） ミネラル



ケガを早く直す。精力アップ。髪の毛や筋肉の成長を促進すると言われる。低アレルギー性商品なので、アレルギー体質の方にもご使用いただけます。

50mg/100錠（3ヵ月分） 6,000円（税込み）

Cal.Mag.Zinc 180錠 栄養剤



カルシウム1000mg マグネシウム400mg 亜鉛15mgを1日で摂る総合栄養剤。
（上記の数字は1日の必要摂取量です。）

180錠（2ヵ月分） 7,000円（税込み）

DHEA 栄養剤



成人病予防、細胞の衰えを防ぎ、活力・精力を高めると話題のDHEA。人体に必須の代謝物に作りかえられ、老化により崩れていくホルモンバランスを整える働きがあります。

25mg/90錠 6,000円（税込み）

ピラセタム 頭が良くなる薬



頭が良くなる薬で記憶力が増し、学習能力もアップすると言われている。この薬はコリン（100錠3,000円）と一緒の服用をおすすめします。

400mg/150錠（約2ヵ月分） 12,000円
+コリン 14,000円（税込み）

パワープレイニュートリションプログラム

5本セット〈筋肉増強+体重増加セット〉



1〜2ヵ月分 17,000円（税込み）

4本セット〈筋肉増強セット〉



1〜2ヵ月分 11,000円（税込み）

① B.C.A.A.（100錠） 筋肉の疲労を回復させアミノ酸の合成を促進します。

② スーパーステロールアナボリックコンプレックス（90錠）
電解質、ビタミン、アミノ酸、植物栄養素、ハーブ（花粉、朝鮮人参、ロイヤルゼリー）肉体成長因子が豊富で脂肪のない筋肉を増やし、エネルギーが長く続くように働きかけます。

③ アミノマックス1500MG（180錠）
100%ナチュラルな20種類のアミノ酸が1錠1500MGも入っています。プロテインパウダーより早く吸収されます。

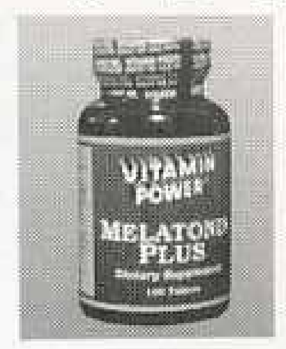
④ ニュートラクロムミュームピロリネイト（100錠）
日本人に大変不足しがちな微量栄養素です。筋肉を成長させるために細胞に栄養を吸収しやすく余分な体脂肪を燃焼させます。

※①〜④を一緒に飲むことによりアマチュア、プロを問わず、危険な薬に頼ることなく全く安全に誰にでも筋肉増強ができます。

⑤ プロテインパウダー（1.8Kg）
炭水化物が多く含まれており、体内に多くのエネルギーを作ります。体重をもっと増やしたい方、食事の不規則な方は1〜4のセットと一緒に飲んで下さい。1.8Kgと大変お得な質のよいプロテインパウダーです。

※5本セットの方がプロテインパウダーの効果により4本セットよりも体重が増加します。

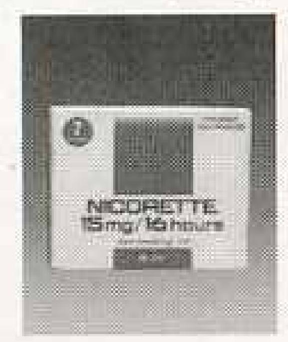
メラトニン 体内時計調整



老化防止。子供のような自然な睡眠が得られる、習慣性のない安全な睡眠誘発剤。また、コレステロール値を下げたり、女性にはシミ、シワに大変有効であると言われています。

100錠（約3ヵ月分） 4,800円（税込み）

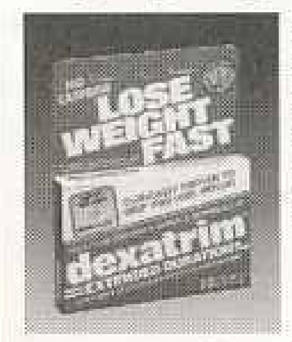
ニコパッチ 禁煙用処方薬



体内にパッチで害のないようにニコチンを取り入れ、ニコチンの禁断症状を緩和する。自分自身の意志の強さももちろん大事だが、この商品があれば、12週間で無理なく禁煙できるといわれている。日本では処方せん薬となっている。

12週間分 完全禁煙プログラム 40,000円（税込み）

テグザトリム ダイエット薬



ダイエットしたい方、体重制限のある方に。脳に命令して食欲を減退させる薬。約3週間で効果が出るという。

40錠（40日分） 10,000円（税込み）

セント・ジョンズ・ワート 脳内薬



プロザックと同程度の効果を持ち、副作用の少ない健康食品。精神的スランプ、うつ状態にどうぞ。研究結果によると症状の50〜80%が減少し、うつ病患者に使用される処方せん薬と同程度の効果があると報告されている。

450mg/100錠 4,800円（税込み）

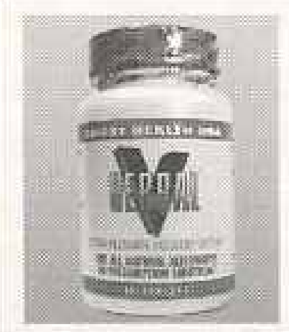
バイアグラ 勃起不全治療薬
—不能治療薬のベストセラー—



ライフスタイル・ドラッグ（生活改善薬）の大ベストセラー。しかし、強精剤・精力剤ではないので、何もしなければ（性的な興奮・刺激がなければ）効果はありません。

50mg・100mg共 4錠 12,000円 8錠 20,000円 30錠 40,000円（税込み）

ハーバルV 性欲覚醒栄養補助食品



ハーバード大学の研究者により開発された、天然成分による精力増強・性欲覚醒健康補助食品。

男性用・女性用共 30錠 8,000円（税込み）

夜12時まで電話受付中・年中無休

※表示料金は全て税込み。お支払いは代金引替か現金書留、銀行振込みにて。商品のお届けは2〜10日、ご不在がちの方は希望の日時を指定して下さい。送料は一律1,000円

「個人輸入」について

上記の商品は海外で医薬品として開発・販売されており、日本では個人の責において輸入・使用できるものです。第三者への転売・譲渡はできませんのでご注意下さい。個人輸入のため発注後のキャンセルはできませんので、事前によくご検討のうえお申込み下さい。

1.電話・FAXによるご注文

フリーダイヤル 0120-680-214
TEL(078)643-2349
FAX(078)643-2597
年中無休 AM9:00〜PM24:00

2.ハガキによるご注文

50
〒653-0803
神戸市長田区前原町2-5-22
ケイトレード
紙のプロレス

①商品名
②個数、金額
③住所
④氏名㊞
⑤年齢
⑥TEL 番号
⑦職業
⑧18才未満 保護者名㊞

3.前払いによるご注文

前払いの場合は
送料無料！

必要事項を記入の上、商品代金と一緒に左記住所までお送り下さい。現金書留もしくは、銀行振込にてお願します。

銀行口座：富士銀行 神戸支店
普通2076446 ケイトレード

ケイトレード

〒653-0803 神戸市長田区前原町2-5-22
0120-680-214
TEL(078)643-2349
FAX(078)643-2597

水戸泉（仮）校長、泥酔中に彼女を一発ＫＯ事件発覚

KAMIPURO UNIVERSITY

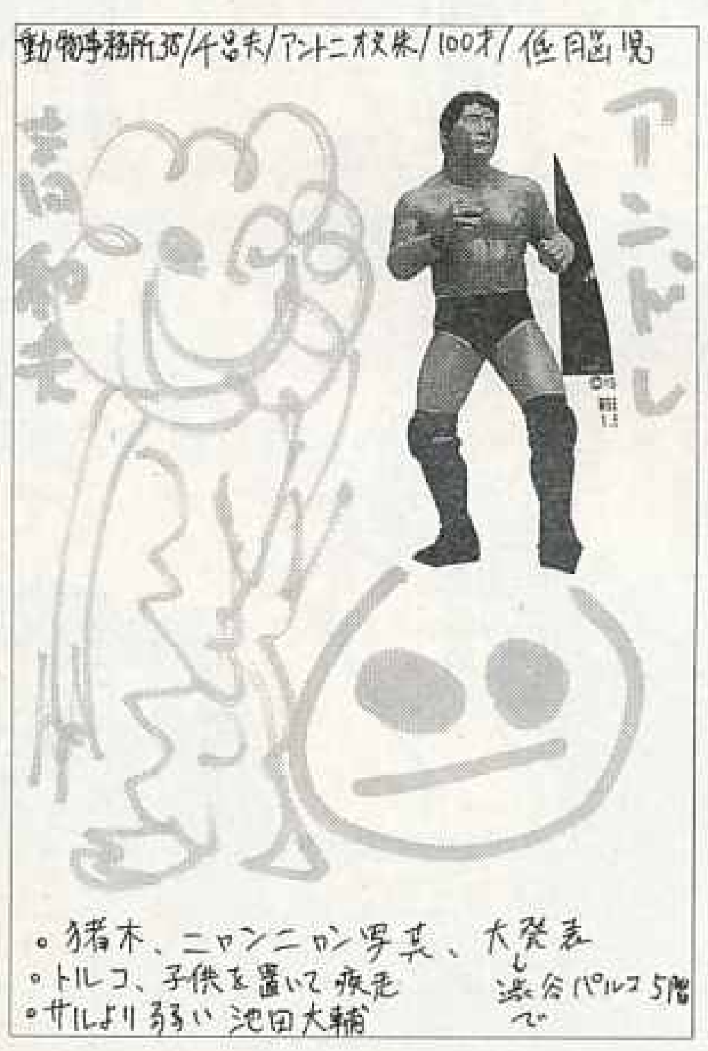
廃校

水戸泉（仮）校長辞任宣言＆紙プロ・ユニバーシティ廃校宣言

私、水戸泉（仮）は、泥酔中、同棲中の彼女に連日のヘルス通いがばれ、言い訳するのも面倒臭かったので、とりあえず彼女を殴打し、さらに家中のモノをサーチ＆デストロイし続け、周辺住民にまで迷惑を及ぼすという鬼畜行為の責任を取るため、『紙プロ』ユニバーシティの校長を辞任することとなりました。今後は、今回の一件に反省することなく、むしろ開き直り、本誌の元祖鬼畜編集長、山口“犬殺し”日昇の鬼畜イズムを継承し、２代目鬼畜編集人として『紙プロ』を盛り上げるべく頑張って行きたい所存でございます。また、『紙プロ』ユニバーシティは、今回で最終回とさせて頂きます。私が何も考えずに、とりあえず誌面が埋まればいいという浅はかな気持ちで見切りスタートさせた企画なので、ぶっちゃけたところ、未練なんて全くナシ！　それではアディ押忍！

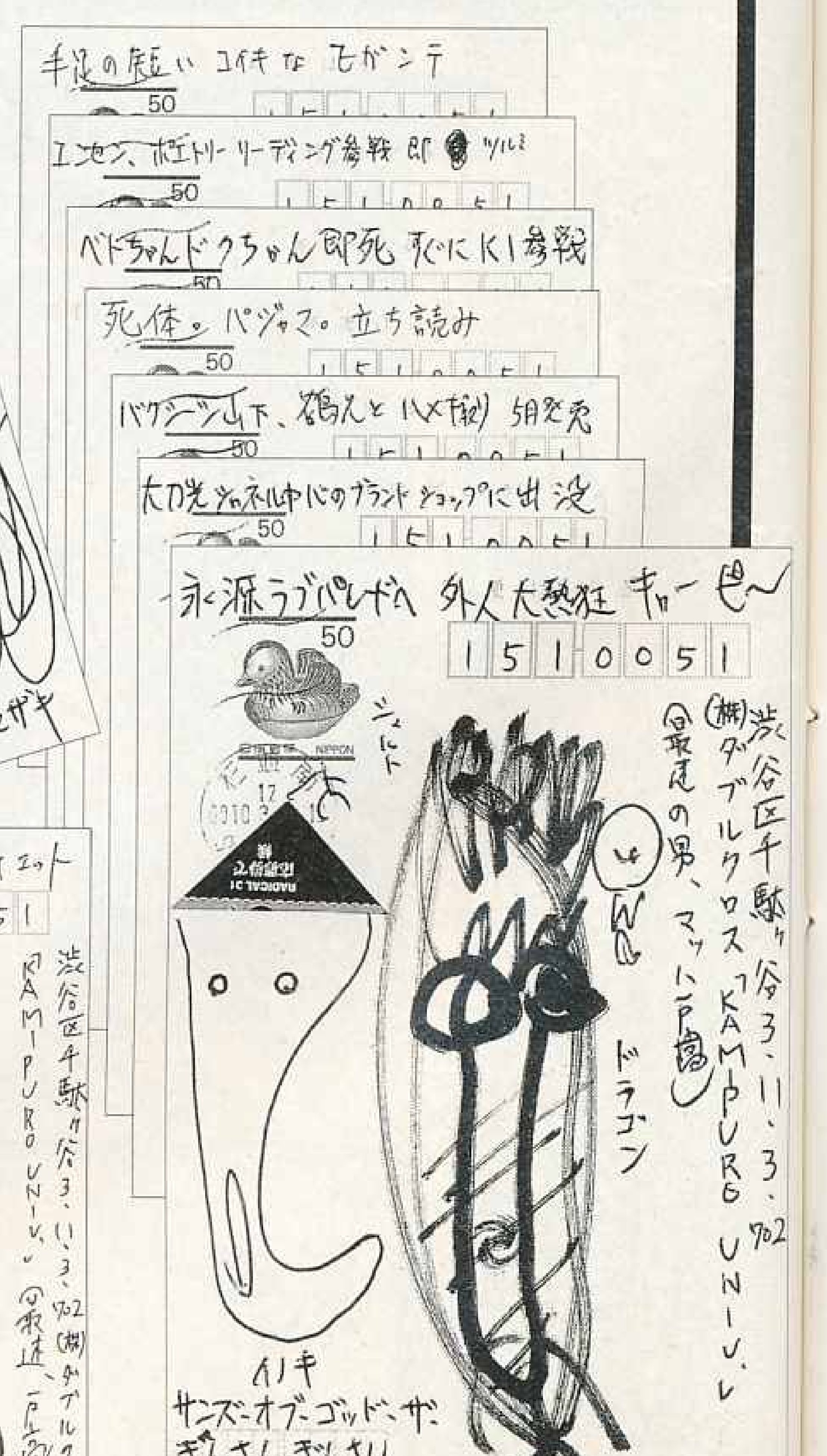
決定ーーーーッ!!

今月のアントニオ文朱（紙プロ・ユニバーシティ首席卒業者）









前号で大フィーチャーしまくったせいか、今月の文朱は、悪い意味で頑張りすぎ！　文朱には初心を忘れないことを忠告しておきたい。しかし、前号の影響なのか、インターネット上で賛否両論が繰り広げられる等、どうにか世間に認知されてきたアントニオ文朱。さらに『SRS-DX』の投稿コーナーの新企画「五木田塾」（本誌ピンナップでもおなじみゴキータが塾長）にまで選出！　しかも該当者は文朱のみという快挙を成し遂げた。さすがは、水戸泉"平成のワイフ・ビーター"元校長が直々に惚れ込んだ男だけある。文朱よ、君こそ『紙プロ』ユニバーシティの誇りだ！　アントニオ文朱先生にはステキなプレゼントを用意しておくので、たまには本当の住所を書いて投稿してくるように。



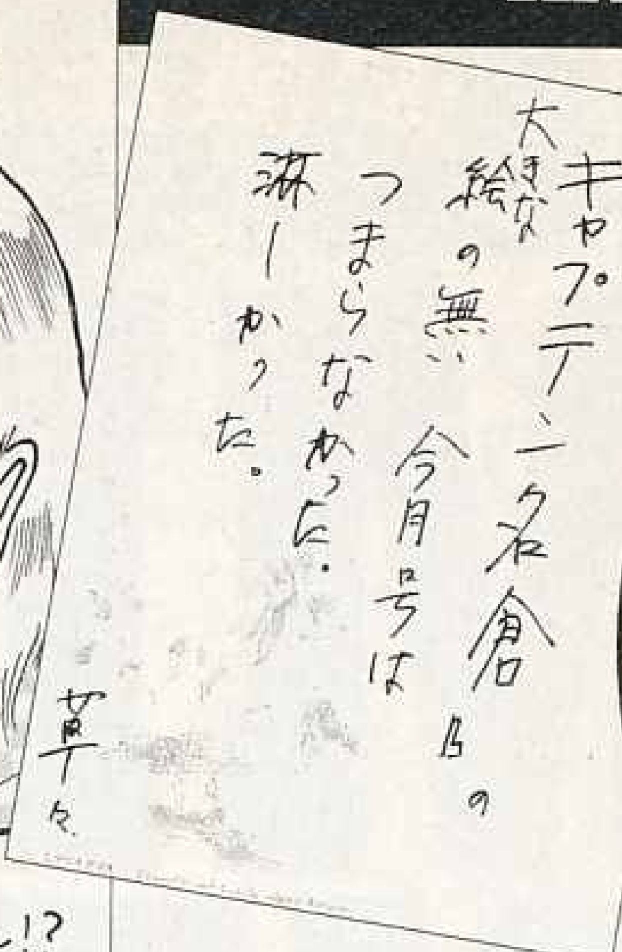


あまりにも唐突すぎる…卒業生紹介

今回の水戸泉（仮）校長の不祥事により、スタートしてから、わずか2ヶ月で『紙プロ』ユニバーシティを巣立っていくことになってしまった、卒業生を紹介します（目にはうっすら涙）。生徒諸君、こんな私に今まで黙ってついてきてくれて本当にありがとう（号泣）。それじゃあ、これからの君達の人生にカ・ン・パ・イ！

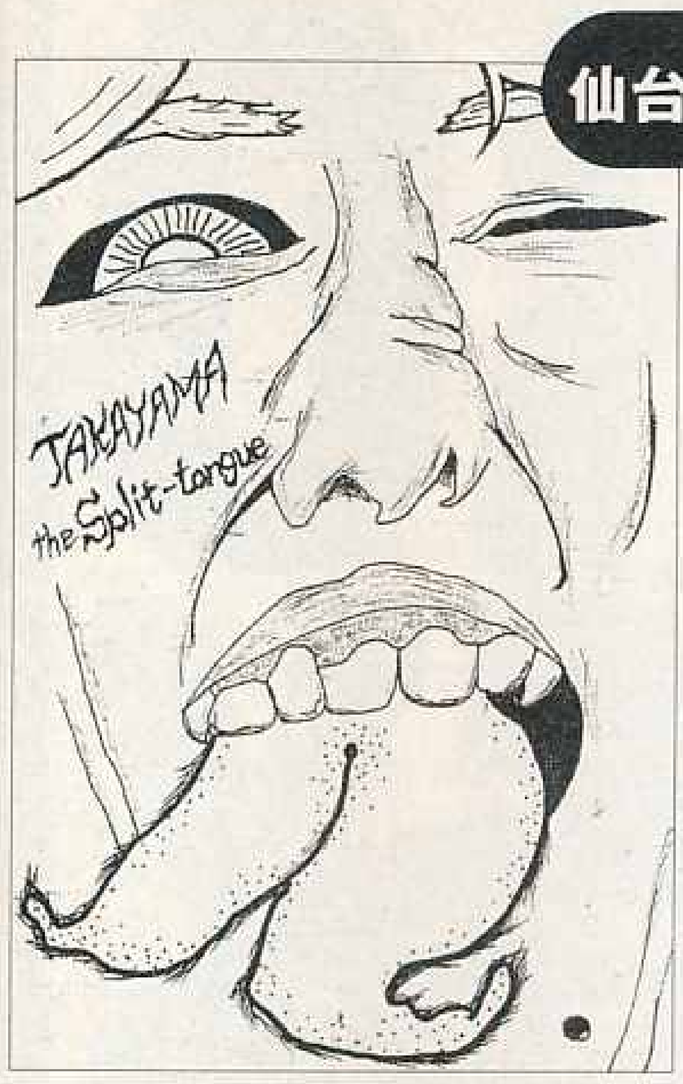
東京都 キャプテン名倉





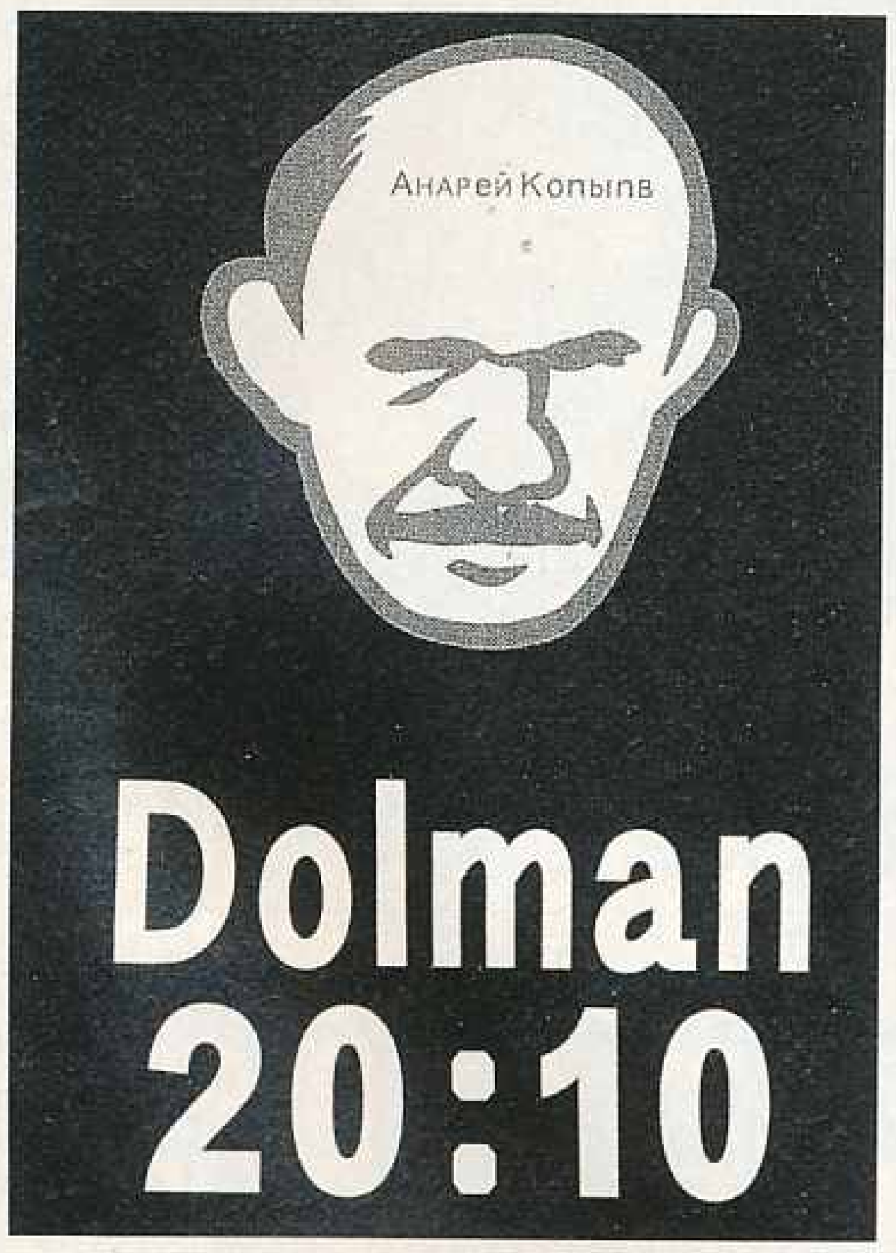
キャプテン名倉さんのお母さまから、お便りが届きました。本当に締切間際に投稿してきたキャプテン名倉さんだったんですが、子を思う母の気持ちに心を打たれ、強引に掲載！

仙台市 網戸



水戸泉（仮）元校長は『紙プロ』なんて読んでないので、知りませんが、先月号の高山のインタビュー＆顔写真はインパクトが強かったらしいね。その他にも、今月は、高山のイラストが多数届きましたが、インパクトでは、網戸さんと、右の名倉さんが非常に秀逸でした。

愛知県 中川雅博





相変わらず、とてつもなく高いクオリティーの作品を投稿してきてくれる中川画伯。これって、そのまんまTシャツに出来るんじゃないの？　誰か作る人いませんか？

愛知県 たっつあん





先月号の某コーナーでは、本名を掲載してしまいご迷惑おかけしました。あれは本誌鬼畜編集長の責任です。

東京都 英加直純



水戸泉（仮）元校長が、『紙プロ』で調べたところ、この号が出るころには、高田対ボブチャンチン戦5秒前らしいね。ホントに大丈夫？　行きまっせ大阪！

東京都 AOKマシンガン

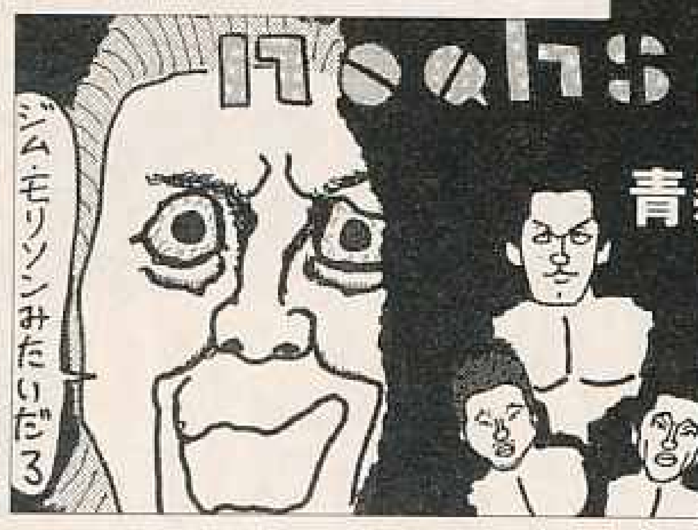


ひまつぶしで書いたと思われる手紙の中に、思いもよらぬ傑作を発見！永田っぽいです。（永田だよね？）





青森県 青木雄大



『紙プロ』ユニバーシティがアントニオ文朱に続いて、五木田塾に送り込みを画策していたのが、青木雄大と仏生寺の2人！　特に今月の仏生寺は、五木田塾的には、かなりいい線いってると思うんですが、井上きびだんごさんどうですか？　『紙プロ』ユニバから推薦！（ダメ？）

大阪府 田端★

このコーナー宛のハガキじゃなかったんですが、独断で掲載！



東京都 仏生寺



東京都の関口エミコさん（下）、三重県の宮崎文子さん（右）、クールな写真、わざわざありがとうございました。
今後も、編集部では世の中とプロレスする写真を随時受付！





はみだし編集部情報

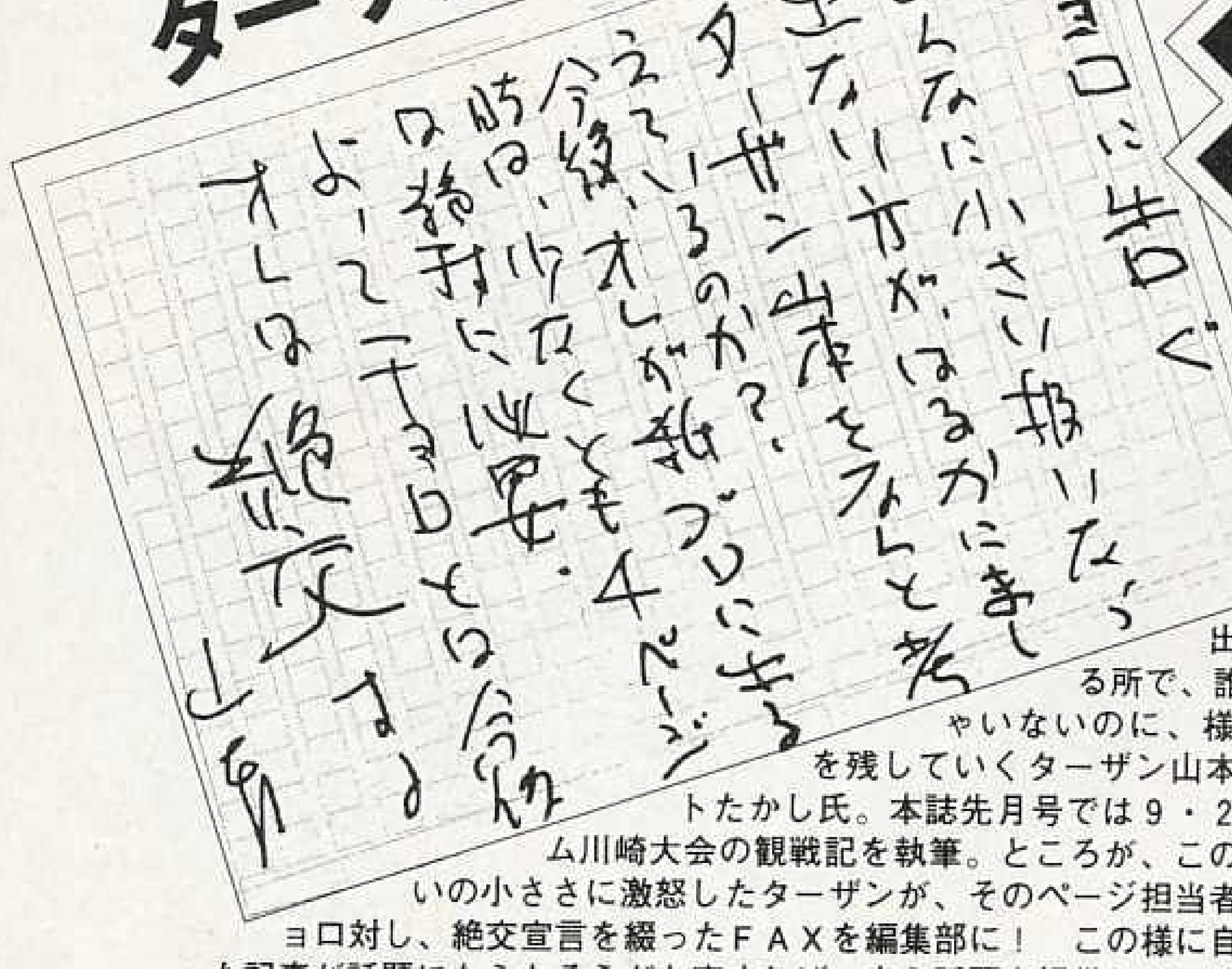
ここ最近の編集部の日常をちょっと紹介

ターザン山本の［天国と地獄］FAX編

天国

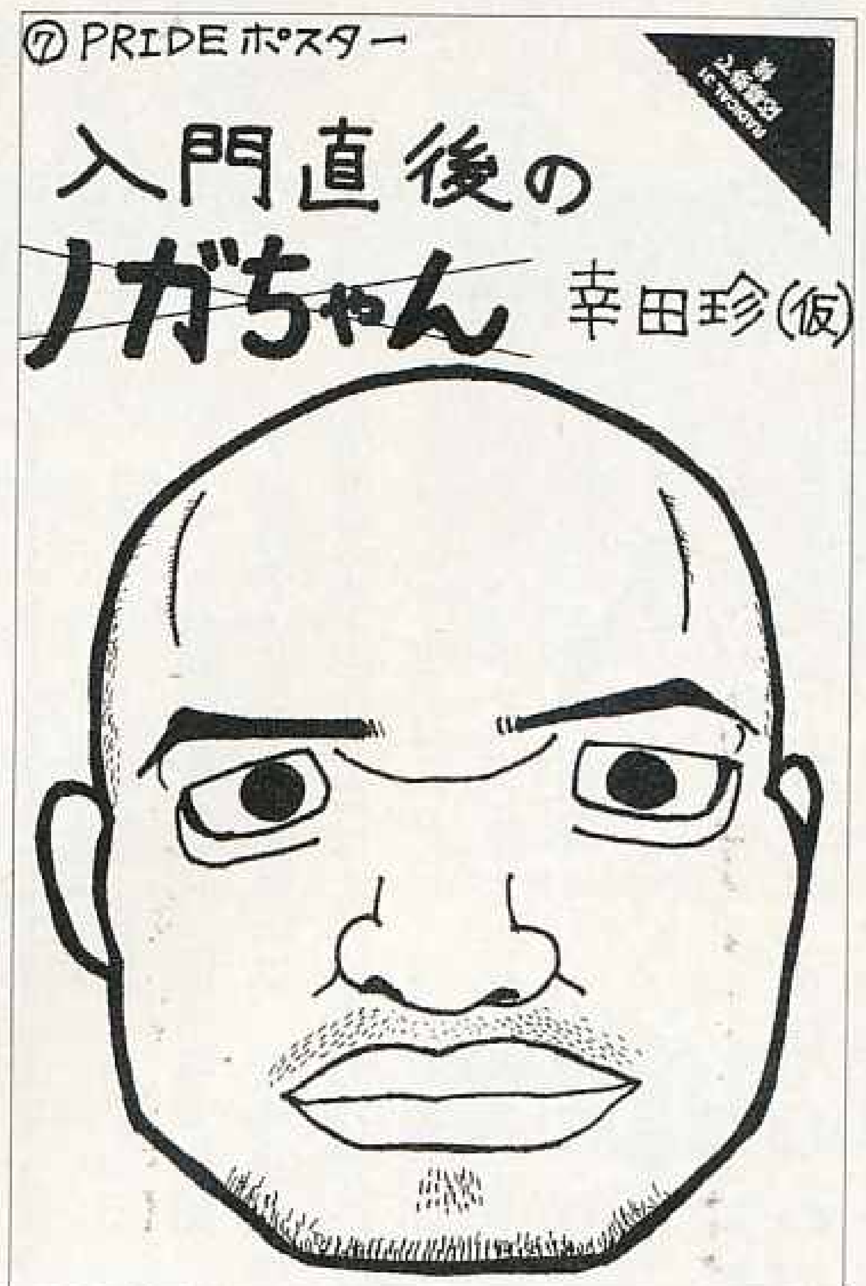


地獄



出現する到る所で、誰も頼んじゃいないのに、様々な物議を残していくターザン山本ことビートたかし氏。本誌先月号では9・2キングダム川崎大会の観戦記を執筆。ところが、この記事の扱いの小ささに激怒したターザンが、そのページ担当者であるチョロ対し、絶交宣言を綴ったFAXを編集部に！　この様に自分の書いた記事が話題にならなそうだと察すれば、自ら話題を提供していくその姿勢は、さすがはターザン。一方、ターザンの一連の離婚騒動の核心に迫るべく、他誌で自分の連載を休んでまでターザンのインタビューを敢行した吉田豪の元へは、大、大、大好きと書き綴ったFAXが。本誌キャットファイターを徹底的に罵り、本誌スーパーバイザーに対しては徹底的に褒めちぎる、その姿勢は、是非とも生きるヒントにさせて頂こうと思った次第である。

悩める魚屋・幸田珍に励ましのお手紙をっ！







熊本県・塩本祐介

上京して、『紙プロ』編集部に入社してから、早2ヶ月。当初は顔のインパクトの凄さで注目の的だったものの、最近になって「実は顔だけ」、「幸田、つまんねー」といった意見が編集部内で続出。今月号では、任せる企画がなかったため、みちのくのリング設営や物販をお手伝いさせたものの、雑用三昧の扱いに我慢ならずに、放浪の旅に飛び出し、現在絶賛失踪中。本誌編集部『負けるな魚屋！』係では、そんな幸田君の励ましのお便りをお待ちしております。　イラスト左・青木雄大、右・キャプテン名倉



10月8日、懲りない本誌キャットファイターが、恵比寿みるくに今度はリングアナとして登場＆やっぱりファイト！

邪道グレート・チョロ復活！ ＆初代マスクド店長から素敵なプレゼント！

厳選に厳選を重ねた4本は、どれもおまけにラブ・ゼリー（自宅でヘルス気分が味わえます）まで付いてくる！　普通のAVなら20秒は我慢できると豪語する本誌最速新人マッハ戸高（最近、戸高アビバに改名）を僅か5秒で昇天させてしまった驚愕の内容を誇るAVを、なんと4本セットで大放出！　お前ら、見れんのかーッ！　18歳以下でもくれてやる！【株式会社アタッカーズ提供】



初代マスクド店長と、メイプルちゃん、そして謎の覆面女との4ショット。本家邪道・大仁田厚も登場したん邪！





闘いを通じ、愛が芽生え始めたチョロとメイプル。そのメイプルを控室で襲撃してきた愛ちゃんが、これまたかわいいん邪！

投稿＆ハガキ 大募集！

来月号からスタートする読者のための新企画ページ（仮）（内容、タイトル未定）では、皆さんからのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文、罵詈雑言まで、様々なメッセージをお待ちしています。最近、面白いハガキが少ない！　女性からのハガキも少なすぎ！　迷わず送ってこーい！　すべての宛先は…　〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス『新・読者ページ』係まで。合い言葉は「あ〜、ビバ！ ビバ！」です。

→ページで紙プロ・ユニバーシティ廃校ーーーッ！

2ヵ月の長期にわたって支えてくださった皆さん、アリガトーッ！

リング外の情報をこまめにチェック！

格闘笑点

高田を講師に迎えた青空プロレス道場は過去最高の動員数を記録！　さらに前田が、新宿のHMVでトークライブを開催！　UWFの2大巨頭が揃ってリング外での勇姿を披露してくれた今月ですが、その他にもいろいろあったリング外情報をここでばっちり紹介！

9・24 ▶▶ 板橋産文ホール

「PRE-PRIDE」



遂に『PRIDE』が人材の育成に乗り出した！　これまでの危険で残酷なイメージを払拭して、ドゥ・スポーツとしてのバーリ・トゥードを確立させるための、記念すべき第一歩となるのか、注目である。「何年か後に、今日、板橋でここに集まった選手を見ていたことが自慢できる日が来ればいい」とは、番組プロデューサーの秋本康さんのお言葉。本当にそんな日が来るように、彼らの頑張りに期待したい。

9月24日、PRE—PRIDEなるイベントが開催された。何も事前に聞かされていなかったボクは、会場が板橋産文ホールなだけに、『誇りグランプリ』のような『PRIDE』をパロッたイベントだと思ったりしていた。しかし、会場に到着して、ようやくDSE主催のイベントということを認識。

聞くところに寄ると、K—1のモンスターファクトリーの『PRIDE』版のようなオーディションの開催らしい。審査員席に小路、佐竹、島田レフェリー、中山リングドクター、森下社長の姿を確認して、ようやく納得。その他にも秋本康や、作家の百瀬さん、リサ・スティッグマイヤーが審査員を務めていて、どうやら東海地区ではテレビ放映もされるらしい。凄ェ！

空手、ラグビー、大相撲、ボクシングのキャリアの持ち主から、格闘技経験こそ無いが、喧嘩無敗を名乗る強者まで、書類選考を通過した21名による自己アピールによる1次審査がスタート。蹴りでのバット折り、コーラ一気飲み、プリン50個早食い等（なぜだ!?）で懸命に自分をアピールする候補者達の中から11人が2次審査へ。しかし、普通の体格の格闘技経験も全くない人が、オチ役でならという条件で審査を通過したりと、テレビ番組らしい一幕も。どうやら、ガチンコファイトクラブの『PRIDE』版といった方がよさそうな趣のオーディションでした。今後、審査を通過した人達は高田道場や怪獣王国で練習を積むらしいが、『PRIDE』を頼むぞーッ！（水戸泉）



2次審査では、参加者のやる気を確かめるためのテストとして、腕立て1千回、スクワット1千回、腹筋1千回を敢行！

10・1 ▶▶ 渋谷ロックウエスト

「ロードウォーリアーズを囲む会」



昼間のバト後楽園ホール大会から、そのまま駆けつけたファンも多数！　間近で接してくれて、サインにも快く応じるアニマル&ホークにはみんな感激！　ちなみにこの日はNTVのコロッセオも取材に訪れてたのですが、ボクが2人からサインを貰っているところがオンエア！　いい思い出になり、これでもう20世紀は終わってもいい！

『プロレススター列伝』を愛読し、九州の田舎で少年期を過ごしたボクが、まさかあのロード・ウォーリアーズと一緒に酒を飲める日が来るなんて！

10月1日、バトラーツが「ロードウォリアーズを囲む会」というステキなイベントをプレゼントしてくれたのだ。前日は『青空プロレス道場』があって、その打ち上げ（1&2次会）で朝5時まで飲みまくったせいで、体調は最悪。おかげで、昼間のバトラーツの後楽園ホールでの興行こそ行けなかったものの、一生に一度きりかも知れないチャンスを逃すわけにはいかないので、二日酔いの自分の身体にムチを入れ、夕方の渋谷ロックウエストへと向かった。

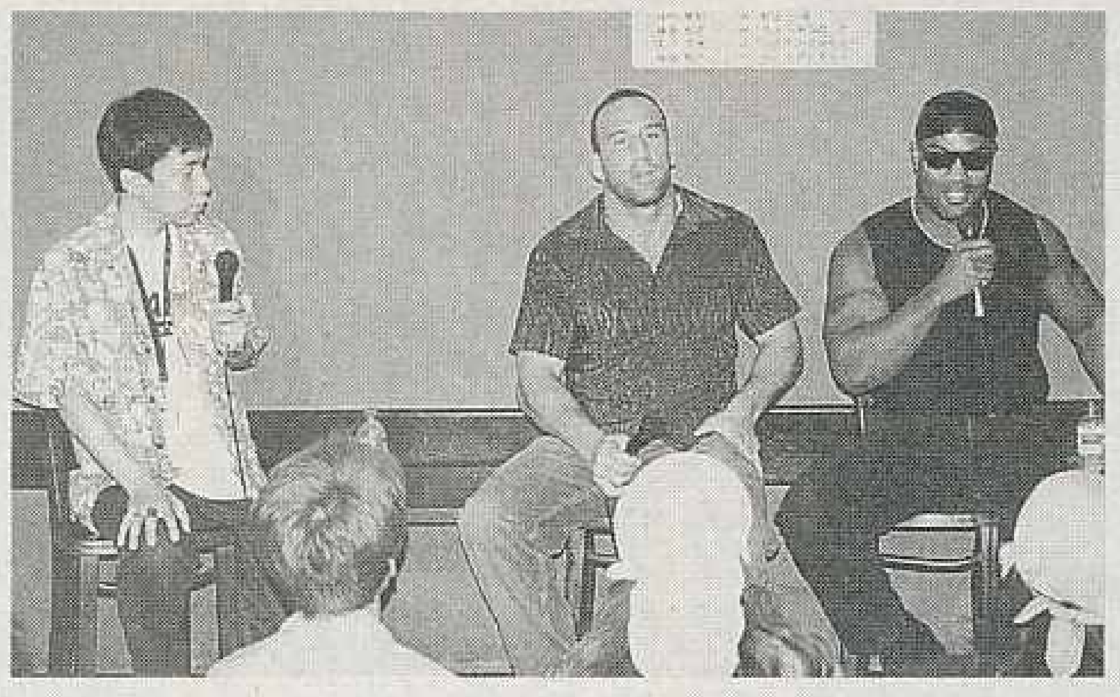
結論から、言わせてもらうと、いや〜、行って良かった！　二日酔いでも無理した甲斐がありました。本当にアニマル&ホークと乾杯しちゃいましたよ！　その瞬間、ボクは二日酔いのことなんか、すっかり忘れて、飲みました。いい酒だったなあ…。アニマル&ホークの2人は、「次に来日する時にはポール・エラリンを交えた3人で来日したい」、「ハンセン&ブロディと一度は闘いたかった」と昭和プロレス幻想が膨らむいい話をしてました。タバスコの一気飲みをしてもらうのを忘れてしまったのが、ちょっと心残りでしたが、集まったファンも全員間近でアニマル&ホークと接することができて最高に幸せそうでした。（戸高アビバ）



心臓を患っているのに飲みまくったホークにはファンも心配顔だったが、お酒のことならノー問題！次こそ人揃ったファイトを見せてくれ！

島田裕二プロデュースイベント情報

「PRIDEとは何か？ 2DAYS」



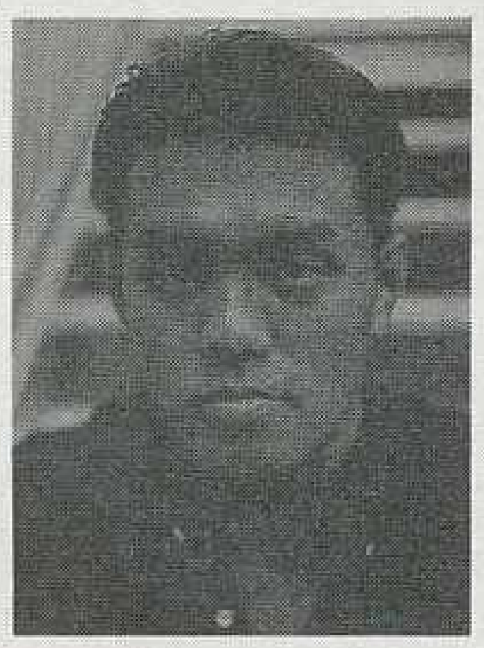
『PRIDE11』を目前に控え、恒例の「『PRIDE』とは何か？」が恒例となった渋谷ロックウエストと札幌での2DAYSで開催決定！ しかもロックウエストの方は、いつも通り入場無料！ 入場無料イベントでありながら、グッドリッジとコールマンといったビッグネームが突如、飛び入り参加した前回同様、今回も何かが起こるのか？ 9月7日には、開催予定だった『島田会』が、突如として『野口会』に変更された経緯があるだけに（詳しくは前号参照）、島田さん、今回は期待してます！

一部、発売日が遅れる地域の方には申し訳ございませんが、ロックウエストの方は、この号の発売日である本日開催です！ まだ間に合う！ 急げ！ 前回、アンディ・フグの急逝で欠席となったサダハルンバも今回は出演します。またまた凄いゲストが来てしまうのか？ 気になる人はロックウエストへ急げ！

まだ間に合う！ 本日開催！
10・26渋谷ロックウエスト
START 19:00～
ゲスト 山口 昇（紙のプロレス）
谷川 貞治 （SRS－DX）
※入場無料！

10・28札幌・すすきのコロシアム
START 19:00～
¥2000（1ドリンク付き）
ゲスト アレクサンダー大塚
『PRIDE』とは何か？」が札幌に上陸！ 3日後に、『PRIDE11』参戦を控えた、アレクがゲスト。決戦を目前に控えたアレクの意気込みを間近で聞け！

秋山準学園祭トークイベント情報



国士舘大学
プロレス観戦同好会
秋山 準トークライブ
[日時] 11月3日
開場13:00 開演14:00
[会場] 国士舘大学世田谷校舎 図書館下大ホール
世田谷区世田谷4-28-1
[交通] 小田急線『梅ヶ丘駅』下車 徒歩15分
世田谷線『松陰神社前駅』下車 徒歩5分
[販売] 全席自由¥1200 当日¥1300
チャンピオン、レッスル渋谷店、AO CORNERで販売中
[お問い合せ] 宮崎 090-2237-0353
及川 090-2317-9117

秋山 準講演会
大航海時代ー
[日時] 10月29日
開場13:00 開演14:00
[会場] 牛込箪笥区民センター
[交通] JR総武線『飯田橋駅』下車 徒歩10分
東西線『神楽坂駅』下車 徒歩10分
[販売] 全席自由 ¥1200
チケットぴあにて発売
[主催] 早稲田大学公認プロレス研究会"爆裂"
[お問い合せ] 寺山 090-2237-0353
小竹 090-4755-8296

その他の情報

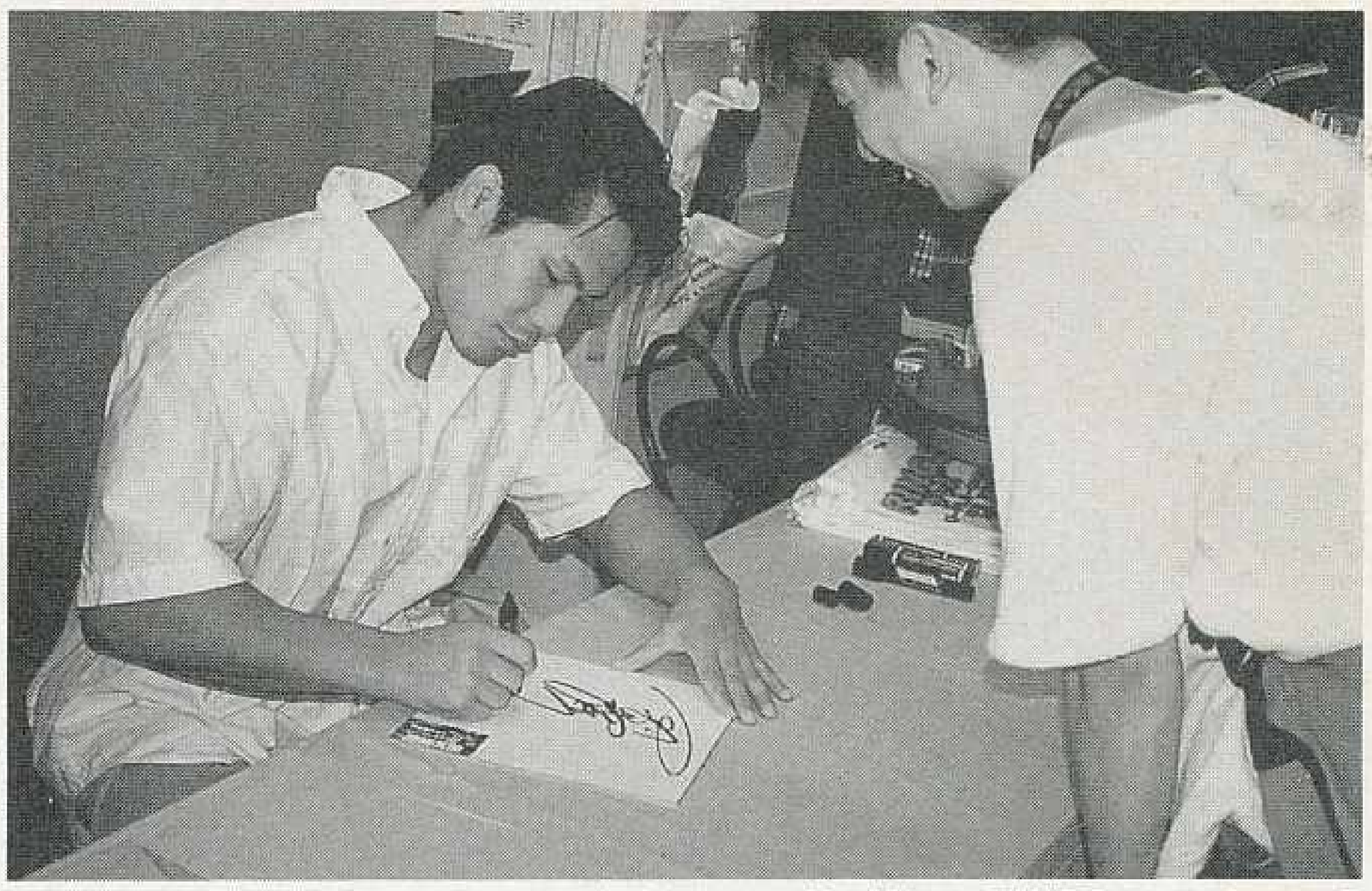
孤高の魂 ～格闘技の全てを語る～
民族スポーツフェスティバル
[日時] 11月21日 18:30～20:30
[会場：大阪厚生年金会館芸術ホール
大阪市西区新町1－14－15
[販売] 当日入場券¥1500
前売入場券¥1200
チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイドにて発売
[出演者] 総合司会 夢枕獏
[ゲスト] 板垣恵介、松原隆一郎、角田信朗、中井祐樹
[お問い合せ] 財団法人 大阪21世紀協会スポーツ部 TEL.06-6942-2008

CIMAトークライブ
[日時] 11月6日
OPEN17:30 START18:00
[会場] 渋谷ロックウエスト
[チケット] ¥6000（限定Tシャツ＆1ドリンク付）
[問い合わせ]
ロックウエスト 03-5459-7989
チャンピオン東京店 03-3221-6237

白鳥智香子 写真集発刊記念サイン会
[日時] 10月29日 15：00～17：00
[会場＆お問い合わせ]
チャンピオン東京店03-3221-6237

9・30 ▶▶ 尚武堂

田村潔司サイン会



8・23リングス・大阪大会での一連のリングス内部批判が記憶に新しい、田村潔司のサイン会が、9月30日、水道橋の公武堂スポーツで開催された。今後の動向が注目される最中でのサイン会となったが、そんなことは関係ナシ！とばかりに、滅多にないチャンスに記念撮影を求めるファン（『紙プロ』読者多数）が続出！ あまりにも親切かつ丁寧にファンの要望に応える田村の前に、抱きついた状態での記念撮影を求める女性もちらほら。田村人気はさすがであった。

前田日明学園祭トークイベント情報

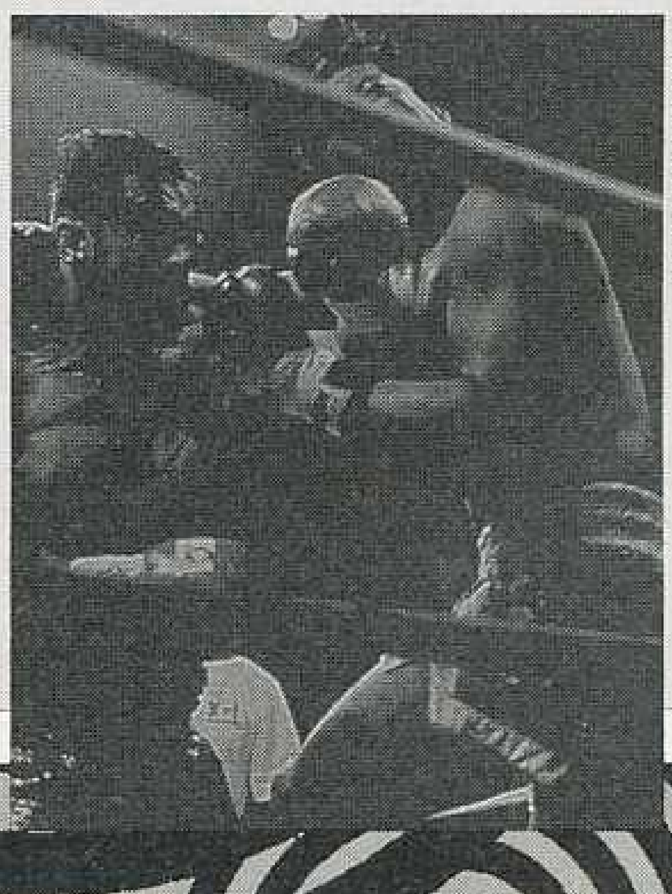
10月7日、新宿HMVでのトークライブでは、「最近、よく聞く音楽は浪花節」、「刀が欲しい」、「零戦に乗りたい」などHMVらしからぬトークを連発。さらには、田村をはじめとするリングス・ジャパン勢や、アントンにまで矛先を向けた、厳しくも、しっかり筋の通った毒舌まで、相変わらずの日明節を披露してくれた日明兄さんが、今度は学園祭のトークライブに出演。HMVから、大学の体育館に場所が変わろうろも、必ずや聞かせてくれるであろう日明節で、またもや"前田日明は何処まで行っても前田日明"であることを証明してくれるトークライブになるであろう。



前田日明 追手門大学
学園祭トークライブ
[日時] 11月2日 開場16:30 開演17:00
[会場] 追手門学院大学内体育館
大阪府茨木市西安威2-1-15
[交通] 阪急・JR『茨木駅』下車「追手門学院大学」行きバス乗車
[お問い合せ：実行委員会
0726-41-9655 ※入場無料！

アンディフグ追悼ビデオ&DVD情報

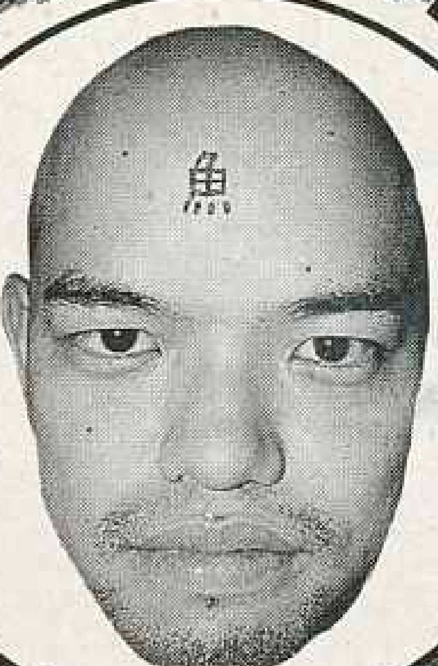
様々なメディアで追悼特集が組まれ、いまだに記憶に新しいアンディ・フグの訃報。普段、K－1の選手を特集することがないので、最近からの『紙プロ』読者には信じられない話かもしれないですが、実は小さい頃の『紙プロ』20号で、アンディには角田選手と共に表紙を飾ってもらった間柄だったのです。専門誌であるはずの『紙プロ』での扱いが小さすぎるという意見が多数寄せられましたが、そんな意見に応えるためでは決してありません。『紙プロ』なりのアンディ追悼の意を込めて、この度、ソニーピクチャーズからリリースされたビデオ＆DVDを紹介させて頂きます。



©1998 K-1/NTV

ビデオ3巻セット：¥5997（モーリス・スミス、天田ヒロミ、アーネスト・ホースト戦収録）
DVD4枚セット：¥18800（中迫剛、モーリス・スミス、天田ヒロミ、アーネスト・ホースト戦収録）
発売・販売元：（株）ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
お問い合せ：（株）マンハッタンピープル 03-3543-3610
99年度のK－1でのアンディの激闘の数々を収録。DVDの方は、打撃の重低音からセコンドの声までも収録した5.1チャンネルサウンドに加えて、異なる視点で何度でも試合が楽しめるマルチアングルを採用！ 「e+（イープラス）」（http://eee.eplus.co.jp./）のサイトでのみ絶賛発売中。

『紙プロ』練習生・幸田珍の

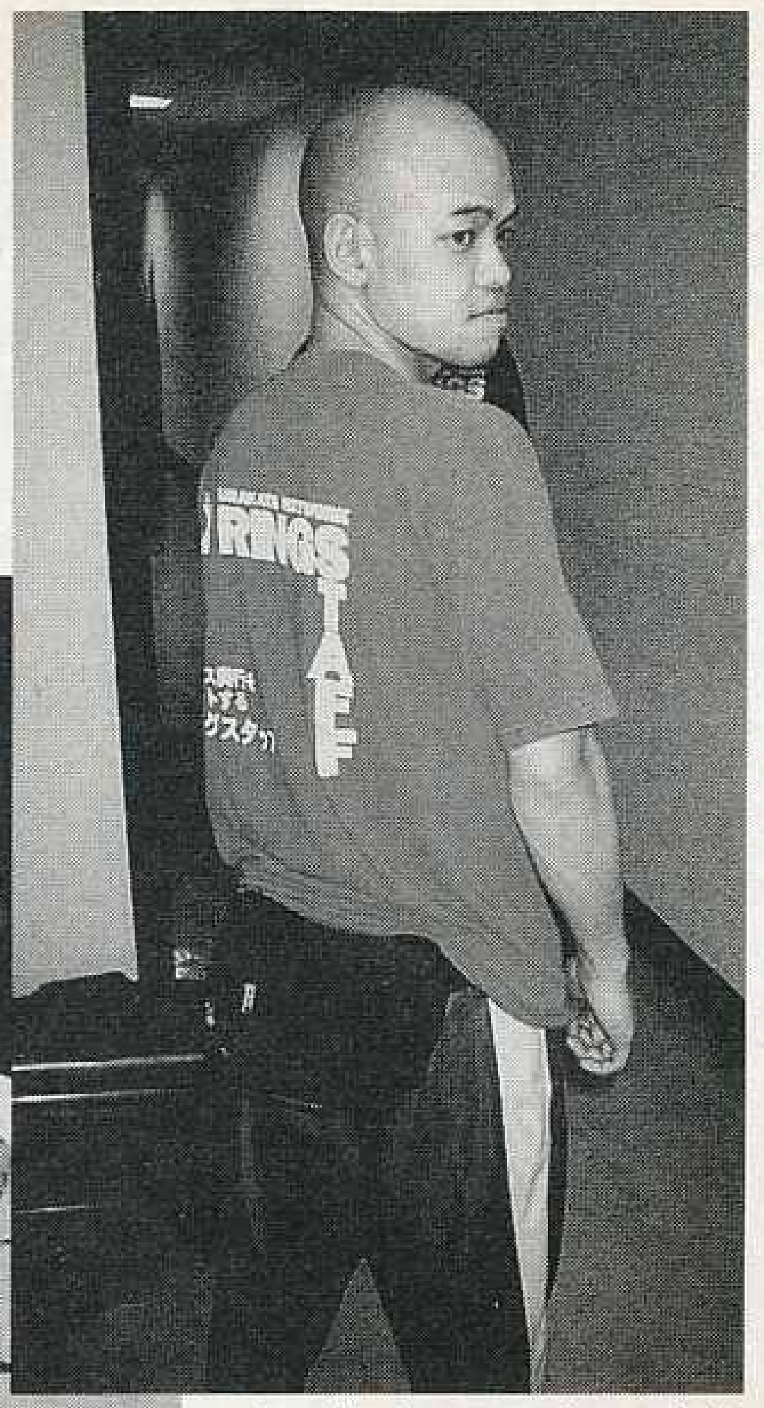


プロレスをよくわからないので"雑用"から始めます！

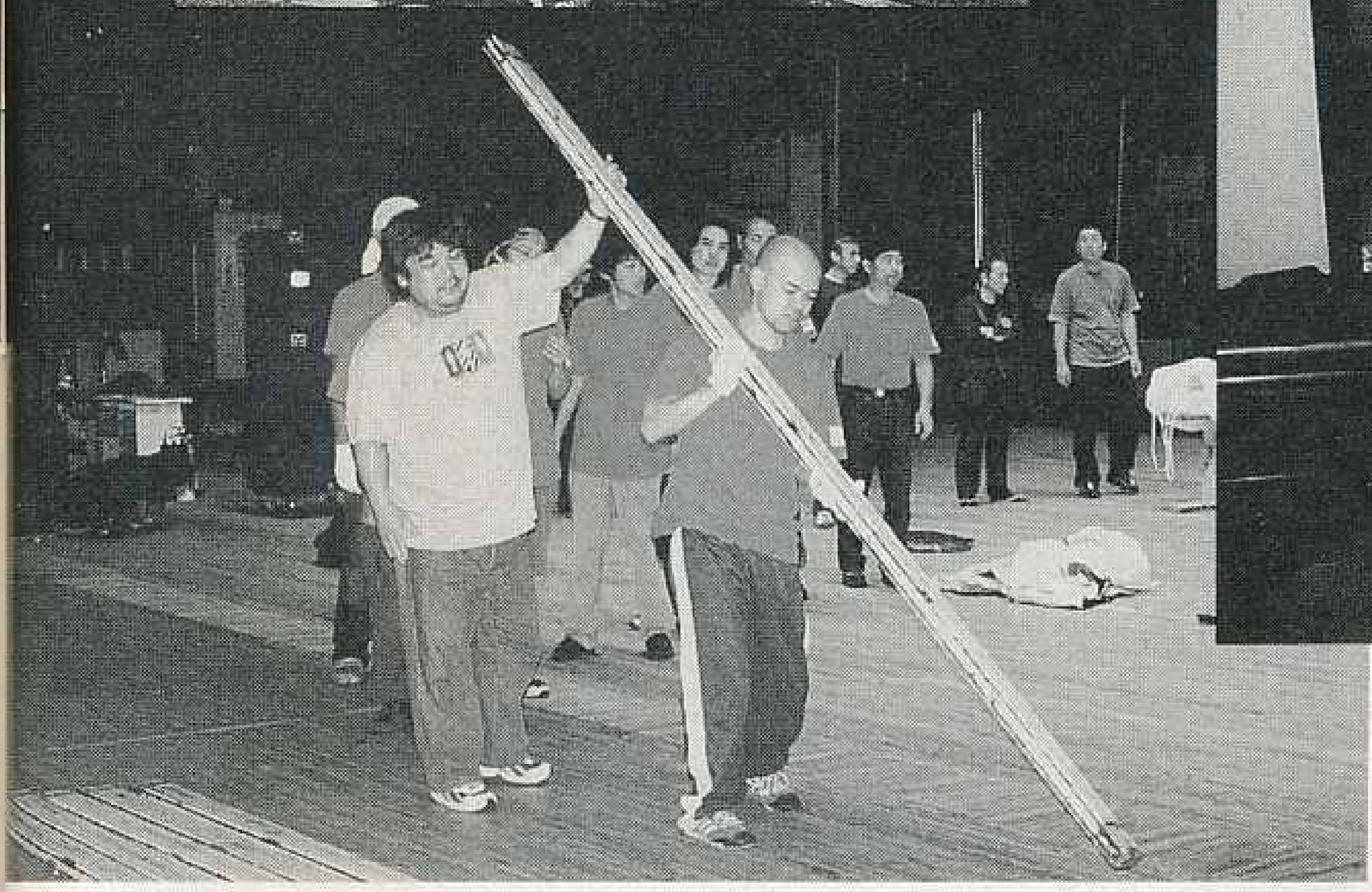
最初は顔のインパクトだけで『紙プロ』スタッフも興味本意で接してくれたが、最近は高学歴だが「プロレス知らない、礼儀知らない、ギャグもつまらない」と中身の空洞化が見ぬかれかなりヤバイ状況。ギャグがつまらないのはすぐには改善できないが、プロレス知識と礼儀の両方を手っ取り早く身につけるにはリング屋が一番！（なんでや？）日本が世界に誇るリング屋集団・パンチ田原率いるリングスタッフに勝手に潜入！　編集部のヤツらめ、見とれや、オレの仕事っぷり！



パワーに溢れているオレ、マットもガンガン運んでリングスタッフとして十二分の働き。ギョ！



リングスタッフのTシャツを着るとどっから見ても練習生のオレ。よし、今日は頑張るぞ！



早くも疲労の色が出始めるオレ。ギョ！　リングの鉄骨はメチャ重たいッス

『みちプロ』での48時間はオレを変えるには十分な時間だった！

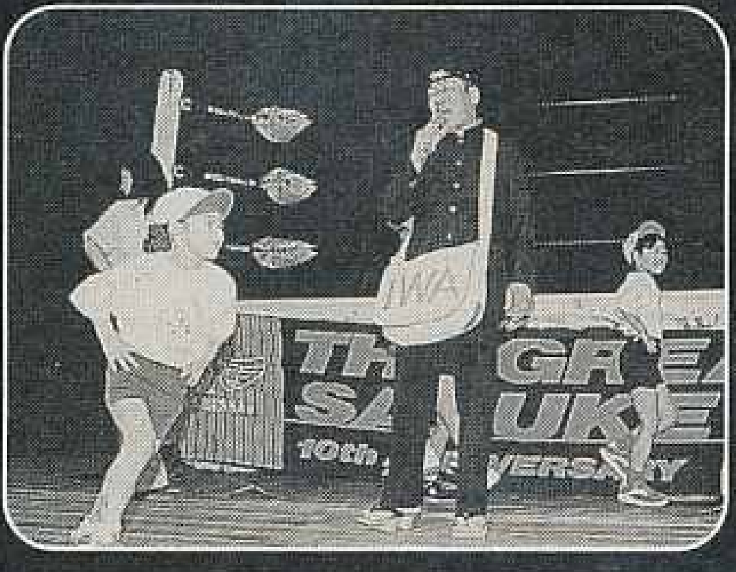
「もう死んだ魚の目は見たくない」と言って魚屋を辞め『紙プロ』に入社。しかし編集部で、もがき苦しみ「死んだ魚の目をしてるのはお前だ！」とまで言われる始末。なんとかしなければと思っていたら『みちプロ』東京大会2daysのリリースが。これや！

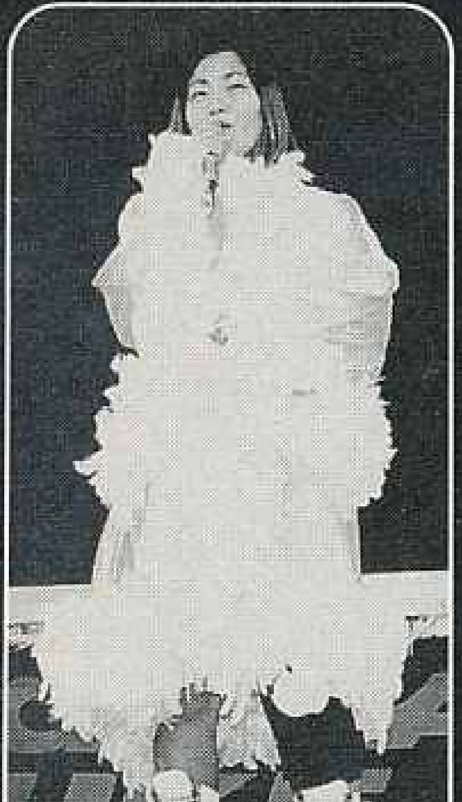
ここでオレはプロレスを知るんや！『みちプロ』は確か藤田穣選手と愚乱・浪花選手が雑用が嫌で出てったばっかりで困ってるはずや。見とれや、きっちりオレが雑用こなしたんで！　オレは『みちプロ』を勝手に48時間密着取材することを決定！

初日のディファ有明大会は偵察に徹し、裏方の仕事をチェック＆サスケ社長とリングスタッフのパンチ田原氏へ挨拶。サスケ社長はオレの顔を見て開口一番「どこの星の人？」と一言。よし、ツカミはOK！　帰り際にパンチ田原氏に「明日は9時集合ね」と肩を叩かれ気合いが入った。よし、明日は頑張るぞ！

二日目、オレはきっちり5分前に到着。「な、なに！　リングスタッフの人はすでに全員揃ってるやんけ！」。オレは早くも出遅れた。気を取りなおし、オレは神聖なるリングの設営にかかった。そこにはTシャツにサングラスそしてビキニパンツの怪しい男が。しかしこのビキニマン、的確な指示でみんなをまとめあげ、リング設営はスムーズに終了。大役を終え、一服しながら同行したチョロさんに尋ねた「あのビキニマン凄い働きっぷりなんですけど、誰なんスか？」。その瞬間、強烈な張り手が！「サスケ社長だよ！」さす

みちのくプロレス『2days』～想像をはるかに越える48時間～ギョギョギョのプチレビュー

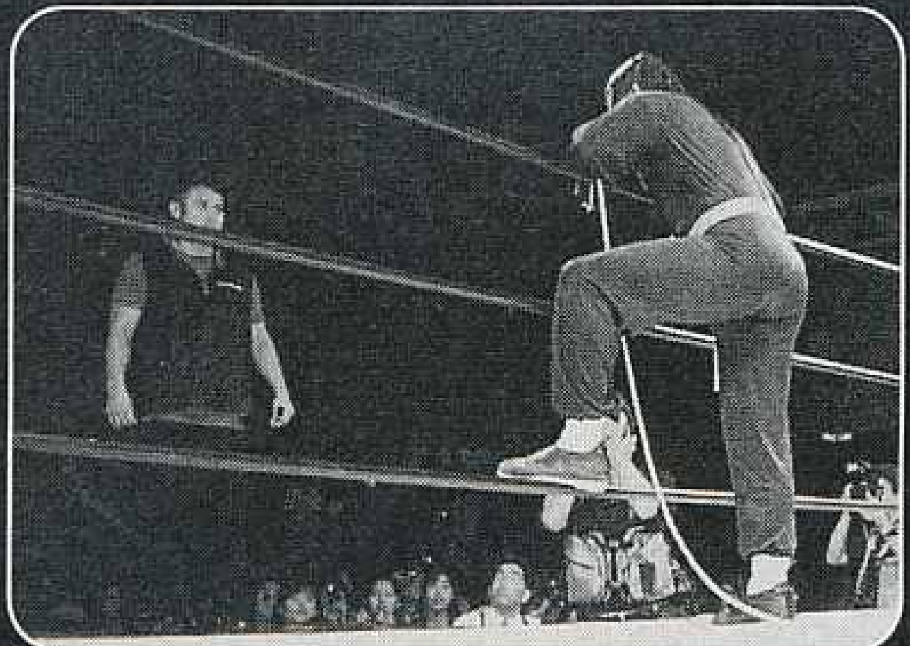




（写真左）IWAの浅野社長は園児たちをバックダンサーに「すてきな16歳」を熱唱。学帽とカバンにはキッチリ「IWA」のロゴが（写真下）阿部幸江選手（Jd'）は「貧乳」を歌う。それほど貧乳ならぜひ見せてもらいたい



『みちプロ』紅白歌合戦の裏MVPの司会者も大絶賛の歌唱力を持つバッファロー太野

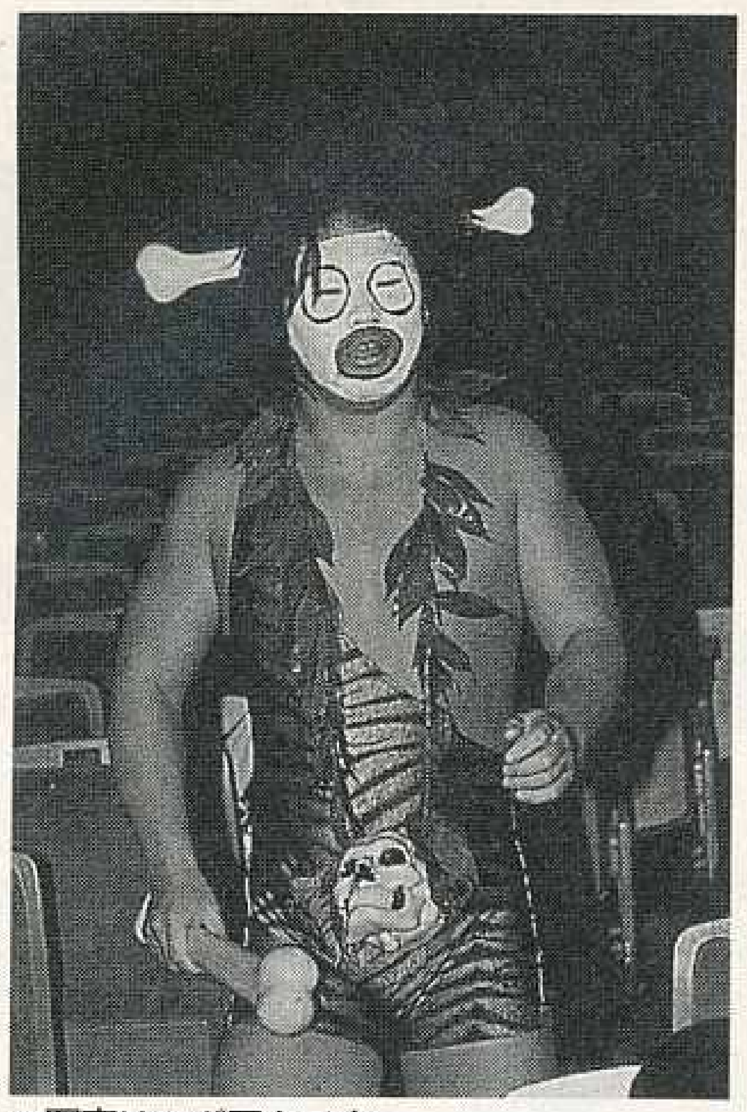






サスケを凌駕する勢いの空中殺法を見せたものの惜しくも敗れた丸藤。試合写真がないのはカメラの電池が切れたから。ごめん！

（写真左上）WCWのカズ・ハヤシが突然会場へ。サスケ社長は「またげ、コラ！　またげよ、コラ！」と長州節を連発、ネタのためだけに呼びつけたのか？（写真左）想像を絶する48時間はダテじゃない。カズ・ハヤシに続きWWFのTAKAみちのくも登場。TAKAは「近い将来オレが育てた海援隊道場（「早い話が闘龍門のパクリだよ」TAKA談）の選手がお前をやっつけに行くぜ！」と言い、その後サスケ社長とガッチリ握手



※写真はツボ原人です

『生きるためのヒント』を 小坪弘良選手からいただいたオレ

珍 プロレスマスコミとはいえ、リング設営とかをやるっていうのは大事なことですよね？

小坪 あったり前ですわ。そっからですよ、基本は。まず穴を掘ることから覚えないと、穴を埋めることはできないんです。右も左もわからない中に、あえて自分を置いて。リング設営とかして下っ端の気持ちも味わいながら、少しづつ上にあがった方がね、いずれは立派な指導者になれますよ。

珍 えっ、ボクが指導者に？

小坪 そう。それぐらい志は高く持たないと。何もね、富士山の五合目を目標にして登る奴はいないですから。「頂点を目指していきましょうよ！」と。まあ栄光への近道はないですから。不自由を常に当たり前だと思わないと。

珍 不自由を当たり前に思えと？

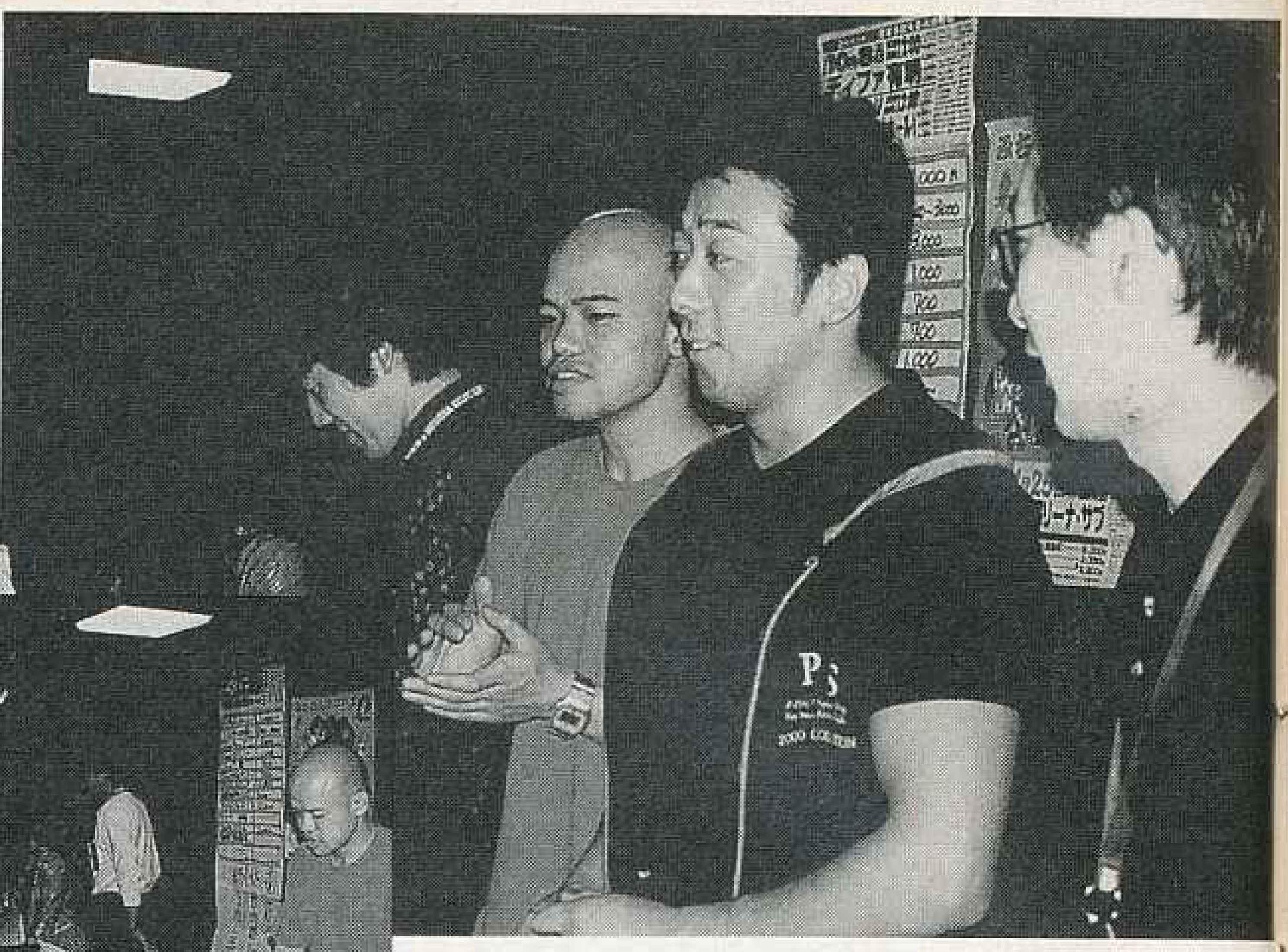
小坪 そういうことですよ。ただ『紙プロ』の場合はそれだけじゃダメなんですわ。人並みの下っ端のことをやってるだけじゃダメなんですよ。あえてそういう頭なんだから、元魚屋だったらデコに"魚"って書いたり、あとはデコにサングラス置いてる絵をかいたりして、あえて人の注目を浴びながらも、下っ端の仕事をやるっていうのが大事なんですよ。

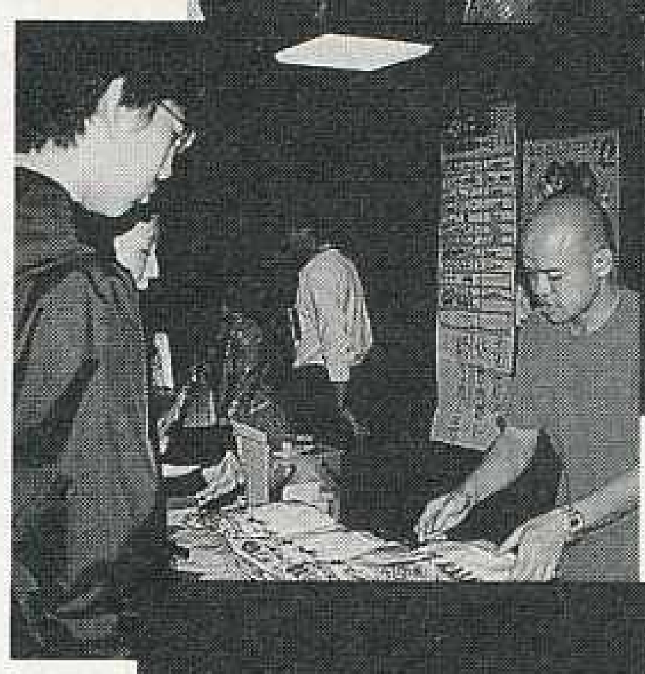
珍 それが、ツボ原人スピリットなんや！

小坪 そうです。恥じ掻いてナンボの世界ですから。普段から常に人に見られることをしとかないと。作業中であればデコに"作業中"と書いたりね。それぐらいのスピリットがないと。恥とマスだけはナンボでもかいていいんですから。その代わり義理だけは欠いちゃいけないと。日々精進ですわ。種を撒いたからってすぐに花は咲きませんから。一発で満足して終わらせるんじゃなくて、今日の新日のドーム大会に行ってリング撤収やったりとか、いろいろやんないと。そうすれば顔売ることも出来るし、誰が使える奴か使えない奴かっていうのもわかるから。みちのくは社長自らリング設営やってんですから、下っ端がやんないわけにはいかないでしょ。「百の説教より一つの行動を」ですよ。みんな背中を見て行動するわけですよ。

珍 そやっ！ 確かに今まで編集部にいると説教ばっかりやった。これからは行動で見せていきまっせ！ 小坪さん、ありがとうございました。これから東京ドーム行ってきますわ！

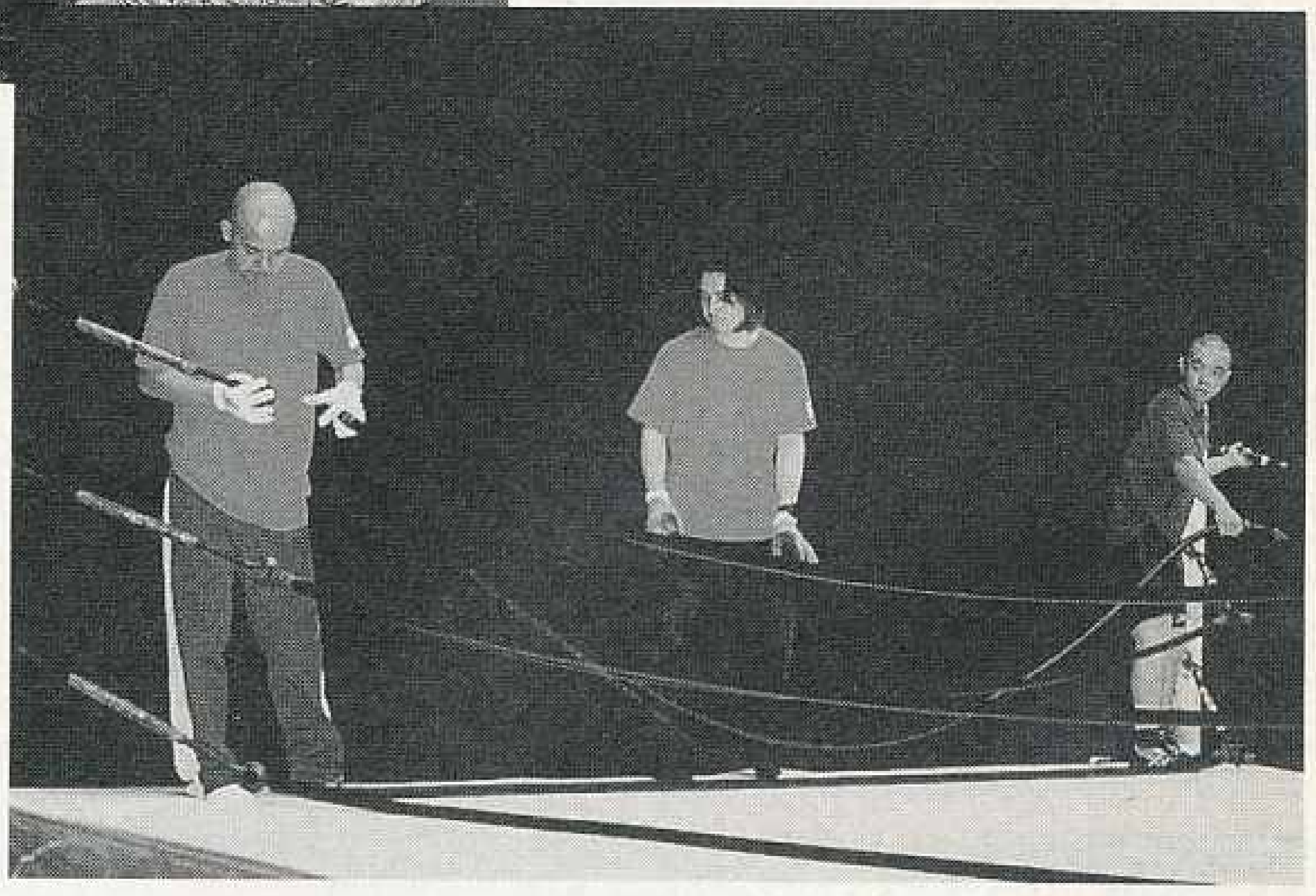
MEN'Sテイオーをはじめとする名選手と一緒に働くオレ。もちろん名選手の名前はチョロさんから学んだ





やはり威勢だけではグッズは売れなかった。グッズ販売は奥が深いと実感するオレ

『みちプロ』練習生の（オレと非常に酷似の）珍念さんと一緒にリングを撤去するオレ

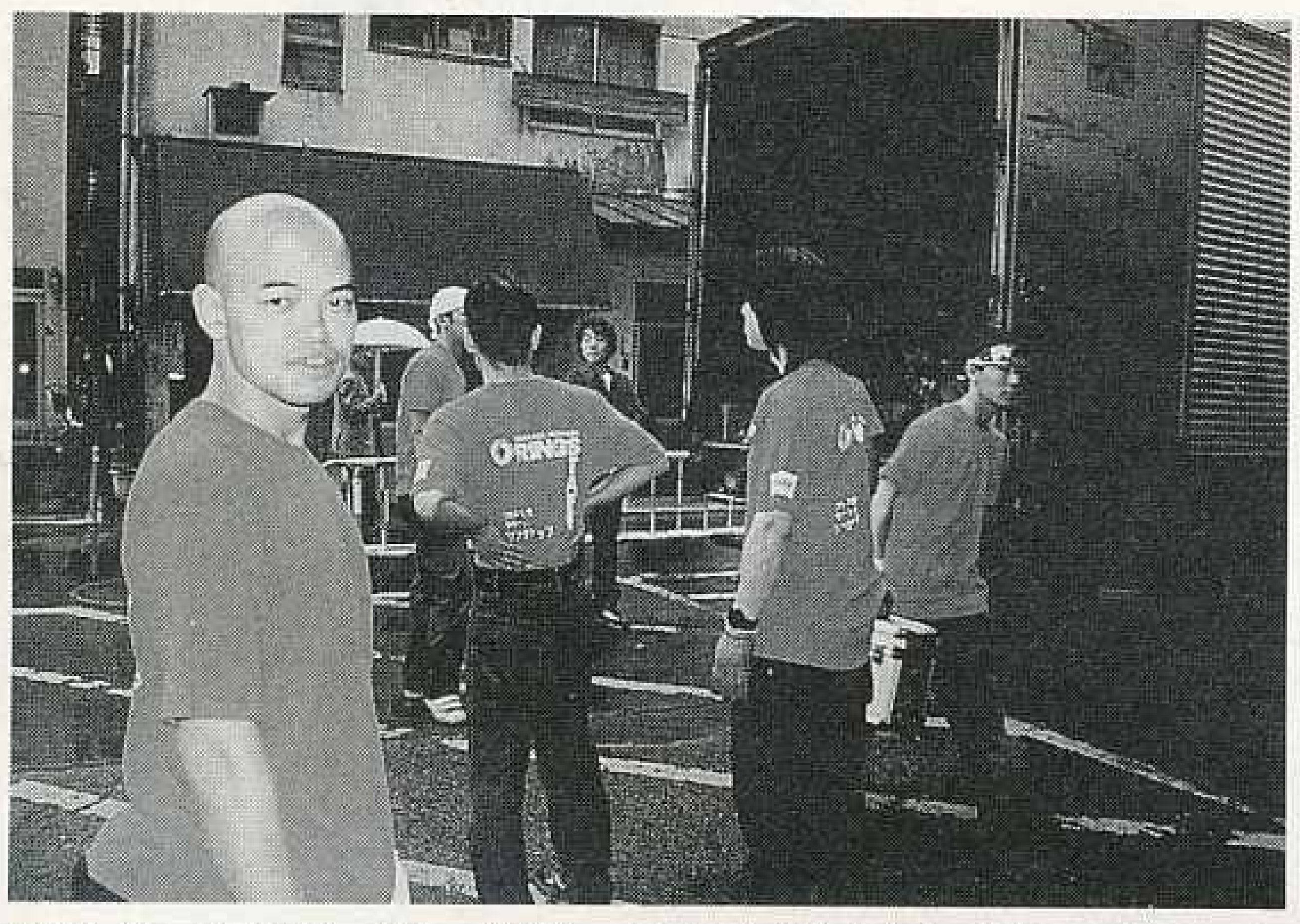


がのオレも、社長自らリング設営に参加するとは思わなかった。偉いぜ、サスケ社長！

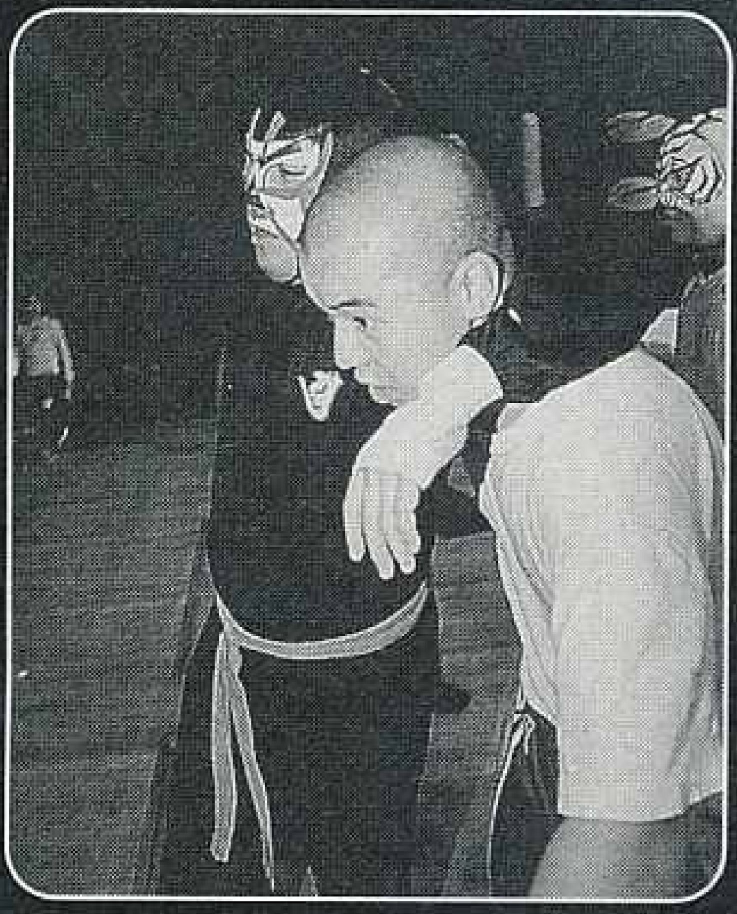
開場と同時にグッズ売り場に直行。いよいよオレの実力が発揮される時が来た。オレは元魚屋、威勢だけなら誰にも負けねえ。「いらっしゃい、いらっしゃい！ 新鮮なTシャツだよ！」一瞬にして売店は魚屋と化した。

『みちプロ』東京大会も48時間が経過し、後はリングの撤収のみ。すでにオレはヘロヘロだったが、なんとか終了。そしてオレは小坪選手からありがたい助言を頂く（左の囲み記事参照）。今日の体験と、その助言から何かを掴んだオレは「これからのオレはやりますでぇ〜！ チョロさん、とりあえずドーム行ってリング撤収してきますわ！」と、ドームへ向かって全力で走り出した。……しかし、途中で気づいた。「あれっ、オレは雑用するために『紙プロ』に入ったんか？ ちがーう！ クソッ、こんな会社辞めたる！（と前髪を切ろうとするが……なかった）」

オレは自由を探し求める旅に出た。行くあてのない旅に……。あばよ！（※編集部注・なにひとりで熱くなってんだ？ 頑張って自由でも探し求めてくれぇ。元気でなぁ〜）



物販とリングの設営・搬入・搬出という男の大仕事を終え、溢れんばかりの充実感に浸っているオレ。できれば年賀状にしたいぐらいのお気に入りの一枚



サスケ社長は丸藤戦の後「次はヘビー級のドス・カラスが相手ですから、今日はサンクスのサスケ弁当（東北限定）を食べて明日に備える」と饒舌に語っていたが、キラードスの前に敗退。サスケ社長は素直に完敗を認めつつも「格闘技界が『打倒ヒクソン！』なら、ボクは『打倒ドス・カラス！』ですよォォ！」と決して心は折れていないことをアピール

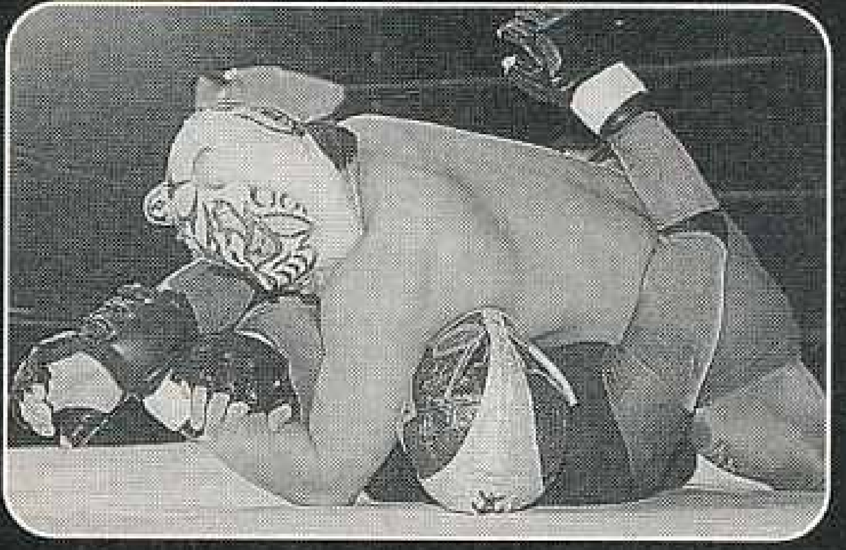


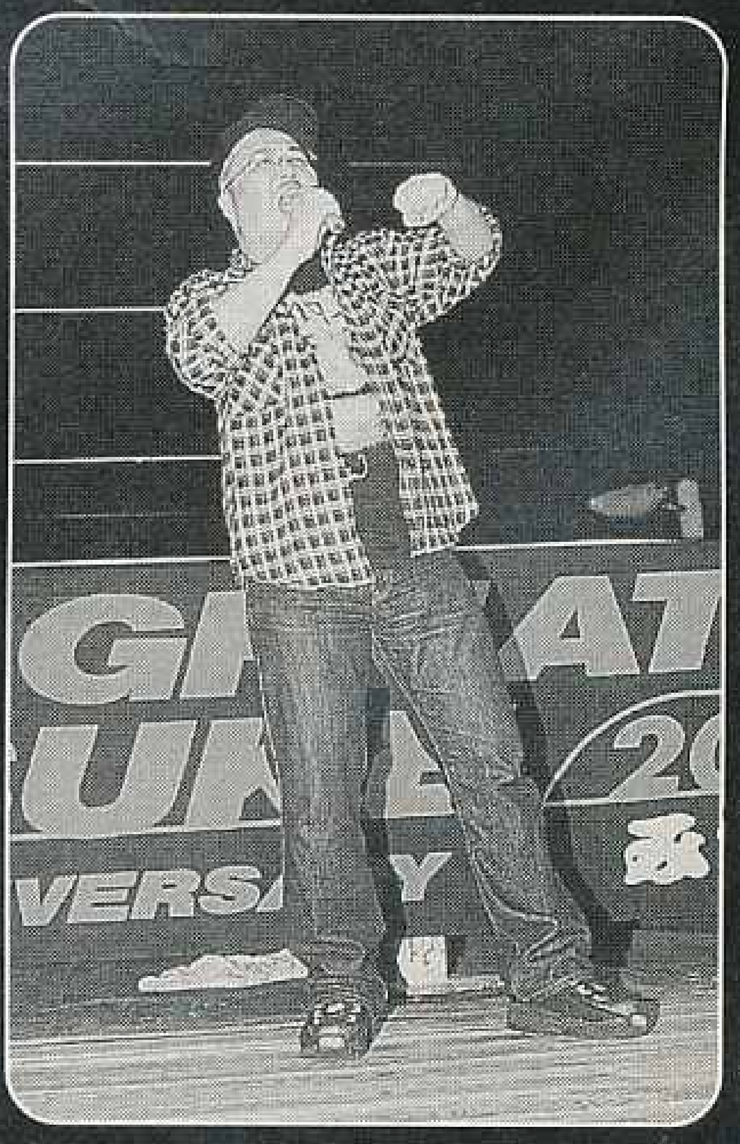


（写真上）ドスのトペでブッ飛ばされ舞台下へ転落したサスケ。（写真左）両者はマスクの剥ぎ合いに。マスクを剥がされ一瞬チラリと素顔がのぞいたドスは急遽キラードスに変身

夢のヒーロー対決が実現。タイガーマスクVS仮面シューター・スーパーライダーと、ともにマスクマンだが格闘技色が濃くチビッコから大人まで楽しめる渋い闘い。試合を制したのはタイガーマスク







相棒の岡元あつこが来ないとわかったとたん客席からはブーイングが。しかし、めげずに杉Jは歌いつづけた。ちなみに左手はリズムをとってるのではなく、歌詞を見ているだけ

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから』
（アラーキー談）

格闘男



**天才・アラーキーが
11人のプロレスラーと
ひとりひとりサシで勝負した!!**

撮影 **荒木経惟**／プロデュース **南部虎弾**（電撃ネットワーク）

定価 **￥2500**（税込）**全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社発売の『格闘男』を注文します」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

「男を張る」――そんな言葉がピッタリとハマる11人のプロレスラーたちが大勢登場しているこの写真集。桜庭和志、藤田和之、村上一成、アレクサンダー大塚らがこの写真集でしか見れない、"生身"をさらけ出した超貴重なカットが満載だ。コレを買わずに世紀末マット界を語ることなかれ！　全プロレスファン必見だ！

お問い合わせ■発売：プロレスをおもしろがる会　TEL.03-5459-9199
発行：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911

強い男の強い本

「ナーシャ!!　読まないヤツがバカなんだ!!」
（石川雄規談）

情念

夢一途なり
石川雄規・著



**本誌で約2年半続いた
ドラマチックな自叙伝的
連載エッセイに
大幅加筆＋書き下ろし！**

定価 **￥1619+税　全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社の『情念』をください」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

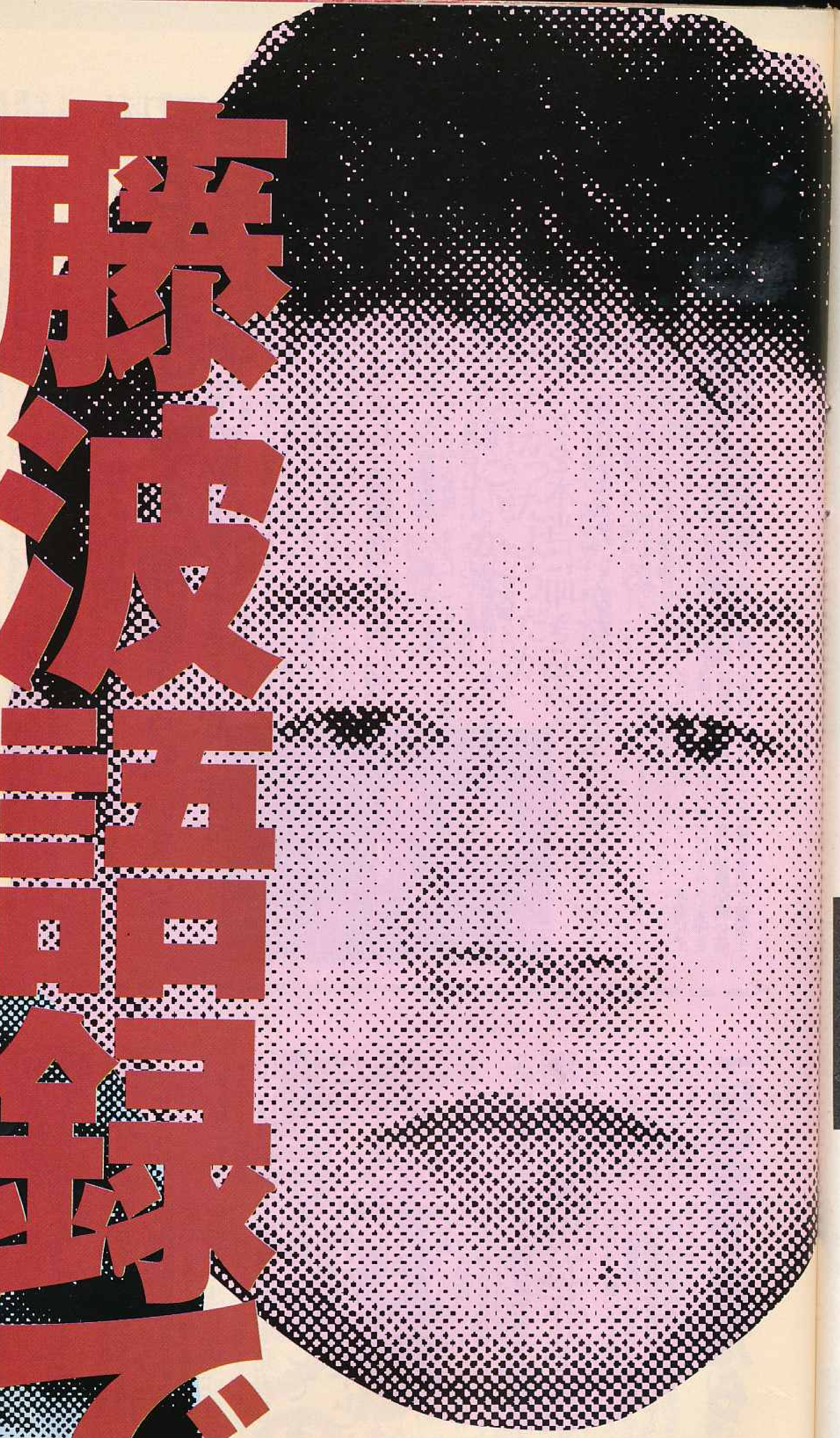
バトラーツの代表取締役社長・石川雄規が、夢を追って追って追いまくった半生を振り返ったドラマチックな自伝が遂に完成！　創作劇場も満載だ。また、ゴーストライターも一切使っていない、正真正銘本人が執筆した、鮮烈なるプロレス界初の自伝である。

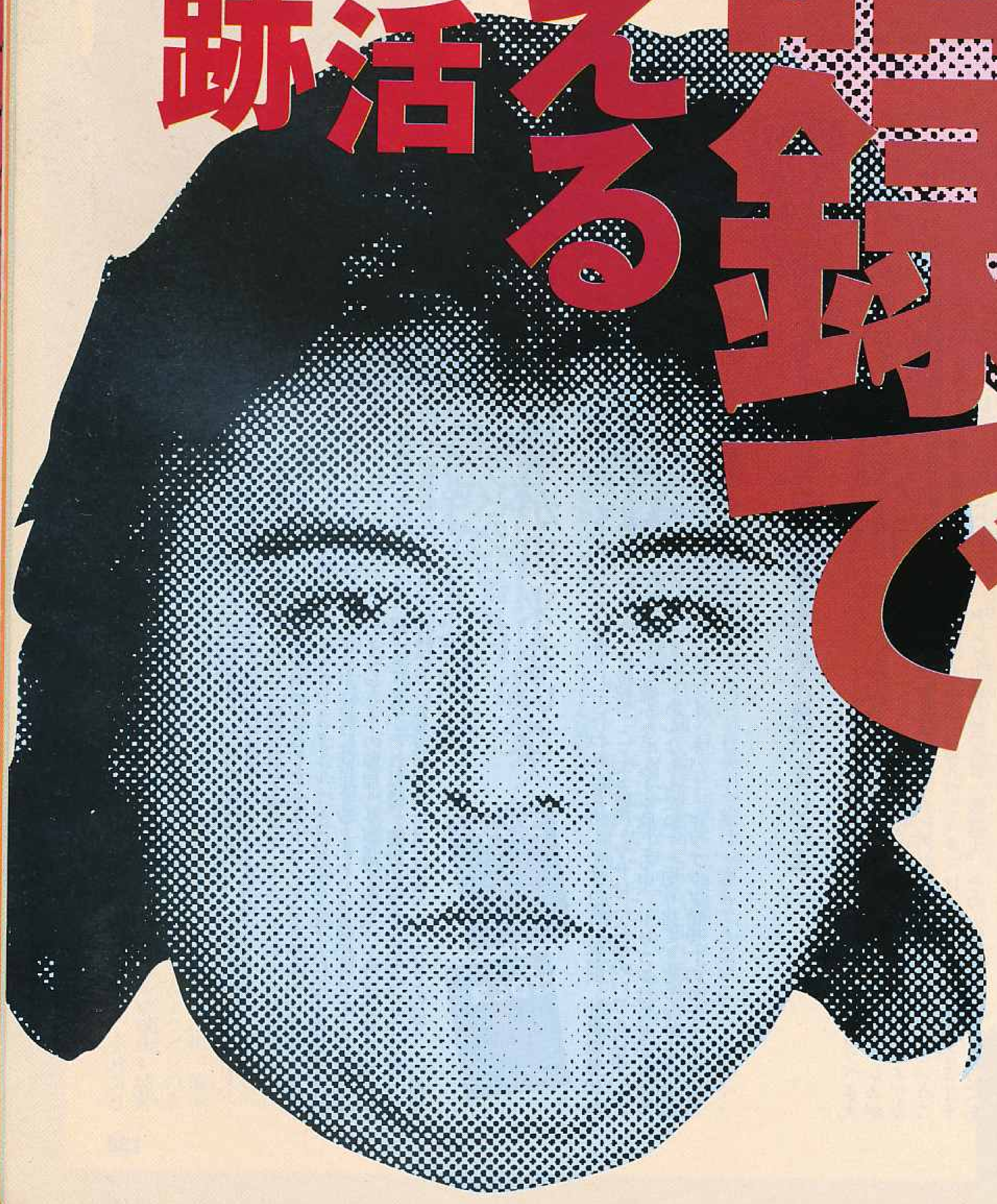
お問い合わせ■販売：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911
発行：（株）ダブルクロス　TEL.03-3403-5188



藤波語録で

振りかえる 破壊王復活までの軌跡





そう、すべてはドラゴンの社長就任から始まっていたのである。ドラゴンが社長に就任したからこそ実現した、橋本vs小川の世紀の再戦。そしてそこから始まったドラゴンと破壊王のドタバタ愛憎劇。もはや、健介と川田の試合を「頂上対決」と言っているような純プロレスと僕たちを繋ぎ止めているのは、こんなドラゴンの一挙手一投足だけなのだ。というわけで、大好評「語録」シリーズに真打ち登場！　社長就任から10・9破壊王復帰までのドラゴンの迷言、珍言、暴言を惜しげもなく大放出の永久保存版。立ち読みは認めん！（ドラゴン調）

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

私の闘い同様、「攻撃は最大の防御なり」をモットーに〝闘う社長〟として積極的に行動していきたいと思います！

H11年6月24日　新社長就任所信表明

新社長就任に相応しい、実に力強い所信表明。しかしちょっと待て。「攻撃は最大の防御なり」はわかる。でも「私の闘い同様」となると賛同者は激減するはず。ドラゴンといえば「受けの達人」そして「新日大量離脱時も猪木を裏切らなかった（というか寝返った？）」ことなどから、マット界有数の「守」のイメージが強い人のはずだ。それなのになぜ？まさかドラゴン、デビュー30周年を迎えようという今の今まで自分を「攻撃的な選手」と思いこんでいたんじゃ……。

私のプロレス生活、長年の宿願でもありました「プロレスサミット」開催を含め、いまこそコミッショナー制度が必要なときと思います！

H11年6月24日　新社長就任所信表明

長州の「俺達の時代」発言（15年前！）を受けて以来、ことあるごとにドラゴンが叫び続ける「プロレスサミット」開催を、やっぱりここでも期待通り提唱するドラゴン。もしや、10・9ドームの新日本vs全日本の対抗戦などは、「プロレスサミット」開催への第一歩か？　とも一瞬思ったが、全日本との交渉段階から何から、明らかに社長であるドラゴンが蚊帳の外で進められているようなので、ドラゴンの宿願とは全く関係ないのだろう。

猪木イズムをさらに追求し、慎重かつ大胆に攻めていきたい！

H11年6月24日　新社長就任所信表明

〝1・4事変〟以降、半ば絶縁状態だった新日本とUFO（というかアントン）をもう一度、結びつけようというドラゴンの大英断。まさに、この発言から破壊王のオーちゃんへのリベンジがスタートしたといっても過言ではない。それにしても社長になっても「猪木イズムとさらに追求」しようというドラゴンなのに、アントンには引退時に「藤波を後継者に考えたことは一度もない！」と言い切られてしまうのだから、実に可哀想なのである。

橋本があの重たいキックを本当に叩き込みたい相手は俺じゃないでしょう。小川じゃないかな？（橋本は）興奮して鼻血が出るくらい勢いも戻っている

H11年6月27日　社長就任後第1戦で破壊王とのタッグ戦の試合後

この当時、ほとんど破壊王にとっては禁句に近い状況だった小川とのリベンジマッチ。非常にデリケートな問題にも関わらず、ドラゴンは破壊王の意向も確かめもせずに「本当にキックを叩き込みたい相手は小川じゃないかな」と例によって不用意に憶測で発言。しかも鼻の粘膜が弱い破壊王が鼻血を出しただけで、「勢いも戻っている」となぜか断言。こんなことの積み重ねで破壊王は、どんどん小川との再戦をしなくてはならない状況に追い込まれていったのである。それにしても「鼻血が出るくらいの勢い」とは、一体どんな勢いなのか。ドラゴン・ボキャブラリーは実に深い。



自分に「プロレス用語」は通用しません！

H11年7月1日　岐阜産業館　大仁田のIWGP挑戦宣言を受けて

社長就任で燃えに燃えるドラゴンは、所信表明で宣言した「ストロングスタイルへの回帰」に向かって爆走し始めた。その第1弾は「ストロングスタイル」とは対極をなす大仁田の排除。それを素早く察知したらしい大仁田は、ドラゴンが社長に就任するとすぐさま嫌がらせのように「IWGPへの挑戦」「プロレスサミットへのインディーの参加」を要請するも、ドラゴンは「俺にプロレス用語は一切通用しない！」と一蹴。ところがこれ以降、蝶野の度重なるシュートまじりの「プロレス用語」での暴言に、ドラゴンはいちいち激怒しているのは皆さんご存じの通り。「通用してんじゃん」と突っ込まずにはいられないのだった。





（WCW視察、エリック・ビショフとの会談後）あの会社とは仕事が出来ないな

「週刊ゴング」8月19日号

ドラゴンの社長就任後、まず第1の大仕事として行われた長州、マサら新日幹部、社員総勢10名でWCWとの提携強化を目的としたアメリカ視察。ここで長州、マサは「会場のパワーは凄いな」「仕事が出来そうな選手が多い。呼べるよ」と確かな手応えを感じる中、ドラゴンはなぜかひとりダークドラゴンに変貌。試合をみれば「まあ、あんなもんだね」と切り捨て、ビショフとの会談後は「あの会社とは仕事が出来ないな」と「アイ・ネバー・ギブアップ精神」のカケラも感じられない早すぎる撤退宣言をする始末。

（WCW視察から帰国後）テレビとの綿密なミーティングが必要なんだと思いましたよ

「週刊ゴング」8月26日号

アメリカ視察旅行でWCWの『マンデー・ナイトロ』を観戦し、そのテレビ主導とも言うべき大がかりなシステムにカルチャーショックを受けたドラゴン。「一番感じたことは日本のプロレスがアメリカと比べて立ち後れているということ」と、あまりにも正直に感想を述べると、アメリカに追いつけ追い越せとばかりに「テレビとの綿密なミーティングが必要」と力説した。ということは、まさか「橋本真也34歳、小川に負けたら即引退スペシャル」は「テレビとの綿密なミーティング」の結果ということか……。テレビ主導の被害者・破壊王。その火種は意外なところにあった。

（10・11橋本vs小川戦を電撃発表したあと）橋本にはまだ話してません！　ただ、これが新日本としての姿勢でしょうね

H11年9月9日　橋本vs小川戦決定緊急記者会見にて

マット界の秩序を根底から崩した〝1・4事変〟の再戦。そんなデリケート極まりないカードを破壊王本人に知らせずにフライング気味に緊急発表するという、〝闘う社長〟らしい積極的すぎる行動。ドラゴンは「選手のことを全て思った上での決定」と胸を張るが、破壊王にとってみたらこの決定は、〝1・4〟ばりの「不意打ち」以外の何物でもないだろう。この決定を東スポの記者に知らされた後、恐ろしく不機嫌になったという破壊王に心から同情する次第である。

（破壊王が小川を襲った〝ロス襲撃事件〟後）橋本に処分は下さない。俺だって襲ったと思うよ

「週刊ゴング」10月21日号

「俺だって襲ったと思う」。なんとテロを肯定してしまうという、かって藤原が長州を襲った〝雪の札幌事件〟により長州戦をブチ壊され、「こんな会社やめてやる！」と激怒した人間と同一人物とは到底思えない発言。しかも、この半年後、村上一成による〝破壊王テロ事件〟が起きると今度は「許さん！」と大激怒するのだから、つくづくドラゴンはわからない。

ここまできたら、2人の試合を

裁けるのは俺しかいない

H11年10月1日付　東京スポーツ

破壊王がロスで小川を襲撃するなど、一触即発の事態となっていた橋本vs小川戦。そのレフェリングになぜか中立とは到底思えない、新日本社長のドラゴンが名乗り。しかも「俺しかしない」といいながら、当日はご存じの通り、赤の新日Tシャツに黒のロングスパッツというビッグマッチのレフェリーとはとても思えない格好で登場。しかも破壊王がSTOでボロボロにされても、ただボー然とするばかりのレフェリングで、結局レフェリーでも何でもないアントンが試合を止める始末。

猪木さんも裁きたかったようだが、今回だけは譲るわけにいかない！

H11年10月2日付　東京スポーツ

遂に正式決定したドラゴン・レフェリー。ここまで頑なに「レフェリーは譲れん！」と言いながら、結局当日はレフェリーでもなんでもないアントンが試合を止めて、破壊王TKO負け。これに対しドラゴンは「確かに危険な状況だったかもしれないけど……橋本を最後まで俺が見すぎたのか……でも、あれは猪木さんが出るまでもなく俺が止めなきゃならなかったんだけど……自分と猪木さんの判断のタイミングは、本当にギリギリのところでほぼ同じだったと思いますよ」と、苦しい言い訳。



当日のレフェリーはぜひ、猪木さんに任せたい

H11年10月3日付　東京スポーツ

「今回だけは譲れない！」とあれほどまでに強固に言い放ったその翌日に、なんと正反対のコメント。もはやドラゴンのコンニャクぶりは誰にも止められない。ちなみに、この突然の要請に対しアントンは「俺のレフェリーは誰もが思いつきそうで面白くない！　レフェリーなんかじゃなく、もっととんでもないことをしにドームに行くよ。ンムフフフ」とコメント。そして予告通り、タキシードで突如乱入しレフェリーを完全無視しての独断裁定下すという、「とんでもないこと」を敢行。ドラゴンをとことんコケにしたアントンが、やはり一枚も二枚も上手だった。

今回の一件で久々に猪木さんの燃える部分を見せてもらった

H11年10月7日　新日本事務所

破壊王vs小川はルール問題、レフェリー問題、NWAのベルトを賭けるか否かなど、ドラゴンとアントンはことごとく対立したが、結局ドラゴンが全面譲渡することで決着。新日本のトップとしてUFO側のアントンに交渉段階で完敗を喫したにも関わらず、ドラゴンは「猪木さんの燃える部分を見せてもらった」と、感心することしきり。どこまで呑気なんだ、ドラゴン！

橋本vs小川戦というものを、ある部分では強引に本人の了承を得ずにね、発表したっていう一つのものすごい責任を感じてるんですよ

H11年10月14日　藤波辰彌、橋本真也記者会見



破壊王に内緒でカード発表、アントンと交渉したルール問題では全面譲渡、レフェリーをすればボロボロになっても試合を止めないなど、「責任を感じてる」も何も明らかに責任重大なドラゴン。そのドラゴンに破壊王は「社長、すいません！」と涙を浮かべながら謝るのだから、実に忍びない。これにはドラゴンも「橋本が再起して、いい結果を残すまで、自分も同じようなモノを背負わなきゃならない」と断言。ドラゴンのストーカー寸前とも言うべき破壊王への異常なこだわりは、この時の後ろめたさから全ては始まっていたのである。ということは、破壊王がオーちゃんに雪辱するその日までまで、ドラゴンの破壊王への異常な愛情が続くということか……。

この雰囲気、言葉の勢いを待っていたんだ

H11年10月24日付　東京スポーツ

当初、小川戦敗北後、アントンへの弟子入りを志願する破壊王に「身勝手は許さん！」と断固反対の姿勢をとっていたドラゴンだが、破壊王と直接会談すると、すっかり熱意にほだされ例によってあっさり前言撤回。「話せば分かる社長」ぶりを見せつけた、というかまたもや言いくるめられたか……。

おそらく山ごもりだろう

H11年12月9日付　東京スポーツ

1・4ドームでの小川&村上vs橋本&飯塚戦に向けてトレーニングを積む破壊王が、「関西に行ってきます」とドラゴンに告げて出ていったことに対しての発言。真面目な顔して「おそらく山ごもりだろう」。その発言に根拠はない。

（満面の笑みで）今年は辰年、ドラゴンの年です！

1・4ドーム放送分『ワールドプロレスリング』オープニングでの新年の挨拶リング上はともかく、確かに東スポ紙上では「ドラゴンの年」に相応しい活躍ぶりである。



（「2000年の目標は国立競技場進出！」とブチ挙げたあと）猪木さんも長州もできなかった。俺はやってみせるよ！

H12年2月9日付　東京スポーツ

リターン・トゥ・猪木イズムを打ち出したドラゴン社長が今度は「誰もできないこと、誰もやらないことに夢として挑戦する」という、アントンのロマン伝承を（「後継者として考えたことがない！」と言われながらも）打ち出した！　それが国立競技場進出である。夢の屋外会場10万人興行、まさに平壌19万人興行を思わせる金銭的にもハイリスクなプランである。もちろん天候面や大型ビジョン、ひな壇など問題は山済みだがドラゴンは「雨を気にしてたらダメ！」と、ここでも裏打ちのない自信をみせつけた。しかし、サミット開催、部屋別制度導入などと同様、このドラゴンプランも2000年10月現在、具現化する気配はない。



橋本と小川のタッグなんて認めないですよ！

H12年2月22日　両国国技館

あくまで破壊王の小川への雪辱をサポートしようとするドラゴン。この日は、リング上から4・7ドームのゴールデンタイム放送が発表され、俄然ヤル気マンマンのドラゴンは「これに相応しいカードを提供します！」と宣言。あとは橋本vs小川戦の正式発表を待つばかり……となったところで、割ってはいる男がいた。「元気ですか――ッ!!」もちろんアントンである。アントンは破壊王にも、そしてドラゴンにも相談することなく「競い合う人間が、あるときは手を結ぶのもいいんじゃないかと、ンムフフフ。小川と橋本のタッグを実現させようと思いますが、いかがですか――ッ!!」と伝説の「お客さん、どーですかッ！」ばりにアピール。アントンのこの強引な既成事実作りに記者団に囲まれたドラゴンは、「小川、橋本組なんて認めないですよ！」と厳しい表情で断言したが、もちろんドラゴンの意志で覆るハズもなく、小川、橋本組vs天龍、ビッグバン・ジョーンズ組という不思議カードは正式決定したのであった。

（『メモリアル力道山』での小川、橋本組のタッグ結成が決定して）

小川、橋本組は『2000年最強コンビ』になるんじゃないかな

H12年3月3日付　東京スポーツ

ドラゴン豹変！　あれだけを強固に反対していた「小川、橋本組」プランを、突然「2000年最強コンビになるんじゃないかな」と、肯定発言をした。その言いぐさがまた素晴らしいので引用してみよう。「今の2人を見ていると、昔のボクと長州とダブるんだよね。お互いどこかで認めあってる部分がある。今度組むことによってお互いのいいところが見えてくれるハズ。そうなったら2000年最強コンビになるんじゃないかな」。「史上最強」や「20世紀最強」などといった大きな括りではなく、「2000年」というわずか1年間の最強という、凄いんだか凄くないんだかわからないところが実にドラゴン節らしい。ちなみに、いがみ合っていた頃の長州とドラゴンが「最強コンビ」と呼ばれたことは、ない。

こんなタッグね、無責任に組むからこんななっちゃうんですよ!!

H12年3月11日　横浜アリーナ『メモリアル力道山』試合終了後

会場入りする破壊王にテロを敢行する村上！　素早く介抱するキャット！　襲われてから数時間経ってもなぜか傷がふさがらず、血だるまで入場する破壊王！「おがわぁ〜、試合前に村上になぜ俺を襲わせたぁ〜！」という状況説明風マイク！　文字どおりロボットのような動きのBB・ジョーンズ！　そのジョーンズにアッサリフォール負けする破壊王！「4月7日ぁ、引退をかけてお前とやるぞぉ〜！　それでどおだぁ、おがわぁ〜！」というアピール！「ハンチクな試合すんなって！」と久しぶりに怒るアントン！　などなど、歴史的名場面、名ゼリフが続出したオーちゃんと破壊王の初タッグ。そんな中、当初は反対しながらも「2000年最強タッグになるんじゃないかな」と、言っていたはずのドラゴンは、自分の呑気発言は棚に上げて「言わんこっちゃない！」とばかりに猪木批判！　こんなところが「コンニャク」と言われてしまう所以か。



分かった……

H12年3月14日　新日本プロレス事務所

破壊王が引退を賭けて小川戦に挑むことを断固として認めなかったドラゴンだが、破壊王に「社長だって進退を賭けて闘ったことがあるじゃないですか！」と突っ込まれると、言い返す言葉がなく、渋々と「負ければ引退」を了承。また言いくるめられた……。

（「WCWが武藤を引き抜く」という噂に対して）

それならウチはゴールドバーグクラスを2人引き抜く！

H12年3月16日付　東京スポーツ

ブッチャーを引き抜かれた後、ハンセンとシンを引き抜いた故G・馬場さんのごとく、ダークドラゴンがWCWに恐怖の報復予告！　しかし、武藤がWCW入りして半年が経とうという現在も、ゴールドバーグクラスの選手が登場するどころか、相変わらず外人はノートンとジョンストンばかり……。

俺が橋本の練習相手をつとめてもいい

H12年3月17日付　東京スポーツ

破壊王のリベンジを全面バックアップするドラゴンが遂に自ら打倒・小川の秘策を授けるべくトレーニング・パートナーに名乗りを上げた！「一度、経験豊富な人間の胸を借りるのもいい。ウチにはアマレスの長州、柔道の坂口会長もいる。俺だって彼が言ってきたら出ていくよ！」。長州、ビッグ・サカの名前を出しながらも、心の中では自分に教えを乞い来て欲しいと感じているに決まっているドラゴン。しかしプロレス以外の格闘技経験といえば、ガッツにほんの短期間ボクシングを習ったくらいのドラゴンでは、破壊王もさすがに心許ないからか、STO対策として坂口会長に弟子入りしてしまった。そして結果は特訓も虚しく敗れたわけだが、あのとき破壊王がドラゴンに弟子入りしていたら、もしかしたらホントにもしかしたら、違う結果が出ていたかも知れないのだ！　STO返しはDDTなんかじゃなく、もちろん逆さ押さえ込み！　虚を突かれた小川は、ただ足をバタつかせるのみ！　なんとかカウント3ギリギリで返すが、例によって、そんなことはおかまいなしに勢いでカウント3つ叩いてしまうタイガー服部！「信じられない」という表情で「3つ入った？」と確認する破壊王！　そして「ヤッターッ!!」の雄叫び！……見たい！



武藤のWCW入りは絶対に認めん！

H12年3月26日付　東京スポーツ

新日本とWCWの二重契約を結んだ武藤に、ドラゴンの怒りが爆発した！「こんな前例ができたら選手を次々と取られてしまう。武藤のWCW入りは断固として認めん！」と武藤と40分間の会談を終えたドラゴンは、WCW入りを厳しく突っぱねた。これに対して武藤は「この問題は、弁護士同士の話し合いになる。藤波さんからは、いつものように玉虫色で優柔不断な言葉をいただいたけど、同じレスラーとして快く送り出してくれた」と、ドラゴンの怒りなどどこ吹く風、「玉虫色で優柔不断」な説得に全く応じることなく、WCW入りをはたしたのだった。ドラゴン、またしても説得に失敗……。

（アントンの「橋本は死ね！」の檄に対して一言）

橋本もどうせ死ぬなら、小川と猪木さんを道連れに死んで欲しい

H12年3月31日付　東京スポーツでのインタビュー

ドラゴンまたもや失言！　なんと「ヤル前に負けること考える馬鹿」どころか、ヤル前に死ぬことを考えてしまうとは……。しかも「どうせ死ぬなら、小川と猪木さんを道連れにしろ」と、破壊王に無理心中を要求するという悪魔のような助言。古館アナはかつて「藤波よ、猪木を愛で殺せ！」と叫んだが、今回のドラゴンのアントン&オーちゃん殺害指令に果たして愛はあったのか……。

（急逝した）小渕総理の報道を見て、

会社を任される社長がいつまでも危険と隣り合わせのリングにいるわけにいかないなと感じた

H12年4月5日付　東京スポーツ

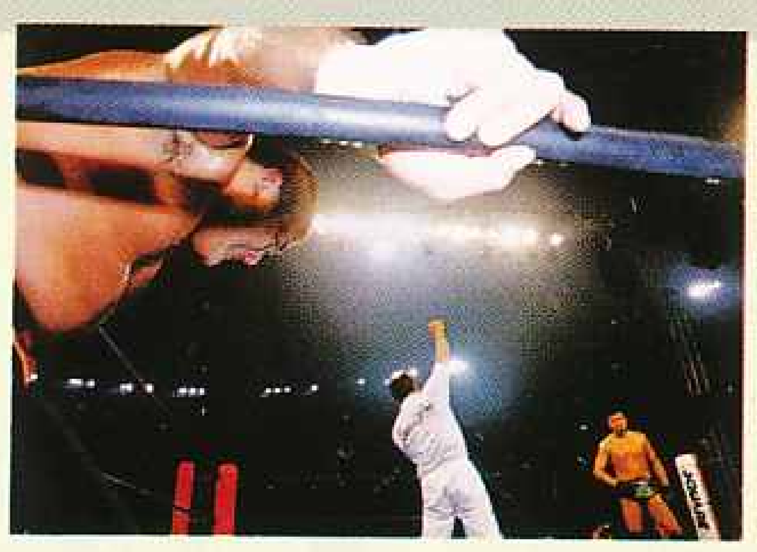
一国の首相と自らの立場をなぜか重ね合わせた、ドラゴンの摩訶不思議な引退理由（後にアッサリ撤回）。こんなことを言っていながら、しばらくすると「生涯現役」をブチあげ、死ぬまで「危険と隣り合わせのリング」にいようとするのだから実に不可解。実にドラゴン！

再起するなら、俺が相手になってもいい

H12年4月9日付　日刊スポーツ

破壊王敗戦から一夜明けて、ドラゴンは改めて破壊王の引退撤回を求めた。「あのファイトなら、ファンが引退を許さないだろう。再起するなら俺が相手になってもいい」傷心の破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、いざホントに復帰するとなって破壊王が対戦相手にドラゴンを指名すると、ドラゴンは突如豹変！「この期におよんで甘えるな！　そんな答えは期待してない！」

と、罵倒し始める始末。もう破壊王もやってられないだろう。



橋本よIWGP王座に挑戦しろ

H12年4月12日付 東京スポーツ

破壊王復帰プロジェクト第一弾として、ドラゴンは「橋本の目は少しもIWGPに向いていないハズ。王座挑戦も嫌がるだろう。しかし、だからこそ復帰に向けて強いショックを与えられる。再び王者になって小川を追うのも一つの道」と〝ショック療法〟を提案した。それにしても、挑戦したくもない選手に無理矢理挑戦権を与えるとは、対戦相手が、自分の名前を呼ばないという理由で「なんで俺が煮えきらない奴とやらなきゃならないんだ！」と激怒する王者・健介が聞いたら発狂しかねない。おまけに「王者になってから小川を追ってもいい」という、IWGPは小川への通過点とも取られかねない不用意な発言の追い打ち付き。IWGPの価値って一体何なんだろうと実に考えさせられる発言である。

小川に勝ったら、この間の引退発表を撤回させてもらう

H12年4月12日付 東京スポーツ

この一週間前に「小渕総理死去の報道を見て、会社を任される社長が、いつまでも危険と隣り合わせのリングにいるワケにいかないと感じた」という、摩訶不思議な理由で引退カウントダウンを発表したドラゴン。明らかに歯切れが悪く現役に未練たっぷりなドラゴンの口振りから、目玉不在の福岡ドーム大会のテコ入れのために渋々承諾したんだろうことは容易に想像できるわけだが、なんと引退発表からわずか一週間で「小川に勝ったら」という条件付きながら引退撤回を表明。「エイプリルフール」を理由に一ヶ月で引退を撤回した冬木の記録を大きく上回る、大物レスラーの有言不実行新記録達成である。結局、藤波vs小川戦という超ドリームマッチは実現しなかったが、ドラゴンの引退問題だけはうやむやに棚上げされたのであった。

(蝶野のドラゴンに対する暴言を東スポで一通り読んだあと)

蝶野はクビだ……!!

H12年4月20日付 東京スポーツ

ドラゴンが社長就任以来、「無能社長」「プロレス界追放だ」など「本気で言ってるんじゃないの？」と心配になるほど、ギリギリのラインでドラゴンを罵倒し続ける蝶野。「俺にプロレス用語は通用しない」と公言するドラゴンは、ここまでなんとか怒りを押さえてきたが、遂に堤防決壊。ドラゴンの暗黒の部分、ダークドラゴンを遂に解禁し「蝶野はクビだ！」と言い放った。こうなると、もう歯止めは利かない。「社長権限を利用して潰してやる！」と脅しをかけ、さらには「生半可なことじゃ済まさない！」と5・5福岡ドームで対戦する蝶野に恐怖の制裁予告。しかし5・5当日は自分が「生半可な」体調で出てきてしまい、6分半でアッサリ完敗。ダークドラゴンに変貌するのは、どうやらリング外だけのようだ。

福岡ドームへの出頭を拒否したらそれまで。



引退してもらって構わない！

H12年4月26日付 東京スポーツ

「試合の有無にに関わらず、橋本を福岡ドームに出頭させる。もし、拒否するならそれまでだ！」遂にドラゴンが破壊王に最後通告を突きつけた。まぁ、そうは言っても、これ以降何度も最後通告を突きつけることになるのだが……。

橋本がグズグズしてるなら、俺がポジションを奪って格闘技路線の先頭に立ってやる！

H12年5月5日 福岡ドーム 引退カウントダウン第1戦vs蝶野戦試合後

引退カウントダウン第1戦で、蝶野にわずか6分で完敗を喫した後とはとても思えない強気な発言。この後、「とにかく俺はこのままな終わらない」と続くのだが、その真意が、1試合のみで、カウントダウンをあっさり撤回することとは驚きだ。それにしても格闘技路線の先頭に立つドラゴン……見たい！

一匹狼になれ、俺が加勢してもいい

H12年5月9日付 デイリースポーツ

新日で孤立しつつあった破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、加勢したら一匹オオカミにならないだろ！

もうこれが限界。解雇処分も辞さない！

H12年5月14日付 東京スポーツ

小川に敗戦後1ヶ月が経ち、いまだ結論がでない引退問題に、いよいよ風当たりが強くなる破壊王とそれを擁護するドラゴン。しかし、そのドラゴンも再三の呼びかけにも応えない破壊王に「15日の最終会談で結論がでなければ解雇だ」と2度目の最後通告を突きつけた。しかし、ご存じの通り結論が出たのはその4ヶ月後。ドラゴンの「最後」ほど、当てにならないものはないのか……。

同世代の選手がこんな活字で出るのは見たくない

H12年5月16日付 東京スポーツ

永遠のライバル（とドラゴンが思っている）ジャンボの突然の訃報に無念たっぷりにコメント。しかし「こんな活字で見たくなかった」とは、「プロレス界の動きをすべて東スポで知る社長」といわれるドラゴン、まさかジャンボの死まで東スポを読んで初めて知ったんじゃ……。



(辞表は)絶対に受理しません！こんな簡単な文面で済まされるワケがない！

H12年5月20日付 東京スポーツ

敗戦から一ヶ月半、引退か撤回か注目された破壊王の進退は「辞表」という形で、破壊王が引退を表明する結果となった。これに対し、これまで「引退してもらって構わない！」「解雇も辞さない！」などと散々息巻いていたドラゴンだが、いざ辞表を手に取ると、こともあろうに破り捨て「こんな文面だけで済まされるワケがない！」と一喝。普通の会社なら、蝶野が言うとおり「辞表まで出した奴を引き留める権利はないはず」なのだが、契約書を「紙切れ」と言い放つマサ・サイトーばりのアナーキーさを発揮するのもダークドラゴンなのだろう。

個人的な闘いを会社組織として認めるわけにいかない

H12年5月24日付 日刊スポーツ

この前日に発表された7・30横アリの長州vs大仁田戦。言うまでもなく社長であるドラゴンの意向は完全無視して決行されたわけだが、ドラゴンは正式発表後も「個人的な闘いだ」を理由にしつこく断固反対。しかし、破壊王の小川へのリベンジも個人的な闘いだと思うのだが……。

ヒクソンを倒すには一時的なものでは勝てない

H12年5月26日　『コロシアム2000』全試合終了後

破壊王の心に火を灯すために訪れた『コロシアム2000』で、船木vsヒクソン戦の感想を聞かれてのコメント。「一時的なものでは勝てない」と言いながら、石澤を「一時的に」を条件に『PRIDE』に出場させるドラゴン。わかってるならなぜ……。

(船木の引退は)ある意味で非常にもったいない。ある意味の集大成を見せて欲しい

H12年5月26日　『コロシアム2000』全試合終了後

ホントに「即引退」してしまった船木にまで、ドラゴンは復帰のエール。それにしても毎度登場するドラゴン・フレーズ「ある意味」とはいったい、どんな意味なのか。内容が無いことには定評があるドラゴン節の真骨頂とも言うべきか……。しかも、「現役15年間の集大成」でヒクソンと闘った船木に、これ以上どんな「集大成」を見せろというのか……。



船木の命のやりとりを見て、何かを感じないワケがない。メラメラと燃えなければおかしい。

H12年5月26日　『コロシアム2000』全試合終了後

5・5福岡ドームに続く、ドラゴンの「試合を見れば燃えてこないワケがない作戦」第2弾。船木vsヒクソンを間近で見させることで、破壊王の闘争本能に火をつけるハズが……。結果は復帰するのか引退するのか煮えきらない破壊王の目の前で、船木がヒクソンに負けてキッパリ引退してしまうという明らかな逆効果。ドラゴンの作戦はまたしても裏目に出たのであった。

橋本に小川ともう一度再戦させた張本人は俺。それがクリアするまで俺のカウントダウンは一時白紙

H12年6月2日　日本武道館

「橋本の引退問題が解決してないから」と「俺のカウントダウンは一時白紙」に何の関係があるのか意味不明の発言。本当に問題を解決したいなら、社長に専念した方がいいのでは、と普通は考えるはずだが……。これはドラゴンが破壊王問題のどさくさに紛れて引退を撤回しただけなのか、はたまた「俺を見てみろ！　お前よりよっぽど簡単に引退撤回したぞ！」という、破壊王を安心させるためのアピールなのか？

決定権は俺にある！　カシンの『PRIDE』参戦はない！

H12年6月7日付　東京スポーツ

石澤とヘンゾの『PRIDE・9』での握手の翌日、ドラゴンは改めてカシンの『PRIDE』出場なしを明言。しかし、いつものように社長であるドラゴンの意向は完全無視され、石澤は『PRIDE・10』に出場。やっぱりドラゴンに決定権はなかったのか……。

エーッ、本当なの？

H12年6月14日付　東京スポーツ

全日本の三沢社長（当時）退団を報じる東スポの一面を見て、ビックリ仰天のドラゴンは「エーッ、本当なの？」と言ったきりしばし絶句。「プロレス界の動きをすべて東スポで知る社長」をここでも実証。

ボクに任せて欲しい。必ず橋本をリングに戻してみせる

H12年6月16日付　東京スポーツ

6月11日に破壊王を自宅に招いて会食した（もちろん、〝キッチンナビゲーター〟かおり夫人のご自慢の手料理と思われる）というドラゴンが、破壊王復帰に自信のコメント。破壊王の進退を心配するファンに「ボクに任せろ」と大見得を切ったが、結局ドラゴンの作戦はことごとく功を奏さず、小学生の千羽鶴で復帰という結末に……。まあ、結果オーライか。

(川田の「新日本との交流を前向きに考えたい」という発言に対して)今は眠っている橋本が迎えうつ

H12年6月19日　新日本プロレス事務所にて

この2日前に『ノア』の旗揚げが発表された際、「(全日本分裂の問題に関して)くれぐれも軽はずみな言動はしてくれるな」と新日本の全選手、全社員に通告したというドラゴン。しかし、この日は復帰すら決定していない破壊王を全日本迎撃の先兵に指名するなど、舌の根も乾かぬ内に自らが率先して軽はずみな発言。

(来年、「新日本30周年記念イベント」で、坂口の〝還暦マッチ〟が決定したことについて)いっそ新日プロのシニアリーグでも作ろうか

H12年6月28日付　東京スポーツ

「俺も再来年には還暦。還暦に合わせて赤いタイツでも作ってリングに上がろうかな……あ、俺はもともと赤いタイツだった」という、坂口ギャグにドラゴンはなぜか過敏に反応。「(坂口は)去年より握力が強くなってる。まだまだやれるね。いっそ新日シニア・リーグでも作ろうか」と、オールドレスラーの闘い場の確保を突然提案しはじめた。……もしや、ドラゴン、これも自らの「生涯現役計画」の一環では……。

橋本のことで悩んでいる時間があったら、自分の練習時間に充てたい

H12年7月8日付　東京スポーツ

破壊王の引退問題解決のために「引退カウントダウン」を凍結させたはずなのに、練習のために破壊王引退問題を放り出そうとするドラゴン。やはり「橋本問題解決のため」というのは、自分の引退カウントダウンをうやむやにするための口実でしかなかったのか……？

G1出場権を橋本に譲ってもいい

H12年8月2日付　東京スポーツ

セミリタイヤ状態で、しかも46歳という年齢のドラゴンが出場するということで、注目されていた今年のG1。ドラゴン本人も「橋本のことで悩んでいる時間があったら、自分の練習時間に充てたい」と語ったように「橋本よりもG1だ！」とばかりに燃えに燃えていたはずだが、突然「橋本が出たいというなら、俺はG1出場権を譲る」と、「やっぱりG1より橋本だ」宣言。G1ひとつ取っても際だってしまうドラゴンのコンニャクぶり。本物だ。

引退前に小川と闘ってみたい。再起する橋本の力も感じてみたいし、長州の鋼の肉体だって、対大仁田戦のためだけに作り上げたワケじゃないハズ

H12年8月3日付　東京スポーツ

全日本との交流が決まってもいない内から、「橋本が迎えうつ」と勝手に発言するなど、毎度毎度、無防備な先走り発言をしがちなドラゴンが、またもや仰天プランをアピールした。「元の鞘に納まる」という長州の発言を無視し、「長州の肉体は大仁田用のモノじゃない。出撃準備OKのサイン」と受け取った」と勝手な解釈をし、「小川と引退する前に闘いたいし、橋本の闘志も確かめたい」と自らの欲望を何の根回しもなく、相変わらず不用意にマスコミに喋るドラゴン。鶴田戦不発の教訓がまるで活かされてない……。これに対しアントンは「何度も言うがピントがズレてるのかな」と一蹴。

(橋本の復帰が決定した直後のコメント)全日との交流とか『PRIDE』とか、三沢のノアとかいろいろある中で(橋本の復帰は)ちょうどいいタイミング

H12年8月25日付　東京スポーツ

その決断の遅さから、アントンに見捨てられ、健介になじられ、なぜか平田選手会長にまで、とやかく言われるとこになった破壊王の〝遅すぎた復帰宣言〟。これまで「引退式やるぞ！」「出ていけ！」などと、破壊王の優柔不断ぶりに人一倍イラついていたドラゴンも当然、苦言のひとつも出るかと思いきや「ちょうどいいタイミング」とただひとり呑気発言。4ヶ月半も態度保留していたのに「ちょうどいいタイミング」とは……。

2001年の3月か4月、遅くても5月までには自分は引退するって決めてる

H12年9月　「週プロ」スペシャル2　「劇的引退&復活伝説」

巷では橋本の引退騒動のどさくさで自らの引退をうやむやにし、「生涯現役」を企てていると噂されるドラゴン。そんな声を否定するように、改めて来年5月までの引退を宣言した。しかし、肝心のカウントダウン再開はいまだ発表されず。近い将来、破壊王に「カウントアップしてるじゃねえか！」と突っ込まれるのも時間の問題だろう。



(破壊王が復帰戦の相手にドラゴンを希望したことについて)

この期に及んで甘えるんじゃない!!

H12年9月10日付　東京スポーツ

これまで「再起するなら、俺が相手してもいい」「闘って橋本の闘志を確かめたい」と、常に破壊王との対戦に前向きだったドラゴン。ところが、いざ本当に破壊王が対戦相手に指名すると「俺の望んでいたことは、そんな答えじゃない！」「俺がやるのは最後でいい！」と、例によって正反対の仰天発言。

他の選手が過酷な巡業を続けてきた中で、いきなりいいポジションとはいかない。第1試合で受けてやるということを橋本に伝えました

H12年9月12日　後楽園ホール

4・7以来、半年ぶりの復帰となる破壊王。これまで常に破壊王の復帰をバックアップしてきたドラゴンのこと、破壊王をあたたかく迎え入れるかと思いきや、「いきなりいいポジションとはいかない。第1試合で受けてやる！」と半年間のペナルティともいうべき「一から出直し」を要求した。この「半年間休んだお前には、第1試合からやり直さねば居場所はない！」というドラゴンの主張はもっともである。しかし、確かドラゴンが腰の負傷で1年半もの間欠場した後の復帰戦（エキジビション除く）は、グリーンドーム前橋という2万人収容の大会場のメインだったような……。

こうなったら決まりきった技は通用しない。一発勝負でしかできない、ドラゴン・スープレックスを含めた禁じ手を狙っていく！

H12年9月16日付　東京スポーツ

何が「こうなったら」なのかはサッパリわからないが、ドラゴンの根拠なき危機意識がまたもや爆発！　あの、（自分の腰が）あまりに危険すぎるため15年ものあいだ封印されていたドラゴン究極兵器、ドラゴンスープレックスを含んだ禁じ手を遂に解禁しようというのだ。しかし、実際にはドラゴン・スープレックスどころか、〝ドラゴン・フルネルソン〟すらも見れずじまい。またもや有言不実行か？　と思いきや、その発言をよく読んでみると「ドラゴン・スープレックスを『含めた』禁じ手を出す」と言っているだけで、ドラゴンは一言も「ドラゴン・スープレックスを出す」とは言っていないのだ。そう、あの無駄に連発していた「グーパンチ」こそ、ドラゴンにとっての「禁じ手解禁」だったのであろう、たぶん。



(東スポ「破壊王、炎のヤリ特訓」の記事を見て)

俺が見たいのはこんなもんじゃない！　このままなら俺と橋本の試合はドームから外したっていい

H12年9月23日付　東京スポーツ

でも、僕らが見たいのは、こんな破壊王とこんなドラゴンだったりする。

(川田vs健介の勝敗予想を聞かれて)

今の勢いからして、健介に負ける要素はない！

H12年10月8日付　東京スポーツ

新日と全日のトップ同士（?・）が激突するという、誰もが待ち望んだ（?・）世紀の一戦 健介vs川田。思わず?マークをいちいち付けてしまうほど注目のこの一戦を、ドラゴンは「いまの勢いからして、健介に負ける要素はない！」と、対戦相手の川田の分析を全くせず、またもや不用意に予言。さらに「フライやジョンストンともやってるから打撃のディフェンスも頭に入っていると思う」と、例によっての希望的観測を恥ずかしげもなく豪語。しかし結果はご存じのとおり打撃技で健介完敗。もはや、誰かがドラゴンに嫌がらせをしているとしか思えない。

(10・9の前夜祭で翌日の意気込みを聞かれて)

全然予期せぬ指名だったんで、今あわててコンディションを作ってます！

H12年10月8日　10・9ドーム前夜祭

1ヶ月前に破壊王から対戦要求を受けたにも関わらず、試合前日になって今頃コンディションの調整に入るドラゴン。どう考えても遅すぎるだろ。カシンも「（VTのトレーニングは）試合前日からやります」と表向きはドラゴンと同じようなこと言っていたが、裏ではパンクラスに出稽古に行ったり陰でしっかり準備はしてきたことはご存じの通り。しかしドラゴンの場合は本当に調整を始めたばかりの可能性が大。そういう意味でドラゴンは〝リアル・カシン〟と言っていい……のかなぁ？

小川を倒さない限りは本当のスタートと言えない

H12年10月9日　vs橋本戦試合後のコメント

ドラゴンの社長就任以来、この日を迎えるまで主に東スポ紙上を中心に大河ドラマを続けてきたドラゴン―破壊王ストーリー。数々の迷場面を生み出した2人の物語も、コブシで殴り合って分かり合うという、青春ドラマのような闘い、そして破壊王の「今日から全てが始まります」というコメントでひとつの決着をみたかのように思われた。しかし！　我らがドラゴンのコメントはこうだ。「小川を倒さない限り本当のスタートといえない」。なんと丸1年も続いたこのストーリーも、ドラゴンにとってはまだ始まってもいなかったのだ。ということは、破壊王がオーちゃんを倒すその日まで、この「喜劇・破壊王とドラゴン」は続くという、絶妙のオチがついたのである。もちろん本誌はこれからもドラゴンと破壊王に注目し続ける所存である。

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝Ｉ編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク



I noue MODE

——先日の10・9のドームで最も昭和の匂いがした藤波vs橋本について語っていただきたいんですが……。

井上　まぁキミから電話もらった時に俺は言うたよな、**「何も語ることはない」**って。

——おっしゃってましたね。

井上　なんで語ることがないかといえば、俺がこうなるだろうという予想が全部当たってしまってるからですよ！

——まぁ、そうですね。

井上　予想もしないことが起こったらいくらでも語れるけれども、**全部俺の言ったとおり**なんだもん（キッパリ）。

——まさに予言者ですね。

井上　みんなに「なんで井上さんの予言は当たるんですか」いうて気持ち悪がられるけどな（笑）。

——なるほど（笑）。

井上　まぁ、そういうてもキミも困るだろうから、こういうものをね……（ゴソゴソ鞄から書類を取り出す）。

——なんですか、これ？

井上　**まぁ俺から橋本に対する意見書だな。**

——意見書！　ちょっと読みますね。「①**プロレスに戻ったらおしまい！**」。

井上　これは後に語るけど橋本はこれからはプロ格ですよ、間違いなく。

——「②**猪木、藤波に『頼む！』と言われたら死に戦(いくさ)であっても号泣しながらでも出場せよ**」。

井上　やっぱり橋本は二人には恩があるから。あの二人が頭を下げてきたら、どんな苦しい状況であっても橋本は試合に出るべきなんだよ！

——師弟ですね。次です。「③**新日に籍を置いておきながらプロ格マッチのみに出場せよ**」。

井上　新日に籍を置くのはいいんだよ。レスラーだって食っていかないといけないんだから。それは悪いことじゃない。ただ、籍を置いてもプロレスに戻っちゃダメだよと言いたいんだよ（ドンッとテーブルを叩く）。

——続いて「④**小川とのリベンジをウタイ文句にするな（もう終わった）**」。カッコが特にいいですね（笑）。

井上　藤波はね、小川を倒せとか言うてるけども、俺は藤波と考えが違う。**もう終わっとるんだから、小川とは！**

——「⑤**今年一杯は修復期間に充て、1・4を期して大ブレークせよ**」。

井上　来年の1・4は21世紀の幕開けだからね。そこでドカーンとブレークするためには、今年は修復期間でいいんですよ。山にでも篭ってね。体をもっと絞って、蹴りのスピードをもっと早くしてね。ハッキリ言うてね、**橋本の蹴りなんか遅すぎですよ！**

——遅すぎ！

井上　言うちゃ悪いけど。**俺だって避けられる**よ、橋本の蹴りの一発二発は！

——いよっ、待ってました！

井上　そりゃ、**80代の年寄りには無理だろうけどね。俺くらいの年代ならまだまだ！**

——若いもんには負けんと（笑）。次です。「⑥**PRIDEなどでは負けていい。ただ、『もの凄い試合をやった！』とファンに言わしめる内容であれ**」。言えてますねぇ。

井上　勝負だもん、負けることもあるんだよ。ただ、実力を出し切ってない高田みたいな負け方はダメ！

——「⑦**リングネームを変え、コスチュームを変えろ**」。

井上　つまり新生・橋本を見せつけろということだな。わかりやすいところで。で、最後の「⑧**デジタルではないアナログの感動こそ橋本には似つかわしい（千羽鶴他）**」というのはわかるだろう、キミにも。あの涙を流しながらの入場シーンがすべてなんだよ！

——この「**（淡谷のり子戦中エピソード）**」ってなんですか？

井上　ちょっと長くなるけどもね、淡谷のり子が戦中、慰問をしとったんだな。ところが『別れのブルース』や『雨のブルース』なんか歌えないんだよ。ブルースなんて**敵国の歌**なんだから。

——ああ、なるほど。

井上　だから言われるわけだよ、「戦意を高揚させる軍歌を歌え」って。それにあの人はキラキラのドレスを着てたから、「もんぺに履き替えろ」とも言われたんだな、総隊長に。現に高峰三枝子にしたって誰にしたって、みんなもんぺで慰問に行ったんだもん。ところが淡谷のり子は、「これが私のやり方なの！　それでも止めるなら**私をその銃で殺しなさい！**」って一喝したんだよな！

——スッゲーなぁ、それ。

井上　それで撃てる人なんかおらんからねぇ。その総隊長も**聴いてないフリ**してたらしいな、結局。

——いいお話ですよ。

井上　それが**感動**だと俺は言いたい

今月のお題 10・9 藤波辰爾vs橋本真也戦より

橋本の蹴りなんか俺だって避けられるよ!

現代プロレス界で最も読者をシビれさせるインタビュー連載が今号はカラーになって登場だ! 活字プロレスの始祖・井上義啓氏による鋭すぎるマット界時事批評の今回のテーマは、ズバリ「10・9の藤波vs橋本戦」だ! 平成ドームプロレスの中で、明らかに異彩を放っていた愛憎渦巻く人間模様が反映された非常に昭和的な匂いを感じさせてくれたこの一戦をI編集長が斬りまくる! 平成のデルフイン達よ、心して読め!

んだよ!（ドンとテーブルを叩く）。

――今日でようやくわかりました。井上さんはどうも〝昭和プロレス〟じゃないなと思ってたんですよ。〝**戦時中プロレス**〟なんですよ!（笑）。また新ジャンルを開拓しましたね!

井上　ふーん（興味なさそう）。

――まぁ、橋本の話に戻りますけど、要するに「橋本よ、変われ!」ということですよね。

井上　確かに年齢的にキツイよ。スポーツ選手や格闘家のピークは30歳前後ですよ。現に船木なんか31で引退したのは数年前の練習ができなくなったからだろ?　そこなんですよ。

――まぁそうですね。プロレスが格闘技と大きくリンクしていくと、脂の乗り切った40歳なんて言えなくなりますよね。ところで井上さん、編集者のピークは何歳頃ですか?

井上　やっぱり40から45くらいだろうな。俺なんかその頃の自分の原稿を読んで驚くことがあるよ。「**この井上義啓という男はなんと凄い男だ**」ってな。

――おお!

井上　そりゃそうですよ!　冴えに冴え渡っていた時期だからな。だから今、自分で書いてる原稿を読むと「ダメだな」って思うよ。

――そんな、いつだって井上さんは最高ですよ!

井上　そんなことはない。やっぱり鈍るよ。

――山本さんなんかはどうですか?

井上　鈍ってる（キッパリ）。そりゃそうだよ、山本もいい年だろ?　あいつが『週刊プロレス』の編集長をやっとった頃は、俺から見ても「**山本なりの面白い切り口だ。俺にはないもんを持ってるな**」いうて感心したよ。

――でも山本さんには最高の誉め言葉ですね。ところで今、山本さんは恋のほうではまだ衰えてないみたいですよ。なんか新宿の料理屋の仲居さんに**恋**しているみたいです。

井上　ワハハハ。**ええこっちゃ!**

――おお、師匠からのエールが飛び出しましたね!

井上　頑張れいうて伝えといてくれ!

――ということです、山本さん。

井上　まぁ今日はこんなとこだよ。藤波vs橋本についてはその紙を読めばわかるから。

――そうですか。あ、そうそう、最後に井上さん、この橋本のリングネームってあるじゃないですか。これ、井上さんには何かアイディアでもあるんですか?

井上　俺?　俺はないよ。ただな、こういうのはファン投票で決めたりするんじゃなくて、キミらみたいな若い記者たちがああでもない、こうでもないって考えればいいんだよ。俺が考えたらどうしても**デストロイヤー**になってしまうからな。

――デストロイヤー橋本!　なんか古すぎて新しく感じますよ（笑）。

井上　なんかあるだろ、キミらは。**横文字の新しい、強そうな言い方**が。

――新しい、強そうな言い方ですか……。なんやろ?

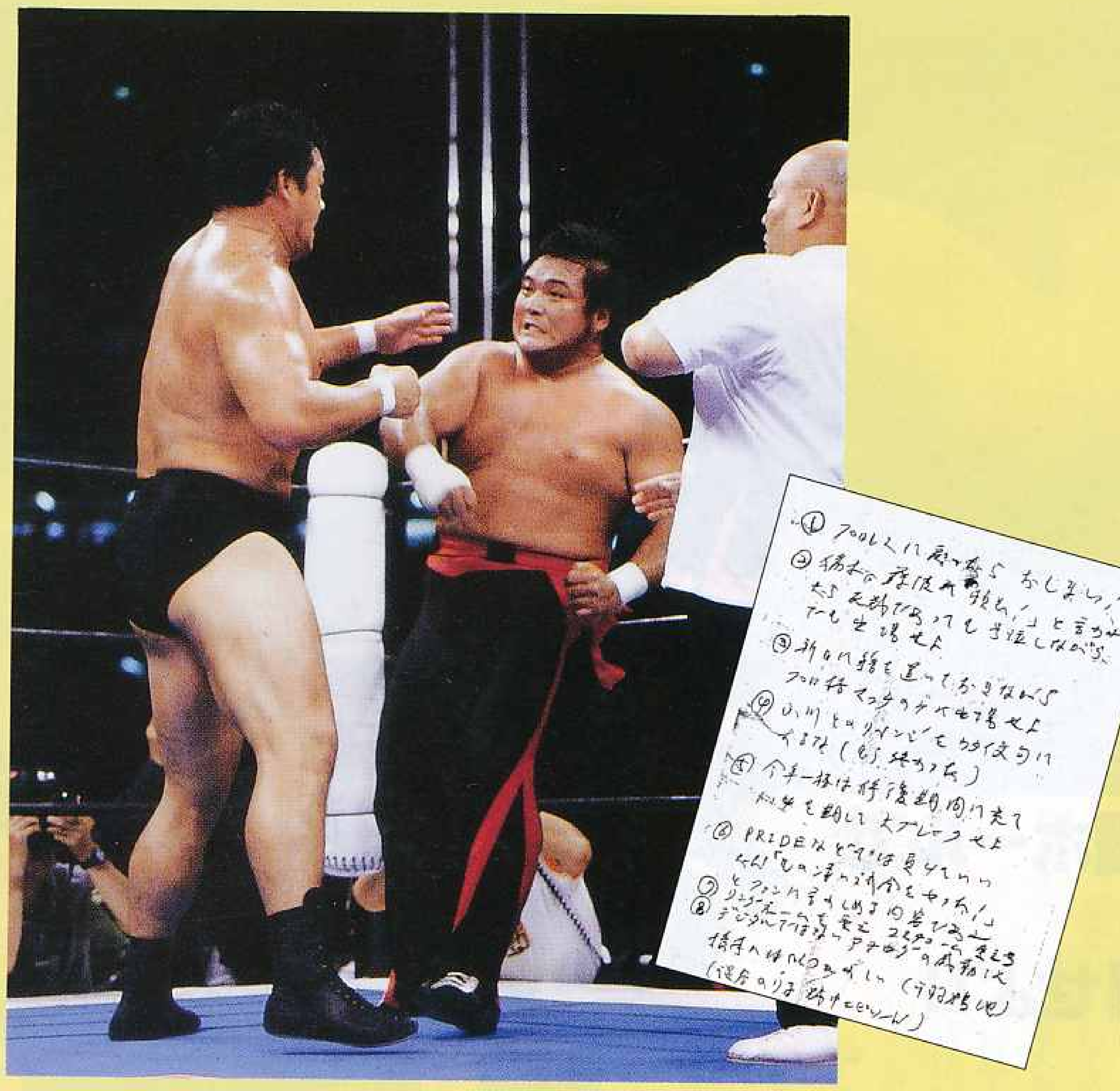
井上　いろいろあるだろう、そんなもん。例えばほら……。

――例えば?

井上　例えば……、**iモード**とかな!

――iモード橋本!（爆笑）。破壊王の新リングネームは決定しました（笑）。

【10月14日、茨木駅付近の喫茶店にて収録】



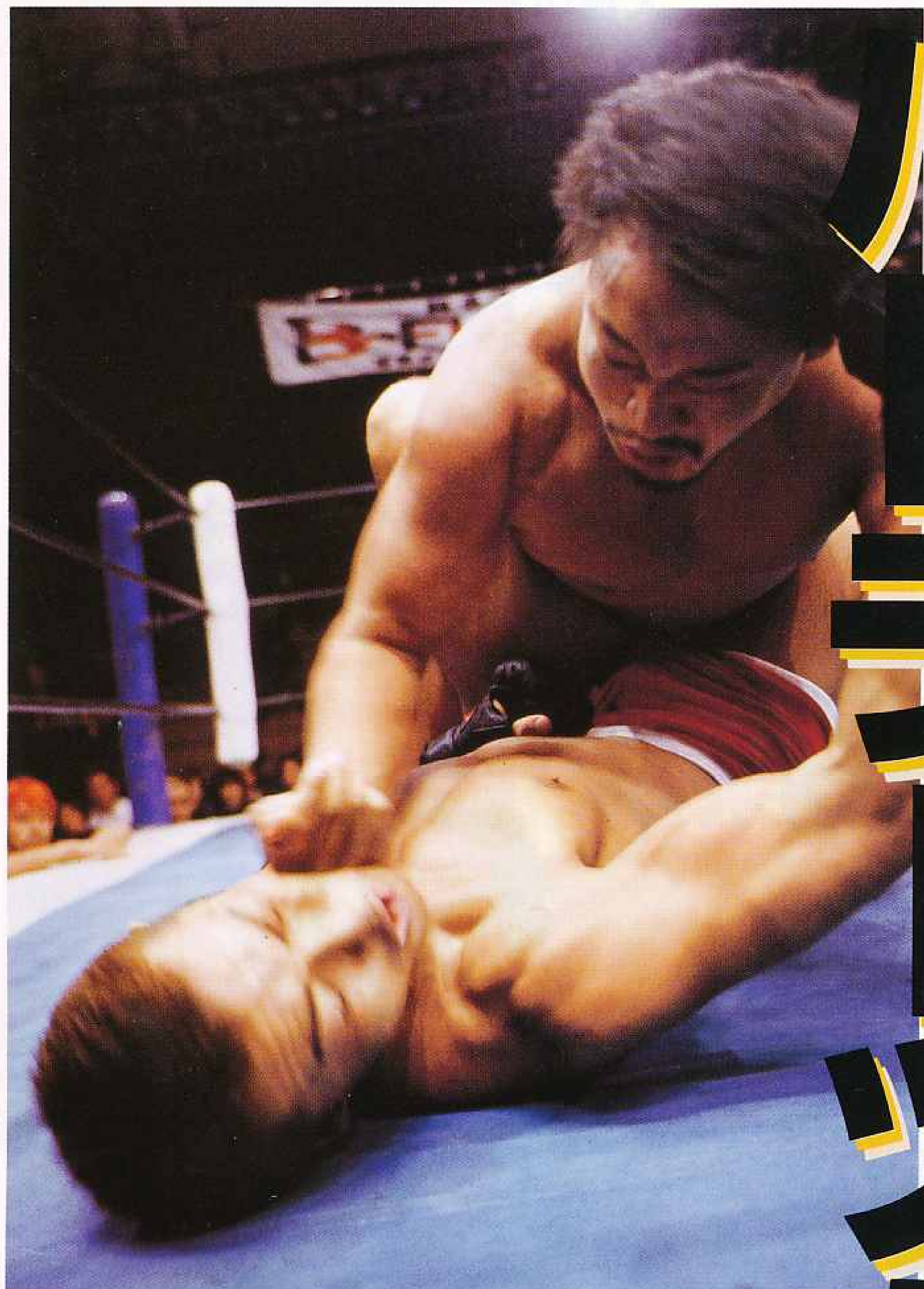
言うちゃ悪いけど今月の結論

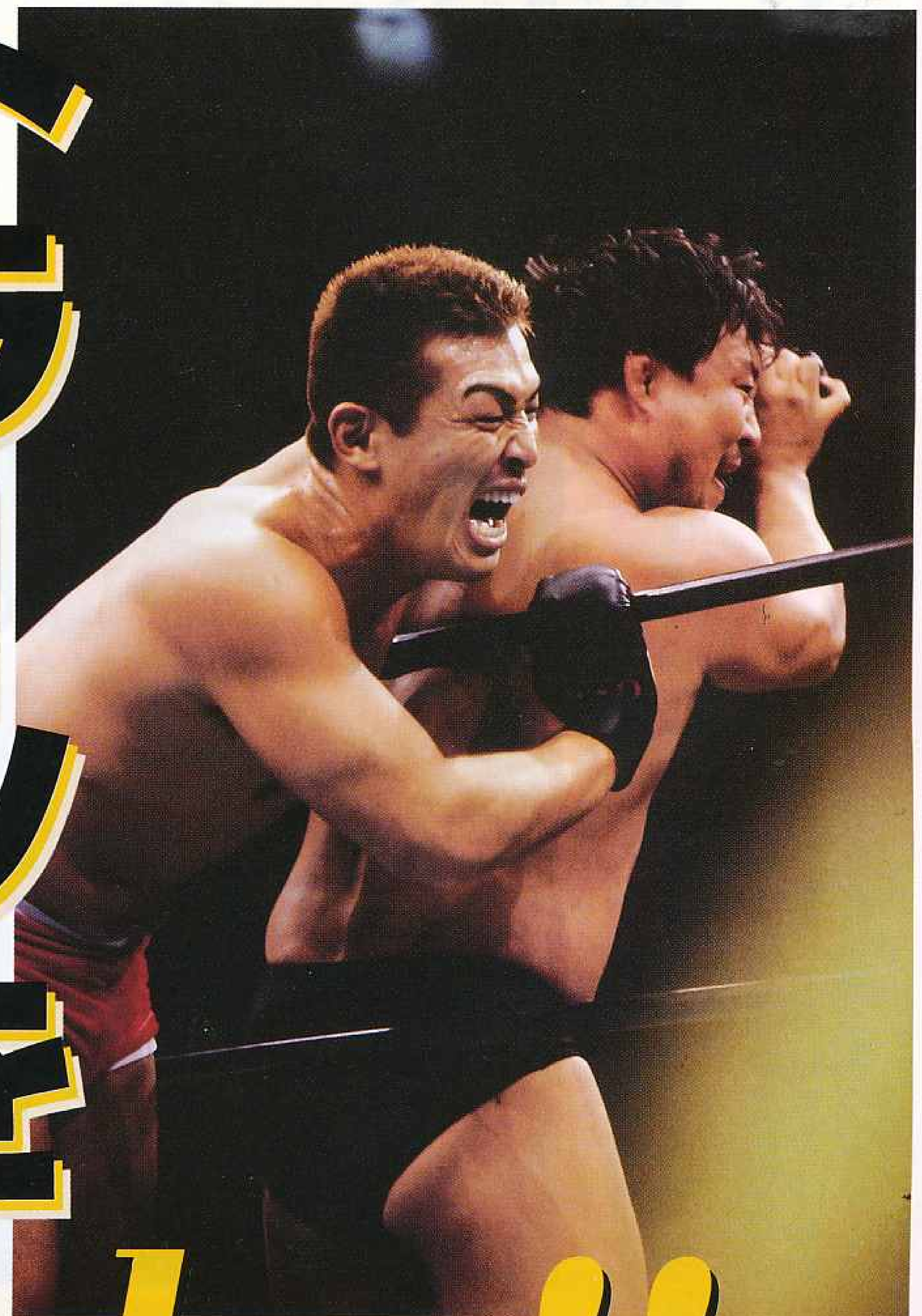
橋本は横文字の新しい、強そうな言い方に改名すべし!　たとえば……iモード橋本とか

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

バトラーツをDo Judge!!せよ!!

バトラーツの女子プロ化を食い止めろ!! ケンカ格闘プロレスの復権なるか!?





9.7&10.1後楽園ホールで
見えた一筋の光明
石川vs村上に注目せよ!!

**再生か!?
滅亡か!?
プロレスファンよ、
11.26駒沢大会で
バトラーツに
審判を下せ!!**

聞き手／山口日昇 interview by Noboru Yamaguchi
構成／坂井ノブ text by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文 photographs by Masafumi Endo



今回のジャッジ

北野あつしくん

世界のビートたけし氏（NOTたかし）のご子息であり、ヒクソン・グレイシー国際柔術大会で世界第4位（参加7人中）となった北野あつし君がバトラーツをDo Judge！上のマヌケな顔からは想像も付かない鋭い批評に舌を巻け!!　アツーシー柔術総裁でもある。

格闘 Do Judge 2000

新日はジャンケンだと延々アイコ! バトは「最初はグー」でパーを出す(あつし君)

主力選手が続々退団して窮地に追い詰められたバトラーツが、その存続を世に問う文字どおり『Do Judge!』な大会となった11・26の駒沢大会。ここのところ観客動員数と〝闘いの温度〟の低下が気になり始めたバトだったが、9・7と10・1の後楽園大会で繰り広げられた石川vs村上の危険極まりない格闘ケンカプロレスで一気に火がついた。旗揚げ当初の〝熱さ〟が蘇ったこの一戦は、さっそく新たなファンを開拓してしまったようだ。というわけで、本誌はさっそく、その両雄の対決にやられてしまったビートたけし氏のご子息である北野あつし君に今後のバトの新たな指針となる「石川vs村上」の魅力を鋭く分析してもらったぞ!

——今日はですね、ヒクソン・グレイシー柔術国際大会4位であり、プロレス評論家でもある北野あつし君をお迎えして「バトラーツはいったいどうなんだ?」ということをうかがおうという企画です。

あつし君 でも、ボクはバトラーツを2回しか見たことないんですけどね。

——2回も見たの? へぇ~?

あつし君 最初に見たのは98年の両国大会。

——あー、あのつまんなかったヤツね。

あつし君 ハハハハ! まぁ、あんまりよく覚えてないですけど。その頃は全然、プロレスとか『PRIDE』に興味もなかったんです。「水道橋博士が出るんでおいでよ」っていう感じで行ったんで。

——あー、「TPG再び」の時だ。それで2回目の観戦が、9月7日後楽園ホール大会ね。これは面白かった?

あつし君 面白かったですよ。

——何が一番おろしろかったの?

あつし君 石川選手と村上選手の試合。

——あれは、石川&カール・マレンコvs村上&平ですよね。その試合で、一番おもしろかったのは誰?

あつし君 村上選手と闘っている時の石川選手が一番面白かったですね。

——そう! そうだよね!

あつし君 あれはゲラゲラ笑っちゃいました、ハハハハ。

——それどういう意味で?

あつし君 凄い面白いものを見るとワハハハって自然となるじゃないですか。「凄ぇ」って言いながら笑っちゃいました(笑)。

——ははぁ、たしかにそれはあるな。猪木さんとかもそうだしね(笑)。

あつし君 コーナーに立っている村上選手も見てるだけで面白かったですね。

——柔術やっているあっちゃんの目から見ても面白いんだ。何が面白いんだろうね? 2人がムキになってやっているから?

あつし君 なんか、わがままな子供がいて、逃げないお父さんが「よし、来い」って言ってるみたいな感じでしたね。

——ガハハハハ! 石川雄規がお父さんで、村上がわがままな子供だ(笑)。それはいい見方だよ。ああいう時の石川雄規は逃げないし、かっこいいよね。

あつし君 少年のナイフ問題の時に石川選手は「刺せるものなら、刺してみろ! 俺を刺しに来い」って発言をしてたじゃないですか? そういう感じだったんですよ。

——なるほど、それを刺しに行く村上とのせめぎ合いだよな(笑)。あっちゃんは『PRIDE』とかも見てるでしょ。『PRIDE』とバトラーツの違いって何だろうね?

あつし君 『PRIDE』は騙し合いみたいなもんですけど、プロレスは騙さないでガッチリ受け止めるじゃないですか? あのタッグマッチは騙し合いっぽかったていうか。たとえば、新日の試合って、ジャンケンだとアイコじゃないですか。

——アイコ?

あつし君 「ジャンケン、グー」、「ジャンケン、グー」ってずっと続いていく感じ。

——読み合いがないと(笑)。上手いね、君! 大学も行ってないのによくそんなこと思い付くなあ(笑)。とても大学行かなくて、柔術ばかりやってる奴とは思えないよ。

あつし君 柔術も全然行ってないんで、ハハハハ。そう考えると、あのタッグマッチは「せーの、ジャンケン」というのもなくって、「最初はグー」って言ってるのに、パー出すような試合だったじゃないですか。

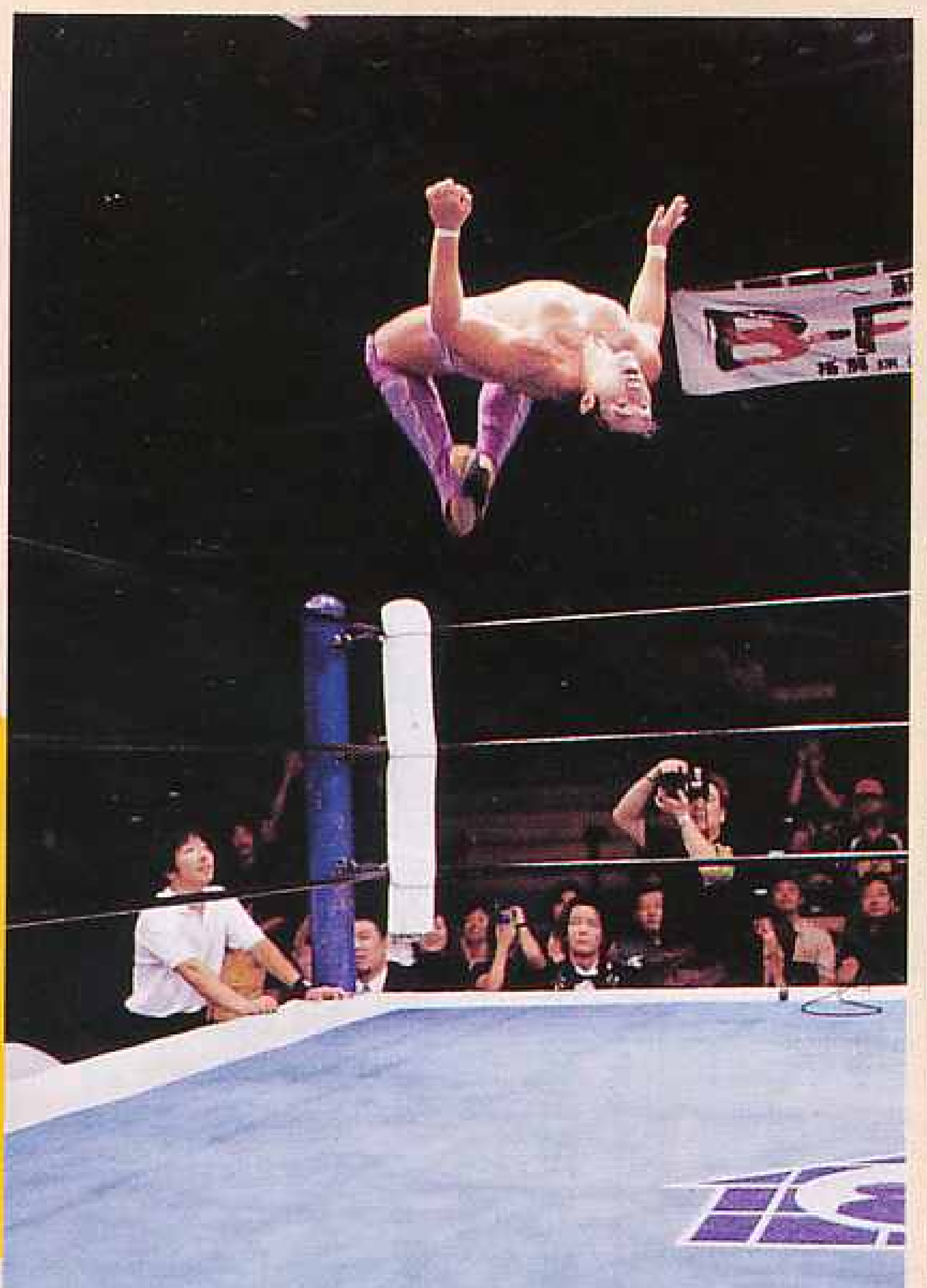
——ガハハハハ! いい見方するね。あのタッグマッチって、そのWWFと『PRIDE』の中間みたいなモノでしょ。

あつし君 はい。でも、面白かったんです。

——だよね。「日本には、日本のプロレスがある」って猪木さんがよく言うんだけどさ、あれが多分〝日本のプロレス〟だと思うんだよ。やっぱ新日本のプロレスとかと違うもんね。

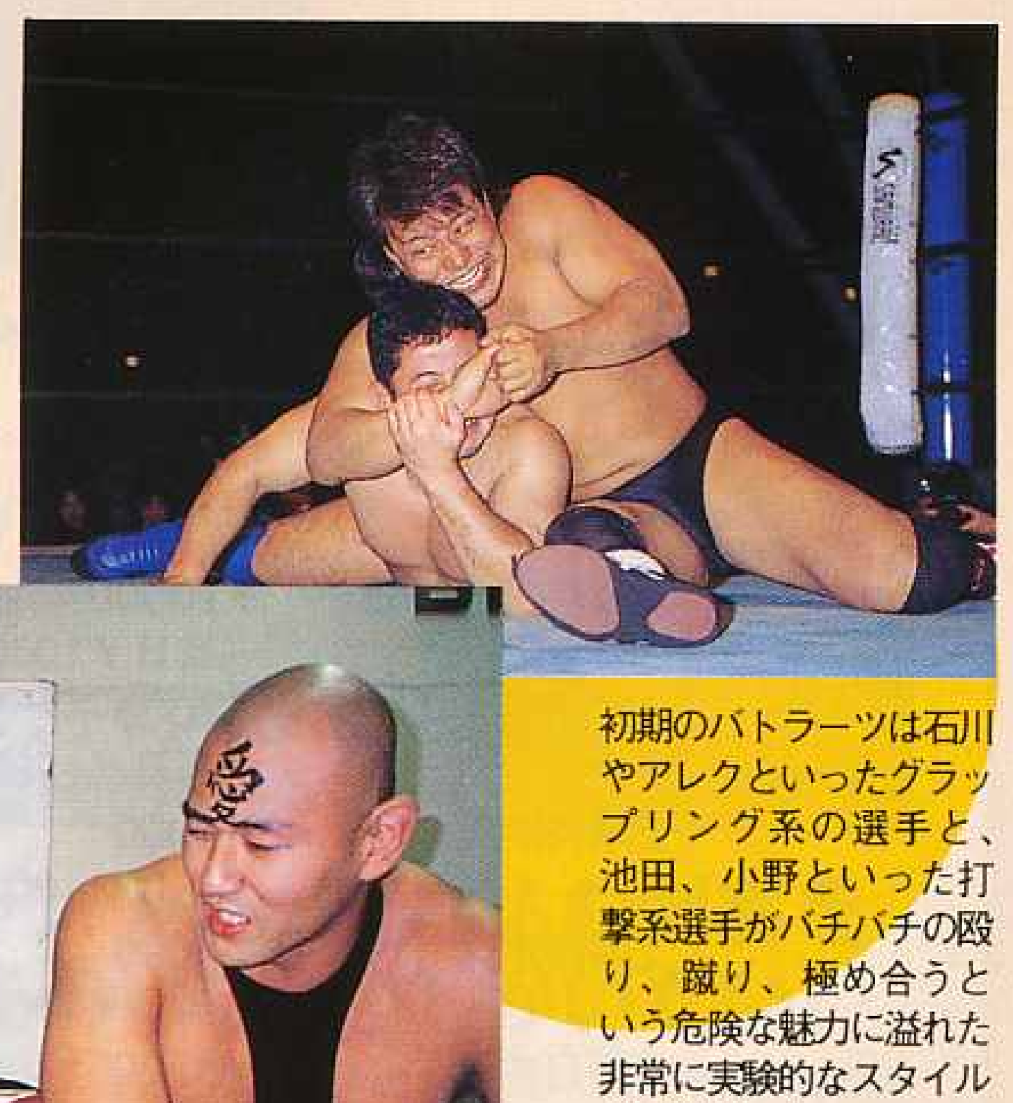
——じゃあ、新日にも上がってた村上はどうだった?

あつし君 僕は、村上選手のプロレスって、新日に上がった時とこないだのバトラーツしか見ていないんですけど、毎回同じことしかやらないじゃないですか? 殴って、投げ



新日ジュニア戦線で大活躍している田中稔がフリーとなり、旗揚げから団体を引っ張ってきた池田大輔も退団。団体の屋台骨を支えてきた選手が次々と離脱すると同時にファンも離れていく。しかし、逆境でこそ力を発揮するのがバトラーツ。起死回生をかけ、駒沢での大勝負に挑む!

小さいながらも、『PRIDE. 4』のアレクの勝利もあり、ノリノリのバトが行ったお祭りが98年11月23日の両国大会だ。100人単位の小会場をまわっていた団体が、いきなり両国に8888人を動員して大成功を収めた。しかし、お祭り気分をそのまま引きずり、どんどん闘いの原点からは遠ざかっていく分岐点ともなった





初期のバトラーツは石川やアレクといったグラップリング系の選手と、池田、小野といった打撃系選手がバチバチの殴り、蹴り、極め合うという危険な魅力に溢れた非常に実験的なスタイルの団体だった

プロレスラーがワガママじゃないと プロレスは面白くならない（山口）

て、マウント取って、何か知らない間にひっくり返されて、また立ち上がってみたいな。
――ミドルキック、払い腰とマウントパンチしかやらないからね。
あつし君　大技じゃないけど、凄い迫力あるんですよね。
――それが大技のジャンケンのアイコみたいな試合よりも面白く見えちゃう？
あつし君　はい（キッパリ）。
――なるほど、考えてるねぇ（笑）。9・7で他に目に付いた選手はいなかったの？
あつし君　誰かなぁ……。
――いない？
あつし君　いやいや、やっぱあのタッグマッチが強烈すぎたなぁ。
――実際の話、もっと、あれはいろんな人に見てもらいたいよね。普通だったら『PRIDE』で村上は佐竹に負けちゃって、「何だよ。村上弱いんじゃん」ってなるけど、バトラーツのタッグマッチで、きちんとそんなこと忘れさせるくらいの試合やるもんね。
あつし君　「凄ぇ」、「強ぇ」って思いましたもんね！
――同じ日のアレクはどうだった？
あつし君　ちょっと、何か微妙な感じですね。
――微妙！　まあ、あの日は頭を打ちすぎて記憶が飛んじゃったみたいだしね。で、今度ね、11月26日に、瀕死の状態のバトラーツがビッグマッチを放つわけよ。まあ、他にも色んなカードがあるんだけど、石川と村上のシングルで対決するんだよね。
あつし君　それ絶対、面白いと思うんですけど。
――じゃ、駒沢に行く？
あつし君　駒沢ですか？　はい、近所だから行きます。
――アハハハ！　そういう理由かよ！
あつし君　いや、でも絶対行きますよ。
――バトラーツはね、タッグマッチじゃないと面白くないとか言われてて、シングルだとダメなんだよ。でも、駒沢はシングルばっか



今年のヤンジェネでは、アレクを中心に団結していくという路線は見えた。その真価が問われるのが、11・26の駒沢大会である。タッグマッチという安全パイを捨てて、すべてをシングルにしたバトの意気込みは本物である

りだからある意味でDo Judge!なんだよ。
あつし君　アハハハ！
――でも、ああいう試合を中心に持ってきた方がバトラーツって面白いと思うんだけど、どう思う？
あつし君　持っていった方がいいとは思うんですけど。体が持たないんですかね？
――確かに、体は持たなくなるよねって。そんな心配は俺らがすることじゃないからね。バトラーツがどういう棘を刺してくれるかだね。やっぱり脳みそに引っ掛かるもんね、石川vs村上なんてね。
あつし君　前に、力道山メモリアルを見に行ったとき、石川vs佐野のシングルがあったんですけど、ボク寝ちゃったんですよ。
――ガハハハ！　酷い奴だな。まぁ、石川雄規も凄いわがままな人だからさ、ファンには付き合わないんだよ。逆に言えば、力道山メモリアルに行っているような客はいまの新日ファンが多かったでしょ？　レスラーがファンに付き合ってくれると思っちゃってるからね。逆に媚びを売ってくれない団体やレスラーはつまらないと思っちゃうんだよね。でもさ、プロレスはプロレスラーがワガママじゃないと面白くならないもんね。
あつし君　その媚びを売っている団体というのはどこですか？
――それは新日本だよ。
あつし君　アハハハ！　僕もそう思ったんですよ。
――媚びを売らないと商売にならないっていう、それは雑誌も、芸人もそうだろうけどさ。だから、君のお父さんは凄いんだよ。媚びを売らずにあそこまでビックになっているわけだからさ。それでは、最後にさ、バトラーツの体勢が立て治るかどうか11・26は、DO Judge!の日なんだけど、バトラーツに対してメッセージはないですか。
あつし君　最初の頃とか、リングスや『PRIDE』のリングに上がったりしてたじゃないですか。だから、みんな強いはずじゃないですか。だから、ストーリーに頼らず強さを売りにしたほうが絶対面白いとは思うんですけどね。
――まぁ、同じことばかりやってても、やってる方としても飽きちゃうというのがあるかもしれないけどね。
あつし君　あの日のタッグマッチみたいな試合が今、いちばん新鮮ですよねえ。見たことないですけど、昔のプロレスの前座はあんな感じだったじゃないですか？　って思いますけどね。
――いちばん新鮮！　そうだよね。バトも初期は日本全国どこへ行っても本当にどこでも、ああいうことやってたからね。だから結構地方に追っかけて行ってたもんね。ここ最近は後楽園ですら行ってなかったけどさ（笑）。ホントに駒沢は楽しみだね！

【10月13日、東京・本誌編集部にて収録】

■後楽園どころか、今号では会社にすら来なかった山口日昇だが、きっとバトラーツの駒沢大会には行くだろう。果たしてバトラーツは初期のような〝熱〟を取り戻すことが出来るのか⁉　確実に試合が面白くなるタッグマッチという「保険」をかけずに、全員がシングルマッチで勝負して、個々がファンの審判を下されるという非常に苛酷な大会になるようだ。キミはバトラーツにどんな審判を下す⁉　次のページを見てじっくり考えてから会場に集合だ！

「**格闘ロマン**
～Battlarts never die～」

11月26日（日）
東京・駒沢オリンピック公園体育館（15：00）

チケット■

特別リングサイド	¥10000（当日¥1000増）
リングサイド	¥7000（当日¥1000増）
2階特別席	¥6000（当日¥1000増）
2階指定席	¥5000（当日¥1000増）
2階自由席	¥3500（当日¥500増）
小中学生自由席	¥2000（当日¥500増）

お問い合せ■バトラーツ　TEL.0489―63―0005

格闘 Do Judge 2000

全シングル対決の危険な賭けは吉とでるか？ 凶とでるか？

すべての審判は11・26駒沢で下せ!!



モハメドヨネ

VS



長井満也

ヨネは真のエースと成り得るのか？ 因縁の対決、駒沢で"蹴り"を付けろ!

モハメドヨネと長井満也は、今年のヤンジェネで激突している（8月の札幌大会。結果は20分引き分け）。その決着を着けるべく、お互いが雌雄を決する場所は、駒沢という大舞台こそ相応しいと言える。モハメドヨネは毎年期待されながら、ヤンジェネでは優勝まであと一歩で届かない。足りないものが何処にあるのか、この一戦で見えてくることだろう。最強の外敵を迎え撃つヨネが、真のエースと成り得るかどうかジャッジが下される！



石川雄規 VS 村上一成

因縁の"一規"打ち遂に実現！ バトの命運はこの一戦が左右す!!

闘えば、闘うほど、お互いのテンションが上がり続ける両者が遂に一騎打ち！ "いつ何時臨戦態勢"で攻める村上と、受けまくる石川の"情念"が、真っ白いキャンパスに過激な絵を描くことは間違いナシ！ 猪木イズムの真の意味を問う究極のシングル対決には、バトラーツの命運が懸かっていると言っても過言ではないだろう。この試合は勝敗だけを見るのではない、この試合から何が見えてくるかが問われる試合なのだ。



松井大二郎 VS ？

松井のプロレスデビュー戦の相手は一体誰だ!?

先日の10月1日、後楽園大会で日高郁人と大乱闘を展開した松井大二郎。そのプロレス発参戦の舞台が11・26駒沢だ！ 村上のようにプロレスに溶け込むことが出来るのか？ 相手は日高か？ junjiか？ 土方か？ ケンか？









アレクサンダー大塚

VS



イゴール・ボブチャンチン軍団の刺客

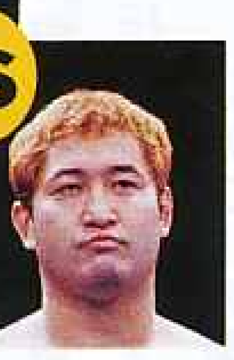
ボブチャンチンが送り込む刺客を撃破するのはアレクしかいない！

おそらくはウクライナのキックボクサーたちだと思われる未知の対戦候補4人をリストアップしてきたイゴール・ボブチャンチン軍団。未知の強豪を相手に果たしてアレクはどのような闘いを挑むのか？ 今年のヤンジェネで優勝し、バトラーツ再浮上のキーマンとなるアレクが三半規管を破壊されたボブへのリベンジへ踏み出す！ バトラーツの格闘プロレスが真の意味で復活するのは、この一戦かもしれない。バトの未来を見せてくれ！



平直行

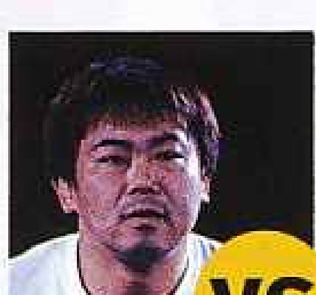
VS



臼田勝美

インディーJr王を決める因縁の格闘マッチ

正道会館時代から、因縁が続く平と臼田の一騎打ちが駒沢で組まれた。バトラーツの根本の部分を体現するレスラーである臼田が、格闘プロレスラーとどのように闘うのか注目だ。



佐野なおき

VS



タイガーマスク

ルチャか？ 格闘技戦か？ SAプロレスか？

バトラーツのピンチに助っ人がかけつけた！ それが、佐野なおきに挑むタイガー。空中戦になるのか？ それとも格闘技戦になるのか？ タイガーがサスケに直訴して実現した一戦だ。



キブアップ？

“打倒プロレス”同盟結成!?



『PRIDE.11』で”オランダの破壊王“ヘルマン・レンティングと激突！

『ノア』マット襲撃成功！ ”打倒プロレス“続行ーッ！

『PRIDE.11』直前！

『ノア』を襲撃！

小路晃×青柳政司

★A³-gym　★誠心会館館長

チョロ=聞き手 interview by Choro　マツモト・タ・カシン=撮影 photographs by Takashin Matsumoto

奥田瑛二初監督作品『少女』に出演する小路晃。第二の故郷名古屋での撮影も無事終わり、小路が再び『プライド』のリングに帰ってくるんじゃあ！

約5ヶ月ぶりの試合となる小路の対戦相手はヘルマン・レンティング。ケンカ屋でならすレンティング相手にキラー小路が見られるのか？

一方、突然の『ノア』参戦を取り付け周囲を驚かせたのが青柳政司。長年、『打倒プロレス！』を掲げてきた青柳館長は斎藤彰俊と共に『ノア』マットにケンカをふっかけたのだ。

この二人の関係は熱心な『紙プロ』読者にはバレバレではあるが、知ってる人も知らない人も、熱き男の対談をしっかり聞きなさい！　押忍!!

※『プライド11』直前の小路選手の貴重な練習時間を割いて取材に協力してくれたWKネットワークさんと、ノア参戦前日に「小ちゃんに会えるなら」と名古屋から駆けつけてくれた館長に心より感謝いたします。

——小路さんは試合前なので練習に打ち込んでたと思いますけど、昨日の新日対全日のドーム大会（10・9）は気になったんじゃないですか？

小路　気になりましたねぇ（微笑）。

青柳　どっちかと言えば小ちゃんはリングスの方が気になって当然なんだけど、小ちゃんだったら練習がなければドームに行ってるなって思ってたよ。

小路　あぁ、たぶん行ってましたねぇ（微笑）。まだ次の試合の相手は決まってないんですけど、練習してました。

——館長は小路さんのことを小ちゃんって呼ばれてるんですか？

青柳　そうですね。今はもう凄い人になっちゃたから、小路なんて呼べないから、小ちゃんって（笑）。

——格闘家でありながら、今やムービ

ースターでもありますからね（笑）。

青柳　（嬉しそうに）そうそう（笑）。

――館長と小路さんの組み合わせにピンとこないと人も多いと思うんですけど、誠軍団として一緒に東京プロレスに上がっていたんですよね。

青柳　そうですね。知らない人の方が多いでしょうね。知り合ったのは小路君が大学4年生の時で、もう卒業する時期だったんですけど、ジムでよく一緒になっててね。それで、●●県警に就職が決まってて、「いい所に就職したねぇ」って話してたんですよ。

――えっ、小路さんは●●県警に就職が決まってたんですか？

小路　はい、そうなんです。でもプロレスやろうと思って断ったんですよ。

青柳　「頑張れば出世するよ」ってよく話してたんですけどね。ちょっと話が変わっちゃうんですけど、斎藤彰俊がプロレスやる前、彼は県の職員だったんですよ。

――新日に上がる前ですか？

青柳　そうです。その時もボクが辞めさせたようなもんですからね（苦笑）。

――アハハハ！　人の人生をことごとく狂わせてきたわけですね（笑）。

青柳　人の人生を、ボクがめちゃくちゃ変えてるんですよ（笑）。でも彰俊も今となっては「良かった」って言ってくれてるしね。ただ、小路君を誘った時は自分も新日本と離れたばっかりだし、メジャーに上がれるチャンスもそんなにないし、そこまで上がる自信もまだなかったんですよ。だけど、就職を断ってまで俺のとこに来たんだから、やるしかないじゃないですか。

――東京プロレスからの話は、その時、既にあったんですか？

青柳　自分への話はあったんですけど、誰かを連れていくっていうのはなかったですからね。それで、小路君は1年ぐらいマスクを被りながら顔を出さない状態で出て、もう少ししたらマスクを取るっていう形にしてたんですけど、そしたら、マスクを被ったまま会社が潰れちゃったんだよな（笑）。

――被ったまま潰れたんですか（笑）。

小路　はい（苦笑）。誠軍団1号はどこ行っちゃったんですかね（微笑）。

青柳　それで、ボクもどうしようか悩んでたら、小路君が「ボクは東京行きます」って言ってきたんですよ。彼はインディー団体でやらせておくのはもったいないと思ってましたから。当時、小路君はアマチュアの実力はかなりあったんですけど、プロレスでどこまでできるかは、やってみないとわからないわけじゃないですか。自分のリングがあるわけじゃないし、プロレスの練習もなかなか出来ないような状態だったんで。それで、いきなりぶっつけ本番で試合をしたんだよね。

小路　あぁ～、そういえばそうでしたね（微笑）。

――ぶっつけ本番でなんとかなるもんなんですか？（笑）。

青柳　それが、やらせてみたら小路が器用なんですよ。ボクらが10年かかっても出来ないようなことばっかりやっちゃうんですよ。

小路　（謙遜して）いやぁ、そんなことないです（微笑）。

――センスがあったんですね。

青柳　そうそう。そういうのもあったし、ボクを頼ってきてるし、何とかしてあげたいという気持ちだけはあったんですよ。だけど結局何も出来なかった自分が歯痒くてね。「東京に行く」って言われた時は、そこで頑張ってくれればいいかなと思いましたね。

――頑張りすぎちゃいましたね（笑）。

青柳　ホント頑張りすぎだよぉ（笑）。でも彼には自分で掴んだメジャーの場で、これまで以上に頑張って欲しいですね。ボクも鼻が高いですよ、いまや日本を代表する格闘家になってくれましたからね。

――今やミスター・プライドと呼ばれる男ですからね。

青柳　そうそう。でもね、小路君はトランプ遊びとかそういうのは、何やってもヘッタクソなんですよ（笑）。

――格闘技とかは器用だけど、遊びは不器用だと（笑）。

青柳　パチンコも好きなんだけど、勝ったの見たこと一回もないですよ！

――館長はいつも10箱くらい積んでるって評判ですもんね（笑）。

小路　もしかしたら、パチンコ屋で一番会ってたかもしれませんね。それで会うといっつも出してるんですよ（笑）。よく午前中から学校サボってパチンコ屋に直行すると館長が早速出してるんですよ（笑）。

――モーニングですか（笑）。

青柳　9時開店からですから、並んで台を取るんですよ。帽子被って、マスクして、わからないようにして（笑）。パチンコ屋って格闘技ファンが多いんですよ。従業員なんかでも、ひどい奴だとパチンコやってると色紙持ってきますからね。格好悪いですよねぇ（笑）。

――それで変装してたんですか（笑）。



マスクを被ったまま会社が潰れちゃったんだよな（笑）

誠軍団1号はどこ行っちゃったんですかね（微笑）

【あおやぎ・まさし】昭和31年12月27日、愛知県豊田市出身。172センチ、93キロ。空手で精神修行をしたい人、強くなりたい人、館長と一緒に「打倒プロレス！」を目指したい人、みんなまとめて誠心会館へ急げッ！　押忍！【お問い合せ】誠心会館事務局　☎0565-76-0360

【しょうじ・あきら】昭和49年1月31日、富山県魚津市出身。172センチ、88キロ。小路晃が主宰する「A-3ジム」は楽しみながら強くなれるアットホームなジムなんじゃあ！　初心者からプロ志望まで、みんなガンガン集まれッ！【お問い合せ】A-3ジム　☎03-3939-2509

やっぱりプロレスやるなら館長がいるところですよ！（小路）



打倒プロレスのノボリを高々と掲げて入場するムサシ大山と青柳館長の総合格闘技ＪＡＰＡＮ誠軍団。小路晃は誠軍団１号として活躍後、マスクド１号とリングネームを変更した。



小路　でも、館長は変装してでもすぐわかるんですよ（笑）。

—田代まさしみたいに（笑）。

青柳　まあでも、小路君にはもっとビッグスターになってもらってね、彼が上がっていくことが自分にも刺激になってるし。ノアに今回上がることも、どんどん小路君が頑張ってるから、まだまだ俺もやらなきゃって思ってね。

—負けてられるかと。

小路　館長は新日とでも大暴れした人なんで、もう一花も二花も咲かせなきゃいけない人ですから、ノアでも大暴れして欲しいです。ボクも館長と彰俊さんのコンビが早く見たいです（笑）。

青柳　個人的にはですね、ボクの夢かもしれないけど、最終的には小路君にも、プロレスの中に来て欲しい気持ちもあるから。今は格闘技で上に行っちゃったから、すぐには難かしいだろうけど、新日だろうがどこだろうが、メジャーの団体でも今なら採ってくれると思いますしね。

—誠軍団1号時代はともかく（笑）、今の小路さんならどの団体も欲しいでしょうね。

小路　でもやっぱりプロレスやるなら館長がいるところですよ（キッパリ）。

—館長はノアが最後の死に場所だって宣言されてましたけど、それくらいの意気込みがあるんですよね。

青柳　そうですね。小路君の存在は凄く刺激になってますし、こんな年齢で言うのも恥ずかしいんだけど、ワクワクする気持ちもあるんだよ。ウチの空手の子供達にも「彼は悩みながらも自力で夢を掴んだんだよ。東京に行ったからって、ああなれる訳じゃないよ。宝くじが当たるよりも難しいんだから」って言ってるしね。武道家っていうのは学校の先生よりも教育者だと思ってますから。子供達や、他の人にはちゃんと伝えてますよ、強さよりも精神力だってね。全日本チャンピオンになれる奴はいくらでもいるよ！　そんなことは違うよと！

小路　館長の道場には小さい生徒さんが一杯いるんですよ。それで、ちゃんと子供と同じ目線で教育してて凄いな〜と思いましたからね。

青柳　小路君も武道家として、ちゃんとそういう風に教えられる人間になってもらいたいですね。まあ、もうなってると思いますけどね（笑）。有名になっていくと、段々鼻が高くなっていく選手っていうけど、小路君の場合は、段々鼻が低くなっていってるからね。そこが、みんなから好かれるところだと思うしね。小ちゃんのことを悪く言う人はいないでしょ？

—聞いたことないですね（笑）。

青柳　小ちゃんを悪く言うのは、パチンコ屋の店員くらいだよ（笑）。「コイツ、ヘタクソだよ！」ってね。

—アハハハハ！　館長はプロレスとか『ＰＲＩＤＥ』はテレビとかで見てるんですか？

青柳　プロレスはほとんど見なくなりましたねぇ。ただ『ＰＲＩＤＥ』とかＫ−１はよく見ますけど。今は小ちゃんも出てるし『ＰＲＩＤＥ』の方を中心に見てますね。

—プロレスを見なくなったのは何でですかね？

青柳　インディーの選手に限らず何でもそうなんだけど、なあなあになり過ぎた部分が少しあるのかなとは思いますね。いや、少しどころじゃないかな。『ＰＲＩＤＥ』とかと比べると、激しさとか、熱気という部分が全然違うじゃないですか。プロレスもそうなってもらいたいというのはありますよね。

—ノアも「変わった変わった」と言われてますけど、館長は変わってないと感じてるわけですよね。

青柳　そうだね。ボクはこの間、話しましたけど、変わったのは衣装だけ！　それじゃダメだよと！　見る人は見てるんだから。

—館長はノア初戦の対戦相手（井上雅央&丸藤正道）のこともよく知らないみたいなんですけど（笑）、プロレスに詳しい小路さんはノアに関してはどういう印象を持っていますか？

小路　そうですねぇ、ボクは『ＳＡＭＵＲＡＩ！』で見るぐらいですけど……井上選手は新日本の中西（学）選手に似てますよね？

—タイプ的には近いですよね（笑）。

小路　はい（微笑）。丸藤選手はこの間、みちプロのディファ有明大会で（ザ・グレート）サスケさんと闘ってた人ですよね。

—正解！　さすが詳しいですね（笑）。今は館長より小路さんの方がプロレスについては詳しいと思いますよ。

小路　そうですかね（微笑）。でも丸藤選手は凄いですよね。ルチャっていうか、新しい系統の選手ですよね。（館長に向かって）丸藤選手は、どんどんルチャ殺法をやってくると思うんで、それを全部受けとめておいて、ガッっとやってもらいたいですね。

—逆にスタイルが全然違うんで、緊張感のあるいい試合になるかもしれないですね。

小路　そうですね。（小声で）でも正直

格闘 Do Judge 2000

言っちゃうと、違う選手の方が館長の良さが出ると思うんですけどね。

青柳　まあでも、自分は新日の時からデカイ人とやってますからね。自分がちっちゃいから相手も小さい選手にしてくれなんて言えないし、言うつもりもないしね。「誰でもいいから来いよ！」っていう気持ちですよ。

——小路さんも、そういう所は館長譲りですよね。常にデカくて強い選手とやってますからね。

小路　その辺は館長から学んでますから（微笑）。

——館長といえば、もう10年以上、"打倒プロレス"を掲げてますよね。

青柳　そうですね。自分はフィニッシュ技なんてもんは、蹴り技、突き技で倒すのがほとんどですよね。それはやっぱり変えたくはありませんから。

——ここまできたら、引退するまで"打倒プロレス"ですか？

青柳　そうですね（苦笑）。常に空手が強いんだと、自分がやってることが正しいんだと思いながらね。自分がたとえ試合に負けても、それは思い続けていきたいですね。やっぱりボクは空手が好きなんで、空手の先生だけでずっとやっていきたいと思ってたんですよ。それが、プロレスやるようになって、ある選手と闘った時にプロレスの恐ろしさを知ってしまったんですよ。

——その、ある選手というのは、ずばりライガー選手ですか？

青柳　ライガー戦もそうですけどね。名前は出しませんけど、古いプロレスの選手なんですけども、回し蹴りを蹴った時に、相手の鼻が折れて、目尻を切って、それで相手の前歯がボクの足の甲に刺さったんですよ。空手の試合だったら、そこで終わりなんだけど、相手はかすかな意識しかないのにボクの方に血だらけになりながら向かってくるんですよ。その時にプロレスの恐ろしさを感じましたよ。「そんなになってまで耐えるのかよ」って思ってね。そこでボクはプロレスを続けて、もっと探っていこうって思いましたから。あくまでも「空手はもっと凄いんだ」ってことを証明するために、"死ぬまで打倒プロレス"なんですよ。

——"死ぬまで大和魂"ならぬ"死ぬまで打倒プロレス"ですか（笑）。小路さんも"打倒プロレス"の気持ちはあるんじゃないですか？

小路　う〜ん、そうですねぇ。

——『PRIDE』ではアントニオ猪木プロデュースの試合も始まりましたし、プロレスラーの活躍が目立ってきてますからね。

小路　あぁ〜、やっぱり"打倒プロレス"って気持ちも多少はありますね。前から言ってますけど、藤田（和之）選手とか新日上がりなんで、やってみたいですね。

青柳　いや〜、それは面白いカードですよ。藤田選手はゴリラみたいな身体してますからね（笑）。やっぱり経験という部分でいえば、藤田選手もこの前の試合で顔面にもらって、ちょっと危ない部分もあったでしょ。小路君とはその辺の経験の差もあるし面白い試合になるかなと思いますよ。

——そのカードは館長も見たいですか？

青柳　見たいですよ！　ボクはお金出してもいいから、頼むからセコンドに付かせてくれって感じですよ（笑）。

——アハハハ！　彰俊さんに続いて館長も『PRIDE』でセコンドに付きますか（笑）。

青柳　逆に藤田選手の方のセコンドに付いちゃったりしてね。ボクは元新日本だから（笑）。

小路　アハハ！　話は飛びますけど館長の蹴りはホントに凄いんですよ。特にキレが凄いんです。ボクも館長の下に付いて、よく蹴りを練習してましたけど、なかなか上手くいかないし。見栄えも良くならないし。

青柳　プロレスラーをずっと見てきたけど、蹴りをやる選手っているじゃないですか？　一応、空手をかじった選手とかいますけど、自分から見るとやっぱり全然ダメですよ！

——橋本（真也）選手なんかは、「自分の蹴りはK—1じゃ当たらん！」って豪語してましたけどね（笑）。

青柳　そうやって自覚してる人はいいんですけど、自分の蹴りは凄いって思ってる人がいるんですよ。それは一緒にしてくれるなっていうのはありますけどね。

——それが空手家としてのプライドなんですね。逆に館長は『PRIDE』とかの総合格闘技に出場したいっていう気持ちはあるんですか？

青柳　ボクは、もう丸々興味ありますからね（笑）。

——丸々ですか（笑）。谷津さんとか、同世代の選手も出てきてますからね。

青柳　自分は沖縄でカール・マレンコ



井上雅央選手は新日本の中西学選手に似てますよね（微笑）

ある選手と闘った時にプロレスの恐ろしさを知ってしまったんですよ

今度、カンヌで助演男優賞を貰う予定です（微笑）（小路）

とバーリ・トゥードをやりましたからね。その時は予定してた選手が逃亡しちゃって、2日前に家に連絡があったんですよ。

――えっ、2日前にですか？

青柳 「誰かいませんか？ でも2日前に言われてやる選手なんていませんよね」なんて言うからさ、「俺がいるだろ！」って、受けちゃってね（笑）。

――それは無謀ですね（笑）。

青柳 相手のことも全く知らなかったんですよ。小ちゃんに聞いて「強い選手ですよ」って教えてもらった程度だったから。でもね、強いとか弱いなんてことはどうでもいいんですよ。

――「人生はチャレンジだ」と？

青柳 チャレンジすることも一つだし、例えば飲み屋でケンカになった時に、悪いけど1ヶ月待ってくれって言えるかっていう、それと一緒だから。「俺が出ますよ」ってね。すぐ負けちゃいましたけど、負けた悔しさよりも、いい経験させてもらったという気持ちの方が強いですよ。試合の前に小ちゃんから、いろいろアドバイス受けてたんですけど、そうする暇もなかったですね。

――小路さんは、セコンドに付いていて、いけるかなとは思ってましたか？

小路 館長の持ち味は打撃で、カール選手は絶対に打撃の前にタックルくるのがわかってたんで、どっちが先にいれるかだと思ってたんですけど……残念でしたね（微笑）。

青柳 あれから、バーリ・トゥード用の練習も、ある程度はしてますからね。それに今度のノア参戦は、やっぱり新日時代の気持ちに戻るというか、あの頃は雑誌の表紙も飾らせてもらったし、一生懸命やればわかってもらえる世界ですからね。やりがいがありますよ。

――そういえば、館長はプロレス大賞の新人賞を獲ってるんですよね。「打倒プロレス」と言っておきながら（笑）。

青柳 はい（笑）。他にも、ボクと彰俊と木村（健悟）さんで6人タッグの賞も貰ったからね。

――あぁ、そうでしたね。小路さんは最近、何か賞は貰いましたか？

小路 いや、ボクはないですね。あ、でも今度、カンヌで助演男優賞を貰う予定ですけど（微笑）。

――アハハハ！ 館長から見て小路さんに役者としての才能はあると思いますか？

青柳 小ちゃんはそういう才能もあると思いますよ。器用なんですよ、何やらせても。だから映画に出るって話を聞いた時に"こいつは化けるな"って思ったよ。いっちゃうよ！（笑）。

――いっちゃいますか（笑）。

青柳 もう芸能人だから（笑）。大仁田厚よりは上にいくと思うね！

――それは凄い！（笑）。

小路 （照れて）いやぁ～。

――まあでも、彰俊さんと館長の試合だったら、やっぱり流血戦もいとわない殺気立った試合が見たいですね。

小路 あぁ～、そうですね。そういうプロレスをみんな望んでるんですよ。それに館長のプロレスはそういうプロレスですからね。

青柳 まあ今まで、そういう闘いしかしてないからね。どうしても、なあなあになっちゃってるプロレスは出来ないし、したくもないですから！

小路 殺伐とした闘いが、最近のプロレスはちょっとないですよね。

――逆に『PRIDE』とかの方が、そういう闘いを見せてくれてるんで、プロレスには物足りなさを感じるっていうファンも増えてますよね。

小路 そうですよねぇ。昔のプロレスと比べると"間の緊張感"とかがちょっと違いますよね。

青柳 そうなんだよ。まあ期待しててよ。彰俊も凄いやる気になってるし、自分も頑張りますから。

――今のところ、明日のワンマッチが決まってるだけですけど、ノアに上がるからには最終的に闘いたい相手とかはいるんですか？

青柳 最終的には上の人間とやらなあかん訳ですから、いずれトップクラスと闘うことは考えてますよ。彰俊と二人で頑張って行きますから。まあ、青柳、彰俊が負けそうになったら、どこからか女神が飛んでくるでしょう！ ちょっとだけ期待してるから（笑）。

――マスクを被った男がどこからともなく現れると（笑）。

青柳 誠軍団1号が！ もうマスクは要らないけどね（笑）。

小路 もうマスクは被りません（微笑）。やるんだったら素顔です！

青柳 あれ、試合って明日だっけ？ ここに来てる場合じゃなかった（笑）。

――帰って練習して下さい！（笑）。

青柳 この世界ではチャンスなんてなかなかないですから。しっかりチャンスを掴むようにやっていかないと上には行けないんで頑張りますよ。神様はまだ見捨ててなかったね（しみじみ）。

小路 ……館長、いまジーンときましたよ。ボクもミスターXのための練習もちゃんとしておきますんで、一緒に頑張りましょう！

（二人で声を合わせ） 押忍！

[00年10月10日／東京・板橋A'Gymにて収録]



越中詩郎は現在全日マット参戦中、斎藤彰俊と青柳館長はノア参戦、そして最近休みがちの木村健悟。この四人が再び一つのリングに上がる日は来るのだろうか？ 維震軍ファンは、その日をいつまでも待っているだろう。



94・5・8、館長の地元名古屋レインボーホールで行われたWWF『マニアツアー』。この日、ボブ・バックランドと闘った館長。序盤は防戦一方だったが、元WWF世界王者相手に初使用の首固めでまさかの大金星！


「『プライド11』ではレンティングにスカッと勝って波に乗りますから！」と力強く宣言してくれた小路。ガンガン行け、ガンガン！

11・12「クラブ ファイト」で
1年振りに戦列復帰！

山本喧一、始動！

賞金が欲しい奴、俺に挑戦してこい！



聞き手／松澤チョロ
interview by Choro Matsuzawa
助手／幸田珍
helper by Chin Koda
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

素手による顔面打撃アリの超過激ルール「タイタンファイト」を開催したヤマケン、同時に自らの約1年ぶりの闘いの場となる「クラブファイト」を発表。常々「格闘家がいい思いをしていない」と言っていたヤマケンらしく「勝てば最低50万円！」と今までにない賞金首制度を採用したのだ。もちろん賞金首はヤマケン自身だ！　場所もクラブ、試合開始もクラブタイムの22時以降と従来の興行とは大きく異なり、プロレス&格闘技ファンだけではなくクラブキッズをターゲットにし世間を取りこもうとしている「クラブファイト」。様々な点において斬新なこの企画を、ヤマケンはなぜ思いつき、なぜやろうとしているのか？　ヤマケンの熱すぎる主張を心して読め！

クラブの歴史と共に俺の歴史もあるようなもんだよ

KENICHI YAMAMOTO

—ヤマケンさん、遂に動きましたね。で、これからクラブファイトを始めるということですけど、クラブはよく行くんですか？

ヤマケン 最近は行かないね。でも、クラブって俺がこの業界入った頃に出来たでしょ。そっからだから、クラブの歴史と共に俺の歴史もあるようなもんだよ。

—クラブと共に生きてきたと（笑）。

ヤマケン でもそうでしょ？ 10年前じゃない、俺がこの業界に入ったのは。クラブが出来たのも10年前ぐらいからだから。

—クラブ派はディスコには行かないとか拘りがあるじゃないですか。ヤマケンさんもディスコよりクラブって感じですか？

ヤマケン でも俺が踊ってたらねぇ（笑）。

—「ヤマケンがクラブで踊ってた」という目撃情報は何回か入ってるんですけど（笑）。

ヤマケン 「酔っぱらって暴れてた」の間違いじゃない？ そっちの方が有力だよ（笑）。

—ヤマケンらしくていいですね（笑）。それで、クラブファイトで目に付いたのは〝格闘とヒップホップの融合〟という部分なんですよ。これはどういう狙いがあるんですか？

ヤマケン ヒップホップっていうのは若い世代で熱いじゃないですか。まあヒップホップに限らずいろんな若い世代の何かとリンクしていけたらいいなと思ってたんですわ。クラブのイベントもいろいろありますけど、どのプレイヤーが一番客を熱狂させられるのかなっていうところでもファイトすると。

—今までプロレスとロックの融合とかっていうのはありましたけど、ヒップホップって限定すると、どうしても他のジャンルを好きな人は足を運びにくいと思うんですよ。

ヤマケン まあ別にヒップホップに拘ってないですよ。ただクラブイベントに関しては、オールジャンル、基本的に若い世代の魂に響くようなものを与えられるんだったら誰とでも闘いますわ。全てのジャンルのファンが来るわけだから、格闘の素晴らしさをそこで見せられるか、ヒップホップに負けるのか。

—それも闘いなんですね。

ヤマケン そうだね。そういう闘いでもあるからヤリガイがあるんですよ。「格闘ってこんなに素晴らしいものだぜ！」って知らない奴にも見せられるし、ライブで格闘の凄みを見せれば今の若い奴にも伝わると思うしね。奴等が見たがってるのはそういうことだと思うし、本当の格闘ってのを俺は見せたいから。プロレスの原点はそこなんですわ。格闘技の集大成、そして最強のものはプロレスってことをみんな忘れてんじゃない？

—ヤマケンさんの中に最強の格闘技はプロレスだという思いがあるわけですね。

ヤマケン だってそうでしょ。猪木さんも最初は何でも有りをやってたんだからさ。それをみんなどっかに忘れちゃってるんじゃない。「猪木がどうのこうの」って言う前に「テメエら何やってんだ」って話でさ。だからいまだに猪木さんの影響力が強いわけで、それは他の奴がダラしなさすぎるだけなんですよ。猪木さんは、その時代に合ったことをやってきたし、俺の諸先輩方もそれなりにやってきたと思うけど、結局は猪木さんの二番煎じで、モノマネでしかないわけじゃん！

—でも、猪木さんが考えてる以上のことをやるとなったら大変ですけどね（笑）。

ヤマケン 大変だけど誰かがやってかないと何も変わらない話だからさ。今まで力道山さんから始まって猪木さんが継いだものにぶら下がってるだけでしょ。そんなんじゃ新しいもの作れるわけなくて、特に今時代の変わり目に来て、業界全体が混沌としてる状態だから、なおさら新しいものを打ち出していかなければ誰にも訴えかけることは出来ないし、みんなに夢も与えられない状態だから。

—そんな状況を打破してみせると？

ヤマケン そうだね。みんなに夢を与えられないと俺らオマンマ食えないんだから。プロだからどんなスタイルでも挑戦して、いろんなものを見せていかないと。アーティストも同じだけど毎回同じCD出してても売れないでしょ？ 毎回違うものを見せなきゃ俺らも飽きられちゃうよ。そういう意味で俺は格闘アーティストだと思ってるから。新しいことやって夢与えて何が悪いんだって話だよ。

—新しいことをやると共感する声もあるし、逆に反発する声もありますよね。

ヤマケン まあ、そういう声は慣れっこですから（笑）。新しいことやるわけだから、そういう声は百も承知ですから。出る杭は打たれるって言いますけど、打たれないぐらい出てやりますわ（笑）。

—それでこそヤマケンですよ（笑）。で、対戦者は募集中ということですが、最終的に相手はヤマケンさんが選べるんですか？

ヤマケン もちろん！ 一番面白い試合が出来そうな奴とその時その時やっていくよ。

日上 少なくとも、例えば山本が楽そうだからって選ぶわけじゃないんですよ。タイタンファイトの記者会見でも「名もない選手に負けたらどうすんだ？」と質問がありましたが、「それでもいいんだ」とハッキリ言ってましたし、そういう気持ちであることには間違いないんで。自分で決めるっていうのは光源氏のようなことではないんですね（笑）。その辺はぜひわかって貰いたいんですが。

—ヤマケンさんはちょっと前までは「目的を達成するまで負けられない」って言ってましたけど、負けることも活性化になるっていう発言はどのような変化があったんですか？



この日はクラブファイトを運営するホークエンターテイメントの日上巨之氏も同席。ヤマケンと闘いたい奴は、氏名、年齢、身長、体重、格闘技のベース、電話番号を明記の上、Versus EntertainmentまでFAXで応募しろ。FAX03-3405-7139 初戦の相手は誰だ？

ヤマケン それはタイタン（ファイト）ができたからですよ！ タイタンをやる準備が整って、まだ進行形ですけど若い衆が育ってるんでね。タイタンがスタートしたから自分の本分も出来るようになったと。まだ進行形だけど、準備が出来てなければ俺は出ないし、負けるわけいかないからヘタな試合は出来なかったしね。俺らが進めてるプロジェクトによって受け皿が出来たってことは、クラブファイトに関しては特に、俺が闘って、勝っても負けてもマット界の財産になってくれればそれでいいわけだから。だから俺は思いっきり自分のために闘えるんですわ。

—クラブファイトのような興行形式で底辺拡大を狙うならTVを付けるのが一番いいと思うんですよ。『炎のチャレンジャー』みたいに「ヤマケンに勝ったら百万円！」とか（笑）。絶対盛り上がりますよ！

日上 それは言えますよね。企画段階ではそういう考えも上がったんですよ。でも一番大事なのはどれだけリアルなものを見せられるかってことなんで。もちろんそういう枠が押さえられたり、番組とタイアップ出来ればお金も困らないですし、いろんな良いことがあるんですけども（笑）。でも逆に最初からTVが付くと、向こうの力で方向性が変え

られる場合が多々あると思うんで（笑）、クラブファイトを世間に浸透させて、向こうから話を持って来るくらいにしたいですね。

――試合時間はクラブ時間ということで、深夜開始ですけど、その辺はどう思います？

ヤマケン だから、仕事終わって腹ごしらえして、その後クラブに楽しみに来ると。そういう本来クラブに普通に遊びに来る若者のノリで来てもらったらいいんですわ。

――終電とかは気にしちゃダメですね（笑）。

ヤマケン うん。終電気にしてたら遊べないでしょ。それに今の子達って起きてますよ。長いッスよ、東京の夜は。逆に12時過ぎてからみたいなとこあるから、いいんじゃないですか。逆に時間がネックになるっていう人は俺のUFC―Jでの試合を見てくれればいいし。それでも俺の試合見たいって人は心よりお待ちしております（笑）。

――アメプロのTVチャンピオンみたいに毎回ヤマケンさんが防衛していくってのが一番理想的な形だと思うんですけどね。

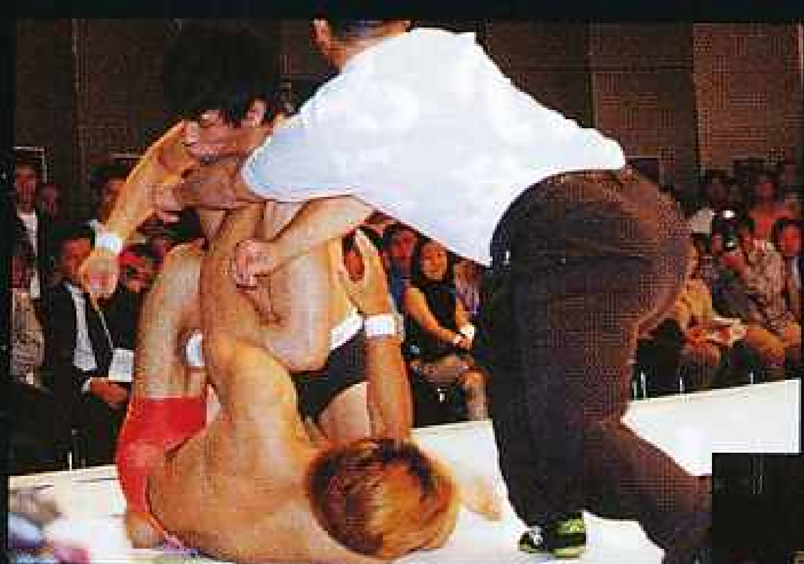
ヤマケン いや、まだチャンピオンを決める時期じゃないですよ。俺が別に暫定チャンピオンでもいいんだけど、そんなことはいいよ。そんなチャンピオンだ云々だって言ったって、そんなの今のこんなカオスな状態で、言ったってただの裸の王様ですわ。全然どこも統一性ないじゃないですか？ そんなの作ったってしょうがないし。それより本当にリアルにド突き合うことによって、格闘の本質みたいなものを伝えられるかなと。そこですよ、一番になるのは。あんまり深く考えないでもらいたい。

――気軽に見に来てくれと？

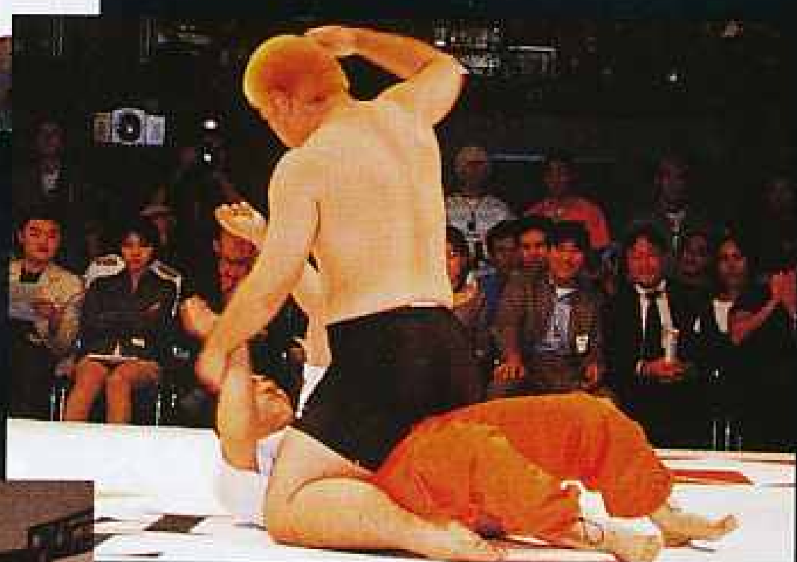
ヤマケン そうそう。そして、俺の試合が良かったか良くなかったかが問題であって、俺が勝

顔面有り（拳で）、両リン有り、膠着ナシ！

これがタイタンファイトだ!!



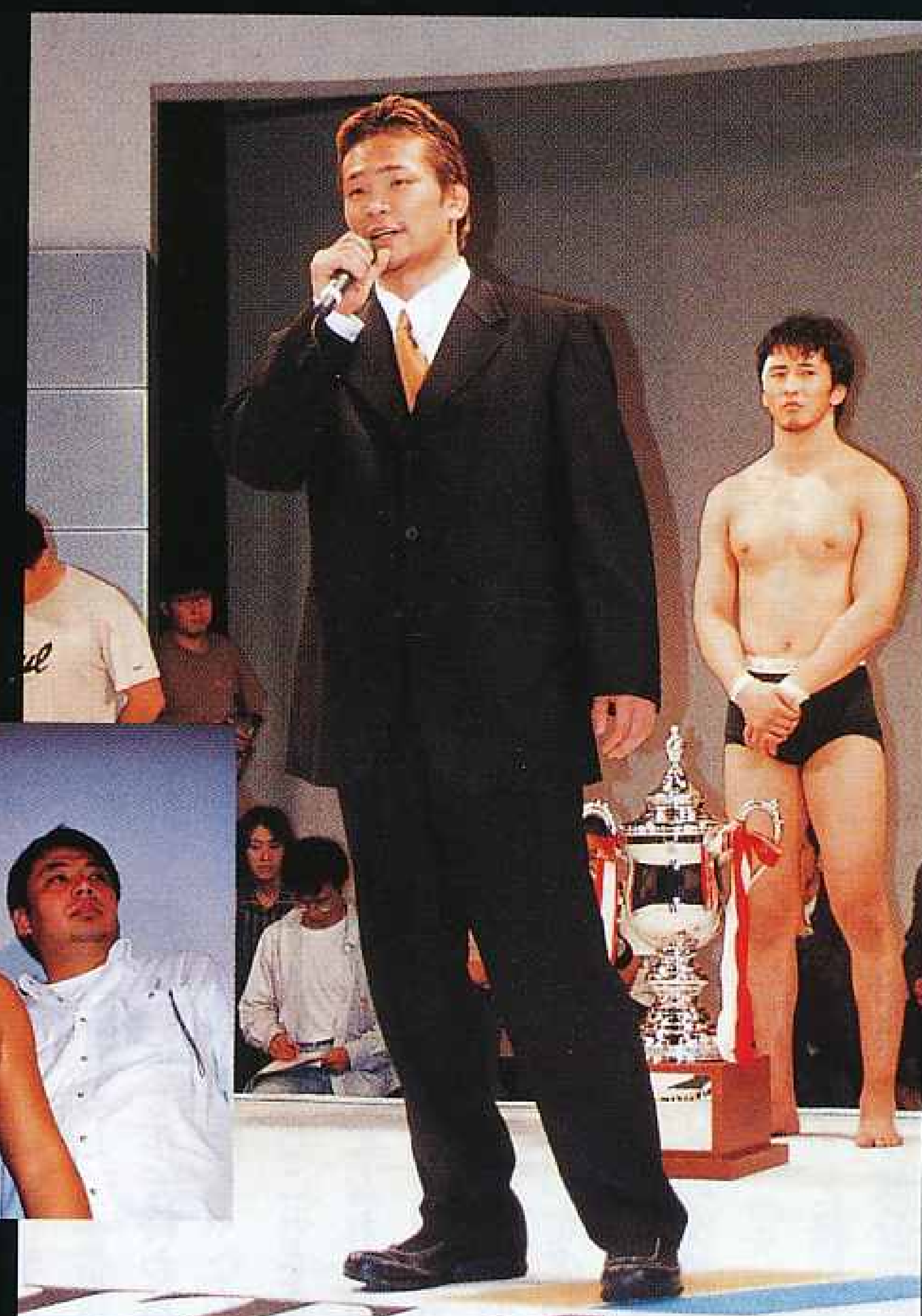
危惧されてた素手による顔面パンチは安全性を考慮して同じ体勢で3発入った時点でレフェリーストップ。流血する選手も若干いたが、想像していたより残酷ではなかった



中国武術と相撲の夢の対決。しかし体重差約30kgが影響したのか、岩村（中国武術）は何も出来ずに、折橋（相撲）のマウントからのパンチであえなく敗退。中国武術最強幻想はいつ現実化するのか？



両者リングアウト失格はある意味新鮮だったが、続きが見たいと思う試合もスッパリ終わったのは残念。ヤマケンは「舞台から落ちたら地獄（敗者）、最後まで残った奴が勝者」とこれを評した



いきなりUFC―Jでの〝田村批判〟のビデオが流れ、会場の人々は「ヤマケンの主張」を思い出した。「過去があり今がある」がモットーのヤマケンにとって、この映像ははずせない。その後に始まったヤマケンの開会の挨拶は「楽しく、かつリスクの高い大会をモットーに格闘技のエンターテインメントを目指す」と宣言。閉会の挨拶時は内弟子の大活躍にご満悦の表情だった。



今大会唯一のマスクマン、しかも名前はケンドー・カシンJr。惜しくも両リンで一回戦で姿を消す。正体は某団体のS代表…らしい



香港では、あのジャッキー・チェンがリムジンで空港まで迎えに来る程のムービースター澤田謙也。ヤマケンの友人として挨拶



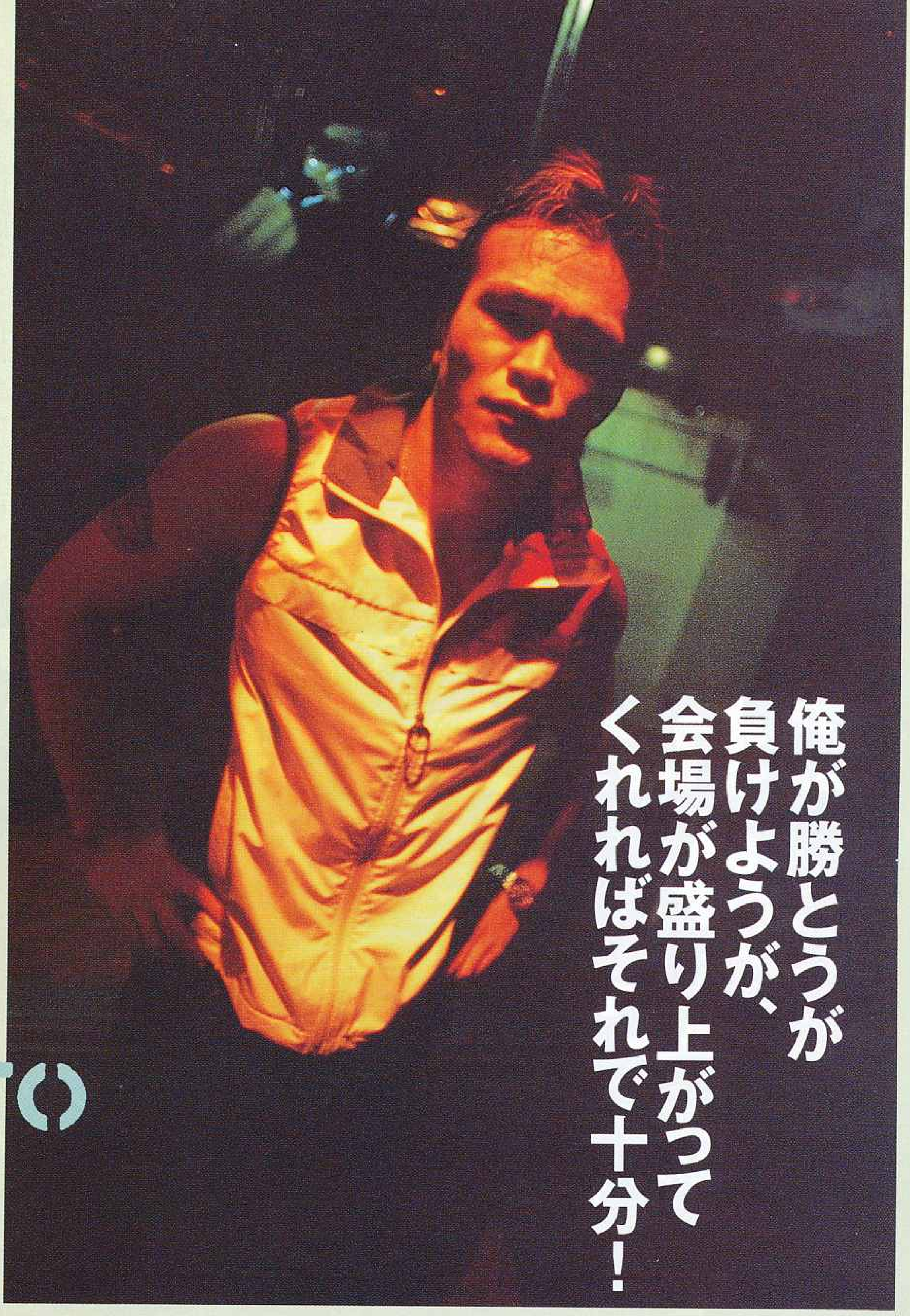
総勢20名による第一回タイタンファイト。相撲、中国武術、空手、レスリングなどのさまざまなバックボーンの選手が出場した。初めてのルールもあってか、みんな一様に緊張の面持ちであった

9・29、遂にタイタンがベールを脱いだ！

素手による顔面打撃ありの超過激なルールが話題を集めたタイタンファイト。当初ヤマケンは格闘技関係者およびマスコミへのお披露目的な意味でこの大会を企画したが、嬉しい誤算で多数の一般客が来場したため、試合開始前から会場はすでに超満員。素手によるバーリ・トゥードなので初期UFCのような「殺るか殺られるか」の異常な緊張感のある試合を想像したが、タイタンでは凄惨な試合にはならないように、顔面を同じ体勢で3発以上殴られたらレフェリーが即試合をストップするという安全を最重視したルールで行われた。ヤマケンは「素手で殴るルールなら、拳を壊さないように殴るスキルがアップするし、殴られないようにガードをするスキルもアップする」と言っていたが、今大会を見る限りスタンドからはよほどのハードパンチャーでない限り素手による顔面打撃は有効でないと思われた。素手で殴るという過激なルールを適用することにより、グローブをつけない拳のデメリットを再認識できたのは意外であった。なお素手による顔面打撃はグローブよりも脳への衝撃が少ないことが影響したのか、パンチによるKO決着は一切なし！

またタイタンはリングではなく、空手の試合場のような舞台で行われたのも、大きな特徴の一つだ。舞台から転落すると失格、あびせ倒しで落ちても両者失格という実にわかりやすいもの。両リンは失格というルールを理解しつつも「あれ、もう終わり？」と物足りなさを感じたのも事実。時間切れもまた両者失格となり、自然とアグレッシブな闘いが繰り広げられた。

今回でタイタンの安全性は証明されたので、心おきなく街のケンカ屋、腕自慢の暴力大将も賞金目当てに是非出場してもらいたい。タイタンは21世紀の〝ゴロマキ権藤〟がでてくる〝場〟を作り、ヤマケンが唱える底辺拡大を実現する可能性がある大会だ。（幸田珍）



俺が勝とうが負けようが、会場が盛り上がってくれればそれで十分！

YAMAMOTO

とうが負けようが死のうが、そこの会場に来た人間がみんな盛り上がってくれればそれで十分ですわ。それを見て何か生きる勇気が湧いてくれたり、それはファンだけじゃなくて格闘家にだって言えることだし、俺と闘いたい奴にとってもチャンスだし、金も貰えればいいわけじゃないですか。だから業界全体がファンも含めて、クラブっていう地下から世間に対して発信していければいいじゃないですか。これこそ底辺から活性化させていくってことだと思うんで。

日上　賞金懸けてるってことで、これも一つのメッセージだと思うんですよ。いいファイトして勝っていけばその分稼いでいける。それよりも何よりも一つの目的っていうのはちゃんとギャランティーが発生していくってことがね、全面に出してる透明化させているって部分でもアピールだと思うんですよね。

――「格闘家は恵まれてない」って常々、山本さんは言ってましたけど、勝ったら50万円貰えるっていうのは凄い魅力でしょうね。

ヤマケン　格闘家っていうのは純粋に強さを求めて頑張ってるわけだから。じゃあ、強くなったらそれに対しての見返りがあったっていいんじゃないってことですよね。俺が負ければ俺も努力するし、それがマット界の財産になってくれるだろうし。別に今「俺が一番強えから」って言う気もないし、強えのはゴロゴロしてるだろうし、強えのってのはどんだけ強えんだと言う部分で本当に真剣に殺るか殺られるかやってみようよってそういうことなんですけどね。そのかわり最初っから金は決まってますよ、勝てば賞金は上がるけど、負ければありませんよと。わかりやすいでしょ？　みんな「どっかにいい話ねえかな、いい話ねえかな」って言って結局動けない奴ばっかりでしょ。そんなの待ってたってしょうがないから、だから動きやすい稼ぎやすい場所を一つでも多くと思って、タイタンでありクラブファイトであり俺は作ってんだから。もしくはジムだってそう。ジムに入れば支部を持っていける、食っていける、練習も出来る、全部繋がってるじゃないですか。スポーツビジネスとして格闘技は振興していくわけじゃないですか、それが俺らが提唱する底辺拡大ですよ。まあ俺もやっと自分のやりたい仕事ができてるかなっていう実感はあるし。本番はこれからですよ。これから1年2年で終わるようなこと俺はやろうとしてるわけじゃなくて、長くマット界が繁栄するようなことをやりたいわけだから。そのための礎になれれば俺はプロになった甲斐があるかなって思うんだけどね。

――海外の格闘家とかで、将来的はムービースターに成りたい人って多いですけど、ヤマケンさんはそっち方面は興味ないんですか？　澤田謙也さんとの交流もありますし。

ヤマケン　今はないね（キッパリ）。今はないけど、格闘技がもっと格好良く見せられるんじゃないかっていう部分で、格闘技のプロでお客さん入れて闘っていくからにはエンターテインメントなんだから、それが客が納得してくれるぐらいのものだったらいいわけだし。俺が描きたい格闘はやっぱりカッコイイものにしたいから。映画で言ったら作品ですよね。これからの俺の試合は全て作品だから、出てくる時からそうだしテーマソングだってそうだし、その時の気分で変えていくしね。ヤマケンの試合が見たいって言って全国からそこに集まればいいし。別に「待って下さい」とか、「俺が行きます」とかじゃなくて、いつ試合するかわかんないけど、やるって時にぜひ見たいと思われるぐらいの本物の選手になりたいね。でも現実問題、いまオイシイと思うよ、俺はUFC―Jチャンピオンなわけだし。俺と闘い奴はクラブファイトにどんどん来て下さいよ！

――今話が出たので聞きますが、UFC―Jは現時点ではどうでしょう？　日程的なものもいまだに流動的だったりしますけど。

ヤマケン　しょうがないんじゃないですか。取りあえず俺は待つしかないんで。一応ベルト持ってるからね。やっぱ、ゆくゆくUFCの世界のベルトはやっぱ狙ってますから。

――UFC―Jのチャンピオンは山本さんなんですけれども、近藤有己選手のタイトルマッチが先に決まるんじゃないかって言われてますよね。それに対してジェラシーみたいなものはあるんですか？

ヤマケン　（困惑の表情を浮かべ）『紙プロ』的にはなんて言えばいいの（苦笑）。

――いや、素直な気持ちを一言（笑）。

ヤマケン　そんなの聞かなくてもわかるじゃん（笑）。『紙プロ』は、そういうこと言わせようとするからなぁ（とジロリと睨む）。

――ヤマケンさんもチャンピオンとして、俺の方が先だってところは当然ありますよね。

ヤマケン　もちろん！　UFC―Jのチャンピオンになったからには、日本人のチャンピオンとして世界に実力を証明したいしね。ある意味、ホントは「俺がやるんじゃねえの」

格闘 Do Judge 2000

「順番的に違うんじゃねえか」ってのはあるよね。だけどまあ、いろんな意味で団体なしで仕事してるわけだから。まだまだ立場的には力ないからさ（苦笑）。

——フリーはつらいよって感じですか（笑）。

ヤマケン　そうそう。俺、フリーだもん。俺みたいなフリーの選手が団体に守られてる選手に勝てるわけないじゃん。だから、フリーでどんだけの人間が食っていけるかっていうところも変えていきたいっていうのもあるし。今は食っていけないじゃないですか？　俺だって頑張って食っていってるんだから他の奴等もできるんじゃないかなって一人でも思ってくれると嬉しいね。

——プロレスラーは別として、フリーの格闘家で食っていくのは大変ですからね。

ヤマケン　そうでしょ。それに俺は、この業界に対してはどっかと敵対しようとか、そういうのは一切ないし、反対にもっと違う世界のいいとこをもっと取り入れようってことも頭ん中にあるし、俺の打ち出すプロジェクトとか企画みたいなのは他がマネできないものを目指してるっていうか、オリジナルを目指してるっていうのがあるんで。俺がやりたいのは底辺拡大であって、それがマット界の活性化に繋がって、それをやるためにはスポーツビジネスを考えて、格闘技を極めていこうってことだからね。

——想像しただけで大変な作業ですね（笑）。

ヤマケン　でも、あくまでも俺は主旨、テーマがはっきりしてるから自分をちゃんと打ち出していけるし、今はっきりしてないところがいっぱいあるから、そん中で俺はその人達と敵対しようなんて思わないし、反対に自分のスタンスで我が道を行くと。ほんで微力ながら業界の発展のために力注げればと願ってる今日この頃でございます（笑）。

——ございますか（笑）。ヤマケンさんは、常々プロとアマの定義付けはしたくないって言ってますけど、クラブファイトではアマチュア選手と闘う可能性もあるわけですよね。

ヤマケン　プロとかアマとか八百長とか言ってる時点でナンセンスだよ。そういうの通り越して凄いものを作りたいってのがあるから。そんなこと言ってるから、ゼニ儲け出来ないっていうか、良い世界にならないっていうか、みんな潤わないわけですよ。これはマスコミさんも含めて言えることだと思うよ。そうでしょ。チョロちゃん、いい思いしてる？

——かなりボチボチですねぇ（笑）。

ヤマケン　だから、なおさらみんなでプロフェッショナルにならなきゃいけないんだよ。プロレスのリングに上がってるからプロだとか、そういうことが既にナンセンスであってね。チョロちゃんだってプロとして自信持って仕事してるわけでしょ？　俺だってプロとして仕事してるわけだし。それは自信持って仕事してる者同士が組み合った状態っていうのが、本当にいい仕事をみんなに見せられるってことになると思うから。それが誰かの足を引っ張ったり、ウジウジプロだアマだって言ってる場合じゃねえんだよ！　良いものは良いって素直に伝える目が欲しいよ。タイタンファイト見てさ、選手の活躍見て良い試合もあったよね。それを見て素直に「技術高いね」とか「どういう練習してるんだ？」とか「迫力が伝わった」とか、そういうのを見てもらいたいわけだよ。

——その気持ちもわかるんですけど、「あれは凄い、これも凄い」ばかりの報道もよくないじゃないですか？

ヤマケン　確かにそうだけど、どっちかに決めつけて伝える場合って多いじゃない？　その辺を公平に伝えて欲しいんだよね。

——それはそうですよ。で、クラブファイトは相手によってルールの変更があるって言ってましたけど、基本的にはタイタンファイトに準ずるルールなんですよね。

ヤマケン　基本的にはノールール系の試合をやりたいよね。素手の場合もあるだろうしアルティメットグローブみたいなものを付ける場合もあるだろうし、わかんないよね。俺の中でいろんな格闘の世界っていうのを見せたいっていうのがあるから。まあルールに関しては相手との話し合いですよ。お互いに納得いく試合をしようぜってことですよ。こっちは興行をやるからにはお客さんのことも考えなきゃいけないから、クラブのお客さんが盛り上がってくれる試合を目指して、常にライブの面白さを提供していきますよ。

——面白さを追求するといっても、あくまでもリング上はガチンコなんですよね（笑）。

ヤマケン　そりゃ当然ですわ。かといって俺が八百長否定してるとかプロレスを否定してるとか書かないでよ（笑）。

——そんなこと書きませんよ（笑）。

ヤマケン　俺はプロレスは素晴らしいって前から言ってるわけだからさ。どんなスタイルであっても俺は順応できるし。例えばヴァルク・ハンとだっていい試合できるし、誰とやってもいい試合できるし、相手に合わせられますから。それがプロでしょ。盛り上がるような試合をしますわ。

——クラブファイトということで、バウンサーで借りもあるウイリー・ピータースとか、そういう選手と闘っても面白いでしょうね。

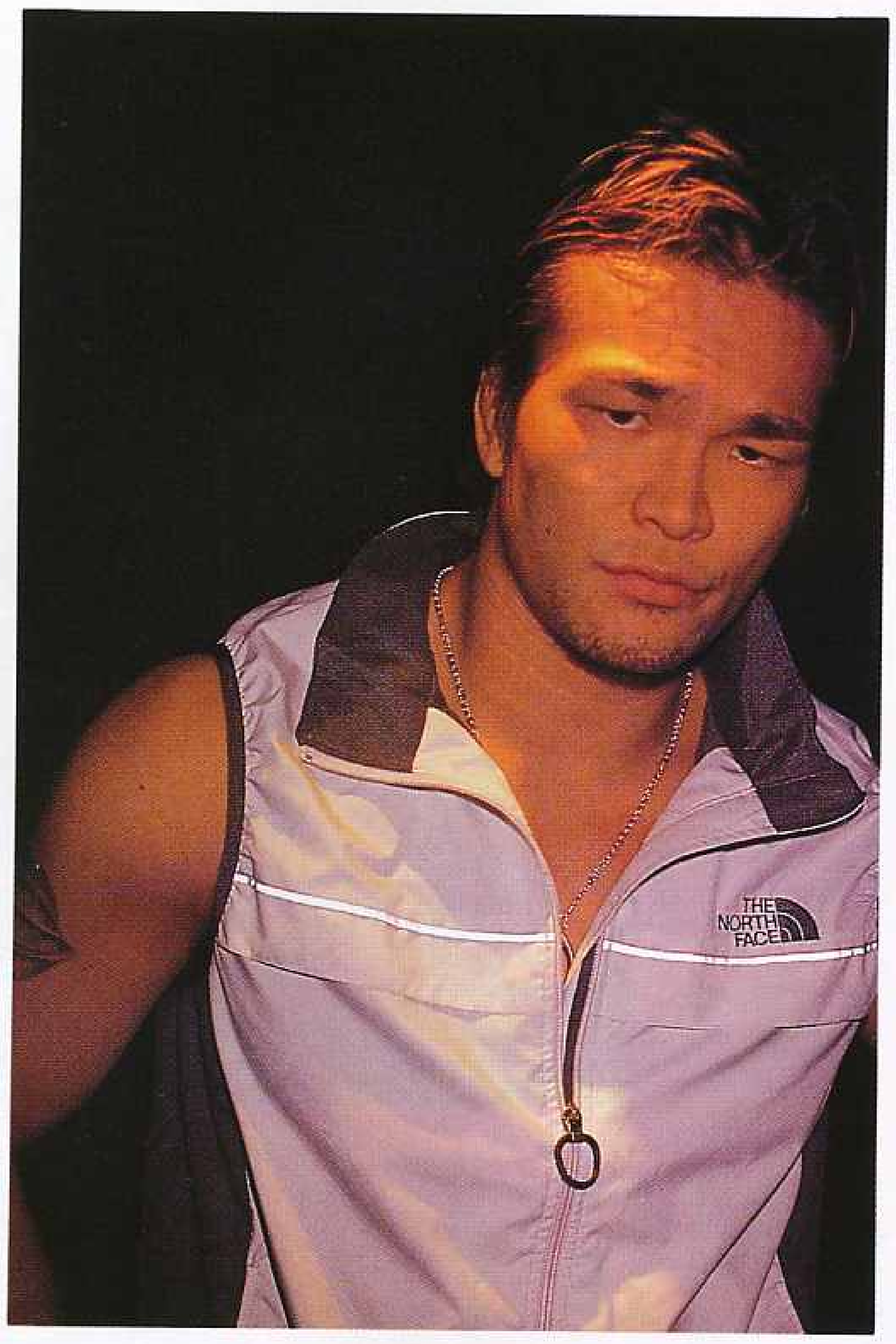
ヤマケン　そういうのも面白いんじゃない。どんどん応募してきて下さいよ！

——丸一年振りの実戦ですけど、その間たまったものを吐き出してくれるわけですよね。

ヤマケン　もちろん！　前回は11ヶ月で今回は1年試合間隔が開いたワケだし、今度の試合では格闘の素晴らしさを伝えますわ！

【10月6日／東京・渋谷『クラブWOMB』にて収録】

KENICHI



【やまもと・けんいち】本名・山本健一。1976年7月11日生まれ、大阪府門真市出身。182cm、87kg。デビューは桜庭和志戦。Uインター→キングダム→リングスを経て現在は自らのジム「POWER OF DREAM」を主宰。今度の『CLUB FIGHT』（11・12）が約1年ぶりの復帰戦となる。その対戦相手は誰か？　注目！

FMWで大ブレイク!
女子マネージャー&キャットファイター
薫子の素顔を公開!

荒井薫子



いまFMWで野郎共の視線を釘付けにしている一人の女の子がいる。彼女の名は荒井薫子。荒井社長の姪っ子の薫子ちゃんはマネージャーだけでは飽きたらず、リング上でキャットファイトも披露しているのだ。そこでキャットファイトと言えば黙っていられない男が『紙プロ』にいた。そう松澤チョロである。「キャットファイトの先輩として一言物申す!」と、意気込んで向かったチョロだったが、初めてのナマ薫子ちゃんの魅力にすっかりデレデレ。ダメだこりゃ。

松澤チョロ=取材
text by Choro Matsuzawa
丸山剛史=撮影
photographs by Takeshi Maruyama

Q.突然ですけど、薫子ちゃん、もし明日、地球が大爆発するとしたら何をしますか?

いっぱいお菓子を食べる(笑)。私、ワッフルが好きなんですよぉ。(嬉しそうに)地元においしいワッフル屋さんがあるんですけどぉ、ワッフルの上に、なんか甘くない牛乳っぽい生クリームとリンゴが乗ってて、あとシナモンと砂糖のパウダーも掛かっててぇ、すっごいホント大好きぃ! リンゴシナモンなんとかワッフルって言うんだけど、それ食べてから爆破される(笑)。

Q.薫子ちゃん、自分の性格を分析すると、どんな感じですか?

私の性格……? 人見知りがとにかく激しくってぇ、でも仲良くなると凄くうるさいんですけどぉ(笑)。あと、モノとかいろいろなことにこだわり出すと止まらなくなっちゃうの! 洋服とか小物とかでもピンクで揃えようと思ったら、もうピンク一色!(笑)。そうそう、私はピンクがスゴイ好きだからぁ、部屋中ピンクだらけ(笑)。CDデッキとかも全部ピンク! えっ、いま一番こだわってる物ですか?(考え込む)……あれっ、特にないや(笑)。

Q.一番ホッとする瞬間は?

親友と一緒にいるのが一番安心する! あとはダンスの練習してる時かな。私が好きなのはガールズ・ヒップホップってジャンルなんですけどぉ、いつか、みんなに披露したいです。エッヘッヘッ(笑)。

Q.一番怖いものってなに?

え~、オバケ!(笑)。中学の頃、学校帰りに一回だけ見たことあってぇ、なんか血まみれの軍隊の服着た人が私の横を通り過ぎたんですよ! その時は友達と一緒にいたんだけど、私しか見てないんですけど(笑)。これホントですよっ!

Q.最近、一番嬉しかったことは?

親友に、ひろみって子がいるんですけど、その子が「高校卒業したら一人暮らしは寂しいから二人で暮らそう」って言ってくれたのがスッゴイ嬉しかった! 私、あんまり友達とかいなかったんですよぉ、だから、そう言われた時は「嬉しい」って思った。

計画だけはいろいろ進んでるんですよ。でも私はレズじゃないですから! 普通に男の子が好きなんで安心して(笑)。

Q.いままでしたことの中で一番悪いことってなんですか?

反抗期の時に親に「ババア」とかいろんなこと言ったことかなぁ? いまはある程度は落ち着いちゃったけど(笑)。

Q.薫子ちゃんの好きな言葉は?

何文字熟語かなんかで、あれっ違ったかなぁ?「頑張ればその分、自分に跳ね返ってくる」って言葉。おばあちゃんによく言われて、「いい言葉だな」って思った。重みのある言葉だし、凄い好きな言葉!

Q.好きな芸能人って誰?

前はダパンプのISSAがスッゴイ好きだったんですよぉ。カッコよくって♥ だけど、いまはタッキー(滝沢秀明)!「キレイな目してんなぁ」って思って。タッキー、スゴイ好きぃ♥ 所(ジョージ)さんも好きだったんですけどぉ、いまはもう違う。私は気まぐれなんで(笑)。

Q.薫子ちゃんは、子供は好き?

大好きぃ! 名前付けるとしたら、男の子だったら「空人(そらと)」で、女の子は「リズム」! 「空人」ってちゃんと意味があるんですよ。空のような大きい心を持った人になって欲しいから。「リズム」ちゃんは、カワイイやと思って考えただけ(笑)。

Q.松澤空人かぁ、いい名前だなぁ。

(即座に)それはヤダッ!

Q.あ、すいません! 薫子ちゃんの将来の夢ってなんですか?

歌手! ジャネット(・ジャクソン)みたいに歌って踊れる歌手になりたいっ!

Q.じゃあ、プロレスのことを聞きますけど、薫子ちゃんはマネージャーになる前からプロレスに興味はあったんですか?

全くない!(笑)。なんか痛々しくて見てられなかった。でもいまはプロレス好きですよ。だけど、見ればわかると思うんですけど、やられてるのを見ると「痛~い」って、目ぇつぶっちゃうの(笑)。

Q.薫子ちゃん、プロレスファンってどう思います?

どうだろうなぁ? 薫子のこと応援してくれてる人はスゴイ嬉しいですね。「カオルコ!」とか言ってくれると「あいよっ!」って感じ(笑)。たまに「カオルコうざい!」って言う人もいるけど……。

Q.薫子ちゃん、FMWの魅力を見たことのない人に思いっきりアピールしてください!

う~ん、「私!」って一番はそう言いたいんですけどぉ(笑)、FMWは見に行って、自分が闘ってるみたいに選手と一体化できるし、一緒に汗だくになって応援したくなるし、スゴイ面白いよっ!

Q.FMWの選手以外で知ってるプロレスラーっている?

う~ん、ジャイアント馬場(笑)。あとは、あんま見たりしないんでわかんな~い。知ってるのはFMWと馬場さんと、あと大仁田厚とか。エヘヘヘッ(笑)。

Q.薫子ちゃんにとってプロレスってなに?

え~、なんだろ? 言葉でどう言ったらいいかわかんないけど"闘い"って感じ! 汗流して殴り合って「自分が一番強いんだ!」ってみんな思ってると思うし、なんか火花が散ってる、そういう熱いイメージがプロレスかなっ!

Q.薫子ちゃん、キャットファイトをやってみた感想を聞かせて?

痛かったぁ。痛いのは嫌なんでぇ、もう試合はしない……たぶん(笑)。試合前は「自分が一番強いんだぁ! 絶対負けないぞっ!」って思ってたんですけど、いざ相手が前に立つと、足が震えちゃって、そういうわけにいかなかったですぅ。

Q.エッチな目で見るお客さんも多いと思うんですけど、薫子ちゃんは、そういう目で見られるのは平気?

そういうのは「やめてくださ~い」って一言(笑)。エッチな目で見るのはダメっ! 私そういうキャラじゃないんで、草凪(純)さんを見てください(笑)。

Q.薫子ちゃん、初恋はいつ?

初恋かぁ……いつだろ? 覚えてない(笑)。

ARAI*KAORUKO

ARAI*KAORUKO



でも初恋って叶わぬ恋ってイメージがあるじゃないですか？　想ってるだけで終わっちゃって、せつないって感じ。

Q.薫子ちゃん、ファ、ファーストキスはいつだった？

ファー……？　なんか私って、小さい頃から人に懐かないんですよぉ。友達もできないし、あんまり話さない子で……って関係ないかっ（笑）。確か幼稚園の頃だったと思うんですけど、廊下かなんか走ってる時に、男の子とぶつかってケンカになったんですよ。なぜかその男の子に唇を奪われました（笑）。それがファーストキスかな。でも、それくらいの時期ってイタズラでそういうことやりたがるじゃないですか？　わざとぶつかってチュ～して相手を困らせるみたいな感じだと思うんだけど。

Q.う、うらやましい。思いきって聞いちゃいますけど、薫子ちゃんの初体験っていつなの？

えっ～、初体験ですかぁ？「処女で～す」とか言った方がいいのかな（笑）。ダメ？　じゃあ秘密ってことで！

Q.秘密？　聞きたいような、聞きたくないような。ところで薫子ちゃん、いまは恋してるの？

（寂しげに）恋はしてません！　これはホントですよ。いまは自分のやりたいことでいっぱいいっぱいなんで！（笑）。

Q.一番最近告白されたのはいつ？

全く、ず～っとないです。幼稚園とか小学一年とかが一番最近かな？

Q.あ、あのぉ、ボクと付き合ってもらえませんか？

えっ、それって告白ですかぁ？　アッハハ（笑）。はいっ、次いきましょう！

Q.はぁ～、ダメかぁ（タメ息）。でも薫子ちゃん、それだけのナイスバディだったらチカンとか結構遭うでしょう？

チカン？　あっ、高校入ってすぐの時に、電車でお尻触られたことがありました。あとは全っ然ないですよ（笑）。

Q.薫子ちゃん、いくらお金をもらえたらヌードになります？

いくら出されても絶っ対それだけはしないっ！　あんまそういうの好きじゃないしい、自分の生き方に反してる！（笑）。

Q.（残念そうに）そうかぁ。最後に個人的な質問なんですけど、最近、下半身の調子が悪いんですよ。どうしたらいいんですかねぇ。教えて薫子ちゃん？

えっ、下半身？　あっ、それならウチのおじさんがいいクスリ知ってるよ！　これっ！（と言ってなにやら薬を取り出す）。『プロマガンダF』っていうんだけど、これ飲めばすぐに元気になれるよ！

Q.ありがとう！（と言ってすかさず、そのクスリを飲み込むチョロ）。あぁ～、なんか効いてきた効いてきた！　あぁか、薫子ちゃん、一緒にどっか行こう！

ヤ、ヤッダ～（笑）。これからダンスの練習があるから、もう帰らなきゃ！

Q.（肩を落とし）ダ、ダメェ？

これあげるから元気出してっ♥（と、笑顔で『プロマガンダF』を手渡す）

Q.ありがと、薫子ちゃん（泣）。

あいよっ！　じゃあね、バイバイ！

【00年10月10日／東京・渋谷センター街近くの某ファーストフード店にて収録】





PROFILE

【あらい・かおるこ】昭和57年8月4日、東京都出身の現役バリバリの女子高生。血液型＝ＡＢ、身長＝１６４センチ、体重とスリーサイズは秘密。「これから痩せるんで見ててください！」だって。チャームポイントは「せまいデコ！」。産まれた時からキティラーだという薫子ちゃんの欲しいモノは「実用的なキティちゃんグッズ」。ちなみに行ってみたい国は、一度友達と旅行したシンガポール。好きなＴＶ番組は「笑う犬」で、よく読む雑誌は「ＶＩＶＩ」とのこと。部活では陸上（短距離）をやっていたという薫子ちゃん。「いまは、もう遅いけど、幼稚園の頃とかは学校内で一番速かった」らしい。本人は嫌がっているが、薫子ちゃんのキャットファイト、ボ、ボクは見たいです！

9/15 ➡ 10/14 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス



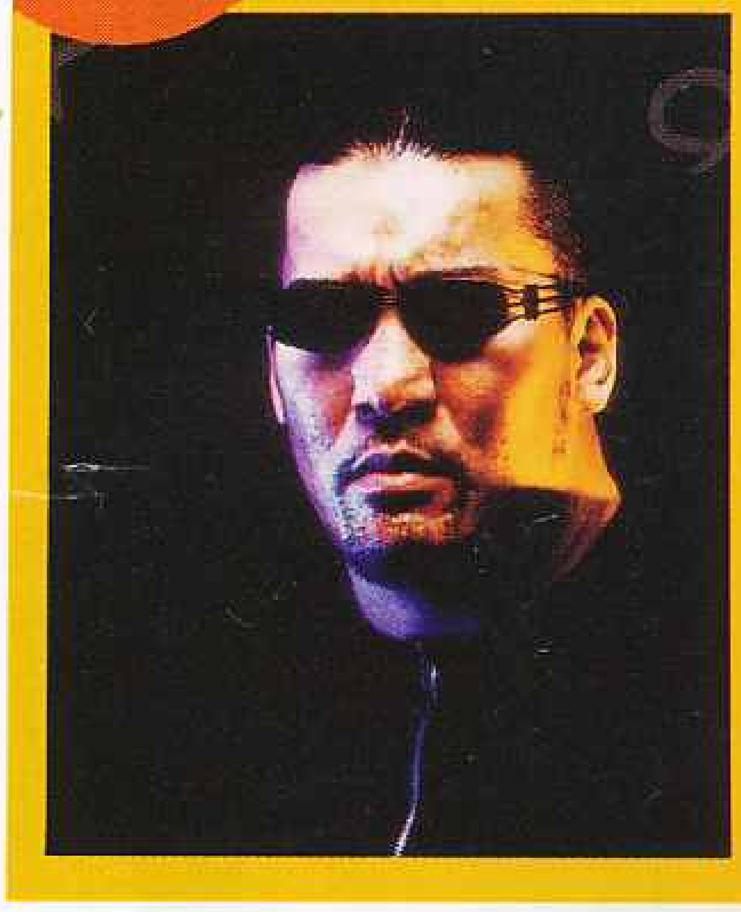
道はどんなに厳しくとも
笑いながら歩こうぜ!!
本誌はドラゴンを応援します。

10月号

先にお断りしておきます。毎回毎回、好評のドラゴン関係のニュースですが、今回はその超拡大スペシャルともいうべき「藤波語録」の特集があったため、いつもより少し少な目です。しかし！　これからもドラゴンの動向は、しつこく追い続けますのでこれからもよろしくお願いしま〜す。

編集長／堀江ガンツ　　助手／水戸泉、マッハ、珍

9/15 【新日本プロレス】幕張メッセ
蝶野、「破壊王vsドラゴン」に悪の提言



ドラゴンが飛龍原爆解禁宣言をするなど、決戦を1ヶ月後に控え、いろんな意味で盛り上がるドラゴンvs破壊王。そこへ冷水をブッかける男がいた。言わずと知れた"極悪バタフライ"蝶野正洋である。そしてその矛先は例によって例のごとく、ドラゴンへと向けられた。「藤波は前座試合の意味を分かっちゃいない。飛龍原爆なんて大技とんでもない。ボディスラムと逆エビで十分だ。テーマ曲だってもちろんナシ！　橋本だって当然、黒のショートタイツで挑むんだろうな」まったくもってごもっともとしか言いようがないのであった。

【つぼプロ】TFM　仲野&石川vs佐野&小坪で「これぞストロング・スタイル」という試合を見せつける。
【GAEA】文体　チーム・クラッシュが第2世代軍に全勝

9/16 【新日本プロレス】愛知県体育館
川田、新日のリングに上がり一言「メジャーだね」



全日のエース（本人否定）であるにも関わらず、新日との世紀の対抗戦スタート以来、「今から闘いのモードに入ったら疲れるよ」「プロレスとお笑いは似ている」等、ボヤキ、呑気発言に終始していた「煮えきらない奴」（by健介）こと、川田利明がこの日、遂に新日本のリングに上がった。ケロちゃんの呼びかけに応じ、敵地ながら「大・川田コール」の中リングに上がると、「ドームで健介を潰す！」と堂々宣言。いよいよ川田の心にも火がついた、と誰も胸をなで下ろした翌日、初の新日登場の感想を聞かれた川田は「満員でメジャーだね」と、またもや呑気発言。「俺が負けたら全日はインディーに成り下がる」と言っていた川田だが、心の中ではすでにインディーに成り下がっているのか……。

9/17 【アルシオン】後楽園ホール
浜田文子、トーナメントZION優勝



デビュー当時からアルシオンのエースとして期待されていた浜田文子が、遂にアルシオンの2大トーナメントのひとつであるＺＩＯＮ（もうひとつはARS）に優勝した。決勝戦の相手は、2年前にデビュー5戦でZIONに初出場したときに、決勝で対戦し完敗を喫した吉田万里子。文子はこの因縁の相手を最後は、父親であるグラン浜田153センチ（ジニアス・談）譲りの浜ちゃんカッターで見事しとめた。関係ないけど、浜田文子って「シェイプアップ乱」に似てない？　あの眉毛と巨乳。

【新日本】この日が誕生日の蝶野、リング上で越中に「ハッピー・バースデイと言え」と強要　【FMW】ディファ有明　冬木、中山香里にフォール負け。　【全女】ディファ　"真・実力日本一"伊藤薫が豊田真奈美を破り、遂に赤いベルトを腰に巻く。

9/18 【みちのくプロレス】ディファ有明
ノアとみちプロが協調路線



10・8みちプロ有明大会でノアの丸藤との対戦が決定したサスケ社長が、ノア事務所を訪れ三沢社長に丸藤貸し出しのお礼の挨拶に訪れた。両社長は正式に会うのは今回が初めて。しかも、30人近い選手がついてきた三沢社長に対し、片やサスケ社長は選手の離脱に悩む身。一見正反対の2人であるが、「下ネタ」という揺るぎない共通言語のおかげで（？）初対面とは思えぬほど打ち解け、早くも友好ムードとなった。こうなると期待されるのは今後の交流。サスケ社長が望む「新旧タイガー揃い踏み」は実現するか？

9/19 【新日本プロレス】
ドラゴン、破壊王に黒タイツ指令



再起に賭ける意気込みがイマイチ見えない破壊王に、ドラゴンのイライラが爆発した。「橋本は第1試合の意味が分かっていない。これは新人と同じ気持ちになれということだ。テーマ曲もガウンもいらない。トランクス1枚が新人。自分をそこまで捨てないと……」なんと、自分が4日前に蝶野に突っ込まれた"黒い提言"とまったく同じ事をぶちまけるドラゴン。「自分のことは棚に上げる」という、まさにドラゴン・イズムの真骨頂ともいうべき発言だろう。しかし、ドラゴンがここまで黒タイツにこだわることは他の理由も考えられる。黒のショートタイツと前座のような試合……まさか！　破壊王を周囲に気付かれぬように「無我の世界」に引きずり込もうというのか……怖い！

【全日本】全日事務所　大仁田、10・28武道館出場決定

9/20 【新日本プロレス】上野毛・新日本プロレス道場
破壊王、炎の槍特訓!「藤波社長を引退に追い込む!」



ドラゴン、またもや墓穴を掘る！　前日「橋本はわかっちゃいない！」等、散々文句をつけたのが災いし、破壊王の心に火をつけてしまった。「藤波社長を引退に追い込むような試合をするよ」なんと、あれだけ引退を留意した見返りに逆に自分が引退に追い込まれたら、「生涯現役」に執拗にこだわるドラゴンとしたらやってられないだろう。そしてさらに破壊王は確実にドラゴンをしとめるために、なんと炎のヤリ特訓まで開始。これも今考えれば、ドラゴンのグーパンチ対策だったのか？

9/20 【シュートボクシング】後楽園ホール
村浜武洋、SBに現る



村浜武洋が、古巣のSBの後楽園ホール大会に松井厚選手のセコンドとして来場した。しかし、いまやえべっさんと一騎打ちを行うなどすっかり大阪プロレスの一員となっている村浜に対し、なぜかかつての後輩・宍戸大樹がリング上の挨拶で対戦要求！　近く村浜は蝶野ばりに宍戸をストーカーで訴えることを検討中……という話はまだない。

【ＰＲＩＤＥ】高田道場
サク、「つまらない」とハイアン戦拒否



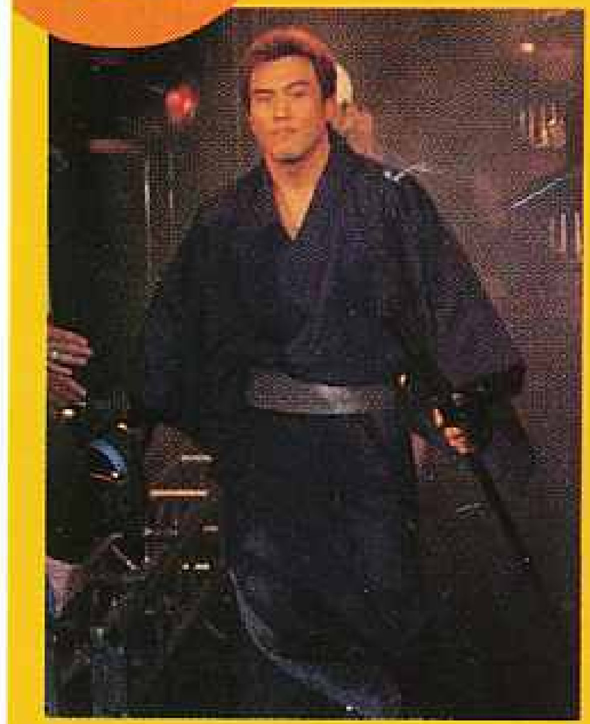
サクの『PRIDE11』出場が決定した。まだ対戦相手未定の段階での参戦発表だったのだが、噂されていたハイアン戦を拒否したことが明らかに。ハイアンにバーリ・トゥードの実績が不足していることが要因らしいが、それじゃあ、ハイアンに見事な完敗を喫した石澤の立場はどうなるんだろう…。後日、サク対シャノンの一戦が決定しました。

9/21 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン、炎の槍特訓に激怒！



いつものようにマット界の動きを東スポで知ろうとしたドラゴンの目に飛び込んできた破壊王が炎のヤリ特訓をする姿。これを見たドラゴンは「俺が見たいものは、こんなモノじゃない!」と、練習にまでいちゃもんをつけたが、自分はというと「今あわててコンディションを作ってます」発言から察するに、何もしてなかった模様。それじゃあ、破壊王の蹴りで硬直させられるのも止むなしか。

9/22 【UFC-25】ニューオーリンズ大学レイクフロント・アリーナ
近藤有己、鮮烈なるUFCデビュー



ティト戦が流れ急遽、アレクサンドレ・カフェ・ダンタスとの対戦となった近藤。しかし近藤はパンクラスファンにとって、忌まわしいことこの上ない着流し姿で入場しながらも、終始落ち着き払ったファイトで見事、逆転KO勝利。この勝利が高評価を受け、年内にもティト戦実現の可能性があるらしい近藤。極めて実現困難なヒクソン戦へとりあえず一歩前進。

9/24 【パンクラス】横浜文化体育館
鈴木みのるはこのまま「風になる」のか!?



近藤がUFCから凱旋、謙吾が初勝利、山宮がハイアン狩りを宣言したりと、話題豊富だった横浜大会。そんな中、船木と共にパンクラスを引っ張り続けて来た鈴木みのるが引退の危機を迎えている。まったく無名のデニス・ケインという選手に敗れ、おまけにまたもや故障を抱えてしまった鈴木に、船木と尾崎社長が引退を進言。みのるはこのまま「風になる」のか？

【FMW】月寒グリーンドーム
若松、FMWに街宣車で乗り込み(!?)



あの将軍KY若松が先の後楽園大会に続いて「宇宙パワーが最もよく集まる場所」（若松・談）である北海道にも姿を現した！　今回はトレードマークの拡声器でがなるだけでは飽きたらず、街宣車で登場！　どんなアジテーションをするかと思いきや「命が大事だ！スパイクタイヤを履かせろ!」と交通事故撲滅キャンペーン。ふるさとを愛する若松であった。

9/25 【プロレスリング・ノア】大阪府立体育会館第2競技場
打倒、プロレス！ 青柳館長が三沢に参戦直訴



果てしなき「打倒、プロレス」ロードをただひたすらに、走り続けるご存じ青柳館長が、「ノアはコスチュームが変わっただけ」と無闇にかみつき、この日三沢社長に参戦を直訴。早速10・11愛知大会への「テスト参戦」が決定した。しかしこの「テスト参戦」ということに、新日本、新格闘プロ、FMW等でメインを張り、WWFマニアツアーにも参加（居合い抜き）している館長は、プライドを傷つけられ激怒。対戦相手に「相当な覚悟」で挑むことを要求した。果たしてこの抗争、看板を賭けて対戦→和解後、ノア維震軍結成となるのか？

【全日本プロレス】全日本プロレス事務所　天龍、全日本入団

9/26 【新日本プロレス】毎日放送東京支社
下ネタ、ダジャレ、破壊王完全復活！



【FMW】後楽園　ハヤブサと冬木が60分フルタイムで、奪った本数を競う"アイアンマンマッチ"（UNWの同名の試合とは関係なし）を行い、3-3の引き分け。11・12横浜文体で時間無制限で決着戦が決定。　【FMW】後楽園　雁之助、AV出演で家庭崩壊危機が発覚。

復帰を2週間後に控えた破壊王が角田信朗のラジオ番組にゲスト出演。"1・4"以来、苦悩する破壊王ばかり見せられてきたが、この日は、連発する下ネタ、豪快にハズすダジャレ、と破壊王本来の魅力が爆発！　やはり破壊王はこうでなきゃならない。

★

「角田信朗の格闘魂（スピリッツ）」毎日放送で毎週土曜0時30分～1時まで放送。

毎週、主に格闘家・プロレスラーのゲストを招いく、角田入魂の新番組。今回の破壊王の回を聞く限り、これからも大いに期待できそうである。必聴！

9/27 【IWAジャパン】原宿
エルビス・プレスリー参戦決定!?



1300枚のCDを買い取ってくれたサスケのために10・9みちのく新宿厚生年金会館で熱唱はしたが、その脅威的な売れ行きの悲惨さが伝説となっている浅野社長のデビューCD。その売れ残り一万枚を買い取る代わりにプレスリー（正体はホンキートンク・マンということはとっくにバレバレ）を連れてくると豪語した浅野社長の2丁目劇場は絶賛続行中！

9/28 【ＪＷＰ】ＪＷＰ事務所
10月からJWPがプロダクション化



閑古鳥の後楽園ばかりが話題となるJWPが生き残り策として、これまでの"団体"から、JWPプロデュースとなって選手を募って興行を手掛けていくことが、この日発表された。まぁ、要はWAR状態ということか。とりあえず10月～12月のシリーズは最近壊れている田村よっちゃん（インチキ、ロック様は誰か突っ込まないのか）、井上貴子らを迎えて開催する。

9/29 【タイタン・ファイト】フジタヴァンテホール
ヤマケンが遂に始動！



素手での顔面打撃で話題になっていた「タイタンファイト」が遂にそのベールを脱いだ。どんな凄惨な内容になるかと思いきや「最大限に安全性を考慮」するため、戦場は「タイタン」と呼ばれる舞台。そして時間切れ、リングアウト（タイタンアウト？）は両者失格という画期的すぎるルールで、不戦勝を続け1戦1敗ながら3位になる選手も出現。

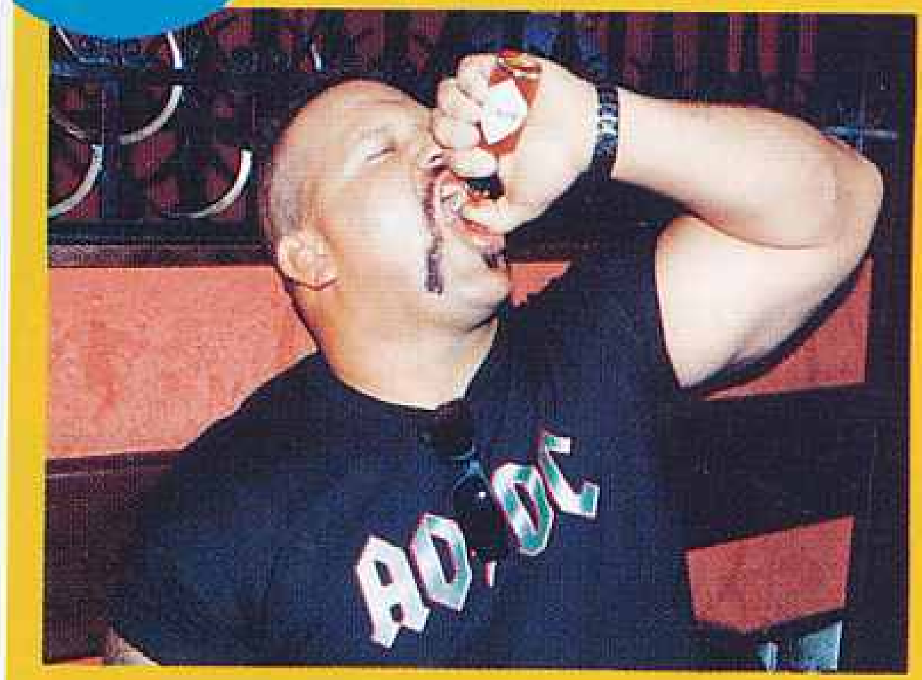
9/30 【全日本プロレス】キャピタル東急ホテル
G・馬場デビュー40周年記念パーティー



9月30日、馬場さんのデビュー40周年記念パーティーが開かれ、そこで来年の1月28日、東京ドーム大会の開催が発表された。このパーティでなんといっても驚かされたのが、今や全日本事務所のシンボル、等身大馬場フィギュアが一体ではなく、複数あるという事実。タキシードの馬場さん、ガウンの馬場さん、タイツの馬場さん……本当は何人いるのか……。この日発覚した「正平寺」プロジェクトに「馬場大仏」がまつられるのかと同時に気になるところだ。

【全女】後楽園　渡辺智子が中西百重を破り、オールパシフィック初防衛に成功　【全日】馬場さんのお寺、「正平寺」建設が決定

10/1 【ウォリアーズ・ツアー】渋谷ロック・ウエスト
アニマル、スモーノブに激怒!



アニマル怒る！　ツアー最終戦を終えたウォリアーズがウォリアーズを囲む会に来襲。終始御機嫌にファンの注文に答えるアニマル&ホーク。しかし、そのゴキゲンなアニマルを激怒させる男がいた。本誌・スモーノブである。アニマルはスモーがアーリー・ウォリアーズお約束の「タバスコ一気飲み」をリクエストすると、試合でも見せないような厳しい顔に変貌。なぜ？　その疑問はトークコーナーにて解き明かされた。「俺は馬鹿げたギミックが大嫌いなんだ」。そのギミックで成り上がったのに……。

【バト】後楽園　松井大二郎が日高と一触即発に。そして11・26バト駒沢に松井参戦決定。　【闘龍門】ディファ有明　マグナムTOKYO、187日ぶりに復帰

10/4 【新日本プロレス】上野毛・新日本プロレス道場
健介、10・9の立会人に長州と天龍を指名


9日 川田戦立会人に
長州と天龍指名
健介
今世紀最後の大一番いよいよヒートアッ
猪木VS馬場の代理戦争

30年越しに実現した「新日本vs全日本頂上対決」がこの二人でいいのか、という声も多い健介vs川田。この一戦の立会人に健介はお互いの師匠である、長州と天龍を指名した。「この闘いは猪木さんと馬場さんの代理戦争だ!」と言っていたはずの健介であるが、やっぱりこの闘いは猪木vs馬場でも新日本vs全日本でもなく、長州vs天龍、ジャパンvsWARであることを、はからずも露呈してしまった。

【掣圏道】アルティメット・ボクシング
掣圏道が月1回、東京で見れる!



押忍！「SAWでは完成されたものでしか納得できないというプロ意識から、アルティメットボクシングを再度構築させ、より完成度の高いプロ試合をお送りするため、120人からの外人選手を招聘し、地方興行や道場での試合を繰り返して理想どおりの試合形態に持っていく計画を実行しておりました。このたび選手間にも完全に闘い方が浸透し、掣圏道としてより完成されたものを提供できる環境が整いましたので、東京で毎月1回の試合をスタートいたします。毎回世界トップレベルの闘いを、東京の皆様にお送りすることができるようになりま～す」。という掣圏道からのお知らせでした。

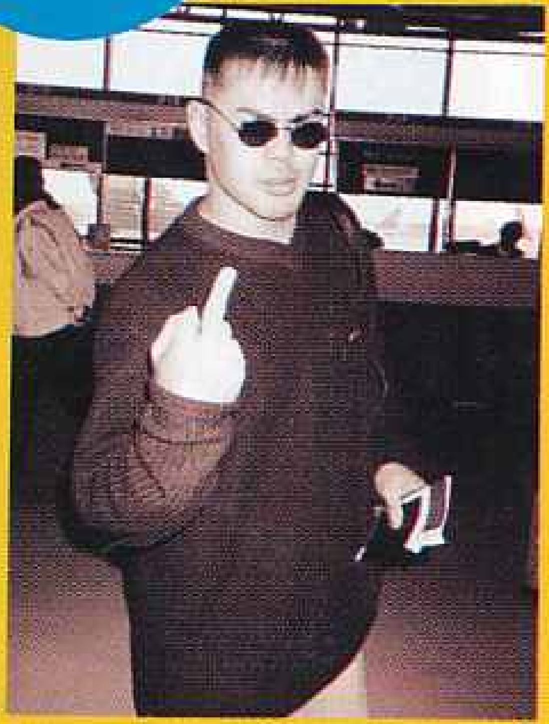
10/6 【プロレスリング・ノア】ディファ有明
ベイダー、ノアに強行参戦!



全日本から「まだ契約が残っている」と指摘されたベイダー（本人は「契約は終了している」と主張）が、ノアへの参戦発表記者会見を開いた。ひょっとしたら、裁判沙汰にもなりかねないナーバスな問題だが、当事者であるベイダーはと言うと、契約問題などノー問題といわんばかりで「ノアには闘い甲斐のある選手が多い」という理由でノア参戦を決意。全日はどう出る？

【全日本】渕、46歳にして携帯デビュー

10/7 【WWF】新東京国際空港
TAKAみちのく、緊急帰国



TAKAみちのくが緊急帰国！　TAKAは翌8日、みちプロ有明大会にスーツ姿で現れ、自身が海援隊道場で育てた選手をみちプロに送り込むことを宣言。そしてなんとサスケ社長とガッチリ握手。みちプロに久々に明るい日が差しこんだ。ちなみに脳天に明るい日が差す本誌・新弟子以下、幸田珍は空港まで行きながらTAKAに会えないというダメっぷりを見せたことを付け加えておく。

10/8 【新日本プロレス】後楽園ホール
いよいよ明日!!



"世紀の一戦"の前夜祭というからには、きっと『レッスル・マニア』のファン・フェスのような豪華なレセプションでも行うかと思ったのが、そこは新日本。ステージ上に長机を置いただけ、というシンプル・イズ・ベストな舞台を設置し、ひたすら選手がコメントを述べるという、なんのひねりもないイベントをブッ放してきた。それでも後楽園は満員。脱帽だ。

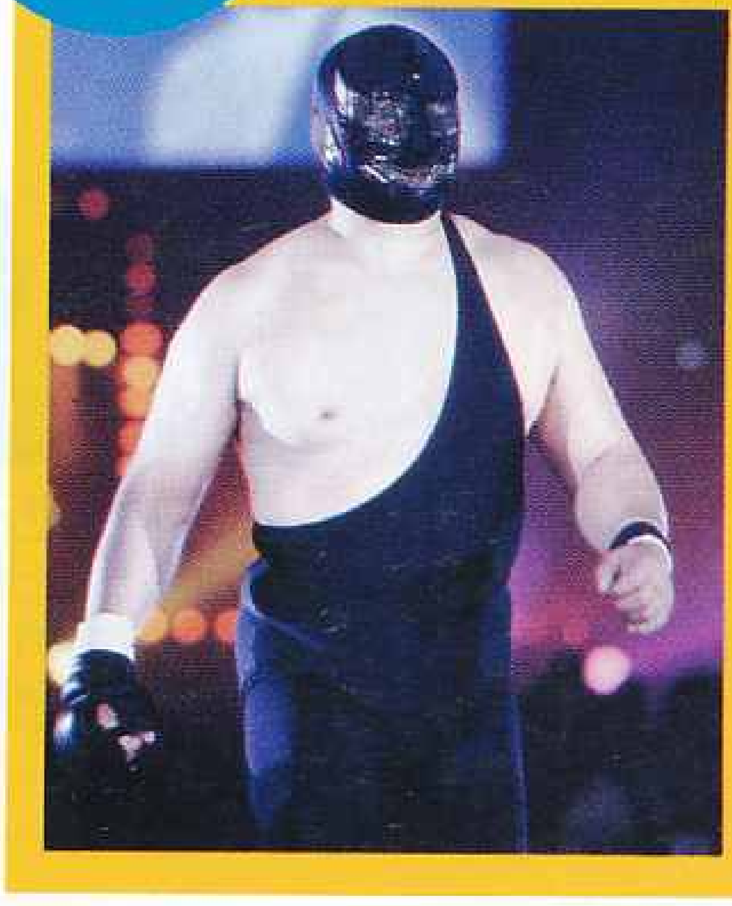
【WCW】シドニー　元IWGPジュニア王者、フーベンツゥ・ゲレーラが麻薬使用による錯乱状態で全裸のまま逮捕。

10/8 【全日本プロレス】後楽園ホール
"最後のU"(?)カッキー、アッサリ全日復帰



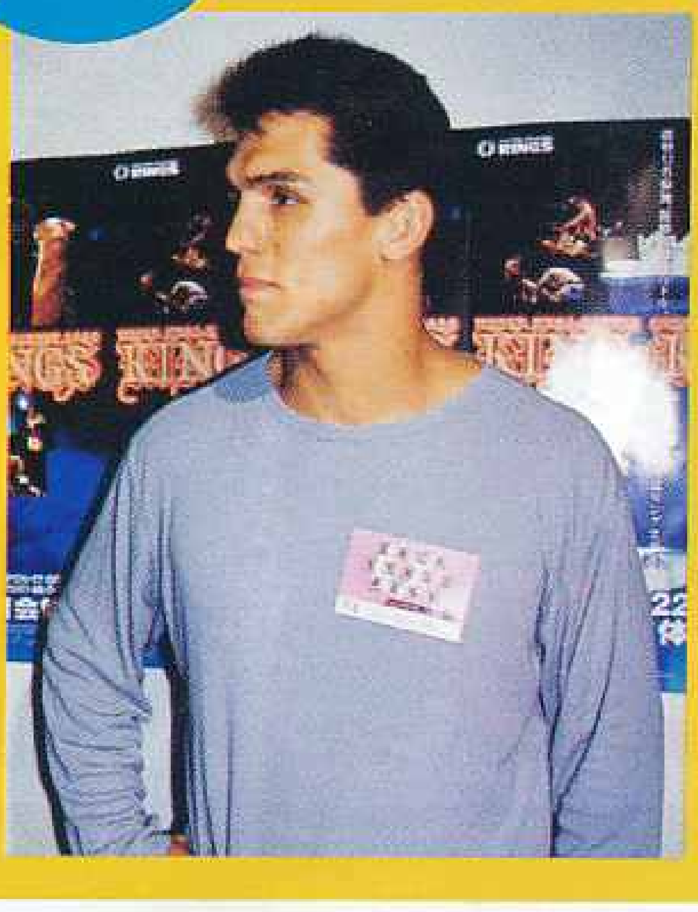
「アスリートとしての刺激あるトレーニングを続けるため」にノアを離脱し、「格闘技団体を含めたすべてのプロレス団体が選択肢」のハズのカッキーが、いまやインディ大集合のFFF状態の全日本になぜか復帰。しかもご丁寧に、UWFファンの神経を逆撫でするがごとく「UWFメインテーマ」で入場し、出戻りの理由も明確にせぬまま武道館大会参戦をアピールした。まぁ、どこに上がろうがカッキーの勝手だが、UWFから最も遠いところにいる人間が「UWF」を旗印にするのは、いいかげんいかがなものかと思う次第なのだ。

10/9 【新日本プロレス】東京ドーム
今月の大ハズレ



おそらく単なる思いつきで「パートナーはミスターTだ!」と言ったのが、思いのほか話題沸騰してしまい、言った本人である蝶野もきっと困ってしまったのであろう、今回のミスターT問題。天龍から田代まさしまで、さまざまな説が飛び交ったが、フタを開けてみたら、後藤がマシンの格好で入場するという。6万人がボー然とする意味不明なオチ。さらに試合後、「マシンはワシじゃ!」と怒り狂う平田などをみると、「何度も言うけど、ズレてるのかな」とアントン風に新日の行く末を案じてしまうのであった。

10/9 【リングス】国立代々木第2体育館
フランク・シャムロック突如現る!



格闘技セミナー開催のために来日していたフランク・シャムロックが、KOK開幕戦の会場に現れ前田総帥や他の選手と談笑。さらにパンクラス参戦時から仲のいい柳澤のセコンドにつくなど、昨年4月の田村戦以来、日本マットからはご無沙汰しているが、元気なところをみせた。気になる今後は「サクラバと闘いたい。闘えば10分で勝つ」とコメント。ギャラの問題はともかく、なんとしてでも実現してほしいカードである。

10/11 【PRIDE】帝国ホテル
猪木詩集出版パーティー「馬鹿になれ」



「元気があればなんでもできる！ 勢い余って詩を書きました」という、アントンの挨拶も抜群な"闘魂詩人"の衝撃デビューを祝うこのパーティ。とにかく豪華、とにかくド派手であった。帝国ホテルで一番大きいスペースを借り切って、アントンは神輿に乗って入場。著名人や大物レスラーが多数駆け付けた。そんな中、ひっそりと来場していたのが我らがドラゴン。『PRIDE』系の選手がリングに上がりスポットを浴びる中、「生涯現役」のドラゴンは紹介すらされず終い。社長自ら駆け付けたドラゴンの立場は……。

【ノア】愛知県体　小橋が大森に失神KO勝ち。

10/13 【レスリング】
"人類最強の男"カレリン、引退を表明



"人類最強の男"カレリンがシドニー五輪で12年ぶりに敗れ、銀メダルに終わったのを機に現役を引退。ロシア下院議員に専念することが明らかになった。「時間に劣化されない」数々の記録と伝説を残したカレリンの引退は実に残念。それにしても、シドニー五輪が終わったいまだからこそ、現役時代のカレリンが日本のプロのリングに上がり、リングスルールで闘った「前田日明引退試合」がいかに凄いことだったかと改めて実感する。今日帰ってもう一度ビデオで見直すことにしよう。

10/14 大空のサムライ逝く



「撃墜王」「世界のエース」の異名を持ち、世界中のパイロットの憧れの的であった坂井三郎さんが先月亡くなられ、この日「お別れの会」が行われた。中学生時代から坂井さんに憧れ、生前の坂井さんに「息子」と呼ばれたリングス総帥、前田日明も弔問に訪れ、弔辞を読み上げたが途中で言葉にならず、あの前田日明が一目はばからず号泣した。亡くなられる前、「もう、休んでいいか」という最後の言葉を残したという坂井さん。これからも著書などを通じ、世界中のパイロットの憧れであり続けるだろう。

番外編 【K−1】フジテレビ
K−1WORLD GP2000、組み合わせ決定!



K−1 GP2000

- アーネスト・ホースト
- ミルコ・クロコップ
- フランシスコ・フィリョ
- ジョロム・レ・バンナ
- ピーター・アーツ
- シリル・アビディ
- マイク・ベルナルド
- 武　蔵

K−1 WORLD GP 2000の抽選会がフジテレビで行われ、抽選とはとても思えないほど、因縁のカードばかりが1回戦で実現する、K−1の頂点を決まるのに相応しい組み合わせとなった。バンナは10月8日（仏時間10月7日）に交通事故を起こし来日できず、病院からの電話での参加となった。ところでこのページ的には、ハセキョーの写真がぜひともほしいところだが（個人的にもほしい!）、取材に行った幸田珍が撮ってきた写真がピンぼけ！ あ〜あ。

番外編 【PRIDE】
"喧嘩500戦無敗"ハイアン、500勝1敗に



あのハイアンが喧嘩で負けた！ ブラジルの柔術大会の会場で、以前から確執のあったヴァリッジ・イズマイウに対して、酔っ払ったハイアンが背後から襲いかかったらしい。しかし、イズマイウに冷静に攻撃をかわされギロチンチョークで締め落とされ、失神したという情報だが、これでハイアンに対戦表明していた二瓶組長（詳しくは前号の紙の新聞参照）は、闘わずして『喧嘩500戦無敗』の肩書を死守！ ハイアンは『500勝1敗』の肩書となってしまったわけだが、西武ドームで見せた、あの狂犬そのもののキャラクターは次の来日時にも健在であってほしい。

番外編 【ReMix&L−1　2000】
初の女子総合格闘技に挑む二人の巨乳！ あなたが観たいのはどっち？



注目は、やはり一般マスコミ同様、桜庭あつこ！ 本誌30号でのインタビューは、着用スパッツプレゼントの大反響とは裏腹に「どうせ売名行為だろ」の冷ややかな声また声。格闘技に関しても都内某所の総合系ジムで受け身の練習を始めたばかり…。しかし、その話題性も相まってPPVでの生放送が決定。色んな意味でリミックスの牽引車的な存在であることも否めない事実だ。勝敗なんてどうでもいい。12・5はジャージの下に隠された戦闘用ボディ（?）とラウンドガールのP-chicksを要チェック！（マッハ）



11・22、代々木で行われるL−1。大会名も2000年に合せ微妙に『L−1 2000』と変更しリミックスを迎え撃つ。話題性の面でリミックスに押され気味の感は否めないが、これからの巻き返しに期待。こちらの注目は、微妙なフォルムがマニアには堪らない、闘う女社長・風間ルミ！ 風間社長の公式HPによると19日現在対戦相手は未定だが、某蛇の穴で某人間風車氏から直接指導を受け「こんな返し方があったんだぁ」とコメント。察するに総合系の練習にも余念がない様子。早く見たい、社長のVT!（マッハ）

“オレ流” な生き方を模索中の水戸泉が「紙プロ」の落合を目指す

無気力!
無関心!!
無愛想の三冠王
水戸泉(仮)の

オレ流 読者プレゼント

先月号の応募ハガキの少なさに、さすがに危機感をちょっとだけ感じてしまい、なりふり構わず、集めまくった優良プレゼント商品多数！　記憶よりも記録に残る読プレを目指します。

抱いて寝たくなる程の愛しい映像達！　見てみっ！



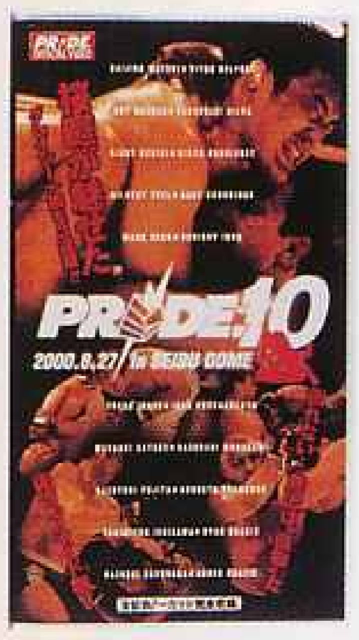
ビバ！　ルチャシネマ3本セット
映画マニアの間でも熱狂的なファンを持つ究極のバカ映画が遂に発売！　しかも限定発売！　ここで手に入れないと、二度と見れないかもしれないぞ！　金を出してでも見たい人は、インターネット（http://www.dvd-shop.co.jp）を要チェック！【ジェットリンク提供】
3名様



ダン・ヘンダーソン！　田村!!　前田!!!
直筆サイン入りKOKビデオ 3本セット
10・9代々木大会で、日明兄さん、田村、ダン・ヘンダーソンからサインを貰ってきたチョロの私物を強奪！　記念すべき第1回目の開催となった昨年のリングスKOKトーナメントを完全収録した3本組！チョロに遠慮することなくガンガン応募しろ！【チョロ提供】
1名様



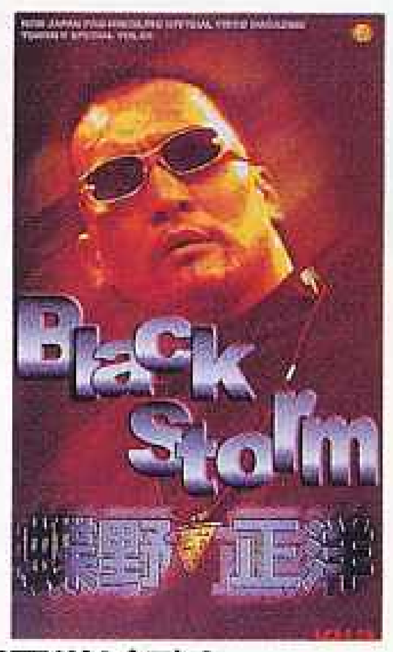
『PRIDE10』DVD
通常の実況＆解説に加えて、浅草キッドとサダハルンバによる特別解説、実況なしモードの3種類の音声に加えて、おまけ映像まで付けときながら、ノーカット完全収録、しかも￥4800の低価格！【パイオニアLDC提供】
3名様



『PRIDE10』ビデオ
ボク等にとって、2000年の夏の一番の思い出となった『PRIDE.10』が早くもビデオ化！　一家に一本！　お問い合せは、メディアファクトリーカスタマーセンター（TEL03-5469-4880）まで。【メディアファクトリー提供】
1名様



FMWビデオ
98年から99年5月までのエンターテイメントプロレス誕生前夜の激闘を完全収録。大仁田も出てるん邪！　プロレスファンの登竜門、チャンピオン東京店のレンタルチャートで二ヶ月連続1位を独走中の話題作！【FMW提供】
2名様



蝶野正洋ビデオ
究極のハイペースで蝶野の新作ビデオがリリースされ続けるのは、ズバリ言って、蝶野のベシャリとアクションが最高にクールであり続けるからこそ！　ファンならずとも黒に染まることは必至です！＆必見！　【ヴァリス提供】
2名様



グレートムタビデオ
現在、WCW遠征中の武藤＆ムタ。ムタがどうしても見たいなら新作で見とけっ！　新日の映像作品をリリースしまくるとっても偉い会社、ヴァリスの新作リリース情報は（http://www.valis.to）でチェック！【ヴァリス提供】
各2名様

今、デストロイヤーブームが秘かに浸透中!

MR.デストロイヤーTシャツ



サイズL ￥3000
サイズL ￥3000

携帯ストラップ



￥750

ファスナーマスコット



￥300

お茶目＆超マストなデストロイヤーグッズが遂に登場！　ボク等はこんなグッズの登場をずっと待っていた！　さりげなく、みんなに見せびらかそう！　お問い合せは、Tシャツ（イングラム　03-5823-0033）、小物（坂本文具 03-3876-1331）まで。【イングラム提供】
各3名様

秋でもTシャツが好きっ♥

各¥4900





サタンアルバイトTシャツ&『PRIDE.11』ポストカード
大阪でしか配布されなかったレアなポストカードと、大阪のカリスマショップ、サタンアルバイトが手掛けた『PRIDE』Tシャツをセットで！ Tシャツは共にサイズM／L／XLで黒と白の2色展開で10・31販売開始！ ドリームステージ（03-5775-5700）とサタンアルバイト（06-6241-9636）で通販可能。 【ドリームステージエンターテインメント提供】





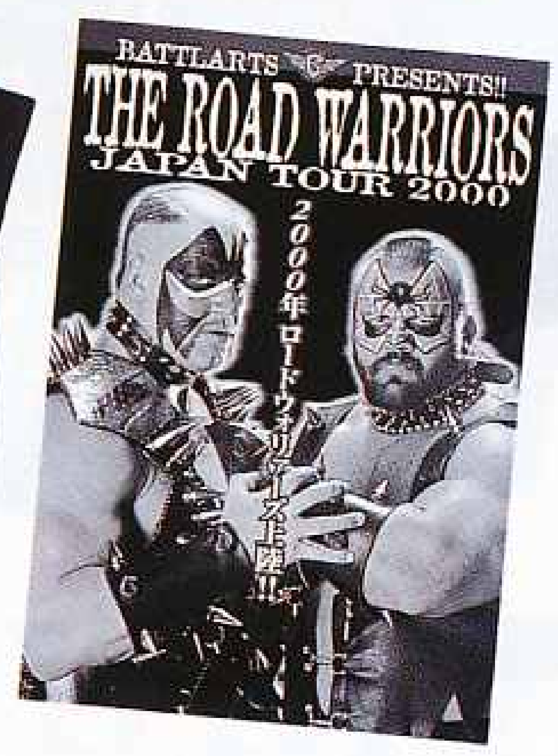
もう一丁！
高田道場Tシャツ&高田直筆サイン色紙
以前の読プレでも登場し、大反響だった高田道場Tシャツが再度登場！ さらに、ボブチャンチン戦5秒前のノブ兄さんの直筆サイン色紙を付けて、セットでどうだ！ 高田はもちろん、サクだって着てるTシャツをこの機会に是非ともどうぞ！
【高田道場提供】

セットで 2 名様



ダブルインパクトTシャツ
バトラーツの会場で大人気御礼だったTシャツは、本誌の読者ならみんな大好きなはずのIVYブックスが作成！【バトラーツ提供】

1 名様





ロードウォリアーズ
直筆サイン入り
Tシャツ&パンフレット
暴走戦士本人達から、しっかりサインをもらって来たぞ！それだけでもお腹一杯だと思うが、パンフも持ってけ！
【バトラーツ提供】

各 1 名様

バンバンビガロ超限定Tシャツ
ビガロ自主興行Tシャツ。オレンジの方は関係者限定Tシャツだったので、最初で最後の入手チャンスです！【バンバンビガロ提供】

各 2 名様



アレクAO／DCTシャツ



¥3500（税込）

高田延彦"アイアム・プロレスラー"Tシャツ



¥3800（税別）

オーちゃんTシャツや、カレリンTシャツでお馴染みの井上きびだんごさんが、新作をリリース！ 高田のTシャツは完全限定1500枚で本日（10・26）発売！ アレクのTシャツは都内プロレス店で絶賛発売中！ 購入希望者はSRS−DX通販専用ダイヤル（0570-007800）まで、もっと詳しいことはSRS−DX本誌をチェック！【井上きびだんご提供】

各 2 名様

読書の秋ダーーーーーーッ！



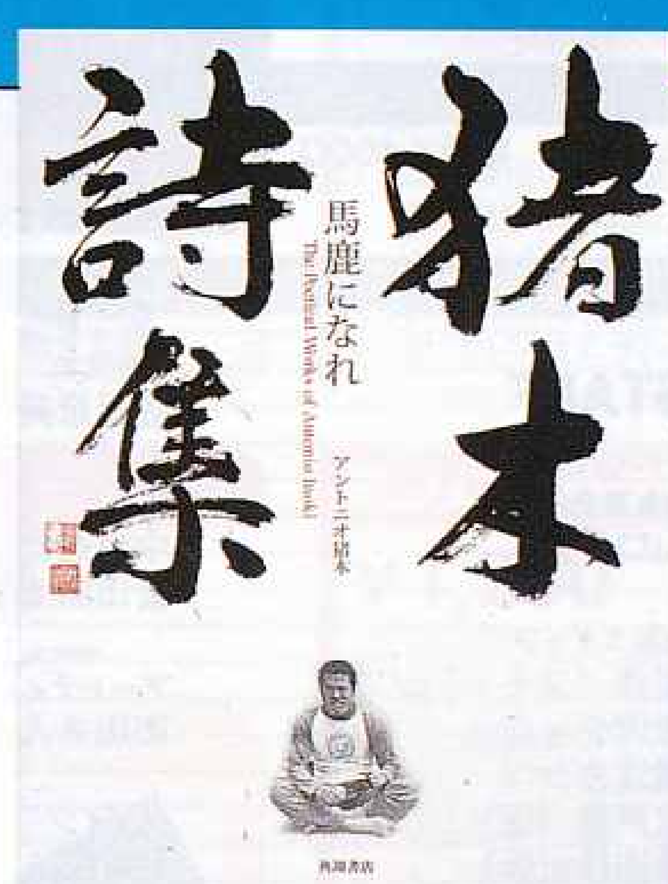
金満!! 中央競馬
日曜日の後楽園ホールに行くときには、ついでにこれを持ってウインズにも行っとけ！ 競馬マニアの間で重宝されている競馬本の第4弾！ ¥1800は決して高くない超濃密な競馬本です。
【エンターブレイン提供】

3 名様



殺人心理
いくら『紙プロ』読者とはいえ、さすがに知っているであろう、多数の有名殺人事件を徹底解剖。本誌でも大活躍中のカメラマン、森"モーリー"鷹博さんが、こんなに社会派な一冊でも撮影を担当。凄ェ！ 【アスキー提供】

10 名様



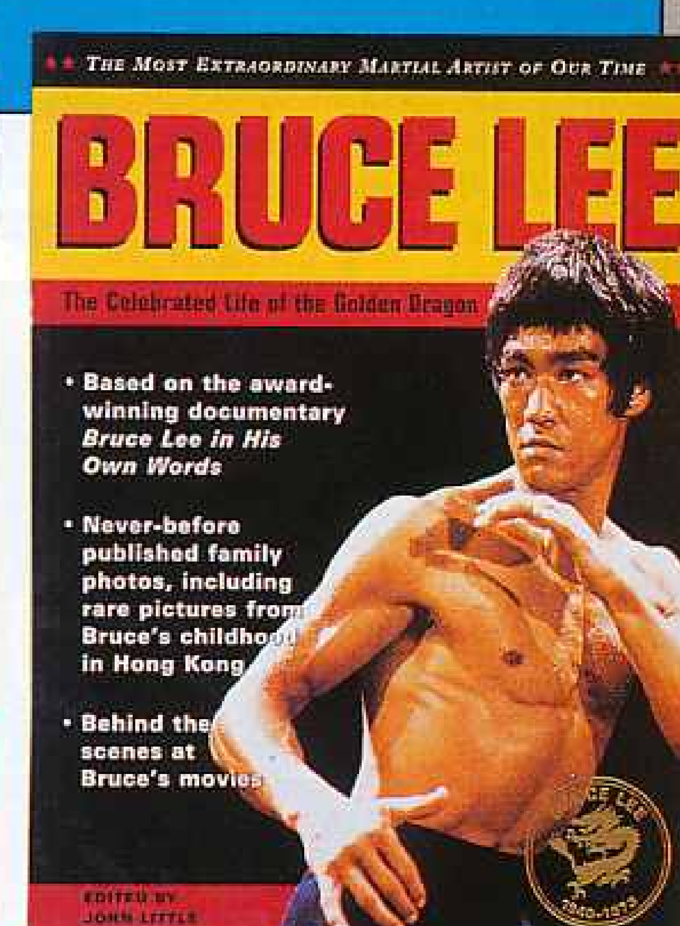
猪木詩集
とにかく、ダマされたと思って読んでもらいたい大型詩人のデビュー作！ 馬鹿になれというキャッチコピーだけで、すでにお腹が一杯状態。とにかくここでは語りきれない一冊なのです。読めんのかーッ！ 【角川書店提供】

5 名様



猪木語録
元気ですかーッ！ 98年4月4日の「引退試合」から、今年の8月27日『PRIDE10』までの、素敵すぎて困ってしまうアントンのコメントを完全収録。迷わず読めよ、読めばわかるさ！
【メディアファクトリー提供】

10 名様



ブルース・リー写真集
ブルース・リーの写真集の決定版が遂に日本上陸！ ブルース・リー夫人が秘蔵写真を提供した唯一の写真集です！ ¥2800で全国の洋書店で販売中。お問い合せ先電話番号（03-5437-0171）。
【タトル出版提供】

3 名様

サクからWWF、仮面天使までを網羅したフィギュアの群れ！



各2名様

ロゼッタフィギュア
初の女子プロフィギュア！　細部にまでこだわった着色バージョンは350個、パールホワイト版は150個の限定品！　問い合わせはショットガントイ（03-3315-4161）まで。【レッスル夢ファクトリー提供】



5名様

春一番フィギュア
いつかは出る予感はしてたが、遂にこの人のフィギュアが登場！　アントンのフィギュアと並べて飾れ！　飾れば、わかるさ！　それじゃあ、買いますかーッ！【キャラクタープロダクト提供】



5名様

桜庭和志フィギュア
ファイヤー！　サクのニューフィギュアが登場！　手と足が着脱式で、ジャンピングとスタンディングの２つのポーズが楽しめる！　ということは２つ手に入れるしかないでしょ！と思ってる方の為に、黒髪と茶髪の２種類が発売中！ファイヤー！　【キャラクタープロダクト提供】



WWFスマックダウンシリーズ
定価・各￥1280



トラッシュトーキングステージ
定価￥4500

このシリーズの人形をトラッシュトーキングステージのリングに上げるとリングの上で雄叫びを上げるぞ！　商品のお問い合せ：株式会社やまと（東京都台東区蔵前２－３－４　ＴＥＬカスタマーセンター03-3865-8211）

各2名様



BASH AT THE BEACH WRESTLERS
定価・各￥1400



THE EVOLUTION OF STING 6PACK
定価￥4500

お風呂の中で、レスラーと遊べてしまうなんて、アメリカの子供もビックリ！　スティングのボックスセットもプレミア化必至！商品のお問い合せ先：スピアー（埼玉県草加市瀬先町562－10－301　ＴＥＬ0489-20-3710）

各1名様

プレゼント応募方法

どうも、新人の幸田珍（仮）です。みちのくの会場では、取材ではなくリング設営や物販を手伝わされ、水戸泉からは「幸田、つまんねー」と罵られ、最近ちょっと落ち込み気味です。励ましのお便りをお待ちしてます。

①郵便番号
②住所
③電話番号
④氏名
⑤年齢
⑥職業
⑦希望商品
⑧面白かった記事＆その理由
⑨つまらなかった記事＆その理由
⑩あなたの今年のMVPを1人だけ選出してください。

応募券

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
「紙プロＲＡＤＩＣＡＬ」編集部
「ペアルックするなら、ボブチャンチンTシャツ」係まで
※締切は11月25日です

紙のプロレス RADICAL

NO.32
2000年11月25日発行

No.33（年末合併号）は12月上旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松沢チョロ
堀江ガンツ
水戸泉（仮）
幸田珍（仮）
戸高アビバ（仮）
八木賢太郎（カレリン敗戦のショックのため非番）

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
中村愚乱
金田謙太郎

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ（腰痛のため非番）
村松さん
グッチー
モリやん
（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
（以上さおとめの事務所）
古賀ゆきえ
笠井修

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
松永源
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定
林ヘックション一枝

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　ＴＥＬ.03-3357-2911（販売・営業）
発行元●株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷３-11-３-702ＴＥＬ.03-3403-5188（編集・制作）

　編集内容に関するお問い合せは（株）ダブルクロスに各自オレ流で連絡

RADICAL 32 応募券（仮）

新しい仲間が
紙プロTシャツに
増えました

完全限定品

UMF Tシャツ（黒×黄）



花くまゆうさく先生のイラストがクール!!

¥3.800
サイズ S or M or L

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500　SorMorL



すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード！　花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500　SOLD OUT rMorL



最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ!同じく花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉

¥4,500　SorMo SOLD OUT



この春はこれを着てプロレス観戦に出掛けよう! 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント!

リングおじさんトレーナー

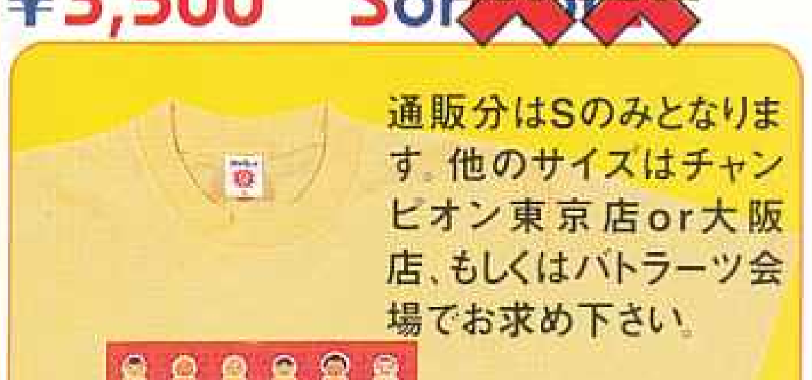
¥5,500　MorL



バックのロゴに見覚えが……!?　これからの季節、熱く燃えたい人はトレーナーを着てみよう!

バトTシャツ

¥3,500　Sor SOLD OUT SOLD OUT



通販分はSのみとなります。他のサイズはチャンピオン東京店or大阪店、もしくはバトラーツ会場でお求め下さい。

バトラーツの全選手が登場している旗揚げ4周年記念Tシャツ!!　かわいいので女の子も着よう!!

ジャイ子Tシャツ

¥3,000　SOLD OUT SOLD OUT
ホワイトorアッシュグレー



通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

紙プロネックピース

¥1,200

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし！　こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ!　長そでTシャツをお買いあげの方にはもれなくプレゼントします!



通販方法

望商品の代金十送料¥500（何枚でも：ネックピースだけなら¥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！　これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのU.M.F. Tシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店＆大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク! こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「買っていいとも!!」係まで

お問い合わせ先
(株)ダブルクロス
TEL03-3403-5188

●紙プロTシャツは通販以外だとチャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）、チャンピオン大阪店（TEL.06-6645-5186）、岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）、宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）入手可能です!!

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 155
2000 NO.32
小川直也、遂に襲撃再開!
10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
平成12年11月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体800円＋税

9784898296363
雑誌 69862-55
ISBN4-89829-636-X
C9476 ¥800E
1929476008008

TEL INDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-362-0707	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F－E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K－1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-3961-2704	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501
WK/Network(和術慧舟會、A3GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1～3F
UFC－J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-3432-1682	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd’	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101



Caoruco!

カオルコ

FMWマネージャー＆
キャットファイター

荒井薫子

カオルコちゃんをもっと知りたい奴は急いでP152をめくれ!

格闘芸術

『摩天楼』

by ヤマグチノリカズ




摩天樓

CAL CALENDAR

ember

:30)
(18:30)
30)
大学内体育館(17:00)(入場
図書館下大ホール(14:00)
30)

10 FRI.

キャプチャー■静岡・キラメッセぬまづ(19:30)
NEO■板橋産文ホール(時間不明)

11 SAT.

レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産文ホール(17:30)
ノア■京都・京都KBSホール(18:00)

12 SUN.

FMW■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
大阪■名古屋・クラブOZON(15:00)
ノア■愛知・豊田市体育館(17:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

13 MON.

ノア■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

14 TUE.

みちのく■福岡・北九州市立小倉北体育館(18:30)
Jd'■東京・後楽園ホール(19:00)

15 WED.

みちのく■熊本・八代市総合体育館(18:30)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

16 THU.

みちのく■福岡・吉井勤労センター(18:30)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■和歌山・那智勝浦体育文化会館(18:30)

17 FRI.

新日本■長野・塩尻市立体育館(18:30)
みちのく■大分・大分県立荷場町体育館(18:30)
アルシオン■和歌山・新宮市体育館(18:30)

18 SAT.

新日本■神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館(18:30)
FMW■長野。長野運動公園総合体育館サブアリーナ(18:30)
みちのく■福岡・柳川青果市場(18:00)
大阪■大阪・交野スタードーム(18:00)
アルシオン■滋賀・長浜市民体育館(18:30)

19 SUN.

新日本■東京・ディファ有明(15:00)
FMW■愛知・ポートメッセなごや(17:00)
みちのく■大分・佐伯市民体育館(17:00)
バトラーツ■新潟・新潟フェイズ(15:00)
大阪■大阪・平野コミュニティセンター(14:00)
DDT■京都・京都KBSホール(14:00)♥
CMLL■京都・京都KBSホール(17:30)
Jd'■岩手・一関文化センター(13:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(18:30)

20 MON.

みちのく■鹿児島・出水市総合体育館(18:30)
バトラーツ■新潟・上越市厚生南会館(18:30)

21 TUE.

FMW■富山・富山産業展示館テクノホール(時間不明)
みちのく■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)
バトラーツ■長野・塩尻市体育館(18:30)
CMLL■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(時間不明)
●『民族スポーツフェスティバル』孤高の魂〜格闘技の全てを語る〜■大阪・大阪厚生年金会館　芸術ホール(18:30)　総合司会:夢枕獏　ゲスト:板垣恵介、中井祐樹、角田伸朗、松原隆一郎　　問合せ06-6942-2008

22 WED.

新日本■長野・長野エムウェーブ(18:30)
みちのく■福岡・アクロス福岡(19:00)
バトラーツ■埼玉・本庄市民体育館(18:30)
L-1■東京・国立代々木第2体育館(19:00)♠◆

23 THU.

FMW■神奈川・小田原市川東タウンセンターマロニエホール(18:00)
大日本■神奈川・横浜文化体育館(18:30)□
バトラーツ■埼玉・越谷市桂スタジオ(15:00)◎★
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
アルシオン■埼玉・秩父市民体育館(18:00)

24 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■長野・松本めいてつショーホール(18:30)
アルシオン■大阪・大阪府立体育館題競技場(18:30)

25 SAT.

新日本■茨城・鹿島市カシマスポーツセンター(18:30)
FMW■岐阜・高山マウントエース(18:30)

26 SUN.

新日本■京都・京都市体育館(16:00)
FMW■兵庫・明石大蔵海岸特設リング(13:00)
バトラーツ■東京・駒沢オリンピック公園体育館(15:00)
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産文ホール(19:00)
JWP■東京・ディファ有明(18:30)
Jd'■東京・ディファ有明(12:00)
アルシオン■福島県予定

27 MON.

LLPW■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)

28 TUE.

新日本■鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
LLPW■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
Jd'■東京・北沢タウンホール(19:00)

30 THU.

新日本■広島・広島サンプラザ(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
□ 水戸泉(仮)
♡ 幸田ギョロ(仮)
● マッハ戸高(仮)

(今号のピンナップは) **どーですかッ、お客さん!?**

アントニオ猪木が提唱する21世紀の新しいプロレス像を端的に表現した素晴らしい言葉――格闘芸術。格闘が昇華して芸術になるというならば、「逆もまた真なり」で芸術も昇華すれば格闘になる！　そんなコンセプトのもと、闘う芸術作品を紹介していくコーナーです。前号のゴキータの作品が各方面で話題になり、興奮さめやらぬ今月は本誌デザイナー・早乙女トメオ兄さん推薦により登場となった新人・ヤマグチノリカズさん。溢れんばかりの馬場イズムを脳天唐竹割りのような勢いで、木版画に叩きつけてもらいました。たしかに、ある意味で馬場さんも格闘芸術だよなぁと思わず唸らせる作品に仕上がりました。

ヤマグチノリカズ■75年10月25日生れ。90年よりジャイアント馬場に師事する。96年より、木版画を始める。グループ展、個展を開催。今回、記念すべきデビュー戦。現在ＨＰで、作品展示中。
http://www.top.or.jp/ny/

RADICAL CA

●はイベント情報です。

10 October

26 THU.
全日本■香川・高松市市民文化センター(18:30)
FMW■新潟・上越市厚生南会館(18:30)
みちのく■山形・米沢市営体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)
全女■千葉・市原(18:30)
●島田裕二プロデュース「『PRIDE』とは何か?」■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)
ゲスト:谷川貞治、山口日昇　(入場無料)

27 FRI.
新日本■山口・下関市体育館(18:30)
FMW■千葉・千葉公園体育館(18:30)
大日本■山形・東根市民体育館(18:30)
みちのく■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)
アルシオン■盛岡・岩手県営体育館(18:30)

28 SAT.
全日本■東京・日本武道館(18:00)
みちのく■山形・中山町総合体育館(18:30)
大阪■香川・高松国際ホテル別館大ホール(16:00)
ノア■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念(18:00)
Jd'■大阪・茨木(時間不明)
●島田裕二プロデュース「『PRIDE』とは何か?」■札幌すすきのコロシアム(19:00)
ゲスト:アレクサンダー大塚　(¥2000　1ドリンク付き)

29 SUN.
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■茨城・大洗町総合運動体育館(18:30)
みちのく■郡山・ビッグパレットふくしま(15:00)
キングダム■神奈川・青葉スポーツセンター(18:30)♥
掣圏道■東京・有明コロシアム(15:00)●
大阪■大阪・樟蔭女子短期大学体育館(15:00)
T・後藤一派■神奈川・麻溝台インディープロレス道場(14:00)
YMBプロ■奈良・ACTセンター(16:30)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(14:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
●秋山準講演会■東京・牛込箪笥センター(14:00)

30 MON.
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
Jd'■東京・北沢タウンホール(19:00)

31 TUE.
パンクラス■東京・後楽園ホール(17:00)◆
みちのく■岩手・花巻市民体育館(18:30)
IWA■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
DSE『PRIDE.11』■大阪・大阪城ホール(19:00)★□
JWP■東京・板橋産文ホール(19:00)
LLPW■東京・板橋産文ホール(18:30)

11 November

1 WED.
みちのく■宮城・鹿島台町かまだ記念ホール(18:30)
IWA■北海道・旭川市大成市民センター体育館(18:30)
ZIPANG■東京・板橋産文ホール(19:00)
アルシオン■群馬・太田市運動公園体育館(18:30)

2 THU.
みちのく■福島・鹿島町民体位館(18:30)
IWA■北海道・室蘭市体育館(18:30)
●前田日明　学園祭トークショー■大阪・追手門学院大学内体育館(17:00)(入場無料)

3 FRI.
FMW■東京・後楽園ホール(12:30)
みちのく■青森・青森県民体育館(15:00)
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール(18:30)
大阪■東大阪・近鉄ハーツ(13:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
●秋山準トークライブ■東京・国士舘大学世田谷校舎　図書館下大ホール(14:00)

4 SAT.
みちのく■青森・はちのへハイツ(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)◎
LLPW■福岡・行橋市民体育館(18:00)
アルシオン■岐阜・大垣城ホール(18:00)

5 SUN.
みちのく■宮城・Zepp　Sendai(15:00)
大阪■羽曳野・四天王寺国際仏教大学(12:00)
JWP■東京・後楽園ホール(12:30)
LLPW■鹿児島・吉松町総合体育館(16:00)
Jd'■神奈川・Jd'横浜道場(16:00)
アルシオン■大阪・境大浜体育館(14:00)

6 MON.
大阪■東京・後楽園ホール(18:30)
ノア■新潟・五泉総合体育館(18:30)

7 TUE.
ノア■福島・鶴ヶ城体育館(会津若松)(18:30)
新宿■新宿・東京大飯店8Fホール(19:00)

8 WED.
ノア■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)

9 THU.
キャプチャー■大阪・光明アムホール(19:30)
大阪■山口・海峡メッセ下関(19:00)
ノア■千葉・千葉公園体育館(18:30)
LLPW■新潟・新潟フェイズ(18:30)
アルシオン■愛知・豊橋市総合体育館(18:30)

10 FRI.
キャプチャー■
NEO■板橋産

11 SAT.
レッスル夢ファ
ノア■京都・京

12 SUN.
FMW■神奈川
大阪■名古屋
ノア■愛知・豊
全女■東京・後

13 MON.
ノア■静岡・キ

14 TUE.
みちのく■福岡
Jd'■東京・後

15 WED.
みちのく■熊本
ノア■東京・後楽

16 THU.
みちのく■福岡
ノア■東京・後楽
アルシオン■和歌

17 FRI.
新日本■長野・
みちのく■大分・
アルシオン■和歌

18 SAT.
新日本■神奈川
FMW■長野。長
みちのく■福岡・
大阪■大阪・交野
アルシオン■滋賀

19 SUN.
新日本■東京・デ
FMW■愛知・ポー
みちのく■大分・
バトラーツ■新潟
大阪■大阪・平野
DDT■京都・京都
CMLL■京都・京
Jd'■岩手・一関
アルシオン■東京

20 MON.
みちのく■鹿児島・
バトラーツ■新潟・

21 TUE.
FMW■富山・富山
みちのく■鹿児島・
バトラーツ■長野・
CMLL■東京・後楽